





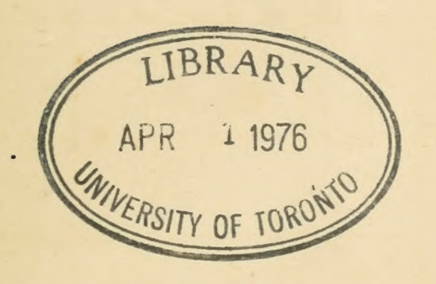




滿鐵調査資料第八十二編

吉林省の財政

南滿洲鐵道株式會社
庶務部調査課





吉林省の財政



凡例

一、支那財政の隱蔽主義の窮まる所、遂に稅則稅率の公表すら之を憚り、加ふるに最近支那本部に於ける國民黨の北上は、同黨年來の主張たる打倒帝國主義の風潮を支那全土に瀰漫せしめ、さらぬだに祕密の各省財政をして、全く外國人の窺知を許さぬ狀態に立至らしめた。

一、本篇は此の間の作品である。從つて其の體系、共の內容の精粗は論外にして、僅かに外間より窺見し得たるものゝ不統一なる集成である。題して「吉林省の財政」と云ふも、決して財政を間然する所なく書き記せしものにはあらず、例へば各稅收入について見るも、僅かに徵收額の全體的數字は捕へ得たるも各稅局別には全然不明なるが如き甚だ不滿とする處である。唯だ本篇の目標とする處は東三省の政治經濟研究家は勿論、一般支那研究家にしてその研究が東三省の財政問題に觸るゝとき、聊かながらその考察にヒントを與ふべき資料を提供するにある。

一、田賦を述ぶるに當りその土地制度の詳細は全然之を省いた。他日之に關する專書の公にせらるゝことあるを以てである。

一、吉林省の負擔せる軍費及公債論中第二章外債に關しては公表を憚る點あるを以て之を除いた。

一、地方財政は奉天省の場合と同じく時局の爲、遺憾ながら調査不能となつたが、地方稅に關して稍纏れる資料を得たゞけでもせめてもの滿足である。

一、本調査に登載せる各表中の貨幣は特に斷りなき場合はすべて永衡大洋とす。

凡例

一、本篇筆者　課員中濱義久。

昭和三年七月三十日

庶務部調査課

吉林省の財政

目次

第四編 歲出論……五五一

吉林省の財政

第一編　緒　論

第一章　民國以後の吉林政情

徐世昌の東三省總督就任と同時に、その推薦によりて吉林巡撫に任命せられたる朱家寶は、宣統二年十月安徽巡撫に轉任を命ぜらるゝや、その後任として間島邊務督辦たりし陳昭常新に吉林巡撫を命ぜらる。間もなく清朝滅亡し大總統袁世凱、中華民國新政府の諸官制制定を計畫すると共に、從來の東三省總督も東三省都督と改稱し、吉、黑兩省巡撫も之を都督と呼び、これに伴ひ東三省の首腦者も各々改任せられ、吉林巡撫陳昭常も吉林都督に特任せられた。然るに民國二年六月十三日吉林都督陳昭常、廣東民政長に轉任を命ぜらるや、吉林都督は一時奉天都督張錫鑾により兼任せられ、次いで前河南巡撫たりし齊耀琳、新に民政長を命ぜられ、而して吉林省駐屯の軍隊は陸軍第二十三師長兼吉林護軍使孟遠恩の節制に歸する旨發表せられた。

民國三年五月二十三日、北京政府は再び各省軍民長官の官制を改革し、各省民政長を巡按使と改め觀察使を道尹と改稱し、越えて翌月三十日各省都督を將軍と改稱した。この結果、曩に吉林護軍使たりし孟恩遠は新に鎭安左將軍督理吉林軍務を命ぜられ、民政長齊耀琳は巡按使に任命せられた。次で民國三年七月十五日には、巡按使齊耀琳は江蘇

巡按使に轉じ、吉長道尹孟憲彝その後任となる。然るに同巡按使は在任僅か一年に過ぎずして挾妓荒讌の故を以て彈劾せられ、免官となり、王揖唐、新に吉林巡按使に命ぜらる。然るに翌五年段祺瑞內閣の組織せらるゝや、王揖唐は同內閣の內務總長に榮轉し、後任には吉長道尹、郭宗熙署理吉林巡按使に任ぜらる。

かくて孟恩遠を首班とする吉林の治安は暫しは續いた。されど民國六年七月張勳の復辟運動に失敗するや、これに加擔せる孟督軍は遂に同年十月段內閣により革職せられ、察哈爾都統たりし田中玉、新に吉林督軍に任命せらる。永年吉林に勢力を扶殖し來りし孟恩遠も「督軍の職務を省長郭宗熙に引繼ぎ速に來京すべし」との中央政府の電命には流石服せざるを得なかつた。されど年來全省に分布せる彼が部下は、孟の革職の影響が必ず自己等の地位に及ぼし來るべきを懼れ遂に孟を擁して中央の命令に反抗の態度に出でた。これが劃策の中心たりしは、多年吉林軍務の樞機に參與し未來の吉林督軍を夢み居りし督軍參謀長高士賓及吉長鎭守使裴其勳その人であつた。即ち北京政府に電問して曰く、

「何が故に督軍孟恩遠を免職せしや、若し正當の理由なきに於ては吉林省の獨立を宣言し中央との關係を脫離すべし」

と。かくてこの間、吉長の要衝に兵を集中し盛んに反抗の氣勢を擧げ十月二十二日遂に吉林省の獨立を宣言した。

茲に於て張作霖は孟の頑として命を聞かざるの以上は武力解決を斷行するより外途なきを思ひ、黑龍江督軍鮑貴卿と電商して吉林討伐軍を起すに決し、第二十七師長孫烈臣を吉林討伐總司令に任命し四箇混成旅團よりなる討伐軍を編成し四路進攻して吉林に向け進擊せんとするの勢を示した。一方孟を擁して反政府の巨魁たりし高士賓、裴其勳等は麾下の吉林軍を擁して讓らず、討伐軍に對し備ふる所あると共に、他面新督軍田中玉に對しても婉曲なる就任拒絕

の電報を發するに至らしめた。

北京政府に於ては既に發表したる督軍更迭の實行されざるは政府の威信に關する重大なる問題として相下らず、兩者信抗する暫なりしも、この間吉林問題の延いて全國動亂の導火線となるを恐れ、間もなく何宗蓮、陳光遠等を吉林宣慰使に任じ、孟に二箇月の離任猶豫を與へ高士儐等に對しては暫く抗命の罪を不問に附した。その後哈爾濱に過激派勃亂し東淸鐵道乘取を劃策するに及び、孟の之を完全に平定するや、遂に政府はこの功績を以て再び孟を吉林督軍に復任せしめ、田中玉を察哈爾都統に任じて本事變は一時落着を遂げた。

かくする間、東三省巡閱使たる張作霖は漸次勢力を伸ばし來り事實上に於ける東三省の軍民大權を統べんとするの野心は刻々と培はれた。これが爲には如何しても吉林督軍に孟恩遠の存在は一大障碍であつた。玆に於てか張は虎視眈々とこれが排斥の機を窺ひつゝありしが、時偶々吉林財政極度に紊亂の事あり、遂に民國八年六月十一日公文を孟に送りその財政紊亂の罪を責めた。この結果、孟は遂に辭表を提出し、北京政府卽ち之を容れて黑龍江督軍鮑貴卿をその後任に任じ、陸軍第二十七師長孫烈臣を黑龍江督軍に補した。されど孟の股肱たりし高士儐等は依然この命を抗拒し、强硬なる主戰論を持して再び吉林獨立を宣し、奉吉の省境に兵を派し奉吉の風雲愈々急となる。

張作霖は吉林軍の抗命顯然たるものあるや。年來の素志を貫徹するはこの機にありとし、中央政府に吉林討伐令の公布を乞ひ、討伐令の發せらるゝや、孫烈臣に命じて討吉總司令となし、愈々大兵を省境に集中するに至る。然るに七月十九日、寬城子に於て高士儐の軍隊と日本軍隊の衝突事件起り、延いては日支の一大外交問題となり、北京政府は狼狽なす所を知らず、七月二十三日當局の責任者たる孟恩遠の嚴責と高士儐の革職を發表した。孟はかゝる事態に鑑

み到底自己の素志を貫徹する能はざるを覺り、前吉林巡按使たる孟憲彝を通じて張作霖に妥協和睦を求め一方戰線に出動せる高士儐に對しては極力大勢の抗し難き所以を懇諭して開戰の中止を嚴命した。

かくて六月二十九日、長春に於て鮑貴卿、孟恩遠の妥協會見は行はれ、孟一派の生命財産を保證することにより、さしもの本事變も茲に完全に解決を告げたのである。孟の辭職實現と共に省長郭宗熙も亦辭任し民國八年十月徐鼐霖、新に吉林省長に任命せらる。然るに徐は就任以來、地方の治績頗に上らず、種々の失政は吉林省民の彈駭に遭ひ批難攻撃愈々甚だしく、北京政府は張作霖の電請に基き九年九月徐を免職して一時督軍をして省長を兼任せしむ。

鮑貴卿は轉任以來、東支鐵道督辦及東支鐵道護路總司令を兼任し、紊亂せる省政の整理を行ふと共に一面東支鐵道の回復につき最も力を致し、これに成功してより後は吉省內の軍事、交通、外交その他一切の各問題に關しては、巡閱使たる張作霖に謀らず、事毎に中央政府と接衝し、爲に張作霖の感情は自然鮑に對して面白からぬものがあつた。

さらぬだに張にとつては鮑貴卿の進退は年來の懸案であつた。即ち民國八年夏、孟を驅逐して鮑を黑龍江より轉せしめたるも決して張の本意に出でたるものでなく、自己腹心の孫烈臣を吉林に据えんが爲の前幕に過ぎなかつた。故に事あらば鮑を吉林より追ふは張作霖本來の目的だつたのである。時偶々琿春事件起り既述の如く徐省長その責を負ひ辭任するや、省長無き後の吉林省治又圓滑ならず、殊に財政は極度に紊亂して、省民の鮑に對する信賴漸次薄らぐに至ると共に、鮑は遂に神經衰弱症を病みて、一時閑地につきて靜養せんが爲に辭表を提出するに至る。

茲に於て張作霖、年來の希望は漸くその緒につくに至り、民國十年三月二十一日、中央に電請して孫を吉林督軍兼省長に任命せしめ、吳俊陞を黑龍江督軍に任命せしむるに至る。

孫の吉林督軍の職に就くや、鋭意省治の整頓を計りしも、間もなく健康を害するに至り、爲に奉直戰にも參加することなく、吉林の軍務は專ら督軍參謀長をして代行せしめ、自己は專ら奉天の邸に病を養ひつゝありしも、十三年四月二十四日遂に逝去した。張作霖は直ちに之れが後任につき、王永江、楊宇霆等と共に相謀る所ありしが、資望閲歷の點より推して四月二十七日張作相を推して吉林督軍に任じ以て今日に至る。

第二章　史的に見たる吉林財政

清朝數百年に亙る大樹も腐朽困敗、既にその根幹に巨大なる空洞を生じ、折から荒さむ共和の突風に脆くも打倒された。行政、外交、財政上におけるすべての破綻の集積である。從つて新に成れる大中華民國もその美麗なる招牌にも似ず、一國の政治を運用するの財力は愚か、都門數丁に亙る行政區劃の政治を行ふ財力にすら事を缺いた。

されど一方地方各省に於ける財政は一時中央に對してなさるべき送銀が中止されたる爲か、中央のそれに比すれば遙かに豐かなる餘裕を有してゐた。吉林省に於ても、民國元年度に於ける三百萬元の歳入超過は、この實情を說明して餘あるものである。民國二年にも約一百萬元の歳入超過があつた。されどこは明かに大震一度至り、やがて次に當然來るべき餘震を待つ瞬時の靜けさにして、明けて三年、吉林護軍使孟恩遠の吉林督軍たるや、兵を治むるの費用は相繼いで嵩み、三年には一變して忽ち歳出增加一百萬元に及んだ。新興國の國是、未だ定まらざるに際し、保境以て自己の安穩を策する已むを得ざるの擧措ではある。

野心滿を持して放たず、吉省の山野に兵を養ひ居りし孟恩遠にとつて雄躍すべき最初の機會は訪れた。民國六年七月張勳によつて企られたる復辟運動である。されど未だ全國の同志の糾合を完成する暇もなく、共和擁護の段一派の爲に一擊せられ、次いで組織せられたる段祺瑞內閣により、張に加擔せる一派は失々の處分を加へられた。孟も元よりその一人である。されど孟恩遠の長く吉林に養ひ來りし勢力は、無力の中央政府一片の辭令により覆へさるべきにあらず、吉林軍參謀長高士儐等は軍隊を引提げ中央に反抗し吉省獨立を企圖した。これが爲、軍費は連年增加し、

常に才出增加の狀態を持續し、民國五年、僅かに五十萬元の歲入超過は、民國六年に入つては三百萬元の歲出超過と變じ、民國七年には遂にその歲出超過四百萬元となり、民國八年には六百萬元に達した。

この間に奉天によれる張作霖の東三省に覇をなさんとする志は逐年に培れつゝあつた。これが爲には吉林に於ける孟の存在は一大障害にして、機會あらば之を除かんと企圖せしも及ばず、遂に民國八年六月十一日、孟のこの恐るべき財政破綻の事實を引提け彈劾し、孟恩遠の職を免ぜんとした。

されど孟は再び之に抗し、軍を省境に集めしも、七月寬城子に於ける吉林軍と日本兵との衝突は孟恩遠一派の下野を餘儀なくせしめ鮑貴卿之にかはる、かゝる戰爭の頻發は既に破綻に面せる財政を彌が上にも危機に陷入せしめずんは已まなかつた。鮑貴卿は極力之が整理に腐心せしも、民國九年は依然として二百萬元の歲出超過、民國十年には漸く一百萬元の歲出超過に止むるに至る。民國十年三月鮑辭して、孫烈臣之に變り銳意省治を計り十一年に於ける奉直戰にも參加せず財政の整理を計りしも、その就職初年度は一百萬元の歲出超過に止まりしも、十一年度には更に二百萬元の歲出超過となり、如何ともなす能はず、民國十二年二月二十六日吉林省地方有奬公債章程を發布して、現大洋五百萬元の公債を募集して僅かにその窮地を脫せんと試む。されど未だその公債の徵募全きや全からずに、十三年四月、孫は未だ努力に對する何等の效績を見るに至らずして、空しくその任地に病歿した、十三年四月、張作相新に督軍に任命せられしも、引續き第二奉直戰あり、十四年に郭松齡の反亂あり、關內出兵あり、軍費は愈々嵩み、十三年度には二百萬元の歲出超過、十四年度には一百萬元の歲出增加にして、財政は愈々紊亂し、その不足の都度、之を永衡官銀錢號に求め、その總額既に永大洋四千萬元に達すと稱せらる。

以下民國元年より十五年度に至る本省豫算表を掲出すれば（民國四年度を缺く）

民國元年度豫算表

歳入之部

科目	金額
田賦	一、一七二、六〇一元
鹽課	二、七九八、六四九
關税	一、三七五、六七二
貨物税	一、三〇一、五九八
正雜各税	三、一〇七、六八四
正雜各捐	一三一、七五七
官業收入	六八三、三五六
雜收入	一、五六七、三三五
計	一二、一三八、六五二

歳出之部

科目	金額
外交費	一五九、九一〇元
內務費	一〇四、〇〇四
財政費	三、二七八、三〇一
教育費	八三、九九一
陸軍費	三、四七九、七九九
司法費	六二八、三四〇
農商費	一、〇五〇、八一九
交通費	一四〇、六七〇
計	八、九二六、八三四

民國二年度豫算表

歳入之部

科目	金額
田賦	一、一五七、四一一元
釐金	一、一七一、〇四四
正雜各税	三、〇二二、五〇五
正雜各捐	二九九、一一四
雜收入	四五六、二一一

歳出之部

科目	金額
外交費	一一九、九二四元
內務費	八一七、九二四
財政費	四三三、四〇一
陸軍費	二、八四〇、五九三
司法費	五六四、二七一

計	六、一〇五、二八五
農商費	三四、三二三
計	四、八一〇、四三六

民國三年度豫算表

歲入之部

田賦	五三九、七五七元
貨物稅	一、六二九、五六一
正雜各稅	一、八〇五、八五〇
正雜各捐	七、五八九
雜收入	九八、三九五
計	四、〇八一、一五二

歲出之部

外交費	一〇二、三六六元
內務費	九四七、〇九九
財政費	四四一、一一三
陸軍費	三、二四四、二〇五
司法費	三二〇、〇〇〇
農商費	三〇、〇〇〇
計	五、〇八四、七八三

民國五年度豫算表

歲入之部

田賦	一、〇八四、四四二元
貨物稅	一、八二六、六八〇
正雜各稅	二、五六〇、九三二
正雜各捐	一七、一三八
雜收入	三二九、三九〇
計	五、八一八、五八二

歲出之部

外交費	七二、三六六元
內務費	一、〇三一、二一〇
財政費	五一〇、六一七
陸軍費	三、〇一〇、三七九
司法費	三二〇、〇〇〇
教育費	二八〇、〇〇〇

農商費	四九、四九二
計	五、二七四、〇六四

民國六年度豫算表

(1) 省地方歲出豫算書

歲出經常門（共銀四十一萬二千六百零八元）

科目	六年度預豫數	備考
第一類 內務部所管	一〇五、四九六元	
第一款 省議會經費	八六、四八九	
第二款 官醫院經費	一四、二六八	
第一項 醫院本部經費	一〇、四八八	
第二項 本院附設牛痘局經費	二八〇	
第三項 本院所設醫學研究會經費	二、四〇〇	
第四項 四鄉牛痘局經費	一、一〇〇	
第三款 紅十字會吉林醫院補助費	三、六〇〇	
第四款 防疫豫備費	一、一三九	
第二類 教育部所管	三〇〇、〇〇〇	
第一款 省立各學校經費	一七八、一三〇	
第一項 法政學校經費	一四、七三〇	

項目	金額
第二項 師範學校經費	五四、五七〇
第三項 女子師範學校經費	三五、四一〇
第四項 省立中學校經費	二三、一〇〇
第五項 甲種農工業學校經費	二三、七〇〇
第六項 甲種商業學校經費	一六、六二〇
第七項 模範高等小學校經費	一〇、〇〇〇
第二款 留學經費	三八、二九〇
第三款 社會教育經費	一一、三〇〇
第一項 圖書館經費	四、二〇〇
第二項 講演所經費	六、八〇〇
第三項 公衆運動場經費	三〇〇
第四款 補助經費	九六、二八〇
第一項 延吉道及延琿和汪縣補助費	二〇、〇〇〇
第二項 模範區補助費	四八、〇〇〇
第三項 省教育會補助費	四八〇
第四項 通俗報社補助費	四八〇
第五項 中日語學校補助費	三二〇
第五款 特別費	三、〇〇〇
第一項 檢定小學教育委員會經費	三、〇〇〇

第三類　農商部所管	七、二一二
第一款　農事試驗場經費	七、二一二
歲出經常門合計	四一二、七〇八

(2) 各部所管民國六年度國家歲出豫算書總表

歲出經常門

部別	六年度豫算數	五年度豫算數	比較 增	比較 減	備考
外交部所管	一一四、六五四元	一三〇、八一八元	—	一六、一六四元	
內務部所管	一、一六二、一六三	一、一二〇、一一九	四二、〇四四	—	
財政部所管	五九二、一九四	六〇四、一九四	—	一二、〇〇〇	
陸軍部所管	三、八二七、二一五	三、八一一、八三七	一五、三七八	—	
司法部所管	五五四、三八四	四二二、四五六	一三一、九二八	—	
農商部所管	四二、二八〇	四二、二八〇	—	—	
教育部所管	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	—	—	
歲出經常合計	六、三九二、八九〇	六、二三一、七〇四	一六一、一八六	—	

歲出臨時門

部別	六年度豫算數	五年度豫算數	比較 增	比較 減	備考
	元	元	元		
內務部所管	三二、八〇〇	六、〇〇〇	二六、八〇〇	—	
財政部所管	一、四七二、〇〇〇	六三三、〇七五	八三八、九二五	—	
陸軍部所管	一、四一七、二七九	一、四四七、五四八	—	三〇、二六九	
司法部所管	六四、〇〇〇	六、〇〇〇	五八、〇〇〇	—	
歲出臨時合計	二、九八六、〇七九	二、〇九二、六二三	八九三、四五六	—	
歲出經常臨時兩門總計	九、三七八、九六九	八、三二四、三二七	一、〇五四、六四二	—	

說明

吉省民國六年度歲出豫算ハ五年度報告ニ對照スルニ經常門ニ於テ外交部計算中政事討論會ノ一萬六千百六十四元內務部所管ノ農安縣ヲ二等ニ改正シ勃利ニ縣治ヲ添設シ警察傳習所、行政會議等ヲ添設シテ六萬一千百二十四元增加支出シ治吏研究所ノ一萬九千〇八十元ヲ減シ差引四萬一千〇八十四元ヲ增シタルト財政部所管ニ於テ財政委員會ノ一萬二千元ヲ減シ陸軍部所管ニ於テ第四旅及署著步騎兩營ノ四萬六千〇四十八元

臨時門中內務部所管ニ於テ延吉道署歲修費及警察傳習所開辦費省會警察廳ノ銃器買入費等ノ一萬六千八百元ヲ增シ財政部所管ニ於テ債券本息利息ノ返還ニ八十三萬八千九百二十五元ヲ增シ陸軍部管ニ於テ陸軍繼續費ノ三萬二百六十九元ヲ減シ司法部所管ニ於テ濱江、依蘭兩廳門辦費五萬八千元ヲ增加シ總計六年度豫算ハ五年度報告ノ豫算ニ比スルニ經常臨時兩門共ニ一百〇五萬四千六百四十二元ヲ增加セリ

(3) 歳出豫算內譯表

歳出經常門

科目	六年度豫算數	五年度豫算數	比較 増	比較 減	備考
第一類 外交部所管	一一四、六五四	一三〇、八一八	—	一六、一六四	
第一款 交渉費	七三、二〇六	七三、二〇六	—	—	本款ノ第一項ヨリ第四項ニ至ル分ハ歴年外交部所定ノ數目ニ照シテ豫算ニ記入シ居レリ、本省實際ノ支出數目ハ 吉林 三萬七千百七十元 哈爾濱 八萬一千八百五十二元 長春 一萬七千四百七十二元 延吉 七千二百七十二元 ニシテ此外依闌交渉費三千六百元アリ合計支出十四萬七千三百六十元ニ達シ外交部所定數ニ比スルニ七萬五千元ヲ增加支出セリ又前ニ哈爾濱中東鐵路公司ヨリ受入レタル毎年支拂ノ露貨七萬五千元ハ補助費トシテ豫算内ニ記入セス
第一項 吉林交渉署經費	二九、六〇〇	二九、六〇〇	—	—	
第二項 哈爾濱交渉署經費	三四、二九四	三四、二九四	—	—	
第三項 長春交渉署經費	四、八〇〇	四、八〇〇	—	—	
第四項 延吉交渉署經費	三、六七二	三、六七二	—	—	
第五項 虎林縣交渉費	八四〇	八四〇	—	—	
第二款 外軍收容所經費	四一、四四八	四一、四四八	—	—	吉林省ハ東北邊ノ露領ニ接セルヲ以テ歐戰以來時々獨墺土ノ俘虜ノ境内ニ逃入シ來ルモノアリ此等ハ各縣ヨリ巡警ヲ派シテ省城ニ護送シ收容シ居ルカ現在歐戰ハ未タ終結セサルヲ以テ俘虜收容所ヲ設ケ豫算ヲ立テ收容ニアツ
第一項 外軍收容所經費	四一、四四八	四一、四四八	—	—	
第三款 政治討論經費	—	一六、一六四	—	一六、一六四	
第一項 政治討論會經費	—	一六、一六四	—	一六、一六四	

第二類 內務部所管	一、一六二、一六三	一、一二〇、一一九	四二、〇四四	ー
第一款 各公署經費	六六〇、〇七四	六四九、四二四	一〇、六五〇	ー
第一項 省長公署經費	一五七、六〇〇	一五七、六〇〇	ー	ー
第二項 各道尹公署經費	一〇八、四〇〇	一〇八、四〇〇	ー	ー
第一目 吉長道尹經費	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	ー	ー
第二目 濱江道尹經費	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	ー	ー
第三目 依蘭道尹經費	二五、二〇〇	二五、〇〇〇	二〇〇	ー
第四目 延吉道尹經費	二五、二〇〇	二五、〇〇〇	二〇〇	ー
第二項 各縣公署經費	三九四、〇七四	三八三、四二四	一〇、六五〇	ー
第一目 吉林縣經費	一二、六二四	一二、六二四	ー	ー
第二目 長春縣經費	一二、六二四	一二、六二四	ー	ー
第三目 濱江縣經費	一二、六二四	一二、六二四	ー	ー
第四目 延吉縣經費	一二、六二四	一二、六二四	ー	ー
第五目 琿春縣經費	一二、六二四	一二、六二四	ー	ー
第六目 依蘭縣經費	一二、六二四	一二、六二四	ー	ー
第七目 五常縣經費	一〇、六五〇	一〇、六五〇	ー	ー
第八目 扶餘縣經費	一〇、六五〇	一〇、六五〇	ー	ー
第九目 寧安縣經費	一〇、六五〇	一〇、六五〇	ー	ー
第十目 濱縣經費	一〇、六五〇	一〇、六五〇	ー	ー

第十一目	楡樹縣經費	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—	
第十二目	阿城縣經費	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—	
第十三目	伊通縣經費	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—	
第十四目	雙城縣經費	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—	
第十五目	農安縣經費	一〇、六五〇	九、二七〇	一、三八〇	—	本縣ハ地東部ニ屬シ幅員甚ダ廣ク政務又極メテ繁多ナルガ近ク日本領事館ヲ添設シ交渉事務ヲモ兼辨スル事トナリタルヲ以テ從來ノ三等經費ニテハ困難ナルヲ以テ本縣ヲ改メテ二等ニ昇級スル手順ヲ了セリ
第十六目	同江縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第十七目	蜜山縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第十八目	濛江縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第十九目	長領縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第二十目	樺甸縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第廿一目	磐石縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第廿二目	舒蘭縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第廿三目	德惠縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第廿四目	雙陽縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第廿五目	同濱縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第廿六目	東寧縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第廿七目	敦化縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第廿八目	穆稜縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第廿九目	額穆縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	

第三十目　汪淸縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第卅一目　和龍縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第卅二目　虎林縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第卅三目　富錦縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第卅四目　樺川縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第卅五目　方正縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第卅六目　綏遠縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第卅七目　饒河縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第卅八目　寶淸縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第卅九目　勃利縣經費	九、二七〇	—	九、二七〇	—	按勃利地方ニ縣治ヲ設クル件ハ省議會ニテ議決シ本省ヨリ之ヲ內務部ニ轉請シタルハ六年度豫算內ニ加入スルコトトセリ
第二款　警察經費	二九〇、八二五	二九〇、八二五	—	—	
第一項　省會警察廳經費	二六〇、八二五	二六〇、八二五	—	—	
第二項　吉林警務處經費	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	—	—	
第三款　護墾隊經費	一二、三九二	一二、三九二	—	—	
第一項　護墾隊經費	一二、三九二	一二、三九二	—	—	
第一目　虎林護墾隊經費	五、一六七	五、一六七	—	—	
第二目　蜜護墾隊經費	七、二二五	七、二二五	—	—	
第四款　商埠經費	八〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	—	—	
第一項　商埠事務所經費	一五、三九一	一五、三九一	—	—	

第二項　延吉商埠經費	六四、六〇八	六四、六〇八	—	—
第五款　典禮經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第一項　祭祀費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第六款　禁煙經費	一二、〇〇〇	一二、〇〇〇	—	—
第一項　禁煙經費	一二、〇〇〇	一二、〇〇〇	—	—
第七款　游巡隊經費	四四、三九八	四二、三九八	二、〇〇〇	—
第一項　各縣游巡隊經費	四四、三九八	四二、三九八	—	—
第一目　同江縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第二目　密山縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第三目　穆稜縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第四目　額穆縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第五目　和龍縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第六目　德惠縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第七目　汪清縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第八目　虎林縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第九目　綏遠縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第十目　富錦縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第十一目　濛江縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第十二目　饒河縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—

第十三目　寶清縣游巡隊經費	三、六一六	三、六一六	—	—	
第十四目　東寧縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—	
第十五目　長嶺縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—	
第十六目　琿春縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—	
第十七目　敦化縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—	
第十八目　方正縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—	
第十九目　樺川縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—	
第二十目　雙陽縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—	
第廿一目　樺甸縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—	
第廿二目　同賓縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—	
第廿三目　延吉縣游巡隊經費	一、二八二	一、二八二	—	—	
第廿四目　勃利縣游巡隊經費	二、〇〇〇	—	二、〇〇〇	—	按該縣設治照章應支游巡隊經費二千元業經咨行內務部轉呈追加在案
第八款　吏治研究所經費	—	一九、〇八〇	—	一九、〇八〇	
第一項　吏治研究所經費	—	一九、〇八〇	—	—	
第九款　補助延琿和汪四縣擴充警察費	一二、〇〇〇	一二、〇〇〇	—	—	
第一項　補助延琿汪和四縣擴充警察費	一二、〇〇〇	一二、〇〇〇	—	—	
第十款　吉林警察廳警察傳習所經費	二九、五一四		二九、五一四	—	本款遵照部章添設
第十一款　省長公署行政會議經費	一八、九六〇		一八、九六〇	—	本款就原設政治討論會財政委員會改組
第三類　財政部所管	五九二、一九四	六〇四、一九四	—	一二、〇〇〇	

第一款　財政廳經費	五七、五〇〇	五七、五〇〇	—	—
第一項　廳署經費	五七、五〇〇	五七、五〇〇	—	—
第一款　徵收經費	五〇九、七三〇	五〇九、七三〇	—	—
第一項　各徵收局經費	四二一、八四六	四二一、八四六	—	—
第一目　省城徵收局經費	一六、九〇〇	一六、九〇〇	—	—
第二目　長春徵收局經費	二五、三五四	二五、三五四	—	—
第三目　雙城徵收局經費	一二、七四一	一二、七四一	—	—
第四目　楡樹徵收局經費	一四、六九〇	一四、六九〇	—	—
第五目　阿城徵收局經費	一〇、三四八	一〇、三四八	—	—
第六目　扶餘徵收局經費	一二、九五五	一二、九五五	—	—
第七目　賓縣徵收局經費	一三、〇三四	一三、〇三四	—	—
第八目　濱江徵收局經費	一五、四四九	一五、四四九	—	—
第九目　農安徵收局經費	一一、三五九	一一、三五九	—	—
第十目　伊通徵收局經費	一四、一一〇	一四、一一〇	—	—
第十一目　五常徵收局經費	一四、二七〇	一四、二七〇	—	—
第十二目　磐石徵收局經費	一一、七七五	一一、七七五	—	—
第十三目　依蘭徵收局經費	七、一五八	七、一五八	—	—
第十四目　寧安徵收局經費	八、〇九八	八、〇九八	—	—
第十五目　舒蘭徵收局經費	一二、一〇一	一二、一〇一	—	—

第十六目	雙陽徵收局經費	一〇、七〇五	一〇、七〇五	—	—
第十七目	延吉徵收局經費	八、二四〇	八、二四〇	—	—
第十八目	省城木税局經費	五、〇九八	五、〇九八	—	—
第十九目	敦化徵收局經費	五、九四四	五、九四四	—	—
第二十目	樺皮廠徵收局經費	九、二二八	九、二二八	—	—
第廿一目	樺甸徵收局經費	六、六七一	六、六七一	—	—
第廿二目	烏拉徵數局經費	七、一六九	七、一六九	—	—
第廿三目	呢碼口徵收局經費	五、五一二	五、五一二	—	—
第廿四目	東寗徵收局經費	六、〇八八	六、〇八八	—	—
第廿五目	缸窯徵收局經費	五、〇九九	五、〇九九	—	—
第廿六目	蛟河徵收局經費	六、〇〇七	六、〇〇七	—	—
第廿七目	同賓徵收局經費	七、六三八	七、六三八	—	—
第廿八目	濛江徵收局經費	五、四〇七	五、四〇七	—	—
第廿九目	琿春徵收局經費	八、八九三	八、八九三	—	—
第三十目	長嶺徵收局經費	四、六七四	四、六七四	—	—
第卅一目	方正徵收局經費	八、七六六	八、七六六	—	—
第卅二目	同江徵收局經費	五、三九三	五、三九三	—	—
第卅三目	樺川徵收局經費	五、三二九	五、三二九	—	—
第卅四目	富錦徵收局經費	四、四二二	四、四二二	—	—

目	科目					備考
第卅五目	綏遠徴收局經費	六、四四六	六、四四六	｜	｜	
第卅六目	和龍徴收局經費	五、一二五	五、一二五	｜	｜	
第卅七目	汪清徴收局經費	三、八六六	三、八六六	｜	｜	
第卅八目	饒河徴收局經費	六、五七六	六、五七六	｜	｜	
第卅九目	穆稜徴收局經費	四、三八五	四、三八五	｜	｜	
第四十目	密山徴收局經費	六、五一一	六、五一一	｜	｜	
第四十一目	額穆徴收局經費	四、四八九	四、四八九	｜	｜	
第四十二目	德惠徴收局經費	一二、八二三	一二、八二三	｜	｜	
第四十三目	濱江木石稅費局經費	四五、〇〇〇	四五、〇〇〇	｜	｜	木石局ノ經費ハ從來ノ章程ニ於テ木石稅內ヨリ一割五分ヲ差引之ヲ使用スルコトニ電請シタル通リ施行シ居タルヲ以テ歳入豫算書內第五類第二項ノ部ニ該數目ヲ控除シタルヲ以テ茲ニ財政部ヨリ許可ノ電命
第二項	各縣徴收田賦經費	八七、八八四	八七、八八四	｜	｜	
第一目	吉林縣徴收田賦經費	九、〇五三	九、〇五三	｜	｜	
第二目	濱江縣徴收田賦經費	七二九	七二九	｜	｜	
第三目	延吉縣徴收田賦經費	一、八九四	一、八九四	｜	｜	
第四目	琿春縣徴收田賦經費	六九八	六九八	｜	｜	
第五目	依蘭縣徴收田賦經費	九二六	九二七	｜	｜	
第六目	五常縣徴收田賦經費	三、九九〇	三、九九〇	｜	｜	
第七目	扶餘縣徴收田賦經費	七、二七一	七、二七一	｜	｜	
第八目	寧安縣徴收田賦經費	四、七九三	四、七九三	｜	｜	
第九目	賓縣徴收田賦經費	五、六二八	五、六二八	｜	｜	

第十目	楡樹縣徵收田賦經費	一〇、七〇三	一〇、七〇三	―	―
第十一目	阿城縣徵收田賦經費	二、九〇七	二、九〇七	―	―
第十二目	伊通縣徵收田賦經費	五、八八三	五、八八三	―	―
第十三目	雙城縣徵數田賦經費	八、二五〇	八、二五〇	―	―
第十四目	蜜山縣徵收田賦經費	二五四	二五四	―	―
第十五目	濛江縣徵收田賦經費	九二四	九二四	―	―
第十六目	樺甸縣徵收田賦經費	一、三八八	一、三八八	―	―
第十七目	磐石縣徵收田賦經費	二、九六八	二、九六八	―	―
第十八目	舒蘭縣徵收田賦經費	二、九三三〇	二、九三三	―	―
第十九目	德惠縣徵收田賦經費	二一	二一	―	―
第二十目	雙陽縣徵收田賦經費	三、四八八	三、四八八	―	―
第廿一目	同賓縣徵收田賦經費	一、七三八	一、七三八	―	―
第廿二目	東寧縣徵收田賦經費	四三五	四三五	―	―
第廿三目	敦化縣徵收田賦經費	一、四一五	一、四一五	―	―
第廿四目	穆稜縣徵收田賦經費	一六〇	一六〇	―	―
第廿五目	額穆縣徵收田賦經費	一、二〇八	一、二〇八	―	―
第廿六目	汪清縣徵收田賦經費	二九九	二九九	―	―
第廿七目	和龍縣徵收田賦經費	九三〇	九三〇	―	―
第廿八目	虎林縣徵收田賦經費	二二	二二	―	―

第廿九目　富錦縣徵收田賦經費	三、九二一	三、九二一	—	—	
第三十目　樺川縣徵收田賦經費	一、八六〇	一、八六〇	—	—	
第卅一目　方正縣徵收田賦經費	一、一五八	一、一五八	—	—	
第卅二目　饒河縣徵收田賦經費	三六	三六	—	—	
第三類　補助費	一四、九六四	一四、九六四	—	—	
第一項　補助蒙公行政經費	一四、九六四	一四、九六四	—	—	
第四類　調查經費	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	—	—	
第一項　稅務調查費	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	—	—	
第五款　財政委員會經費	—	一二、〇〇〇	—	一二、〇〇〇	本會ハ現在組織變更シテ行政會議ニ編入セルヲ以テ當所管內ヨリ脫除セリ
第一項　財政委員會經費	—	一二、〇〇〇	—	一二、〇〇〇	
第四類　陸軍部所管	三、八二七、二一五	三、八一一、八三七	一五、三七八	—	
第一款　督軍署經費	一七〇、〇〇〇	一七〇、〇〇〇	—	—	
第一項　督軍署經費	一七〇、〇〇〇	一七〇、〇〇〇	—	—	
第二款　陸軍經費	三、三七七、四六七	三、三五九、九二一	一七、五四六	—	
第一項　陸軍第一混成旅經費	六二三、四〇四	六二九、一八三	—	五、七七九	按本款本年度預算數目均照督軍公署軍需課所送清單編列
第二項　陸軍第二混成旅經費	一、〇三六、二九五	一、〇四七、六八九	—	一一、三九四	
第三項　陸軍第三混成旅經費	九九五、〇〇七	一、〇〇五、四三八	—	一〇、四三一	
第四項　陸軍第四混成旅經費	五六五、三〇三	五二三、二八七	四二、〇一六	—	
第五項　督軍署步兵營經費	六一、二四二	六〇、二〇五	一、〇三七	—	

第六項　騎兵營經費	四八、七七八	四五、七八三	二、九九五	—	
第七項　憲兵營經費	三九、五七八	四〇、三八〇	—	八〇二	
第八項　軍樂連經費	七、八六〇	七、九五六	—	九六	
第三款　各局廠經費	二四、七七〇	二四、七七〇	—	—	
第一項　軍械支廠經費	二四、七七〇	二四、七七〇	—	—	
第四款　測量局經費	八二、二七六	八二、二七六	—	—	
第二項　測量局經費	八二、二七六	八二、二七六	—	—	
第五款　旗署各衙門及旗務總分各處縣費	一五三、五七六	一五五、七四四	—	二、一六八	按本款內原列前清滿革爵優待一款因該前革爵業已病故減支二千一百六十八元
第一項　旗務各衙門經費	一五三、五七六	一五五、七四四	—		
第一目　省城正黃旗經費	三、七九九	三、七九九	—		
第二目　省城鑲黑旗經費	三、七七〇	三、七七〇	—		
第三目　省城正黃旗經費	三、七五三	三、七五三	—	—	
第四目　省城鑲白旗經費	三、八三三	三、八三三	—	—	
第五目　省報正紅旗經費	三、七一七	三、七一七	—	—	
第六目　省城鑲紅旗經費	三、七九〇	三、七九〇	—	—	
第七目　省城正藍旗經費	三、八一六	三、八一六	—	—	
第八目　省城鑲藍旗經費	三、八一六	三、八一六	—	—	
第九目　省城蒙古旗經費	四、六八七	四、六八七	—	—	
第十目　省城烏槍營經費	六、八八九	六、八八九	—	—	

第十一目	烏拉協領經費	七、七〇四	七、七〇四	—	—
第十二目	雙城堡協領經費	三、七九三	三、七九四	—	—
第十三目	五常堡協領經費	八二五	八二五	—	—
第十四目	寗古塔協領經費	一四、三四五	一四、三四五	—	—
第十五目	伯都納協頭經費	一一、一〇六	一一、一〇六	—	—
第十六目	三姓協領經費	一六、四二六	一六、四二六	—	—
第十七目	阿勒楚喀協領經費	六、六六三	六、六六三	—	—
第十八目	琿春協領經費	六、九七八	六、九七八	—	—
第十九目	拉林協領經費	五、七三〇	五、七三〇	—	—
第二十目	烏拉翼領經費	七七三	七七三	—	—
第廿一目	伊通佐領經費	二、三四八	二、三四八	—	—
第廿二目	額秋赫索羅佐領經費	一、八〇三	一、八〇三	—	—
第廿三目	伊通邊門領催經費	一八八	一八八	—	—
第廿四目	赫島林邊門領催經費	一八八	一八八	—	—
第廿五目	佛島圖庫邊門領催經費	一八八	一八八	—	—
第廿六目	巴彦鄂佛羅邊門領催經費	一八八	一八八	—	—
第廿七目	省城旗蒙科經費	一六、八〇〇	一六、八〇〇	—	—
第廿八目	烏拉旗務處經費	一、八六〇	一、八六〇	—	—
第廿九目	五常旗務處經費	一、三九二	一、三九二	—	—

科目					備考
第三十目 拉林旗務處經費	一、〇〇八	一、〇〇八	—	—	
第卅一目 寧安縣附設旗務科經費	八四〇	八四〇	—	—	
第卅二目 扶餘縣附設旗務科經費	八四〇	八四〇	—	—	
第卅三目 依蘭縣附設旗務科經費	九〇〇	九〇〇	—	—	
第卅四目 阿城縣附設旗務科經費	九〇〇	九〇〇	—	—	
第卅五目 琿春縣附設旗務科經費	八四〇	八四〇	—	—	
第卅六目 雙城縣附設旗務科經費	九六〇	九六〇	—	—	
第卅七目 伊通縣附設旗務科經費	八四〇	八四〇	—	—	
第卅八目 前清濶革爵優待經費	—	二、一六八	—	—	
第卅九目 聯蒙招待費	五、二八〇	五、二八〇	—	—	
第六款 廢勇長勝徐貴恩餉	八六	八六	—	—	
第一項 廢勇長勝徐貴恩餉	八六	八六	—	—	
第七款 延吉縣憲兵營津貼	一、〇四〇	一、〇四〇	—	—	
第一項 憲兵營津貼	一、〇四〇	一、〇四〇	—	—	
第八款 陸軍三鎮守使公費	一八、〇〇〇	一八、〇〇〇	—	—	
第一項 吉長、延琿、寧阿蘭三鎮守使津貼公費	一八、〇〇〇	一八、〇〇〇			
第五類 司法部所管	五五四、三八四	四二一、四五六	一三一、九二八		
第一款 審檢廳經費	三七九、一三八	二七八、四一六	一〇〇、七二二	—	按本編各款本年度預算數均和高等審檢廳咨送清冊編列
第一項 高等審判廳經費	四四、三六二	四一、九六四	二、三九八	—	

第二項　高等檢察廳經費	二七、五七八	二三、六一八	三、九六〇	—
第三項　吉林地方審判廳經費	三五、四七七	三四、六三八	八三九	—
第四項　吉林地方檢察廳經費	二五、九六七	二五、四八八	四七九	—
第五項　長春地方審判廳經費	二八、〇四四	二七、六八六	三五八	—
第六項　長春地方檢察廳經費	三一、八〇〇	三一、四四〇	三六〇	—
第七項　延吉地方檢察廳經費	二三、九〇六	二三、五四六	三六〇	—
第八項　延吉地方檢察廳經費	二五、四六二	二五、四六五	—	—
第九項　延吉第一分庭經費	四、三六六	四、三六六	—	—
第十項　延吉第一分庭經費	四、五一〇	四、五一〇	—	—
第十一項　延吉地方審判分廳經費	七、二五二	七、二五二	—	—
第十二項　延吉地方檢察分廳經費	七、三八六	六、九七八	四〇八	—
第十三項　農安地方審判廳經費	一一、三七六	一一、三七六	—	—
第十四項　農安地方檢察廳經費	一〇、〇九二	一〇、〇九二	—	—
第十五項　濱江地方審判廳經費	二一、八七六	—	二一、八七六	—
第十六項　濱江地方審判廳經費	二一、八七六	—	二一、八七六	—
第十七項　依蘭地方審判廳經費	二〇、六二八	—	二〇、六二八	—
第十八項　依蘭地方檢察廳總費	二三、六五六	—	二三、六五六	—
第一款　監獄及監所經費	一七二、四一四	一四一、二〇八	三一、八〇六	—
第一項　監獄經費	一〇四、九四四	七四、一三八	二〇、八〇六	—

第一目　吉林縣監獄經費	六一、三七〇	六一、三七〇	—	—
第二目　長春縣監獄經費	一七、六三〇	五、一八四	一二、四四六	—
第三目　延吉縣監獄經費	八、一八四	七、五八四	六〇〇	—
第四目　濱江縣監獄經費	一七、七六〇	—	一七、七六〇	—
第二項　監所經費	六七、四七〇	六七、〇七〇	四〇〇	—
第一目　賓縣監所經費	五、八一四	五、三三四	四八〇	—
第二目　楡樹縣監所經費	三、九二四	三、四四四	四八〇	—
第三目　農安縣監所經費	三、九二四	三、四四四	四八〇	—
第四目　阿城縣監所經費	三、九二四	三、四四四	四八〇	—
第五目　雙城縣監所經費	三、九二四	三、四四四	四八〇	—
第六目　扶餘縣監所經費	三、四四四	三、四四四	—	—
第七目　濱江縣監所經費	—	三、四四四	—	三、四四四
第八目　伊通縣監所經費	三、九二四	三、四四四	四八〇	—
第九目　依蘭縣監所經費	二、六五二	二、六五二	—	—
第十目　五常縣監所經費	二、六五二	二、六五二	—	—
第十一目　寧安縣監所經費	二、六五二	二、六五二	—	—
第十二目　同賓縣監所經費	二、六五二	二、六五二	—	—
第十三目　磐石縣監所經費	三、一三二	二、六五二	四八〇	—
第十四目　長嶺縣監所經費	二、六五二	二、六五二	—	—

第十五目	方正縣監所經費	一、六五二	一、六五二	—	—
第十六目	雙陽縣監所經費	一、四二六	一、四二六	—	—
第十七目	舒蘭縣監所經費	一、四二六	一、四二六	—	—
第十八目	樺甸縣監所經費	一、四二六	一、四二六	—	—
第十九目	和龍山縣監所經費	一、四二六	一、四二六	—	—
第二十目	汪清縣監所經費	一、四二六	一、四二六	—	—
第廿一目	敦化縣監所經費	一、四二六	一、四二六	—	—
第廿二目	德惠縣監所經費	一、〇二〇	一、〇二〇		—
第廿三目	密山縣監所經費	九四四	九四四	—	—
第廿四目	東寧縣監所經費	九四四	九四四	—	—
第廿五目	穆稜縣監所經費	九四四	九四四	—	—
第廿六目	富錦縣監所經費	九四四	九四四	—	—
第廿七目	樺川縣監所經費	九四四	九四四		—
第廿八目	濛江縣監所經費	九四四	九四四	—	—
第廿九目	額穆縣監所經費	九四四	九四四	—	—
第三十目	同江縣監所經費	九四四	九四四	—	—
第卅一目	綏遠縣監所經費	四八四	四八四	—	—
第卅二目	虎林縣監所經費	四八四	四八四	—	—
第卅三目	饒河縣監所經費	四八四	四八四	—	—

科目	六年度預算數	五年度預算數	比較增	比較減	備考
第卅四目 和龍琿外六道溝審監所經費	四八四	四八四	—	—	
第卅五目 賓清縣監所經費	四八四		—	四八四	
第三款 承審員經費	二、八三二	二、八三二	—	—	
第一項 和龍駐外六道溝承審員經費	二、八三二	二、八三二	—	—	
第六類 農商部所管	四二、二八〇	四二、二八〇	—	—	
第一款 農務經費	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	—	—	
第一項 東三省林務局經費	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	—	—	
第二款 鑛務經費	七、二八〇	七、二八〇	—	—	
第一項 鑛務科經費	七、二八〇	七、二八〇	—	—	
第三款 工業經費	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	—	—	
第一項 省立工藝廠經費	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	—	—	
第七類 教育部經費	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	—	—	
第一款 教育經費	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	—	—	
第一項 補助各學校經費	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	—	—	按吉省教育經費向歸省地方費內開支嗣因地方收入不敷支出於改編新五年度豫算案內電奉部准每年由國家收入節內補助十萬元

歲出臨時門

科目	六年度預算數	五年度預算數	比較增	比較減	備考
第一類 內務部所管	三二、八〇〇元	六、〇〇〇元	二六、八〇〇元	—	

第一款　郵金	六、〇〇〇	六、〇〇〇	—	—	
第一項　警察官吏郵金	六、〇〇〇	六、〇〇〇	—	—	
第二款　延吉道本公署歲修費	八〇〇	—	八〇〇	—	按本款係延吉道尹廳請追加
第三款　吉林警務警察傳習所開辦經費	二、〇〇〇	—	二、〇〇〇	—	按該款係准該處函稱遵章設立警察傳習所本年預算開辦費二千元
第四款　省會警察廳訂構槍價費	二四、〇〇〇	—	二四、〇〇〇	—	按該廳本年度由湖北兵工廠訂購新式七米重九快槍三百桿每桿隨帶子彈五百粒需價銀元八十元計共二萬四千元業經奉省公署准其列入六年度預算案
第二類　財政部所管	一、四七二、〇〇〇	六三三、〇七五	八三八、九二五	—	本省ノ六年度ニ於テ返還スベキ民國四年借入ノ中國銀行債款八十萬元年七厘ノ利息銀行六萬七千二百元ト此外返還スベキハ民國五年度借入ノ中國銀行債款六十萬元一箇月利息八厘計四千八百元ナリトス
第一款　中國銀行債款本息	一、四七二、〇〇〇	六三三、〇七五	八三八、九二五	—	
第一項　債款本息	一四七二、〇〇〇	六三三、〇七五	—	—	
第三類　陸軍部所管	一、四一七、二七九	一四四七、五四八	三〇、二六九	—	
第一款　郵金	六、〇〇〇	六、〇〇〇	—	—	
第一項　官吏郵金	六、〇〇〇	六、〇〇〇	—	—	
第二款　繼續費	一四二二、二七九	一、四四一、五四八	—	—	本款係照督軍公署軍需課函送清單編列
第一項　陸軍第一混成旅繼續費	五四〇、一八六	—	—	—	
第二項　陸軍第一混成旅繼續費	六四四、五六七	—	—	—	
第三項　陸軍第三混成旅繼續費	一〇三、五六八	—	—	—	
第四項　陸軍第四混成旅繼續費	一二二、九五八	—	—	—	
第四類　司法部所管	六四、〇〇〇	六、〇〇〇	五八、〇〇〇	—	按本編各款數目照高等審檢廳咨送清冊編列
第一款　農安地方審判、檢察廳經費	六、〇〇〇	六、〇〇〇	·	—	

第一項 修繕費	三、〇〇〇	三、〇〇〇	—	—
第二項 開辦費	三、〇〇〇	三、〇〇〇	—	—
第二款 濱江地方審判、檢查廳經費	三五、〇〇〇	—	三五、〇〇〇	—
第一項 建築費	三〇、〇〇〇	—	—	—
第二項 開辦費	五、〇〇〇	—	—	—
第三款 依蘭地方審判、檢察廳經費	二三、〇〇〇	—	二三、〇〇〇	—
第一項 建築費	二〇、〇〇〇	—	—	—
第二項 開辦費	三、〇〇〇	—	—	—

新稅歲入預算內譯表

歲入經常門

科目	六年度預算數	備考
第一款 中央專款	三六二、一四二元	
第一項 印花稅	一〇〇、〇〇〇	
第二項 菸酒牌照稅	五〇、〇〇〇	
第三項 鑛稅	一二、一四二	
第四項 菸酒稅增加	二〇〇、〇〇〇	
歲入經常合計	三六二、一四二	

說明

按吉省印花稅收數近年不甚暢旺現在設立專處竭力推行收數當能漸有起色應以十萬元為定額如能增收仍儘數報解其餘三項均照六年分認定數編列理合聲明

地方歳入經常門　共銀元三十萬零四千八百八十九元

科目	六年度預算數	備考
第一款 雜税	二〇三、四七七、〇〇〇元	
第一項 牲畜税	一七三、四七七、〇〇〇	
第二項 屠宰税	三〇、〇〇〇、〇〇〇	
第二款 雜捐	三〇、七一三、〇〇〇	
第一項 車捐	八、六九六、〇〇〇	
第二項 屠捐	四、九五〇、〇〇〇	
第三項 魚網捐	一、三四一、〇〇〇	
第四項 郵船渡口捐	一、二一二、〇〇〇	
第五項 廟捐	二、〇七二、〇〇〇	
第六項 戲捐	一、〇〇六、〇〇〇	
第七項 妓女捐	八、四二四、〇〇〇	
第八項 妓館捐	三、〇一二、〇〇〇	
第三款 各項雜收	七〇、六九九、〇〇〇	按スルニ吉省徵收ノ人蔘、藥材、陶器、石炭、木、石材、魚類、葉煙草、酒、斗税、木税、山分、硝鹽等章ニ照シテ正税トシテ一吊ノ外雜款トシテ五十文ヲ徵シオレリ
第一項 五厘雜款	七〇、六九九、〇〇〇	
經常門合計	三〇四、八八九、〇〇〇	

國家歲入預算表

歲入經常門

科目	六年度預算數（元）	備考
第一款 田賦	一、九二三、八五九	按吉省民國六年度全省民旗地畝共計三百六十萬〇五千九百十五晌五畝六分六厘每晌徵銀五角共應徵銀一百八十萬〇二千九百五十七元七角八分三厘又長春、農安、德惠、長嶺四縣蒙租地畝七十一萬一千一百八十二晌七畝二分每晌徵銀五角照章應分撥蒙旗二角五分縣署及蒙租局徵收費八分實解省庫一角七分計全年應徵蒙租十二萬〇九百〇一元六分二厘
第一項 地租	一、九二三、八五九	
第一目 地租	一、九二三、八五九	
第二款 貨物稅	一、八二六、六八〇	本款照舊五年度預算數編列
第一項 產地稅	四一一、六九二	
第一目 山海稅	三一六、四六八	
第二目 菸稅	一三、八四九	
第三目 藥稅	一一、四五六	
第四目 缸煤稅	一二、〇一八	
第五目 硝磺稅	一、〇〇三	
第六目 木石魚草稅	五六、八九八	
第二項 銷場稅	一、四一四、九八八	
第一目 銷場稅	一、四一四、九八八	
第三款 正雜各稅	一、九三二、九四五	
第一項 契稅	五四九、〇六二	本項照四年度實收數加一成編列

科目	金額	備考
第一目　契税	五四九、〇六二	
第二項　牙税	二四一、八〇〇	本項照五年度預算編列
第一目　牙税	二四〇、〇〇〇	
第二目　牙帖税	一、八〇〇	
第三項　當税	一四、〇〇〇	本項照五年度預算數編列
第一目　當税	一〇、〇〇〇	
第二目　當帖税	四、〇〇〇	
第四項　蒸税	一四三、五四八	本項照舊五年度預算數編列
第一目　蒸税	一四三、五四八	
第五項　酒税	五四五、八〇二	本項照舊五年度預算數編列
第一目　酒税	五四五、八〇二	
第六項　燒鍋税	一五〇、〇〇〇	本項照舊五年度預算數編列
第一目　燒鍋税	一五〇、〇〇〇	
第七項　斗税	一八五、二八一	本項照舊五年度預算數編列
第一目　斗税	一八五、二八一	
第八項　木税	六九、一五九	本項照舊四年度實收數加一成編列
第一目　木税	六九、一五九	
第九項　山分税	三四、二九三	本項照四年度實收數加一成編列
第一目　山分税	三四、二九三	

科目	金額	備考
第四款 正雜各稅	一、四五六	
第一項 硝滷捐	一、四五六	本項照五年度預算數編列
第一目 硝滷捐	一、四五六	
第五款 雜收入	三七五、一八〇	
第一項 官款生息	七〇、一八〇	本項照五年度預算數編列
第一目 八萬生息	一三、三三三	
第二目 城工生息	三、五〇一	
第三目 礮臺生息	七七五	
第四目 課吏局生息	八三三	
第五目 看押處生息	五〇〇	
第六目 車價生息	九六七	
第七目 衙署年當生息	一、三三三	
第八目 各司津貼生息	一、六六七	
第九目 都察院經費生息	一七七	
第十目 無差人員生息	五、三三三	
第十一目 祠廟經費生息	一三三	
第十二目 賓興路費生息	五〇〇	
第十三目 公款生息	六六七	
第十四目 公署津貼生息	一六七	

項目	名稱	金額
第十五目	津貼廉俸生息	五、〇〇〇
第十六目	木植生息	二、九五三
第十七目	審判廳經費生息	一三四
第十八目	各司處膏貼生息	一、二〇〇
第十九目	各司旗營津貼生息	四八〇
第二十目	祭祀生息	三六〇
第二十一目	赴引川資生息	四八〇
第二十二目	教律館生息	一七
第二十三目	津貼教佐生息	五七六
第二十四目	司庫員司津貼生息	七六八
第二十五目	津貼候補人員生息	三六〇
第二十六目	餉捐局伙食生息	三六
第二十七目	窮員川資生息	四八〇
第二十八目	釐捐工食生息	三〇〇
第二十九目	發商生息	三、三六七
第三十目	軍機處生息	三五七
第三十一目	旗務承辦處津貼生息	七、〇〇〇
第三十二目	前副署左右司生息	二六六
第三十三目	前副署房價生息	三六

科目	金額	備考
第三十四目　前副署宵伙生息	一三八	
第三十五目　俄文學堂經費生息	一、四〇〇	
第三十六目　講約經費生息	五〇〇	
第三十七目　學堂經費生息	三、二二二	
第三十八目　大學堂經費生息	三、七八七	
第三十九目　考棚經費生息	三、三三三	
第四十目　俄文義學生息	八九	
第四十一目　育嬰堂生息	一六七	
第四十二目　學款生息	三〇〇	
第四十三目　華俄學堂生息	二九	
第四十四目　禮生津貼生息	八三	
第四十五目　義學生息	六七二	
第四十六目　招墾局生息	二、四〇〇	
第二項　票照費	二七五、〇〇〇	本項ハ哈爾濱木石稅費局ノ全年豫算收入三十萬元其餘ノ各局ノ收入約二萬元ノ内哈爾濱稅費局ハ章程ニヨリ收入款内ヨリ一割五分ヲ經費トシテ扣除シタル四萬五千元ノ殘額計全年二十七萬五千元ヲ省庫ニ回送タリ
第一目　木石照費	二七五、〇〇〇	
第三項　契紙價	三〇、〇〇〇	
第一目　契紙價	三〇、〇〇〇	
歲入經常合計	六、〇六〇、一二〇	

民國七年度預算表

經常歲入之部

科目	金額
田賦	一、九二三、一〇四元
貨物稅	二、〇二六、六八〇
正雜各稅	二、一一七、九一八
正雜各捐	一、四五六
雜收入	三六九、三七三
中央協濟軍費	四七八、二三七
合計	六、九一六、七六八

經常歲出之部

科目	金額
外交部	七九、二〇六元
內務部	一、四五六、七六八
財政部	六〇九、七八七
陸軍部	五、七九五、三〇五
司法部	四七九、五八六
教育部	一三五、〇〇〇
農商部	七四、〇〇〇
合計	八、六二九、六五二

臨時歲出之部

科目	金額
內務部	六、八〇〇元
陸軍部	二、〇三五、八一七
合計	二、〇四二、六一七
總計	一〇、六七二、二六九

中華民國八、九年度國家歲入歲出預算總表

歲入經常門

科目	九年度預算數	八年度預算數	比較 增	比較 減	備考
田賦	一、九五〇、一三五元	一、九五〇、一三五元	—	—	

科目	九年度預算	八年度預算	比較增	比較減
貨物稅	二、四八六、六八〇	二、〇二六、六八〇	四六〇、〇〇〇	—
正雜各稅	二、六六七、九一八	二、一一七、九一八	五五〇、〇〇〇	—
正雜各捐	一、四五六	一、四五六	—	—
雜收入	三六九、三七三	三六九、三七三	—	—
中央協濟軍費	九九三、三六八	四七八、二三七	五一五、一三一	—
歲入經常合計	八、四六八、九三〇	六、九四三、七九九	一、五二五、一三一	—

歲出臨時門

科目	九年度預算	八年度預算	比較增	比較減	備考
外交部所管	元 一三五、五〇六	元 一三五、五〇六	—	元 —	
內務部所管	一、六一九、四八六	一、五五五、八七二	元 六三、六一四	—	
財政部所管	八三〇、二三七	七三四、七二一	九五、五一六	—	
陸軍部所管	五、〇三九、三三三	八、一七九、一五四	—	三、一三九、八二一	
司法部所管	五五一、三三六	五三三、八八五	一七、四五一	—	
教育部所管	三三五、〇〇〇	二三五、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	—	
農商部所管	五四、〇〇〇	七四、〇〇〇	—	二〇、〇〇〇	
交通部所管	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	—	—	
歲出經常合計	八、六五四、八九八	一一、五三八、一三八	—	二、八八三、二四〇	

歳出臨時門

科目	九年度預算	八年度預算	比較 增	比較 減	備考
内務部所管	一六、〇〇〇元	一六、八〇〇元	—	八〇〇元	
陸軍部所管	一、八二一、七〇二	二、〇三五、八一七	—	二一四、一一五	
司法部所管	五一、〇〇〇	一一八、〇〇〇	—	六七、〇〇〇	
歳出臨時合計	一、八八八、七〇二	二、一七〇、六一七	—	二八一、九一五	
歳出經常臨時總計	一〇、五四三、六〇〇	一三、七〇八、七五五	—	三、一六五、一五五	

中華民國八、九年度國家歳入預算書

歳入經常門

科目	九年度預算	八年度預算	比較 增	比較 減	備考
第一款田賦	一、九五〇、一三五元	一、九五〇、一三五元	—	—	
第一項地租	一、九五〇、一三五	一、九五〇、一三五	—	—	
第一目地租	一、九五〇、一三五	一、九五〇、一三五	—	—	
第二款貨物税	二、四八六、六八〇	二、〇二六、六八〇	四六〇、〇〇〇元	—	

第一項　產地稅	七一一、六九二	五一一、六九二	二〇〇、〇〇〇	—
第一目　產地稅	七一一、六九二	五一一、六九二	二〇〇、〇〇〇	—
第二項　銷場稅	一、七七四、九八八	一、五一四、九八八	二六〇、〇〇〇	—
第一目　銷場稅	一、七七四、九八八	一、五一四、九八八	二六〇、〇〇〇	—
第三款　正雜各稅	二、六六七、九一八	二、一一七、九一八	五五〇、〇〇〇	—
第一項　契稅	五四九、〇六二	五四九、〇六二	—	—
第一目　契稅	五四九、〇六二	五四九、〇六二	—	—
第二項　牙稅	二四一、八〇〇	二四一、八〇〇	—	—
第一目　牙稅	二四〇、〇〇〇	二四〇、〇〇〇	—	—
第二目　牙帖稅	一、八〇〇	一、八〇〇	—	—
第三項　當稅	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	—	—
第一目　當稅	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	—	—
第二目　當帖稅	四、〇〇〇	四、〇〇〇	—	—
第四項　菸稅	一四三、五四八	一四三、五四八	—	—
第一目　菸稅	一四三、五四八	一四三、五四八	—	—
第五項　酒稅	五四五、八〇二	五四五、八〇二	—	—
第一目　酒稅	五四五、八〇二	五四五、八〇二	—	—
第六項　燒鍋課	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	—	—
第一目　燒鍋課	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	—	—

第七項　斗税	七七〇、二五四	三七〇、二五四	二〇〇、〇〇〇	—
第一目　斗税	五七〇、二五四	三七〇、二五四	二〇〇、〇〇〇	—
第八項　木税	四一九、一五九	六九、一五九	三五〇、〇〇〇	—
第一目　木税	四一九、一五九	六九、一五九	三五〇、〇〇〇	—
第九項　嶺税	三四、二九三	三四、二九三	—	—
第一目　嶺税	三四、二九三	三四、二九三	—	—
第四款　正雜各税	一、四五六	一、四五六	—	—
第一項　硝滷捐	一、四五六	一、四五六	—	—
第一目　硝滷捐	一、四五六	一、四五六	—	—
第五款　雜收入	三六九、三七三	三六九、三七三	—	—
第一項　官款生息	六四、三七三	六四、三七三	—	—
第一目　八萬兩生息	一三、三三三	一三、三三三	—	—
第二目　城工生息	三、五〇一	三、五〇一	—	—
第三目　礮臺生息	六七九	七七九	—	—
第四目　課吏局生息	八三三	八三三	—	—
第五目　看押處生息	五〇〇	五〇〇	—	—
第六目　車價生息	九六七	九六七	—	—
第七目　衙署年賞生息	一、三三三	一、三三三	—	—
第八目　各司津帖生息	一、六六七	一、六六七	—	—

第九目 都察院經費生息	一七七	一七七	—	—
第十目 無差人員生息	五、三三三	五、三三三	—	—
第十一目 祠廟經費生息	一三三	一三三	—	—
第十二目 公款生息	六六七	六六七	—	—
第十三目 公署津帖生息	一六七	一六七	—	—
第十四目 津帖廉俸生息	五、〇〇〇	五、〇〇〇	—	—
第十五目 木植生息	二、九五二	二、九五三	—	—
第十六目 審判廳經費生息	一三四	一三四	—	—
第十七目 各司處音火生息	一、二〇〇	一、二〇〇	—	—
第十八目 各司旗營津帖生息	四八〇	四八〇	—	—
第十九目 祭祀生息	三六〇	三六〇	—	—
第二十目 赴引川資生息	四八〇	四八〇	—	—
第廿一目 教津館生息	一七	一七	—	—
第廿二目 津帖教佐生息	五七六	五七六	—	—
第廿三目 司庫員司津帖生息	七六八	七六八	—	—
第廿四目 津帖候補人員生息	三六〇	三六〇	—	—
第廿五目 餉捐局膏火生息	三六	三六	—	—
第廿六目 窮民川資生息	四八〇	四八〇	—	—
第廿七目 釐捐工食生息	三〇〇	三〇〇	—	—

第廿八目　發商生息	三、三六七	三、三六七	—	—
第廿九目　軍械處生息	三五七	三五七	—	—
第三十目　旗務承辦處津帖生息	七、〇〇〇	七、〇〇〇	—	—
第卅一目　前副署左右司生息	二六六	二六六	—	—
第卅二目　前副署房價生息	三六	三六	—	—
第卅三目　前副署膏火生息	一三八	一三八	—	—
第卅四目　俄文學堂經費生息	一、四〇〇	一、四〇〇	—	—
第卅五目　講約經費生息	五〇〇	五〇〇	—	—
第卅六目　學堂經費生息	三、二二二	三、二二二	—	—
第卅七目　高大學堂經費生息	三、七三三	三、七三三	—	—
第卅八目　俄文義學生息	八九	八九	—	—
第卅九目　育嬰堂生息	一六七	一六七	—	—
第四十目　學款生息	三〇〇	三〇〇	—	—
第四十一目　華俄學堂生息	二九	二九	—	—
第四十二目　禮生津帖生息	八三	八三	—	—
第四十三目　義學生息	六七二	六七二	—	—
第四十四目　招墾局生息	四八〇	四八〇	—	—
第二項　票照費	二七五、〇〇〇	二七五、〇〇〇	—	—
第一目　木石照費	二七五、〇〇〇	二七五、〇〇〇	—	—

科目	九年度預算	八年度預算	比較 增	比較 減	備考
第三項 契紙價	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	—	—	
第一目 契紙價	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	—	—	
第六款 中央協濟軍費	九九三、三六八	四七八、二三七	五一五、一三一	—	
第一項 部協第五旅經費	四七八、二三七	四七八、二三七	—	—	
第一目 部協第五旅經費	四七八、二三七	四七八、二三七	—	—	
第二項 中央協濟第十九旅經費	五一五、一三一	—	△五一五、一三一	—	
第一目 中央協濟第十九旅經費	五一五、一三一	—	△五一五、一三一	—	
歲入經常門合計	八、四六八、九三〇	六、九四三、七九九	一、五二五、一三一	—	

吉林省八、九年度歲出預算書

歲出經常門

外交部所管

科目	九年度預算	八年度預算	比較 增	比較 減	備考
第一款 各交涉署經費	元 七二、三六六	元 七二、三六六	—	—	
第一項 吉林交涉署	二九、六〇〇	二九、六〇〇	—	—	
第二項 長春交涉署	四、八〇〇	四、八〇〇	—	—	

科目	九年度預算	八年度預算	比較 增	比較 減	備考
第三項　哈爾濱交渉署	三四、二九四	三四、二九四	—	—	
第四項　延吉交渉署	三、六七二	三、六七二	—	—	
第二款　各縣外交經費	五七、一四〇	五七、一四〇	—	—	
第一項　各縣外交縣費	五七、一四〇	五七、一四〇	—	—	
第三款　哈爾濱鐵路交渉署顧問薪水	六、〇〇〇	六、〇〇〇	—	—	
第一項　同前	六、〇〇〇	六、〇〇〇	—	—	
外交部所管經常門合計	一三五、五〇六	一三五、五〇六	—	—	

內務部所管

科目	九年度預算	八年度預算	比較 增	比較 減	備考
第一款　各公署經費	元 六五〇、四七四	元 六五〇、四七〇	—	—	
第一項　省長公署經費	一四八、〇〇〇	一四八、〇〇〇	—	—	
第二項　各道尹公署經費	一〇八、四〇〇	一〇八、四〇〇	—	—	
第一目　吉長道尹	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	—	—	
第二目　濱江道尹	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	—	—	
第三目　依蘭道尹	二五、二〇〇	二五、二〇〇	—	—	
第四目　延吉道尹	二五、二〇〇	二五、二〇〇	—	—	

第三項　各縣公署經費	三九四、〇七四	三九四、〇七四	―	―
第一目　吉　林	一二、六二四	一二、六二四	―	―
第二目　長　春	一二、六二四	一二、六二四	―	―
第三目　濱　江	一二、六二四	一二、六二四	―	―
第四目　延　吉	一二、六二四	一二、六二四	―	―
第五目　琿　春	一二、六二四	一二、六二四	―	―
第六目　依　蘭	一二、六二四	一二、六二四	―	―
第七目　五　常	一〇、六五〇	一〇、六五〇	―	―
第八目　扶　餘	一〇、六五〇	一〇、六五〇	―	―
第九目　寧　安	一〇、六五〇	一〇、六五〇	―	―
第十目　賓	一〇、六五〇	一〇、六五〇	―	―
第十一目　楡　樹	一〇、六五〇	一〇、六五〇	―	―
第十二目　阿　城	一〇、六五〇	一〇、六五〇	―	―
第十三目　伊　通	一〇、六五〇	一〇、六五〇	―	―
第十四目　雙　城	一〇、六五〇	一〇、六〇五	―	―
第十五目　農　安	一〇、六五〇	一〇、六五〇	―	―
第十六目　同　江	九、二七〇	九、二七〇	―	―
第十七目　密　山	九、二七〇	九、二七〇	―	―
第十八目　濛　江	九、二七〇	九、二七〇	―	―

第十九目	長嶺	九、二七〇	九、二七〇	ー	ー
第二十目	樺甸	九、二七〇	九、二七〇	ー	ー
第廿一目	盤石	九、二七〇	九、二七〇	ー	ー
第廿二目	舒蘭	九、二七〇	九、二七〇	ー	ー
第廿三目	德惠	九、二七〇	九、二七〇	ー	ー
第廿四目	雙陽	九、二七〇	九、二七〇	ー	ー
第廿五目	同賓	九、二七〇	九、二七〇	ー	ー
第廿六目	東寧	九、二七〇	九、二七〇	ー	ー
第廿七目	敦化	九、二七〇	九、二七〇	ー	ー
第廿八目	穆稜	九、二七〇	九、二七〇	ー	ー
第廿九目	額穆	九、二七〇	九、二七〇	ー	ー
第三十目	汪淸	九、二七〇	九、二七〇	ー	ー
第卅一目	和龍	九、二七〇	九、二七〇	ー	ー
第卅二目	虎林	九、二七〇	九、二七〇	ー	ー
第卅三目	富錦	九、二七〇	九、二七〇	ー	ー
第卅四目	樺川	九、二七〇	九、二七〇	ー	ー
第卅五目	方正	九、二七〇	九、二七〇	ー	ー
第卅六目	綏遠	九、二七〇	九、二七〇	ー	ー
第卅七目	饒河	九、二七〇	九、二七〇	ー	ー

第卅八目　實清	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第卅九目　剳利	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第二款　警察經費	五五二、一一二	四七二、九七八	七九、一四三	—
第一項　吉林警務處	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	—	—
第二項　省會警察廳	二六〇、八三六	二六〇、八三六	—	—
第三項　哈爾濱警察局	一八三、六四七	一六六、八七六	一六、七七〇	—
第四項　琿春商埠警察隊	二、五〇二	二、五〇二	—	—
第五項　哈爾濱警察局護路警察隊	七六、一二八	—	七六、一二八	—
第六項　長春警察廳補助費	—	一〇、五〇〇	—	一〇、五〇〇
第七項　長春俄站警察局	—	三、二六四	—	三、二六四
第三款　護墾隊經費	一二、三九三	一二、三九二	—	—
第一項　虎林	五、一六七	五、一六七	—	—
第二項　密山	七、二二五	七、二二五	—	—
第四款　游巡隊經費	四四、三九八	四四、三九八	—	二、〇〇〇
第一項　各縣游巡隊經費	四四、三九八	四四、三九八	—	—
第一目　同江	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第二目　密山	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第三目　穆稜	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第四目　額穆	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—

第五日　利龍	二、〇〇〇	二、〇〇〇	｜	｜
第六日　德惠	二、〇〇〇	二、〇〇〇	｜	｜
第七日　汪清	二、〇〇〇	二、〇〇〇	｜	｜
第八日　虎林	二、〇〇〇	二、〇〇〇	｜	｜
第九日　綏遠	二、〇〇〇	二、〇〇〇	｜	｜
第十日　富錦	二、〇〇〇	二、〇〇〇	｜	｜
第十一日　濛江	二、〇〇〇	二、〇〇〇	｜	｜
第十二日　饒河	二、〇〇〇	二、〇〇〇	｜	｜
第十三日　割利	二、〇〇〇	二、〇〇〇	｜	｜
第十四日　寶清	三、六一六	三、六一六	｜	｜
第十五日　東寧	一、五〇〇	一、五〇〇	｜	｜
第十六日　琿春	一、〇五五	一、五〇〇	｜	｜
第十七日　長春	一、五〇〇	一、五〇〇	｜	｜
第十八日　敦化	一、五〇〇	一、五〇〇	｜	｜
第十九日　方正	一、五〇〇	一、五〇〇	｜	｜
第二十日　樺川	一、五〇〇	一、五〇〇	｜	｜
第廿一日　雙陽	一、五〇〇	一、五〇〇	｜	｜
第廿二日　樺甸	一、五〇〇	一、五〇〇	｜	｜
第廿三日　同賓	一、五〇〇	一、五〇〇	｜	｜

科目	九年度預算	八年度預算	比較 增	比較 減	備考
第廿四目 延吉	一、二八二	一、二八二	—	—	
第五款 商埠經費	八二、八三二	八二、八三二	—	—	
第一項 省城	一五、三九二	一五、三九二	—	—	
第二項 延吉	六四、六〇八	六四、六〇八	—	—	
第三項 琿春	二、八三二	二、八三二	—	—	
第六款 典禮費	二、〇〇〇	一〇、〇〇〇	—	八、〇〇〇	
第一項 祭祀費	二、〇〇〇	一〇、〇〇〇	—	八、〇〇〇	
第七款 吉林省警察傳習所經費	二九、五一四	二九、五一四	—	—	
第八款 吉林政治討論會經費	二四、〇〇〇	—	二四、〇〇〇	—	
第九款 警備隊縣費	一三四、四八四	一三四、四八四	—	—	
第十款 補助延琿和汪擴充警察費	七四、四〇〇	七四、四〇〇	—	—	
第十一款 分發吉林學習員津帖	二、八八〇	一、四四〇	一、四四〇	—	
第十二款 禁煙經費	一〇、〇〇〇	二四、〇〇〇	—	一四、〇〇〇	
第十三類 省長公署行政會議經費	—	一八、九六〇	—	一八、九六〇	
內務部所管經常門合計	一、六一九、四八六	一、五五五、八七二	六三、六一四	—	

財政部所管

科目	九年度預算	八年度預算	比較 增	比較 減	備考
第一款 財政廳經費	六〇、〇〇〇元	六〇、〇〇〇元	—	—	

第一項　廳署經費	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	—	—
第二款　徵收經費	六四〇、二三七	五六四、七二一	七五、五一六	—
第一項　各徵收局經費	五四九、四六一	四七三、九四五	七五、五一六	—
第一目　省城	一八、二九二	一六、九〇〇	一、三九二	—
第二目　長春	二九、八一六	二九、〇四二	七七四	—
第三目　雙城	二〇、七三五	一七、三〇三	三、四三二	—
第四目　榆樹	一六、六六六	一四、六九〇	一、九七六	—
第五目　阿城	一五、五九一	一三、五五一	二、〇四〇	—
第六目　扶餘	一九、一四九	一七、五一七	一、六三二	—
第七目　賓縣	一五、九〇五	一四、三九三	一、五一二	—
第八目　濱江	二〇、七二四	一八、六五二	二、〇七二	—
第九目　農安	一三、六四九	一一、二五九	二、二九〇	—
第十目　伊通	一七、三六二	一四、一一〇	三、二五二	—
第十一目　五常	一八、三九〇	一四、二七〇	四、一二〇	—
第十二目　磐石	一四、〇一一	一一、七七五	二、二三六	—
第十三目　依蘭	八、七〇六	七、一五八	一、五四八	—
第十四目　寧安	一七、〇〇三	一五、八六三	一、一四〇	—
第十五目　舒蘭	一四、六八一	一二、一〇一	二、五八〇	—
第十六目　雙陽	一二、五五七	一〇、七〇五	一、八五二	—

第十七目	延吉	一〇、三七〇	八、二四〇	二、一三〇	—
第十八目	省城木税局	六、六八二	五、〇九八	一、五八四	—
第十九目	敦化	六、八〇四	五、九四四	八六〇	—
第二十目	樺皮廠	一三、七二〇	九、二二八	四、四九二	—
第廿一目	樺甸	七、八六五	六、六七一	一、一九四	—
第廿二目	蕉拉	八、六四七	七、一六九	一、四七八	—
第廿三目	呢嗎口	六、三〇四	五、五一二	七九二	—
第廿四目	東寧	一一、五六二	一〇、六五〇	九一二	—
第廿五目	缸窯	六、〇八九	五、〇九九	九九〇	—
第廿六目	雙河	七、〇二六	六、〇〇七	一、〇一九	—
第廿七目	同賓	二四、三五四	二二、二六四	二、〇九〇	—
第廿八目	濛江	六、九六五	五、四〇七	一、五五八	—
第廿九目	琿春	一〇、七八九	八、八九三	一、八九六	—
第三十目	長嶺	五、四六六	四、六七四	七九二	—
第卅一目	方正	一〇、〇六二	八、七六六	一、二九六	—
第卅二目	同江	六、七四一	五、三九三	一、三四八	—
第卅三目	樺川	六、八五三	五、三二七	一、五二四	—
第卅四目	富錦	七、五二三	四、四二六	三、一〇一	—
第卅五目	綏遠	七、〇四六	六、四四六	六〇〇	—

第卅六目　和龍	六、二五三	五、一二五	一、一二八	—
第卅七目　汪清	五、〇六六	三、八六六	一、二〇〇	—
第卅八目　饒河	七、八〇〇	六、五七六	一、二二四	—
第卅九目　穆稜	一二、三四四	一〇、八五六	一、四八八	—
第四十目　密山	八、一一九	六、五一一	一、六〇八	—
第四十一目　額穆	六、六二九	四、四八九	二、一四〇	—
第四十二目　德惠	二二、四五三	一九、二二九	三、二二四	—
第四十三目　哈爾濱木石稅費總分各局經費	三六、六九二	三六、六九二	—	—
第二項　各縣徵收田賦經費	九〇、七七六	九〇、七七六	—	—
第一目　吉林	九、二一七	九、二一七	—	—
第二目　濱江	七二九	七二九	—	—
第三目　延吉	二、〇四九	二、〇四九	—	—
第四目　琿春	七二八	七二八	—	—
第五目　依蘭	一、五〇五	一、五〇五	—	—
第六目　五常	三、九九〇	三、九九〇	—	—
第七目　扶餘	七、三九〇	七、三九〇	—	—
第八目　寧安	四、七九三	四、七九三	—	—
第九目　賓縣	五、六二五	五、六二五	—	—
第十目　楡樹	一〇、七一二	一〇、七一二	—	—

第十一目	阿城	二、九七三	二、九七三	—	—
第十二目	伊通	五、九五三	五、九五三	—	—
第十三目	雙城	八、二五〇	八、二五〇	—	—
第十四目	密山	五〇二	五〇二	—	—
第十五目	濛江	九七一	九七一	—	—
第十六目	樺川	一、八〇〇	一、八〇〇	—	—
第十七目	盤石	二、九六八	二、九六八	—	—
第十八目	舒蘭	三、〇四二	三、〇四二	—	—
第十九目	德惠	二一	二一	—	—
第二十目	雙陽	三、四八九	三、四八九	—	—
第廿一目	同賓	一、七九八	一、七九八	—	—
第廿二目	東寧	五三六	五三六	—	—
第廿三目	敦化	一、四一五	一、四一五	—	—
第廿四目	穆稜	一七五	一七五	—	—
第廿五目	額穆	一、二四一	一、二四一	—	—
第廿六目	蛟河	四四四	四四四	—	—
第廿七目	和龍	九一七	九一七	—	—
第廿八目	虎林	三五	三五	—	—
第廿九目	富錦	四、一五七	四、一五七	—	—

科目	九年度預算	八年度預算	比較 増	比較 減	備考
第三十目　樺川	二、一八七	二、一八七	—	—	
第卅一目　方正	一、一二九	一、一二九	—	—	
第卅二目　饒河	三五	三五	—	—	
第三款　補助費	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	—	—	
第一項　補助蒙旗行政經費	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	—	—	
第四款　擴充稅務費	四〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	—	
第一項　擴充稅務費	四〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	—	
財政部所管經常合計	八三〇、二三七	七三四、七二一	九五、五一六	—	

陸軍部所管

科目	九年度預算	八年度預算	比較 増	比較 減	備考
第一款　督軍公署及軍事各機關經費	元 四、八〇二、三五五	元 七、九四二、一七六	—	元 三、一三九、八二一	
第一項　督軍公署	二〇〇、〇〇〇	二一五、四〇〇	—	一五、四〇〇	
第二項　督軍公署衛隊統帶部及步騎各營	一八四、三八九	二四六、六八六	—	六二、二九七	
第三項　督軍公署軍樂連	一三、〇四四	一一、七二三	一、三二一	—	
第四項　督軍公署所屬機關鎗連	一四、四一三	—	一四、四一三	—	
第五項　陸軍憲兵營	三八、六六二	四〇、五八六	—	一、九二四	

第六項　軍械支廠	三四、六〇二	二四、七七〇	九、八三二	—
第七項　陸軍々醫院	二二、一五二	—	二二、一五二	—
第八項　陸軍監獄	一八、九二四	—	一八、九二四	—
第九項　第一混成旅及所屬各團營連	六〇七、八九一	八〇三、五三九	—	一九五、六四八
第十項　第二混成旅及所屬各團營連	六六七、七八九	一、〇六〇、九七四	—	三九三、一八五
第十一項　第三混成旅及所屬各團營連	六〇〇、六二四	一、〇七一、三八一	—	四七〇、七五七
第十二項　第四混成旅及所屬各團營連	五〇七、九九九	一、〇九〇、〇七一	—	五八二、〇七二
第十三項　第五混成旅及所屬各團營連	六〇七、三二一	九五六、四七四	—	三四九、一五三
第十四項　第六混成旅及所屬各團營連	五八二、五五一	—	五八二、五五一	—
第十五項　第七混成旅及所屬各團營連	六〇三、〇一〇	—	六〇三、〇一〇	—
第十六項　吉長鎮守使	二九、五二四	六、〇〇〇	二三、五二四	—
第十七項　濱江鎮守使	二九、五三四	六、〇〇〇	二三、五三四	—
第十八項　延吉鎮守使	一九、九五八	六、〇〇〇	一三、六五八	—
第十九項　依蘭鎮守使	一九、九五八	六、〇〇〇	一五、九五八	—
第二十項　陸軍第五師	八二、二七六	二、三九六、五七三	—	—
第二款　陸軍測量局經費	八二、二七六	八二、二七六	—	—
第一項　測量局	八二、二七六	八二、二七六	—	—
第三款　旗署各衙門及旗務總分各處經費	一五三、五七六	一五三、五七六	—	—
第一項　省城正黃旗	三、七九九	三、七九九	—	—

第二項　省城廂黄旗	三、七七〇	三、七七〇	―	―
第三項　省城正白旗	三、七五三	三、七五三	―	―
第四項　省城廂白旗	三、八三三	三、八三三	―	―
第五項　省城正紅旗	三、七一七	三、七一七	―	―
第七項　省城廂紅旗	三、七九〇	三、七九〇	―	―
第七項　省城正藍旗	三、八一六	三、八一六	―	―
第八項　省城廂藍旗	三、八一六	三、八一六	―	―
第九項　省城蒙太旗	四、六八七	四、六八七	―	―
第十項　省城烏搶營	六、八八九	六、八八九	―	―
第十一項　烏拉協領	七、七〇四	七、七〇四	―	―
第十二項　雙城協領	三、七九三	三、七九三	―	―
第十三項　五常協領	八二五	八二五	―	―
第十四項　甯古塔協領	一四、三四六	一四、三四六	―	―
第十五項　伯都納協領	一一、一〇六	一一、一〇六	―	―
第十六項　三姓協領	一六、四二六	一六、四二六	―	―
第十七項　阿勒楚喀協領	六、六六三	六、六六三	―	―
第十八項　琿吉協領	六、九七八	六、九七八	―	―
第十九項　拉林協領	五、七三〇	五、七三〇	―	―
第二十項　烏拉翼領	七七三	七七三	―	―

第廿一項	伊通佐領	二,三四八	二,三四八	—	—
第廿二項	額穆佐領	一,八〇三	一,八〇三	—	—
第廿三項	伊道邊門領催	一八八	一八八	—	—
第廿四項	赫爾蘇邊門領催	一八八	一八八	—	—
第廿五項	佈爾圖庫門領催	一八八	一八八	—	—
第廿六項	巴彥鄂佛羅立門領催	一八八	一八八	—	—
第廿七項	省城旗蒙科	一六,八〇〇	一六,八〇〇	—	—
第廿八項	烏拉旗務處	一,八六〇	一,八六〇	—	—
第廿九項	五常旗務處	一,三九二	一,三九二	—	—
第三十項	拉林旗務處	一,〇〇八	一,〇〇八	—	—
第卅一項	寧安縣附設旗務科	八四〇	八四〇	—	—
第卅二項	扶餘縣附設旗務科	八四〇	八四〇	—	—
第卅二項	依蘭縣附設旗務科	九〇〇	九〇〇	—	—
第卅四項	阿城縣附設旗務科	九〇〇	九〇〇	—	—
第卅五項	琿春縣附設旗務科	八四〇	八四〇	—	—
第卅六項	伊通縣附設旗務科	八四〇	八四〇	—	—
第卅七項	雙城縣附設旗務科	九六〇	九六〇	—	—
第卅八項	聯蒙招待費	五,二八〇	五,二八〇	—	—
第四款	廢勇恩餉	八六	八六	—	—

科目	九年度預算	八年度預算	比較 増	比較 減	備考
第一項 餉慶勇長勝保貴恩	八六	八六	—	—	
第五款 吉長道憲兵津帖	一、〇四〇	一、〇四〇	—	—	
第一項 吉長道憲兵津帖	一、〇四〇	一、〇四〇	—	—	
陸軍部所管經常合計	五、〇三九、三三三	八、一七九、一五四	—	三、一三九、八二一	

司法部所管

科目	九年度預算	八年度預算	比較 増	比較 減	備考
第一款 審檢廳經費	元 三三四、三一〇	元 三六〇、八八九	—	元 二六、五七九	
第一項 高等審判廳	四一、九六四	四一、九六二	—	—	
第二項 高等檢察廳	二三、六一八	二三、六一八	—	—	
第三項 吉林地方審判廳	三四、六三八	三四、九九七	—	三五九	
第四項 吉林地方檢察廳	二五、四八八	二五、六六七	—	一七九	
第五項 長春地方審判廳	二七、六八七	二七、三二四	三六二	—	
第六項 長春地方檢察廳	三一、四四〇	三一、二六〇	一八〇	—	
第七項 延吉地方審判廳	二三、五四六	二三、九〇六	—	三六〇	
第八項 延吉地方檢察廳	二五、四六二	二五、一〇二	三六〇	—	
第九項 延吉審判第一分庭	四、三六六	四、三六六	—	—	

第十項　延吉檢察第一分庭	四、五一〇	四、五一〇	—	—
第十一項　延吉地方審判廳	七、二五二	五、二三五	二、〇一七	—
第十二項　延吉地方檢察廳	六、九七六	五、六七〇	一、三〇六	—
第十三項　濱江地方審判檢察廳	四八、二七六	一〇、〇〇〇	三八、二七六	—
第十四項　農安地方審判廳	一五、七三二	二一、八七六	—	六、一四四
第十五項　農安地方檢察廳	一三、三五六	二六、七二〇	—	一三、四〇四
第十六項　雙城地方審判廳	—	二一、八七六	—	二一、八七六
第十七項　雙城地方檢察廳	—	二六、七六〇	—	二六、七六〇
第二款　監獄及監所經費	二一四、一九四	一七〇、一六四	四四、〇三〇	—
第一項　監　獄	一四〇、〇〇八	一〇五、五七八	二四、四三〇	—
第一目　吉林第一監獄	六一、三七〇	六一、三七〇	—	—
第二目　長春第二監獄	二九、四四八	五、一八四	二四、二六四	—
第三目　濱江第三監獄	三一、四四〇	三一、四四〇	—	—
第四目　延吉新監獄	一七、七五〇	七、五八四	一〇、一六六	—
第二項　監　所	七四、一八六	六四、五八六	九、六〇〇	—
第一目　賓　縣	五、八一四	五、三三四	四八〇	—
第二目　樺　樹	三、九二四	三、四四四	四八〇	—
第三目　農　安	三、九二四	三、四四四	四八〇	—
第四目　阿　濱	三、九二四	三、四四四	四八〇	—

第五目　雙城	三、九二四	三、四四四	四八〇	—
第六目　伊道	三、九二四	三、四四四	四八〇	—
第七目　扶餘	三、九二四	三、四四四	四八〇	—
第八目　盤石	三、一三二	二、六五二	四八〇	—
第九目　依蘭	三、一三二	二、六五二	四八〇	—
第十目　五常	三、一三二	二、六五二	四八〇	—
第十一目　寧安	三、一三二	二、六五二	四八〇	—
第十二目　同賓	三、一三二	二、六五二	四八〇	—
第十三目　長嶺	三、一三二	二、六五二	四八〇	—
第十四目　方正	三、一三二	二、六五二	四八〇	—
第十五目　雙陽	一、九〇六	一、四二六	四八〇	—
第十六目　舒蘭	一、九〇六	一、四二六	四八〇	—
第十七目　樺甸	一、九〇六	一、四二六	四八〇	—
第十八目　和龍	一、九〇六	一、四二六	四八〇	—
第十九目　汪清	一、九〇六	一、四二六	四八〇	—
第二十目　敦化	一、九〇六	一、四二六	四八〇	—
第廿一目　德惠	一、〇二〇	一、〇二〇	—	—
第廿二目　密山	九四三	九四三	—	—
第廿三目　東寧	九四三	九四三		—

科目	九年度預算	八年度預算	比較 增	比較 減	備考
第廿四目　穆稜	九四三	九四三	―	―	
第廿五目　富錦	九四三	九四三	―	―	
第廿六目　樺川	九四三	九四三	―	―	
第廿七目　濛江	九四三	九四三	―	―	
第廿八目　額穆	九四三	九四三	―	―	
第廿九目　同江	九四三	九四三	―	―	
第三十目　綏遠	四八四	四八四	―	―	
第卅一目　虎林	四八四	四八四	―	―	
第卅二目　饒河	四八四	四八四	―	―	
第卅三目　寶清	四八四	四八四	―	―	
第卅四目　和龍	四八四	四八四	―	―	
第卅五目　勃利	四八四	四八四	―	―	
第三款　承審員經費	二、八三二	二、八三二	―	―	
司法部所管經常門合計	五五一、三三六	五三三、八八五	一七、四五一	―	

教育部所管

科目	九年度預算	八年度預算	比較 增	比較 減	備考
第一款　廳署經費	三五、〇〇〇元	三五、〇〇〇元	―	―元	

科目	九年度預算	八年度預算	比較 增	比較 減	備考
第一項 教育廳	三五、〇〇〇	三五、〇〇〇	—	—	
第二款 補助費	三〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇元	—	
第一項 教育補助費	三〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	—	
教育部所管經常門合計	三三五、〇〇〇	二三五、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	—	

農商部所管

科目	九年度預算	八年度預算	比較 增	比較 減	備考
第一款 廳署經費	三九、〇〇〇元	三九、〇〇〇元	—	—	
第一項 實業廳	三九、〇〇〇	三九、〇〇〇	—	—	
第二款 東三省林務局經費	二〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	—	二〇、〇〇〇元	
第一項 東三省林務局	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	—	—	
第三款 實業經費	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	—	—	
第二項 吉林省立工藝廠	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	—	—	
農商部所管經常門合計	五四、〇〇〇	七四、〇〇〇	—	二〇、〇〇〇	

交通部所管

科目	九年度預算	八年度預算	比較 增	比較 減	備考

科目	九年度預算	八年度預算	比較 增	比較 減	備考
第一款 東省鐵路公司督辦公所經費	九〇,〇〇〇元	九〇,〇〇〇元	—	—	
第一項 東省鐵路公司督辦公所經費	九〇,〇〇〇	九〇,〇〇〇	—	—	
交通部所管經常門合計	九〇,〇〇〇	九〇,〇〇〇	—	—	

歲出臨時門

內務部所管

科目	九年度預算	八年度預算	比較 增	比較 減	備考
第一款 卹金	一六,〇〇〇元	一六,〇〇〇元	—	—	
第一項 警察官吏卹金	一六,〇〇〇	一六,〇〇〇	—	—	
第二款 延吉道公署歲修費	—	八〇〇	—	八〇〇元	
第一項 延吉道公署歲修費	—	八〇〇	—	八〇〇	
內務部所管臨時門合計	一六,〇〇〇	一六,八〇〇	—	八〇〇	

陸軍部所管

科目	九年度預算	八年度預算	比較 增	比較 減	備考
第一款 督軍公署陸軍各旅並軍事機關雜費	六六七,二〇〇元	—	六六七,二〇〇元	—	

項目				
第一項　醫藥費	一八、〇〇〇	—	一八、〇〇〇	—
第二項　郵電費	八七、〇〇〇	—	八七、〇〇〇	—
第三項　工程費	七二、〇〇〇	—	七二、〇〇〇	—
第四項　騾馬倒補費	五一、〇〇〇	—	五一、〇〇〇	—
第五項　房租店費	二八、八〇〇	—	二八、八〇〇	—
第六項　軍隊調防費	三六、〇〇〇	—	三六、〇〇〇	—
第七項　勦匪費	四八、〇〇〇	—	四八、〇〇〇	—
第八項　出差旅費	九二、四〇〇	—	九二、四〇〇	—
第九項　輸送費	四八、〇〇〇	—	四八、〇〇〇	—
第十項　郵金獎賞	一二、〇〇〇	—	一二、〇〇〇	—
第十一項　紀念賞稿	一〇、二〇〇	—	一〇、二〇〇	—
第十二項　故兵燒埋費	九、〇〇〇	—	九、〇〇〇	—
第十三項　偵探調查費	四八、〇〇〇	—	四八、〇〇〇	—
第十四項　治邊津貼	一二、〇〇〇	—	一二、〇〇〇	—
第十五項　逃禁口糧	八、四〇〇	—	八、四〇〇	—
第十六項　購置費	一二、〇〇〇	—	一二、〇〇〇	—
第十七項　修繕費	一二、〇〇〇	—	一二、〇〇〇	—
第十八項　交際費	一八、〇〇〇	—	一八、〇〇〇	—
第十九項　特別費	二四、〇〇〇	—	二四、〇〇〇	—

科目				
第二十項　田日本顧問薪水	二〇、四〇〇	—	二〇、四〇〇	—
第二款　第十九旅臨時站支雜費	三〇、五六四	—	三〇、五六四	—
第一項　房租費	五、〇四〇	—	五、〇四〇	—
第二項　旅費	七、八〇〇	—	七、八〇〇	—
第三項　紀念費稿	一、二〇〇	—	一、二〇〇	—
第四項　故兵燒埋	二、四〇〇	—	二、四〇〇	—
第五項　騾馬倒補費	一二、三二四	—	一二、三二四	—
第六項　雜費	一、八〇〇	—	一、八〇〇	—
第三款　陸軍衣履費	一、一二三、〇七四	—	一、一二三、〇七四	—
第一項　督軍公署衛隊	一〇一、九三〇	—	一〇一、九三〇	—
第二項　督軍公署軍樂隊	一〇、七一七	—	一〇、七一七	—
第三項　督軍公署機關槍連	三、三〇〇	—	三、三〇〇	—
第四項　憲兵營	一〇、三一二	—	一〇、三一二	—
第五項　第一旅	一四八、一五一	—	一四八、一五一	—
第六項　第二旅	一六三、四六九	—	一六三、四六九	—
第七項　第三旅	一四四、〇三八	—	一四四、〇三八	—
第八項　第四旅	一二九、四一二	—	一二九、四一二	—
第九項　第五旅	一三六、七四五	—	一三二、七四五	—
第十項　第六旅	一三一、九六七	—	一三一、九六七	—

科目	九年度預算	八年度預算	比較增	比較減
第十一項　第十九旅	一三九、一二三	—	一三九、一二三	—
第十二項　吉長鎭守使	一、二七五	—	一、二七五	—
第十三項　濱江鎭守使	一、二七五	—	一、二七五	—
第十四項　延吉鎭守使	六七九	—	六七九	—
第十五項　依蘭鎭守使	六七九	—	六七九	—
第四款　陸軍官佐郵金	—	一〇、〇〇〇	—	一〇、〇〇〇
第五款　各機關繼續費	—	二、〇一五、五六五	—	二、〇一六、五六五
第六款　各檢查所經費	八六四	九、二五二	—	八、三八八
第一項　琿春檢查所	八六四	八六四	—	—
第二項　省城檢查所	—	三、六六〇	—	三、六六〇
第三項　長春檢查所	—	二、五二〇	—	二、五二〇
第四項　廸吉檢查員津帖	—	一、一二八	—	一、一二八
第五項　濱江檢查員津帖	—	一、〇八〇	—	一、〇八〇
陸軍部所管臨時門合計	一、八二一、七〇二	二、〇三五、八一七	—	二一四、一一五

司法部所管

科目	九年度預算	八年度預算	比較增	比較減	備考
第一款　農安地方審檢廳經費	五、〇〇〇元	三六、〇〇〇元	—	三一、〇五〇元	

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一項 建築費	三、〇〇〇	三〇、七〇〇	—	二七、七〇〇	
第二項 開辦費	二、〇〇〇	五、三〇〇	—	三、三〇〇	
第二款 雙城地方審查廳經費	—	三六、〇〇〇	—	三六、〇〇〇	
第一項 建築費	—	三〇、七〇〇	—	三〇、七〇〇	
第二項 開辦費	—	五、三〇〇	—	五、三〇〇	
第三款 延吉新監獄經費	四六、〇〇〇	四六、〇〇〇	—	—	
第一項 建築費	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	—	—	
第二項 開辦費	二、〇〇〇	六、〇〇〇	—	—	
第三項 工場資本	四、〇〇〇	四、〇〇〇	—	—	
司法部所管臨時門合計	五一、〇〇〇	一一八、〇〇〇	—	六七、〇〇〇	

中華民國十年度國家歲入歲出預算總表

歲入經常門

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 增	比較 減	備考
田賦	元 二、〇三〇、三七三	元 一、九五〇、一三五	元 八〇、二三八	元 —	
貨物稅	三、〇四一、八八〇	三、〇四一、八八〇	—	—	
正雜各稅	三、二〇九、三一八	三、二〇九、三一八	—	—	

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 増	比較 減	備考
正雜各捐	二、四五六	二、四五六	四、三九二	—	
雜收入	三七六、一六五	三七一、七七三	—	—	
中央協濟軍費	四七五、〇〇〇	九九三、三六八	—	五一八、三六八	
歳入經常合計	九、一三五、一九二	九、五六八、九三〇	—	四三三、七三八	

歳入臨時門

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 増	比較 減	備考
官業收入	二三〇、〇〇〇元	—元	二三〇、〇〇〇元	—元	
歳入臨時合計	二三〇、〇〇〇	—	二三〇、〇〇〇	—	
歳入經常	九、三五五、一九二	九、五六八、九三〇	—	二一三、七三八	

歳出經常門

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 増	比較 減	備考
外交部所管	九二、四〇六元	一三五、五〇六元	—	四三、一〇〇元	
內務部所管	一、三二九、七二二	一、六一九、四八六	—	二八九、七六四	
財政部所管	八二四、二三八	八五〇、二三七	—	二五、九九九	

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 增	比較 減	備考
陸軍部所管	六、四四八、一五四	六、四〇一、一〇一	四七、〇五三	—	
司法部所管	六八四、二二八	五五一、三三六	—	六七、一一	
教育部所管	二二八、〇〇〇	三三五、〇〇〇	—	一〇七、〇〇〇	
農商部所管	七七、四〇〇	五四、〇〇〇	二三、四〇〇	—	
交通部所管	—	九〇、〇〇〇	—	九〇、〇〇〇	
歲出經常合計	九、四八四、一三八	一〇、〇三六、六六六	—	五五二、五二八	

歲出臨時門

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 增	比較 減	備考
	元	元	元	元	
內務部所管	一六、〇〇〇	一六、〇〇〇	—	—	
財政部所管	一八四、八一〇	—	一八四、八一〇	—	
陸軍部所管	六五一、五八〇	六九八、六二八	—	四七、四八〇	
司法部所管	—	五一、〇〇〇	—	五一、〇〇〇	
歲出臨時合計	八五二、三九〇	七六五、六二八	八六、七六二	—	
歲出經常臨時總計	一〇、三三六、五二八	一〇、八〇二、二九四	—	四六五、七六六	

說明

以上共收入九百三十五萬五千一百九十二元支出共一千〇三十三萬六千五百二十八元收支相抵計不敷九十八萬一千三百三十六元

中華民國十年度國家歲入預算書

歲入經常門

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較		備考
			增	減	
	元	元	元		
第一款 田賦	二、〇三〇、三七三	一、九五〇、一三五	八〇、二三八	—	按十年度額征民旗地三百七十九萬一千一百七十六垧一畝五分九厘毎垧征銀五角應征銀一百八十九萬五千五百八十八元〇七分九厘又長農德嶺四縣蒙租地七十九萬二千八百五十一垧一畝八分毎垧征銀五角除照章撥給蒙旗二角五分及征收費八分外計毎垧征銀一角七分應征銀十三萬四千七百八十四元七角共計應征銀二百〇三萬〇三百七十二元七角七分九厘
第一項 地租	二、〇三〇、三七三	一、九五〇、一三五	—	—	
第二款 貨物稅	三、〇四一、八八〇	三、〇四一、八八〇	—	—	
第一項 產地稅	九六一、五九二	九六一、五九二	—	—	
第二項 銷場稅	二、〇八〇、二八八	二、〇八〇、二八八	—	—	
第三款 正雜各稅	三、二〇九、三一八	三、二〇九、三一八	—	—	
第一項 契程	五八四、六六二	五八四、六六二	—	—	
第二項 牙稅	二四一、八〇〇	二四一、八〇〇	—	—	
第一目 牙稅	二四〇、〇〇〇	二四〇、〇〇〇	—	—	
第二目 牙帖稅	一、八〇〇	一、八〇〇	—	—	
第三項 當稅	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	—	—	
第一目 當稅	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	—	—	
第二目 當帖稅	四、〇〇〇	四、〇〇〇	—	—	
第四項 菸稅	一四三、五四八	一四三、五四八	—	—	

第五項　酒　　税	五四五、八〇二	五四五、八〇二	―	―
第六項　燒鍋課	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	―	―
第七項　斗　　税	八九一、五五四	八九一、五五四	―	―
第八項　木　　税	五三一、六五九	五三一、六五九	―	―
第九項　山分税	一〇六、二九三	一〇六、二九三	―	―
第四款　正雜各捐	二、四五六	二、四五六	―	―
第一項　硝滷捐	二、四五六	二、四五六	―	―
第五款　雜　收　入	三七六、一六五	三七一、七七三	四、三九二	―
第一項　官款生息	二三、七六五	六四、三七三	―	四〇、六〇八
第一目　八萬兩生息	一三、三三三	一三、三三三	―	―
第二目　城工生息	三、五〇一	三、五〇八	―	―
第三目　礮臺生息	七七九	七七九	―	―
第四目　課吏局生息	八三三	八三三	―	―
第五目　看押處生息	五〇〇	五〇〇	―	―
第六目　車價生息	九六七	九六七	―	―
第七目　衙署年賞生息	一、三三三	一、三三三	―	―
第八目　各司津帖生息	一、六六七	一、六六七	―	―
第九目　都察院經費生息	一七七	一七七	―	―
第十目　無差人員生息	五、三三三	五、三三三	―	―

第十一目	祠廟經費生息	一三三	一三三	—	—
第十二目	公款生息	六六七	六六七	—	—
第十三目	公署津帖生息	一六七	一六七	—	—
第十四目	津帖廉俸生息	五、〇〇〇	五、〇〇〇	—	—
第十五目	木植生息	二、九五三	二、九五三	—	—
第十六目	審判廳經費生息	一三四	一三四	—	—
第十七目	各司處膏火生息	一、二〇〇	一、二〇〇	—	—
第十八目	各司旗營津帖生息	四八〇	四八〇	—	—
第十九目	祭祀生息	三六〇	三六〇	—	—
第二十目	赴引川資生息	四八〇	四八〇	—	—
第廿一目	教津館生息	一七	一七	—	—
第廿六目	津帖教佐生息	五七六	五七六	—	—
第廿三目	司庫員津帖生息	七六八	七六八	—	—
第廿四目	津帖候補人員生息	三六〇	三六〇	—	—
第廿五目	餉捐局膏大生息	三六	三六	—	—
第廿六目	窮民州資生息	四八〇	四八〇	—	—
第廿七目	整厘捐工食生息	三〇〇	三〇〇	—	—
第廿八目	發商生息	三、三六七	三、三六七	—	—
第廿九目	軍機處生息	三五七	三五七	—	—

第三十目　旗務承辦處津帖生息	七、〇〇〇	七、〇〇〇	—	—
第卅一目　前副署左右同生息	二六六	二六六	—	—
第卅二目　前副署房價生息	三六	三六	—	—
第卅三目　前副署膏伙生息	一三八	一三八	—	—
第卅四目　俄文學堂經費生息	一、四〇〇	一、四〇〇	—	—
第卅五目　講約經費生息	五〇〇	五九九	—	—
第卅六目　學堂經費生息	三、二二二	三、二二二	—	—
第卅七目　大學堂經費生息	三、七三三	三、七三三	—	—
第卅八目　俄文義學生息	八九	八九	—	—
第卅九目　高學堂生息	一六七	一六七	—	—
第四十目　學款生息	三〇〇	三〇〇	—	—
第四十一目　華俄學堂生息	二九	二九	—	—
第四十二目　禮生津帖生息	八三	八三	—	—
第四十三目　義學生息	六七二	六七二	—	—
第四十四目　招墾局生息	四八〇	四八〇	—	—
第二項　票照費	三二〇、〇〇〇	二七五、〇〇〇	四五、〇〇〇	—
第三項　契紙價	三二、四〇〇	三二、四〇〇	—	—
第六款　中央協濟軍費	四七五、〇〇〇	九九三、三六八	—	五一八、三六八
第一項　部協第五旅經費	四七五、〇〇〇	四七八、二三七	—	三、二三七

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 増	比較 減	備考
第二項中央協濟第十九旅經費	—	五一五、一三二	—	五一五、一三二	
歳入經常門合計	九、一三五、一九八	九、五六八、九三〇	—	四三三、七三八	

歳入臨時門

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 増	比較 減	備考
第一款官業收入	二三〇、〇〇〇元	—	二三〇、〇〇〇元	—	
第一項　權運局應分餘利	一五〇、〇〇〇	—	一五〇、〇〇〇	—	
第二項　硝磺餘利	七〇、〇〇〇	—	七〇、〇〇〇	—	
歳入臨時合計	二三〇、〇〇〇	—	二三〇、〇〇〇	—	
歳入經常臨時合計	九、三五五、一九二	九、五六八、九三〇	—	二一三、七三八	

歳出經常門

外交部所管

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 増	比較 減	備考
第一款　各交渉署經費	七二、三六六元	七二、三六六元	—	—	

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一項 吉林交涉署	三七、一七〇	三七、一七〇	—	—	
第二項 長春交涉署	一七、四七二	一七、四七二	—	—	
第三項 哈爾濱交涉署	六、八五二	六、八五二	—	—	哈爾濱交涉署全年經費八萬一千八百五十二元向由東省鐵道公司津貼折補七萬五千元不列預算外計由國庫年支六千八百五十元
第四項 延吉交涉署	七、二七二	七、二七二	—	—	
第五項 依蘭交涉署	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	—	—	
第二款 各縣外交經費	八四〇	五七、一四〇	—	五六、三〇〇	此項外交費祇有虎林一縣年支四十元其餘各縣並未開支故本年度預算僅列八百四十元計減去五萬六千三百元
第三款 哈爾濱鐵路交涉局顧問薪水	六、〇〇〇	六、〇〇〇	—	—	
第四款 哈爾濱交涉署接俄領事職務經費	一二、〇〇〇	—	一二、〇〇〇	—	
第一項 同前	一二、〇〇〇	—	一二、〇〇〇	—	此項增加經費已經報部有案
第五款 琿春邊情調查員薪公費	一、二〇〇	—	一、二〇〇	—	
第一項 同前	一、二〇〇	—	一、二〇〇	—	此項因琿春地接俄境現當俄人多故已派諳熟俄語人員常川往來俄境偵探邊情月支薪公等費大洋一百元年支一千二百元
外交部所管經常合計	九二、四〇六	一三九、五〇六	—	四、三一〇	

內務部所管

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款 各公署經費	六五六、四七四元	六五〇、四七四元	六、〇〇〇元	—	
第一項 省長公署經費	一四八、〇〇〇	一四八、〇〇〇	—	—	

第二項　各道尹公署經費	一一四、四〇〇	一〇八、四〇〇	六、〇〇〇	—	
第一目　吉長道尹	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	—	—	
第二目　濱江道尹	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	—	—	
第三目　依蘭道尹	二五、〇〇〇	二五、二〇〇	—	—	
第四目　延吉道尹	三一、二〇〇	二五、二〇〇	六、〇〇〇	—	（此項因取締韓亂道署原有經費不敷應用呈奉省公署令准增加辦公費年支六千元）
第三項　各縣公署經費	三九四、〇七四	三九四、〇七四	—	—	
第一目　吉林	一二、六二四	一二、六二四	—	—	
第二目　長春	一二、六二四	一二、六二四	—	—	
第三目　濱江	一二、六二四	一二、六二四	—	—	
第四目　延吉	一二、六二四	一二、六二四	—	—	
第五目　琿春	一二、六二四	一二、六二四	—	—	
第六目　依蘭	一二、六二四	一二、六二四	—	—	
第七目　五常	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—	
第八目　扶餘	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—	
第九目　寧安	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—	
第十目　賓縣	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—	
第十一目　楡樹	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—	
第十二目　阿城	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—	
第十三目　伊通	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—	

第十四目	雙城	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—
第十五目	農安	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—
第十六目	同江	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第十七目	密山	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第十八目	濛江	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第十九目	長嶺	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第二十目	樺甸	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第廿一目	磐石	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第廿二目	舒蘭	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第廿三目	徳惠	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第廿四目	双陽	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第廿五目	同賓	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第廿六目	東寧	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第廿七目	敦化	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第廿八目	穆稜	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第廿九目	額穆	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第三十目	汪清	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第卅一目	和龍	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第卅二目	虎林	九、二七〇	九、二七〇	—	—

第卅三目 富錦	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第卅四目 樺川	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第卅五目 方正	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第卅六目 綏遠	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第卅七目 饒河	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第卅八目 寶清	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第卅九目 勃利	九、二七〇	九、二七〇	—	—	
第二款 警察經費	三五八、四一八	五五二、一一二	—	一九三、七〇〇	
第一項 吉林警務處	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	—	—	
第二項 省會警察廳	二六〇、八三六	二六〇、八三六	—	—	
第三項 哈爾濱警察局	—	一八三、六四六	—	一八三、六四六	
第四項 琿春商埠警察	二、五〇二	二、五〇二	—	—	
第五項 哈爾濱警察局護路警察隊	—	七六、一二八	—	七六、一二八	
第六項 延吉警察游巡隊	六六、〇七四	—	六六、〇七四	—	一此項係因延吉一帶韓亂喫緊駐防軍隊不敷分佈奉省公署令飭招募警察游巡隊一營常川駐守以資防禦年支經費如上數
第三款 護墾隊經費	一二、三九二	一二、三九二	—	—	
第一項 虎林	五、一六七	五、一六七	—	—	
第二項 密山	七、二二五	七、二二五	—	—	
第四款 游巡隊經費	四四、三九八	四四、三九八	—	—	
第一項 各縣游巡隊經費	四四、三九八	四四、三九八	—	—	

第一目	同江	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第二目	密山	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第三目	穆稜	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第四目	額穆	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第五目	和龍	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第六目	德惠	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第七目	汪清	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第八目	虎林	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第九目	綏遠	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第十目	富錦	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第十一目	濛江	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第十二目	饒河	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第十三目	勃利	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第十四目	寶清	三、六一六	三、六一二	—	—
第十五目	東寧	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—
第十六目	琿春	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—
第十七目	長嶺	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—
第十八目	敦化	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—
第十九目	方正	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—

第二十目　樺川	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—	
第廿一目　雙陽	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—	
第廿二目　樺甸	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—	
第廿三目　同賓	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—	
第廿四目　延吉	一、二八二	一、二八二	—	—	
第五款　商埠經費	八二、八三二	八二、八三二	—	—	
第一項　省城	一五、三九二	一五、三九二	—	—	
第二項　延吉	六四、六〇八	六四、六〇八	—	—	
第三項　琿春	二、八三二	二、八三二	—	—	
第六款　典禮費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—	
第一項　祭祀費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—	
第七款　吉林省警察所傳習所經費	二九、五一四	二九、五一四	—	—	
第八款　吉林政治討論會經費	二四、〇〇〇	—	—	二四、〇〇〇	
第九款　警備隊經費	一三四、四八四	—	—	一三四、四八四	
第十款　補助延琿和江擴充警察費	七四、四〇〇	七四、四〇〇	—	—	
第十一款　分發吉林學習員津帖	三、三〇〇	二、八八〇	四二〇	—	分發學習員原係六人部定每人月支四十元年共支二千八百八十元嗣又分發到省一人部定月支三十五元年支四百二十元故增數如上
第十二款　禁煙經費	—	一〇、〇〇〇	—	一〇、〇〇〇	
第十三款　吉林清鄉局經費	六〇、〇〇〇	—	六〇、〇〇〇	—	本省仿照奉天設立清鄉局全年擬支經費六萬元
第十四款　省公署調査費	三、六〇〇	—	三、六〇〇	—	

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第十五款 長濛鐵路軍警招待所經費	二,四〇〇	—	二,四〇〇	—	此項因長春地當要衝軍警之往來甚爲頻繁多不預先知照對外無從通告動有引起交涉之虞並匪徒冒充軍警時有所聞如無調查機關實屬無從稽考現於該處設招待所一處由國庫年支經費二千四百元奉省公署令照准有案故列入預算以便支付
內務部所管經常合計	一,三二九,七二二	一,六一九,四八六	—	二八九,七六四	

財政部所管

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 增	比較 減	備考
	元	元	元		
第一款 財政廳經費	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	—	—	
第一項 廳署經費	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	—	—	
第二款 徵收經費	六四四,二三八	六四〇,二三七	四,〇〇一	—	
第一項 各徵收局經費	五四九,四六一	五四九,四六一	—	—	
第一目 省城	一八,二九二	一八,二九二	—	—	
第二目 長春	八一五	八一五	—	—	
第三目 雙城	二〇,七三五	二〇,七三五	—	—	
第四目 榆樹	一六,六六六	一六,六六六	—	—	
第五目 阿城	一五,五九一	一五,五九一	—	—	
第六目 扶餘	一九,一四九	一九,一四九	—	—	
第七目 賓縣	一五,九〇五	一五,九〇五	—	—	
第八目 濱江	二一,五七〇	二一,五七〇	—	—	

第九目　農安	一三、六四九	一三、六四九	—	—
第十目　伊通	一七、三六二	一七、三六二	—	—
第十一目　五常	一八、三九〇	一八、三九〇	—	—
第十二目　磐石	一四、〇一一	一四、〇一一	—	—
第十三目　依蘭	八、七〇六	八、七〇六	—	—
第十四目　寧安	一七、〇〇三	一七、〇〇三	—	—
第十五目　舒蘭	一四、六八一	一四、六八一	—	—
第十六目　雙陽	一二、五五七	一二、五五七	—	—
第十七目　延吉	一〇、三七〇	一〇、三七〇	—	—
第十八目　省城本税局	一〇、八七二	一〇、八七二	—	—
第十九目　敦化	六、八〇四	六、八〇四	—	—
第二十目　樺皮廠	一三、七二〇	一三、七二〇	—	—
第廿一目　樺甸	七、八六五	七、八六五	—	—
第廿二目　烏拉	八、六四七	八、六四七	—	—
第廿三目　呢嗎口	六、三〇四	六、三〇四	—	—
第廿四目　東寧	一一、五六二	一一、五六二	—	—
第廿五目　缸窰	六、〇八九	六、〇八九	—	—
第廿六目　蚊河	七、〇二六	七、〇二六	—	—
第廿七目　同賓	一九、二九〇	一九、二九〇	—	—

第廿八目　濛江	六、九六五	六、九六五	—	—	
第廿九目　琿春	一〇、七八九	一〇、七八九	—	—	
第三十目　長嶺	五、四九四	五、四九四	—	—	
第卅一目　方正	八、七六六	一〇、〇六二	—	一、二九六	
第卅二目　同江	六、七四一	—	—	—	
第卅三目　樺川	六、八五三	六、八五三	—	—	
第卅四目　富錦	七、五二三	七、五二三	—	—	
第卅五目　綏遠	七、〇四六	七、〇四六	—	—	
第卅六目　和龍	六、二五三	六、二五三	—	—	
第卅七目　汪清	五、〇六六	五、〇六六	—	—	
第卅八目　饒河	七、八〇〇	七、八〇〇	—	—	
第卅九目　穆稜	一二、三四四	一二、三四四	—	—	
第四十目　密山	八、一一九	八、一一九	—	—	
第四十一目　額穆	六、六二九	六、六二九	—	—	
第四十二目　德惠	二二、四五三	二二、四五三	—	—	
第四十三目　哈爾濱木石稅費總分各局	三六、六九二	三六、六九二	—	—	
第二項　各縣徵收田賦經費	九四、七七七	九〇、七七六	四、〇〇一	—	按本項係民旗地征收費照收入數留支百分之五
第一目　吉林	九、七七五	九、二一七	五五八	—	
第二目　濱江	九八六	七二九	二五七	—	

第三目　延吉	二、五七六	二、〇四九	五二七	―
第四目　琿春	一、二七二	七二八	五四四	―
第五目　依蘭	一、一七〇	一、五〇五	―	三三五
第六目　五常	三、九八二	三、九九〇	―	八
第七目　扶餘	七、三九〇	七、三九〇	―	―
第八目　寧安	三、三五五	四、七九三	―	一、四三八
第九目　賓縣	五、九七八	五、六二五	三四七	―
第十目　楡樹	一〇、九一二	一〇、七一二	二〇〇	―
第十一目　阿城	四、五七四	二、九七三	一、六〇一	―
第十二目　伊通	六、五〇五	五、九五三	五五二	―
第十三目　雙城	一〇、六八七	八、二五〇	二、四三七	―
第十四目　密山	五〇二	五〇二	―	―
第十五目　濛江	一、一五六	九七一	一八五	―
第十六目　樺甸	一、九〇一	一、八〇〇	一〇一	―
第十七目　磐石	三、〇〇七	二、九六八	三九	―
第十八目　舒蘭	三、二七八	三、〇四二	二三六	―
第十九目　德惠	―	二	―	二
第二十目　雙陽	三、六七三	三、四八九	一八四	―
第廿一目　同賓	二、二一五	一、七九八	四一七	―

第廿二目　東寧	五六四	五三六	二八	—	
第廿三目　敦化	一、四四七	一、四一五	三二	—	
第廿四目　穆稜	一九一	一七五	一六	—	
第廿五目　額穆	一、二五八	一、二四一	一七	—	
第廿六目　汪清	七二九	四四四	二八五	—	
第廿七目　和龍	一、一〇二	九一七	一八五	—	
第廿八目　虎林	三五	三五	—	—	
第廿九目　富錦	九二二	四、一五七	—	三、二三五	
第三十目　樺川	—	二、一八七	—	—	
第卅一目　方正	一、四一九	一、一二九	二九〇	—	
第卅二目　饒河	三五	三五	—	—	
第三款　補助費	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	—	—	
第一項　補助蒙旗行政經費	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	—	—	按本款係照蒙旗應分長春農安德惠長嶺四縣稅款估計填列
第四款　擴充稅務費	三〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	—	—	
第一項　擴充稅務費	三〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	—	三〇、〇〇〇	
財政部所管經常合計	八二四、二三八	八五〇、二三七	—	二五、九九九	

陸軍部所管

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較		備考
			增	減	
第一款　督軍公署及軍事各機關經費	六、二二一、一七六元	六、一六四、一二三元	四七、〇五三元	―元	
第一項　督軍公署	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	―	―	
第二項　督軍公署衛隊	一六九、九七五	一八四、三八九	―	一四、四一四	
第三項　督軍公署軍樂第一連	六、五二二	六、五二二	―	―	
第四項　督軍公署軍樂第二連	六、五二二	六、五二二	―	―	
第五項　督軍公署所屬機關鎗第一連	一四、四一三	一四、四一三	―	―	
第六項　督軍公署所屬機關鎗第二連	一四、四一三	―	一四、四一三	―	
第七項　陸軍憲兵營	三八、六六二	三八、六六二	―	―	
第八項　軍機支廠	三四、六〇二	三四、六〇二	―	―	
第九項　陸軍々醫院	二二、一五二	二二、一五二	―	―	
第十項　陸軍監獄	一八、九二四	一八、九二四	―	―	
第十一項　第一混成旅	五七七、五四一	六〇七、八九一	―	三〇、三五〇	
第十二項　第二混成旅	七二〇、六八〇	六九四、九〇五	二五、七七五	―	
第十三項　第三混成旅	六九八、七二四	六九九、三八六	―	六六二	
第十四項　第四混成旅	五二二、三〇四	五〇七、九九九	一四、三〇五	―	
第十五項　第五混成旅	三八五、〇六〇	六七一、五八九	一三、四七一	―	
第十六項　第六混成旅	五九六、三七四	五八二、五五一	一三、八二三	―	

第十七項　第十九混成旅	六〇三、〇一〇	六〇三、〇一〇	—	—	
第十八項　吉長鎮守使	二九、五三四	二九、五三四	—	—	
第十九項　濱江鎮守使	二九、五三四	二九、五三四	—	—	
第二十項　延吉鎮守使	一九、九五八	一九、九五八	—	—	
第廿一項　依蘭鎮守使	一九、九五八	一九、九五八	—	—	
第廿二項　陸軍服裝費	一、一八二、三一四	一、一七一、六六二	一〇、六九二	—	此項服裝費卽係依履費九年度預算列入陸軍部所管歲出臨時門內本年度改為經常並將九年度預算數亦移入此欄俾資比較
第二款　陸軍測量局經費	八二、二七六	八二、二七六	—	—	
第一項　測量局	八二、二七六	八二、二七六	—	—	
第三款　旗署各衙門及檢務總分各處經費	一五三、五七六	一五三、五七六	—	—	
第一項　省城正黃旗	三、七九九	三、七七九	—	—	
第二項　省城廂黃旗	三、七七〇	三、七七〇	—	—	
第三項　省城正白旗	三、七五三	三、七五三	—	—	
第四項　省城廂白旗	三、八三三	三、八三三	—	—	
第五項　省城正紅旗	三、七一七	三、七一七	—	—	
第六項　省城廂紅旗	三、七九〇	三、七九〇	—	—	
第七項　省城正藍旗	三、八一六	三、八一六	—	—	
第八項　省城廂藍旗	三、八一六	三、八一六	—	—	
第九項　省城蒙古旗	四、六八七	四、六八七	—	—	
第十項　省城馬槍營	六、八八九	六、八八九	—	—	

第十一項　烏拉協領	七、七〇四	七、七〇四	—	—
第十二項　雙城協領	三、七九三	三、七九三	—	—
第十三項　五常協領	八二五	八二五	—	—
第十四項　寗古塔協領	一四、三四五	一四、三四五	—	—
第十五項　伯都納協領	二、一〇六	一一、一〇六	—	—
第十六項　三姓協領	一六、四二六	一六、四二六	—	—
第十七項　阿勒楚喀協領	六、六六三	六、六六三	—	—
第十八項　琿春協領	六、九七八	六、九七八	—	—
第十九項　拉林協領	五、七三〇	五、七三七	—	—
第二十項　烏拉翼領	七七三	七七三	—	—
第廿一項　伊通佐領	二、三四八	二、三四八	—	—
第廿二項　額穆佐領	一、八〇三	一、八〇三	—	—
第廿三項　伊通邊門領催	一八八	一八八	—	—
第廿四項　赫爾蘇邊門領催	一八八	一八八	—	—
第廿五項　佈爾圖庫邊門領催	一八八	一八八	—	—
第廿六項　巴彥鄂佛羅邊門領催	一八八	一八八	—	—
第廿七項　省城旗蒙科	一六、八〇〇	一六、八〇〇	—	—
第廿八項　烏拉旗務處	一、八六〇	一、八六〇	—	—
第廿九項　五常旗務處	一、三九二	一、三九二	—	—

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第三十項　拉林旗務處	一、〇〇八	一、〇〇八	—	—	
第卅一項　甯安縣附設旗務科	八四〇	八四〇	—	—	
第卅二項　扶餘縣附設旗務科	八四〇	八四〇	—	—	
第卅三項　依蘭縣附設旗務科	九〇〇	九〇〇	—	—	
第卅四項　阿城縣附設旗務科	九〇〇	九〇〇	—	—	
第卅五項　琿春縣附設旗務科	八四〇	八四〇	—	—	
第卅六項　伊通縣附設旗務科	八四〇	八四〇	—	—	
第卅七項　雙城縣附設旗務科	九六〇	九六〇	—	—	
第卅八項　聯蒙招待費	五、二八〇	五、二八〇	—	—	
第四款　慶勇思餉	八六	八六	—	—	
第一項　慶勇長勝徐貴思餉	八六	八六	—	—	
第五款　吉長道憲兵營津貼	一、〇四〇	一、〇四〇	—	—	
第一項　吉長道憲兵營津貼	一、〇四〇	一、〇四〇	—	—	
陸軍部所管經常合計	六、四四八、一五四	六、四〇一、一〇一	四七、〇五三	—	

司法部所管

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款　審檢廳經費	三〇五、二二二元	三三四、三一〇元	—	二九、〇八八元	

第一項　高等審判廳	四一、九六二	四一、九六四	—	二
第二項　高等檢察廳	二三、六一八	二三、六一八	—	—
第三項　吉林地方審判廳	三二、九九九	三四、六三八	三六一	—
第四項　吉林地方檢察廳	二五、四八八	二五、四八八	—	—
第五項　長春地方審判廳	二七、三二四	二七、六八六	—	三六二
第六項　長春地方檢察廳	三一、四四〇	三一、四四〇	—	—
第七項　延吉地方審判廳	二三、五四七	二三、五四六	一	—
第八項　延吉地方檢察廳	二五、四六二	二五、四六二	—	—
第九項　延吉審判第一分庭	四、三六六	四、三六六	—	—
第十項　延吉檢察第一分庭	四、五一〇	四、五一〇	—	—
第十二項　延吉地方審判廳	七、二五二	七、二五二	—	—
第十二項　延吉地方檢察廳	六、九七八	六、九七六	二	—
第十三項　濱江地方審判廳	二一、八七六	二一、八七六	—	—
第十四項　濱江地方檢察廳	二六、四〇〇	二六、四〇〇	—	—
第十五項　農安地方審判廳	—	一五、七三二	—	一五、七三二
第十六項　農安地方檢察廳	—	一三、三五六	—	一三、三五六
第二款　監獄及監所經費	一七〇、一六四	二一四、一九四	—	四四、〇三〇
第一項　監獄經費	一〇五、五七八	一四〇、〇〇八	—	三四、四三〇
第一目　吉林第一監獄	六一、三七〇	六一、三七〇	—	—

科目				
第二目　長春第二監獄	五、一八四	二九、四四八	｜	二四、二六〇
第三目　濱江第三監獄	三一、四四〇	三一、四四〇	｜	｜
第四目　延吉新監獄	七、五八四	一七、七五〇	｜	一〇、一六六
第二項　監所經費	六四、五八六	七四、一八六	｜	九、六〇〇
第一目　賓縣	五、三三四	五、八一四	｜	四八〇
第二目　楡樹	三、四四四	三、九二四	｜	四八〇
第三目　農安	三、四四四	三、九二四	｜	四八〇
第四目　阿城	三、四四四	三、九二四	｜	四八〇
第五目　雙城	三、四四四	三、九二四	｜	四八〇
第六目　伊通	三、四四四	三、九二四	｜	四八〇
第七目　扶餘	三、四四四	三、九二四	｜	四八〇
第八目　磐石	二、六五二	三、一三二	｜	四八〇
第九目　依蘭	二、六五二	三、一三二	｜	四八〇
第十目　五常	二、六五二	三、一三二	｜	四八〇
第十一目　寧安	二、六五二	三、一三二	｜	四八〇
第十二目　同賓	二、六五二	三、一三二	｜	四八〇
第十三目　長嶺	二、六五二	三、一三二	｜	四八〇
第十四目　方正	二、六五二	三、一三二	｜	四八〇
第十五目　雙陽	一、四二六	一、九〇六	｜	四八〇
第十六目　舒蘭	一、四二六	一、九〇六	｜	四八〇
第十七目　樺甸	一、四二六	一、九〇六	｜	四八〇
第十八目　和龍	一、四二六	一、九〇六	｜	四八〇
第十九目　汪清	一、四二六	一、九〇六	｜	四八〇

第二十目　敦化	一、四二六	一、九〇六	―	四八〇	
第廿一目　德惠	一、〇二〇	一、〇二〇	―	―	
第廿二目　密山	九四三	九四三	―	―	
第廿三目　東寧	九四三	九四三	―	―	
第廿四目　穆稜	九四三	九四三	―	―	
第廿五目　富錦	九四三	九四三	―	―	
第廿六目　樺川	九四三	九四二	―	―	
第廿七目　濱江	九四三	九四三	―	―	
第廿八目　額穆	九四三	九四三	―	―	
第廿九目　額口	九四三	九四三	―	―	
第三十目　綏遠	四八四	四八四	―	―	
第卅一目　虎林	四八四	四八四	―	―	
第卅二目　饒河	四八四	四八四	―	―	
第卅三目　寶清	四八四	四八四	―	―	
第卅四目　和龍	四八四	四八四	―	―	
第卅五目　勃利	四八四	四八四	―	―	
第三款　承審員經費	二、八三三	二、八三三	―	―	
第一項　和龍駐外六道溝承審員經費	二、八三三	二、八三三	―	―	
第四款　承詳訴訟經費	六、〇〇〇	―	―	―	
第一項　濱江縣當承詳訴訟經費	六、〇〇〇	―	六、〇〇〇	―	此項因取銷領手會審權所有沿路華洋訴訟均歸濱江縣當辦年支經費六千元
司法部所管經常合計	四八四、二一八	五五一、三三六	―	六七、一一八	

教育部所管

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款 廳署經費	二八,〇〇〇元	三五,〇〇〇元	—元	—元	各道立師中學校改歸省辦年支經費十萬元遵照部令改由省地方收入項下開支區列入有地方預算故本款列減
第一項 教育廳	二八,〇〇〇	三五,〇〇〇	—	七,〇〇〇	
第二款 補助費	二〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	—	—	
第一項 教育補助費	二〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	—	一〇〇,〇〇〇	
教育部所管經常合計	二二八,〇〇〇	三三五,〇〇〇	·	一〇七,〇〇〇	

農商部所管

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款 廳署經費	三〇,〇〇〇元	三九,〇〇〇元	—元	—元	按森林局經費每月由國庫譽撥千五百元年支一萬八千元採金局每月由國庫譽撥千二百元年支一萬四千四百元經省公署處部有案故列數如上
第一項 實業廳	三〇,〇〇〇	三九,〇〇〇	—	九,〇〇〇	
第二款 實業經費	四七,四〇〇	一五,〇〇〇	三二,四〇〇	—	
第一項 吉林省立工藝廠	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	—	—	
第二項 森林局	一八,〇〇〇	—	一八,〇〇〇	—	
第三項 採金局	一四,四〇〇	—	一四,四〇〇	—	
農商部所管經常合計	七七,四〇〇	五四,〇〇〇	二三,四〇〇	—	

交通部所管

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 増	比較 減	備考
第一款 東省鐵路公司督辦公所經費	—	九〇、〇〇〇元	—	—元	
第一項 同前	—	九〇、〇〇〇	—	九〇、〇〇〇	
交通部所管經常合計	—	九〇、〇〇〇	—	九〇、〇〇〇	

説明

此項經費已由鐵路收入項下開支不由國庫撥發故不列入

歲出臨時門

內務部所管

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 増	比較 減	備考
第一款 郵金	一六、〇〇〇元	一六、〇〇〇元	—	—	
第一項 警察官吏郵金	一六、〇〇〇	一六、〇〇〇	—	—	
內務部所管臨時合計	一六、〇〇〇	一六、〇〇〇	—	—	

財政部所管

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 増	比較 減	備考

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款 應付銀行利息	一八四、八一〇元	—	—元	—	本省息借中交兩行本券共一百五十二萬元除九年九月歸還中行大洋本券五萬元尚缺息借一百四十七萬元計一百二十七萬元八厘生息二十萬元五厘生息共計利息現大洋十三萬三千九百二十元以一三八合吉大洋十八萬四千八百十元
第一項 中交兩行借款利息	一八四、八一〇	—	一八四、八一〇	—	
歲出臨時合計	一八四、八一〇	—	一八四、八一〇	—	

陸軍部所管

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款 督軍公署及陸軍各旅前軍事各機關雜費	六五〇、七一六元	六六七、二〇〇元	—	一六、四八四元	本款臨時治支雜費均併入第一款內
第二款 第十九混成旅臨時治支雜費		三〇、五六四	—	三〇、五六四	
第三款 琿春縣檢查所經費	八六四	八六四	—	—	
歲出臨時合計	六五一、五八〇	六九八、六二八	—	四七、〇四八	

司法部所管

科目	十年度預算數	九年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款 農安地方審檢廳開辦建築費	—	五、〇〇〇元	—	五、〇〇〇元	
第二款 延吉新監開辦建築及工場資本費	—	四六、〇〇〇	—	四六、〇〇〇	
歲出臨時合計	—	五一、〇〇〇	—	五一、〇〇〇	

中華民國十一年度國家歲入歲出預算總表

歲入經常門

科目	十一年度預算數	十年度預算數	比較 增	比較 減	備考
田賦	元 二、〇八八、五七〇	元 二、一五七、〇五二	元 六八、四八二	—	
貨物稅	三、〇四一、八八〇	三、七七〇、三五九	七二八、四七九	—	
正雜各稅	三、二〇九、三一八	二、七一九、二二三	—	四九〇、〇九五	
正雜各捐	二、四五六	一一七	—	二、三三九	
雜收入	三七六、一六五	二五五、八七六	—	一二〇、二八九	
中央協濟軍費	四七五、〇〇〇	四七五、〇〇〇	—	—	
歲入經常合計	九、一九三、三八九	九、三七七、六二七	一八四、二三八	—	

歲入臨時門

科目	十一年度預算數	十年度預算數	比較 增	比較 減	備考
官業收入	元 三三〇、〇〇〇	元 三三〇、〇〇〇	—	—	
歲入臨時合計	三三〇、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	—	—	

歲入經常臨時合計	九、四一三、三八九	九、五九七、六二七	一八四、二三八	—	

歲出經常門

科目	十一年度預算數	十二年度預算數	比較 增	比較 減	備考
外交部所管	九〇、〇〇六元	九一、二〇六元	一、二〇〇元	—	
內務部所管	一、五七九、〇三五	一、五六四、三六三	一四、六七二	—	
財政部所管	八八一、四二九	八八四、五九〇	三、一六一	—	
陸軍部所管	七、四九六、八六六	七、四六六、一五二	—	一八、二一四	
司法部所管	四八四、二一八	四八四、二一七	—	—	
教育部所管	二二八、〇〇〇	二二八、〇〇〇	—	—	
農商部所管	六九、〇〇〇	六九、〇〇〇	—	—	
歲出經常合計	一〇、八二八、五五四	一〇、七八七、五二九	—	—	

歲出臨時門

科目	十一年度預算數	十二年度預算數	比較 增	比較 減	備考
內務部所管	一六・〇〇〇元	一六、〇〇〇元	—	—	以上共收入九百四十一萬三千三百八十

財政部所管	一八四、八一〇	一八四、八一〇	—	—	九元、出共一千〇一百七十二萬零七圓収支相衡計不數二百三十萬零七千一百〇七元
陸軍部所管	六九一、一三二	六五一、五八〇	三九、五三二	—	
歳出臨時合計	八九一、九四二	八五二、三九〇	三九、五五二	—	
歳出經常臨時總計	一一、七二〇、四九六	一〇、三五二、八二八	一、三九七、六六八	—	

中華民國十一年度國家歳入預算書

歳入經常門

科目	十一年度預算數	十二年度預算數	比較 増	比較 減	備考
第一款田賦	二、〇八八、五七〇元	二、〇三〇、三七三元	五八、一九七元	—	
第一項地租	二、〇八八、五七〇	二、〇三〇、三七三	—	—	
第一目地租	二、〇八八、五七〇	二、〇三〇、三七三	—	—	
第二款貨物税	三、〇四一、八八〇	三、〇四一、八八〇	—	—	
第一項產地税	九六一、五九二	九六一、五九二	—	—	
第一目產地税	九六一、五九二	九六一、五九二	—	—	
第二項銷場税	二、〇八〇、二八八	二、〇八〇、二八八	—	—	
第一目產地税	二、〇八〇、二八八	二、〇八〇、二八八	—	—	
第三款正雜各税	三、二〇九、三一八	三、二〇九、三一八	—	—	

第一項 契税	五八四、六六二	五八四、六六二	—	—
第一目 契税	五八四、六六二	五八四、六六二	—	—
第二項 牙税	二四一、八〇〇	二四一、八〇〇	—	—
第一目 牙程	二四〇、〇〇〇	二四〇、〇〇〇	—	—
第二目 牙帖税	一、八〇〇	一、八〇〇	—	—
第三項 當税	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	—	—
第一目 當税	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	—	—
第二目 當帖税	四、〇〇〇	四、〇〇〇	—	—
第四項 菸税	一四三、五四八	一四三、五四八	—	—
第一目 菸税	一四三、五四八	一四三、五四八	—	—
第五項 酒税	五四五、八〇二	五四五、八〇二	—	—
第一目 酒税	五四五、八〇二	五四五、八〇二	—	—
第六項 燒鍋課	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	—	—
第一目 燒鍋課	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	—	—
第七項 斗税	八九一、五五四	八九一、五五四	—	—
第一目 斗税	八九一、五五四	八九一、五五四	—	—
第八項 木税	五三一、六五九	五三一、六五九	—	—
第一目 木税	五三一、六五九	五三一、六五九	—	—
第九項 山分税	一〇六、二九三	一〇六、二九三	—	—

第一目　山分税	一〇六、二九三	一〇六、二九三	―	―
第四款　正雜各税	二、四五六	二、四五六	―	―
第一項　硝滷捐	二、四五六	二、四五六	―	―
第一目　硝滷捐	二、四五六	二、四五六	―	―
第五款　雜收入	三七六、一六五	三七六、一六五	―	―
第一項　官款生息	二三、七六五	二三、七六五	―	―
第一目　官款生息	二三、七六五	二三、七六五	―	―
第二項　票照費	三二〇、〇〇〇	三二〇、〇〇〇	―	―
第一目　木石照費	三二〇、〇〇〇	三二〇、〇〇〇	―	―
第三項　契紙價	三二、四〇〇	三二、四〇〇	―	―
第一目　契紙價	三二、四〇〇	三二、四〇〇	―	―
第六款　中央協濟軍費	四七五、〇〇〇	四七五、〇〇〇	―	―
第一項　部協第五旅經費	四七五、〇〇〇	四七五、〇〇〇	―	―
第一目　部協第五旅經費	四七五、〇〇〇	四七五、〇〇〇	―	―
歳入經常合計	九、一九三、三八九	九、一三五、一九二	五八、一九七	―

歳入臨時門

科目	十一年度預算數	十年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款 官業收入	二二〇、〇〇〇元	二二〇、〇〇〇元	—元	—	
第一項 榷運局應分餘利	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	—	—	
第一目 榷運局應分餘利	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	—	—	
第二項 硝磺餘利	七〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	—	—	
第一目 硝磺餘利	七〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	—	—	
歲入臨時合計	二二〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	—	—	
歲入經常臨時總計	九、四一三、三八九	九、三五五、一九二	五八、一九七	—	

中華民國十一年度國家歲出預算書

歲出經常門

外交部所管

科目	十一年度預算數	十年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款 各交涉署經費	七三、九六六元	七二、三六六元	三、六〇〇元	—元	
第一項 吉林交涉署經費	三三、二〇〇	二九、六〇〇	三、六〇〇	—	本款原係年支十四萬七千三百六十元關吉林交涉署因公務殷繁請追加經費奉省令准每月加三百元全年三千六百元本年度交涉費共應支十五萬〇九百六十六元

科目	十一年度預算數	十年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一項 長春交渉署經費	四、八〇〇	四、八〇〇	―	―	計吉林交渉署四萬〇七百七十元長春交渉署一萬七千四百七十二元哈爾濱交渉署一萬一千八百五十二元延吉交渉署七千二百七十二元依蘭交渉署三千六百元比較預算年增七萬五千元向東省鐵路公司津帖祗補不列預算
第三項 哈爾濱交渉署經費	三四、二九四	三四、二九四	―	―	
第四項 延吉交渉署經費	三、六七二	三、六七二	―	―	
第二款 各縣外交費	八四〇	八四〇	―	―	
第一項 虎林縣外交費	八四〇	八四〇	―	―	
第三款 哈爾濱鐵路交渉局顧問薪水	六、〇〇〇	六、〇〇〇	―	―	本年度因續聘合同期滿不再延聘全數減除
第一項 哈爾濱鐵路交渉局顧問薪水	六、〇〇〇	六、〇〇〇	―	―	
第四款 哈爾濱交渉署接俄領事職務經費	一二、〇〇〇	一二、〇〇〇	―	―	
第一項 哈爾濱交渉署接俄領事職務經費	一二、〇〇〇	一二、〇〇〇	―	―	
第五款 琿春邊情調查員薪水費	一二、〇〇〇	一二、〇〇〇	―	―	
第一項 琿春邊情調查員薪水費	一二、〇〇〇	一二、〇〇〇	―	―	
外交部所管經常合計	九〇、〇〇六	九二、四〇六	―	二、四〇〇	

內務部所管

科目	十一年度預算數	十年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款 各公署經費	六六六、六三四元	六六〇、二七四元	六、三六〇元	―元	第一款第二項第四目延吉道尹查延吉道尹署原爲二等道鈌嗣因該處地爲邊安事頤請准改升一等年支經費二萬九千元於十年度內送部追加核准有案准該署前因取締韓亂辦公費六千元現既房
第一項 省長公署經費	一四八、〇〇〇	一四八、〇〇〇	―	―	

第二項 各道尹公署經費	一一二,二〇〇	一一八,二〇〇	—	六,〇〇〇	一等經費充裕自應將該項辦公費停止交付故比較減支六千元
第一目 吉長道尹經費	二九,〇〇〇	二九,〇〇〇	—	—	
第二目 濱江道尹經費	二九,〇〇〇	二九,〇〇〇	—	—	
第三目 依蘭道尹經費	二五,二〇〇	二五,二〇〇	—	—	
第四目 延吉道尹經費	二九,〇〇〇	三五,〇〇〇	—	六,〇〇〇	
第三項 各縣公署經費	三九四,〇七四	三九四,〇七四	—		
第一目 吉林縣經費	一二,六二四	一二,六二四	—	—	
第二目 長春縣經費	一二,六二四	一二,六二四	—	—	
第三目 濱江縣經費	一二,六二四	一二,六二四	—	—	
第四目 延吉縣經費	一二,六二四	一二,六二四	—	—	
第五目 琿春縣經費	一二,六二四	一二,六二四	—	—	
第六目 依蘭縣經費	一二,六二四	一二,六二四	—	—	
第七目 五常縣經費	一〇,六五〇	一〇,六五〇	—	—	
第八目 扶餘縣經費	一〇,六五〇	一〇,六五〇	—	—	
第九目 寧安縣經費	一〇,六五〇	一〇,六五〇	—	—	
第十目 賓縣經費	一〇,六五〇	一〇,六五〇	—	—	
第十一目 榆樹縣經費	一〇,六五〇	一〇,六五〇	—	—	
第十二目 阿城縣經費	一〇,六五〇	一〇,六五〇	—	—	
第十三目 伊通縣經費	一〇,六五〇	一〇,六五〇	—	—	

第十四目　雙城縣經費	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—
第十五目　農安縣經費	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—
第十六目　同江縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第十七目　密山縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第十八目　濛江縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第十九目　長嶺縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第二十目　樺甸縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第廿一目　磐石縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第廿二目　舒蘭縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第廿三目　德惠縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第廿四目　雙陽縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第廿五目　同賓縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第廿六目　東寧縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第廿七目　敦化縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第廿八目　穆稜縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第廿九目　額穆縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第三十目　汪清縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第卅一目　和龍縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第卅二目　虎林縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—

第卅三目 富錦縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第卅四目 樺川縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第卅五目 方正縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第卅六目 綏遠縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第卅七目 饒河縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第卅八目 寶淸縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第卅九目 勃利縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第四項 各設治局經費	一二、三六〇	—	一二、三六〇	—
第一目 烏珠河設治局經費	六、一八〇	—	—	—
第二目 葦沙河設治局經費	六、一八〇	—	—	—
第二款 警察經費	四八六、四二八	三五八、四一二	一二八、〇一六	—
第一項 吉林警務處經費	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	—	—
第二項 省會警察廳經費	二六〇、八三六	二六〇、八三六	—	—
第三項 延吉警察廳經費	一二八、〇一六	—	一二八、〇一六	—
第四項 琿春商埠警察廳經費	二、五〇二	二、五〇二	—	—
第五項 延吉警察游巡隊經費	六六、〇七四	六六、〇七四	—	—
第三款 護墾隊經費	一二、三九二	一二、三九二	—	—
第一項 虎林護墾隊經費	五、一六七	五、一六七	—	—
第二項 密山護墾隊經費	七、二二五	七、二二五	—	—

按烏珠河葦沙河兩鎮一律添設治局需經省署咨部會奏奉令照准有案常年經費援照勃利設治成案游巡隊定兩年支二千元設治局照三等縣經費三分之二開支定局年支六千一百八十元該兩設治局既至開辦自應分別入預算以便支付

按延吉地方異常重要前內務部派員赴該處築設警察廳早經成立仰需各款均先設治墊支該廳旣爲常設機關本年度應需經費十二萬八千〇十六元自應別入豫算以便正式

第四款　游巡隊經費	四八、三九八	四四、三九八	四、〇〇〇	―
第一項　各縣游巡隊經費	四八、三九八	四四、三九八	―	―
第一目　同江縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	―	―
第二目　密山縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	―	―
第三目　穆稜縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	―	―
第四目　額穆稜縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	―	―
第五目　和龍縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	―	―
第六目　德惠縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	―	―
第七目　汪清縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	―	―
第八目　虎林縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	―	―
第九目　綏遠縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	―	―
第十目　富錦縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	―	―
第十一目　濛江縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	―	―
第十二目　饒河縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	―	―
第十三目　勃利縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	―	―
第十四目　寶清縣游巡隊經費	三、六一六	三、六一六	―	―
第十五目　東寧縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	―	―
第十六目　琿春縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	―	―
第十七目　長嶺縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	―	―

科目						備考
第十八目	敦化縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—	
第十九目	方正縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—	
第二十目	樺川縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—	
第廿一目	雙陽縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—	
第廿二目	樺甸縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—	
第廿三目	同賓縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—	
第廿四目	延吉縣游巡隊經費	一、二八二	一、二八二	—	—	
第廿五目	烏珠河設治局經費	二、〇〇〇	—	二、〇〇〇	—	第二十五、六兩目增加理由詳於第款第四項備考欄內
第廿六目	葦沙河設治局經費	二、〇〇〇	—	二、〇〇〇	—	
第五款	商埠經費	八二、八三二	八二、八三二	—	—	
第一項	省城	一五、三九二	一五、三九二	—	—	
第二項	延吉	六四、六〇八	六四、六〇八	—	—	
第三項	琿春	二、八三二	二、八三二	—	—	
第六款	典禮費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—	
第一項	祭祀費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—	
第七款	吉林省警察所傳習所經費	二九、五一四	二九、五一四	—	—	
第八款	警備隊經費	九九、七〇九	—	九五、七〇九	—	按警備隊係於民國六年間成立年支經費十三萬四千四百八十四元以後各年度均經列入預算呈報有案前辦十年度預算時擬調各縣保衛國額補充警備隊隨帶原餉此款卽可節省闢因前項計畫未經完全察行僅於十年八月間裁去一營又於十二月底裁去一營仰餘營隊因地方不靖仍舊存立在規定年支經費九萬七千七百〇八元七角自應列入預算以爲決算張本
第九款	補助延琿和汪擴充警察費	七四、四〇〇	七四、四〇〇	—	—	
第十款	分發吉林學習員津帖	三、三〇〇	三、三〇〇	—	—	

科目	十一年度預算數	十年度預算數	比較 増	比較 減	備考
第十一款　清鄉局經費	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	—	—	
第十二款　省公署調査費	三、六〇〇	三、六〇〇	—	—	
第十三款　省城軍警稚稽査處經費	五、〇二八	二、四〇〇	二、六二八	—	按本款原為長滿鐵路軍警招待仰年需經費四千八百元除督軍署認擁一半外計由省庫年支二千四百元現因軍署彩驛長春將省城稽查處負長春稽查處向無經費僅由長滿鐵路招待仰經費項下每月補照八十元現在換為軍警稚處月需經費八百元除將裁撤鐵路軍警招待仰所餘經費四百元全數挹注向不數四百元仍由軍政兩署各擁一半連同原擁之款計由省庫共支四千八百元再加此次開辨費二百二十八元一角五分共計五千零二十八元一角五分數增支如上數
第十四款　吉長道尹公署祕密調査費	八、六〇〇	—	八、六〇〇	—	
內務部所管經常合計	一、五七九、〇三五	一、三三三、五二二	二四五、五一三	—	

財政部所管

科目	十一年度預算數	十年度預算數	比較 増	比較 減	備考
	元	元	元	元	
第一款　財政廳經費	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	—	—	
第一項　廳署經費	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	—	—	
第二款　徵收局經費	七〇一、四二九	六四四、二三八	五七、一九一	—	
第一項　各徵收局經費	六〇三、七四八	五四九、四六一	五四、二八七	—	
第一目　省城徵收局經費	一九、七三二	一八、二九二	一、四四〇	—	
第二目　長春縣徵收局經費	三三、三四七	二九、八一六	三、五三一	—	
第三目　雙城縣徵收局經費	一三、四七四	二〇、七三五	—	七、二六一	
第四目　榆樹縣徵收局經費	一八、〇四六	一六、六六六	一、三八〇	—	

日	局				
第五日	阿城縣徵收局經費	一六、三七一	一五、五九一	七八〇	—
第六日	扶餘縣徵收局經費	一九、九二九	一九、一四九	七八〇	—
第七日	賓縣徵收局經費	一六、五〇五	一五、九〇五	六〇〇	—
第八日	濱江縣徵收局經費	二八、七七〇	二一、五七〇	七、二〇〇	—
第九日	農安縣徵收局經費	一四、四八九	一三、六四九	八四〇	—
第十日	伊通縣徵收局經費	二〇、六七四	一七、三六二	三、三一二	—
第十一日	五常縣徵收局經費	一八、七五〇	一八、三九〇	三六〇	—
第十二日	磐石縣徵收局經費	一四、六七一	一四、〇一一	六六〇	—
第十三日	依蘭縣徵收局經費	八、九四六	八、七〇六	二四〇	—
第十四日	寧安縣徵收局經費	一七、四二三	一七、〇〇三	四二〇	—
第十五日	舒蘭縣徵收局經費	一五、一〇一	一四、六八二	四二〇	—
第十六日	雙陽縣徵收局經費	一三、一五七	一二、五五七	六〇〇	—
第十七日	延吉縣徵收局經費	一二、四一〇	一〇、三七〇	二〇四	—
第十八日	省城木稅局經費	一一、六二二	一〇、八七二	七五〇	—
第十九日	敦化縣徵收局經費	七、二八四	六、八〇四	四八〇	—
第二十日	下九臺徵收局經費	一五、六六〇	一三、七二〇	一、九四〇	—
第廿一日	樺甸縣徵收局經費	八、三四五	七、八六五	四八〇	—
第廿二日	烏拉街徵收局經費	九、九六七	八、六四七	一、三二〇	—
第廿三日	呢碼口徵收局經費	六、六六四	六、三〇四	三六〇	—

第廿四目	東寧縣徵收局經費	一一、九二二	一一、五六二	三六〇	—
第廿五目	缸窯徵收局經費	六、五四五	六、〇八九	四五六	—
第廿六目	蛟河徵收局經費	八、〇四六	七、〇二六	一、〇二〇	—
第廿七目	同賓縣徵收局經費	二〇、一九〇	一九、二九〇	九〇〇	—
第廿八目	濛江縣徵收局經費	七、三二五	六、九六五	三六〇	—
第廿九目	琿春縣徵收局經費	一一、三二九	一〇、七八九	五四〇	—
第三十目	長嶺縣徵收局經費	六、〇七〇	五、四九四	五七六	—
第卅一目	方正縣徵收局經費	一〇、五四二	一〇、〇六二	四八〇	—
第卅二目	同江縣徵收局經費	七、二二一	六、七四一	四八〇	—
第卅三目	樺川縣徵收局經費	七、三三三	六、八五三	四八〇	—
第卅四目	富錦縣徵收局經費	八、四九三	七、五二三	九七〇	—
第卅五目	綏遠縣徵收局經費	七、五二六	七、〇四六	四八〇	—
第卅六目	和龍縣徵收局經費	六、七三三	六、二五三	四八〇	—
第卅七目	汪清縣徵收局經費	六、〇七四	五、〇六六	一、〇〇八	—
第卅八目	饒河縣徵收局經費	八、二八〇	七、八〇〇	四八〇	—
第卅九目	穆稜縣徵收局經費	一三、四六四	一二、三四四	一、一二〇	—
第四十目	密山縣徵收局經費	九、四三九	八、一一九	一、三二〇	—
第四十一目	額穆縣徵收局經費	八、〇〇九	六、六二九	一、三八〇	—
第四十二目	德惠縣徵收局經費	二四、一三三	二二、四五三	一、六〇八	—

第四十三目 哈爾濱木石稅費	四二、六九二	三六、六九二	六、〇〇〇	―
第四十四目 總分各局 拉林徵收局	七、四六五	―	七、四六五	―
第四十五目 勃利縣徵收局經費	三、五八〇	―	三、五八〇	―
第二項 各縣徵收田賦經費	九七、六八一	九四、七七七	二、九〇四	―
第一目 吉林縣徵收田賦經費	一〇、九〇〇	九、七七五	一、一二五	―
第二目 樂江縣徵收田賦經費	九八六	九八六	―	―
第三目 延吉縣徵收田賦經費	二、六〇九	二、五七六	三三	―
第四目 琿春縣徵收田賦經費	一、二三六	一、二七二	―	三六
第五目 依蘭縣徵收田賦經費	一、一七〇	一、一七〇	―	―
第六目 五常縣徵收田賦經費	三、九八二	三、九八二	―	―
第七目 扶餘縣徵收田賦經費	七、三九〇	七、三九〇	―	―
第八目 學安縣徵收田賦經費	三、三五五	三、三五五	―	―
第九目 賓縣徵收田賦經費	六、〇二〇	五、九七二	―	―
第十目 榆樹縣徵收田賦經費	一一、三六九	一〇、九一二	四五七	―
第十一目 阿城縣徵收田賦經費	四、六七二	四、五七四	九八	―
第十二目 雙城縣徵收田賦經費	一〇、七二一	一〇、六八七	三四	―
第十三目 密山縣徵收田賦經費	五〇二	五〇二	―	―
第十四目 伊通縣徵收田賦經費	五〇二	五〇二	―	―
第十五目 濛江縣徵收田賦經費	一、一五六	一、一五六	―	―

第十六目	樺甸縣徵收田賦經費	一、九一〇	一、九〇一	九	—
第十七目	磐石縣徵收田賦經費	三、〇一二	三、〇〇七	五	—
第十八目	舒蘭縣徵收田賦經費	三、三二五	三、二七八	四七	—
第十九目	雙陽縣徵收田賦經費	三、七六九	三、六七三	九六	—
第二十目	同賓縣徵收田賦經費	二、二三〇	二、二一五	一五	—
第廿一目	東寧縣徵收田賦經費	七五一	五六四	一八七	—
第廿二目	敦化縣徵收田賦經費	一、四四七	一、四四七	—	—
第廿三目	穆稜縣徵收田賦經費	三一二	一九一	—	—
第廿四目	額穆縣徵收田賦經費	一、二五八	一、二五八	—	—
第廿五目	汪清縣徵收田賦經費	七五五	七二九	二六	—
第廿六目	和龍縣徵收田賦經費	一、一〇二	一、一〇二	—	—
第廿七目	虎林縣徵收田賦經費	三五	三五	—	—
第廿八目	寶清縣徵收田賦經費	三三五	—	三三五	—
第廿九目	富錦縣徵收田賦經費	一、一七九	九二二	二五七	—
第三十目	樺川縣徵收田賦經費	二、一八七	二、一八七	—	—
第卅一目	方正縣徵收田賦經費	一、四一九	一、四一九	—	—
第卅二目	饒河縣徵收田賦經費	三五	三五	—	—
第三款	補助費	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	—	—
第一項	補助蒙旗行政經費	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	—	—

科目	十一年度預算數	十年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第四款 擴充稅務費	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	—	—	
第一項 擴充稅務費	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	—	—	
財政部所管經常合計	八八一,四二九	八二四,二三八	五七,一九一	—	

說明

一、各徵收局經費

按吉省稅捐徵收費原有四十二處計十年後預算經書全額五十四萬九千四百八十八元詳核各該局額支細目本極廉薄從前錢法平穩紙幣與現洋價格無甚懸殊治舊辦理或尚可行乃近年以來本省發行紙幣太多不抵現洋十分之七徑徵員司仰稅款比昔與徵既鉅而支領薪俸已受無形虧折當此整頓稅收嚴行考核之際欲冀弊絕風請宜先酌加薪餉以養其廉然後責次事切並查各局各局原有薪餉房租解款川資及設卡等費均不敷用尤須量予分別加支又雙城局仰屬拉林商業繁盛改設專局勃利係新設縣治既有稅捐可收亦應設局稽徵連舊有局共計四十四處撤定預算全額六十萬零三千七百七十五元比較十年後原額加增五萬五千二百八十七元表面觀之已加原額十分之一考其實在僅可稍補錢毛之虧折矧滿吉省稅款按一財一財之和提徵收費之舊率關於用人開支均有伸縮之餘地茲撤改定全額六十萬元有零核照十年稅捐實收數六百萬元有零尚未超一財開支仍屬從減兩整頓稅各根本計畫似不能不以追加徵收費兩切要之圖此加支稅局經費之理也

陸軍部所管

科目	十一年度預算數	十年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款 督軍公署及軍事各機關經費	七,二四七,四七四元	六,二二一,一七六元	一,〇二六,二九八元	—元	

第一項	督軍公署經費	二〇〇、〇〇〇	—	—	—
第二項	督軍公署衞隊用經費	三一七、三三五	一六九、九七五	一四七、三六〇	—
第 項	督軍公署軍樂第一連經費	六、五二二	六、五二二	—	—
第四項	督軍公署軍樂第二連經費	六、五二二	六、五二二	—	—
第五項	督軍公署機關檢第一連經費	—	—	—	一四、四一三
第六項	督軍公署機關檢第二連經費	—	—	—	一四、四一三
第七項	陸軍憲兵營經費	四〇、一二三	三八、六六二	一、四六一	—
第八項	軍機廠經費	三四、六〇二	三四、六〇二	—	—
第九項	陸軍々醫院經費	二二、一五二	二二、一五二	—	—
第十項	陸軍監獄經費	一八、九二〇	一八、九二〇	—	—
第十一項	第一混成旅經費	五七七、五四一	五七七、五四一	—	—
第十二項	第二混成旅經費	七二〇、六八〇	七二〇、六八〇	—	—
第十三項	第三混成旅經費	六九八、七二四	六九八、七二四	—	—
第十四項	第四混成旅經費	五二二、三〇四	五二二、三〇四	—	—
第十五項	第五混成旅經費	六八五、〇六〇	六八五、〇六〇	—	—
第十六項	第六混成旅經費	五九六、三七四	五九六、三七四	—	—
第十七項	第七混成旅經費	五二八、一七四	—	五二八、一七四	—
第十八項	第十九混成旅經費	六四九、六七五	六〇三、〇一〇	四六、六六五	—
第十九項	吉長鎭守使經費	二九、五三四	二九、五三四	—	—

第二十項　濱江鎮守使經費	二九、五三四	二九、五三四	—	—	
第廿一項　延吉鎮守使經費	三〇、七三五	一九、九五八	一〇、七七七	—	
第廿二項　依蘭鎮守使經費	一九、九五八	一九、九五八	—	—	
第廿三項　綏安鎮守使經費	三二、〇一〇	—	三二、〇一〇	—	
第廿四項　陸軍服裝費	一、四八〇、九九一	一、一八二、三一四	二八九、六七七	—	
第二款　測量局經費	八二、二七六	八二、二七六	—	—	
第一項　陸軍測量局	八二、二七六	八二、二七六	—	—	
第三款　東三省憲兵司令部攤款	一二、五〇〇	—	一二、五〇〇	—	此項用款在十年度追加有案計攤奉天洋一萬元約以一二五申合吉大洋一萬二千五百元
第一項　東三省憲兵司令部攤款	一二、五〇〇	—	一二、五〇〇	—	
第四款　旗署各衙門及旗務總分各廳經費	一五三、五七六	一五三、五七六	—	—	
第一項　省城正黃旗經費	三、七九九	三、七九九	—	—	
第二項　省城廂黃旗經費	三、七七〇	三、七七〇	—	—	
第三項　省城正白旗經費	三、七五三	三、七五三	—	—	
第四項　省城廂白旗經費	三、八三三	三、八三三	—	—	
第五項　省城正紅旗經費	三、七一七	三、七一七	—	—	
第六項　省城廂紅旗經費	三、七九〇	三、七九〇	—	—	
第七項　省城正藍旗經費	三、八一六	三、八一六	—	—	
第八項　省城廂藍旗經費	三、八一六	三、八一六	—	—	
第九項　省城蒙古旗經費	四、六八七	四、六八七	—	—	

第十項	省城馬槍營經費	六、八八九	六、八八九	—	—
第十一項	烏拉協領經費	七、七〇四	七、七〇四	—	—
第十二項	雙城協領經費	三、七九二	三、七九二	—	—
第十三項	五常協領經費	八二五	八二五	—	—
第十四項	寧古塔協領經費	一四、三四五	一四、三四五	—	—
第十五項	伯東納協領經費	一一、一〇六	一一、一〇六	—	—
第十六項	三姓協領經費	一六、四二六	一六、四二六	—	—
第十七項	河勤楚喀協領經費	六、六六三	六、六六三	—	—
第十八項	琿春協領經費	六、九七八	六、九七八	—	—
第十九項	拉林協領經費	五、七三〇	五、七三〇	—	—
第二十項	烏拉翼領經費	七七三	七七三	—	—
第廿一項	伊通佐領經費	二、三四八	二、三四八	—	—
第廿二項	額秋佐領經費	一、八〇三	一、八〇三	—	—
第廿三項	伊通邊領雄經費	一八八	一八八	—	—
第廿四項	赫哈蘇巴門領雄經費	一八八	一八八	—	—
第廿五項	布爾圖庫邊門領雄經費	一八八	一八八	—	—
第廿六項	巴彥鄂佛羅邊門領雄經費	一八八	一八八	—	—
第廿七項	省城旗豪科經費	一六、八〇〇	一六、八〇〇	—	—
第廿八項	烏拉旗務處經費	一、八六〇	一、八六〇	—	—

第廿九項	五常旗務處經費	一、三九二	一、三九二	—	—
第三十項	拉林旗務處經費	一、〇〇八	一、〇〇八	—	—
第卅一項	寧安縣附設旗務科經費	八四〇	八四〇	—	—
第卅二項	扶餘縣附設旗務科經費	八四〇	八四〇	—	—
第卅三項	依蘭縣附設旗務科經費	九〇〇	九〇〇	—	—
第卅四項	阿城縣附設旗務科經費	九〇〇	九〇〇	—	—
第卅五項	琿春縣附設旗務科經費	八四〇	八四〇	—	—
第卅六項	伊通縣附設旗務科經費	八四〇	八四〇	—	—
第卅七項	雙城縣附設旗務科經費	九六〇	九六〇	—	—
第卅八項	聯蒙招待費	五、二八〇	五、二八〇	—	—
第五款	廢勇恩餉	—	八六	—	八六	此項恩餉於八年度經國會議決全數刪除
第一項	廢勇長勝徐貴恩餉	—	八六	—	八六	
第六款	延吉道憲兵營律帖經費	一、〇四〇	一、〇四〇	—	—	
第一項	延吉道憲兵營律帖經費	一、〇四〇	一、〇四〇	—	—	
陸軍部所管經常合計		七、四九六、八六六	六、四六〇、六五四	一、〇三六、二一二	—	

司法部所管

科目	十一年度預算數	十年度預算數	比較 増	比較 減	備考
第一款 審檢廳經費	元 三〇五、二二二	元 三〇五、二二二	—	—	
第一項 高等審判廳經費	四一、九六二	四一、九六二	—	—	
第二項 高等檢察廳經費	二三、六一八	二三、六一八	—	—	
第三項 吉林地方審判廳經費	三四、九九九	三四、九九九	—	—	
第四項 吉林地方檢察廳經費	二五、四八八	二五、四八八	—	—	
第五項 長春地方審判廳經費	二七、三二四	二七、三二四	—	—	
第六項 長春地方檢察廳經費	三一、四四〇	三一、四四〇	—	—	
第七項 延吉地方審判廳經費	二三、五四七	二三、五四七	—	—	
第八項 延吉地方檢察廳經費	二五、四六二	二五、四六二	—	—	
第九項 延吉審判第一分庭經費	四、三六六	四、三六六	—	—	
第十項 延吉檢察第一分庭經費	四、五一〇	四、五一〇	—	—	
第十一項 延吉審判分廳經費	七、二五二	七、二五二	—	—	
第十二項 延吉檢察分廳經費	六、九七八	六、九七八	—	—	
第十三項 濱江地方審判廳經費	二一、八七六	二一、八七六	—	—	
第一款 監獄及監所經費	一七〇、一六四	一七〇、一六四	—	—	
第一項 監獄經費	一〇五、五七八	一〇五、五七八	—	—	

第一目 吉林第一監獄經費	六一、三七〇	六一、三七〇	―	―
第二目 長春第二監獄經費	五一、一八四	五一、一八四	―	―
第三目 濱江第三監獄經費	三一、四四〇	三一、四四〇	―	―
第四目 延吉新監獄經費	七、五八四	七、五八四	―	―
第二項 監所經費	六四、五八六	六四、五八六	―	―
第一目 賓縣監所經費	五、三三四	五、三三四	―	―
第二目 楡樹縣監所經費	三、四四四	三、四四四	―	―
第三目 農安縣監所經費	三、四四四	三、四四四	―	―
第四目 阿城縣監所經費	三、四四四	三、四四四	―	―
第五目 雙城縣監所經費	三、四四四	三、四四四	―	―
第六目 伊通縣監所經費	三、四四四	三、四四四	―	―
第七目 扶餘縣監所經費	三、四四四	三、四四四	―	―
第八目 磐城縣監所經費	二、六五二	二、六五二	―	―
第九目 依蘭縣監所經費	二、六五二	二、六五二	―	―
第十目 五常縣監所經費	二、六五二	二、六五二	―	―
第十一目 寧安縣監所經費	二、六五二	二、六五二	―	―
第十二目 同賓縣監所經費	二、六五二	二、六五二	―	―
第十三目 長嶺縣監所經費	二、六五二	二、六五二	―	―
第十四目 方正縣監所經費	二、六五二	二、六五二	―	―

第十五目	雙陽縣監所經費	一、四二六	一、四二六	—	—
第十六目	舒蘭縣監所經費	一、四二六	一、四二六	—	—
第十七目	樺甸縣監所經費	一、四二六	一、四二六	—	—
第十八目	和龍縣監所經費	一、四二六	一、四二六	—	—
第十九目	汪清縣監所經費	一、四二六	一、四二六	—	—
第二十目	敦化縣監所經費	一、四二六	一、四二六	—	—
第廿一目	德惠縣監所經費	一、〇二〇	一、〇二〇	—	—
第廿二目	密山縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿三目	東寧縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿四目	秋稜縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿五目	富錦縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿六目	樺川縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿七目	濛江縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿八目	額穆縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿九目	同口縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第三十目	綏遠縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第卅一目	虎林縣監所經費	四八四	四八四	—	—
第卅二目	饒河縣監所經費	四八四	四八四	—	—
第卅三目	寶清縣監所經費	四八四	四八四	—	—

科目	十一年度預算數	十年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第卅四目 勃利縣監所經費	四八四	四八四	—	—	
第卅五目 和龍縣駐外六道溝監所經費	四八四	四八四	—	—	
第三款 承審員經費	二、八三二	二、八三二	—	—	
第一項 和龍駐外六道溝承審員經費	二、八三二	二、八三二	—	—	
第四款 華洋訴訟經費	六、〇〇〇	六、〇〇〇	—	—	
第一項 濛江縣兼辦華洋訴訟經費	六、〇〇〇	六、〇〇〇	—	—	
司法部所管經常合計	四八四、三一八	四八四、二一八	—	—	

教育部所管

科目	十一年度預算數	十年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款 廳署經費	二八、〇〇〇元	二八、〇〇〇元	—	—	
第一項 教育廳經費	二八、〇〇〇	二八、〇〇〇	—	—	
第二款 補助費	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	—	—	
第一項 教育補助費	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	—	—	
教育部所管經常合計	二二八、〇〇〇	二二八、〇〇〇	—	—	

歳出臨時門

內務部所管

科目	十一年度預算數	十年度預算數	比較 増	比較 減	備考
第一款　郵金	一六、〇〇〇元	一六、〇〇〇元	—	—	
第一項　警察官吏郵金	一六、〇〇〇	一六、〇〇〇	—	—	
內務部所管臨時合計	一六、〇〇〇	—	—	—	

財政部所管

科目	十一年度預算數	十年度預算數	比較 増	比較 減	備考
第一款　應付銀行利息	一八四、八一〇元	—	—	—	
第一項　中交兩行借款利息	一八四、八一〇	—	—	—	
歳出臨時合計	一八四、八一〇	—	—	—	

陸軍部所管

科目	十一年度預算數	十年度預算數	比較 増	比較 減	備考
第一款　督軍公署及陸軍各旅並軍事各機關經費	六八四、〇一八元	六五〇、七一六元	三三、三〇二元	—	
第二款　東三省憲兵教練處經攤款	六、二五〇	—	六、二五〇	—	計攤奉大洋五千元約以一二五申合吉大洋六千二百五十元
第三款　琿春縣檢查所經費	八六四	—	八六四	—	
陸軍部所管臨時合計	六九一、一三二	六五一、五八〇	三九、五五二	—	

中華民國十二年度國家歲入歲出預算總表

歲入經常門

科目	十二年度預算數	十一年度預算數	比較 增	比較 減	備考
	元	元	元	元	
田賦	二、一五七、〇五二	二、〇八八、五七〇	六八、四八二		
貨物稅	三、七七〇、三五九	三、〇四一、八八〇	七二八、四七九	—	
正雜各稅	二、七一九、二三三	三、二〇九、三一八	—	四九〇、〇九五	
正雜各捐	二一七	二、四五六	—	二、二三九	
雜收入	二五五、八七六	—	—	三〇、二八九	
中央協濟軍費	四七五、〇〇〇	四七五、〇〇〇	—	—	
歲入經常合計	九、三七七、六二七	九、一九三、三八九	一八四、二三八	—	

歲入臨時門

科目	十二年度預算數	十一年度預算數	比較 增	比較 減	備考
	元	元	元	元	
官業收入	二二〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	—	—	
歲入臨時合計	二二〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	—	—	
歲入經常臨時合計	九、五九七、六二七	九、四一三、三八九	一八四、二三八	—	

歳出經常門

科目	十二年度預算數	十一年度預算數	比較 増	比較 減	備考
外交部所管	九一、二〇六元	九〇、〇〇六元	一、二〇〇元	—元	
內務部所管	一、五六四、三六二	一、五七九、〇三五	—	一四、六七二	
財政部所管	八八四、五九〇	八八一、四二九	三、一六一	—	
陸軍部所管	七、四六六、一五二	七、四八四、三六六	—	一八、二一四	
司法部所管	四八四、二一八	四八四、二一八	—	—	
教育部所管	二二八、〇〇〇	二二八、〇〇〇	—	—	
農商部所管	六九、〇〇〇	六九、〇〇〇	—	—	
歳出經常合計	一〇、七八七、五二九	一〇、八一六、〇五四	—	二八、五二五	

歳出臨時門

科目	十二年度預算數	十一年度預算數	比較 増	比較 減	備考
內務部所管	三〇、〇〇〇元	一六、〇〇〇元	一四、〇〇〇元	—	以上共收入九百五十九萬七千六百二十七元、支出共一千〇一百七十五萬八千九百七十三元、收支相衡計不敷二百一十六萬一千三百四十六元
財政部所管	一八九、五二八	一八四、八一〇	四、七一八	—	
陸軍部所管	七五一、九一六	七〇三、六三二	四八、二八四	—	

總出臨時合計	九七一、四四一	九〇四、四四二	六七、〇〇二	—
歲出經常臨時總計	一一、七五八、九七三	一一、七二〇、四九六	三八、四七七	—

中華民國十二年度國家歲入預算書

歲入經常門

科目	十二年度預算數	十一年度預算數	比較 增	比較 減	備考
	元	元	元	元	
第一款 田賦	二、一五七、〇五二	二、〇八八、五七〇	六八、四八二	—	按十二年度額徵民地四百零三萬四千零二十七晌三畝零二厘每晌徵銀五角應徵銀二百零一萬七千零一十三元六角六分一厘又長農德嶺四縣蒙租地八十二萬三千七百五十五晌九畝七分每晌徵銀五角除照章撥給蒙旗二角五分徵收費八分外計每晌徵銀一角七分應徵銀十四萬零三十八元五角一分五厘共計應徵二百一十五萬七千零五十二元一角七分六厘本款豫算係昭十年度實收數酌量編列故比較上年度互右增減以下第三四五等款
第一項 地租	二、一五七、〇五二	二、〇八八、五七〇	六八、四八二	—	
第一目 地租	二、一五七、〇五二	二、〇八八、五七〇	六八、四八二	—	
第二款 貨物稅	三、七七〇、三五九	三、〇四一、八八〇	七二八、四七九	—	同
第一項 產地稅	三九七、〇三九	九六一、五九二	—	五六四、五五三	
第一目 產地稅	三九七、〇三九	九六一、五九二	—	—	
第二項 銷場稅	三、三七三、三二〇	二、〇八〇、二八八	一、二九三、〇三二	—	
第二目 產地稅	三、三七三、三二〇	二、〇八〇、二八八	—	—	
第三款 正雜各稅	二、七一九、二二三	三、二〇九、三一八	—	四九〇、〇九五	
第一項 契稅	八〇六、八四〇	五八四、六六二	二二二、一七八	—	

第一目 契税	八〇六、八四〇	五八四、六六三	—	—
第二項 牙税	三六、一七七	—	—	二〇五、六一六
第一目 牙税	三三、五四〇	—	—	—
第二目 牙帖税	二、六三七	一、八〇〇	—	—
第三項 當税	一七、九一九	一四、〇〇〇	三、九一九	—
第一目 當税	一〇、〇七一	一〇、〇〇〇	—	—
第二目 當帖税	七、八四八	四、〇〇〇	—	—
第一項 菸税	一一八、四八一	一四三、五四八		二五、〇六七
第一目 菸税	一一八、四八一	一四三、五四八		—
第五項 酒税	五一〇、七六四	五四五、八〇二	—	三五、〇三八
第一目 酒税	五一〇、七六四	五四五、八〇二	—	—
第六項 燒鍋課	四八、五五八	一五〇、〇〇〇	—	一〇一、四四二
第一目 燒鍋課	四八、五五八	一五〇、〇〇〇	—	—
第七項 斗税	三三五、〇二三	八九一、五五四	—	三五六、五三一
第一目 斗税	三三五、〇二三	八九一、五五四	—	—
第八項 木税	五三一、〇〇六	五三一、六五九	—	六五三
第一目 木税	五三一、〇〇六	五三一、六五九	—	—
第九項 山分税	一一四、四五五	一〇六、二九三	八、一六二	—
第一目 山分税	—	—	—	—

科目	十二年度預算數	十一年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第四款　正雜各税	一一七	二,四五六	—	二,三三九	
第一項　硝滷捐	一一七	二,四五六	—	二,三三九	
第一目　硝滷捐	一一七	二,四五六	—	—	
第五款　雜收入	二五五,八七六	三七六,一六五	—	一二〇,二八九	
第一項　官款生息	二三,七六五	二三,七六五	—	—	
第一目　官款生息	二三,七六五	二三,七六五	—	—	
第二項　票照費	二〇〇,一八四	三二〇,〇〇〇	—	一一九,八一六	
第一目　木石照費	二〇〇,一八四	三二〇,〇〇〇	—	—	
第三項　契紙價	三一,九二七	三二,四〇〇	—	四七三	
第一目　契紙價	三一,九二七	一二二,四〇〇	—	—	
第六款　中央協濟軍費	四七五,〇〇〇	四七五,〇〇〇	—	—	
第一項　部協第五旅經費	四七五,〇〇〇	四七五,〇〇〇	—	—	
第一目　部協第五旅經費	四七五,〇〇〇	四七五,〇〇〇	—	—	
歲入經常合計	九,三七七,六二七	九,一九三,三八九	一八四,二三八	—	

歲入臨時門

科目	十二年度預算數	十一年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款　官業收入	二二〇,〇〇〇元	二二〇,〇〇〇元	—元	—元	

科目	十二年度預算數	十一年度預算數	比較 增	比較 減
第一項　権運局應分餘利	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	―	―
第一目　権運局應分餘利	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	―	―
第二項　硝硬餘利	七〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	―	―
第一目　硝硬餘利	七〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	―	―
歲入臨時合計	二二〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	―	―
歲入經常臨時總計	九、五九七、六二七	九、四一三、三八九	一八四、二三八	―

中華民國十二年度國家歲出預算書

歲出經常門

外交部所管

科目	十二年度預算數	十一年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款　各交涉署經費	元 七五、九六六	元 七五、九六六	元 ―	元 ―	按本款全年應實支十五萬零九百六十六元計吉林交涉署四萬零七百七十元長春交涉署一萬七千四百七十二元哈爾濱交涉署八萬一千五百十二元延吉交涉署七千二百七十二元依蘭交涉署三千六百元比較預算所列之數增七萬五千元向由來省鐵路公司津貼抵補不列預算
第一項　吉林交涉署經費	三三、二〇〇	三三、二〇〇	―	―	
第二項　長春交涉署經費	四、八〇〇	四、八〇〇	―	―	
第三項　哈爾濱交涉署經費	三四、二九四	三四、二九四	―	―	
第四項　延吉交涉署經費	三、六七二	三、六七二	―	―	

科目	十二年度預算數	十一年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第二款 各縣外交費	八四〇	八四〇	—	—	
第一項 虎林縣外交費	八四〇	八四〇	—	—	
第三款 哈爾濱交涉署接俄領事職務經費	一二、〇〇〇	一二、〇〇〇	—	—	
第一項 哈爾濱交涉署接俄領事職務經費	一二、〇〇〇	一二、〇〇〇	—	—	
第四款 琿邊情調查員薪水費	一、二〇〇	一、二〇〇	—	—	
第一項 琿春邊情調查員薪水費	一、二〇〇	一、二〇〇	—	—	
第五款 延吉道署外交邊防電報費用	一、二〇〇	—	一、二〇〇	—	延吉道署因地處邊要自韓亂以還交涉益繁凡關於外交防務非以電報商承辦理恐誤事機電費甚鉅原有辦公費因不敷用呈奉省署核准關於外交防務電報費用實銷約計年需一千二百元自應列入預算以便支付
外交部所管經常合計	九一、二〇六	九〇、〇〇六	一、二〇〇	—	

內務部所管

科目	十二年度預算數	十一年度預算數	比較 增	比較 減	備考
	元	元	元	元	
第一款 各公署經費	六六六、六三四	六六六、六三四	—	—	
第一項 省長公署經費	一四八、〇〇〇	一四八、〇〇〇	—	—	
第二項 各道尹公署經費	一一二、二〇〇	一一二、二〇〇	—	—	
第一目 吉長道尹經費	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	—	—	
第二目 濱江道尹經費	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	—	—	
第三目 依蘭道尹經費	二五、二〇〇	二五、二〇〇	—	—	

第四目　延吉道尹經費	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	—	—
第三項　各縣公署經費	三九四、〇七四	三九四、〇七四	—	—
第一目　吉林縣經費	一二、六二四	一二、六二四	—	—
第二目　長春縣經費	一二、六二四	一二、六二四	—	—
第三目　濱江縣經費	一二、六二四	一二、六二四	—	—
第四目　延吉縣經費	一二、六二四	一二、六二四	—	—
第五目　琿春縣經費	一二、六二四	一二、六二四	—	—
第六目　依蘭縣經費	一二、六二四	一二、六二四	—	—
第七目　五常縣經費	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—
第八目　扶餘縣經費	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—
第九目　寧安縣經費	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—
第十目　賓縣經費	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—
第十一目　楡樹縣經費	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—
第十二目　阿城縣經費	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—
第十三目　伊通縣經費	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—
第十四目　雙城縣經費	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—
第十五目　農安縣經費	一〇、六五〇	一〇、六五〇	—	—
第十六目　同江縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第十七目　密山縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—

第十八目　濛江縣經費	九,二七〇	九,二七〇	—	—
第十九目　長嶺縣經費	九,二七〇	九,二七〇	—	—
第二十目　樺甸縣經費	九,二七〇	九,二七〇	—	—
第廿一目　磐石縣經費	九,二七〇	九,二七〇	—	—
第廿二目　舒蘭縣經費	九,二七〇	九,二七〇	—	—
第廿三目　德惠縣經費	九,二七〇	九,二七〇	—	—
第廿四目　雙陽縣經費	九,二七〇	九,二七〇	—	—
第廿五目　同賓縣經費	九,二七〇	九,二七〇	—	—
第廿六目　東豐縣經費	九,二七〇	九,二七〇	—	—
第廿七目　敦化縣經費	九,二七〇	九,二七〇	—	—
第廿八目　穆稜縣經費	九,二七〇	九,二七〇	—	—
第廿九目　額穆縣經費	九,二七〇	九,二七〇	—	—
第三十目　汪清縣經費	九,二七〇	九,二七〇	—	—
第卅一目　和龍縣經費	九,二七〇	九,二七〇	—	—
第卅二目　虎林縣經費	九,二七〇	九,二七〇	—	—
第卅三目　富錦縣經費	九,二七〇	九,二七〇	—	—
第卅四目　樺川縣經費	九,二七〇	九,二七〇	—	—
第卅五目　方正縣經費	九,二七〇	九,二七〇	—	—
第卅六目　綏遠縣經費	九,二七〇	九,二七〇	—	—

科目				
第卅七目　饒河縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第卅八目　寶清縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第卅九目　勃利縣經費	九、二七〇	九、二七〇	—	—
第四項　各設治局經費	一二、三六〇	一二、三六〇	—	—
第一目　烏珠河設治局經費	六、一八〇	六、一八〇	—	—
第二目　葦沙河設治局經費	六、一八〇	六、一八〇	—	—
第二款　警察經費	四八六、四二八	四八六、四二八	—	—
第一項　吉林警務廳經費	二九、〇〇〇	三九、〇〇〇	—	—
第二項　省會警察廳經費	二六〇、八三六	二六〇、八三六	—	—
第三項　延吉警察廳經費	一二八、〇一六	一三八、〇一六	—	—
第四項　琿春商埠警察廳經費	二、五〇二	二、五〇二	—	—
第五項　延吉警察遊巡隊經費	六六、〇七四	六六、〇七四	—	—
第三款　護墾隊經費	一二、三九三	一二、三九三	—	—
第一項　虎林護墾隊經費	五、一六七	五、一六七	—	—
第二項　密山護墾隊經費	七、二二五	七、二二五	—	—
第四款　游巡隊經費	四八、三九八	四八、三九八	—	—
第一項　各縣游巡隊經費	四八、三九八	四八、三九八	—	—
第一目　同江縣同巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第二目　密山縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—

第三目	穆稜縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第四目	額穆縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第五目	和龍縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第六目	德惠縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第七目	汪清縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第八目	虎林縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第九目	綏遠縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第十目	富錦縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第十一目	濛江縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第十二目	饒河縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第十三目	勃利縣游巡隊經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
第十四目	寶清縣游巡隊經費	三、六一六	三、六一六	—	—
第十五目	東寧縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—
第十六目	琿春縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—
第十七目	長嶺縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—
第十八目	敦化縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—
第十九目	方正縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—
第二十目	樺川縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—
第廿一目	雙陽縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—

科目					備考
第廿二目　樺甸縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	―	―	
第廿三目　同賓縣游巡隊經費	一、五〇〇	一、五〇〇	―	―	
第廿四目　延吉縣游巡隊經費	一、二八二	一、二八二	―	―	
第廿五目　烏珠河設治局經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	―	―	
第廿六目　葦沙河設治局經費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	―	―	
第五款　商埠經費	六六、八四〇	八二、八三三	―	一五、九九二	
第一項　省城	一五、三九二	一五、三九二	―	―	
第二項　延吉	四八、六一六	六四、六〇八	―	一五、九九二	
第三項　琿春	二、八三三	二、八三三	―	―	
第六款　典禮費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	―	―	
第一項　祭祀費	二、〇〇〇	二、〇〇〇	―	―	
第七款　吉林省警察處傳習所經費	九、五一四	二九、五一四	―	―	
第八款　警備隊經費	九五、七〇九	九五、七〇九	―	―	
第九款　補助延琿和五擴充警察費	七四、四〇〇	七四、四〇〇		―	
第十款　分發吉林學習員津帖	四、〇二〇	三、三〇〇	七二〇	―	分發學習員原爲七八月支四十元者六人月支三十五元者一人現又分發警務處學習員二人月各支三十元共計四千零二十元故比較二年增支七百二十元
第十一款　清鄉局經費	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	―	―	
第十二款　省公署調查費	三、六〇〇	三、六〇〇	―	―	
第十三款　省城軍警稽查處經費	五、〇二八	五、〇二八	―	―	
第十四款　吉長道尹公署秘密調查費	九、六〇〇	八、八〇〇	―	―	此項祕密調查費每月八百元係於十一年八月請作省署照支十一年度預算按照一箇月計算本年度應按全年計算故暫支八百元

科目	十二年度預算數	十一年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第十五款 吉長道署房租	一、〇〇〇	—	—	—	吉長道署舊址改作督軍行署道署移住吉長鎮守使署舊址惟此房原係租賃得前房租由道署向軍署請領現在道署佔用此項租金支一千元應由省庫籌撥故列入預算以便交付
第十六款 長春軍警招待所經費	二、四〇〇	—	—	—	長春軍警招待所經費計月支四百元除督軍署分擔一半外由國庫年支二千四百元
內務部所管經常合計	一、五六四、三六三	一、五七九、〇三五	—	一四、六七二	

財政部所管

科目	十二年度預算數	十一年度預算數	比較 增	比較 減	備考
	元	元	元	元	
第一款 財政廳經費	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	—	—	
第一項 廳署經費	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	—	—	
第二款 徵收局經費	七〇四、五九〇	七〇一、四二九	三、一六一	—	
第一項 各徵收局經費	六〇三、七四八	六〇三、七四八	—	—	
第一目 省城徵收局經費	一九、七三二	一九、七三二	—	—	
第二目 長春縣徵收局經費	三三、三四七	三三、三四七	—	—	
第三目 雙城縣徵收局經費	一三、四七四	一三、四七四	—	—	
第四目 榆樹縣徵收局經費	一八、〇四六	一八、〇四六	—	—	
第五目 阿城縣徵收局經費	一六、三七一	一六、三七一	—	—	

第六目	扶餘縣徵收局經費	一九、九二九	一九、九二九	—	—
第七目	賓縣徵收局經費	一六、五〇五	一六、五〇五	—	—
第八目	濱江縣徵收局經費	二八、七七〇	二八、七七〇	—	—
第九目	農安縣徵收局經費	一四、四七九	一四、四七九	—	—
第十目	伊通縣徵收局經費	二〇、六七四	二〇、六七四	—	—
第十一目	五常縣徵收局經費	一八、七五〇	一八、七五〇	—	—
第十二目	磐石縣徵收局經費	一四、六七一	一四、六七一	—	—
第十三目	依蘭縣徵收經費	八、九四六	八、九四六	—	—
第十四目	寧安縣徵收局經費	一七、四二三	一七、四二三	—	—
第十五目	舒蘭縣徵收局經費	一五、一〇一	一五、一〇一	—	—
第十六目	雙陽縣徵收局經費	一三、一五七	一三、一五七	—	—
第十七目	延吉縣徵收局經費	一二、四一〇	一二、四一〇	—	—
第十八目	省城徵稅局經費	一一、六二三	一一、六二三	—	—
第十九目	敦化縣徵收局經費	七、二八四	七、二八四	—	—
第二十目	下九臺徵收局經費	一五、六六〇	一五、六六〇	—	—
第廿一目	樺甸縣徵收局經費	八、三四五	八、三四五	—	—
第廿二目	烏拉街徵收局經費	九、九六七	九、九六七	—	—
第廿三目	呢嗎口徵收局經費	六、六六四	六、六六四	—	—
第廿四目	東寧縣徵收局經費	一一、九二二	一一、九二二	—	—

第廿五目	缸窯徵收局經費	六、五四五	六、五四五	—	—
第廿六目	蚊河徵收局經費	八、〇四六	八、〇四六	—	—
第廿七目	同賓縣徵收局經費	二〇、一九〇	二一、〇九〇	—	—
第廿八目	濛江縣徵收局經費	七、三二五	七、三二五	—	—
第廿九目	琿春縣徵收局經費	一一、三二九	一一、三二九	—	—
第三十目	長嶺縣徵收局經費	六、〇七〇	六、〇七〇	—	—
第卅一目	方正縣徵收局經費	一〇、五四二	一〇、五四二	—	—
第卅二目	同江縣徵收局經費	七、二二一	七、二二一	—	—
第卅三目	樺川縣徵收局經費	七、二三三	七、二二三	—	—
第卅四目	富錦縣徵收局經費	八、四九三	八、四九二	—	—
第卅五目	綏遠縣徵收局經費	七、五二六	七、五二六	—	—
第卅六目	和龍縣徵收局經費	六、七三三	六、七三三	—	—
第卅七目	汪清縣徵收局經費	六、〇七四	六、〇七四	—	—
第卅八目	饒河縣徵收局經費	八、二八〇	八、二八〇	—	—
第卅九目	穆稜縣徵收局經費	一三、四六四	一三、四六五	—	—
第四十目	密山縣徵收局經費	九、四三九	九、四三九	—	—
第四十一目	額穆縣徵收局經費	八、〇〇九	八、〇〇九	—	—
第四十二目	德惠縣徵收局經費	二四、一三三	二四、一三三	—	—
第四十三目	[illegible]未[illegible] [illegible]分各局	四二、六九二	四二、六九二	—	—

科目				
第四十四目　拉林徵收局	七、四六五	七、四六五	—	—
第四十五目　勃利縣徵收局經費	三、五八〇	三、五八〇	—	—
第二項　各縣徵收田賦經費	一〇〇、八四二	九七、六八一	三、一六一	—
第一目　吉林縣徵收田賦經費	一一、〇二五	一〇、九〇〇	一二五	—
第二目　濱江縣徵收田賦經費	一、〇六二	九八六	七六	—
第三目　延吉縣徵收田賦經費	二、八四七	二、六〇九	二三八	—
第四目　琿春縣徵收田賦經費	一、二八三	一、二三六	四七	—
第五目　依蘭縣徵收田賦經費	一、一七〇	一、一七〇	—	—
第六目　五常縣徵收田賦經費	三、九八二	三、九八二	—	—
第七目　扶餘縣徵收田賦經費	七、五三八	七、三九〇	一四八	—
第八目　寧安縣徵收田賦經費	三、三五五	三、三五五	—	—
第九目　賓縣徵收田賦經費	六、〇六八	六、〇二〇	四八	—
第十目　榆樹縣徵收田賦經費	一一、八八六	一一、三六九	五一七	—
第十一目　阿城縣徵收田賦經費	四、七七三	四、六七一	三一	—
第十二目　雙城縣徵收田賦經費	一〇、八九四	一〇、七二二	一七四	—
第十三目　密山縣徵收田賦經費	五〇四	五〇四	—	—
第十四目　伊通縣徵收田賦經費	七、〇九四	六、五五二	五四二	—
第十五目　濛江縣徵收田賦經費	一、一五六	一、一五六	—	—
第十六目　樺甸縣徵收田賦經費	一、九一九	一、九一〇	九	—

按本項係民旗地徵收費照收入地租數目留支百分之五本年度地租收入增加經徵費亦增

第十七目 磐石縣徵收田賦經費	三、一四九	三、〇一二	一三七	—
第十八目 舒蘭縣徵收田賦經費	四、〇七五	三、三二五	七五〇	—
第十九目 雙陽縣徵收田賦經費	三、八五一	三、七六九	八二	—
第二十目 同賓縣徵收田賦經費	二、二九一	二、二三〇	六一	—
第廿一目 東寧縣徵收田賦經費	七五一	七五	—	—
第廿二目 敦化縣徵收田賦經費	一、四二六	一、四四七	—	二一
第廿三目 穆稜縣徵收田賦經費	三一三	三一二	一	—
第廿四目 額穆縣徵收田賦經費	一、二五八	一、二五八	—	—
第廿五目 汪清縣徵收田賦經費	七八一	七五五	二六	—
第廿六目 和龍縣徵收田賦經費	一、二四五	一、一〇二	一四三	—
第廿七目 虎林縣徵收田賦經費	三五	三五		—
第廿八目 寶清縣徵收田賦經費	三三五	三三五	—	—
第廿九目 富錦縣徵收田賦經費	一、一七九	一、一七九	—	—
第三十目 樺川縣徵收田賦經費	二、一八七	二、一八七	—	—
第卅一目 方正縣徵收田賦經費	一、四四七	一、四一九	二八	—
第卅二目 饒河縣徵收田賦經費	三五	三五	—	—
第三款 補助費	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	—	—
第一項 補助蒙旗行政經費	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇		—
第四款 擴充稅務費	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	—	—

按本項係照蒙旗應分長春農安德惠長嶺四縣稅款估計填列

科目	十二年度預算數	十一年度預算數	比較 增	比較 減	備義
第一項　擴充稅務費	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	—	—	
財政部所管經常合計	八八四、五九〇	八八一、四二九	三、一六一	—	

陸軍部所管

科目	十二年度預算數	十一年度預算數	比較 增	比較 減	備義
第一款　督軍公署及軍事各機關經費	元 七、二二九、二六〇	元 七、二四七、四七四	元 —	元 一八、二一四	查本省陸係於十二年一月因化爲總另爲改編所有開支總額與十三年度報部預算固無大出入惟旅團名稱多有不同編製本年度預算無從按項比較故十一年預算欄內僅列總額無理合聲明
第一項　督軍公署經費	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	—	—	
第二項　督軍公署軍樂第一連經費	六、五二二	六、五二二	—	—	
第三項　督軍公署軍樂第二連經費	六、五二二	六、五二二	—	—	
第四項　陸軍憲兵營經費	四〇、一二三	四〇、一二三	—	—	
第五項　軍機廠經費	三四、六〇二	三四、六〇二	—	—	
第六項　陸軍々醫院經費	二二、一五二	二二、一五二	—	—	
第七項　陸軍監獄經費	一八、九二四	一八、九二四	—	—	
第八項　東三省陸軍吉林省步兵第三十四團經費	三一七、三三五	—	—	—	
第九項　東三省陸軍吉林步兵第八旅經費	七二一、三二二	—	—	—	
第十項　東三省陸軍吉林步兵第九旅經費	五二二、三〇四	—	—	—	
第十一項　東三省陸軍吉林步兵第十旅經費	四五七、五一一	—	—		

第十二項 東三省陸軍吉林步兵第十二旅經費	七二〇、六八〇	—	—	—
第十三項 東三省陸軍吉林步兵第十八旅經費	六〇三、〇一一	—	—	—
第十四項 東三省陸軍吉林步兵第二十旅經費	五三七、〇六七	—	—	—
第十五項 東三省陸軍吉林步兵第廿一旅經費	六八五、〇六〇	—	—	—
第十六項 東三省陸軍吉林步兵第六旅經費	七二四、九一〇	—	—	—
第十七項 吉長鎮守使經費	二九、五三四	二九、五三四	—	—
第十八項 濱江鎮守使經費	二九、五三四	二九、五三四	—	—
第十九項 延吉鎮守使經費	三〇、七三四	三〇、七三四	—	—
第二十項 綏寧鎮守使經費	三〇、七三四	三〇、七三四	—	—
第廿一項 依蘭鎮守使經費	一九、九五八	一九、九五八	—	—
第廿二項 東三省陸軍吉林服裝經費	一、四七〇、七二一	一、四七〇、七二一	—	—
第二款 測量局經費	八二、二七六	八二、二七六	—	—
第一項 陸軍測量局	八二、二七六	八二、二七六	—	—
第三款 旗署各衙門及總分各處經費	一五三、五七六	一五三、五七六	—	—
第一項 省城正黃旗經費	三、七九九	三、七九九	—	—
第二項 省城廂黃旗經費	三、七七〇	三、七七〇	—	—
第三項 省城正白旗經費	三、七五三	三、七五三	—	—
第四項 省城廂白旗經費	三、八三三	三、八三三	—	—
第五項 省城正紅旗經費	三、七一七	三、七一七	—	—

第六項　省城廂紅旗經費	三、七九〇	三、七九〇	—	—
第七項　省城正紅旗經費	三、八一六	三、八一六	—	—
第八項　省城廂藍旗經費	三、八一六	三、八一六	—	—
第九項　省城蒙古旗經費	四、六八七	四、六八七	—	—
第十項　省城馬槍營經費	六、八八九	六、八八九	—	—
第十一項　烏拉協領經費	七、七〇四	七、七〇四	—	—
第十二項　雙城協領經費	三、七九二	三、七九二	—	—
第十三項　五常協領經費	八二五	八二五	—	—
第十四項　寧古塔協領經費	一四、三四五	一四、三四五	—	—
第十五項　伯都納協領經費	一一、一〇六	一一、一〇六	—	—
第十六項　三姓協領經費	一六、四二六	一六、四二六	—	—
第十七項　阿勒楚喀協領經費	六、六六三	六、六六三	—	—
第十八項　長春協領經費	六、九七八	六、九七八	—	—
第十九項　拉林協領經費	五、七三〇	五、七三〇	—	—
第二十項　烏拉翼領經費	七七三	七七三	—	—
第廿一項　伊通佐領經費	二、三四八	二、三四八	—	—
第廿二項　額穆佐領經費	一、八〇三	一、八〇三	—	—
第廿三項　伊通邊領催經費	一八八	一八八	—	—
第廿四項　赫爾蘇邊門領催經費	一八八	一八八	—	—

第廿五項 佈爾圖庫邊門領催經費	一八八	一八八	—	—
第廿六項 巴彥鄂佛羅門領催經費	一八八	一八八	—	—
第廿七項 省城旗彙科經費	一六、八〇〇	一六、八〇〇	—	—
第廿八項 烏拉旗務處經費	一、八六〇	一、八六〇	—	—
第廿九項 五常旗務處經費	一、三九二	一、三九二	—	—
第三十項 拉林旗務處經費	一、〇〇八	一、〇〇八	—	—
第卅一項 農安縣附設旗務科經費	八四〇	八四〇	—	—
第卅二項 扶餘縣附設旗務科經費	八四〇	八四〇	—	—
第卅三項 依蘭縣附設旗務科經費	九〇〇	九〇〇	—	—
第卅四項 阿城縣附設旗務科經費	九〇〇	九〇〇	—	—
第卅五項 琿春縣附設旗務科經費	八四〇	八四〇	—	—
第卅六項 伊通縣附設旗務科經費	八四〇	八四〇	—	—
第卅七項 雙城縣附設旗務科經費	九六〇	九六〇	—	—
第卅八項 聯蒙招待費	五、二八〇	五、二八〇	—	—
第四款 延吉道憲兵營津帖經費	一、〇四〇	一、〇四〇	—	—
第一項 延吉道憲兵營津帖經費	一、〇四〇	一、〇四〇	—	—
陸軍部所管經常合計	七、四六六、一五二	七、四八四、三六六	—	一八、二一四

按十一年度預算總額原為七、四九六、八六六元本年度因督軍署所送預算將原列第三款東三省憲兵司令部經費編入陸軍臨時費內故彙編預算亦將上年度憲兵司令部經費一萬二千五百元一併移入臨時門第一款內以資比較理合註明

司法部所管

科目	十二年度預算數	十一年度預算數	比較 増	比較 減	備考
	元	元	元	元	
第一款　審判廳經費	三〇五、二二二	三〇五、二二二	—	—	
第一項　高等審判廳經費	四一、九六二	四一、九六二	—	—	
第二項　高等檢察廳經費	二三、六一八	二三、六一八	—	—	
第三項　吉林地方審判廳經費	三四、九九九	三四、九九九	—	—	
第四項　吉林地方檢察廳經費	二五、四八八	二五、四八八	—	—	
第五項　長春地方審判廳經費	二七、三二四	二七、三二四	—	—	
第六項　長春地方檢察廳經費	三一、四四〇	三一、四四〇	—	—	
第七項　延吉地方審判廳經費	二三、五四七	二三、五四七	—	—	
第八項　延吉地方檢察廳經費	二五、四六二	二五、四六二	—	—	
第九項　延吉審判第一分庭經費	四、三六六	四、三六六	—	—	
第十項　延吉檢察第一分庭經費	四、五一〇	四、五一〇	—	—	
第十一項　延吉審判分廳經費	七、二五二	七、二五二	—	—	
第十二項　延吉檢察分廳經費	六、九七八	六、九七八	—	—	
第十三項　濱江地方審判廳經費	二一、八七六	二一、八七六	—	—	
第二款　監獄及監所經費	一七〇、一六四	一七〇、一六四	—	—	

第一項 監獄經費	一〇五、五七八	一〇五、五七八		
第一目 吉林第一監獄經費	六一、三七〇	六一、三七〇	—	—
第二目 長春第二監獄經費	五、一八四	五、一八四	—	—
第三目 濱江第三監獄經費	三一、四四〇	三一、四四〇	—	—
第四目 延吉新監獄經費	七、五八四	七、五八四	—	—
第二項 監所經費	六四、五八六	六四、五八六	—	—
第一目 賓縣監所經費	五、三三四	五、三三四	—	—
第二目 楡樹縣監所經費	三、四四四	三、四四四	—	—
第三目 農安縣監所經費	三、四四四	三、四四四	—	—
第四目 阿城縣監所經費	三、四四四	三、四四四	—	—
第五目 雙城縣監所經費	三、四四四	三、四四四	—	—
第六目 伊通縣監所經費	三、四四四	三、四四四	—	—
第六目 扶餘縣監所經費	三、四四四	三、四四四	—	—
第八目 磐石縣監所經費	二、六五二	二、六五二	—	—
第九目 依蘭縣監所經費	二、六五二	二、六五二	—	—
第十目 五常縣監所經費	二、六五二	二、六五二	—	—
第十一目 寧安縣監所經費	二、六五二	二、六五二	—	—
第十二目 同賓縣監所經費	二、六五二	二、六五二	—	—
第十三目 長嶺縣監所經費	二、六五二	二、六五二	—	—

第十四目	方正縣監所經費	二、六五二	二、六五二	—	—
第十五目	雙陽縣監所經費	一、四二六	一、四二六	—	—
第十六目	舒蘭縣監所經費	一、四二六	一、四二六	—	—
第十七目	樺甸縣監所經費	一、四二六	一、四二六	—	—
第十八目	和龍縣監所經費	一、四二六	一、四二六	—	—
第十九目	汪淸縣監所經費	一、四二六	一、四二六	—	—
第二十目	敦化縣監所經費	一、四二六	一、四二六	—	—
第廿一目	德惠縣監所經費	一、〇二〇	一、〇二〇	—	—
第廿二目	密山縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿三目	東寧縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿四目	富錦縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿五目	穆稜縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿六目	樺川縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿七目	方正縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿八目	額穆縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿九目	同江縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第三十目	綏遠縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第卅一目	虎林縣監所經費	四八四	四八四	—	—
第卅二目	饒河縣監所經費	四八四	四八四	—	—

科目	十二年度預算數	十一年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第卅三目　寶清縣監所經費	四八四	四八四	—	—	
第卅四目　勃利縣監所經費	四八四	四八四	—	—	
第卅五目　和龍縣駐外六道溝監所經費	四八四	四八四	—	—	
第三款　承審員經費	二、八三二	二、八三二	—	—	
第一項　和龍縣駐外六道溝承審員經費	二、八三二	二、八三二	—	—	
第四款　華洋訴訟經費	六、〇〇〇	六、〇〇〇	—	—	
第一項　濛江縣兼辦華洋訴訟經費	六、〇〇〇	六、〇〇〇	—	—	
司法部所管經常合計	四八四、二一八	四八四、二一八	—	—	

教育部所管

科目	十二年度預算數	十一年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款　廳署經費	元 二八、〇〇〇	元 二八、〇〇〇	—	—	
第一項　教育廳經費	二八、〇〇〇	二八、〇〇〇	—	—	
第二款　補助經費	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	—	—	
第一項　教育補助費	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	—	—	
教育部所管經常合計	二二八、〇〇〇	二二八、〇〇〇	—	—	

農商部所管

科目	十二年度預算數	十一年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款 廳署經費	三〇、〇〇〇元	三〇、〇〇〇元	—	—	
第一項 實業廳經費	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	—	—	
第二款 實業費	三九、〇〇〇	三九、〇〇〇	—	—	
第一項 省立工藝廠經費	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	—	—	
第二項 森林局經費	一八、〇〇〇	一八、〇〇〇	—	—	
第三項 採金局經費	六、〇〇〇	六、〇〇〇	—	—	
農商部所管經常合計	六九、〇〇〇	六九、〇〇〇	—	—	

歲出臨時門

內務部所管

科目	十二年度預算數	十一年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款 卹金	三〇、〇〇〇元	一六、〇〇〇元	一四、〇〇〇元	—	
第一項 警察官吏卹金	二六、〇〇〇	一六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	—	
第二項 文官卹金	四、〇〇〇	—	四、〇〇〇	—	
內務部所管臨時合計	三〇、〇〇〇	一六、〇〇〇	一四、〇〇〇	—	

民國十三、四年度預算表

經常歲入表

科別	十四年度預算數	十三年度預算數	比較 增	比較 減	備考
田賦	二、七三八、九五六元	二、一五七、〇五二元	五八一、九〇四元	—	
貨物	五、四四〇、二四二	三、七七〇、三五九	一、六六九、八八三	—	
正雜各稅	三、一四〇、七一五	二、七一九、二二三	四二一、四九二	—	
正雜各捐	一一七	一一七	—	—	
雜收入	二五五、八七六	二五五、八七六	—	—	
中央協濟軍費	四七五、〇〇〇	四七五、〇〇〇	—	—	
計	一一、〇五〇、九〇六	九、三七七、六二七	一、七六三、二七九	—	

臨時歲入表

科目	十四年度預算數	十三年度預算數	比較 增	比較 減	備考
官業收入	二二〇、〇〇〇元	二二〇、〇〇〇元	—元	—	
臨時歲入合計	二二〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	—	—	
經常臨時歲入合計	一一、二七〇、九〇六	九、五九七、六二七	一、六七三、二七九	—	

經常歲出表

科目	十四年度預算數	十三年度預算數	比較 增	比較 減	備考
內務部	元 一、四四九、一三七	元 一、五六四、三六三	元 —	元 一一五、二二六	
陸軍部	七、八〇四、〇二四	七、四六六、一五二	三三七、八七二	—	
財政部	七七七、〇一三	八八四、五九〇	—	一〇七、五七七	
外交部	八二、二六〇	九一、二〇六	—	八、九四六	
司法部	四六七、一二四	四八四、二一八	—	一七、〇九四	
教育部	二〇四、〇〇〇	二二八、〇〇〇	—	二四、〇〇〇	
農商部	五八、八〇〇	六九、〇〇〇	—	一〇、二〇〇	
經常歲出合計	一〇、八四二、三五八	一〇、七八七、五二九	五四、八二九	—	

臨時歲出表

科目	十四年度預算數	十三年度預算數	比較 增	比較 減	備考
內務部	元 三八、四〇〇	元 三〇、〇〇〇	元 八、四〇〇	—	
陸軍部	九八八、八三〇	七五一、九一六	二三六、九一二	—	
財政部	二五三、七九四	一八九、五二八	六四、二六六	—	

科目	十四年度預算數	十三年度預算數	比較 増	比較 減	備考
臨時歲出合計	一、二八一、〇二四	九七一、四四四	三〇、九五八	|	
經常臨時歲出合計	一二、一二三、三八二	一一、七五八、九七三	三六四、四〇九	|	

經常歲入內譯表

科目	十四年度預算數	十三年度預算數	比較 増	比較 減	備考
	元	元	元	元	
第一款田賦	二、七三八、九五六	二、一五七、〇五二	五八一、九〇四	|	
第一項地租	二、七三八、九五六	二、一五七、〇五二	|	|	
第一目地租	二、七三八、九五六	二、一五七、〇五二	|	|	
第二款貨物税	五、四四〇、二四二	三、七七〇、三五九	一、六六九、八八三	|	
第一項産地税	五二四、八六四	三九七、〇三九	一二七、八二五	|	
第一目産地税	五二四、八六四	三九七、〇三九	|	|	
第二項銷場税	四、九一五、三七八	三、三七三、三二〇	一、五五二、〇五八	|	
第一目銷場税	四、九一五、三七八	三、三七三、三二〇	|	|	
第三款正雜各税	三、一四〇、七一五	二、七一九、二二三	四二一、四九二	|	
第一項契税	一、〇五七、三〇六	八〇六、八四〇	二五〇、四六六	|	
第一目契税	一、〇五七、三〇六	八〇六、八四〇	|	|	
第二項牙税	三四、五四〇	三六、一七七	|	二、一七七	

第一目 牙税	三二、五四〇	三三、五四〇	—	一、五四〇
第二目 牙帖税	二、〇〇〇	二、六三七	—	六三七
第三項 當税	二八、三九九	一七、九一九	一〇、四八〇	—
第一目 當税	一八、七四六	一〇、〇七一	—	—
第二目 當帖税	九、六五三	七、八四八	—	—
第四項 菸税	一七四、二八五	一一八、四八一	五五、八〇四	—
第一目 菸税	一七四、二八九	一一八、四八一	—	—
第五項 酒税	四七三、五一三	五一〇、七六四	—	三七、二五一
第一目 酒税	四七三、五一三	五一〇、七六四	—	—
第六項 燒鍋課	四八、五五八	四八、五五八	—	—
第一目 燒鍋課	四八、五五八	四八、五五八	—	—
第七項 斗税	五七五、〇二三	五三五、〇二三	四〇、〇〇〇	—
第一目 斗税	五七五、〇二三	五三五、〇二三	—	—
第八項 木税	五九四、六三六	五三一、〇〇六	六三、六三〇	—
第一目 木税	五九四、六三六	五三一、〇〇六	—	—
第九項 山分税	一五四、四五五	一一四、四五五	四〇、〇〇〇	—
第一目 山分税	一五四、四五五	一一四、四五五	—	—
第四款 正雜各捐	一一七	一一七	—	—
第一項 硝滷捐	一一七	一一七	—	—

第一目　硝滷捐	一一七	一一七	—	—
第五款　雜收入	二五五、八七六	二五五、八七六	—	—
第一項　官款生息	二三、七六五	二三、七六五	—	—
第一目　官款生息	二三、七六五	二三、七六五	—	—
第二項　票照費	二〇〇、一八四	二〇〇、一八四	—	—
第一目　木石照費	二〇〇、一八四	二〇〇、一八四	—	—
第三項　契紙價	三一、九二七	三一、九二七	—	—
第一目　契價	三一、九二七	三一、九二七	—	—
第六款　中央協濟重費	四七五、〇〇〇	四七五、〇〇〇	—	—
第一項　部協第五旅經費	四七五、〇〇〇	四七五、〇〇〇	—	—
第一目　部協第五旅經費	四七五、〇〇〇	四七五、〇〇〇	—	—
經常歲入合計	一一、〇五〇、九〇六	九、三七七、六二七	一、六七三、二七九	—

臨時歲入內譯表

科目	十四年度	十三年度	比較		備考
	預算數	預算額	增	減	
第一款　官業收入	二二〇、〇〇〇元	二二〇、〇〇〇元	—元	—	
第一項　權運局應分餘利	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	—	—	

科目	十四年度預算數	十三年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一目 權運局應分餘利	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	―	―	
第二項 硝礦餘利	七〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	―	―	
第一目 硝礦局收售硝礦餘利	七〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	―	―	
臨時歲入合計	二二〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	―	―	
經常臨時歲入總計	一一、二七〇、九〇六	九、五九七、六二七	一、六七三、二七九	―	

內務部所管歲出表

科目	十四年度預算數	十三年度預算數	比較 增	比較 減	備考
	元	元	元	元	
第一款 各公署經費	五八九、五八四	六六六、六三四	―	―	
第一項 省長公署經費	一二六、〇〇〇	一四八、〇〇〇	―	―	
第二項 各道尹公署經費	九六、〇〇〇	一一二、二〇〇	―	―	
第一目 吉長道尹經費	二四、〇〇〇	二九、〇〇〇	―	―	
第二目 濱江道尹經費	二四、〇〇〇	二九、〇〇〇	―	―	
第三目 依蘭道尹經費	二二、〇〇〇	二五、二〇〇	―	―	
第四目 延吉道尹經費	二六、〇〇〇	二九、〇〇〇	―	―	
第三項 各縣公署經費	三五五、五八四	三九四、〇七四	三八、四九〇	―	
第一目 吉林縣經費	一〇、六二四	一二、六二四	二、〇〇〇	―	

第二目 長春縣經費	一〇、六二四	一二、六二四	—	—
第三目 濱江縣經費	一〇、六二四	一二、六二四	—	—
第四目 延吉縣經費	一〇、六二四	一二、六二四	—	—
第五目 琿春縣經費	一〇、六二四	一二、六二四	—	—
第六目 依蘭縣經費	一〇、六二四	一二、六九四	—	—
第七目 五常縣經費	九、六〇〇	一〇、六五〇	—	一、〇一〇
第八目 扶餘縣經費	九、六〇〇	一〇、六五〇	—	—
第九目 寧安縣經費	九、六〇〇	一〇、六五〇	—	—
第十目 賓縣經費	九、六〇〇	一〇、六五〇	—	—
第十一目 楡樹縣經費	九、六〇〇	一〇、六五〇	—	—
第十二目 阿城縣經費	九、六〇〇	一〇、六五〇	—	—
第十三目 伊通縣經費	九、六〇〇	一〇、六五〇	—	—
第十四目 雙城縣經費	九、六〇〇	一〇、六五〇	—	—
第十五目 農安縣經費	九、六〇〇	一〇、六五〇	—	—
第十六目 同江縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	二、〇七〇
第十七目 密山縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—
第十八目 濛江縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—
第十九目 長嶺縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—
第二十目 樺甸縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—

第廿一目　磐石縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—
第廿二目　舒蘭縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—
第廿三目　德惠縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—
第廿四目　雙陽縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—
第廿五目　同賓縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—
第廿六目　東寧縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—
第廿七目　敦化縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—
第廿八目　穆稜縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—
第廿九目　額穆縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—
第三十目　汪清縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—
第卅一目　和龍縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—
第卅二目　虎林縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—
第卅三目　富錦縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—
第卅四目　樺川縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—
第卅五目　方正縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—
第卅六目　綏遠縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—
第卅七目　饒河縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—
第卅八目　寶清縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—
第卅九目　勃利縣經費	七、二〇〇	九、二七〇	—	—

第四項 各設治局經費	一二、〇〇〇	一二、三六〇	—	三六〇
第一目 烏珠河設治局經費	六、〇〇〇	六、一八〇	—	一八〇
第二目 葦沙河設治局經費	六、〇〇〇	六、一八〇	—	一八〇
第二款 警察經費	四六五、六四三	四八六、四二八	—	二〇、七八五
第一項 吉林警務處經費	二四、〇〇〇	二九、〇〇〇	—	五、〇〇〇
第二項 省會警察廳經費	二六〇、八三六	二六〇、八三六	—	—
第三項 延吉警察廳經費	一二三、四〇七	一二八、〇一六	—	五、六〇九
第四項 琿春商埠警察經費	二、四〇〇	二、五〇二	—	一〇二
第五項 延吉警察游巡隊經費	五六、〇〇〇	六六、〇七四	—	一〇、〇七四
第三款 護墾隊經費	九、九六七	一二、三九二	—	二、四二五
第一項 虎林護墾隊經費	三、八四二	五、一六七	—	一、三二五
第二項 密山護墾隊經費	六、一二五	七、二二五	—	一、一〇〇
第四款 游巡隊經費	四一、二一六	四八、三九八	—	七、一八二
第一項 各縣游巡隊經費	四一、二一六	四八、三九八	—	—
第一目 同江縣游巡隊經費	一、六〇〇	二、〇〇〇	—	四〇〇
第二目 密山縣游巡隊經費	一、六〇〇	二、〇〇〇	—	—
第三目 秋稜縣游巡隊經費	一、六〇〇	二、〇〇〇	—	—
第四目 額秋縣游巡隊經費	一、六〇〇	二、〇〇〇	—	—
第五目 和龍縣游巡隊經費	一、六〇〇	二、〇〇〇	—	—

第六目　德惠縣游巡隊經費	一、六〇〇	二、〇〇〇	—	—
第七目　汪清縣游巡隊經費	一、六〇〇	二、〇〇〇	—	—
第八目　虎林縣游巡隊經費	一、六〇〇	二、〇〇〇	—	—
第九目　綏遠縣游巡隊經費	一、六〇〇	二、〇〇〇	—	—
第十目　富錦縣游巡隊經費	一、六〇〇	二、〇〇〇	—	—
第十一目　濛江縣游巡隊經費	一、六〇〇	二、〇〇〇	—	—
第十二目　饒河縣游巡隊經費	一、六〇〇	二、〇〇〇	—	—
第十三目　勃利縣游巡隊經費	一、六〇〇	—	—	—
第十四目　寶清縣游巡隊經費	三、六一六	三、六一六	—	—
第十五目　東寧縣游巡隊經費	一、二〇〇	一、五〇〇	—	三〇〇
第十六目　琿春縣游巡隊經費	一、二〇〇	一、五〇〇	—	—
第十七目　長嶺縣游巡隊經費	一、二〇〇	一、五〇〇	—	—
第十八目　敦化縣游巡隊經費	一、二〇〇	一、五〇〇	—	—
第十九目　方正縣游巡隊經費	一、二〇〇	一、五〇〇	—	—
第二十目　樺川縣游巡隊經費	一、二〇〇	一、五〇〇	—	—
第廿一目　雙陽縣游巡隊經費	一、二〇〇	一、五〇〇	—	—
第廿二目　樺甸縣游巡隊經費	一、二〇〇	一、五〇〇	—	—
第廿三目　同賓縣游巡隊經費	一、二〇〇	一、五〇〇	—	—
第廿四目　延吉縣游巡隊經費	一、二〇〇	一、二八二	—	八二

第廿五目 烏珠河設治局游巡隊經費	一、六〇〇	二、〇〇〇	—	四〇〇	
第廿六目 葦沙河設治局游巡隊經費	一、六〇〇	二、〇〇〇	—	—	
第五款 商埠經費	七四、三一六	六六、八四〇	七、四七六	—	
第一項 省城商埠經費	二一、二四〇	一五、三九二	五、八四八	—	
第二項 延吉商埠經費	五〇 〇〇〇	四八、六一六	一、三八四	—	
第三項 琿春商埠經費	三、〇七六	二、八三二	二四四	—	
第六款 典禮費	一、四〇〇	二、〇〇〇	—	六〇〇	
第一項 祭祀費	一、四〇〇	二、〇〇〇	—	—	
第七款 吉林省城警察練習所經費	二六、五一四	二九、五一四	—	—	
第八款 警備隊經費	九五、七〇九	九五、七〇九	—	三〇〇	
第九款 補助延琿江和擴充警察經費	七四、四〇〇	七四、四〇〇	—	—	
第十款 分發吉林學習員津貼	—	四、〇二〇	—	—	此項學員ハ既ニ學習期間滿チ歸ル
第十一款 吉林清鄉局經費	五六、〇〇〇	六〇、〇〇〇	—	四、〇二〇	
第十二款 省公署調查費	—	三、六〇〇	—	四、〇〇〇	
第十三款 省城軍警稽查處經費	五、〇二八	五、〇二八	—	—	
第十四款 吉長道尹公署穩密調查費	六、〇〇〇	九、六〇〇	—	—	
第十五款 鎮守使署房租費	九六〇	—	—	三、六〇〇	
第十六款 長春軍警招待所經費	二、四〇〇	二、四〇〇	—	—	
合計	一、四四九、一三七	一、五六四、三六三	一一五、二二六	—	

陸軍部所管歳出表

科目	十四年度預算數	十三年度預算數	比較 増	比較 減	備考
	元	元	元	元	
第一款　督軍公署及軍事機關經費	七、六四一、〇八五	七、二二九、二六〇	四二一、八二五	—	
第一項　督軍公署經費	一八〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	—	—	
第二項　督軍署軍樂第一連經費	六、五二二	六、五二二	—	—	
第三項　督軍署軍樂第二連經費	六、五二二	六、五二二	—		
第四項　陸軍憲兵營經費	四〇、〇〇〇	四〇、一二三	—	一二三	
第五項　陸軍軍機廠經費	二六、八九四	三四、六〇二	—	七、七〇八	
第六項　陸軍醫院經費	一八、六三七	二二、一五二	—	三、五一五	
第七項　陸軍監獄經費	一五、七三六	一八、九二四	—	三、一八八	
第八項　東三省陸軍吉林衛隊步兵第三十四團經費	三一七、三三五	三一七、三三五	—	—	
第九項　東三省陸軍吉林步兵第八旅經費	七二一、三二二	七二一、三二二	—	—	
第十項　東三省陸軍吉林步兵第九旅經費	五二二、三〇四	五二二、三〇四	—	—	
第十一項　東三省陸軍吉林步兵第十旅經費	四五七、五一一	四五七、五一一	—	—	
第十二項　東三省陸軍吉林步兵第十三旅經費	七二〇、六八〇	七二〇、六八〇	—	—	

第十三項 東三省陸軍吉林步兵第十八旅經費	六〇三、〇一一	六〇三、〇一一	—	—
第十四項 東三省陸軍吉林步兵第十二旅經費	五三七、〇六七	五三七、〇六七	—	—
第十五項 東三省陸軍吉林步兵第二十一旅經費	六八五、〇六〇	六八五、〇六〇	—	—
第十六項 東三省陸軍吉林步兵第二十六旅經費	七二四、九一〇	七二四、九一〇	—	—
第十七項 吉長鎮守使署經費	二四〇、〇〇〇	二九、五三四	—	五、五三四
第十八項 濱江鎮守使署經費	二四〇、〇〇〇	二九、五三四	—	五、五三四
第十九項 延吉鎮守使署經費	二八、五〇六	三〇、七三四	—	二、二二八
第二十項 綏寧鎮守使署經費	二八、五〇六	三〇、七三四	—	二、二二八
第廿一項 依蘭鎮守使署經費	一八、〇〇〇	一九、九五八	—	一、九五八
第廿二項 東三省陸軍吉林服裝費	二〇一四、五六八	一四七、七二〇	—	—
第二款 測量局經費	五三、九八七	八二、二七六	—	—
第一項 陸軍測量局經費	五三、九八七	八二、二七六	—	—
第三款 縣署各衙門及旗務總分各處經費	一〇七、九一二	一五三、五七六	—	四五、六六四
第一項 省城正黃旗經費	二、八五四	三、七九九	—	九四五
第二項 省城廂黃旗經費	二、八〇二	三、七七〇	—	六九八
第三項 省城正白旗經費	二、九五〇	三、七五三	—	八〇三

第四項　省城廂白旗經費	三、〇〇七	三、八三三	—	八二六
第五項　省城正紅旗經費	二、七九九	三、七一七	—	九一八
第六項　省城廂紅旗經費	二、八六四	三、七九〇	—	九二六
第七項　省城正藍旗審費	三、一〇一	三、八一六	—	七一五
第八項　省城廂藍旗經費	三、一〇一	三、八一六	—	七一五
第九項　省城蒙古旗經費	三、五六四	四、六八七	—	一、一二三
第十項　省城烏槍營經費	四、四九五	六、八八九	—	二、三九四
第十一項　烏拉協領經費	七、七〇四	七、七〇四	—	—
第十二項　雙城協領經費	三、七九三	三、七九三	—	—
第十三項　五常協領經費	八五二	八五二	—	—
第十四項　審古塔協領經費	三、〇〇〇	一四、三四五	二、三四五	—
第十五項　伯都納協領經費	九六〇	一一、一〇六	一、五〇六	—
第十六項　三姓協領經費	一二、五八三	一六、四二六	三、八四三	—
第十七項　阿勒楚哈協領經費	四、八七二	六、六六三	一、七九一	—
第十八項　琿春協領經費	五、〇〇六	六、九七八	—	一、九七二
第十九項　拉林協領經費	四、三一〇	五、七三〇	—	一、四二〇
第二十項　烏拉翼領經費	七七三	七七三	—	—
第廿一項　伊通佐領經費	二、三四八	二、三四八	—	—
第廿二項　額穆佐領經費	一、二〇〇	一、八〇三	—	六〇三

第廿三項　伊通邊門領催經費	一八八	一八八	—	—
第廿四項　赫爾蘇邊門領催經費	一八八	一八八	—	—
第廿五項　佈爾圖庫邊門領催經費	一八八	一八八	—	—
第廿六章　巴彥鄂佛羅邊門領催經費	一八八	一八八	—	—
第廿七項　省城旗蒙科經費	一四、〇〇〇	一六、八〇〇	—	二、八〇〇
第廿八項　烏拉旗務處經費	一、二〇〇	一、八六〇	—	六六〇
第廿九項　五常旗務處經費	一、二〇〇	一、三九二	—	一九二
第三十項　拉林旗務處經費	九六二	一、〇〇八	—	四六
第卅一項　寧安縣附設旗蒙科經費	八四〇	八四〇	—	
第卅二項　扶餘縣附設旗蒙科經費	八四〇	八四〇	—	
第卅三項　依蘭縣附設旗蒙科經費	九〇〇	九〇〇	—	
第卅四項　阿城縣附設旗蒙科經費	九〇〇	九〇〇	—	
第卅五項　琿春縣附設旗蒙科經費	八四〇	八四〇	—	
第卅六項　伊通縣附設旗蒙科經費	八四〇	八四〇	—	
第卅七項　雙城縣附設旗蒙科經費	九〇〇	九六〇	—	六〇
第卅八項　聯蒙招待費	四、八〇〇	五、二八〇	—	四八〇
第四款　延吉道憲兵營津貼	一、〇四〇	一、〇四〇	—	—
第一項　延吉道憲兵營津貼	一、〇四〇	一、〇四〇	—	—
合計	一、四四九、一三七	一、五六四、三六三	—	一一五、二二六

財政部所管經費

科目	十四年度預算數	十三年度預算數	比較 増	比較 減	備考
	元	元	元	元	
第一款 財政廳經費	五〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	—	一〇、〇〇〇	
第一項 財政廳經費	五〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	—	—	
第二款 徵收局經費	六四七、〇一三	七〇四、五九〇	—	五七、五七七	
第一項 各徵收局經費	五五七、五一三	六〇三、七四八	—	四六、二三五	
第一目 省城徵收局經費	一五、六四四	一九、七三二	—	四、〇八八	
第二目 長春徵收局經費	二九、八六七	三三、三四七	—	三、四八〇	
第三目 雙城徵收局經費	一二、一〇八	一三、四七四	—	一、三六六	
第四目 楡樹徵收局經費	一六、五〇二	一八、〇四六	—	二、〇四四	
第五目 阿城徵收局經費	一六、三七一	一六、三七一	—		
第六目 扶餘徵收局經費	一五、五五二	一九、九二九	—	四、三七七	
第七目 賓縣徵收局經費	一六、五〇五	一六、五〇五	—	—	
第八目 濱江徵收局經費	二六、七七〇	二八、七七〇	—	二、〇〇〇	
第九目 農安徵收局經費	一二、四八九	一四、四八九	—	二、〇〇〇	
第十目 伊通徵收局經費	一九、〇〇〇	二〇、六七四	—	一、八七四	
第十一目 五常徵收局經費	一八、七五〇	一八、七五〇	—	—	

第十二目	盤石徵收局經費	一四、六七一	一四、六七一	—	—
第十三目	依蘭徵收局經費	八、九四六	八、九四六	—	—
第十四目	寧安徵收局經費	一四、五七八	一七、四二三	—	二、八四五
第十五目	舒蘭徵收局經費	一五、一〇一	一五、一〇一	—	—
第十六目	雙陽徵收局經費	一三、一五七	一三、一五七	—	—
第十七目	延吉徵收局經費	一二、四一〇	一二、四一〇	—	—
第十八目	省城木稅局經費	一〇、〇〇〇	一一、六二三	—	一、六二三
第十九目	敦化徵收局經費	七、二八四	七、二八四	—	—
第二十目	下九臺徵收局經費	一二、五四七	一五、六六〇	—	三、一一三
第廿一目	樺甸徵收局經費	八、三四五	八、三四五	—	—
第廿二目	烏拉徵收局經費	九、一三四	九、九六七	—	八三三
第廿三目	呢嗎口徵收局經費	六、六六四	六、六六四	—	—
第廿四目	東寧徵收局經費	一〇、〇二二	一一、九二	—	一、九〇〇
第廿五目	缸窯徵收局經費	六、五四五	二六五四五	—	—
第廿六目	蛟河徵收局經費	八、〇四六	八、〇四六	—	—
第廿七目	同賓徵收局經費	一八、四六五	二〇、一九〇	—	一、七二五
第廿八目	濱江徵收局經費	七、三二五	七、三二五	—	—
第廿九目	琿春徵收局經費	一〇、三〇〇	一一、三二九	—	一、〇二九
第三十目	長嶺徵收局經費	六、〇七〇	六、〇七〇	—	—

第卅一目　方正徵收局經費	一〇、五四二	一〇、五四二	—	—
第卅二目　同江徵收局經費	七、二二一	七、二二一	—	—
第卅三目　樺川徵收局經費	七、三三三	七、三三三	—	—
第卅四目　富錦徵收局經費	七、六八四	八、四九三	—	八〇九
第卅五目　綏遠徵收局經費	七、〇九〇	七、五二六	—	四三六
第卅六目　和龍徵收局經費	六、七三三	六、七三三	—	—
第卅七目　汪清徵收局經費	六、〇七四	六、〇七四	—	—
第卅八目　饒河徵收局經費	八、〇〇〇	八、二八〇	—	二八〇
第卅九目　穆稜徵收局經費	一二、三五二	一三、四六四	—	一、一一二
第四十目　密山徵收局經費	九、四三九	九、四三九	—	—
第四十一目　額穆徵收局經費	六、四〇七	八、〇〇九	—	一、六〇二
第四十二目　德惠徵收局經費	二二、一三三	二四、一三三	—	二、〇〇〇
第四十三目　哈爾濱木石稅費總分務局經費	三八、七六五	四二、六九二	—	三、九二七
第四十四目　拉林徵收局經費	五、四九二	七、四六五	—	一、九七三
第四十五目　孛利徵收局經費	三 五八八	三、五八八	—	—
第二項　各縣徵收田賦經費	九、五〇〇	一〇〇、八四二	—	二、三四二
第一目　吉林縣徵收田賦經費	九、六〇〇	一一、〇二五	—	一、四二五
第二目　濱江縣徵收田賦經費	八九四	一、〇六二	—	一六八

第三目　延吉縣徵收田賦經費	二、八四七	二、八四七	—	—
第四目　琿春縣徵收田賦經費	一、二八三	一、二八三	—	—
第五目　依蘭縣徵收田賦經費	一〇、〇〇〇	一、一七〇	—	一七〇
第六目　五常縣徵收田賦經費	三、九八二	三、九八二	—	—
第七目　扶餘縣徵收田賦經費	七、五三八	七、五三八	—	—
第八目　甯安縣徵收田賦經費	二、三五五	三、三五五	—	一、〇〇〇
第九目　賓縣徵收田賦經費	五、一二四	六、〇六八	—	九四四
第十目　榆樹縣徵收田賦經費	九、五九四	一一、八八六	—	二、二九二
第十一目　阿城縣徵收田賦經費	四、七〇三	四、七〇三	—	—
第十二目　雙城縣徵收田賦經費	九、六二四	一〇、八九四	—	一、二七〇
第十三目　密山縣徵收田賦經費	五〇二	五〇二	—	—
第十四目　伊通縣徵收田賦經費	六、〇九四	七、〇九四	—	一、〇〇〇
第十五目　濛江縣徵收田賦經費	一、一五六	一、一五六	—	—
第十六目　樺甸縣徵收田賦經費	一、二〇〇	一、九一九	—	七一九
第十七目　磐石縣徵收田賦經費	二、八六七	三、一四九	—	二八二
第十八目　舒蘭縣徵收田賦經費	三、二九八	四、〇七五	—	七七七
第十九目　雙陽縣徵收田賦經費	三、八五一	三、八五一	—	—
第二十目　同賓縣徵收田賦經費	二、二九一	二、二九一	—	—
第廿一目　東甯縣徵收田賦經費	七五一	七五一	—	—

第廿二目　敦化縣徵收田賦經費	一、二〇〇	一、四二六	—	二二六
第廿三目　穆稜縣徵收田賦經費	三一三	三一三	—	—
第廿四目　額穆縣徵收田賦經費	一、〇五八	一、二五八	—	二〇〇
第廿五目　汪清縣徵收田賦經費	七八一	七八一	—	—
第廿六目　和龍縣徵收田賦經費	一、二〇〇	一、二四五	—	四五
第廿七目　虎林縣徵收田賦經費	三五	三五	—	—
第廿八目　寶清縣徵收田賦經費	三三五	三三五	—	—
第廿九目　富錦縣徵收田賦經費	一、二〇〇	一、一七九	二一	—
第三十目　樺川縣徵收田賦經費	一、六五四	二、一八七	—	五三三
第卅一目　方正縣徵收田賦經費	一、一三五	一、四四七	—	三一二
第卅二目　饒河縣徵收田賦經費	三五	三五	—	—
第三款　補助費	六〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	—	三〇、〇〇〇
第一項　補助蒙旗行政經費	六〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	—	—
第四款　擴充稅務費	二〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	—	—
第一項　擴充稅務費	二〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	—	一〇、〇〇〇
合計	七七七、〇一三	八八四、五九〇	—	一〇七、五七七

司法部所管經費

科目	十四年度預算數	十三年度預算數	比較 增	比較 減	備考
	元	元	元	元	
第一款 各交涉署經費	七〇、九〇〇	七五、九六六	—	五、〇六六	
第一項 吉林交涉署經費	三一、二〇〇	三三、二〇〇	—	二、〇〇〇	
第二項 長春交涉署經費	四、三〇〇	四、八〇〇	—	五〇〇	
第三項 哈爾濱交涉署經費	三二、二〇〇	三四、二九四	—	二、〇九四	
第四項 延吉交涉署經費	三、二〇〇	三、六七二	—	四七二	
第二款 各縣外交費	八〇〇	八四〇	—	四〇	
第一項 虎林縣外交費	八〇〇	八四〇	—	二、四〇〇	
第三款 哈爾濱交涉署接洽俄領事職務費	九、六〇〇	一二、〇〇〇	—	二、四〇〇	
第一項 哈爾濱交涉署接洽俄領事職務費	九、六〇〇	一二、〇〇〇	—	—	
第四款 琿春邊情調查員薪公費	—	一、二〇〇	—	—	十三年限廢止
第一項 琿春邊情調查員薪公費	—	一、二〇〇	—	—	
第五款 延吉道署外交邊防電報經費	九六〇	一、二〇〇	—	二四〇	
第一項 延吉道署外交邊防電報經費	九六〇	一、二〇〇	—	—	
合計	八二、二六〇	九一、二〇六	—	八、九四六	

科目	十四年度預算數	十三年度豫算數	比較 增	比較 減	備考
	元	元	元	元	
第一款　審檢廳經費	三〇一、六〇〇	三〇五、二二二	—	三、六二二	
第一項　高等審判廳經費	三八、五七四	四一、九六二	—	三、三八八	
第二項　高等檢察廳經費	二一、八九六	二三、六一八	—	一、七二二	
第三項　吉林地方審判廳經費	二九、七二五	三四、九九九	—	五、二七四	
第四項　吉林地方檢察廳經費	二三、八六三	二五、四八八	—	二、六二五	
第五項　長春地方檢察廳經費	二二、一三七	二七、三二四	—	五、一八七	
第六項　長春地方檢察廳經費	二七、九〇一	三一、四四〇	—	三、五三九	
第七項　依蘭縣高等審判分廳經費	三二、五八八	—	—	—	
第八項　延吉地方審判廳經費	二〇、九七九	二三、五四七	—	二、五六八	
第九項　延吉地方檢察廳經費	二三、〇八六	二五、四六二	—	二、三七六	
第十項　延吉審判第一分廳經費	四、二〇〇	四、三六六	—	一六六	
第十一項　延吉檢察第一分廳經費	四、二〇〇	四、五一〇	—	三一〇	
第十二項　延吉審判分廳經費	五、五一七	七、二五二	—	一、七三五	
第十三項　延吉檢察分廳經費	五、九三四	六、九七八	—	一、〇四四	
第十四項　濱江地方審判廳經費	二〇、〇〇〇	二一、八七六	—	一、八七六	
第十五項　濱江地方檢察廳經費	二二、〇〇〇	二六、四〇〇	—	四、四〇〇	

第二款　監獄及監所經費	一五七、九九二	一七〇、一六四	|	一二、一七二
第一項　監獄經費	九四、〇四八	一〇五、五七八	|	一一、五三〇
第一目　吉林第一監獄經費	五二、九八六	六一、三七〇	|	八、三八四
第二目　長春第二監獄經費	五、一八四	五、一八四	|	|
第三目　濱江第三監獄經費	二九、〇〇七	三一、四四一	|	二、四三四
第四目　延吉新監獄經費	六、八七一	七、五八四	|	七一三
第二項　監所經費	六三、九四四	六四、五八六	|	六四二
第一目　濱縣監所經費	四、五九八	五、三三四	|	七三六
第二目　楡樹縣監所經費	二、四四四	三、四四四	|	一、〇〇〇
第三目　農安縣監所經費	二、四四四	三、四四四	|	|
第四目　阿城縣監所經費	二、四四四	三、四四四	|	|
第五目　雙城縣監所經費	二、四四四	三、四四四	|	|
第六目　伊通縣監所經費	二、四四四	三、四四四	|	|
第七目　扶餘縣監所經費	二、四四四	三、四四四	|	|
第八目　磐石縣監所經費	二、二〇〇	二、六五二	|	四五二
第九目　依蘭縣監所經費	二、二〇〇	二、六五二	|	|
第十目　五常縣監所經費	二、二〇〇	二、六五二	|	|
第十一目　寧安縣監所經費	二、二〇〇	二、六五二	|	|
第十二目　同賓縣監所經費	二、二〇〇	二、六五二	|	|

第十三目　長嶺縣監所經費	二、二〇〇	二、六五二	—	—
第十四目　方正縣監所經費	二、二〇〇	二、六五二	—	—
第十五目　雙陽縣監所經費	一、二二六	一、四二六	—	二〇〇
第十六目　舒蘭縣監所經費	一、二二六	一、四二六	—	—
第十七目　樺甸縣監所經費	一、二二六	一、四二六	—	—
第十八目　和龍縣監所經費	一、二二六	一、四二六	—	—
第十九目　汪清縣監所經費	一、二二六	一、四二六	—	—
第二十目　敦化縣監所經費	一、二二六	一、四二六	—	—
第廿一目　德惠縣監所經費	一、二二六	一、〇二〇	二〇六	—
第廿二目　密山縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿三目　東甯縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿四目　穆稜縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿五目　富錦縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿六目　樺川縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿七目　濛江縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿八目　額穆縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿九目　同江縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第三十目　綏遠縣監所經費	五二六	四八四	四二	—
第卅一目　虎林縣監所經費	五二六	四八四	—	—

第卅二目　饒河縣監所經費	五二六	四八四	—	—	
第卅三目　寶清縣監所經費	五二六	四八四	—	—	
第卅四目　勃利縣監所經費	五二六	四八四	—	—	
第卅五目　和龍駐外六道溝監所經費	五二六	四八四	—	—	
第三款　審員經費	二、八三二	二、八三二	—	—	
第一項　和龍駐外六道溝承審員經費	二、八三二	二、八三二	—	—	
第四款　華洋訴訟經費	四、八〇〇	六、〇〇〇	一、二〇〇	—	
第一項　濱口縣兼辦華洋訴訟經費	四、八〇〇	六、〇〇〇	—	—	
合計	四六七、二一四	四三四、二一八	一七、〇九四	—	

教育部所管經費表

科目	十四年度 預算數	十三年度 預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款　廳署經費	二四、〇〇〇元	二八、〇〇〇元	—	四、〇〇〇元	
第一項　教育廳經費	二四、〇〇〇	二八、〇〇〇	—	—	
第二款　補助經費	一八〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	—	二〇、〇〇〇	
第一項　教育補助經費	一八〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	—	—	
合計	二〇四、〇〇〇	二二八、〇〇〇	—	二四、〇〇〇	

農商管經費

科目	十四年度預算數	十三年度預算數	比較 增	比較 減	備考
	元	元	元	元	
第一款 廳署經費	二八、〇〇〇	三〇、〇〇〇	―	二、〇〇〇	
第一項 實業廳經費	二八、〇〇〇	三〇、〇〇〇	―	―	
第二款 實業費	三〇、八〇〇	三九、〇〇〇	―	八、二〇〇	
第一項 省立工藝廠經費	一二、〇〇〇	一五、〇〇〇	―	三、〇〇〇	
第二項 森林局經費	一四、〇〇〇	一八、〇〇〇	―	四、〇〇〇	
第三項 採金局經費	四、八〇〇	六、〇〇〇	―	一、二〇〇	
合計	五八、八〇〇	六九、〇〇〇	―	一〇、二〇〇	

內務部所管費

科目	十四年度預算數	十三年度預算數	比較 增	比較 減	備考
	元	元	元	元	
第一款 郵金	三八、四〇〇	三〇、〇〇〇	―	―	
第一項 警察官吏郵金	三二、〇〇〇	二六、〇〇〇	六、〇〇〇	―	
第二項 文官郵金	六、四〇〇	四、〇〇〇	二、四〇〇	―	
計	三八、四〇〇	三〇、〇〇〇	八、四〇〇	―	

陸軍部所管經費

科目	十四年度預算數	十三年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款 督軍公署及陸軍各旅並軍事各機關經費	九八七、九六四元	七五一、〇五二元	二三六、九一二元	—	
第二款 琿春縣檢察所經費	八六四	八八四	—	—	
計	九八八、八三〇	七五一、九一六	二三六、九一二	—	

財政部所管經費

科目	十四年度預算數	十三年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款 應付銀行利息	二五三、七九四元	一八九、五二八元	六四、二六六元	—	
第一項 中交兩行借款利息	二五三、七九四	一八九、五二八	—	—	
計	二五三、七九四	一八九、五二八	六四、二六六	—	

吉林省十五年度預算表

經常歲入總表

科目	十五年度預算數	十四年度預算數	比較 增	比較 減	備考
田賦	三、〇一五、二四七元	二、七三八、九五六元	二七六、二九一元	—	本預算ハ民國十四年七月一日ヨリ十五年六月ニ至ルモノナリ

科目	十五年度預算數	十四年度預算數	比較 增	比較 減	備考
貨物	六、五二〇、二〇九	五、四四〇、二四二	一、〇七九、九二七	—	
正雜各税	三、四一〇、六五〇	三、一四〇、七一五	二六〇、八九五	—	
正雜各捐	六六九	一一七	五五二	—	
雜收入	九三、六四四	二五五、八七六	一三六、七六八	—	
中央協濟軍費	七五八、〇〇〇	四七五、〇〇〇	二八三、〇〇〇	—	
經常歲入合計	一四、一一九、四一九	一一、〇五〇、九〇六	三、〇六八、五一三	—	

臨時歲入總表

科目	十五年度預算數	十四年度預算數	比較 增	比較 減	備考
官業收入	三三〇、〇〇〇元	二二〇、〇〇〇元	一一〇、〇〇〇元	—	
臨時歲入合計	三三〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	—	
經常臨時歲入總計	一四、四四九、四一九	一一、二七〇、九〇六	三、一七八、五一三	—	

經常歲入內譯表

科目	十五年度預算數	十四年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款田賦	三、〇一五、二四七元	二、七三八、九五六元	二七六、二九一元	—	

第一項　地　租	三、〇一五、二四七	二、七三八、九五六	｜	｜
第一目　地　租	三、〇一五、二四七	二、七三八、九五六	｜	｜
第二款　貨　物　稅	六、五二〇、二〇九	五、四四〇、二四二	｜	｜
第一項　產　地　稅	六七三、九一八	五二四、八六四	｜	｜
第一目　產　地　稅	六七三、九一八	五二四、八六四	｜	｜
第二項　銷　場　稅	五、八四六、二九一	四、九一五、三七八	九二〇、九一三	｜
第一目　銷　場　稅	五、八四六、二九一	四、九一五、三七八	｜	｜
第三款　正　雜　各　稅	三、四三一、六五〇	三、一四〇、七一五	二九〇、八九五	｜
第一項　契　稅	一、〇五七、三〇六	一、〇五七、三〇六	｜	｜
第一目　契　稅	一、〇五七、三〇六	一、〇五七、三〇六		｜
第二項　牙　稅	三四、五四〇	三四、五四〇	｜	｜
第一目　牙　稅	三二、五四〇	三二、五四〇	｜	｜
第二目　牙　帖　稅	二、〇〇〇	二、〇〇〇	｜	｜
第三項　當　稅	三〇、九〇八	二八、三九九	二、五〇九	｜
第一目　當　稅	二〇、〇六六	一八、七四六	一、三二〇	｜
第二目　當　帖　稅	一〇、八四二	九、六五三	｜	｜
第四項　菸　稅	二一〇、九三四	一七四、二八五	三六、六〇九	｜
第一目　菸　稅	二一〇、九三四	一七四、二八五	｜	｜
第五項　酒　稅	五〇九、八七六	四七三、五一三	三六、三六三	｜

第一目 酒税	五〇九、八七六	四七三、五一三	—	—
第六項 燒鍋税	五六、二三四	四八、五五八	七、六七六	—
第一目 燒鍋税	五六、二三四	四八、五五八	—	—
第七項 斗税	六三一、四〇八	五七五、〇二三	五六、三八五	—
第一目 斗税	六三一、四〇八	五七五、〇二三	—	—
第八項 木税	七一〇、七〇八	五九四、六三六	一一六、〇七二	—
第一目 木税	七一〇、七〇八	五九四、六三六	—	—
第九項 山分税	一八九、七三六	一五四、四五五	三五、三八一	—
第一目 山分税	一八九、七三六	一五四、四五五	—	—
第四款 正雜各捐	六六九	一一七	五五二	—
第一項 硝鍋捐	六六九	一一七	—	—
第一目 硝鍋捐	六六九	一一七	—	—
第五款 雜收入	三九三、六四四	二五五、八七六	一三六、七六八	—
第一項 官款生息	四一、九二〇	二三、七六五	一八、一五五	—
第一目 官款生息	四一、九二〇	二三、七六五	—	—
第二項 票照費	三一二、〇四〇	二〇〇、一八四	一一一、八五六	—
第一目 木石票費	三三、〇四〇	二〇〇、一八四	—	—
第三項 契紙價	三九、六八四	三一、九二四	七、七五七	
第一目 契紙價	三九、六八四	三一、九二四	—	—

科目	十五年度預算數	十四年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第六款 中央協濟軍費	七五八、〇〇〇	四七五、〇〇〇	二八三、〇〇〇	—	
第一項 部協第五旅經費	七五八、〇〇〇	四七五、〇〇〇	—	—	
第一目 部協第五旅經費	七五八、〇〇〇	四七五、〇〇〇	—	—	
經常歳入合計	一四、二一九、四一九	一一、〇五〇、九〇六	三、〇六八、五一三	—	

臨時歳入表

科目	十五年度預算數	十四年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款 官業收入	三三〇、〇〇〇元	二二〇、〇〇〇元	一一〇、〇〇〇元	—	
第一項 榷運局純利益金	二二〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	—	
第一目 榷運局純利益金	二二〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	—	—	
第二項 硝磺利益金	一一〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	—	
第一目 硝磺局硝磺販賣利益	一一〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	—	—	
臨時歳入合計	三三〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	—	
經常臨時歳入總計	一四、四四九、四一九	一一、二七〇、九〇六	三、一七八、五一三	—	

經常歳出總表

科目	十五年度預算數	十四年度預算數	比較 増	比較 減	備考
內務費	一、四一八、三六二元	一、四四九、一三七元	—元	—	
陸軍費	一〇、五二四、七二一	七、八〇四、〇二四	二、七二〇、七〇七	—	
財政費	七七七、〇一三	七七七、〇一三	—	—	
外交費	八三、四六〇	八二、二六〇	一、二〇〇	—	
司法費	四六八、九二八	四六七、一二四	一、八〇四	—	
教育費	二〇四、〇〇〇	二〇四、〇〇〇	—	—	
農商費	五八、八〇〇	五八、八〇〇	—	—	
經常歲出合計	一三、五三五、二九四	一〇、八四二、三五八	二、六九二、九三六	—	

臨時歲出總表

科目	十五年度預算數	十四年度預算數	比較 増	比較 減	備考
內務費	三八、四〇〇元	三八、四〇〇元	—元	—	
陸軍費	一、二五一、七四八	九八八、八三〇	二六三、七八四	—	
財政費	三二四、八六七	二五三、七九四	七一、〇七三	—	
臨時歲出合計	一、六一五、八九九	一、二八一、〇二四	三三四、八五七	—	

經常臨時歲出總計	一五、一五一、一九三	一二、一二三、一八二	三、〇二七、七九三	一	

經常歲出內譯表

內務費

科目	十五年度預算數	十四年度預算數	比較 増	比較 減	備考
第一款 各公署經費	元 五八九、五八四	元 五八九、五八四	元 一	元 一	
第一項 省長公署經費	一二六、〇〇〇	一二六、〇〇〇	一	一	
第二項 各道尹公署經費	九六、〇〇〇	九六、〇〇〇	一	一	
第一目 吉長道尹經費	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	一	一	
第二目 濱江道尹經費	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	一	一	
第三目 依蘭道尹經費	二二、〇〇〇	二二、〇〇〇	一	一	
第四目 延吉道尹經費	二六、〇〇〇	二六、〇〇〇	一	一	
第三項 各縣公署經費	二五五、五八四	三五五、五八四	一	一	
第一目 吉林縣經費	一〇、六二四	一〇、六二四	一	一	
第二目 長春縣經費	一〇、六二四	一〇、六二四	一	一	
第三目 濱江縣經費	一〇、六二四	一〇、六二四	一	一	
第四目 延吉縣經費	一〇、六二四	一〇、六二四	一	一	

第五目　琿春縣經費	一〇、六二四	一〇、六二四	—	—
第六目　依蘭縣經費	一〇、六二四	一〇、六二四	—	—
第七目　五常縣經費	九、六〇〇	九、六〇〇	—	—
第八目　扶餘縣經費	九、六〇〇	九、六〇〇	—	—
第九目　寧安縣經費	九、六〇〇	九、六〇〇	—	—
第十目　賓縣經費	九、六〇〇	九、六〇〇	—	—
第十一目　榆樹縣經費	九、六〇〇	九、六〇〇	—	—
第十二目　阿城縣經費	九、六〇〇	九、六〇〇	—	—
第十三目　伊通縣經費	九、六〇〇	九、六〇〇	—	—
第十四目　雙城縣經費	九、六〇〇	九、六〇〇	—	—
第十五目　農安縣經費	九、六〇〇	九、六〇〇	—	—
第十六目　同江縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	—	—
第十七目　密山縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	—	—
第十八目　濛江縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	—	—
第十九目　長嶺縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	—	—
第二十目　樺甸縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	—	—
第廿一目　磐石縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	—	—
第廿二目　舒蘭縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	—	—
第廿三目　德惠縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	—	—

第廿四目　雙陽縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	―	―
第廿五目　同賓縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	―	―
第廿六目　東寧縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	―	―
第廿七目　敦化縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	―	―
第廿八目　穆稜縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	―	―
第廿九目　額穆縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	―	―
第三十目　汪清縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	―	―
第卅一目　和龍縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	―	―
第卅二目　富錦縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	―	―
第卅三目　吉林縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	―	―
第卅四目　樺川縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	―	―
第卅五目　方正縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	―	―
第卅六目　綏遠縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	―	―
第卅七目　饒河縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	―	―
第卅八目　寶清縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	―	―
第卅九目　勃利縣經費	七、二〇〇	七、二〇〇	―	―
第四項　各設治局經費	一二、〇〇〇	一二、〇〇〇	―	―
第一目　烏珠河設治局經費	六、〇〇〇	六、〇〇〇	―	―
第二目　葦沙河設治局經費	六、〇〇〇	六、〇〇〇	―	―

第二款　警察經費	四六五、六四三	四六五、六四三	—	—
第一項　吉林警務處經費	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	—	—
第二項　省會警察廳經費	二六〇、八三六	二六〇、八三六	—	—
第三項　延吉警察廳經費	一二二、四〇七	一二二、四〇七	—	—
第四項　琿春商埠警察經費	二、四〇〇	二、四〇〇	—	—
第五項　延吉警察游巡隊經費	五六、〇〇〇	五六、〇〇〇	—	—
第三款　護墾隊經費	九、九六七	九、九六七	—	—
第一項　虎林護墾隊費	三、八四二	三、八四二	—	—
第二項　密山護墾隊經費	六、一二五	六、一二五	—	—
第四款　游巡隊經費	四一、二一六	四一、二一六	—	—
第一項　各縣游巡隊經費	四一、二一六	四一、二一六	—	—
第一目　同江縣游巡隊經費	一、六〇〇	一、六〇〇	—	—
第二目　密山縣游巡隊經費	一、六〇〇	一、六〇〇	—	—
第三目　穆稜縣游巡隊經費	一、六〇〇	一、六〇〇	—	—
第四目　額穆縣游巡隊經費	一、六〇〇	一、六〇〇	—	—
第五目　和龍縣游巡隊經費	一、六〇〇	一、六〇〇	—	—
第六目　德惠縣游巡隊經費	一、六〇〇	一、六〇〇	—	—
第七目　汪清縣游巡隊經費	一、六〇〇	一、六〇〇	—	—
第八目　虎林縣游巡隊經費	一、六〇〇	一、六〇〇	—	—

第九目	綏遠游巡隊經費	一、六〇〇	一、六〇〇	—	—
第十目	富錦游巡隊經費	一、六〇〇	一、六〇〇	—	—
第十一目	濛江縣游巡隊經費	一、六〇〇	一、六〇〇	—	—
第十二目	饒河游巡隊經費	一、六〇〇	一、六〇〇	—	—
第十三目	勃利游巡隊經費	一、六〇〇	一、六〇〇	—	—
第十四目	寶清游巡隊經費	三、六一六	三、六一六	—	—
第十五目	東寧游巡隊經費	一、二〇〇	一、二〇〇	—	—
第十六目	琿春游巡隊經費	一、二〇〇	一、二〇〇	—	—
第十七目	長嶺游巡隊經費	一、二〇〇	一、二〇〇	—	—
第十八目	敦化縣游巡隊經費	一、二〇〇	一、二〇〇	—	—
第十九目	方正游巡隊經費	一、二〇〇	一、二〇〇	—	—
第二十目	樺川游巡隊經費	一、二〇〇	一、二〇〇	—	—
第廿一目	雙陽游巡隊經費	一、二〇〇	一、二〇〇	—	—
第廿二目	樺甸游巡隊經費	一、二〇〇	一、二〇〇	—	—
第廿三目	同賓游巡隊經費	一、二〇〇	一、二〇〇	—	—
第廿四目	延吉游巡隊經費	一、二〇〇	一、二〇〇	—	—
第廿五目	烏珠河設治局游巡隊經費	一、六〇〇	一、六〇〇	—	—
第廿六目	葦沙河設治局游巡隊經費	一、六〇〇	一、六〇〇	—	—

第五款　商埠經費	七四、三一六	七四、三一六	—	—
第一項　省城商埠經費	二一、二四〇	二一、二四〇	—	—
第二項　延吉商埠經費	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	—	—
第三項　琿春商埠經費	三、〇七六	三、〇七六	—	—
第六款　典禮費	一、四〇〇	一、四〇〇	—	—
第一項　祭禮費	一、四〇〇	一、四〇〇	—	—
第七款　吉林省城警察傳習所經費	二六、五一四	二六、五一四	—	—
第八款　補充延琿江擴充警察經費	七四、四〇〇	七四、四〇〇	—	—
第九款　吉林清鄉局經費	五六、〇〇〇	五六、〇〇〇	—	—
第十款　吉林省城保安警察經費	三六、四八二	—	三六、四八二	—
第十一款　省城軍警稽查處經費	五、〇二八	五、〇二八	—	—
第十二款　吉長道尹公署秋審調查費	六、〇〇〇	六、〇〇〇	—	—
第十三款　吉長鎭守使署房租費	九六〇	九六〇	—	—
第十四款　長春軍警招待所經費	二、四〇〇	二、四〇〇	—	—
第十五款　吉林市政公所經費	二八、四五六	—	二八、四五六	—
經常內務費合計	一、四一八、三六二	一、四四九、一三七	六四、九三八	—

臨時內務費

科目	十五年度預算數	十四年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款 卹金	三八、四〇〇元	三八、四〇〇元	—	—	
第一項 警察官吏金	三二、〇〇〇	三二、〇〇〇	—	—	
第二項 文官卹金	六、四〇〇	六、四〇〇	—	—	
合計	三八、四〇〇	三八、四〇〇	—	—	

外交費

科目	十五年度預算數	十四年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款 各交涉署經費	七〇、九〇〇元	七〇、九〇〇元	—元	—	
第一項 吉林交涉署經費	三一、二〇〇	三一、二〇〇	—	—	
第二項 長春交涉署經費	四、三〇〇	四、三〇〇	—	—	
第三項 哈爾濱交涉署經費	三二、二〇〇	三二、二〇〇	—	—	
第四項 延吉交涉署經費	三、二〇〇	三、二〇〇	—	—	
第二款 各縣外交費	八〇〇	八〇〇	—	—	
第一項 虎林縣外交費	八〇〇	八〇〇	—	—	
第三款 哈爾濱交涉署按辦俄領事職務費	九、六〇〇	九、六〇〇	—	—	

科目	十五年度預算數	十四年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一項　哈爾濱交涉署按辦俄領事職務費	九、六〇〇	九、六〇〇	—	—	
第四款　琿春邊情調査員薪公費	一、二〇〇	—	一、二〇〇	—	
第一項　琿春邊情調査員薪公費	一、二〇〇	—	—	—	
第五款　延吉道署外交邊防電報經費	九六〇	—	—	—	
第二項　延吉道署外交邊防電報經費	九六〇	—	—	—	
合計	八三、四六〇	八二、二六〇	一、二〇〇	—	

財務費

科目	十五年度預算數	十四年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第十款　財政廳經費	五〇、〇〇〇元	五〇、〇〇〇元	—	—	
第一項　財政廳經費	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	—	—	
第二款　徵收局經費	六四七、〇一三	六四七、〇一三	—	—	
第二項　各徵收局經費	五五七、五一三	五五七、五一三	—	—	
第一目　省城徵收局經費	一五、六四四	一五、六四四	—	—	
第二目　長春徵收局經費	二九、八六七	二九、八六七	—	—	
第三目　雙城徵收局經費	一二、一〇八	一二、一〇八	—	—	
第四目　楡樹徵收局經費	一六、五〇二	一六、五〇二	—	—	
第五目　阿城徵收局經費	一六、三七一	一六、三七一	—	—	

第六目	扶餘徵收局經費	一五、五五二	一五、五五二	—	—
第七目	賓縣徵收局經費	一六、五〇五	一六、五〇五	—	—
第八目	濱江徵收局經費	二六、七七〇	二六、七七〇	—	—
第九目	農安徵收局經費	一二、四八九	一二、四八九	—	—
第十目	伊通徵收局經費	一九、〇〇〇	一九、〇〇〇	—	—
第十一目	五常徵收局經費	一八、七五〇	一八、七五〇	—	—
第十二目	磐石徵收局經費	一四、六七一	一四、六七一	—	—
第十三目	依蘭徵收局經費	八、九四六	八、九四六	—	—
第十四目	寧安徵收局經費	一四、五七八	一四、五七八	—	—
第十五目	舒蘭徵收局經費	一五、一〇一	一五、一〇一	—	—
第十六目	雙陽徵收局經費	一三、一五七	一三、一五七	—	—
第十七目	延吉徵收局經費	一二、四一〇	一二、四一〇	—	—
第十八目	省城木稅局經費	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	—	—
第十九目	敦化徵收局經費	七、二八四	七、二八四	—	—
第二十目	下九臺徵收局經費	一二、五四七	一二、五四七	—	—
第廿一目	樺甸徵收局經費	八、三四五	八、三四五	—	—
第廿二目	烏拉徵收局經費	九、一三四	九、一三四	—	—
第廿三目	呢嗎口徵收局經費	六、六六四	六、六六四	—	—
第廿四目	東甯徵收局經費	一〇、〇二二	一〇、〇二二	—	—

第廿五目	缸窰徵收局經費	六、五四五	六、五四五	—	—
第廿六目	蛟河徵收局經費	八、〇四六	八、〇四六	—	—
第廿七目	同賓徵收局經費	一八、四六五	—	—	—
第廿八目	濛江徵收局經費	七、三二五	七、三二五	—	—
第廿九目	琿春徵收局經費	一〇、三〇〇	一〇、三〇〇	—	—
第三十目	長嶺徵收局經費	六、〇七〇	六、〇七〇	—	—
第卅一目	方正徵收局經費	一〇、五四二	一〇、五四二	—	—
第卅二目	同江徵收局經費	七、二二一	七、二二一	—	—
第卅三目	樺川徵收局經費	七、三三三	七、三三三	—	—
第卅四目	富錦徵收局經費	七、六八四	七、六八四	—	—
第卅五目	綏遠徵收局經費	七、〇九〇	七、〇九〇	—	—
第卅六目	和龍徵收局經費	六、七三三	六、七三三	—	—
第卅七目	汪清徵收局經費	六、〇七四	六、〇七四	—	—
第卅八目	饒河徵收局經費	八、〇〇〇	八、〇〇〇	—	—
第卅九目	穆稜徵收局經費	一二、三五二	一二、三五二	—	—
第四十目	密山徵收局經費	九、四三九	九、四三九	—	—
第四十一目	額穆徵收局經費	六、四〇七	六、四〇七	—	—
第四十二目	德惠徵收局經費	二二、一三三	二二、一三三	—	—
第四十三目	[illegible]設木石稅費 [illegible]分各局經費	三八、七六五	三八、七六五	—	—

第四十四目	拉林徵收局經費	五、四九二	五、四九二	—	—
第四十五目	勒利徵收局經費	三、五八〇	三、五八〇	—	—
第二項	各縣徵收田賦經費	八九、五〇〇	八九、五〇〇	—	—
第一目	吉林縣徵收田賦經費	九、六〇〇	九、六〇〇	—	—
第二目	濱江徵收田賦經費	八九四	八九四	—	—
第三目	延吉徵收田賦經費	二、八四七	二、八四七	—	—
第四目	琿春徵收田賦經費	一、二八三	一、二八三	—	—
第五目	依蘭徵收田賦經費	一、〇〇〇	一、〇〇〇	—	—
第六目	五常徵收田賦經費	三、九八二	三、九八二	—	—
第七目	扶餘徵收田賦經費	七、五三八	七、五三八	—	—
第八目	農安徵收田賦經費	二、三五五	二、三五五	—	—
第九目	賓縣徵收田賦經費	五、一二四	五、一二四	—	—
第十目	榆樹徵收田賦經費	九、五九四	九、五九四	—	—
第十一目	阿城徵收田賦經費	四、七〇三	四、七〇三	—	—
第十二目	雙城徵收田賦經費	九、六二四	九、六二四	—	—
第十三目	密山徵收局經費	五〇二	五〇二	—	—
第十四目	伊通徵收局經費	六、〇九四	六、〇九四	—	—
第十五目	濛江徵收局經費	一、一五六	一、一五六	—	—
第十六目	樺甸徵收局經費	一、二〇〇	一、二〇〇	—	—

第十七目　磐石徵收局經費	二、八六七	二、八六七	—	—
第十八目　舒蘭徵收局經費	三、二九八	三、二九八	—	—
第十九目　雙陽徵收局經費	三、八五一	三、八五一	—	—
第二十目　同賓徵收局經費	二、二九一	二、二九一	—	—
第廿一目　東寧徵收局經費	七五一	七五一	—	—
第廿二目　敦化徵收局經費	一、二〇〇	一、二〇〇	—	—
第廿三目　穆稜徵收局經費	三一三	三一三	—	—
第廿四目　額穆徵收局經費	一、〇五八	一、〇五八	—	—
第廿五目　汪清徵收局經費	七八一	七八一	—	—
第廿六目　和龍徵收局經費	一、二〇〇	一、二〇〇	—	—
第廿七目　虎林徵收局經費	三五	三五	—	—
第廿八目　寶清徵收局經費	三三五	三三五	—	—
第廿九目　富錦徵收局經費	一、二〇〇	一、二〇〇	—	—
第三十目　樺川徵收局經費	一、六五四	一、六五四	—	—
第卅一目　方正徵收局經費	一、一三五	一、一三五	—	—
第卅二目　饒河徵收局經費	三五	三五	—	—
第三款　補助費	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	—	—
第一項　補助蒙旗行政經費	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	—	—
第四款　擴充稅務費	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	—	—

科目	十五年度預算數	十四年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一項　擴充稅務費	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	—	—	
合計	七七、〇一三	七七、〇一三	—	—	

臨時財務費

科目	十五年度預算數	十四年度預算數	比較 增	比較 減	備考
	元	元	元		
第一款　應付銀行利息	三二四、八六七	二五三、七九四	七一、〇七三	—	
第一項　中交兩行借款利息	三二四、八六七	二五三、七九四	—	—	
合計	三二四、八六七	二五三、七九四	七一、〇七三	—	

陸軍費

科目	十五年度預算數	十四年度預算數	比較 增	比較 減	備考
	元	元	元		
第一款　督辦公署及軍事機關經費	一〇、三六一、七九二	七、六四一、〇八五	二、七二〇、七〇七	—	
第一項　督辦公署經費	一八〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	—	—	
第二項　督辦署軍樂第一連經費	六、五二二	六、五二二	—	—	
第三項　督辦署軍樂第二連經費	六、五二二	六、五二二	—	—	

項	費目				
第四項	陸軍憲兵營經費	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	—	—
第五項	陸軍軍械經費	二六、八九四	二六、八九四	—	—
第六項	陸軍醫院經費	一八、六三七	一八、六三七	—	—
第七項	陸軍監獄經費	一五、七三六	一五、七三六	—	—
第八項	東北陸軍吉林第十五師司令部經費	九一、四六二	—	九一、四六二	—
第九項	東北陸軍吉林第十六師駐省辦公處經費	一四、四八七	—	一四、四八七	—
第十項	東北陸軍吉林第十六師司令部經費	七三、九二一	—	七三、九二一	—
第十一項	東北陸軍吉林衛隊旅步兵第三十六團經費	三一七、三三五	三一七、三三五	—	—
第十二項	東北陸軍吉林步兵第二十旅經費	七二一、三二二	七二一、三二二	—	—
第十三項	東北陸軍吉林步兵第二十一旅經費	五二二、三〇四	五二二、三〇四	—	—
第十四項	東北陸軍吉林步兵第二十二旅經費	四五七、五一一	四五七、五一一	—	—
第十五項	東北陸軍吉林步兵第二十三旅經費	七二〇、六八〇	七二〇、六八〇	—	—
第十六項	東北陸軍吉林步兵第二十四旅經費	六〇三、〇一一	六〇三、〇一一	—	—
第十七項	東北陸軍吉林步兵第三十五旅經費	五三七、〇六七	五三七、〇六七	—	—

第十八項　東北陸軍吉林步兵第二十六旅經費	六八五、〇六〇	六八五、〇六〇	—	—
第十九項　東北陸軍步兵第二十七旅經費	五九三、〇二六	—	五九三、〇二六	—
第二十項　東北陸軍吉林騎兵第十旅經費	六二七、九八四	—	六二七、九八四	—
第廿一項　東北陸軍吉林騎兵第十三旅經費	七〇一、四三五	—	七〇一、四三五	—
第廿二項　東北陸軍吉林騎兵第十五旅經費	六一八、三九二	—	六一八、三九二	—
第廿三項　吉長鎭守使署經費	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	—	—
第廿四項　濱江鎭守使署經費	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	—	—
第廿五項　延吉鎭守使署經費	二八、五〇六	二八、五〇六	—	—
第廿六項　綏寧鎭守使署經費	二八、五〇六	二八、五〇六	—	—
第廿七項　依蘭鎭守使署經費	一八、〇〇〇	一八、〇〇〇	—	—
第廿八項　東北陸軍吉林服裝費	二、六七一、八九四	二、〇一四、五六八	—	—
第二款　測量局經費	五三、九八七	五三、九八七	—	—
第一項　陸軍測量局經費	五三、九八七	五三、九八七	—	—
第三款　旗署各衙門及旗務分各處經費	一〇七、九一二	一〇七、九一二	—	—
第一項　省城正黃旗經費	二、八五四	二、八五四	—	—
第二項　省城廂黃旗經費	二、八〇二	二、八〇二	—	—
第三項　省城正白旗經費	二、九五〇	二、九五〇	—	—

第四項　省城廂白旗經費	三、〇〇七	三、〇〇七	—	—
第五項　省城正紅旗經費	二、七九九	二、七九九	—	—
第六項　省城廂紅旗經費	二、八六四	二、八六四	—	—
第七項　省城正銀旗經費	三、一〇一	三、一〇一	—	—
第八項　省城廂監旗經費	三、一〇一	三、一〇一	—	—
第九項　省城蒙古旗經費	三、五六四	三、五六四	—	—
第十項　省城烏槍營經費	四、四九五	四、四九五	—	—
第十一項　烏拉協領經費	七、七〇四	七、七〇四	—	—
第十二項　雙城協領經費	三、七九三	三、七九三	—	—
第十三項　五常協領經費	八五二	八五二	—	—
第十四項　寧古塔協領經費	一二、〇〇〇	一二、〇〇〇	—	—
第十五項　伯都納協領經費	九六〇	九六〇	—	—
第十六項　三姓協領經費	一二、五八三	一二、五八三	—	—
第十七項　阿勒楚哈協領經費	四、八七二	四、八七二	—	—
第十八項　琿春協領經費	五、〇〇六	五、〇〇六	—	—
第十九項　拉林協領經費	四、三一〇	四、三一〇	—	—
第二十項　烏拉翼領經費	七七三	七七三	—	—
第廿一項　伊通佐領經費	二、三四八	二、三四八	—	—
第廿二項　額穆佐領經費	一、二〇〇	一、二〇〇	—	—

第廿三項	伊通邊門領催經費	一八八	一八八	—	—
第廿四項	赫兒蘇邊門領催經費	一八八	一八八	—	—
第廿五項	佈兒圖庫邊門領催經費	一八八	一八八	—	—
第廿六項	巴彥鄂佛羅邊門領催經費	一八八	一八八	—	—
第廿七項	省城旗蒙科經費	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	—	—
第廿八項	烏拉旗務處經費	一二、〇〇〇	一二、〇〇〇	—	—
第廿九項	五常旗務處經費	一二、〇〇〇	一二、〇〇〇	—	—
第三十項	吉林旗務署經費	九六二	九六二	—	—
第卅一項	農安縣附設旗蒙科經費	八四〇	八四〇	—	—
第卅二項	扶餘縣附設旗蒙科經費	八四〇	八四〇	—	—
第卅三項	依蘭縣附設旗蒙科經費	九〇〇	九〇〇	—	—
第卅四項	阿城縣附設旗蒙科經費	九〇〇	九〇〇	—	—
第卅五項	琿春縣附設旗蒙科經費	八四〇	八四〇	—	—
第卅六項	伊通縣附設旗蒙科經費	八四〇	八四〇	—	—
第卅七項	雙城縣附設旗蒙科經費	九〇〇	九〇〇	—	—
第卅八項	聯蒙招待費	四、八〇〇	四、八〇〇	—	—
第四款	延吉道憲兵營津貼	一、〇四〇	一、〇四〇	—	—
第一項	延吉道憲兵營津貼	一、〇四〇	一、〇四〇	—	—
經常陸軍費總計		一〇、五二四、七三一	七、八〇四、〇二四	二、七二〇、七〇四	—

臨時陸軍費

科目	十五年度預算數	十四年度預算數	比較 増	比較 減	備考
	元	元	元		
第一款 督辦公署及陸軍各旅並軍事各機關經費	九八七、九六四	九八七、九六四	—	—	
第二款 琿春縣檢察所經費	八六四	八六四	—	—	
第三款 陸軍官兵郵金費	二六三、七八四	—	二六三、七八四	—	
合計	一、二五一、七四八	九八八、八三〇	二六三、七八四	—	

司法費

科目	十五年度預算數	十四年度預算數	比較 増	比較 減	備考
	元	元	元		
第一款 審檢廳經費	三〇一、六〇〇	三〇一、六〇〇	—	—	
第一項 高等審判廳經費	三八、五七四	三八、五七四	—	—	
第二項 高等檢察廳經費	二一、八九六	二一、八九六	—	—	
第三項 吉林地方審判廳經費	二九、七二五	二九、七二五	—	—	
第四項 吉林地方檢察廳經費	二二、八六三	二二、八六三	—	—	
第五項 長春地方審判廳經費	二二、一三七	二二、一三	—	—	

第六項　長春地方檢察廳經費	二七、九〇一	七二七、九〇一	—	—
第七項　依蘭高等審判分廳經費	三二、五八八	三二、五八八	—	—
第八項　延吉地方審判廳經費	二〇、九七九	二〇、九七九	—	—
第九項　延吉地方檢察廳經費	二三、〇八六	二三、〇八六	—	—
第十項　審判第一分廳經費	四、二〇〇	四、二〇〇	—	—
第十一項　延吉檢察第一分廳經費	四、二〇〇	四、二〇〇	—	—
第十二項　延吉審判分廳經費	五、五一七	五、五一七	—	—
第十三項　延吉檢察分廳經費	五、九三四	五、九三四	—	—
第十四項　濱江地方審判廳經費	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	—	—
第十五項　濱江地方檢察廳經費	二二、〇〇〇	二二、〇〇〇	—	—
第二款　監獄及監所經費	一五七、九九二	一五七、九九二	—	—
第一項　監獄經費	九四、〇四八	九四、〇四八	—	—
第一目　吉林第一監獄經費	五二、九八六	五二、九八六	—	—
第二目　長春第二監獄經費	五、一八四	五、一八四	—	—
第三目　濱江第三監獄經費	二九、〇〇七	二九、〇〇七	—	—
第四目　延吉新監獄經費	六、八七一	六、八七一	—	—
第二項　監所經費	六三、九四四	六三、九四四	—	—
第一目　濱縣監所經費	四、五九八	四、五九八	—	—
第二目　榆樹縣監所經費	二、四四四	二、四四四	—	—

第三目　農安縣監所經費	二、四四四	二、四四四	—	—
第四目　阿城縣監所經費	二、四四四	二、四四四	—	—
第五目　雙城縣監所經費	二、四四四	二、四四四	—	—
第六目　伊[illegible]縣監所經費	二、四四四	二、四四四	—	—
第七目　扶餘縣監所經費	二、四四四	二、四四四	—	—
第八目　磐石縣監所經費	二、二〇〇	二、二〇〇	—	—
第九目　依蘭縣監所經費	二、二〇〇	二、二〇〇	—	—
第十目　五常縣監所經費	二、二〇〇	二、二〇〇	—	—
第十一目　寧安縣監所經費	二、二〇〇	二、二〇〇	—	—
第十二目　同賓縣監所經費	二、二〇〇	二、二〇〇	—	—
第十三目　長嶺縣監所經費	二、二〇〇	二、二〇〇	—	—
第十四目　方正縣監所經費	二、二〇〇	二、二〇〇	—	—
第十五目　雙陽縣監所經費	一、二三六	一、二三六	—	—
第十六目　舒蘭縣監所經費	一、二三六	一、二三六	—	—
第十七目　樺甸縣監所經費	一、二三六	一、二三六	—	—
第十八目　和龍縣監所經費	一、二三六	一、二三六	—	—
第十九目　汪清縣監所經費	一、二三六	一、二三六	—	—
第二十目　敦化縣監所經費	一、二三六	一、二三六	—	—
第廿一目　德惠縣監所經費	一、二三六	一、二三六	—	—

第廿二目	密山縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿三目	東寧縣監所經費	九四三	六四三	—	—
第廿四目	穆稜縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿五目	寗錦縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿六目	樺川縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿七目	濛江縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿八目	額額縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第廿九目	同江縣監所經費	九四三	九四三	—	—
第三十目	綏遠縣監所經費	五二六	五二六	—	—
第卅一目	虎林監所經費	五二六	五二六	—	—
第卅二目	饒河監所經費	五二六	五二六	—	—
第卅三目	寶清監所經費	五二六	五二六	—	—
第卅四目	勃利監所經費	五二六	五二六	—	—
第卅五目	和龍駐外六道溝監所經費	五二六	五二六	—	—
第三款	承審員經費	二、八三二	二、八三二	—	—
第一項	和龍駐外六道溝承審員經費	二、八三二	二、八三二	—	—
第四款	華洋訴訟經費	四、八〇〇	四、八〇〇	—	—
第一項	濱江縣交涉華洋訴訟經費	四、八〇〇	四、八〇〇	—	—

科目	十五年度預算數	十四年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第五款　華洋調査員經費	一、八〇四	—	一、八〇四	—	
第一項　濱江道尹公署華洋調査薪公署	一、八〇四	—	—	—	
合計	四六八、九二八	四六七、一二四	一、八〇四	—	

教育費

科目	十五年度預算數	十四年度預算數	比較 增	比較 減	備考
第一款　廳署經費	二、四〇〇元	二、四〇〇元	—	—	
第一項　教育廳經費	二、四〇〇	二、四〇〇	—	—	
第二款　補助經費	一八〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	—	—	
第一項　教育補助經費	一八〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	—	—	
合計	二〇四、〇〇〇	二〇四、〇〇〇	—	—	

農商費

科目	十五年度預算數	十四年度費算數	比較 增	比較 減	備考
第一款　廳署經費	二八、〇〇〇元	二八、〇〇〇元	—元	—元	
第一項　實業廳經費	二八、〇〇〇	二八、〇〇〇	—	—	

第二款 實業廳	三〇、八〇〇	三〇、八〇〇	—	—
第一項 省立工藝廠經費	一二、〇〇〇	一二、〇〇〇	—	—
第二項 森林局經費	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	—	—
第三項 採金局經費	四、八〇〇	四、八〇〇	—	—
合計	五八、〇〇〇	五八、〇〇〇	—	—



第二編　財務行政論

第一章　財政廳

吉林省に於ける徵稅事務は財政廳に於て總括し、全省に三十五の稅捐徵收局を設け管下の分所を統括す。財政廳は中央の財政部の直轄に屬す。財政廳は革命直後は之を度支使と稱し、次いで財政司と稱し民國三年より財政廳と改稱し以て今日に至る。初代より今に至る財政長官を列記すれば、

氏名	名稱	在任年度
饒昌齡	度支使	民國元年
同	財政司長	同二年
同	財政廳長	同三年
熊正琦	同	民國四年 同五年
柴維桐	同	同五年
李哲濬	同	同五年
楊壽枬	同	民國五年 同六年

氏名	職	年
高　　翔	財政廳長	民國六年
唐瑞銅	同	同六年
劉彭壽	同	同七年
董士恩	同	同八年
齊耀珊	同	同九年
王樹翰	同	同十年
榮　厚	同	同十一年
蔡運升	同	同十二年
孫其昌	同	民國十二年／同十三年／同十四年
榮　　厚	同	民國十五年／同十六年／同十七年

財政廳に於ける稅捐徵收手續を示せば。

右圖解說明

一、各局ハ財政廳ニ向ツテ税票ノ交付ヲ請求ス

二、財政廳ハ税票ニ記號捺印ノ上税局ニ交付ス

三、納税人ハ税局ニ向ツテ申告ス

四、局員ハ申告物品ヲ檢査シ税額ヲ計算シテ納税人ニ告知ス

五、納税人ハ税金ヲ納入ス

六、局員ハ税金ヲ收納シ四聯式税票ニ記入シ内二聯ヲ納税人ニ交付シ一聯ヲ以テ局ニ保管シ一聯ハ毎月取纏メ財政廳ニ呈送ス

七、納税人カ第二税局（或ハ分局、分卡）ニ貨物ヲ運搬シタルトキハ税票ヲ呈示シテ檢査ヲ受ク

八、第二税局ハ檢査シテ票貨符合セハ一聯ヲ留メ、一聯ハ捺印シテ納税人ニ返付ス

九、第二税局ハ截留ノ税票ヲ毎月取纏メ財政廳ニ呈示シテ査閲ヲウク

十、各税局ノ毎月收納[illegible]税款ハ當日官銀分號ニ送交ス

十一、官銀分號ハ税款ノ送付ヲウクルヤ、憑單ヲ作成シ税局ニ交付ス

十二、各税局ガ税款ヲ送金シタルトキハ税關送付明細表二通ヲ作成シ憑單ト共ニ財政廳ニ呈送シテ檢收ヲ受ク

十三、財政廳ハ憑單ヲ收受シタル時ハ先ツ收據ヲ發行シ以テ税款收納ノ憑據トナス

十四、各官銀分號ガ税局ニ憑單ヲ發給シタル後ハ直チニ官銀總號ニ通知ス

十五、財政廳ハ税款ヲ收受シタル時ハ直チニ官銀總號ニ通知シ各種通貨ヲ當日ノ相場ニヨリ吉大洋ニ換算シタル後、金庫（中國銀行）ニ預入スルモノトス

十六、官銀總號ハ通知書ニヨリ税款各通貨ヲ吉大洋ニ換算シタル後、金庫ニ交付シテ預入帳ニ記入ス

十七、財政廳ハ科目ニヨリ納入シタル税款ヲ明細表ニ記入シタル後、一部ヲ廳ニ留メ一部ヲ金庫ニ送付シソノ預入金ヲ庫帳ニ轉記ス

十八、金庫ニテハ財政廳ノ發給セル明細表ニヨリ各科目ニ區別シ庫帳ニ轉記シタル後、二聯式收據ヲ作成シ財政廳ニ送付ス

十九、財政廳ハ庫據ヲ接受シタル後、一聯ヲ留メ一聯ヲ税局ニ送付シテ備ヘシム

財政廳に於ける金錢支出規則は次の章程により定めらる。

吉林財政廳發款規則

第一條　財政廳核發各官署經費除奉令特許之款外應照本規則辦理

第二條　各官署每月支付預算書經財政廳查核後應於每月二十五日以前由廳彙編次月總支付預算書三份以一份送吉林分金庫以備核對放款其餘二份俟發款後以一份詳巡按使署一份詳財政部轉送審計院備查

第三條　財政廳查核各官署每月支付預算書以左列之事項爲標準

（一）各官署之俸薪工餉及經常辦公費依議決全年預算之定額分月平均但餉項得按日扣算

（二）消耗內之薪炭應依全年定額分別冬夏增減勻支

（三）大宗購置及工程等項應查核其全年定額已否支過若干本月預算書內有無聲敘必需理由仍以不超出定額爲限並應否按會計法第七章第二十八條履行公告投票等手續

（四）各官署須預領之經費應依會計法第四章第二十條之規定辦理

第四條　財政廳查核支付預算書如有與前條規定各項不符時應於預算書送到之十日內聲明意見並擬訂酌減之數函知各官署請其答覆若無答覆理由即照酌減之數彙編以符核發本旨

第五條　財政廳彙編每月總支付預算總金庫時如各官署之支付預算書未及依審計法施行規則規定之期送到者即歸入次月彙編

第六條　各官署編送支付預算書後應依院定式填寫請款憑單遞送財政廳々中以憑單送到之先後核辦支付飭書

第七條 各官署請款憑單應按每月支付預算書分別經常臨時每一款填送一聯如一月內請領數款或數月之款同時請領者仍應分填不得併列一單之內

第八條 財政廳接到各官署請款憑單後查核支付預算書無疑義時即照填支付飭書並另填發款通知書通知各官署領款

第九條 各官署接到財政廳之發款通知書後應填寫領到支付飭書收據赴廳領取飭書然後依院定三聯總收據式除自留一聯存根外填送兩聯由該本機關長官簽名蓋用官印連同支付飭書赴庫領取現款

第十條 外城官署領款除劃歸吉林分金庫直轄之區域外其餘應由支金庫及代理店撥付之款其支付飭書毋庸赴省請領應由廳於飭書內加蓋某支庫或某代理店撥付字樣截記逕交分庫轉飭支付

第十一條 依前條之規定各官署財政廳發款通知書後應將領到支付飭書收據及三聯總收據一併填齊逕送規定區域內之支庫或代理店撥領現款並帶同通知書以憑査對各該支金庫或代理店撥付現款後應將領到支付飭書收據隨同金庫收支報告表彙送分庫轉交財政廳查核備案

第十二條 預算外臨時發生必不能免之用項得詳由巡按使呈請核准特別辦理

第十三條 預算內之用項因事實上見有特別情形不及按普通規則辦理者得由財政廳詳明巡按使函知金庫提前支付仍於次月彙編總支付預算書時另列敘明

第十四條 本規則如有未盡事宜得由廳詳明巡按使隨時修改

第十五條 本規則自詳奉巡按使批准後公布之日施行

第二章　徴税局

各税局はその一箇年の徴收額の多少により四等級に分たる、左に各統税局、同所在地、同等級等につき掲出すれば

吉林全省税捐總分局一覧表

局別	等級	所屬分局 長期	所屬分局 短期
省城税捐徴收局 長春税捐徴收局	一等 一等	東站第一分局 頭道溝第一分局 南關第二分局 東卡倫第三分局 小合倫第四分局 白龍駒第五分局 小雙城堡第六分局 二道溝第七分局 朱家城第八分局	徳勝門外第二分局
濱江税捐徴收局	一等	田家燒鍋第一分局 正陽河第二分局 江沿第三分局	萬家窩堡第五分局

局名	等級
省城稅捐徵收局	一等
下九臺稅捐徵收局	一等
雙城稅捐徵收局	二等
扶餘稅捐徵收局	二等
榆樹稅捐徵收局	二等

馬架溝第四分局
東大灘第一分局
樺皮廠第一分局
五間房第二分局
放牛溝第三分局
木石河第四分局
葦子溝第五分局
小河沿第六分局
復興屯第七分局
土門嶺第十一分局
韓家甸第一分局
泥泡子第二分局
北站第三分局
珠山第四分局
五家子第五分局
長春嶺第一分局
五家站第二分局
三岔河第三分局
小城子第四分局
五棵樹第一分局
新立屯第二分局

九站第二分局
阿什哈達第三分局
馬頭臺第八分局
河南頭第九分局
營城子第十分局
榆樹溝第五分局

局名	等級	分局
		弓們子第三分局
		閻家屯第四分局
		大嶺第五分尾
		四合城第六分局
		黑林子第七分局
		土橋子第八分局
		向陽泡第九分局
		青山堡第十分局
		秀水甸第十一分局
哈爾濱稅捐徵收局	二等	西江口第一分局
		顧鄉屯第二分局
		香房第三分局
		馬架溝第四分局
		三顆樹第五分局
		大瓦拉第六分局
農安稅捐徵收局	二等	靠山屯第一分局
		伏龍泉第二分局
		高家店第三分局
		哈里海城鎮第四分局
		塔呼第五分局
		四合鷄第六分局
		査干吐莫第七分局
		萬金塔第八分局
		巴吉壘第九分局
		岔路口第八分局
德惠稅捐徵收局	三等	縣城滿一分局

局名	等級	分局
賓縣稅捐徵收局	二等	雙城子第二分局
		老燒溝第三分局
		大興嘴第四分局
		郭家屯第五分局
		東城子第六分局
		朱家船口第七分局
		蜚克圖第一分局
		夾版站第二分局
		高麗帽第三分局
		饒家門前第八分局
		宣家店第十分局
		黃家船口第十一分局
		後灣子第十二分局
		薛家屯第十三分局
		飲馬坑第十四分局
		九千五第四分局
		八里川第五分局
		分水嶺第六分局
		聚源昶第七分局
		新甸第八分局
		烏原河第九分局
阿城稅捐徵收局	二等	蜚克圖第一分局
		太平橋第二分局
		聚源昶第三分局
		二層甸子第四分局
磐石稅捐徵收局	二等	黑石鎮第一分局
		煙角山第二分局
		呼蘭集廠第三分局
		朝陽山第四分局
		吉昌鎮第五分局
		亮子河第六分局
		欒家崗第七分局
		抱馬川第八分局
		鄭家橋第九分局
		松咀第十分局

局名	等級	分局
		黏魚汀第十一分局
		德勝溝第十二分局
		興隆川第十三分局
雙陽稅捐徵收局	三等	岔路河第一分局
		奢嶺口子第二分局
		一拉溪第三分局
		劉家店第四分局
		雙河鎭第五分局
		葦登站第六分局
		新站第七分局
		范家店第八分局
舒蘭稅捐徵收局	三等	掄坡子第一分局
		小城子第二分局
		霍倫川第三分局
		芹菜河第四分局
		法特哈門第五分局
		大成店第六分局
		西方三第七分局
		永和屯第八分局
		會船口第九分局
		謝家窩堡第十分局
五常稅捐徵收局	三等	五常縣第一分局
		太平山第二分局
		蘭彩橋第三分局
		沖河第四分局
		二道河第五分局
		炕沿山第六分局
		向陽山第七分局
		七道崗第十分局
		八里甸第十一分局
		對兒店第十二分局

五常堡第八分局
六道溝第九分局

寧安稅捐徵收局　三等

海林站第一分局
東京城第二分局
牡丹江第三分局
横道河子第四分局
沙蘭鎮第五分局

伊通稅捐徵收局　三等

營城子第一分局
赫爾蘇第二分局
葦山屯第三分局
下二臺第四分局
大孤山第五分局
葉赫站第六分局
小孤山第七分局
二十家子第八分局
伊巴丹第九分局
五臺子第十分局
景家臺第十一分局
大南屯第十二分局
半拉山門第十三分局
火石嶺第十四分局

同賓稅捐徵收局　三等

一面坡第一分局
東夾信第二分局
烏吉密河第三分局
柳樹河第四分局
葦沙河第五分局
太平嶺第六分局
老爺嶺第七分局
十站第八分局

延吉稅捐徵收局　三等

銅佛寺第一分局

徵收局	等級	分局
		頭道溝第二分局
		六道溝第三分局
		甕聲磖子第四分局
		帽爾山前第五分局
樺甸稅捐徵收局	四等	漂河口第一分局
		常山屯第二分局
		横道河子第三分局
		八道河子第四分局
		螞蟻河第五分局
		四方甸子第六分局
樺川稅捐徵收局	四等	佳木斯第一分局
		江沿第二分局
依蘭稅捐徵收局	四等	土龍山第一分局
		依蘭南北關子第二分局
拉林稅捐徵收局	四等	帽兒山第一分局
		八家子第二分局
		靠河寨第三分局
		柳條甸第四分局
		三合甸第五分局
		古城甸第六分局
東寧稅捐徵收局	四等	大成子第一分局
		綏芬河第二分局
		小綏芬河第三分局
方正稅捐徵收局	四等	南天門第一分局
		大羅勒密第二分局
		西豐溝第三分局
		德墨利第四分局
		瓜蘭川第五分局
		伊汗通第六分局
		腰嶺子第七分局
		柳樹子第八分局

烏拉稅捐徵收局 四等
富錦稅捐徵收局 四等
蛟河稅捐徵收局 四等
長嶺稅捐徵收局 四等
敦化稅捐徵收局 四等
密山稅捐徵收局 四等
缸窑稅捐徵收局 二等
穆稜稅捐徵收局 四等

白旗屯第一分局
共塔木第二分局
舊站第三分局
雙岔河第一分局
尤家屯第二分局
新安鎮第一分局
北正鎮第二分局
太平山第三分局
寶清第一分局
龍王廟第二分局
夾信子第三分局
白泡子第四分局
馬橋河第一分局
下城街第二分局

兩家子第四分局
孤店子第五分局
上河灣臨時分局
江沿第一分局
楊木口第三分局
江密峯第四分局
張家伙房第四分局
沙河沿第一分局
黃泥河子第二分局
鳴駒橋第一分局
村咀子第二分局
窩家口子第三分局
溪浪河第四分局

琿春稅捐徵收局　四等
和龍稅捐徵收局　四等
汪清稅捐徵收局　四等
濛江稅捐徵收局　四等
額穆稅捐徵收局　四等
同江稅捐徵收局　四等
呢瑪口稅捐徵收局　四等
饒河稅捐徵收局　四等

穆稜站第三分局
八面通第四分局
東溝第一分局
土門子第二分局
黑頂子第三分局
二道河子第四分局
風灣子第五分局
懷慶街第一分局
三道溝第二分局
涼水泉第一分局
哈瑪塘第二分局
那爾轟第一分局
官地第一分局
張廣才嶺第二分局
街津口第一分局
圖斯科第二分局

西泊子第二分局
三岔第三分局
四岔第四分局
東江沿第五分局
六咀山第三分局
撓力溝第三分局
許爾固第四分局
獨木河第二分局
團山子第一分局

局名	等級
勃利稅捐徵收局	四等
綏遠稅捐徵收局	四等
濱江木石稅費局	

小根菜子第一分局
西風咀第三分局
燕窩第四分局

烏蘇里第一分局
秦得利第二分局
石廠第三分局
顧鄉屯第四分局
四家子第一分局
大窪拉站第二分局
二層甸子第三分局
一面坡第四分局
橫道河子第五分局
綏芬河第六分局
老山頭第七分局
南天門第八分局
伊汗通第九分局
德莫利第十分局
新甸第十一分局
大羅勒密第十二分局
依蘭第十三分局
佳木斯第十四分局
富錦第十五分局
同江第十六分局

民國十五年度税捐徴收額表

イ、總表

局名	前年度	本年度	省城ヨリ距離
省城局	五一〇、二一八	五三五、七二九	—
長春局	六二〇、一九八	六二〇、一九八	二四〇
濱江局	九一三、一六二	五六四、四七八	五五〇
省木税局	四二一、〇八一	三五七、九一九	—
下九臺局	四〇九、六〇一	五七三、四四一	—
哈爾濱局	三一二、四四五	四〇六、一七八	—
雙城局	二六七、三八二	三七四、三三五	四六〇
扶餘局	二六七、三三四	三二〇、八〇一	六〇〇
楡樹局	二四七、三〇八	二五九、六六七	二七〇
農安局	二三九、九〇八	二四七、七〇三	三八〇
徳惠局	二〇九、四二五	二七二、二五二	三六〇
賓縣局	二〇四、三九四	二一四、六一四	六〇五
阿城局	一八八、九三七	二〇七、八三一	四六〇
伊通局	一四四、七九九	一四四、七九九	二八〇

寧安局	一四二、五七八	一八五、三五一	八〇〇
同賓局	一四一、一〇五	二八二、二一〇	八四〇
五常局	二三三、〇七七	一四六、三八四	四九〇
雙陽局	一三〇、〇六二	一五六、〇七四	一九〇
磐石局	一二四、〇三四	一四八、八四一	三五〇
延吉局	一〇九、九一二	一〇九、九一二	八一五
樺甸局	七三、二七六	八七、九三一	二七〇
舒蘭局	一〇五、〇四三	一二六、〇五一	一八〇
樺川局	一〇一、四九二	一三一、九四〇	一、四〇五
石城局	七八、四四四	二七四、五五四	―
依蘭局	七六、三三〇	八九、二二九	一、〇二五
拉林局	七四、六七四	八二、一四一	―
東寧局	六〇、一九六	六六、二一五	一、一九五
富錦局	五四、九九四	七六、九九一	一、六四五
方正局	五二、三一〇	五七、五四一	九〇五
烏拉局	四六、五六〇	六五、一八四	―
長嶺局	三五、四二四	三七、一九五	五二〇
蛟河局	三四、一三〇	三五、八三六	―
敦化局	三〇、一六三	三九、二一二	四八〇

ロ　內譯表

琿春局	二八、三〇〇	二九、七一五	一、〇五〇
缸窰局	二七、九一三	三三、四九六	—
穆稜局	二七、〇七四	二九、七八一	八一〇
密山局	二四、一七八	二六、五九五	一、二九〇
和龍局	一九、一〇七	二二、〇一七	八九五
汪清局	一四、八一九	二〇、七四六	一、〇二五
濛江局	一〇、八八七	八、七一〇	四八〇
額穆局	九、一二八	一一、八六六	三五〇
呢嗎局	七、七八二	八、五六〇	—
寶清局	五、〇〇二	五、五〇二	一、四〇〇
敦利局	四、九一一	五、四〇二	一、五〇〇
同江局	四、七六二	五、七一四	一、七八五
饒河局	三、八九九	四、二八八	一、九四〇
綏遠局	三、一四七	三、七七二	二、一八〇
濱江木石税局	四〇三、八三二	四〇三、八三二	—
合計	六、七五〇、七三二	七、九二七、七三六	—

局別	等別	月別計							備考
省城徴收局	1	二〇、九七九元 三三、五一一	二六、八七一元 八六、〇五三	三九、三三四元 九、一九一	三三、七五五元 一九、四一〇	三七、九八二元 三三、一五五	四四、七五八元 二四、七一二	三三五、七三九元	七月－十二月 一月－六月
長春徴收局	1	二〇、〇四一 八二、八三六	二三、一五九 七九、六〇七	四三、三〇一 七一、七四八	二二、〇四五 六五、四四二	五〇、六〇三 四〇、九〇五	七八、二七一 三三、二四一	六二〇、一九	同
下九臺徴收局	1	四、八四三 一二〇、六一五	四、〇一八 五三、二〇七	六、〇五五 七七、二一七	六、六七四 三九、六四二	四六、八七九 二八、九八八	一六六、七九九 二八、五〇四	五七三、四四一	同
省城木税局	1	四一、〇四六 一〇、三三六	七三、五六二 五、五〇七	四三、七七四 二、七〇七	二三、六五二 五、四四三	七、八一四 四四、八三三	一三、六〇四 八八、七五一	三五七、九一九	同
濱江徴收局	1	七一、八六三 八三、五六〇	二〇、八五七 四一、五三四	一七、四六六 二〇、〇二一	五六、三三三 九〇、三〇三	二〇、〇六六 三三、九九八	七三、一九〇 三七、三三九	五六四、四七八	同
扶餘徴收局	2	二三、八一八 六三、三六一	一四、九八四 四三、四三一	七、九四三 四一、七三〇	一七、五四五 二八、〇五一	一一、八二六 二八、〇五〇	二六、七二四 二四、四四九	三二〇、八〇一	同
雙城徴收局	2	一八、八五五 四九、四〇一	一六、〇一五 四八、〇九一	一六、一六〇 四三、三八七	二五、四四二 三三、七四七	三五、五一九 二四、九六二	五三、七五九 二一、〇六七	二七四、三三五	同
哈爾濱徴收局	2	五八、八六三 五五、四二三	三一、〇六四 三六、八四五	三〇、四七一 三七、一五九	三三、〇二八 三九、八五九	二七、五九八 三九、八五九	三〇、八九六 三三、八三四	四〇六、一七八	同
楡樹徴收局	2	六、五七四 三六、七九九	六、五七四 三七、一二五	三、七五七 三〇、八一〇	一三、三三八 二〇、三九八	一八、五八七 一九、一三二	五三、一九九 一一、六七八	二五九、六六七	同
農安徴收局	2	五、三八一 三九、八二三	七、九一四 三四、六八〇	九、一一九 四二、八三三	一五、三〇一 二一、一四六	一八、〇八六 一三、六一五	二七、七二六 一三、〇七九	二四七、七〇三	同
德惠徴收局	2	六、九一五 四二、七六六	七、三三八 三八、〇九一	八、〇四六 三五、五二三	八、二九八 三五、〇九〇	二〇、四〇一 一〇、六〇〇	五一、〇一五 八、二七〇	二七三、二五三	同
賓縣徴收局	2	九、八四四 二七、四八六	七、六六六 二二、六四四	一一、八九九 二八、〇四五	一五、四八九 一六、七五四	一三、八七三 三三、八二二	二四、三三三 一四、七七九	二一四、六一四	同
阿城徴收局	2	七、四〇九 七四、一〇九	四、一一三 一八、九〇四	四、三二四 九、二〇八	九、三三六 二七、六六三	二三、七一六 九、〇〇五	八二、八一〇 四、一七九	二七四、五五四	同

伊通徴收局	3	二、六六〇 三、一二七	四、四七六 一四、三一七	七、七七五 一、七五四	四、七一五 一四、四七七	一四、四四六 九、九五九	二九、一五一 八、九四二	一四四、七九九	同
同賓徴收局	3	六、八八六 四二、三〇四	五、六二四 四二、九八〇	九、一四四 四二、八五八	三、〇九八 二八、八六六	一五、六七六 一六、一七八	四五、〇一八 一四、七七八	二八三、二一〇	同
五常徴收局	3	七、〇三三 二三、七〇一	三、二九七 二四、一八六	六、〇二一 一四、三九九	六、四六一 一七、三七八	八、六一〇 七、三一九	二一、一二九 六、三六一	一四六、三八四	同
磐石徴收局	3	三、四八四 二一、四四一	三、四二七 一八、三〇五	四、〇九七 三二、二七三	六、〇六四 一七、二四五	七、一〇六 七、三五三	二四、〇五九 三、九八七	一四八、八四一	同
寧安徴收局	3	五、七七五 二、四七三	五、八一六 一六、五二二	一〇、〇一〇 二三、三五一	九、九一六 二〇、九七七	一五、八八二 一八、三三四	一六、八〇三 一七、六七三	一八五、三五一	同
雙陽徴收局	3	四、七三六 二一、一五四	四、二二〇 一七、七二九	五、二七二 一八、七九二	七、六三九 一六、七五〇	一〇、七五五 九、一三八	三一、六五五 四、九四五	一五六、〇七四	同
舒蘭徴收局	3	八、五五四 二六、五九二	二、九九八 二三、七一二	三、五五三 一二、八八三	五、三九〇 三、四四六	四、一六五 四、七一八	二五、四七一 三、五二〇	一三六、〇五一	同
延吉徴收局	3	七、四六一 六、二八三	五、七四二 九、三一三	七、五四六 一四、六三五	七、九一九 九、〇〇〇	九、四三一 一〇、一〇八	一四、五七六 七、九〇〇	一二九、九一三	同
樺甸徴收局	4	五、六九八 一八、二三五	三、二〇三 一六、六七九	四、七五二 七、五九一	四、二二三 六、四五四	四、七一五 五、四〇七	六、八八五 四、一〇〇	八七、九三一	同
樺川徴收局	4	一〇、一一五 八、二九八	七、七一七 七、一四六	七、二一六 五、九九三	七、一三一 八、六二〇	七、五五四 二七、八三一	一二、五一八 二三、八〇二	一三一、九四〇	同
依蘭徴收局	4	五、五五九 七、二四一	四、四六四 一〇、〇〇一	五、三一六 一〇、一九二	五、四二五 一四、〇九一	七、一七七 一一、七九九	八、二四二 九、七三三	九九、二三九	同
拉林徴收局	4	二、七三二 一三、二四〇	二、六五三 一一、四〇九	三、六七〇 八、八三七	五、一八九 五、六三三	八、三三三 五、九一二	一〇、八二三 三、七九一	八三、一四一	同
東寧徴收局	4	四、八七七 四〇九	五、三三一 五、〇九八	五、三三二 六、四八八	五、六八〇 五、六九九	七、七六三 五、二九三	八、五六七 五、七一八	六六、二一五	同
方正徴收局	4	四、三六四 二、九九五	一、七四一 三、一七七	二、一〇〇 三、四一三	三、三一三 七、二一九	二、八三三 一三、八二七	四、一七三 八、六八八	五七、五四二	同

烏拉徵收局	4	三,五八〇	七,一六九	三,一三一	八,一六六	三,一七五	六,七四一	四,〇二三	五,八七九	五,五四五	五,三八五	八,〇三九	四,三九二	六五,一八四	七月—十二月 一月—六月
富錦徵收局	4	七,九一八	四,二一七	五,二三六	二,八四九	五,九九一	七,一三四	四,八六五	六,五九八	四,三七四	八,三九四	六,八七七	一二,五三八	七六,九九一	同
蚊河徵收局	4	一,〇〇四	七,二九四	七九七	四,九八六	一,二〇〇	三,二七六	一,五七四	二,九三三	一,八八三	一,三六一	八,四一五	一,一一三	三五,八三六	同
長嶺徵收局	4	一,六八五	五,〇六四	一,九〇四	三,六七四	三,二九八	四,五二九	二,三三〇	三,三二六	二,〇二三	二,三〇七	五,四一八	一,六三七	三七,一九五	同
敦化徵收局	4	一,九六二	四,四六五	一,三九五	四,〇五九	一,五一三	四,九〇六	二,一五五	三,五五〇	三,四八七	四,二六八	五,七二一	一,七四一	三九,二二二	同
密山徵收局	4	一,六四三	三,二五四	六一九	二,八一一	一,七〇四	三,八九三	一,二五七	二,二九二	一,四五九	一,八八三	二,七〇八	二,〇七三	二六,五九五	同
缸窯徵收局	4	九四八	三,六九九	一,三四八	五,七九六	二,二三〇	二,九四〇	三,二三七	一,一八三	三,二三八	一,六三五	七,三三八	一,〇二四	二三,四九六	同
穆稜徵收局	4	一,三三〇	三,八三九	一,四二〇	四,一二八	一,五七二	四,〇六四	二,〇二二	二,六八〇	二,四一九	一,五四二	四,三七七	四八九	二九,七八一	同
琿春徵收局	4	一,八二七	五,八六八	一,六二四	三,二六〇	一,三八二	三,〇九六	一,五〇三	二,四九七	一,九四五	一,九七七	二,四四九	二,三八七	二九,七五一	同
和龍徵收局	4	八五八	一,八七七	八八二	二,〇八一	九七〇	二,四一二	七四三	二,四七三	一,一二八	二,九六四	一,八四七	二,七八二	二一,〇一七	同
汪清徵收局	4	二,〇一〇	一,四〇六	一,四七四	一,四九五	一,六二二	一,二四七	一,四九二	一,三五一	一,五四四	一,八七七	三,一四八	二,〇八〇	二〇,七四六	同
濛江徵收局	4	三一九	一,八四六	一七一	一,三三四	八五八	一,〇五〇	五五六	五六〇	三四四	三一四	七〇六	七六三	八,七一〇	同
額穆徵收局	4	三九八	一,九九三	四六〇	一,四六〇	五二〇	一,六〇二	六一三	一,〇四〇	四〇四	一,八一二	一,三一八	一,二四七	一二,八六六	同
呢嗎口徵收局	4	四五二	六八五	四三一	九七六	三七二	一,三八八	三二九	五一七	四三五	八六二	一,六七六	四三七	八,五六〇	同

同江徵收局	4	六八五 / 四七三	三五一 / 三三七	四六八 / 四五七	三八二 / 四五一	四四三 / 五九〇	五一二 / 五六五	五、七一四	同
勃利徵收局	4	二二八 / 六七三	三三一 / 四七三	五四九 / 四九七	六〇三 / 四七六	二七九 / 四一五	五三八 / 三四二	五、四〇二	同
饒河徵收局	4	二三三 / 六〇六	一五四 / 五〇五	一一〇 / 三二二	九七 / 四五六	四七八 / 三四〇	八二五 / 一八二	四、二八八	同
綏遠徵收局	4	三八五 / 一六八	三五八 / 三二一	三〇三 / 二五四	二六四 / 二〇	三六八 / 四一二	三四八 / 四五六	三、七七六	同
哈爾濱木石稅費局	4	三八、〇二〇 / 四六、九五三	三〇、一二五 / 一八、八四四	三三、八八七 / 二七、〇一四	三三、一一四 / 二七、五七三	三〇、六〇 / 三七、〇七〇	四九、二八三 / 三〇、四九〇	四〇三、八三一	同
寶清徵收局	4	六九一 / 六〇九	五九三 / 四三三	四三〇 / 六五八	一六五 / 六二九	一六一 / 五四三	二七八 / 三三四	五、五〇二	同
合計		四三、八〇一 / 二二五、二四六	三六三、〇五五 / 八五三、六九九	四〇一、四二五 / 八三一、八三七	四五三、八二四 / 七〇三、五八四	五四四、一三五 / 五七九、一六一	二一四、三三九 / 五四四、六四〇	七、九二七、七三六	同

備考　本稅額中ニハ左ノ諸稅ヲ包含ス
出產、銷場、菸稅、酒稅、斗稅、牙稅、木稅、山份木植票費、牲畜稅、屠宰稅、硝滷捐等十三項

商民完納稅捐章程（民國二年九月七日）

第一條　商民既享共和幸福對於國家稅捐應負報納完全責任以盡國民義務

第二條　凡舖商應納七四九厘各捐向係按月報納嗣後在城各商上月稅捐限於下月初三日以前完納其在外鎮者距局窵遠限於初六日以前完納俾稅局得以依限報解免致逾延

第三條　凡正經體面商號無論生意賠賺尙能自知顧名譽不致隱匿稅捐惟有奸狡商民容心匿漏希圖取巧其匿漏情形種々不同應按情節輕重以定加罰倍數漏稅情節分晰列左

甲　藏匿眞帳另造僞帳以多報少使稅局員司無從稽察

乙　應納稅貨物不列進貨帳內

丙　將賣貨賒帳列入往來帳內不寫取貨錢若干而寫取錢若干迨買主交付貨錢時亦寫收錢若干不列賣貨錢帳

丁　糧棧及糶米舖將買入糧石假立堂名作爲他人寄存之糧

戊　藉舊日已稅票照影射未稅貨物

己　販運貨物隱匿不報或將未稅之貨夾帶已稅貨內運銷

庚　藉詞不按稅章故意因循圖省稅項

辛　將應納稅捐賄買稅局不肯司巡以多報少或全數隱匿

以上各節一經稅局查出如犯右列甲乙丙丁戊己六項情節較重除責令照章補納正稅外並照補納正稅數目加十倍議罰庚辛　項情節稍輕應按五倍議罰其有意抗稅及不服罰辦者由稅局報明察辦

第四條　各稅局卡員司書巡等月領薪工既經改章從優發給應知潔己奉公倘敢再蹈故轍任意苛擾或勒索小費名目准該商民據實禀究決不寬貸倘因稅局稽查認眞無法偷漏挾嫌妄禀一經查處應將具禀之人照例懲辦以儆誣妄

第五條　各該稅局照章於春秋兩季查稅時務預先移知商會一面由局出示曉諭以便該商臨時接洽如由稅局訪聞漏稅隨時飭派司書檢賬查對不在預先通知之列惟省城各商號如在雜貨糧店錢藥當六樣研究所者無論何時查稅應知會商會派人會同往查

第六條　商民如有未能通曉稅捐章程者准向該處商會轉函附近稅局領閱俾資遵納

第三章　徵收官吏の成績考查

吉林省各稅捐本局及分局所の徵稅官は財政部訂徵收釐稅考成條例により考成せらるゝ外、民國十年十二月改訂の修正廳訂整理徵收特別辦法の適用を受く。同規定によれば徵收官吏たり得る者は部訂釐稅考成條例第二十三條に定むる五項の資格を具備する者にして、殷實商店の保證書或は同鄉奏任官二人以上の推薦あるを要す。而してその徵收稅額は廳訂表列に從ひ財政廳に送付するを要し、若し規定日限內に送廳せざる者は左の各項に從ひ處罰を受く。

甲　定限に遲るゝこと五日の者は記過一回、十日のものは記大過一回、過二回を重ねたる者は一大過とし、大過三回を重ねたる者は免官す。

乙　記過一回に處せられたる者には罰俸十元を課し、記大過一回に處せられたる者には罰俸二十元に處す。

丙　記大過に處せられたる後、尙稅額を送廳せざる者は財政廳より委員を派し徵收官を責令し稅額を賠償せしむ。

丁　特別の障害或非常の事故ある者は、先づ予め期限延期を電請すべし。但期限を一度延期し、もし再び延期すればば條文により辦理す。

戊　曾て廳署に在つて記功に處せられたる者は功を以て過或は罰俸と相殺するを得。

己　徵收官吏公金費消其の他不正當の行爲ありたるときは免官に處する外、費消金額の十倍乃至六十倍の罰金に處す。

屬、書記等の舞弊に對しては、該屬、書記を處罰する外徵收官をして連帶責任を負擔せしめ、その情狀重き者は

法庭に送り治罪す。

而してその賞に關しては滿三箇月目毎に考査を行ひ。

(1)　成績優良にして記過なき者は記功一次に處し、記功二次に及べば一大功と爲す。

(2)　徴收官吏は三箇月毎の考査に於て、一、二等局長にして規定額より三千元、三、四等局長にして一千元の增收を得たる者は特にその一割を賞與す。これに反し一割以上の減收をなし何等特別の事情非る者を免官す。

(3)　徴收官吏在任一年にして、規定額より三割以上の增收を得たる時は、(1)、(2)により賞與する外、勳章或獎章の下附を呈請す。

次いで徴稅局員の稅金送付の責任について述べやう。

關稅を徴收し國庫に送付するは徴稅官吏の責任であり義務である。徴稅官吏にしてもしこの種の義務に違反したる場合には、刑事、民事、行政の三制裁を受けなければならない。而してこの中、刑、民事の兩制裁は本稿に於て論ずべき範圍以外に屬すれば姑く之を云はず、茲には專らその行政上の責任について說述すべし。

(1)　徴收上の責任

徴稅の責任に關しては田賦の徴收責任に關するものと、厘稅の徴收に關する責任との二に分たる。

田賦は一分以上の未納額を作りたる當該縣知事は三箇月間月俸の十分之二を減ぜられ、二分以上未納額を生ぜしめたる者には半箇年間月俸の十分之二を減ぜられ、三分以上の者は一箇年間月俸の十分之二、四分以上の者は官の等級を低下せしめ、五分以上の者はその官職を褫奪し、これが監督の責を有する財政廳長、道尹、省長も亦等

しく相當の處分を受く。

厘稅徵收に關する責任については、三箇月每に行はるゝ考核に於てその預算收入額に比し一割の減收を來さしめたる者には記過一次とし、一割以上のものは該職を退かしむ、一年每に行はるゝ考査に於ては、減收一割以上之者は該職を退かしむるか、或は官等級を降らしめ、減收二割以上の者には、官職褫奪處分に附し、もし稅を隱匿中飽等の行爲あらば免職の外、法により該稅額の追徵を命ず、又稅率外に徵稅し、或は惡商と結託する等の行爲ある者も亦同じ。全省の年末考査に於て總額に於て減收あるか、或徵收官の舞弊に對し之の督察を誤りたる時は財政廳長も亦處分を受く。

(2) 稅額送付の責任

徵收官吏は規定稅額を徵收するは勿論、その徵收稅額を國庫に送付し受領書を得たる後でなければその責任は免がれ得たりと云ふことは出來ぬ。もし已むを得ざる事情あり規定額を送付する能はざる場合には豫め財政廳に申達してその許可を得なければならぬ。もし然らずしてその責を怠るときは民事上の賠償の責任を負擔せしめらる。

之を厘稅につき云へば、每月規定送付額を規定期日內に送付せざるものは左記に據り各々處分せらる。

五日以上者　記過一次
十日以上者　記大過一次
半月以上者　記大過二次

會計出納の官吏として、水、火災盜難其他事變の事により、保管の現金物品を遺失せるときは、審計院に於て不可抗力と認むる以外は、その責任を免る能はず。

一　月　以　上　者　　免　　職

財政廳は前記各徵稅員の成績考查を行ふが爲、民國八年より賦稅督察章程を發布し督察員を設けた。該章程によれば。

(1) 財政廳は賦稅を整頓し、利弊を考核せんが爲督察員を設け、すべての徵稅官吏、縣知事、木石稅局、官銀錢號、其他官有營業について調查及考查せしむ。

(2) 賦稅調查は全省の道の區分に從ひ四分區とし、每區に督察員一名、稽查六名、即ち總計督察四名、稽查二十四名を設け、又別に所屬分區を定めざる密查委員を設け各督察員及稽查の行動を監視せしむ。

(3) 督察總辦事處は之を財政廳內に設け、財政廳より科長科員數人を派遣し文書並稽查事務を辦理せしむ。各區督察、稽查員に對しては隨時巡回せしめ固定機關を設けず。各區督察及稽查員は半年每に更任せしむ。

(4) 督察員は財政廳長の指揮命令を受け、左記各事項を考查及辦理す。

イ　賦稅徵收手續の考查及糾正に關する事項

ロ　局卡の位置及管轄に關する事項

ハ　經徵、兼徵官の成績考查に對する查定

ニ　貨幣換算の稽察及證明に關する事項

ホ　税額送廳督促に關する事項

ヘ　賦税の利害、其他官業の陳情に關する事項

ト　人民憂樂の狀況及豐年不作に關する調査

チ　國家地方正附加税の輕重の如何並之が改革に關する事項

(5) 稽査は督察員の指揮を受け前記各項事務を補助する外、左の事項を辦理す。

イ　司巡の不正隱匿等を偵査す

ロ　貨物の脱税の稽査

(6) 督察員、稽査員脱税税額不足を發見したるときは左の處分を行ふ。

甲　脱　税　補税票を發行し、相當の罰金に處し、これに關係ある司巡は之を懲戒す。

乙　納税不足　不足額の納付を命ず

(7) 督察員は次の報告書を提出すべし。

甲種報告　毎日の經過事件を日記に書き、月末に一括報告す

乙種報告　特別重要事項

(8) 督察員に對する奬勵方法は

甲　記　功

乙　加　俸

丙　賞　　奬

月俸給は

甲　級　　一百二十元

乙　級　　一百元

丙　級　　八十元

(9)　稽査の奬勵方法並俸給は

甲　記　功

乙　加　俸

丙　奬勵金給附

丁　昇　任

甲　級　　四十元

乙　級　　三十五元

丙　級　　三十元

吉林財政廳設立賦稅督察章程（民國八年十二月三十日）

第一章　總　　綱

第一條　本廳為整頓賦稅考核利弊起見呈請設置督察專員率同稽查分區巡視以資整理

第二條　凡徵收官吏經徵之縣知事木石稅局官銀號其他官有營業均依本章程之規定受督察員之調查及考核

第二章　設　置

第三條　賦稅稽查分全省為四區以四路道尹區域為督察區域

第四條　本廳附設督察總辦事處由廳長就本廳科長科員指派數人辦理文牘及稽核事宜

第五條　每區各設督察一員稽查六員計四區共設督察員四員稽查員二十四員此外另設密查委員不均額數不分區域由廳長隨時指派專察各區督察稽查之是否盡職有無徇庇情事密報廳長核奪

第六條　各區督察稽查就所轄區域內隨時梭巡不設固定機關

第七條　都察稽查密查各員由廳印發調查證並發給調查廳用紙所有應行查報事項即由各該員用應用紙詳細填列隨時呈報

第八條　各區稽查報告事件由督察員核轉如遇緊急或應守祕密者得直接報告總辦事處

第九條　按照第三條規定就各區適中或繁盛之處指定一縣署或徵收局為督察駐所凡本廳發遞文電即直達該駐所之縣或徵收局代收代交但不得無故停留在二十四小時以上

第十條　各區督察員及稽查由廳長隨時更調至久不得逾半年

第三章　職務及權限

第十一條　督察員承財政廳長之指揮命令應行考察及辦理左列之事項

一　關於徵收賦稅手續之考查及糾正

二　關於局卡之位置及管轄
三　關於經徵兼徵考成之稽核
四　關於貨幣折合之稽核及證明
五　關於款項報解之查催
六　關於賦稅利弊之興革及其他官營業之條陳
七　關於民生憂樂之狀況及年歲豐歉之調查
八　關於國家地方正附稅捐有無輕重複雜應如何修正之報告
第十二條　稽查承督察員之指揮助理前條規定各項事務外並理左列之事項
一　偵查司巡之弊混及隱匿
二　稽察商貨之偷漏及繞越
第十三條　督察員對於徵收事項有認爲應行改革者得商同該主管官吏辦理並報告財政廳長核奪
第十四條　凡查有浮存未解款項得促令該主管機關在二十四小時以內設法解出如任意延緩得電呈財政廳長察核
倘督察員不照前項履行經密查員査出或有人報告督察員應負完全責任
第十五條　督察員按照第二條第三條規定對於所轄區內各機關簿記表冊票據得隨時檢查之
第十六條　督察員及稽查遇有必要時得請縣知事徵收局或軍警機關派兵護送應需路費由該員酌給
第十七條　督察員及稽查應分攜左列聯單由財政廳印發之

甲　補　稅　票

乙　驗　換　票

丙　罰　款　票

第十八條　督察員及稽查查有漏稅或短稅者應加以左列之處分

甲　漏稅　按照稅額給以補稅票

乙　短稅　按照稅額補足對原局稅票收回填給驗換票

丙　漏稅短稅者之處罰

前項漏稅或短稅者酌量情形處以相當之罰金並填給罰款票

前項漏稅短稅關係司巡者由督察員從嚴懲處之

前項之處分就最近之徵收機關行之其補徵稅款及罰金交該徵收機關專文解徵另由督察員將辦理情形呈報廳長

第十九條　凡查有票面不寫月日不填騎縫不蓋名戳及貨物數量註不明等弊均填給驗換單將原票扣留呈繳財政廳以憑根究

第二十條　督察員報告分左之二種

甲種報告　將每月經過事件記成日記月終報告一次其報告程式或用呈文或以稟信行之

乙種報告　關於特別重要事項或表示意見者得用文書隨時呈報不拘次數

第二十一條　督察員及稽查就本區所轄各機關每月須巡視一次以上

凡巡視一機關必檢查明確條述其辦理條項附加評斷呈報財政廳查核

第四章　奬　懲

第二十二條　督察員之奬勵分左列之四種

甲　記　功

乙　加　俸

丙　專案呈請給奬

第二十三條　稽查之奬勵分左列之四種

甲　記　功

乙　加　俸

丙　酌給奬勵金（由罰款提成支給）

丁　提　升

第二十四條　督察員及稽查之懲戒除特別感節查照二十七條辦理外餘依左列處分

甲　記　過

乙　罰俸及減薪

丙　撤　退

第二十五條　督察員及稽查任事三個月由總辦事處考核一次分別奬懲之

第二十六條　督察員任事半年以上並無過失者取得徵收局長資格由財政廳以徵收局長記名儘先任用

第二十七條　督察員及稽查如查有得賄情事隨時撤差送文法意依法懲處

第二十八條　管轄區內各機關長官主任及員司對於督察員及稽查如有供應或餽送物件等一經查出依法懲處

第二十九條　督察員所轄區內各機關如有侵蝕徇隱及浮收病高等弊發覺在該督察員報告以前者由財政廳長察核依二十四條處分之

第五章　經費

第三十二條　督察員月俸分為三級

甲級	一百二十元
乙級	一百元
丙級	八十元

第三十三條　稽查月薪分為三級

甲級	四十元
乙級	三十五元
丙級	三十元

第三十四條　密查委員月俸一級一百元

第三十五條　督察員及密查委員旅費每日額定三元稽查旅費每日額定一元

第三十六條　督察員密查委員及稽查輪船火車等費及郵費均由所領旅費內開支惟遇有緊要事件須用電達者得將電局收據

每月彙報總辦事處核發

第三十七條　前條旅費督察及稽查員由出發之日起至回省之日止稽查自出發之日起按日計算支給免去造報手續

第六章　附　則

第三十八條　督察總辦事處辦事細則另定之

第三十九條　本章程自呈省長核准之日施行

第四十條　本章程如有未盡事宜由財政廳長認為必要時得呈請修正或增減之

吉林財政廳賦稅督察總辦事處辦事細則（民國九年一月二十六日）

第一條　本辦事處附設財政廳內承廳長之命令辦理賦稅督察文賦稽核及其他一切事宜

第二條　本處置主任一員由總務科長兼任副主任一員由徵權科長兼任助理員五員由機要泉幣綜核田賦稅捐各股股長兼任

均不支薪雇員二人每人月薪二十元

第三條　主任副主任承廳長命令總核本處事務對於本處主管一切事宜有完全擔負之責

第四條　助理員受主任督率負辦理本處事務之責

第五條　雇員受主任助理之指揮專司繕寫及保管往來各項文件

第六條　各督察區域往來文件均由本處呈轉

第七條　本處薪金紙張筆墨郵電等費月支大洋二百元如有特別事件超過額定之數須先呈明廳長核准方許支出

第八條　本細則如有未盡事宜由廳長認爲必要時得呈請修正或增減之

第九條　本細則自呈省長核准之日施行

改訂全省統稅局章程（民國元年十二月三十日）

第一章　俸薪及費用

第一條　全省統稅局主管官並稽徵稽查委員應支官俸及司事書記巡役應支薪水備金及一切費用俱按此次所訂各種標準按月支領

甲　官　俸

一　全年收數向在一百五十萬吊之上者主管官月支吉洋三百元（所謂向在者以舊收數核計非新增比較之數）

一　全年收數向在一百萬吊之上者主管官月支吉洋二百五十元

一　全年收數向在五十萬吊之上者主管官月支吉洋二百元

報告照章徵處（理由）按吉林統稅局舊章主管薪水只吉林長春兩局月支官價銀一百兩其餘由五十兩以至三十兩不等按價核計支給百兩者僅吉錢三百三十吊他如五十兩以下所得至微而一切局用及薪炭雜支復予以極端限制吉林生計之高不可嚮通廉其俸給則弊竇環生有不忍究詰之勢民國肇始凡事當開誠布公推心置腹其整理方法自以增加官俸爲第一要義然後明細訪查設再有纖毫弊端按法重徵自可折服其心免以薄俸爲口實至稽徵稽查委員向支薪水僅官價銀二十八兩核錢九十餘吊以表面觀之其數極薄而謀者紛如蓋有不可揣測之心也茲已一律如增俸給俾養苟再否私作

弊與主管員同處極等懲罰以重稅款

一　全年收數向在五十萬吊之下者主管官月支吉洋一百五十元

一　全年收數向在二十萬吊之下者主管官月支吉洋一百元

一　統稅局稽查委員（吉長兩局提調均無無所事應行裁徹凡文案收支皆同稽查）無論收數應月支吉洋五十元（其職務僅司查察稅務等項不得經手一切收稅事宜設主管員派司分卡稅務既非司署委任設有遺誤由主管擔任完全責成）

一　統稅局稽徵委員有分卡駐守者月支吉洋六十元（徵稽委員）雖有分卡駐守一切比較整理及解款催稅責成仍屬稅局主管員完全職務不得因有稽徵員遂懷推諉設稽徵員不服督率或有營私實據由主管者一概不紛解款川資

一　稅局不與官銀錢號同城及非三十里以內由局解至就近官銀錢分號或總號無論解款多少除撥兵護送外本局應派解送司事或書記及巡役兩人往返費用每百里准支事價三元旅費一元解到後守候批件以三日爲限應日支火食店費一元不支車價

一　護解兵役或陸軍或府縣悉歸稅局主管員指請派援體百里馬兵應支草豆飯食八角、步兵飯食五角凡解款多者以五名爲限（支給護兵費用應將名數往返里數詳細呈報）

一　統稅局奔稅川資旅費每年向支吉錢一千四百吊者准支吉洋二百元八百吊

乙　薪　金

一　統稅局司事向支薪水官價銀十六兩者應月支吉洋三十元

一　統稅局書記向支薪水官價銀十二兩者應月支吉洋二十元

一　統稅局巡役向支傭金官價銀七兩者應月支吉洋十二元

（理由）按查稅核算各事均司事書巡職務亦極重要原支薪水傭金除火食費用而外餘不足以目贍身家欲求一意奉公決無此理茲按新章核計以巡役一項而論月得傭金吉洋十二元合錢五十餘吊或六十吊以外除火食十數吊外仍餘錢四十餘吊此吉省普通勞動者賃金尤覺優厚體恤周至自非極頑之流未有不喚起自愛之心也

丙　費用（卽全省統稅局卡應支催捐川資紙張筆墨油燭一切雜用之費及冬春五個月以外之薪炭）

一　統稅局全年收數在一百萬吊之上者應月支吉洋一百二十元

一　統稅局全年收數在五十萬吊之上者應月支吉洋九十元

一　統稅局全年收數在五十萬吊之下者應月支吉洋八十元

一　統稅局全年收數在二十萬吊之下者應月支吉洋五十元

一　統稅分卡無論收數凡在設立期內每卡月支吉洋六元

丁　解款查稅川資及分卡解款川資

一　有官銀錢號與稅局同城及距離在三十里之內並局卡相距亦在三十里以內者准支吉洋一百六十元六百吊准支吉洋一百二十元四百吊准支吉洋八十圓二百吊准支吉洋四十元（旣已支給川資者用如有私仕商號取求供給之事査出以營私論）

一　統稅分卡解款至局應給車價旅費並護兵費用照稅局解款辦理

戊　房金電報薪炭費

一　全省統稅局卡租房賃金仍照支之數請領
一　全省統稅局卡電報郵信費用照實開支於月終造具電報事由家數及郵費清册送司備核
一　統稅局應支薪炭之費
一　全省統稅局卡租房賃金仍照原支之數淸領
一　全省統稅局卡電報郵信費用照實開支於月終造具電報事由字數及郵費淸册送司備核
一　統稅局應支薪炭之費由十一月起至次年三月底每年准支吉洋二十元惟吉長兩局准月支吉洋四十元
一　統稅分卡應支薪炭之費由十一月起次年三月底止有稽徵駐守者每月准支吉洋六元無稽徵駐守者每月准支吉洋三元（理由）按以上核定均照實在需要之數從優擬給不使主管官稍有賠補以致藉口至護兵飯食吉林向有官糧名目薄償旅費不足者由旅店擔負極不公平玆亦從優支給草豆及食宿之費免累商民

第二條　統稅局卡請領開支及折合銀圓章程另行規定

第二章　比　較

第三條　全省統稅局比較以近三年同月收入平均之數加增三成（如第一年十月收數爲八千吊、第二年十月收數爲一萬二千吊、第三年十月收數爲一萬吊平均本年十月應收一萬吊加增三成以一萬三千吊爲及額至長春農安長嶺德惠四屬應徵契稅現在尚未實行征收將來開征另訂比較以資準則）（理由）閒嘗討論吉林稅務減收之緣因僉謂通都大邑之鉅商絕無甘心匿稅之理縱有亦爲收稅官所利誘若偏僻村市局卡中飽之弊蓋難言矣推其致弊之由悉因俸薪太薄且如解款應用之費一切限制太嚴使謹厚者亦思染否則公虧私累相併而來弊以養官稅款滯塞非所以勵官常也本章於官俸局用一層已設身籌畫

體貼無餘設無加增比較以爲立法之中堅則食部者積習相沿絕難望其起色而增加之費用已成虛擲故所增比較即搜剔中飽一項已可有餘非加增於稅目及現行之稅率也

第四條　比較不足者主管官照第三章懲罰比較有餘者主管官照第四章獎功

第三章　懲　罰

第五條　按新增比較收入不足照下列各項懲罰以三個月爲綜核期一三個月並計如減收一成免予懲罰(其攤成法例如表)

月別	原額	加增	一成減收	二成減收	三成減收
甲月	一萬吊	三千吊	三萬	三萬	三萬
乙月	一萬二千吊	三千六百吊	九千	六千	三千
丙月	一萬一千吊	三千三百吊	六百吊	二百吊	吊
合計	三萬三千吊	九十九百吊	共計	四萬二千九百吊	

(按所加之數分爲三成如表列三個月併計應增收錢九千九百吊每成攤錢三千三百吊設如短收一成則按共收數四萬二千九百吊除去一成餘爲三萬九千六百吊共二成三成皆以此遞減至本章第七條一月核計者亦以應加之數分而爲三可也)

一　減收至一成以上二成以下停支主管官官俸兩個月(如表所收已過三萬六千二百吊而不足三萬九千六百吊是爲減收一成以上二成以下但常年收數向在一百五十萬吊之上者即增加一成以上數已至鉅凡至一成以上之減收免其罰薪減收至二成以上仍按章辦理)

一　減收至二成以上除停止三個月官俸並撤差外仍全數罰賠(如表所收已過三萬三千吊而不足三萬六千二百吊是爲減收二成以上是太不知振作應全數着賠)有營私實據發行地方官廳或審判廳照侵盜例按刑事裁判一面登報廣告(理由)

按懲罰賠繳即爲加增薪費之抵償除抵償費用外仍須增收稅款公家方得實濟否則徒勞老本章於停薪罰賠兩層必責力遵守不稍融活並依時派人密查有營私實據雖濫收絲毫亦必按法嚴懲

第六條　有特別減少情形爲普通所公認者准由統稅主管員通告全省免按前條懲罰仍按所減成數核減主管官俸

第七條　收數如果銳減則不綜俟核期但有一個月所減太鉅即照第五條徵罰（理由）稅旺處所一月能收至十數萬吊設遇狡猾稅官私挪至鉅如必待三月過後始行綜核則過期既久補救爲難故短收至鉅者概弗以三月爲例也

第八條　賠經繳清主管官不得離境逾一月不繳者交地方官應押追

第九條　全省統稅局加成比較數目另由司刊刻明細表公布全省

第四章　獎　功

第十條　按新增比較收入有餘者主管官按甲乙兩項獎勵

甲　實地獎勵

一　加增比較之外增收至一成以上者就所增出之數提給獎金十分之一

一　加增比較之外增收至二成以上者就所增出之數提給獎金十分之二

一　加增比較之外增收至三成以上者就所增出之數提給獎金十分之三

一　全年比較增至二成之上即准連任

乙　名譽獎勵（除實地獎勵外仍按半年增收給名譽獎勵一次）

一　加增比較之外增收至一成以上由司報明本省長官批語獎勵仍登報宣布

一　加增比較之外增收至二成以上報明本省長官轉呈國務院存記奬勵

一　加增比較之外增收至三成以上由本省長官呈報大總統按等發給勳章奬勵（凡名譽勵奬以半年收數併計）（理由）奬勵功績爲立法之常經治事之大本必增加三成以上始予以種々奬勵爲激勸之具也

第十一條　前條奬金名義上歸主管官一人承領其下如何提奬由主管官秉公支配但主管者應得奬金多數

第五章　雜　則

第十二條　本章程於國稅分廳制度及官俸章程未經之頒布先不失效力

第十三條　全省統稅局卡從前所分票底自本章施行後一概停止全數解司歸入正款充本省公用（司署委員年節亦有分給票底之例雖亦列入預算作爲奬金由前度支部核准然年功加俸亦當另訂規章正項支給不當取於此款自本章程發行後一律裁止）

第十四條　各局卡査出漏稅徵取罰款其提給之數以五成解司五成充賞

第十五條　所增薪費應改訂預算案報部査核

第十六條　全省統稅局解款限期及前後任接收交代章程另行規定

第十七條　哈爾濱木石稅局一切開支不適用前項規定由司另訂薪金費用數目

第十八條　本章自民國二年正月一日實行試辦三箇月之後如有窒礙再行隨時修改（理由）本章之擬定未敢視爲完善故必待試辦三月委員密査實有經驗之後然後再行區畫何者應修何者應改非必刻舟以求創造車而合轍也其未經修改之先本章不失效力

修正廳訂整理徵收特別辦法（民國十年十二月十二日改訂）

第一條　徵收官吏（兼徵收之縣知事同）資格依據部訂厘稅考成條例第二十三條所定五項資格辦理

第二條　徵收官吏自奉到委任後應取具本商殷實商號保證書或同鄉薦任官二人以上印結送廳核覆方准到差書式印結式另定之

第三條　徵收官吏之交代前任徵存未解各款責由接任人員接收具報在未交淸以前該接任人員有監視責任餘仍照部令交代條例辦理

第四條　徵收稅款應交駐在地之官銀號保管無官銀行號地方由局長妥爲保存擔負完全責任

第五條　徵收稅款依廳訂者列之程限分別報解（表附列）

第六條　徵收官吏違第五條之規定程期者依左列各項處辦

甲　一解逾定限五日者記過一次十日記大過一次積兩過爲一大過積三大過者撤辦

乙　一記過一次罰俸十元大過一次罰俸二十元罰俸款項由廳於月領經費內核扣

丙　記大過後仍不呈解者即由廳派員守提應需旅費責令徵收官照數包賠由廳於月領經費內核扣其有委員未到款已解出者仍以未呈解論

丁　實有特別障碍情形或非常變故者應先電請寬展期限但亦祇能寬展一次如再逾限仍依條文辦理

戊　一在廳署曾經因事記功者得以功抵過並免罰俸

第七條　徵收官吏丟失票照依各該局是月是項稅收最多の票額計張罰款

第八條　徵收官吏査有侵蝕公款及其他不正當行爲除撤任外並按贓私款額加以十倍至六十倍之處罰員司書巡舞弊除科罰員司書巡外徵收官並應連帶負責按本條文實行處罰其情節輕重者處罰後仍另送法庭依法治罪

第九條　徵收官吏任事屆滿三個月由廳考核次如果成績優良並無過犯者亦准予記功一次積兩功爲一大功

第十條　徵收官吏三個月屆滿考核於規定比較外一二等局長收滿三千元三四等局長收滿一千元者特准提給一成獎令其收不足額短在一成以上又無特別情形呈准有案者卽予撤任

第十一條　徵收官吏在事一年如果長收在定額三成以上除照第九第十兩條分別獎勵外並予專案呈請獎給勳章或奪章

第十二條　此項辦法自呈准公布之日實行其不在本辦法條文規定者仍照部定厘稅考成條例並省單行各法辦理



第三編 歲入論

第一章 總説

一國の文化は主都に聚るの鐵言が果して眞ならば、吉林省は地、最東北に位し國都を距る甚だ遠き僻遠の地に存し文化の度又遲るゝの甚しきものと云はなければならぬ。實に吉林省は東三省中、黑龍江と共に奉天省に比しその文化の遲るゝこと甚しく、その歲出入年額の如き奉省に比すべくもない。

これ元より文明開化の度低きが爲による諸施設諸經費の少額によるは論を俟たぬとするも、尙歲入少きが故に支出亦少しに非ずとは誰が保し得やう。況んや今日支那は尙入るを計つて出づるを制するの財政時代を彷徨しつゝあるにおいてをや。

吉林省財政收入を豐かならしめんが爲には、徹底的に財務行政の刷新を企てなければならぬ。吉林省の財政は外觀形式に之を觀むるならば、甚だ整頓せるかの如くであるが、その內容を檢するならば官吏の腐敗、財務行政の失敗は脫稅の機會を多からしめ、歲入は甚だ少きにある。卽ち民國に入つて中央政府は劃分國家地方稅法草案を各省に通過して之を實施せしめ、吉省も當初之を遵奉した。今その兩稅區劃の內容について見れば、中央、地方行政諸經費として徵收する租稅を國家稅と稱し、地方自治團體が自治事務諸經費の爲に徵收する租稅を

地方稅と稱し（同草案第一、第二條）その稅目次の如し。

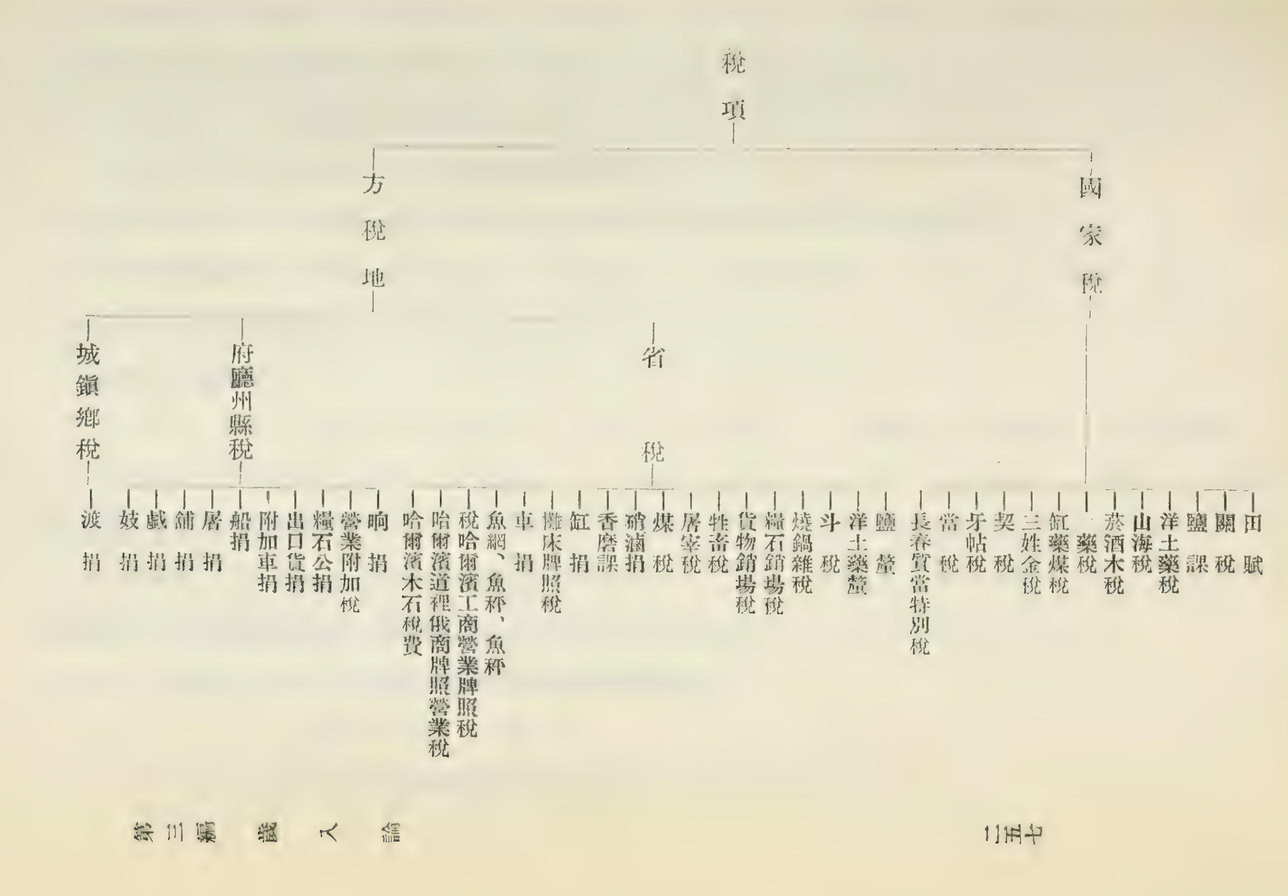
國家稅（第三條及第五條）

(1) 田賦　(2) 鹽課　(3) 關稅　(4) 印花稅　(5) 常關
(6) 統捐　(7) 釐金　(8) 礦稅　(9) 契稅　(10) 牙稅
(11) 當稅　(12) 牙捐　(13) 當捐　(14) 烟稅　(15) 酒稅
(16) 茶稅　(17) 糖稅　(18) 漁業稅　(19) 其他雜稅雜捐　(20) 登錄稅
(21) 通行稅　(22) 遺產稅　(23) 營業稅　(24) 所得稅　(25) 出產稅
(26) 紙幣發行稅

地方稅（第四條及六條）

(1) 田賦附加稅　(2) 地捐　(3) 商稅　(4) 牲畜稅　(5) 糧米捐
(6) 油捐及醬油捐　(7) 船捐　(8) 雜貨捐　(9) 店捐　(10) 房捐
(11) 戲捐　(12) 車捐　(13) 樂戶捐　(14) 茶館捐　(15) 飯館捐
(16) 魚捐　(17) 屠捐　(18) 肉捐　(19) 夫行捐　(20) 其他雜稅雜捐
(21) 房屋稅　(22) 國家が課稅せざる營業稅　(23) 國家課稅せざる消費稅
(24) 營業附加稅　(25) 所得附加稅

而して後吉林省が本草案に則りて樹立せる同省稅項系統について見れば、



税項
國家税
田賦
關税
鹽課
洋土藥税
山海税
菸酒木税
藥税
缸藥煤税
三姓金税
契税
牙帖税
當税
長春質當特別税
省税
鹽釐
洋土藥釐
斗税
燒鍋雜税
糧石銷場税
貨物銷場税
牲畜税
屠宰税
煤税
硝滷捐
香磨課
缸捐
攤床牌照税
車捐
魚網、魚秤、魚秤
税哈爾濱工商營業牌照税
哈爾濱道裡俄商牌照營業税
哈爾濱木石税費
地方税
府廳州縣税
晌捐
營業附加税
糧石公捐
出口貨捐
附加車捐
船捐
城鎮鄉税
屠捐
舗捐
戲捐
妓捐
渡捐

劃分國家地方稅法草案

第一章 總綱

第一條 國家因中央及地方行政諸經費所徵收之租稅爲國家稅

第二條 地方自治團體因處理自治事務諸經費所徵收之租稅爲地方稅

第二章 現行稅之劃分

第三條 國家稅之種類如左

一、田賦 二、鹽課 三、關稅 四、印花稅 五、常關 六、統捐 七、釐金 八、礦稅 九、契稅 十、牙稅 十一、當稅 十二、牙捐 十三、當捐 十四、煙稅 十五、酒稅 十六、茶稅 十七、糖稅 十八、漁業稅 十九、其他之雜稅雜捐

第四條 地方稅之種類如左

一、田賦附加稅 二、地捐 四、牲畜稅 五、糧米捐 六、油捐及醬油捐 七、船捐 八、雜貨捐 九、店捐 一〇、房捐 十一、戲捐 十二、車捐 十三、樂戶捐 十四、茶館捐 十五、飯館捐 十六、魚捐 十七、屠捐 十八、肉捐 十九、夫行捐 二十、其他之雜稅雜捐

第三章 新稅之劃分

第五條 左列各項定爲將來應設之國家稅

一、登錄稅 二、通行稅 三、遺產稅 四、營業稅 五、所得稅 六、出產稅 七、紙幣發行稅

第六條　左列各項定爲將來應設之地方稅

甲　特別稅　一、房屋稅　二、國家不課稅之營業　三、國家不課稅之消費稅

乙　特別稅　一、營業附加稅　二、所得附加稅

第四章　地方特別稅及附加稅之制限

第七條　地方特別稅有妨碍國家稅者財政總長得禁止其徵收凡特別稅經財政總長認爲不正者亦同

第八條　地方附加稅不得超過左之制限

一、田賦附加稅不得起過百分之三十　二、營業附加稅不得超過百分之二十　三、所得附加稅不得超過百分之十五

第九條　過有特別事項增加附加稅之成數時非經財政廳長認可不得超過前條之制限

附　則

第十條　本法自分布日施行

第十一條　在本法施行前賦課徵收之租稅其性質與附加稅相同向歸國庫收入者在未經整理賦稅以前仍作爲國家稅

第十二條　各項新稅法實行時凡舊稅與新稅抵觸者應即廢止

第十三條　各省編製預算凡地方費純以地方稅支辦有不足時得呈請內各部核定由中央補助之

財政司與國稅廳劃分國家稅地方稅暫行簡章

第一章　劃分總綱

第一條　暫依陳前民政長核定及司廳會議劃稅草案爲劃分國家稅及地方稅之標準

第二條　劃歸國家之稅目歸國稅廳主管發布徵收命令劃歸地方之稅目歸地方法定團體主管受道縣及財政司之監督但劃歸地方之稅目內有原屬國家及根據習慣解司並向係抵充國家行政經費之用者於未經改良稅則及稅法並另籌抵補的款以前仍應照舊辦理由司呈請民政長督飭各收入官吏隨時送金庫核收按照財政司所訂現金繳入書施行細則報告民政長發司査核作爲地方稅補充國家行政經費列入地方及國家預算兩册仍俟將來國稅充足卽行照數劃還地方

第三條　劃歸地方之稅目內有原屬國家向歸統稅局及各縣徵收解司者應仍暫循其舊惟須按向來解款期限依財政司所訂現金繳入書施行細則劃追金庫核收並報告民政長發司査核仍照第二條辦理

第二章　移交期間及交換手續

第四條　劃歸國家之稅目以民國二年七月一日爲財政司移交期

第五條　七月一日以後應解國稅廳之款除依國稅廳之徵收命令外仍分報民政長發財政司存査

第六條　移交之稅目應將關聯稅款之收解卷宗由司編號計縫蓋印開見事由號數淸册連同各項章程稅則說明書一併交收

第七條　移交之國家稅目內有由各機關自行徵收向未解司者應自七月一日起一律解交國稅廳其地方稅目有原屬國家向抵國家行政經費之用者無論由何處徵收自七月一日起照第二第三兩條辦理

第三條　整理期間及手續

第八條　移交國家租目內如有七月一日以前應解之款未能依期解淸者無論何年月之款仍不隸國稅廳範圍由各收入官吏隨時解請民政長交財政司核收依第十條規定淸理七月以前借缺各款解司之地方稅亦如之仍一面査照會計年度整理法以十二月三十一日爲整理完結日十二月三十一日以後無論何年月款項均解歸國稅廳核收

第九條　移交之稅月內如有因性質複雜驟難分晰致不能同時交收者以十二月三十一日爲清理完結日屆期應一律交接清楚

但屬於七月一日以後之款如性質確係國收入因未分晰致一併解司者應悉數提解國稅廳

第十條　七月一日以前各項收款由財政司私造總決算其期限亦不得逾於十二月三十一日

第十一條　移交稅目之統系如續經國會及省議會議決移轉或國稅改列地方或地考稅改列國家均應隨時呈請民政長飭由財政司會同國稅廳分別更正

第十二條　財政司於整理期間內對於七月一日以前之滯納各款仍應呈請民政長發布督促命令

第二章 收入

第一節 民國十五年度收入

イ 經常收入

款別	項別	目別	金額	合計
田賦	地租	地租	元 三、〇一五、二四七	元 —
貨物稅	產地稅	產地稅	六七三、九一八	六、五二〇、二〇九
正雜各稅	銷場稅	銷場稅	五、八四六、二九一	—
	契稅	契稅	一、〇五七、三〇六	三、四三一、六五〇
	牙稅	牙稅	三四、五四〇	—
		牙帖稅	二、〇〇〇	—
	當稅	當稅	二〇、〇六六	—
		當帖稅	一〇、八四二	—
	菸稅	菸稅	二一〇、九三四	—
	酒稅	酒稅	九〇九、八七六	—
	燒鍋稅	燒鍋稅	五六、二三四	—

款別	項別	目別	金額	
正雜各捐	斗稅	斗稅	六三一、四〇八	—
	木稅	木稅	七一〇、七〇八	—
	山分稅	山分稅	一八九、七三六	—
	硝鹵捐	硝鹵捐	六六九	六六九
雜收入	官款生息	官款生息	四一、九二〇	三九三、六四四
	票照費	木石票費	三一二、〇四〇	—
	契紙價	契紙價	三九、六八四	—
中央協濟軍費	部協第五旅經費	部協第五旅經費	七五八、〇〇〇	—
總計			—	一四、一一九、四一九

ロ　臨時歲入

款別	項別	目別	金額
官業收入			元 三三〇、〇〇〇
	權運局應分餘利		二二〇、〇〇〇
		權運局應分餘利	二二〇、〇〇〇
	硝磺餘利		一一〇、〇〇〇
		硝磺局收售硝磺餘利	一一〇、〇〇〇
合計			三三〇、〇〇〇
經常臨時總計			一四、四四九、四一九

第二節　民國十七年度收入

吉林省の預算は十五年度迄は漸くにして正確の資料を得るを得たけれども、十五年榮厚が財政廳長となるや、資料入手の途は杜絶し、その內容は容易に窺知し得べくもない。故に之が概略を知らんが爲には勢ひ、過去三年間の各税收入增加步合について推算して見るより外方法が無いのである。

右に民國十三、十四、十五年度の豫算を掲出すれば

款別	項別	目別	十三年度	十四年度	十五年度
田賦			元 二、一五七、〇五二	元 二、七三八、九五六	元 三、〇一五、二四七
	地租		二、一五七、〇五二	二、七三八、九五六	三、〇一五、二四七
		地租	二、一五七、〇五二	二、七三八、九五六	三、〇一五、二四七
貨物税			三、七七〇、三五九	五、四四〇、二四二	六、五二〇、二〇九
	產地税		三九七、〇三九	五二四、八六四	六七三、九一八
		產地税	三九七、〇三九	五二四、八六四	六七三、九一八
	銷場税		三、三七三、三二〇	四、九一五、三七八	五、八四六、二九一
		銷場税	三、三七三、三二〇	四、九一五、三七八	五、八四六、二九一
正雜各税			二、七一九、二二三	三、一四〇、七一五	三、四三一、六五〇

税目	細目			
契税		八〇六、八四〇	一、〇五七、三〇六	一、〇五七、三〇六
	契税	八〇六、八四〇	一、〇五七、三〇六	一、〇五七、三〇六
牙税		三六、一七七	三四、五四〇	三四、五四〇
	牙税	三三、五四〇	三二、五四〇	三二、五四〇
	牙帖税	二、六三七	二、〇〇〇	二、〇〇〇
當税		一七、九一九	二八、三九九	三〇、九〇八
	當税	一〇、〇七一	一八、七四六	二〇、〇六六
	當帖税	七、八四八	九、六五三	一〇、八四二
菸税		一一八、四八一	一七四、二八五	二一〇、九三四
	菸税	一一八、四八一	一七四、二八五	二一〇、九三四
酒税		五一〇、七六四	四七三、五一三	五〇九、八七六
	酒税	五一〇 七六四	四七三、五一三	五〇九、八七六
燒鍋課		四八、五五八	四八、五五八	五六、二三四
	燒鍋課	四八、五五八	四八、五五八	五六、二三四
斗税		五三五、〇二三	五七五、〇二三	六三一、四〇八
	斗税	五三五、〇二三	五七五、〇二三	六三一、四〇八
木税		五三一、〇〇六	五九四、六三六	七一〇、七〇八
	木税	五三一、〇〇六	五九四、六三六	七一〇、七〇八
山分税		一一四、四五五	一五四、四五五	一八九、七三六

		山分税	一一四、四五五	一五四、四五五	一八九、七三六
正雜各捐			一一七	一一七	六六九
	硝滷捐		一一七	一一七	六六九
		硝滷捐	一一七	一一七	六六九
雜收入			二五五、八七六	二五五、八七六	三九三、六四四
	官款生息		二三、七六五	二三、七六五	四一、九二〇
		官款生息	二三、七六五	二三、七六五	四一、九二〇
	票照費		二〇〇、一八四	二〇〇、一八四	三一二、〇四〇
		木石照費	二〇〇、一八四	二〇〇、一八四	三一二、〇四〇
	契紙費		三一、九二七	三一、九二七	三九、六八四
		契價	三一、九二七	三一、九二七	三九、六八四
中央協濟軍費			四七五、〇〇〇	四七五、〇〇〇	七五八、〇〇〇
	部協第五旅經費		四七五、〇〇〇	四七五、〇〇〇	七五八、〇〇〇
		部協第五旅經費	四七五、〇〇〇	四七五、〇〇〇	七五八、〇〇〇
經常歲入合計			九、三七七、六二七	一一、〇五〇、九〇六	一四、二一九、四一九

上表によつて知り得る如く税收入は年々増加しつゝある。之を詳細に見るならば、その増加の平均歩合は

田賦　二割
貨物税　三割

正雜各税	一割七分
正雜各捐	一割
雜収入	五割

以上の如き自然增收の趨勢に鑑み、民國十七年度の税收入を推算すれば

田賦收入	四、三四一、九五五元
貨物税收入	一一、〇一九、一五三
正雜各税	四、六九七、五八五
正雜各捐	八一〇
雜收入	八八五、六九九
合計	二〇、九四五、二〇二

第三章　田　賦

第一節　意　義

吉林省の舊制によれば地租は最初僅かに地丁米及附加税を徵するに過ぎなかつた。卽ちその新開拓地より徵するものは大租と稱し、大租に附加徵收するものを小租と名付けた。乾隆四十六年戸部の咨によれば、吉林省民にして地畝に耕種するものは、奉天の例に照し土地を三則に分ち銀米各半を徵收した。その税率は征銀地に於ては上則每畝銀三分、中則二分、下則一分、征米地にあつては上則每畝米六升六合、中則四升四合、下則二升二合の割合にあつた。然るに四十二年頃より私墾地畝續出し、これに對しても奉天の例に按じく、每畝銀八分、米四合四勺二杪五撮を徵税した。

光緒八年前後より吉林省人丁の省外に逃亡する者多く、爲に地丁額頓に減少したるを以て將軍銘安は奏上して、吉林府、伊通州、敦化縣、伯都納廳等古塔は丁銀を地銀を以て徵收することゝし、只三姓、賓州、雙城等の地は地銀少かりしを以てその間遂銀することがなかつた。

その附加税に至つては、地丁額の十分の一を徵收した。光緒三十二年末を以て徵税することの弊害多きを以て、凡ての地畝に對し一律に每晌銀一錢八分を徵するに改め、宣統二年一月よりこの新章に照して徵税することゝなつた。

大小租の名目は咸豐四年に始まる。卽ち將軍景放涼水泉夾信溝荒地を奏上し公布の六年目より每晌大小租錢六百六

十文を徴し、大租收入は之を軍費に充當し、小租は徴税費用に充て尙餘あらば之を軍費に供した。然るに光緒十一年吉林省の制錢に大缺乏を來したるを以て將軍希元奏上して翌年より銀を以て納税するに變へ、大租は銀一錢八分、小租は銀一分八厘と定む、その後將軍長順の時に至り納税は銀を以てするも制錢を以てするも隨意と定め、銀を以てするものは毎晌大租銀一錢八分とし、制錢を以てするものは大租錢六百文とした。光緒十八年以後は又々銀錢兩樣の納税方法をとり二十晌以上の戶は八割は銀で、二割は錢で納むることゝし、二十晌以下は納税人の隨意とした。

惟ふに田賦の舊制は最も複雜である。地丁米銀並徴の地は吉林府、依蘭府、綏芬廳、伊通州、敦化縣、楡樹縣の六處に過ぎず、新城府の如きは僅かに地賦を徴せしのみ。丁錢は楡樹縣に於てのみ徴し賓州雙城の二處は僅かに地租を徴したるに過ぎず、故に後清丈して耕地を增加してもその總税額は大小租銀五十萬七千零五十五兩五錢零四厘六毫であつた。

現行の田賦は民地蒙地を問はず、毎晌大洋五角、唯だ蒙地の田賦はその收納後、一角七分は財政廳に送付し、二角五分は蒙旗に歸し、その餘は徴税費に充當せらる。戰事以來之に大洋五角の戰事附加税を附せらる。

今民國十一年度に於ける耕地面積並田賦徴收額を左掲すれば、

吉林省田賦徴收一覽表

縣別	耕地數	賦則	賦額
吉林縣	四四一、〇〇九・七四七〇〇 晌	毎晌大洋五角	二二〇、五〇四・八七三五〇〇 元

縣名			
雙城縣	四三五、七四四・四七二五〇	毎晌大洋五角	二一七、八七二・二三六二五〇
楡樹縣	四七五、四三二・七二四四〇	同	二三七、七一六・三六二二〇〇
扶餘縣	三〇一、五〇七・八六四〇〇	同	一五〇、七五三・九三二〇〇〇
賓縣	二四二、七三七・一六〇〇〇	同	一二一、三六八・五八〇〇〇〇
伊通縣	二八三、七四四・一二五〇〇	同	一四一、八七二・〇五一二五〇
五常縣	一五九、二七三・八八一〇〇	同	七九、七三六・九四〇五〇〇
寧安縣	一三四、二〇五・四七三〇〇	同	六七、一〇二・七三六五〇〇
雙陽縣	一五四、〇四八・六九七〇〇	同	七七、〇二四・三四八五〇〇
舒蘭縣	一六三、〇一八・三〇一〇〇	同	八一、五〇九・一五〇五〇〇
阿城縣	一八八、一一四・五五四〇〇	同	九四、〇五七・二七七〇〇〇
磐石縣	一二五、九四七・八〇一八〇	同	六二、九七三・九〇九〇〇〇
富錦縣	四七、一七三・九一五〇〇	同	二三、五八六・九五七五〇〇
延吉縣	一一三、八八六・五〇五〇〇	同	五六、九四三・二五二五〇〇
敦化縣	五七、〇五二・〇六〇〇〇	同	二八、五二六・〇三〇〇〇〇
同賓縣	九一、六三二・八九〇〇〇	同	四五、八一六・四四五〇〇〇
樺甸縣	七六、七六三・一二〇〇〇	同	三八、三八一・五六〇〇〇〇
樺川縣	八七、四八九・八七〇〇〇	同	四三、七四四・九三五〇〇〇
濛江縣	四六、二三四・二六二〇〇	同	二三、一一七・一三一〇〇〇
和龍縣	四九、八〇一・九八〇〇〇	同	二四、九〇〇・九九〇〇〇〇

方正縣	五七、八六四・九八五〇〇	同	二八、九三二・四九二五〇〇
依蘭縣	四六、七九六・八五〇〇	同	二三、三九八・四二五〇〇〇
額穆縣	五〇、三二〇・〇二二一〇	同	二五、一六〇・一一〇五〇〇
濱江縣	四二、四九七・六二二〇〇	同	二一、二四八・八一一〇〇〇
琿春縣	五一、三一〇・四二九〇〇	同	二五、六五五・二一四五〇〇
東寧縣	三〇、〇五六・一八〇〇〇	同	一五、〇二八・〇九〇〇〇
汪清縣	三一、二四〇・五五九〇〇	同	一五、六二〇・二七九五〇〇
密山縣	二〇、〇八六・六四八〇〇	同	一〇、〇四三・三二四〇〇
穆稜縣	一二、五〇一・四五一〇〇	同	六、二五〇・七二五五〇〇
穆河縣	一、四一四・六五〇〇	同	七〇七・三二五〇〇
虎林縣	一、四〇七・四三二五三	同	七〇三・七一六二六五
同江縣	八・一三〇〇	同	四・〇六五〇〇
綏遠縣	二二・八五〇〇〇	同	一一・四二五〇〇〇
勃利縣	二七五・一三五〇〇	同	一三七・五六七五〇〇
寶清縣	一三、四〇四・八〇〇〇〇	財政廳收入 每晌大洋一角七分	六、七〇二・四〇〇〇〇
長春縣	二六八、七三二・九八〇〇〇	同	四五、六八四・六〇六〇〇
農安縣	二四一、一〇〇・二一〇〇〇	同	四〇、九八七・〇三五七〇〇
德惠縣	一九〇、一九八・一七〇〇〇	同	三二、三三三・六八八九〇〇

長嶺縣	一二三、七二四・六一〇〇	財政廳收入 每晌大洋一角七分	二一、〇三三・一八三七〇〇
合計	民地 四、〇三四、〇二七・三二二七三 蒙地 八二三、七五五・九七〇〇	同	二、〇一七、〇一三・六六一三六五 一四〇、〇三八・五一四九〇〇

第二節　滯納處分

毎年田賦の納税期間は陽暦十一月一日より十二月十五日迄を第一期とし、もしこの期間中に納税せざる時は、その翌日即十二月十六日、徴税官吏は第一回催徴書を發す。催徴書を發せられたる者は次の期間、十二月十六日より二月十五日迄即ち第二期の期間內に納税せざるべからず。もしこの期間內に納税せざれば、本期間滿了の翌日即二月十六日、徴税吏は第二回催徴書を發す。納税者は本催徴書を發せらるゝ毎に、銀二角五分を納付すべき規定である。第二回催徴書による納税期間即第三期は二月十六日より四月十五日迄なるも、尙納税せざる場合は次の各項に照し夫々滯納處分費を徴せらる。

(1) 第三期後半箇月以上經過(即ち四月末日を經過せるもの)のものを、徴收額の十分之二を滯納處分費とす。

(2) 第三期後一箇月以上經過(即ち五月十五日經過せるもの)のものは徴收額の十分之三を滯納處分費とす。

(3) 第三期後二箇月以上經過(即ち六月十五日を經過せるもの)のものは徴收額の十分之三を滯納處分費とす。

而して徴收吏は本税竝に滯納處分費完納迄被督促人の差押人を行ふ。

第三節　土地整理

吉林省にも未登錄の民有地の數多がある。換言すれば民有地にして省當局に登記して納稅しつゝあるはその所有土地の一部分にして、これが整理如何は省財政にとつては死活の大問題である。民國六年十月二十七日發布の吉林省民旗納租地畝自報浮多升價免價試辦章程はこの大問題に解決すべき關鍵として生れ出でたものである。卽ち同規定によれば、未登記土地の登記期間を左の三期に分ち。

(1)　第一期　自民國六年九月一日至七年六月

(2)　第二期　自民國七年七月一日至七年十二月

(3)　第三期　自八年一月一日至八年六月

右第一期內に所有土地を通報したる者は、整理經費として既登記地に對して每晌大洋一角、未登記地に對しては每晌大洋一元を徵收す。もし第一期內に經費を納入せず、第二期に至りて納入せず、第二期に至りて納入する者は既登記地、未登記地共第一期經費額の倍額を徵收し、第三期に至り納入する者に對しては第二期の倍額を徵す。

もし第一期內に所有土地のすべてを通報せず、又通報するも第三期を經過するも尙納金せざる者は、その登記地に對しては第三期納入額の倍額を徵し、未登錄地は之を沒收す。通報納金濟の地に對しては照を下附す。申告者はこれに對し照費大洋一元註册費一角を納入せなければならない。

吉林省重修田賦晌捐滯納處分簡章

第一條　田賦徵收正雜各款ノ本章程規定ノ徵收期限經過後尙全額未納或ハ一部未納ノモノヲ滯納ト稱シ本章程ニヨリ處分ス

第二條　徵收期限ハ毎年陽暦十一月一日ヨリ開始シ十二月十五日迄ヲ第一期トシ十二月十六日ヨリ翌年二月十五日迄ヲ第二期トシ二月十六日ヨリ四月十五日迄ヲ第三期トス縣知事ハ徵收開始前ニ布告シ人民ヲシテコノ三期間ニ田賦正雜各款ヲ納付セシメ延滯セシムルコトヲ得ス

第三條　本章程規程ノ第一期後尙未納或ハ一部未納ノモノアルトキハ毎年第一期限ノ翌日(卽チ十二月十六日)徵收吏ハ催徵書ヲ發シ完納セシムヘシ、是ヲ第一回催徵ト云ヒ書式ハ徵收吏之ヲ定ム

第四條　本章程規定ノ第二期以後尙未納或ハ一部未納ノモノアルトキハ毎年第二期ノ翌日(卽チ二月十六日)徵收吏ヨリ第二回催徵書ヲ發スヘシ

第五條　催徵書一回毎ニ被督促人ハ銀二角五分ヲ收ムヘク、且催徵書ヲ受取リタルトキハ證據一通ヲ送達人ニ交付スヘシ若シ規定額以上ノ徵收アリタルトキハ指名控究スルヲ得毎回ノ催徵費ハ催徵書ヲ受取人カ受取リタル時、支拂フヘク、モシ送達困難ナルトキハ布告ヲ以テ之ニ換フヘク、ソノ時ハ催徵費ハ免除ス(本條ハ民國十二年二月改正)

第六條　本章程規定ノ第三期限後尙未納或ハ一部未納ノモノハ毎年第三期滿了ノ翌日(卽チ四月十六日)徵收吏之ヲ調査ノ上、滯納各家ノ姓名、住所、地畝位置未納正雜各款ノ數額記入ノ淸册二部ヲ作成シ、一部ハ縣署ニ止メ、一部

ハ財政廳ニ送付査核ニ備ヘシメ第三回催徵書ヲ發シ滯納トナシ、納付租稅額及左記各項ノ滯納處分費ヲ納付スヘシ

1. 第三期後半箇月以上經過(卽チ四月末日ヲ經過セルモノ)ノモノハ徵收額ノ$2/10$ヲ滯納處分費トス
2. 第三期後一箇月以上經過(卽チ五月十五日ヲ越ユルモノ)ノモノハ徵收額ノ$3/10$ヲ滯納處分費トス
3. 第三期後二箇月以上經過(卽チ六月十五日ヲ越ユルモノ)ノモノハ徵收額ノ$5/10$ヲ滯納處分費トシ徵收吏ハ該滯納者ヲ差押ヘ完納ノ場合釋放スヘシ

第七條　傳票ヲ送付セルトキ其受領者ハ旅費トシテ銀二角五分ヲ收ムヘシ若シ多額ノ要求ヲナシタルトキハ告發スヘシ

第八條　滯納罰金ハ一割五分ヲ限度トシテ徵收官署ノ徵收費ノ補充ニ當テ、ソノ餘ノ八割五分ノ中三割五分ハ財政廳ニ送付シテ收據、印刷諸費用ニ當テ五割ヲ金庫ニ送付スヘク、毎月ノ徵收額ニ依リ財政廳ニ報告書ヲ提出スヘシ長農、徳、嶺四縣ノ蒙租ハ一律ニ本簡章ノ規定ニヨリ處理スヘク罰金分配法ハ舊章程ニヨリ六割ハ蒙旗ノ所得トシ、二割ハ金庫ニ送付シ、一割五分ハ財政廳ニ送付シ罰金收據印刷諸費ニ充當シ五割ヲ縣ノ徵收費ニ充ツヘシ

第九條　滯納人カ若シ逃亡或ハ絕戶セルコト調査判明セルトキハ遺產ヲ官ニ於テ沒收シ布告ノ上報告スヘシ

第十條　縣屬餉捐ハ本簡單ノ規定ニ照シ一律ニ辦理スヘシ

第十一條　荒歉ノ地方ハ勘報災歉條例ニ據リ、尙災害五割以下ナルトキハ各地免稅ノ例ナキモ、縣知事ハ事情ヲ調査報告ノ減免處分ヲ申請スヘシ

第十二條　本簡章ノ規定セサル事項ハ徵收田賦考成條例ヲ準用ス

第十三條 本簡章ノ不備ノ點ハ隨時申請シテ改訂ス

第十四條 本簡章ハ認可公布ノ日ヨリ施行ス

第十五條 本簡章施行後若シ違反アリタルトキハ、違令罰法第二條、罰則令第一條第一項ノ規定ニヨリ六箇月以上ノ徒刑或ハ二箇月以下一日以上ノ拘留或ハ一百元以下一元以上ノ罰金ニ處ス

重修田賦晌捐滯納處分簡章（民國十一年五月十二日）

第一條 凡田賦之應徵正雜各款逾本章程所定徵收期限如全數未納或尾缺未淸者名曰滯納應依本章程處分之

第二條 徵收期限每年陽曆十一月一日開始至十二月十五日爲第一限十二月十六日至翌年二月十五日爲第二限二月十六日至四月十五日爲第三限縣知事於開徵之前布告人民應於此三限內將田賦正雜各款全數完納不得拖欠

第三條 逾本章程所定之第一限人民全數未納或尾欠未淸者於每年第一限期之翌日（卽十二月十六日）由經徵官塡發催徵書令人民自行完納是名第一次催徵書書式由經徵官定之

第四條 逾本章程所定之第二限人民全數未納或尾欠未淸者於每年第二限期之翌日（卽二月十六日）由經徵官再發第二次催發書

第五條 每發催徵書一次奉催人須照底納之額另繳十分之一以爲徵催費並書收到催徵書證據一張交送達人但送達人不准格外多取倘有訛索准予指控各次之催徵費於催徵書送達奉催人時收取之如各項徵書送達有困難時均得以布告行之並免收催徵費

第六條　逾本章程所定之第三限人民仍未完納或尾欠未清者於每年第三限期之翌日(即四月十六日)由經徵官查明欠納各戶姓名住址地畝坐落未納正雜各款數目、造具清册二份一存縣署一送財政廳備查並發第三次催徵書以滯納論除照額納租外並應照左列各項另繳滯納處分費

一　逾第三限在半月外者(即逾四月末日)加罰應納之額十分之二作爲滯納處分費

二　逾第三限在一月外者(即逾五月十五日)加罰應納之額十分之三作爲滯納處分費

三　逾第三限滿兩月者(即逾六月十五日)加罰應納之額十分之五作爲滯納處分費並由經徵官將該欠民差傳押追俟全數完納之日釋放

第七條　凡遞送傳票每票向奉傳者徵收旅費銀二角五分如有多索准予告發

第八條　滯納罰款以一成五留經徵官署補助徵收費用其餘八成五以三成五解應備印刷罰金收據工料之費以五成解庫每月收數若干造册報財政廳備查長農德嶺四縣仍照舊章辦理

第九條　滯納人如查明實係逃亡或係絕戶應將遺產收歸官有公示宣告確定後呈報主案

第十條　縣屬响捐准照本簡章之規定一律辦理

第十一條　荒歉之區除依照勘報災歉條例辦理外其成災在吾分以下各地例無蠲免得由縣知事查明進册呈請核定酌予減免處分

第十二條　凡本簡章有未規定者仍依據徵收田賦考成條例施行之

第十三條　本簡章如有未盡事宜得隨時修呈請立案

第十四條　本簡章自呈准頒布之日施行

第十五條　本簡章施行後如有違反者例違例罰法第二條罰則令第一條第一項之規定處罰限於六月以下之徒刑或二月以下一日以上之拘役或一百元以下一元以上之罰金

吉林全省地畝部照印花簡章（民國十一年五月六日）

第一條　各縣辦理自報升科及勘放官荒淸査街基地畝並前淸丈局勘發執照地畝應發部照無論淸升墾基各項均應照本簡章貼用印花

第二條　凡領淸府升府買字各處熟地部照一晌以下貼印花一分每加二晌增貼印花一分貼至一元五角爲止

第三條　凡領墾子査字荒字各慌地部照四晌以下貼印花一分每加四晌增貼印花一分至山林柳通葦甸等地亦按原扣晌數照荒地貼印花以昭公允

第四條　凡領街字基字部照者五十方丈以下貼印花一分五十方丈以上每加十方丈貼印花一分以次遞加至一千五百四十方丈貼印花一元五角爲止不及五十方丈者亦按五十方丈貼用印花

第五條　凡領前項部照之人應於請領部照時照繳上項稅款違者停發

第六條　前項部照所貼印花應由各縣署蓋章簽字

第七條　凡以前所發部照應於本簡章公佈之後限令一年內呈繳補貼印花逾限不貼照印花稅法第一類第二類分別處罰

第八條　所貼印花以足數爲限如有減貼情事照章處罰

第九條　業經貼用之印花不准揭下再貼違者照章處罰

第十條　所收印花稅款應按月呈解以重其款其提成辦法應按承銷定例扣支以資辦公

第十一條　本簡章自奉核准之日實行如有未盡事宜得隨時呈請修改

阿城縣徵收糧捐章程（民國五年八月二十七日）

第一條　本縣爲添籌道立中師兩校及縣立師範講習所經費起見得依照各屬徵徵糧捐辦法添設糧捐

前項糧捐其徵收地點以太平橋一處爲限他處暫不仿收

第二條　本縣爲便利徵收起見於太平橋設立收捐機關定名爲太平橋粮捐徵收處

第三條　徵收員役列之如左

一　徵收委員一員

二　雇員一員

三　巡役三名

前項員役薪工另訂之

第四條　徵收委員經理徵收處一切事宜由紳學兩界公推呈請縣公署委任之

第五條　雇員商承委員主管塡寫票照登記賬簿及文件表册等項由本所委任之

第六條　巡差承委員之命令主管稽查繞越隱匿及送文件等項由委員雇用之

第七條　應收款目列之如左

甲　糧　捐

乙　查驗費

第八條　凡售賣出口無論何種糧石均應照章收捐

前項糧捐專為出口而設如車載馬駝人負在本境銷售者不得收捐以示區別

第九條　繳納糧捐應照值百抽一稅法每值市錢百吊即抽捐一吊由賣主繳納之

前項價額應由委員按照市錢持平估計不得故為擡高致滋苛擾亦不得故為低減致碍收入凡未經報納糧捐者均須照納

第十條　查驗捐票每張應納查捐費市錢二吊應由賣主繳納之

前項查驗費無論持有何縣糧捐票照均須繳納之

第十一條　收捐票照應由縣公署編列號數蓋印飭發以昭慎重其票照式樣另訂之

第十二條　徵收捐款每屆月終即由該徵收處造具清冊連同票根呈送縣公署查核

第十三條　商民各戶如有故違第九條第十條之規定抗不納捐或存心繞越者一經查出得酌量情形處罰但處罰數目不得在應繳捐款五倍以上

前項罰款准以半數充公半數提賞

第十四條　徵收員役如有浮收苛罰私舞弊情事一經查出或被告發即予相當之處分

第十五條　本章程如有窒碍難行之處得隨時修正之

第十六條　本章程自核准公布之日施行

吉林省各縣知事辦理自報升科懲獎規則（民國七年十月十五日）

第一條　凡辦理清査土地各縣知事之懲獎依本規則行之

第二條　凡獎罰均以各縣舊有原額地爲標準縣知事於自報升科第一期內將原額地悉數催辦報齊者請給一等獎催報過八成者請給二等獎過六成者請給三等獎不及六成者請照三等處罰不及四成者請照二等處罰不及成者請照一等處罰

第三條　凡縣知事於第一期內催報浮多地及無糧地比較原額地數在三成以上者請給一等獎在二成以上者請給二等獎在一成以上者請給三等獎不及一成者査確廢弛意事酌量呈請處罰

第四條　凡給一等獎者依照縣知事獎勵條例仰懇省長優從請獎給二等獎章者請省長酌量請獎給三等獎者請省長發給獎章

第五條　凡處一等罰者照文官懲戒條例請省長呈請處罰處二等罰者請由省長公署記過處三等罰者呈請省長申誡

第六條　此項獎罰均責成吉林省清査土地局按各該縣知事所辦成績切實加具按語並說明理由呈請省長施行

第七條　凡辦理清査各縣知事無論升遷調任均各按任內册報之成績分別核辦

第八條　本規則自奉省長指令照准之日施行

吉林省民旗納租地畝自報浮多升科免價試辦章程（民國六年十月七日）

第一章　總綱

第一條　本章程因免除清丈困難起見特規定吉林全省民旗原有納租地晌所有浮多准其依限自報升科併免繳納地價

第二條　自報區域除歸實業科清丈之依蘭樺行富錦綏遠同江涵河穆稜密山虎林寶清濛江額穆寧安樺甸等十四縣並地屬蒙旗之長春農安長嶺德惠之四縣另有規定不計外其餘二十縣均依本章程行之

第三條　除前清皇帝私產及驛站官產旗產並未經勘放之官荒街基另有街章程規定外凡民旗大租民認旗東旗招民佃以及山荒柳草甸插花地並警學自治長會各項公產均適用本章程之規定

第四條　本章程公布後所有前經清丈局塡發執票仍繼續有效惟所收浮多地價應於換照時除扣抵經費外其餘悉數發還以昭劃一

第二章　自　報

第五條　無論何項地畝均以租冊契照票據所載晌數相符者爲原額地如原額之外四至之內另有地畝則爲浮多究有晌數若干均須據實呈報不誰稍有隱匿

第六條　呈報升科應以本戶買契爲最要根據凡浮多地畝租冊大照所無而買賣契據則無不悉數列入除按冊照票據清出原額外其餘列入浮多註冊

第七條　呈報前項地畝均由各地主分清段落開具四至面積及有無水塘溝窪沙磧石田及房園井道等項清單携帶契照票據親赴該管縣署呈報如係公產准由各機關自行呈報

第八條　各地主如有事故或家無男丁不能赴縣呈報者得依前條之規定由該地主囑託親友代報但不准佃戶呈報以免流弊

第九條　凡原額地以原有契照爲憑如無印照紅契只有自契者須呈驗錢糧票據一經縣署核與徵租底冊相符即行發給執照以

憑換領部照辦將呈驗契照票據知發還數原主收執

第十條　報出浮多地畝一律免收地價先行發給執據俟派員勘查後除照章升科外並一律換給部照仍歸原地主永遠執業

第十一條　向納大租原額地內如有水冲沙壓或有糧無地糧多地少者並准地主報明一俟勘查得實另册登記後由縣署彙案呈請銷除賦額以照核實

第十二條　各機關呈報公產均以從前領有印照或經省城上級官廳批准確有案據可憑者爲限其僅由地方團體報經縣署許可或各團體自認者不得以公產論

第十三條　如有浮多本地主隱匿不報並准由他戶揭報一經查實以一半歸公以一半照時價減半放給報戶以杜隱匿

第十四條　除原有契照四至以內之浮多准照本章程辦理外其在契照四至以外如有私墾官荒及無糧黑地應照放荒章程核辦不得以浮多論

第三章　期　限

第十五條　關於辦理自報註册及核收經費等事項訂立三種期限如左

一　自中華民國六年九月一日起至七年六月底止爲第一期

二　自中華民國七年七月一日起至是年十二月底止爲第二期

三　自中華民國八年一月一日起至是年六月底止爲第三期

第十六條　第一期爲註册期過此期限未經報清註册者即以隱匿論

第四章　經　費

第十七條　應收經費其在第一期內自報者原額地每晌收大洋一角浮多地每晌收大洋一元此一期爲註册期如地戶於報淸註册時不能將經照註册等費悉數全交者准其依期補繳但本期內至少必交三成方准註册其欠交之款至遲亦不得過第三期

第十八條　在第二期內補交經費者除先交若干仍照頭期扣算外(即原地一角浮多一元)原額地及浮多地均按第一期應收經費數目各加一倍

第十九條　在第三期內補交經費者除先交若干各按期交扣算外原額地及浮多地均按第二期應收經費數目再各加一倍核收

第二十條　如過營一期不報或已報明註册而過第三期不交費者除將原額地經費按照第三期應收經費數目再加一倍勒交外並將浮多地畝歸公另收

第二十一條　每地一段給照一張每張收照費大洋一元註册費一角此外並不再收勘費

第二十二條　各縣附設事務處即以縣知事爲處長擔負完全責任凡處內員書由縣知事酌定所需薪工費用准於所收經費內提扣一成由縣知事自行分配開支即按月具報備查但不准由總局預先請領

第五章　升科

第二十三條　此次報出浮多地畝均係當年升科如係原領荒地未屆升科年限者應査照原領地升科年限分別註明算至某年一律升科

第二十四條　凡柳通柴山葦甸(係指長羊草者而高)等地雖係不能開墾但按年獲有利益應以熟地論分作兩等上等以二晌作一晌(十畝數晌)次等以三晌作一晌當年升科其於葦甸(係指牧養者而言)著山城甸以及不堪種植之地應由各縣酌量情形請示辦理

第二十五條　已報升科之有照旗地向按七成納租者應將未升科之三成悉數報請升科此外如炭浮多仍應據實呈報不得隱匿

第二十六條　凡從前績報升科生熟各地以在通飭截止之前領有省公署印照或奉有明文批准者爲限其餘無論已未報明省縣均不准影射報請升科

第六章　勘　査

第二十七條　第一期內均應報明註冊期滿即由本總局分路派員會同縣知事勘査其欠繳經照各費過第三最末經照繳者責成知事照二十二條從嚴追繳

第二十八條　勘査屆時所有勘査員數俟臨時酌定

第二十九條　勘査員下鄉須由縣知事先期傳同鄉警一同前往按照票內所列地戶畝數依次詳加察核除有地畝糾葛或察其情有可疑者即時行繩勘丈外如査無別故即於執照內加蓋驗訖戳記無須再丈所用繩弓均由總局發給

第七章　給　照

第三十條　各縣塡發執票按月將繳驗一聯呈送總局査核一俟屆期派員勘査後再行分別塡寫部照發由各縣轉給

第三十一條　自報各戶如聲明原有契照遺失或因借債抵押在外者准由該縣次々行原領契照各官署詳査存根或飭抵押處所之債權人出具切結査明無誤方准給照

第三十二條　各地主於呈報後倘有發生界址不淸等事互起爭執者如不在法定民刑訴訟範圍之內得由縣知事判決呈報再行換給部照

第三十三條　如在塡給執票以後未換部照以前原報各地倘有買賣讓與充公等事必須取具中證人等切結存案並將執票批明蓋印俟換照時再行更名給照

第八章　附　則

第三十四條　本章程係先行試辦如有未盡事宜得隨時呈請修改

第三十五條　本章程自公布之日施行

第三十六條　本章程實行後從前吉林全省普通清丈章程即行廢止

吉林省清查城鎭街基試辦章程（民國六年十月七日）

第一條　本章程專爲清査城鎭街基而設聽由業主自報一律換發部照

第二條　本檢程除濱江傅家甸四家子兩處另有規定外其他各縣均以城鎭街基爲範圍

第三條　凡城鎭街基除旗官產或國有官產可以開放街基者由各縣査看情形隨時請示辦理外其餘無論民旗各戶及廟宇公所營房校舍所占地基均適用本章程之規定

第四條　清査城鎭街基應收經費分爲三等列左

上等城基每五十方丈收大洋四元譬如一百方丈則收大洋八元依次遞加至多以二百方丈爲限共收十六元不及五十方丈者亦照五十方丈論上等鎭基減半核收

中等城基每五十方丈收大洋三元依次遞加至多不得過十二元中等鎭基減半核收

下等城基每五十方丈收大洋二元依次遞加至多不得過八元鎭基減半核收

第五條　清査街基每段塡給基字部照一張隨收照費大洋一元註册費一角

第六條　自報期限均自中華民國六年九月一日起至七年六月底止由原業各戶開具主落丈數四單淸單帶同原有契椽親赴該管縣署呈報俟酌定等核收經費後先行發給執票以憑換領部照

第七條　報明註冊後由縣知事與西總局派員勘査如査與原有契椽相符卽行發給部照

第八條　如有契椽遺失者須取具四鄰切實保結如有抵押在外須査取受存此據之債權人出具切結方准給照

第九條　如逾限不報或呈報不實一經査出共經照費卽加倍核收

第十條　淸査街基統歸自報升科事務處辦理所收經費准報自報升科章程提用一成以昭劃一

第十一條　本章程先行試辦如有未盡事宜得隨時呈請修改

第十二條　本章程自公布日施行

第十三條　本章程公布後其他章程如有與本章程抵觸各條卽行廢止

吉林省勘放官荒試辦章程（民國六年九月二十六日）

第一條　吉林省勘放官荒暫依本章程之規定

第二條　本章程放荒區域根據自報升科章程內指定之區域以二十縣爲範圍

第三條　放荒區域之內除同賓五常兩縣所轄大青川大肚川設有荒務委員査照舊檢辦理外共餘各縣並無成大段多係零星夾荒均歸縣知事兼理

第四條　凡民旗各戶私墾並未納過租賦領有印照以及民旗各官署向未經理亦無檔案可考者統爲官荒均依本章程行之

第　條　凡私占官荒開墾成熟及蓋房鑿井者統爲原戶均有優先權倘原戶無力承領卽取結外放仍須斷給原戶墾地蓋方鑿井等項費用

第六條　凡已放各荒如有重復包套者應以蓋房開地者爲原主其無房及未曾開墾者另以開荒撥補如均未蓋房開地或均已育房開地則以領照之先後處斷倘無照而在正照地內蓋房開墾並無特別糾葛者應將房地撥還有照地主仍斷給蓋房墾地各項費用

第七條　凡旗戶在截止續報升科期限以後占有生熟各荒無論曾否具報有案均應查照本章程按等價放

第八條　本章種規程放荒及所收價費分爲上中下三等列左

甲　上等荒價每晌大洋十元隨收經費二成熟荒加倍

乙　中等荒價每晌大洋七元隨收經費二成熟荒加倍

丙　下等荒價每晌大洋四元隨收經費二成熟荒加倍

第九條　本章程因柴山柳通葦甸等地雖係不能開墾而亦按年獲有利益變通分爲兩等規定應收價費列左

甲　上等二晌作一晌（十畝爲晌）地價七元隨收經費二成當年升科

乙　次等三晌作一晌地價四元隨收經費二成當年升科

第十條　本章程規定放照一張隨收照費大洋一元註冊費一角

第十一條　凡荒山塽甸及其他不勘種植之地應由各縣隨時請示辦理

第十二條　新放各荒熟地當年升科荒地自發給部照之日起扣至第六年一律升科

第十三條　放荒期限依照自報升科期限以一年零十個月爲辦竣之期

第十四條　各縣所放荒價及經照册費均按月解交總局彙案報解不准藉故截留

第十五條　各縣放荒統歸自報升科事務處辦理所收經費准照自報升科章程提用一成以昭劃一

第十六條　本章程係先行試辦如有未盡事宜得隨時呈請修改

第十七條　本章程自公布日施行

第十八條　本章程公布後其他章程如有與本章程抵觸各條卽行廢止

調查地畝收量等則辦法（民國五年二月九日）

第一條　飭各縣知事就所屬警察區域劃分若干區每區由縣刊發調查地畝表册（表附）程式發給各該區飭警照式査塡按册編號登列淸楚此項表册塡竣後應由地方鄉約署名蓋章爲據限兩個月內藏事由區送交該縣知事如有調査區警扶同隱匿妄事需索情事准由該地方人民告發

第二條　知事收到各區淸册後應照該縣封糧紅册勘對地域是否相符有無漏列之弊並選派甲區警官赴乙區抽査或派乙區警官赴甲區抽査其抽査之法祇須略提數處按册査對不必重新細勘如果某區所送淸册登記詳盡原辦認眞卽不復査亦可抽査之事限半月完竣再由知事詳加覆核彙抄淸册於抽査完竣後二十日詳送本廳及該管道尹

第三條　吉省地畝旣原無等則成案可依據然草萊初墾佃戶居多應以納租多寡爲衡較爲確當地屬沃讓納租必多地屬瘠區納租必少利用地主佃戶納租密接之關係而考其地畝等則必有把握況承佃租大率均有契約鄉警與人民相習調驗正無妨事自

行耕種之地卽就其他之所在最近個地比較填列

第四條　調查標準是難擬定茲擬以每晌納租在一石五斗以上者爲上則一石以上至一石五斗者爲中則一石以下者爲下則

第五條　調查之時該地區內如有荒地森林等亦可於表末附記欄內聲明

第六條　應升科之地而未升科及納租本多而報少或匿報夾荒私種黑地等弊在調查時准其自行申報不予深究

一　其調查詳晰之縣知事應由道會詳鈞使記功以資激勵

縣　　區調查地畝收量等則表册第一

編列號次	地名	上則地若干晌	中則地若干晌	下則地若干晌	備考
說明	每晌出租在一石五斗以上者爲上則				
	每晌出租在一石以上者爲中則				
	每晌出租在一石以下者爲下則				
	備考欄內如地係承細應注明承細樣如係自種應注明自種字樣				
附記	本區內森林估約若干晌未墾荒地估若干晌				

所管區管

鄉約

縣　區調査地畝收穫粮食等則表表册第二

編列號次	地名	上則地每年收穫何種糧若干	中則地每年收穫何種糧若干	下則地每年收穫何種糧若干	備考
說明	號次地名須與第一表相符卽就第一表若干晌地所產收穫糧石糧類數目塡載如種類不止一種號次地名不必重塡卽就所種類逐次塡列				

縣　區調査地畝最近三年收數表册第三

編列號次	地名	民國元年收穫總數	民國二年收穫總數	民國三年收穫總數	備考
說明	號次地名仍須與第一表相符 收穫總數卽以各年各種糧食之總數塡列				

吉林全省清理田賦局組織章程（民國九年八月二十日）

第一條　本局ハ吉林全省清理田賦局ト名稱シ清査土地局一切ノ未完了事務ヲ繼續辦理スソノ應掌事務左ノ如シ

1. 吉林三十縣ノ土地清査ニ關スル事務
2. 旗署官產變賣ニ關スル事務

3. 沿邊十五縣清丈換照ニ關スル事務

4. 長農德嶺四縣蒙地淸査ニ關スル事務

5. 旗民地畝糾葛料理ニ關スル事務

第二條　本局ニハ左ノ職員ヲ置ク

督　辦　一　名　財政廳長兼任

會　辦　一　名　專任或兼任

局　長　一　名　專　任

督會辦及局長ハ省長ノ委任ヲ受ケ督辦ノ全局ノ事務ヲ綜覽シ局長ハ督會辦ト商議ノ上局中一切ノ事務ヲ辦理シ全責任ヲ負フ

第三條　本局ノ內部組織左ノ如シ

一　總　務　科

一　會　計　科

各科ニハ科長一名ヲ置キ局ヨリ省長ニ呈請シテ本科主管ノ事務ヲ委任辦理セシム

甲　總務科ニ左ノ係ヲ置ク

一　文　牘　係

二　票　照　係

三　收　發　係

四　庶　務　係

乙　會計科ニ左ノ係ヲ置ク

一　會　計　係

二　稽　核　係

三　登　記　係

以上各係ノ中稽核事務ハ多忙ナルニヨリ主任一名ヲ置クモソノ他ノ各係ハ局ニ於テ事務ノ繁閑ニ應シ督會辦ト商議斟酌ノ上科員若干名ヲ置キ各係ノ事務ヲ分擔セシム但シ主任及科員ハ局ニ於テ委任シ省長ニ呈請スルモノトス

第四條　筆字作圖計算及其他雜役ニ對シテ僱員ヲ酌用ス

第五條　本局職員ノ進退ハ局長督辦ト會議ノ上決ス

第六條　本局各月ノ各種經費ハ別ニ經常臨時豫算ヲ編成ノ上省長ノ査定ヲ經理部ニ咨請シテ定ム

第七條　本局辦事細則ハ別ニ之ヲ定ム

第八條　本章程ハ省長ノ認可ヲ得テ公布ノ日ヨリ施行ス

吉林全省清理田賦局辦事細則

第一章　細　則

第一條　督辦ハ財政廳長兼任ニテ常時局ニ出勤スルコトヲ得サレ共其他會辦局長及各科々長主任科員僱員ハ各自事務室ヲ有シ規定時間ニ出勤事務ヲ處理スヘシ

第二條　毎日午前九時ヨリ午後五時迄ノ執務時間トス日曜及定期休日以外ハ故ナクシテ欠缺スルヲ得ス

第三條　本局人員ハ若シ事故或ハ疾病ノ際ハ理由ヲ本科々長或ハ主任ニ具陳シテ許可ヲ受ケ欠缺スヘクモシ三日以上ニ亙ルトキハ局長ニ呈請許可ヲウケ然ル後欠缺スヘシ

第四條　本局全體ニ關係アル重要事件發生セルトキハ局長ハ督辦會辦ニ函請シテ時日ヲ定メ局ニ於テ會議決設ス

第五條　作案ノ際ハ何科ノ主管タルニ論ナク兩科々長互ニ審査ノ上記名捺印スヘシ

第六條　本局公印ハ局長派員嚴重監督管理セシム

第七條　各科係科員及僱員ハ科長主任ソノ勤怠ヲ監督シモシ怠惰ノ情狀アリタルトキハ隨時呈請シテ更迭スヘク本局使用人ハ庶務員ヲシテ嚴重監督セシメ規則ニ違反スルモノアリタルトキハ隨時更迭ス

第八條　到着文書類ハ收發係ニテ開封シ日附編列番號ヲ各別ニ摘記シ局長ノ査閲捺印ヲウケ、更ニ兩科々長ノ檢閲ヲ受クヘシ機密要件ニテ自己ニ於テ處理ノ要アルモノ或ハ緊急處理ノ必要アリト認メタルモノ以外ハ各別ニ捺印ノ上各科ニ交付規則ニ照シテ處理セシムヘシ

第九條　文書電報ノ各科ニ宛テラレタルモノハ兩科々長驗査シ、緊急ヲ要スルモノハ科員ニ交付即時起案處理セシ遲クモ三日テ逾ユヘカラス。起案ノ後ハ僱員長ヲシテ帳簿ニ淸書登錄セシメタル上起草人ニ返付シ各科々長ノ審査捺印ヲ受ケ更ニ局長及督辦會辦ニ送付シテ判行ス

第十條　既ニ判行セル文件ハ傭員長ヲシテ各別ニ分類清書帳簿ニ記入對照セシメタル後、公印監理人ニ再ヒ審査セシメモシ誤謬ナキトキハ公印ヲ捺サシメ收發係ニテ登錄發送ス

第十一條　文件發送後收發係ハ到着文書ヲ逐一番號ヲ追ヒ清理シ文巻室ニ送リ帳簿ニ記入シ保管室ニ入ルヘク電報ハ發電簿ニ記入ノ後保管スヘシ

第十二條　到着文書電文ノ記名捺印覆答ナキモノハ各科毎ニ科長ノ捺印ヲ受ケ收發係ヲシテ帳簿ニ記入セシメ番號ヲ消シ保管セシムヘシ

第二章　總務科

第十三條　本科々長ハ長官ノ命ヲウケ本科々員ヲ率キ本科一切ノ事務ヲ處理ス

第十四條　本科應掌事務規定左ノ如シ

一　章制編製、文書電文起草ニ關スル事項

二　票照收發ニ關スル事項

三　文件ノ收發對照及公印ノ監用ニ關スル事項

四　文書保存ニ關スル事項

五　全局庶務ニ關スル事項但シ各種物品ノ購買支給ハ傳票ニヨリ局長ノ捺印ヲウケテ行フモノトス

六　其他金錢ニ關セサル事項

第十五條　前記各項ハ各科員之ヲ分擔シ本科々長ノ命ヲウケテ處理ス

第十六條　財政部照領ノ送付シ來レルモノハ票照管理人ノ檢査登錄ヲウケタル後倉庫ニ保存ス、各縣ヨリ送付セル文書ハ本科々長先ツ票照係ニ通知シ枚數編列號數ヲ酌量シテ發照簿ニ登記シテ回答文ノ捺印ヲ受ケタル後取纏メ收發員ニ受付發送セシム

第十七條　各縣ノ請領照據及印收地册ハ本科々長枚數ヲ査定シテ票照係ニ通知シ即時番號ヲ記入登錄シ監印員ヲシテ捺印セシメタル上發送セシム

第三章　會　計　係

第十八條　本科々長ハ長官ノ指導ヲウケテ本科主任及科員ヲ率キ本科一切ノ事務ヲ處理ス

第十九條　本科應掌事務左ノ如シ

一　一切ノ金錢出納ニ關スル事項

二　本科文書起草ニ關スル事項

三　歳出入豫算決算編成ニ關スル事項

四　各種收入及地畝圖册並部照控收入計算書ノ檢査ニ關スル事項

五　地價ニ對スル各種徵費及地畝晌數ニヨル經費ノ收入登記ニ關スル事項

六　庶務金錢出納檢査ニ關スル事項

第二十條　前記各項ハ各科員分擔本科々長ノ命ヲ受ケテ處理ス但シ稽核ニ關スル事務多忙ナルトキハ該係主任ヨリ督促處理スヘシ

第二十一條　各個所ヨリノ送金ハ科長檢査シ會計係ニ交附、同係ハ數額ヲ[illegible]上ニ捺印シ三聯受領證ヲ作成シテ控一通ヲ科ニ殘シ一通ハ來局文書ニ係附閲覽ニ供シ一通ハ送金ノ[illegible]受領總額ノ

第二十二條　本局ノ預金ハ中國銀行及永衡官銀號ニ之ヲ爲シソノ預金帳ハ局長ニ之ヲ保管セシム預金送金入手ノ際ハ會計員之ヲ預金シ帳簿ニ記入シ本科々長ノ檢査ヲ受ケ科長相違ナキヲ認メタル上預金ヲ局長ニ保管セシム

第二十三條　各月所要ノ各經常費以外多額ノ現金ヲ局中ニ保管スヘカラス又他ノ商店等ニモ預金スルコトヲ得ス

第二十四條　銀行錢號ヨリ支拂ヲウクヘキ金ハ小切手ニヨルヘシ但シコノ小切手ハ局長及本科々長ノ連名捺印ヲ要シ會計員自ラ受取ルヘキモノトス各印鑑ニ先ツ各銀行銀號ニ通知オクヘシ

第二十五條　收支各款ハ本科ノ規定ニヨリ計算書ヲ作成シ且毎月々末四册淸册ヲ作製シ本科々長ニ送付シ局長及督會辦ノ驗閲ヲ受クヘシ

第二十六條　本局使用簿記書表ハ悉ク審計院ノ規定ニ基キ各要式ニヨリ登錄編製ス總テノ受領證書類ハ檢査シテ完備ヲ期スヘシ支出計算書ト對照シ各月毎ニ遲滯ナク處理スヘシ

第二十七條　本局支給俸給賃金支拂日ハ毎月二十五日トス

第二十八條　本局員ハ俸給支拂日以前ニ前借スルコトヲ得スモシ右ノ情狀アリタルトキハ會計員ノ責任ニ歸ス

第二十九條　各縣返付各種部照控及各種返付地册及收入計算書ノ本局ニ回送シ來レルモノハ收發係ハ局長ニ之ヲ送付査驗ヲウケ票照係ニ番號ノ檢査、帳簿記入ヲナサシメ若シ符會セサルモノアルトキハ明記ノ上核稽係主任ニ交付シ帳簿ニ記入シ稽核員ヲシテ詳細ニ計算セシムヘシ

第三十條　各審査員ハ審査スヘキ文書ヲウケタルトキハ核算簿ニ件數、其ノ審査スヘキ理由及審査濟日附等ヲ記入シ科長及主任ノ捺印ヲウケ査照ニ資スヘシ

第三十一條　各審査員ハ審査終了ノ際、該案件ノ正確ナリヤ否ヤ及錯誤ノ有無、且各項錢款地畝各總數ヲ分別明記シ記名捺印ノ上批示ニ資スヘシ

第三十二條　審査濟署名ヲナサレタル案件ハ登記係ニ交付シ詳細ニソノ收入計算書内ノ送付スヘキ金額カ回送サレシヤ否ヤ、ソノ報告ノ數ト送付ト相違ナキヤ否ヤヲ對照檢査ノ上各別明記捺印シ作業ノ參考トナシ且收入各款及地畝晌數ヲ帳簿ニ記入シ査核ニ資スヘシ

第三十三條　登記員ハ各文案登記濟ノ時ハ本科文書係員ニ交付シ各種照據控、回收圖面ニ批セシメ票照係ヲシテ倉庫ニ保存セシムヘシ

第三十四條　核算冊據ヲ批駁ノ後原發送縣ニ送付ス本局ノ審査ニヨリ原計算人ノ誤謬確實ナルトキハ一回ハ寛恕スルモ三回ニ亙リ誤謬アリタルトキハ免職ス

第四章　附　則

第三十五條　本細則ハ暫行試算ノモノニシテモシ不備ノ點アルトキハ隨附呈請訂正スヘシ

第三十六條　本細則ハ認可ノ上公布ノ日ヨリ施行ス

第四章　貨物稅　附雜稅、斗稅

一　意義

貨物稅は出產稅と銷場稅の二よりなり、出產稅は又糧石出產稅とも稱し、銷場稅は更に貨物銷場稅と粮石銷場稅の二に分たる。

貨物銷場稅は、

咸豐七年、日釐兩捐の名に於て創設せられし、光緒四年將軍銘安、日釐兩捐を改めて貨釐となし、各商家の貨物購入元價每市錢一吊に付き十文を軍署戶司により徵收せらる。次いで三厘を減じて七厘となし、僅かに白色布疋等十四種より徵收するに限りその他の綢綾及洋貨、藥材、顏料、海菜、一切雜貨及本地土產物は免稅せしを以て稅額は多きに上らず、光緒十八年六月將軍長順、內地釐金辦法に準じて規則を重訂し、釐捐總局を設立し、二十三年將軍延茂の時、二十四年以降、年三十萬吊を以て徵收規定額とし、その中四千五百吊は一五經費として控除し、他の二十五萬五千吊を旗署官兵の俸餉となしたる後、行省を改められてよりは、之を提法司等の經費に充當し、之を還本七釐捐と稱した。

光緒十年、現錢缺乏せるを以て、寶吉局を設立し制錢を鼓鑄したが、その經費距額に及べるを以て、七釐捐の外に四釐を徵收することにし、之を以て鑄錢の經費に充當せしめた。光緒三十三年、巡撫朱は寶吉局を裁撤して銀元局を

設けこの項の稅捐收入を以て銀元鑄造經費及提學司學堂經費に充當することゝなつた。これを畳本四厘捐と稱す。
光緒二十六年、兵變の後は軍費益々嵩み、特に省城に於ては籌餉委員なるものを設け、軍費捻出の策を講じ房捐六厘を設けしも、商人の希望により本捐を廢し、別に商店及外來貨物の出入倉庫につきその賣價一吊毎に中錢として九文を徵收し、特に錢當店三行に於ては毎斤所得の純利中より使用人給料その他を除きたる額毎一吊につき九文を抽出した。之を九厘捐と云ふ。
かくて、これ等三捐はその始、各異なりたる經費に充當せんが爲、各別に徵收され來つたものなるも、宣統三年以後は七、四、九厘捐は悉く軍費行政費に充當せらるゝことゝなり、民國三年五月には遂にこれ等三捐は合せられて二分銷場稅と稱せられ、以て今日に及ぶ。
糧石銷場稅は貨物銷場稅の設置と共に設けられしものなるも、種々の事情により實施さるゝに至らず、その始めて實施されたるは、民國八年五月の事に屬す。而してこれと同時に章程を制定し、出口の意義を規定し、すべて省境に運出するものを出口とし、これ等車船により省界に搬出さるゝ貨物は、その起運所在地稅局に於て估價徵收せらるゝことを規定せらる。その估價の標準は毎旬一回毎日の糧價平均額を作り、その平均額を次期の估價の標準と定めらる。
かくて徵收を實施されたるも、各處未だ嚴に實行されず、十年十一月榮厚財政廳長に就任するや、出口斗稅を廢し鐵路の界外に普く局卡を設けてその徵收を實行し、十一年の始めには漸くその收入年八十餘萬元に達するに至つた、
糧石出產稅とは吉林省內の產物にして、他地方に輸移出せらるゝ物資に對して課する稅金を謂ひ、出口稅を一度納付したる後は當省內の何處に運搬するも、販賣に際し銷場稅を課せらるゝ外、再び課稅せらるゝ事がない。

二 税率

一 貨物銷場税　賣價ノ百分之二　附加税正税ノ二分買主負擔
一 糧石銷場税　粮價ノ百分之二　附加税二分買主負擔
一 同　出產税　粮價ノ百分之二　附加税正税ノ二分賣主負擔
一 二分純利捐　錢店ニ業ノミ毎年所得純利ノ百分之二ヲ次年春季ニ納付
一 九厘純利捐　當業者ニ限リ毎年所得純利ノ千分之九ヲ次年度春ニ納付

三 徴收法

貨物銷場税は各商店開設と共に、その使用帳簿を所轄税局に提出し該税局の檢印を受け、その帳簿に日々の賣上高の明細を記載し、十日毎に税局に報告す。税局に於てはその帳簿と、購貨帳、在庫品帳と照合檢査し税局所在地の各商に對しては毎十日の翌日即ち毎月十一日、二十一日、一日に納税せしめ、税局所在地と相距る處に於ては十三日、二十三日、三日を以て納税期日とす。

糧石銷場税の税票は三枚續きよりなり、第一枚は税局の控とし、第二枚は財政廳に送付し、第三枚には「貨已到地要應作廢」なる文字を加印し商人に交付保存せしめ、以て他日檢査の根據となす、票内に記載する貨物に販賣し終りたるときは、直ちに

之を返納し該局を通じて、その都度財政廳に送達す。

外來貨物はその通過貨物たると、其地に於て販賣せらるゝ貨物たるとを問はず、水路又は陸路より運入するものは通過する最初の局に申告し又鐵道によりて搬入するものは鐵道より荷卸したるその地の局に申告し夫々手續をなすべく、其の方法は次の三種に分たる。

イ　其他に於て販賣するものは銷場稅を納付し。

ロ　其地より更に吉林省內の他地に輸送するものは先づ護照をうけ目的地に到達したる上銷場稅を納付す。

ハ　單に通過に止まり吉林省內に於て販賣せざるものは護照を受くるのみにして納稅するに及ばず。

行運護照は三枚續とし

第　一　枚　　局に備へ置き

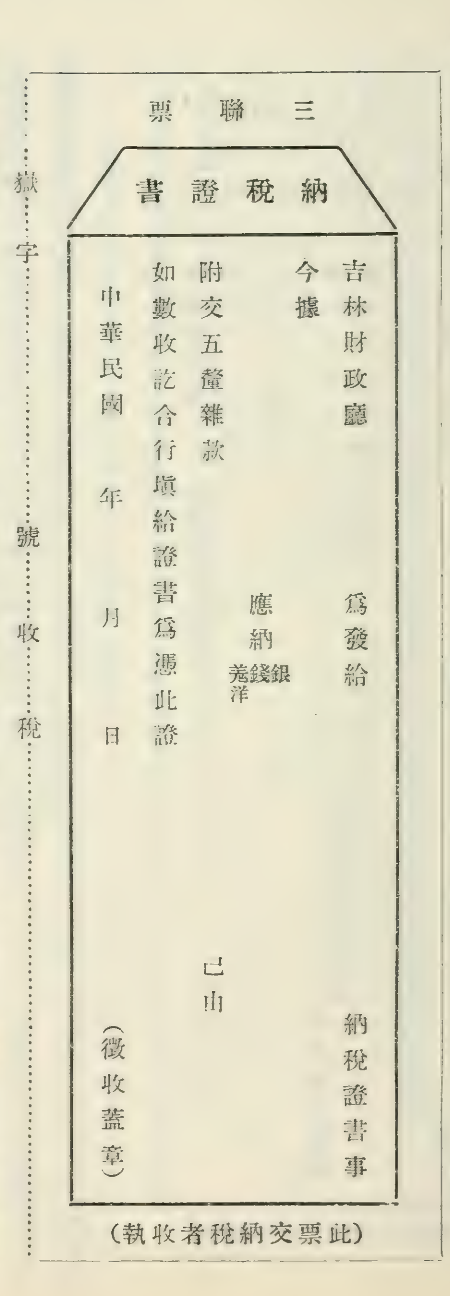
第　二　枚　　財政廳總局に送付

第　三　枚　　荷主に交付

萬一該貨物が吉林省內に於て販賣せらるゝものなるときは、販賣地の納稅地に於て銷場稅票を受け更に護照を得、舊護照を返納し。該局は其護照を財政廳に輸送す、もし該貨物が單に通過貨物なるときは吉林省界を越えて最後の稅局に護照を返還し該局より財政廳に輸送す。

出產稅はその納入に當り稅票を受くるに際し、票費として一枚につき銅錢一錢を徵し、又運搬途上の稅局を通過の際は、稅局員の驗票を受くるを要す。此の驗票に對する費用は一枚に對し、銅錢二錢を徵收するも、稅吏によつては

不當の要求をなすことあり。之に應ぜざるときは再び嚴重なる檢査を行ひ、積上載數量に相違あらんか、その過分に對し從金を要請するに至る。



三聯票

納稅證書

吉林財政廳　爲發給　納稅證書事
今據
應納　銀錢洋
附交五釐雜款　己由
如數收訖合行塡給證書爲憑此證
中華民國　年　月　日　（徵收蓋章）

（此票交納稅者收執）

獄　字　號　收　稅

徵稅方法は其他稅局に納稅するを正則とするも、稅局なき地方のものにあつては通過する最初の稅局に於て納稅せしめ、且稅單面に到着地名及賣買人等を表記す。稅單の樣式は四枚續とし。

第一枚　は稅局の控として存し。

第二枚　は財政廳に送付し。

第三枚　は荷主に與へ通過する最初の稅局に於て檢査の上「某局檢定」なる文字を加印して財政廳に送付す。

第四枚　は同じく荷主に交付して納税濟の證として販賣地、輸出地の税局に納めて財政廳に送付する。

然るに出產税は銷場税と同一税局に納入する場合は、單に銷場税票のみを交付し、「併徵出口税」なる文字を記入して取扱ふ。

出產未納の穀物を取引する際は買主に於て納税すべきも、實際はその當地の當事者の契約により決定する場合多し又慣習によつては、買主及賣主の兩方にて負擔することもある。

銷場税の徵收は貨物が販賣地に到着したるとき、即日税局に報告して納税せしむ。されど該貨物が未だ賣渡されざる場合は賣渡成立を俟つて納税せしむるものとす。納税者は一旬毎に賣上高日報を作製し所管税局に報告し税局は之

出口糧銷場税

税證截驗

吉林財政廳　爲截驗事今據　地方
糧戶商　報運　至
地方出口每石價　共價
已放　年　月　日在　局納過斗內地銷場税
持有　字第　號税票應再繳納出口
税　已由
局如數收訖除在前票註冊外仰出口税局驗明截留此聯繳廳備驗此證
民國　年　月　日限　日銷
局截名章

此聯併交納税人轉繳

字第　號　税額

を査明の上徴收す。

その納稅期限に關しては、稅局と同一地內にあるものは毎旬卽ち一日、十一日、二十一日とし、その徴收局以外にあるものは旬後三日以內卽ち三日、十三日、二十三日とす。而して信用ある商人に對してはその都度納稅せしむる手數を省き、循環帳簿を作製して稅局に備附置き月末に一括して納稅せしむ。

四　罰　則

貨物銷場稅に對する罰則は隱漏罰則、抗稅罰則、携帶禁物罰則の三に分たる。

脫稅罰則は重きに從ひ左の七項により處罰さる

(1) 脫稅額五十元以下の者は正稅を納付する外倍額の罰金

(2) 脫稅額五十元以上百元以下の者は正稅を納付する外一倍半の罰金

(3) 脫稅額百元以上百五十元以下の者は正稅を納付する外二倍の罰金

(4) 脫稅額百五十元以上の者は正稅を納付する外二倍半の罰金

(5) 脫稅額二百元以上二百五十元以下の者は正稅を納付する外三倍の罰金

(6) 脫稅額二百五十元以上三百元以下の者は正稅を納付する外三倍半の罰金

(7) 脫稅額三百元以上の者は正稅を納付する外四倍の罰金

抗稅罰則は

(1) 不納稅額一元以下の者は正稅を納付する外正稅の三倍乃至五倍の罰金
(2) 不納稅額一元以上五十元以下の者は正稅を納付する外正稅の四倍乃至六倍の罰金
(3) 不納稅額五十元以上百元以下の者は正稅を納付する外正稅の五倍乃至七倍の罰金
(4) 不納稅額百元以上百五十元以下の者は正稅を納付する外正稅の六倍乃至八倍の罰金
(5) 不納稅額百五十元以上二百元以下の者正稅を納付する外正稅の七倍乃至九倍の罰金
(5) 不納稅額二百元以上の者正稅を納付する外八倍乃至十倍の罰金

禁制品罰則は次の如し。

(1) 危險物を携帶密輸する者には十元以上三百元以下の罰金
(2) 阿片及吸煙器具を密輸する者は百元以上千元以下の罰金
(3) 賭博器具及彩票を密輸する者は一元以上百元以下の罰金

糧石出產銷場稅に關して脫稅その他の不正行爲あるときは、買主より正稅の外罪狀輕重に應じ、稅額の一倍乃至二十倍の罰金に處す。

附　斗　稅

吉林省の斗稅は光緒七年に始めて徵收せられしものである。卽ち將軍銘安、徵稅を商包とし每年々額市錢十二萬吊と定めた。二十六年將軍長順釐を整頓し包徵原額以外に稅錢十萬餘吊を加徵し、四季徵收することゝし三十二年には

吉林道は委員を派して撤底的の調査を行ひ更に增稅十一萬餘吊を加へ（合計年額三十三萬餘吊を算するに至つた。次で三十四年度支司の成立すると共に徵稅を商包より官辦に改め、各統稅局に於いて別に定額を定めず徵收額のみを收納するに改められ更に七萬吊を增稅した。當時に於ける稅率は、

小麥、油麥、江米、粳米　每斗徵錢三十文

小米、元米、稗子、米包、米査、秫米、小豆、吉豆、先豆、芸豆、線麻子、大麻子、西天谷子　每斗徵錢二十文

大麥、紅糧谷子、包米、稗子、蕎麥　每斗徵錢十文

十六年七月改訂に係る斗稅は、

豆麥斗稅　元豆　每斗　大洋一分四厘
　　　　　小麥　同　　同　二分　　賣主より納稅

雜糧斗稅
　上則（油麥、江米）　每斗　大洋九厘
　中則（小米、元米、稗子、米包、米査、小豆、吉豆、芸豆、線麻子、大麻子、西天穀）　每斗　大洋六厘
　下則（大麥、紅糧穀子、包米、稗子、蕎麥）　每斗　大洋三厘
　　買主より納稅す

附加稅　普通稅の百分之二十賣主負擔

吉林省銷場稅試辦章程（民國三年七月一日）

第一章　總綱

第一條　吉省七四九捐或按資本或按賣價或按紅利標準棼岐名目複雜現擬將七四九厘捐一律廢止另定銷場稅

第二條　外來洋土雜貨運銷本省輛地凡從前之完納九厘捐者概徵銷場稅本省商埠內製造各貨運銷本省商埠外時亦同但過路者查明護照概不抽收本省出產各貨在本省銷售者概徵銷場稅

第二章　稅率

第三條　在出產稅未改訂以前所有本省舊有之山海山分烟酒木石藥材全煤網課磨課缸捐硫滷課 木石票費仍各照專章徵收

第四條　銷場稅按賣價值百抽二

第五條　百貨買賣以各商賣貨帳簿為據

第三章　徵收程序

第六條　各商帳簿除依商人通例第二十六條第二十七條第二十八條之規定外仍須呈由該管徵收局 加蓋鈐記黏貼印花編號發還該商登記

第七條　各商應納銷場稅須按旬開具日售貨品價值（指賣價） 報單請該管徵收局查明師單相符即依第四條徵納其報納期際如下

甲　與徵收局或分局同城鎮者限每旬後一日報納（即每月初一、十一、二十一）

乙　與徵收局或分局不同城鎮之窵遠者限每旬後三日內報納（即每月初三、十三、二十三以前）

第八條　各徵收局或分局接到各商報納銷場稅單認為必要查對各商帳簿時所應注意之點如下

甲　是否由該管徵收局加蓋鈐記貼用印花編號之原帳簿

乙　該商每月之賣貨額須比較該商上年同月之賣貨額如減少過鉅須詢明理由酌奪

丙　賣貨帳比照進貨賬及存貨賬其貨數是否相符

丁　有無匿貨品賣賒而寫現金往來之行爲(例如將賣賒帳列入往來帳內不寫取貨錢若干而寫取錢若干迨買主交付貨錢時亦寫收錢若干不列賣貨錢帳)

戊　有無將進出貨物不列賬內之行爲

己　有無藏匿眞帳另造僞帳以多報少之行爲

庚　糧棧及糧米舖燒鍋有無將已經賣出仍寄存原棧舖燒鍋之糧石或糧類製造品不列賣貨帳內另立契約希圖延漏稅項之行爲

第九條　各商已列進貨帳內之出貨品無論零售躉發或轉銷他處均以賣貨論應列賣貨帳內依第四條第七條報納

第十條　錢當店三行在其餘利內依第四條第七條報納

第十一條　依第七條第八條之規定各徵收局得向各商調取帳簿查定稅額其查定時期如下

甲　當年查定(在商人結帳習慣未改依陽曆以前暫以陰曆每年一月六日起至同月十五日止爲查定期)

乙　臨時查定(各徵收局收到納稅人報單時應立即協同納稅人赴該號查定其審查時間不得延長至一日以上)

第十二條　常年查定應由該徵收局於期前通知當地商會但臨時查定者不在此限

第四章　罰　則

第十三條　各商民罰則約分三類如下　甲、隱漏罰則　乙、抗稅罰則　丙、携帶禁物罰則

第十四條　偷漏罰則如下

一　偷漏稅額不及銀五十元者除補納正稅外加倍議罰

二　偷漏稅額在五十元以上不及百元者除補納正稅外加一倍半議罰

三　偷漏稅額在百元以上不及百五十元者除補納正稅外加兩倍議罰

四　偷漏稅額在百五十元以上不及二百元者除補納正稅外加兩倍半議罰

五　偷漏稅額在二百元以上不及二百五十元者除補納正稅外加三倍議罰

六　偷漏稅額在二百五十元以上不及三百元者除補納正稅外加三倍半議罰

七　偷漏稅額在三百元以上者除補納正稅外加四倍議罰

第十五條　違反本章程第六條而有第八條各款之行爲者適用前條之罰則

第十六條　抗稅罰則

一　抗應納稅額不及一元者除補納正稅外處正稅三倍至五倍之罰金

二　抗應納稅額在一元以上至不及五十元者除補納正稅外處正稅四倍至六倍之罰金

三　抗應納稅額在五十元以上至不及百元者除補納正稅外處正稅五倍至七倍之罰金

四　抗應納稅額在百元以上至不及百五十元者除補納正稅外處正稅六倍至八倍之罰金

五　抗應納稅額在百五十元以上至不及二百元者除補納正稅外處正稅七倍至九倍之罰金

六　抗應納稅額在二百元以上者除補納正稅外處正稅八倍至十倍之罰金

第十七條　徵收官吏視抗稅者之情節輕重得在前項罰則各款範圍內酌用其最少額或最多額

第十八條　抗稅者如有强暴行爲除依第十七條各款最多額處罰外仍送就近縣知事或審判檢察廳按律治罪

第十九條　違反本章程第七條第十條第十一條者適用第十七條至第十九條之罰則

第二十條　夾帶禁物罰則如下

一　夾帶危險物者處三百元以下十元以上之罰金但以未受公署命令允准委任者爲限（凡轉行判刑律第十四章列舉之炸藥綿火藥留汞及其他類此之爆烈物及軍用槍砲均以名陰物論）

二　夾帶鴉片煙及煙具者處千元以下百元以上之罰金

三　夾帶賭博器具及彩票者處百元以下一元以上之罰金

第二十一條　夾帶禁物者除依前條處罰外仍由該徵收局將禁物並人犯送就近之縣知事或審判檢察廳按律治罪

第二十二條　罰金確定後須即公告自公告之日起算限十日以內完納逾期不完納者依前國稅廳徵收暫行則例第三章各條辦理

第二十三條　各徵收局罰金收到時應隨即備具證書（次頁參照）

第二十四條　各局所收罰金依吉省向章以五成充賞五成以解交金庫

第五章　附則

第二十五條　本章程自呈部核准發布之日實行

罰金證書

為存根事今有　　因　　事

經本局照　　章程第　　條罰銀　　元茲已如數繳

到除照章核收塡給收據並繳查外此存

中華民國　　年　　月　　日（該徵收局署名加鈐）

罰字第　　號收罰金　　元

罰金證書

為發給收據事今有　　因　　事

經本局照　　章程第　　條罰銀　　元茲已如數繳

塡收據並另文呈解外合將繳查呈送備案此繳

中華民國　　年　　月　　日（該徵收局署名加鈐）

罰字第　　號收罰金　　元

罰金證書

為繳查事今有　　因　　事

經本局照　　章程第　　條罰銀　　元茲已如數收訖除

塡給收據並另文呈解外合將繳查呈送備案此繳

中華民國　　年　　月　　日（該徵收局署名加鈐）

第二十六條　本章程發布後如有未盡事宜本廳得隨時修正仍報明財政部

吉林財政廳々長　饒　昌　齡

吉林徵收粮稅章程（民國十三年十一月十三日）

第一章　總則及稅率

第一條　本章程係爲劃一糧稅徵收辦法減輕商民負擔而訂定凡本省商民均須遵守之

第二條　粮稅分出產稅銷場稅兩項以外併附收斗稅

第三條　出生銷場兩稅按粮價百分之二徵收出產稅由賣主（即農戶）繳納銷場稅由買主（即粮商）繳納祇於初次買賣時繳納祇於初次買賣時繳納一次嗣後再有買賣或轉運他處不再徵稅

第四條　斗稅係分豆麥斗稅及雜粮斗稅兩項其徵收稅率如左

甲　豆麥斗稅　元豆每斗收大洋一分四厘小麥斗每斗收大洋二分由賣主繳納

乙　雜粮斗稅　油麥江米爲上則每斗收大洋九厘　小米、元米、稗米、包米、査小豆、吉豆、芸豆、線麻子、大麻子、西天穀爲中則每斗收大洋六厘　大麥、紅粮、穀子、包米、稗子、莜麥爲下則每斗收大洋三厘如有他項粮食比照上列三則分別收稅由買主繳納

第二章　徵收程序

第五條　凡農戶以自產之粮在本管稅局境內出售者運抵指銷地點時應准買粮商人將賣主擔任之出產稅在粮價內扣除代向稅局完納其買主自任之銷場稅交同時同稅局繳納之稅局將兩項稅款收清應同時開製產銷兩票交買主收存

第六條　農戶以產粮運往本管稅局境外售銷者准由經過本管之最終局卡徵收其出產稅同時開給稅票交該農戶執持沿途抵運銷地點將粮出售卽將出產稅票同時交附買主以此爲憑卽不准買糧商人再由糧價內代扣出產稅同時由該商持祭送局驗明再交納銷場稅一道亦由稅局開掣稅票交其收存

第七條　經農戶納過出產稅之粮運銷他處得由銷地稅局查驗所運數目是否與所銷之數相符如多於票載之數卽責成買主代爲扣除補足於交納銷場稅時併收之如賣主已經他往應責成買主補繳務期所持產銷兩稅票所載數量彼此相符

第八條　農戶以產粮直接運出省境准由沿邊最終之局卡並徵產銷斗各稅由運粮人繳納

第九條　凡商人以大車裝運之粮至卸儎地點經稅局查明如無稅票卽須照章納稅不得藉口自產租粮要求豁免

第十條　他省已稅粮石運銷本省者應由買主將該省稅票呈局驗明蓋戳發還收執祇由買主納銷場稅一道並將原來字號註明銷場稅票之內賣主之出產稅准予免收如無該省稅票應照本省粮石辦法一併徵收其產銷兩稅

第十一條　賣主應納之豆麥斗稅由買主於賣主粮價內代扣以及買主應納粮斗稅均於納銷場稅時一併繳納另開稅票交其收存

第十二條　購粮商人應按家設立循環簿將每日買入之粮買自何處何人數目價目各若干分晰載入按日送稅局查驗簽章發還如查明簿載之數與稅票及該商流水賬不符時卽根究原由務得眞相

第十三條　糧商自用及其他製米製麵等消用之粮應由原商按月載入循環簿內並持稅票赴局報明註銷以期粮票符合

第三章　稅　票

第十四條　出產銷場稅票均分四聯一聯存根留局備查一聯繳驗由稅局按月送廳備核一聯執照發給納稅人收執一聯附證亦

交納稅人保存

第十五條　稅款徵訖應即掣給稅票所有糧石種類石數稅額及納稅者姓名年月日并某局某卡所發均於票內註明其他三聯亦然不得遺漏亦不得塗改

第十六條　農戶自運之糧在中途局卡已將出產稅納過者即於出賣時將出產稅票及附證兩聯一併交給買主收存買主代扣之出產稅及自納之銷場稅亦應將稅票及附證兩聯妥爲收存不准持往他處亦不准遺失以備廳派調查員前往查驗

第十七條　廳派調查員至糧商查驗稅票時將產銷兩票一併查驗並附證一聯掣下送廳以便與繳查核對有大頭小尾之弊產銷兩票及附證如缺其一即爲有意偷漏酌補正稅並按其情節罰辦其經調查員掣下送廳之附證應由調查員自在產銷原票上註明于某年月日掣下送廳蓋戳以憑查對

第十八條　斗稅票係分三聯一聯存根一聯繳驗一聯交納稅商人收執并於票內註明糧石種類數目稅款若干根據某號銷場稅票辦理以便核對

第十九條　產銷及斗稅三種稅票每張收票費大洋二分於塡發時由納稅人隨同稅款繳納不得額外需索

第二十條　各項稅票均須存放於買糧商人之手不准持票行運如在同一地點轉賣他商得由買主向稅局聲明註入循環簿內以便外運時據以飭取原賣商號稅票照數註銷

第四章　轉運行票

第二十一條　凡納過產銷兩稅及斗稅之糧石如欲轉運他處銷售或裝火車時得開見圖書報條持原給銷場稅票赴局請領轉運行票（以下簡稱行票）并將圓條黏於行票存根之內以備查核

第二十三條　行票係分四聯一聯存根一聯繳驗一聯行票一聯通知

第二十三條　請領行票之商人如照稅票所載粮數一次運完即將銷場稅票由稅局註銷如分數次運完應於稅票上註明某年月日運出若干另起某號行票以資核對俟運盡時再將稅票註銷仍由商人保存以備查驗此項行票每張應收票費大洋一角作印刷工本之用

第二十四條　稅局將稅票驗明應於行票上將粮石種類數目指銷地點限期原稅票之某字某號一々註明四聯均同不得遺漏

第二十五條　發票之局卡將行票開出後即將通知一聯掣下立時寄交銷地局卡銷地局卡接到通知俟粮到查驗相符即將行票註銷加蓋驗訖戳記仍歸銷地粮高保存一面局將通知一聯按月送廳備驗其由邊地運出省境之粮即由發地局卡將通知一聯寄由最後之局卡將行票查驗註銷連同通知一聯按月送廳查核如逾通知所載定限而糧票未到應向發票之局行查根究

第二十六條　運糧人未到指銷地點在中途將糧石卸儎售賣者應向就近稅局報明請驗一面由中途銷地稅局通知起運及指銷局卡並將通知一聯索回以便根據查驗

第二十七條　粮石已至運銷地點再由買主轉運他處時應由運粮商人開具圖書報條持原運行票到局聲請另起行票其一切手續與初起時同並將原票字號註明新票之內一面責成粮商將原票保存備查其効力與稅票等

第二十八條　凡由中東吉長兩路各站火車裝運之粮不論何地點均以出省境論其在站地購入之粮應由運粮人於起運之先持銷物稅票到局報明即在票面上將運出之斗數註銷其由他處轉運至站者持原有行票到局報明註銷並于裝畢後報由稅局查驗相符再予放行至南滿路附屬地不能設卡收稅者應用站外堵徵辦法凡入站之粮均須先到堵卡照章投稅或呈驗行票始准通過

第二十九條　行票自發行之日量其道鐵遠近酌定期限惟至多不得過十日逾限須到局聲明否則罰辦其在中途所經局卡驗明行票即蓋某稅局卡驗記戳記並准收驗訖費吉大洋一角不得額外需索

第三十條　運粮商人起行票時所報石數如多於稅票所載數目時應即責令補納產銷斗三稅並照章處罰

第三十一條　運粮至指銷地點經稅局查驗所運粮數多于票載所運數目時應責令照章補稅並照章處罰

第五章　罰　則

第三十二條　應納之產銷兩稅及斗稅如查出偷依情事除均責成買主照章補納外得按情節輕重科以應納稅額一倍至二十倍之罰金粮商代扣之出產稅如有逾額多扣情節亦准由農戶指控罰辦

第三十三條　行運之粮除因各地斗量大小發生岐異可以不問外其餘如粮多於票時應責令補納正稅仍按前條罰法由局酌量罰辦

第三十四條　收入罰辦塡用三聯單以一聯存局一聯繳廳一聯發給納稅人收執並將收入罰金以五成充賞以五成解廳歸公

第六章　附　則

第三十五條　本章程施行之後凡舊章有與本章程抵觸者應失其效用

第三十六條　本章程自民國十三年十二月一日施行所載事項如有應行變更者得隨時修改以命令公布之

雜　稅

附加雜款

山貨、皮張、海菜、土產、牲畜、屠宰各税、煤税、菸酒税、石灰税、木石税、魚草税及山分票費硝滷捐等ニハ$\frac{5}{100}$ヲ附加ス

已税貨物轉運票費

每張	大洋一角

票費

每張	大洋二分

驗票費

每驗票一張	大洋一角
糧税驗票費	吉錢二吊
五石十石票每張	同五吊
三十石五十石票同	同八吊
一百石二百石票同	同十吊
濱江一石未滿票、同一石三石票（每張）	現洋二分
同五石十石票同	同四分
同三十石五十石票同	同六分
同一百石二百石同	同八分

糧石轉運行票存根

[illegible] 石 斗呈驗己由 [illegible]

[illegible] 地方至 [illegible]

[illegible] 日運到外合塡存根備查

經手人

原持銷場稅票(或行票)列此表內

年 月 日己納稅 糧 石 斗領有 字 號 票

年 月 日己納稅 糧 石 斗領有 字 號 票

年 月 日己納稅 糧 石 斗領有 字 號 票

年 月 日己納稅 糧 石 斗領有 字 號 票

年 月 日己納稅 糧 石 斗領有 字 號 票

中華民國 年 月 日 發

字第 號

糧石轉運行票繳驗

吉林財政廳爲繳驗事茲據糧商 報稱納過產銷斗各稅 糧共 石 斗呈驗己由 局

卡發給銷場稅轉運行票現擬出運 石 斗由 地方至 地方經驗推符發給行票除於原票詳細註

明蓋戳將字號等項另表列後及限 日運到外今塡繳驗送廳

經手人

原持銷場稅票(或行票)列此表內

年 月 日己納稅 糧 石 斗領有 字 號 票

年 月 日己納稅 糧 石 斗領有 字 號 票

年 月 日己納稅 糧 石 斗領有 字 號 票

中華民國 年 月 日 發

字第 號

糧石轉運行票

吉林財政廳爲發給轉運行票事茲據糧商 報稱納過產銷斗各稅 糧共 石 斗呈驗於

己由 局 卡發給銷場稅轉運行票現擬出運 石 斗由 地方至 地方經驗相符

除於原票詳細註明蓋戳並將字號等項另表列後及限 日運到外合塡轉運行票仰沿途局卡查

驗相符蓋戳放行並抵指運地方由該處局卡查與通知無異卽將此票注銷蓋戳交由原商收執以憑查驗

此票每張多收票費大洋一角

經手人

原持銷場稅票(或行票)列此表內

年 月 日己納稅 糧 石 斗領有 字 號 票

年 月 日己納稅 糧 石 斗領有 字 號 票

年 月 日己納稅 糧 石 斗領有 字 號 票

年 月 日己納稅 糧 石 斗領有 字 號 票

年 月 日己納稅 糧 石 斗領有 字 號 票

另起行票之分運次數列此表內

年 月 日運往 地方 糧 石 斗發給 字

年 月 日運往 地方 糧 石 斗發給 字

年 月 日運往 地方 糧 石 斗發給 字

年 月 日運往 地方 糧 石 斗發給 字

年 月 日運往 地方 糧 石 斗發給 字

中華民國 年 月 日 發

字第 號

糧石轉運行票通知

吉林財政廳爲通知事茲據糧商 報商納過產銷斗各 稅 糧 石 斗呈驗於

年 月 日由 局 卡發給銷場稅轉運行票現擬出運 石 斗由

地方至 地方經驗相符除發給行票限日運到並於原票詳細註明蓋戳外合塡通知仰發票局卡卽將此聯掣下加封

寄交指運所在局卡比驗相符交由本管稅局按月送廳爲核

經手人

中華民國 年 月 日 發

注意

一、此聯應由發票局卡於填發行票後立時寄交銷地局卡

二、銷地局卡查驗糧商運到之貨及所持之行票與此聯相符即將行票註銷並將此聯按月由局送廳備驗

三、運商未到指銷地點在中途將貨卸儎售賣者應由中途所在局卡向指銷局卡將此聯索回以便根據查驗

四、銷地局卡如查覈此聯所載定限而運商尚未持票載貨到境應向發票局卡行查根究

注意

一、糧商運糧應先開具圖章或條由發票局卡結於行票存根之內並將所持銷場稅票（或行票）字號種類等項詳填行票各聯表內

二、糧抵指銷地點查驗糧票與接到通知相符即將此票查驗註銷即歸銷地官主保存其效力與稅票同

三、糧抵指商地點他商另擬轉運時應由他商開具圖條並持此票向稅局聲明另發行票此票仍歸原商保存並將分運次數詳填此票表內以憑查驗

四、運出省境之貨應由最後局卡將此票繳銷並按月由局送廳查核

五、運商承領此票而行載貨沿途中經局卡準其驗貨[illegible]大半一角不得[illegible]件[illegible]

出產糧稅票存根

吉林財政廳爲存查事茲據　縣　地方農戶　報賣　糧　石　斗每石價　共價　計應納出產稅　已於　年　月　日由　局　卡如數收訖合塡存糧備査

經收員

中華民國　年　月　日　發

此聯存局

字第　號

應納稅額

出產稅票繳驗

吉林財政廳爲繳驗事茲據　縣　地方農戶　報賣　糧　石　斗每石價　共價　應納出產稅　已於　年　月　日由　局　卡如數收訖合塡繳驗送廳査核

經收員

中華民國　年　月　日　發

此聯繳廳

字第　號

應納稅額

出產糧稅票

吉林財政廳有發給稅票當此據　縣　地方農戶　報賣　糧　石　斗每石價　共價　應納百分之二出產稅　已於　年　月　日由　局　卡如數收訖合塡稅票收執此票每張外收票費大洋二分

經收員

中華民國　年　月　日　發

此聯與銷場票併交買糧商人

第　號

應納稅額

出產糧稅附證

吉林財政廳有附證事茲據　縣　地方農戶　報賣　糧　石　斗每石價　共價　應納百分之二出產稅　已於　年　月　日由　局　卡如數收訖合塡附證備驗

經收員

中華民國　年　月　日　發

此聯交買糧商人

注意

一、票面所載各項均須分別注明如有遺漏卽以容心舞弊論

二、出產稅應由賣糧農戶擔任如農戶未經繳納准由買糧商人於糧價內扣出代納

三、出產稅票及附證均存於買糧商人之手不准持票行運以備查驗票證缺一卽認爲依漏

四、廳派調查員至商號查驗時如查驗票證相附卽將附證制手下呈廳查核並由調查員自在原稅票上蓋戳註明以憑查對

五、農戶在中途已將出產稅納過者應於出賣時將出產票及附證交給買糧商人收存並由買主持局呈驛祗納銷場稅一道如無此票卽須將產銷兩稅一併交納

注意

一、票面所載各項均須分別注明如有遺漏卽以容心無弊論

二、出產稅應由賣糧農戶擔任農戶未經繳納准由買糧商人於糧價內扣出代納

三、出產稅票及附證均存於買糧商人之手不准持票行運以備查驗票證缺一卽認有偷漏

四、廳派調查員至商號查驗時如查驗票證相符卽將附證製下呈廳查核並由調查員自在原稅票上蓋戳註明以憑查對

五、農戶在中途已將出產稅納戶者應於出賣時將出產票及附證一併交給買糧商人收存並由買主持局呈驗祗納銷場稅一道如無此票卽須將產銷兩稅一併交納

斗稅票存查

吉林財政廳爲存查事今據　農戶商賈　報賣買　糧　石　斗應納斗稅
局　卡如數收訖除糧據　字　號銷場糧稅票發給斗稅票外留此存查
經收員
中華民國　年　月　日　發

字第　號應納稅稅額

斗稅票

吉林財政廳爲發給斗稅票事今據　農戶商賈　報賣買　糧　石　斗應納斗稅
已由　局　卡如數收訖除填存根及繳驗外合行糧據　字　號銷場稅票塡給斗稅票爲憑此
票每張外收票費大洋二分
經收員
中華民國　年　月　日　發

字第　號應納稅額

斗稅票繳驗

吉林財政廳爲繳驗事今據　農戶商賈　報賣買　糧　石　斗應納斗稅
已由　局　卡如數收訖除糧據　字　號銷場稅票發給斗稅票並填存根外留
此繳驗
經收員
中華民國　年　月　日　發



銷場糧稅票存根

吉林財政廳為存查事茲據　縣　地方　糧商　報買　糧
石　斗每石價　共價　計應納銷場稅　已於　年　月　日出
局　卡如數收訖並根據　字　號出產稅票合塡存根備查
經收員
中華民國　年　月　日　發

此聯存局

第　字　號應納稅額

銷場稅票繳驗

吉林財政廳為繳驗事茲據　縣　地方　糧商　報買　糧
石　斗每石價　共價　應納銷場稅　已於　年　月　日出
局　卡如數收訖並根據　字　號出產稅票合塡繳驗送廳
經收員
中華民國　年　月　日　發

此聯繳廳

銷場糧稅票

吉林財政廳為給稅票事茲據　縣　地方　糧商　報買　糧
石　斗每石價　共價　應納百分之二銷場稅　已於　年　月
日出　局　卡如數收訖合塡稅票收執此票每張外收票費大洋二分　記載分運次數表並報據
字　號出產稅票
年　月　日運往　糧　石　斗發給　字　號行票一張
年　月　日運往　糧　石　斗發給　字　號行票一張
年　月　日運往　糧　石　斗發給　字　號行票一張
年　月　日通往　糧　石　斗發給　字　號行票一張
年　月　日運往　糧　石　斗發給　字　號行票一張
年　月　日運往　糧　石　斗發給　字　號行票一張
年　月　日運往　糧　石　斗發給　字　號行票一張
經收員
中華民國　年　月　日　發

此聯發與出產票併交糧商人

銷場糧稅票附證

吉林財政廳為附證事茲據　縣　地方　糧商　報買　糧
石　斗每石價　共價　應納百分之二銷場稅　已於　年　月
日出　局　卡如數收訖並根據　字　號出產稅票合塡附證備驗
經收員
中華民國　年　月　日　發

此聯交買糧商人

注意

一、票面所載各項均須分別註明如有遺漏即以容心舞弊論
二、銷場稅應由買粮商人擔任不得於賣主粮價內扣繳
三、銷場稅票及附證均存於買粮商人之手不准持票行運以備查驗票照一鈌一即認為偷漏
四、粮石轉運時應照章另起行票並將分運次數詳塡此票表內候粮運盡即將此票呈局註銷仍歸粮商保存備驗
五、廳派調查員至商號查驗時如查驗票證相符即將附證掣下呈廳查核並由調查員自在原稅票上蓋戳註明如在附證掣繳後運出之粮祗於稅票表內以次註明以憑查對

注意

一、票面所載各項均須分別註明如有遺漏即以容心舞弊論
二、銷場稅應由買粮商人擔任不得於賣主粮價內扣繳
三、銷場稅票及附證均存於買粮商人之手不准持票行運以備查驗票證鈌一即認為偷漏
四、粮石轉運時應照章另起行票並將分運次數詳塡此票表內俟粮運盡即將此票呈局註銷仍歸粮商保存備驗
五、廳派調查員至商號查驗時如查驗票證相符即將附證掣下呈廳查核並由調查員自在原稅票上蓋戳註明如在附證掣繳後運出之粮祗於稅票表內依次註明以憑查對

第五章　契　税

吉林田房契税は乾隆二十八年の創設に係り、正税毎一兩に付三分、之を國庫に送付し附加税三分にして之を徴税經費に充當した。當初は吉林廳に於て徴税事務を司り居りしも、光緒八年軍署戸部をして專ら之に當らしむるに改變した。光緒三十四年九月巡撫陳は契税徴收制度不完全にして、各經徴官任意徴收之を費消するの弊に鑑み、度支司に令して章程を發布せしめ卽ち收税六分中、三分を度支司に送り正額とし、殘りの三分に暫時地方政費に充當し、各地方財政安定の後は全額六分を度支司に送付すべく規定した。更に此の年より買契税の外に典當契税毎銀一兩につき銀三分の徴收を開始した。

宣統元年六月、契税率を改めて毎銀一兩につき買契税九分、典當契税六分とし、宣統二年よりは從來契紙價不同なりしも、三聯官紙を制定して紙價吉錢十吊とし、之を以て徴税事務費に充當した。民國三年六月財政部より契税條例及同施行細則發布せられ、吉林省も同章程により徴税せしも、その税率は吉林省從前の税率と同一であつた。然るにその後人民はかゝる重税に堪へずとなし減税の請願日に繁く、遂に五年十二月同決議は省議會を通過せるを以て、財政廳にては民國六年一月より、賣契税は契價の百分之六、典契税は契價の百分之三に減税し、その減税期間を一年とせしも、省民は相繼いで延期を請願し、七年三月には遂にこの税率を以て定率となすに至つた。

次いで六年七月、財政廳は契紙費徴收を規定し、紙費は大洋一元とし、而してこの中四角を正税とし、三角を附加税として財政廳に送付する外、殘餘の三角中一角五分は契紙印刷費とし、一角五分は俸給手當とした。

民國十一年六月、罰金制度を確定し、分期遞加罰則を作り、その收入增加を計り、以て今日に至る。

吉林省の驗契は民國二年八月に創設し、三年二月迄徵收せしが、三年三月よりは部照驗契條例に照し典契賣契共に每張查驗費一元、註册費一角を徵收し、その價格三十元以下のものは註册費のみを收納した。而してその徵稅期間は六箇月とし、期限を逾ゆること一箇月每に查驗費の倍額を徵收した。

現在の稅率は

契　稅　　典　契　稅　　契價の百分之三
　　　　　賣　契　稅　　契價の百分之六

驗　契　稅　　每張契紙に付大洋四元
　　　　　　　註　册　費　大洋四角

契　紙　費　　每　張　大洋一元

徵收法、罰則、官吏の考成等は「奉天省の財政」に於て詳述したから玆には別に說かぬ。

吉林省各縣契稅收入表　　民國十二年六月改訂七月一日起實行

縣別＼等次＼月別	等次	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	合計	備考
吉林縣	一	四、三一五元	三、五七一元	三、九四四元	四、八一五元	二、五六〇元	六、一五九元	二、六二四元	七、三二〇元	三、一七六元	一六、七七八元	一五、六七三元	一四、九二八元	一一一、八六三元	
長春縣	一	二、六八三	三、〇二九	二、二五四	一、九四五	四、〇五九	五、一九〇	四、九一七	一一、三六六	四、二八三	七、七一九	五、六八一	一九、七二六	七二、八四一	

縣														
伊通縣	二	二,八〇三	二,八八七	四,六八一	四,七五四	二,一一五	四,七二八	三,七五七	一二,三六四	一六,六九六	九,四二四	五,八六二	四,四六九	七三,五三九
農安縣	二	一,六三九	二,一七五	四八五	二,二七九	六六〇	九八三	四,二一九	二,九二九	五,六四四	三,八九一	六,〇一一	三,一三九	三四,〇五四
德惠縣	三	一,五七六	四,四九四	二,二一八	二,二一九	一,二五一	四,二七六	二,二〇四	一四一	一〇,五三九	六,六六三	九,七二一	二〇,四二一	六四,七二三
雙陽縣	三	一,七二六	二,五八二	三三八	一,四〇八	七五九	八八一	二,一四四	一,三四五	一,三五三	八,二一三	六,〇〇九	三,四〇一	三〇,一五九
磐石縣	三	一,〇八〇	八〇一	九一八	一,三〇〇	一,三三三	一,一七九	一,八〇四	一,三二二	二,四八四	二,五一三	二,〇八二	一,四八五	一九,一八〇
舒蘭縣	三	六四二	四四三	五六二	五一九	五三八	七七〇	四三九	七八三	一,一一五	一,〇七九	一,一四四	五九六	八,六三〇
樺甸縣	三	五五〇	三七八	四七七	三八六	六三〇	四六六	四九八	一六七	一,五二四	一,五六八	八一七	五二六	七,九四七
濛江縣	三	六四	七三	七一	八七	八七	八三	八〇	七五	七〇	六九	五八	六七	八八四
長嶺縣	三	二四	二九	二六	二四	四七	二八	二五	二八	五八	五二	四三	二六	四二〇
濱江縣	一	四,八一七	七,五三五	七,〇三四	一,八六六	三,八四八	三,〇一五	三,六九九	五,二六一	一四,四四〇	一,四〇四	四,〇二五	四,二五二	六二,一九六
雙城縣	二	三,〇六九	一,九九五	二,九五二	二,八五六	一〇,五四七	六,七八三	三,七八六	五,六三二	一八,三四〇	二八,七二三	八,七四〇	七,六二六	一〇一,〇三九
扶餘縣	二	二,八三三	一,七四八	二,二四四	三,〇九五	二,五九八	四,六一七	四,四二五	二,五一五	一二,三八〇	一〇,一六七	五,五八四	四,九五九	五六,一六五
榆樹縣	二	二,六二六	二,七六五	二,八九四	二,二四九	一,九五一	二,六四三	二,五三八	一,一七一	三,三五三	六,九八六	二,五四八	二,〇〇一	三五,三三五
阿城縣	二	二,三六三	一,七六六	二,八八一	一,九五八	一,七八七	二,四四七	一,四五八	一,七二三	三,一八六	三,三一〇	七,九七一	三,六二一	三四,四五一
賓縣	二	八六四	一二七	四八九	三五六	一,〇六八	二,七七四	二,四六八	二,一八五	三,〇九一	七,七二三	四,〇六七	一,九六三	二七,一七一
五常縣	二	一,〇九八	七七九	八五八	六四九	七九二	七九三	一,一五二	一,〇七七	一,八一九	一,七五一	一,八〇六	一,二五四	一三,八二八
同賓縣	三	一,一二〇	七七七	五五九	六五八	九一六	六二五	四八六	四三五	五五三	六五八	五四〇	三五五	七,六九二
烏珠河設治局		二三五	二四〇	二五二	二五四	二五六	二五二	二五五	二四一	二四二	二四〇	二四一	二四二	二,九五〇
葦沙河設治局		一二六	一三五	一三九	一三八	一三八	一三八	一三二	一三〇	一三九	一二八	一三五	一三四	一,五六二

縣															
延吉縣	一	四三二	七四四	六二〇	八八六	一,二九五	三九七	六八四	一,七七八	六九二	二,四五一	八八六	一,三三三	二,一八七
琿春縣	一	四六六	二四六	三一四	二一八	三四四	四五六	二三五	六六七	一五七	八六八	七二七	三五九	五,〇五七
寧安縣	二	二一〇	一三四	一七六	一九五	六九二	四五六	五一二	二八〇	四四四	一,〇一五	六二五	六二四	五,三六三
額穆縣	三	一〇六	一〇五	一〇六	一四一	三三四	三二二	四七五	三八五	三九一	一,七五一	四二五	二三七	四,七七八
東寧縣	三	九六	四五	九三四	七八	二三〇	一五三	四六八	二〇六	七七六	三一八	四三〇	二五七	三,九九一
汪清縣	三	三七五	三一三	四七	四四	一五	四〇	二四	一三八	四六一	六二四	二八〇	四三〇	二,七九一
敦化縣	三	二四〇	一〇五	七二	一三八	一五九	一九五	一〇五	九四	三八九	四三五	二〇五	九四	二,三三一
和龍縣	三	二〇	三三	八五	八	九二	一六	二五	一〇一	三六二	四三八	三四八	二三三	一,七六二
依蘭縣	一	三八一	三八八	一,一八三	六七三	七七六	三五五	二五三	五一九	二九二	一,五五三	一,三五二	一,五六九	九,二九四
富錦縣	三	二七九	三五一	二六三	三四三	八二〇	四七六	一五三	三〇二	三二八	一,六四一	一,〇〇六	四七一	六,四三三
樺川縣	三	二六七	七三三	三五八	五二三	四三六	二一五	二四四	二〇四	二六六	五四六	八六〇	二七九	四,九七一
方正縣	三	一六四	一三三	二〇五	二九六	一九八	三九〇	一〇〇	二一三	六一五	五八七	五七六	五九三	四,〇五九
穆稜縣	三	三一八	一三三	一六一	一四七	一四二	三一九	一四〇	一九六	四一七	四六三	一一三	一一九	二,六五七
寶清縣	三	三〇	二〇六	一一四	一三	一七四	一八八	五六	一八三	二二七	一九五	二六三	一五八	一,八〇七
密山縣	三	一二三	九九	一五二	一五	一二七	一五三	八五	六七	二三一	二六五	一五三	二五一	一,七一九
同江縣	三	四〇	四四	二七	六四	三〇	二一	三一	一三	三〇	二三	六二	三五	四二〇
虎林縣	三	二四	二九	二六	三四	四七	二八	二五	二八	五八	五三	四三	二六	四二〇
綏遠縣	三	二四	二九	二六	三四	四七	二八	二五	二八	五八	五三	四三	二六	四二〇
饒河縣	三	二四	二九	二六	三四	四七	二八	一五	二八	五八	五三	四三	二六	四二〇

縣別	等次													合計
勃利縣	三	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	四二〇
總計		三九,九一五	四二,三三三	四〇,一九六	三八,七四四	五二,九六七	五四,一〇〇	四六,八〇九	六三,〇七五	一二六,七六二	一三三,三八三	九八,二二一	一〇三,三一五	八三七,七一八

說　明

一表列比較總額共合八十三萬七千七百一十八元自民國十二年七月一日起實行

一比額內列有買契稅當契稅紙費計三項

吉林省契稅收入表

縣別	等次	月別						合計	備考
吉林縣	一	五,六一〇元 三,四二一	四,六四二元 九,五一六	三,八二七元 二七,五二九	六,三六〇元 二,八二一	一五,〇二八元 二〇,三七四	八,〇〇七元 一九,四〇六	一四五,四二二元	右側七月—十二月 左側一月—六月
長春縣	一	三,四八八 六,三三九	三,九三八 一四,七六六	二,九三〇 五,五六六	二,五二八 一〇,〇三五	五,二七七 七,三八五	六,七四七 二五,六三一	九四,六九三	
伊通縣	二	三,六四三 四,八八四	三,七五三 一四,七七三	六,〇八五 二一,七〇五	六,一八〇 一三,三五一	二,七五〇 七,六三一	六,一四六 五,八一〇	九五,六〇二	
農[illegible]縣	二	二,一三一 五,四八五	二,八二八 三,八〇八	六三〇 七,三三七	二,九六三 五,〇五八	八五八 七,八一四	一,二七八 四,〇八〇	四四,二七〇	
德惠縣	三	二,〇四九 二,八六五	五,八四二 一八三	二,八八四 三,四〇一	二,八八五 八,六六二	一,六二六 三,六三七	五,五五九 二六,五四七	八四,一四〇	
雙陽縣	三	三,二四四 二,七八七	三,三五七 一,七四九	四三九 一,七五九	一,八三〇 一〇,六七七	九八七 七,八二三	一,一四五 四,四二一	三九,二〇七	
磐石縣	三	一,四〇四 二,三四五	一,〇四一 一,五七六	一,一九三 三,三二九	一,六九〇 三,三六七	一,七一九 二,七〇七	二,八三三 一,九三〇	二四,九三四	

舒蘭縣	三	八三四 五七一	五七六 一,〇一八	七三一 一,四四九	六七五 一,四〇三	六九九 一,四八七	一,〇〇一 七七五	一一,二二九
樺甸縣	三	七一五 六四七	四九一 二一七	六二〇 一,九八一	五〇二 一,九八一	八一九 一,〇六三	六〇六 六八四	一〇,三三一
濛江縣	三	八三 一〇四	九五 九八	九二 九一	一一三 九〇	一一三 七五	一〇八 八七	一,一四九
長嶺縣	三	三一 三三	三八 三六	三四 七五	四四 六八	六一 五七	三六 三四	四六五
濱江縣	一	六,二六一 四,八〇九	九,七九五 六,八三九	九,一四四 一八,七七二	三,七二六 一,八二五	五,〇〇二 五,二三三	三,九二〇 五,五二八	八〇,八五五
雙城縣	二	三,九九〇 四,九二二	二,五九三 七,三〇八	三,八三八 三三,八四二	三,七一三 三七,三四〇	三,七二一 一一,三六二	八,八一八 九,九一四	一三一,三五一
扶餘縣	二	三,六八三 五,七五三	二,二七二 三,二七〇	一二,九一七 一四,七九四	四,〇二三 一三,二一七	三,三七七 七,二五九	六,〇〇二 六,四四七	七三,〇一四
楡樹縣	二	三,四一四 三,二九九	三,五九五 二,一七二	三,七六二 四,三五九	二,九二四 九,〇八二	二,五三六 四,六一三	三,四三六 二,六〇一	四五,七九三
阿城縣	二	三,〇七二 一,八九五	二,二九六 二,三一四	三,七四五 四,一四二	二,五四六 四,三〇三	二,三三三 一〇,三六二	三,一八一 四,七〇七	四四,七八六
賓縣	二	一,一二三 三,二〇六	一六五 二,八四〇	六三六 四,〇一八	四六三 一〇,〇四〇	一,三八六 五,二八七	三,六〇六 二,五五二	三五,三三二
五常縣	二	一,四二七 一,四九八	一,〇一三 一,四〇〇	一,一一五 二,三六五	八四四 二,二七六	一,〇三〇 二,三四八	一,〇三一 一,六三〇	一七,九七六
同賓縣	三	一,四六九 六三二	一,〇一〇 五二六	七二七 七一九	八五五 八五五	一,一九一 七〇二	八一三 四六二	一〇,〇〇〇
烏珠河設治局		三〇五 三三一	三一二 三一三	三二八 三一五	三三〇 三一二	三三三 三一三	三三八 三一五	三,八三五

右側七月—十二月
左側一月—六月

葦沙河設治局		一六四 一七三	一六三 一六九	一六八 一六八	一七九 一六六	一七九 一六三	一七九 一六一	二、〇三一
延吉縣	一	五六二 八八九	九六七 二、三二一	八〇六 九〇〇	一、一五二 三、一八六	一、六八三 一、一五二	五一六 一、七一九	一五、八四三
琿春縣	一	六〇六 三〇六	三二〇 八六七	四〇八 二〇四	二八三 一、二二八	四四七 九四五	五九三 四六七	六、五七四
寧安縣	二	二七三 六六六	一七四 三六四	二三九 五七七	二五四 一、三一九	九〇〇 八一二	五九三 八一一	六、九七三
額穆縣	三	一三八 六一八	一三六 五〇一	一三八 五〇八	一八三 二、二七六	四三四 五五二	四一九 三〇八	六、二二一
東寧縣		一二五 六〇八	五八 二六八	一、二一四 一、〇〇九	一〇二 四一三	二九九 五五九	一九九 三三四	五、一八八
汪清縣		四八七 三一	四〇七 一七九	六二 五九九	五七 八一一	二〇 三六四	五二 五五九	三、六二八
敦化縣		三一二 一三六	一三七 一二二	九四 五〇六	一七九 五六六	二〇七 二六六	二五三 一二二	二、九〇〇
和龍縣		二六 三四	四三 一三一	一一〇 四七〇	一〇 五六九	一二〇 四五三	二一 三〇三	二、二九一
依蘭縣		四九五 三二九	五〇四 六七五	一、五三八 三八〇	八七五 二、〇一九	一、〇〇九 一、七五八	四六一 二、〇三九	一二、〇八二
富錦縣		三六三 一九九	四五六 三九三	三四二 四二六	四四六 二、一三三	一、〇六六 一、三〇八	六一九 六一二	八、三六三
樺川縣		三四七 三一七	九五三 三一七	四六五 三四六	六八〇 七一〇	五六七 一、一一八	二八〇 三六三	六、四六二
方正縣		二一三 一三〇	一五九 二七七	二六七 七九九	三八五 七六三	二五七 七四九	五〇七 七七一	五、二七七

縣別								
穆稜縣		四一三 / 一八二	一六〇 / 二五五	二〇七 / 五四二	一九一 / 六〇二	一八四 / 一四六	四一五 / 一五五	三、四五四
寶清縣	三	三九 / 七三	二六八 / 二三八	一四八 / 二九五	一七 / 二五三	二六 / 三四二	二四四 / 二〇六	二、三四九
密山縣	三	一五九 / 一一〇	二二九 / 八七	一九八 / 三〇〇	二〇 / 三四四	一六五 / 一九九	一九八 / 三六	二、二三五
同江縣	三	五二 / 四〇	三七 / 一七	三五 / 二九	八三 / 三〇	三九 / 八一	二七 / 四六	五四六
虎林縣	三	三一 / 三三	三八 / 三六	二四 / 七五	四四 / 六八	六一 / 五六	三六 / 三四	五四六
綏遠縣	三	三二 / 三三	三八 / 三六	三四 / 七五	四四 / 六八	六一 / 五六	三六 / 三四	五四六
饒河縣	三	三二 / 三二	三八 / 三七	三四 / 七五	四四 / 六八	六一 / 五六	三六 / 三四	五四六
勃利縣	三	四五 / 四六	四五 / 四六	四五 / 四六	四五 / 四六	四五 / 四六	四五 / 四六	五四六
總計	三	五一、八八九 / 六〇、八五三	五四、九〇二 / 八一、九九八	五三、二五五 / 一六四、七八八	五〇、三六七 / 一七二、〇九七	六八、八五六 / 一二七、六九〇	七〇、三三九 / 一三三、〇一〇	一、〇八九、〇三三

右側七月—十二月
左側一月—六月

財政部訂定劃一契紙章程

第一條　在本章程施行以前成立之不動產舊契無論已税契未税契均應一律呈驗

第二條　呈驗前項舊契無論典賣均應一律註册給予新契紙每張契約酌收紙價一元註册費一角其不動產價格在三十元以下者祇收註册費以上元角均照京平七二計算

第三條　買賣典當新稅仍照前淸契稅章程辦理不再收驗契紙價
第四條　契紙照前淸契紙格式由各省自製蓋用國稅廳籌備處關防或各縣知事印
第五條　呈驗期限本章程實行之日起六箇月爲限本章程實行之日由國稅廳籌備處長商明都督民政長定之
第六條　凡逾限補行呈驗者加倍徵收紙價
第七條　所有舊契不呈驗者於訟訴時不能作爲憑據
第八條　逾期未呈驗之舊契經人告發或檢查官査出者加倍徵收紙價
第九條　施行驗契細則由國稅廳籌備處々長定之

吉林國稅廳籌備處訂定驗契施行細則（民國二年八月十二日）

第一條　本細則依照財政部劃一契分章程訂定
第二條　本細則對於呈驗舊契適用之但未經納稅之舊契仍應照前淸契稅章程補納契稅
　凡不動產之字據有契約性質者一律呈驗
第三條　驗契事宜由本處委任徵收局官吏執行
第四條　自民國二年八月一日起爲呈驗舊契換給新契開始日期限民國三年一月底辦理完竣
第五條　呈驗舊契開始日期應由各徵收局官吏於所管區域內出示布告並將部定劃一契紙章程黏貼
第六條　布告如屆半月人民不來呈驗時徵收局得發呈驗告知書呈驗告知書式另定之

第七條　告知書到達十日人民仍不呈驗時徵收局得派人督促之督促狀式另定之

第八條　凡人民呈驗舊契應隨時換給新契不得借端積壓

第九條　契紙用存證繳證三聯式由本處製就蓋用本處關防發交各徵收局塡用

第十條　前條所定三聯單存證一聯留徵收局備查繳證一聯按月彙總由該局繳至本處執證一聯交呈驗人收執

第十一條　換給新契時徵收局應將呈驗之舊契一併黏交人民收管

第十二條　契紙費及註册費一律照章徵收不得額外多取違者照違法徵收例辦理

第十三條　各徵收局所收契紙費及註册費除按月備文呈報國稅籌備處查核外應備具現金繳入書赴吉林官銀號交納

第十四條　本細則由公布之日施行

契驗告知書

吉林省　　　　徵收局爲告知呈驗契紙事查
　　縣　　　　有　　　　字第　　　　號
印契一張應照章呈驗註册換領新契並繳繳紙價註册費　　紙價註册費
以民國　　年　　月　　日爲限須至
本　　納付毋得延悞此告
中華民國　　年　　月　　日局長名印　　此聯存查

驗契告知書

吉林省　　徵收局爲告知呈驗契紙事查

縣　　有　　字第　　號

印契壹張應照章呈驗註册換領新契並繳納紙價註册費　　元　　角

以民國　　年　　月　　日爲限須至

本　　納付毋得延悞此告

中華民國　　年　　月　　日局長名印　　此聯遞送

驗契督促書

吉林省　　徵收局爲督促呈驗契紙事查　　縣

有　　字第　　號　　印契壹張應照章

呈驗註册換領新契並繳納紙價註册費　　元　　角以民國　　年

月　　日爲完納期限業經告知在案現已逾期

未據赴　　交納合再遞送督促書限　　日內照

章完納加倍紙價及註册費共　　勿再延玩切切此告

中華民國　　年　　月　　日局長名印　　此聯存查

驗契督促書

吉林省　　　徵收局爲督促呈驗契紙事查　　縣
有　　字第　　號印契壹張應照章
呈驗註冊換領新契並繳納紙價註冊費　元角以民國　　年
月　　日爲完納期限業經告知在案現已逾期
未遽赴　　交納合再遞送督促書限　　日內照
章完納加倍紙價及註冊費共　　勿再延玩切切此告
中華民國　　年　　月　　日局長名印　　此聯遞送

吉林省驗契辦事細則（民國三年四月十日）

第一條　本細則依照驗契條例訂定之

第二條　本細則對於呈驗舊契適用之

第三條　所有陳民老地及大租荒地蒙地等項凡驗契條例公布以前官發執照均須一律照驗契條例辦理

第四條　凡城基街基等項向無契據或有契據而非官給者亦應一律照驗契條例辦理不得兩岐

第五條　驗契事宜由國稅廳籌備處委任各國稅徵收局官吏執行

第六條　民國三年三月一日爲驗契開始月期限至三年八月底一律辦理完竣

第七條　驗契開始日期及終止月期由各國稅徵收局官吏於所管區域內會同各該縣知事出示布告並將驗契條例黏貼

第八條　驗契期限屆滿前一月由各國稅徵收局會縣出示布告督促呈驗

第九條　凡人民呈驗舊契仍隨時換給新契不得藉端積壓

第十條　契紙仍用存證繳證執證三聯式由國稅廳籌備處製就蓋用關防發交各國稅徵收局塡用

第十一條　前條所定三聯契紙存證一聯留國稅徵收局備查繳證一聯按月彙總由該局繳至國稅廳籌備處執證一聯交呈驗人收執

第十二條　換給新契時國稅徵收局應將呈驗之舊契一併黏交人民收管

第十三條　凡查驗費註冊費所收之洋元均按七二折合

第十四條　查驗費註冊費一律照章徵收不得額外多取違者照違法徵收例辦理

第十五條　各國稅徵收局所收查驗費及註冊費應按月備文呈報國稅廳籌備處及民政廳查核另款存儲

第十六條　本細則自奉財政部核准日施行

附貼用印花稅票細則

第一條　印花稅法第二條列舉各種之契約簿據除照印花稅法貼用印花票外應查照本細則辦理

第二條　國家所用之契約簿據除公法上行爲所用者外其私法上行爲之證明仍應一律貼用

前項私法上之行爲如任用人員非依任官之形式者買賣物件爲供行政之需用者均應照私法人一律辦理

第三條 有營業性質之各種官業如航路郵電各局各銀行及印刷局造紙廠等其契約簿據均應一律貼用印花

第四條 凡行爲契約係對於現已存在之物件者例如包運貨物之類無論其契約用何名稱均應照印花稅法第二條第一類第十二種貼用定率稅票其對於未現存在之物件之行爲契約例如承攬工程之類亦無論用何名稱等應照印花稅法第二條第二類第二種貼用累進稅票

第五條 凡契約有繼續之性質無確定之繼續期間者應依契面所載數目加十二倍計算貼用印花如立約已逾一年仍舊使用應照印花稅法第五條關於憑摺之規定辦理

第六條 本細則如有應行增改之處由財政部隨時辦理

第七條 本細則自公布日施行

特別區契稅規則（民國八年十二月十九日）

第一條 凡特別區內中國人或外國人房地有過戶時均遵照本規則辦理

第二條 凡中國人得在特別區內典買中國人或外國人之房地其典買如係外國人房地應偕同原主向交涉署呈請派員勘丈俟核准方得過戶並須照契稅條例向縣署請領契紙完納契稅如中國人房地得逕向縣署請領契紙完納契稅

第三條 凡外國人在特別區內得自開商埠租建之例承租中國人或外國人之房地其承租時應偕向原主向交涉署呈請派員勘丈核契並須照租價百分之六完納契稅

第四條 凡中國人或外國人在承受地畝上加蓋房屋除地畝已納契稅外仍須將房屋建築費額呈明交涉署或縣署另領契紙照

建築費百分之六完納契稅

第五條　凡中國人或外國人承受房地成約後六個月以及加蓋房屋竣工後六個月如不完納契稅或匿報產價者均依契稅條例第七條第八條科罰

本規則施行前成約及竣工者須於本規則施行後三個月內完稅逾期科罰同

第六條　交涉署及縣署所收稅款應悉數解由財政廳專案解交財政部

第七條　本規則自公布日施行

特種財產契稅規則（民國八年十二月九日）

第一條　中國人典買德奧僑民之房地者應照左列各款辦理

一　不在租界及自開商埠內者　應向該地方管理特種財產事務局（以下簡稱管理局）請領契紙完納契稅其典買德奧僑民在特別區內之房地者亦同　其財產與德華銀行清理處有關係者德向該清理處（以下簡稱清理處）請領契紙完納契稅

二　在租界及自開商埠內者　除照租界及該埠內向章辦理繳納各項註冊費外仍向就近之管理局或清理處請領契紙完納稅契稅照賣價百分之六典價百分之三

第二條　外國人承租德奧僑民之房地者應照左列各款辦理

一　不在租界及自開商埠內者（例如特別區等）其應納契稅按照特別區契稅規則辦理

二　在租界及自開商埠內者　除照租界及該埠內向章辦理繳納各項註冊費外仍向就近之管理局或清理處請領契紙完納

手續費

手續費照租價百分之一

第三條 管理局及清理處發給契紙應於完納契稅或手續費後送就近該管縣知事公署加蓋縣印

第四條 契紙分甲乙兩種由財政部定式頒行各省管理局及清理處備用

甲種契紙 中國人請領時所用者用三聯式以用聯交承受人執管乙聯由管理局及清理處報部存案丙聯就近送該管縣知事公署存案

乙種契紙 外國人請領時所用者用三聯式以甲聯交承受人執管 乙聯由管理局或清理處報部存案丙聯就近送該管交涉員公署存案

第五條 中國人或外國人在承受地畝上加蓋房屋除地畝已納契稅或手 續費外仍須將建築費額呈明另領契紙完納契稅或手續費

前項契稅照建築費百分之六手續費照建築費百分之一

第六條 中國人或外國人承受房地成約後六個月以及加蓋房屋工竣後六個月如不完納契稅或匿報產價者等依契稅條例第七條第八條辦理

本規則施行前成約或竣工須於本規者則施行後三箇月內完稅逾期科罰同

第七條 管理局及清理處所收之稅費專案報解財政部

第八條 本規則自公布之日施行

第六章　各種帖税（牙店、牙紀
斗秤帖税）

吉林省に於ける帖税はすべて、民國十三年八月二十八日公布の吉林省帖税章程により律せらる。

右章程によれば、奉天省内に於て穀物問屋、雜貨問屋、船舶問屋・運送問屋及その他貨物の保管、轉運、納税代辦賣買の媒介等に關し手數料を徴收する店舗を開設する者を牙店と稱し牙店帖の下附を受くるを要すべく、又同じく吉林省内にあつて個人にして賣買の營業をなす者を牙紀と稱し、等しく牙紀帖の下附を出願すべく、上記牙紀が賣買媒介をなすに當り官斗官秤を使用するときは斗秤帖を請領すべきものとす。牙店、牙紀、斗秤帖の有效期間は各一箇年にして、これを受領せんとする者は、左記記入の上願出づべきものとす。

1　確實商店の三名の保證狀二通、一通は税局に留め、一通は財政廳に存す。
2　營業人の姓名、年齡、本籍
3　營業字號（牙紀は不要）
4　營業種類（一種類のみ記すべし）
5　營業區域
6　營業時期

而してその税率は、

牙　税　　所得手數料金の十分之二

税目	等級	税額
牙店帖税	一等	毎張大洋　一百二十元
	二等	同　一百元
牙紀帖税		同　四十元
斗帖税		同　十元
秤帖税		同　十元

一等帖は繁盛區域にて營業する者に課せられ、繁盛區域を省城、雙城、楡樹阿城、扶餘、賓縣、濱江、哈爾濱、長春、農安、伊通とす

二等帖は偏僻區域にて營業する者に課せられ、その區域は繁盛區域以外の各縣とす。

手數料		
	牙店帖毎一枚に付	大洋　一元二角
	牙紀帖斗秤帖毎一枚に付	同　六角

吉林省整頓牙帖税施行細則（民國三年六月六日）

第一條　本細則係依據民國三年三月財政部卅一電開整理牙帖税四大綱而定

第二條　凡典當及牙紀營業應依本細則之規定繳納牙帖税

第三條　非身家殷實素有信用並依牙帖税法草案第四條繳足保證金者不得營牙紀業

第四條　欲營典當及牙紀業者須取具殷實商舖三家圖書保結並開具左列各事件呈由本處核准

一　營業人姓名籍貫
二　營業牌號
三　營業種類
四　營業資本
五　營業區域
六　營業所在地
七　開業時期
八　營業組織
第五條　本廳爲前項之核准後卽由廳頒發帖照並逐年彙報財政總長
第六條　帖稅之稅額如左
甲　繁盛區域
上　則　三　百　元
中　則　二百五十元
下　則　二　百　元
乙　偏僻區域
上　則　二百五十元

中 則 二 百 元

下 則 一百五十元

上中下等則依貨物種類之貴賤營業之多寡利率之重輕由本處核定

第七條 典當業者除年課各五十兩及純利九厘捐仍照向章繳清外自本年七月一日起限三箇月內將舊領當帖繳消其領換新帖方法分別如左

一 民國成立以前之舊帖依第四條第五條第六條之規定一律換領新帖隨同之足新定之稅額不得以前領舊帖時用去之規費作抵

二 民國成立以後至本細則施行以前之舊帖依第四條第五條第六條之規定一律換領新帖隨納足新定稅額時准抵去前領舊帖之規費吉平銀七十兩

第八條 牙紀營業者得聯合舊有之零散類似牙紀業者組織大貨牙其組織法依照公司條例及商人通例

第九條 貨牙抽取買賣者之用費依牙稅法草案第三條不得逾買賣價格十分之一之範圍分別規定如左

甲 糧石貨牙用費抽買賣價格百分之三(緣糧石爲日用必要品故格外從輕)

乙 其他貨牙用費抽買賣價格百分之六(依地方慣例而定)

第十條 徵收牙稅依牙稅法草案第五條七成以下之範圍暫定六成

第十一條 貨牙取引之貨類除菸酒木植糧石皮張五宗每牙只准取引一宗外其餘貨類每一牙准取引多種但應遵照牙稅法草案第七條列表報廳

第十二條　典當及貨牙營業者應將牙帖謄寫副本明揭於營業所

第十三條　徵稅官吏認爲必要時得檢典當及貨牙營業者之帖照

第十四條　典當及貨牙營業者因不正當行爲致失第三條第四條資格時該管徵收局得追銷其照帖呈廳轉部

第十五條　帖照遺失或汚損時得叙明事由並取具原保之殷實商舖三家圖書切結及營業所在地之商會證明書呈由該管徵收局請廳補給或更換但須納規費一元

第十六條　典當及貨牙營業者廢業時應將帖照繳由徵收局呈廳註銷在部

第十七條　帖照有效期間以五年爲限期滿須呈明本廳換給新帖依第六條之稅額分別繳納帖稅

第十八條　帖照不得轉賣讓與或貸用

第十九條　帖照有效期間營業者死亡時如係獨資營業者得由其兄弟子孫繼義之

第二十條　前條之繼承營業有須依第三第四兩條之規定經本廳核准繳銷舊帖換領新帖但須納規費一元、新帖之有效期間以舊帖未滿之期日爲限

第二十一條　貨牙營業須公平估價如有以貴爲賤或以賤爲貴者處以十元以上百元以下之罰金

第二十二條　各貨牙依牙稅法草案第五條第六條繳納牙稅凡甲月之款限乙月五日內交由該管徵收局核收塡給納稅證書並須報明該月分之貨品買賣價格如有滯納及僞報者罰同前條

第二十三條　徵稅官吏認爲必要時得檢查營典當貨牙業之帳簿

第二十四條　違抗第十三條第十八條及前條之規定者罰同第二十一條

第二十五條　各典當貨牙所有帳簿除依商人通例第五條辦理外仍須赴該管徵收局請蓋關防貼用印花如有私立帳簿者以不正當行爲論依牙稅法草案第十四條之規定本廳得隨時撤銷帖照停止其營業

第二十六條　違第七條規定者處以第六條應納稅額三倍之罰金

第二十七條　無牙帖及牙帖已失效力並未更換新帖爲貨牙之營業者處以第六條應納稅額三倍之罰金

前項之營業者如欲繼續其營業時須依第四條第五條之規定經本廳核准繳納牙帖稅領取牙帖

第二十八條　貨牙營業者應用法定之度量衡在法定度量衡未領發以前適用該營業區域內通用之度量衡但須取具所在地之商會證明書經由本廳或該管徵收局較準烙印違者以五元以上五百元以下之罰金

第二十九條　如有私相買賣貨品不報知該貨牙者由該貨牙查送本廳或該管徵收局依牙稅法草案第十條處罰其罰金按各徵收局現章五成歸公五成充賞

第三十條　買賣各商應納之一切捐稅仍責外各貨牙代控按旬報解該管國稅徵收局

第三十一條　本細則自呈部核准日公布施行

第三十二條　本細則施行後如有未盡事宜本廳隨時修改之

吉林省帖稅章程（民國十三年八月二十八日）

第一條　吉省所管境內糧店貨店蔴店船店魚店木店行棧以及個人及關於介紹買賣取得佣金並店鋪使用斗秤者除當帖另行規定外悉照本照程辦理

一　店舖介紹買賣取得金者均稱牙店呈領牙店帖

二　個人介紹賣買取得金者均稱牙紀呈領牙紀帖

三　牙店牙紀及各項店舖所用之斗秤均應請領斗秤帖

第二條　斛秤領帖應以各項舖店牙紀使用之斗秤爲限其民戶自用之斗及舖店手提小秤一律豁免

第三條　斗秤在本省劃一權量辦法未辦行以前暫由各縣知事稅捐局長邀同商會各就城鎮定一標準權量凡有斗秤之家令赴本管稅局或分局報驗由局會同商會較準無訛烙給官印定名曰官斗官秤呈請財政廳發給斗秤帖每斗一面或秤一桿各發帖一時其有斗秤大小與標準不符者應令銷改另製

第四條　承充各項牙店牙紀領帖須備左列之事項

一　取其殷實商舖三家保結二份以一份存稅局一份由局呈送財政廳備案

二　營業人姓名年齡籍貫

三　營業字號(牙紀免開字號)

四　營業種類(一帖只限一業)

五　營業區域

六　營業時期

第五條　牙店牙紀斗秤各帖均自領帖之日計算以一年爲有效期間滿一年後另核新帖並將舊帖繳銷

第六條　牙店牙紀斗秤各項帖稅規定如左

一等牙店帖稅	每張大洋	一百二十元
二等牙店帖稅	同	一百元
牙紀帖稅	同	四十元
斗帖稅	同	十元
秤彈稅	同	十元

前項牙店在繁盛區域准領一等帖偏僻區域准領二等牙店帖省城榆檢阿城扶餘縣濱江哈爾濱、長春農安伊通均暫作爲盛繁區域其餘各縣均作偏僻區域其斗秤各帖不分區域全省一律辦理

第七條　牙店牙紀所收佣金暫從當地習慣只准減少不得增加以示限制

第八條　牙店牙紀應呈由所在稅局轉請財政廳發給牙佣稅票所有取得 用金立卽核實依法塡用並按月將繳查一聯彙齊繳局查核

第九條　徵收牙稅於牙店牙紀取得佣金全額中提取十分之二甲月應提出牙 稅限於乙月五日以前交由稅局核收發給牙稅票不得拖欠違者酌量情形處以罰金

第十條　牙平牙紀帖照在有效期間停業或休業行不得將其帖轉賣讓與或貸用於他人違者押辦

第十一條　牙店牙紀領帖之後於其原報營業區域外添設業店鋪或由甲營業區域遷移於乙營業區域者均應另行領帖

第十二條　牙店牙堂代客賣買務須公平交易不得以貴爲賤 或以賤爲貴及其他不利於買賣兩店之行爲違者酌量情節處以罰金

第十三條　商民買賣貨物如不欲經牙店牙紀介紹或不信任甲牙店牙紀或赴乙牙店牙紀者悉聽自便不得强迫兜攬設法破壞或其他壟斷行爲違者照前條辦理

第十四條　牙店對於介紹賣買任何方應納國稅均負有代扣報納之義務倘經介紹成交之貨物未納國稅者牙紀應負報告之義務而不報告者或涉及串通舞弊嫌疑除撤銷帖照停止營業外按其情節查照漏稅一倍至二十倍罰章分別辦理

第十五條　牙店牙紀不領帖照擅自營業收取佣金不塡牙票或有隱匿納稅之行爲按其情節除撤銷帖照停止營業外查照特別徵收稅捐奬懲辦法十倍至六十倍之處罰第將其不合法收取之佣金悉數沒收之

第十六條　牙店牙紀所用各項帳簿一律呈送所在稅捐局加蓋鈐記貼用印花稅局每月得有一次以上之檢查

第十七條　牙店貼牙紀帖斗秤等自帖領之後定爲每年更換繳納帖稅一次從前徵收牙課一律豁免

第十八條　牙店牙紀所用之帖及普通舖商所用之斗秤各帖凡應領而不領應換而不換者除照章責令換領外並照漏稅罰竝一倍至二十倍科科罰其牙店牙紀收取之佣金沒收之

第十九條　牙店帖每張另繳手數料大洋一元二角牙紀帖斜秤帖每張另繳大洋六角留局辦公此外不得需索分文

第二十條　牙店牙紀舖商領帖取具商保三家備案擔負一切關係應予原保以監查報告之權領帖店舖如有違法行爲及虧缺稅課携帶票牙潛逃一切情事原保應負連帶責任

第二十一條　本章程自呈奉省署核准公布之日施行所有從前整頓牙稅章程應即同時取銷作爲無效

第二十二條　本章程係參照從前牙稅章程奉省辦法及本省情形規定如有遺漏未盡事宜隨時呈請修正俾臻完備

第七章　菸酒税

第一節　菸酒税

吉林省に於ける菸税、酒税は乾隆四十四年三月將軍福康安が吉林に於て黄菸百斤につき銀二錢を、燒酒百斤につき銀四分を夫々徵收せるに始まる。次いで同治四年二月將軍阜保、吉林、長春、伯都納に菸酒税額を定め、光緒四年三月將軍銘安吉林廳菸酒税の徵收に特に一局を設け、二十五年將軍長順は菸酒税々額に五割の増税をなし、煙草百斤につき銀三錢、酒百斤につき銀六分と定め、更に二十八年五割の増税をなした。これにより吉林府の菸税收入を二萬八千兩より四萬二千兩に、長春府は二千二百三十兩に九百四十兩を加ふることゝなり、農安縣は銀二千二百兩に四百八十兩を、失々増額し、伯都訥廳は八百五十兩を、海城府楡樹縣は計七百四十四兩を増し、五常廳は六百四十兩に銀一千百五十兩を増し、雙城廳は三百兩の所二百兩を増し、賓州直隷廳は銀九百五十兩を、長壽縣は銀八百七十兩を、延吉廳は一百十兩を綏芬廳は四百八十兩三姓は黄菸税野十八兩を夫々徵收することゝなつた。

光緒三十二年に至り將軍達桂再び税率を改定して黄菸は百分の十、燒酒は百斤につき三吊二百文、雜菸雜酒は百分の十とし從前は府廳州縣に於て此等を徵收してゐたが、三十二年七月よりは長春、哈爾濱、伊通縣、磐石縣、烏拉水、曲柳岡の各地方には專局を設け額穆赫索敦化にては地方官をして徵收せしめ、其他の寧古塔、伯都訥、三姓、阿勒楚喀琿春、五常、雙城等にて各餉捐分局をして徵税の事務をとらしむることゝなつた。然るにこの頃より軍費及新政の費

用漸く增加したるを以て、三十三年東三省督撫を經て復又增税を奏上し、黃菸は百斤につき三吊二百文、燒酒は百斤につき銀一兩四錢となした。

燒鍋税は嘉慶十六年吉林、長春における燒鍋票數は百五十枚にして、毎張に對する票課中錢五百吊、同二十五年將軍富明の時代に長春泰和燒鍋、豚を買ひ漏税多かりしを以て規定税額以外に牲畜税をかへこの年額一千吊、道光五年又牲畜税三萬二千吊を加へたれば燒鍋特許票一票の價格は七百二十吊となり、これが全收入吉、長兩廳を合して年額十萬零八千吊、二十九年には上つて十八萬九千吊に至つた。

然るに咸豐三年、吉、長兩廳に於て殘存の燒鍋僅かに三十九家、而して營業頓に振はざるを以て規定の十八萬九千吊の負擔は過重にして、納付する能はず、よつて將軍景、兩度奏請して四年度分は再び舊額の十萬八千兩を徴收することゝなる。次で五、六の兩年先に免除せし額十六萬吊を納付することを命ぜしも納付する能はず、よつて現有三十六家の燒鍋に對し毎家交納額平均二千七百六十九吊二百三十二文と定めしも、完納せしは僅かに二十三家にして尚未納額六萬九千餘吊に達した。

此の他阿勒楚喀、拉林二城は特許書二十七枚にしてその徴税總額一萬三千五百兩であつた。然るにその後雙城堡に燒鍋二十餘家增加したれば同治六年富將軍は阿、拉、雙、の三城の特許書二十七枚に新增の十三枚を加へ毎枚納銀五百兩、四十家合計銀二萬兩と定めたが、光緒八年賓州雙城の兩廳を設置するや、阿勒楚喀の課銀を以て賓州廳の課銀とし、雙城、拉林の課銀を雙城廳の課銀とし原章程に基き徴收した。然るに二十一年に至り倒壞するもの十六家、殘存僅かに二十三家にして、その缺納額六萬九千餘吊、將軍恩澤奏准してこの額のみの免税を許る。

寧古塔は咸豐四年に於て燒鍋十一家、課銀合計一萬二千吊、每家平均課銀一千零九十吊、十年に至つて倒壞せるもの四家、現在七家に對し前課銀より二千吊を減じて一萬吊を定額となした。此の外伯都訥廳特許書三十二枚、徵稅額一萬六千兩、五常堡二百兩より五百兩に至る。吉林南荒六道荒並琿春延吉廳、寧古塔所屬の三岔口盤石縣、敦化縣等に小燒鍋一筒一班を開設するものは課銀二百兩、一筒二班のものは、課銀四百兩を徵した。

光緒十九年、將軍長順、官蔘局委員の報告により班に按じて徵課するは朦混を免れざるにより、改めて筒に按じて徵收することゝなり、每筒課銀四百兩と定め、兩筒のものは吉長大燒鍋に按じて辦理することゝなつた。その徵稅機關は咸豐三年、從前官蔘局より發征せしも之を裁撤して稅務處にて徵收することゝなり、宣統元年九月稅務處を裁撤して度支司賦稅科に辦理するに改められた。

上記菸酒並に燒鍋の現行稅率を左掲すれば、

菸　稅

黃菸稅	從價	$\frac{10}{100}$	賣主より納稅
雜菸稅	同	$\frac{10}{100}$	同

紙菸出廠捐　在支製造品ハ二分五厘內地稅ヲ納付スル外、別ニ出廠時ニハ出廠捐ヲ徵收ス。卽チ五千本ヲ以テ納稅單位トシ每五千本ニ付米國式煙草ハ二角、露西亞式ハ一角トス。五千本ニ滿タザル者ハ五千本ヲ以テ計算シ、五千本以上ハ一萬本ニ準ジ計算シ、一萬本以上ハ一萬五千本ヲ以テ計算ス

紙菸內地捐　捲煙草ヲ舶來品ト支那製品ノ二種ニ分チ等シク內地捐率二分五厘ヲ徵稅スソノ等級ヲ分ツ左ノ

如シ

一　等　毎五萬本ニ付ソノ賣價現大洋一千五十元以上ノモノハ内地捐三十一元一角二分五厘ヲ徴ス但蒸絲内地捐ハ一百觔ヲ以テ標準トス

二　等　毎五萬本ニ付ソノ賣價七百十四元以上一千五十元ノモノハ内地損現大洋十九元八角七分五厘ヲ徴ス

三　等　毎五萬本ニ付ソノ賣價五百四十六元以上七百十四元以下ノモノハ内地損現大洋十四元二角二分ヲ徴ス

四　等　毎五萬本ニ付ソノ賣價三百七十八元以上五百四十六元以下ノモノハ内地捐現大洋十元五角ヲ徴ス

五　等　毎五萬本ニ付賣價二百五十二元以上三百七十八元以上ノモノハ内地捐現大洋七元一角二分五厘ヲ徴ス

六　等　毎五萬本ニ付賣價一百二十六元以上二百五十二元以上ノモノハ内地捐現大洋四元一角二分五厘ヲ徴ス

七　等　毎九萬本ニ付賣價一百二十六元以下ノモノハ内地捐現大洋二元二角五分ヲ徴ス

酒　稅

白　酒　類　燒鍋造酒毎百斤ニ付大洋一元四角燒商ヨリ納付

雜酒簽封税　從價 $\frac{10}{100}$ 賣主ヨリ納税

藥酒簽封税　從價 $\frac{10}{100}$ 同

飲料酒精税　從價 $\frac{21}{100}$ 同

用品酒精税　每一リツトル現大洋六分　賣主より納税

燒商課費

燒鍋課　一筒年租永大洋四百元

二筒同　同　六百元　四季分納

三筒同　同　八百元

各洋酒筒課現洋四百元乃至二千元

燒商執照費　每張大洋一百四十五元

洋酒ハ現大洋ニテ收納

菸酒牌照

卸賣菸酒牌照　年大洋四十元、一、七月分納

小賣菸酒牌照　甲種年大洋十六元

乙種同　八　元　一、七月分納

丙種同　四　元

公賣費

黃菸雜菸費 從價 $\frac{12}{100}$

雜酒藥酒簽封費 同 $\frac{10}{100}$

白酒費 每百斤大洋六角

飲料酒精費 從價 $\frac{24}{100}$

用品酒精費 每一立現洋六分五厘

票照費

驗單費 每張大洋二角

牌照費 各種牌照共ニ大洋一角

酒精簽封票費 每張大洋一分

酒精簽封條費 每條大洋五厘

納稅執照、納費執照、紙菸出廠捐執照、紙菸內地捐執照、筒課執照、憑單、行票、免捐運單、紙菸轉運執照、每張大洋二分

第二節 煙酒特許牌照稅

「奉天省の財政」に詳説せるを以て再述せず。

第三節　巻煙草特稅

吉林省に於て、その煙草は內國品たると外國品たるを問はず、又紙葉卷、刻煙草たるを問はず、そのこれを購買吸食する者は一律に吸食特別稅を徵收す。こは當時奉直の戰に伴ひ軍費の增加は吉省財政に不少影響を與へこれが財政の窮乏を拯はんが爲實施せられたるものである。

その稅率は市價の百分之二十、すべて轉嫁稅法を用ひ、發賣者より立替納入をなし、賣價にかへ吸飮者より回收するものとす。稅はすべて印紙を貼付するにより收められ、印紙は一圓より一錢六厘に至る迄十九種に分たる。

煙草商にして印紙未貼付の卷煙草を直接吸飮者に販賣したる者は規定の印紙を貼付せしむる外左の罰金に處せらる

1　初犯者は五元以上五十元以下

2　再犯者は十元以上百元以下

3　屢犯者は　十元以上二百元以下

煙草商にして印紙貼附不足の卷煙草を吸飮者に販賣したる時は、規定額を補貼せしむる外、左の罰金に處せらる。

(1)　初犯者は一元以上三十元以下

(2)　再犯者は五元以上五十元以下

(3)　屢犯者は十元以上百元以下

未貼附又は貼附不足の卷煙草を購入したる者は規定の印紙を貼附せしむる外一元以上五十元以下の罰金に處す。又外

省より入境する旅客にして印紙未貼附又は貼附不足、又は外省の印紙を貼用したる卷煙草五十本以上携帶し之を隱匿する者は規定の印紙を貼付せしめらる外一元以上五十元以下の罰金に處せらる。
貼附しある印紙を剝き取り再び貼用したるときは一元以上百元以下の罰金に處せられ、貼附印紙に店印を押捺せざるものは一元以上三十元以下の罰金に處せらる。煙草商にして運搬證と實際運搬額と符合せざるときは十元以上百元以下の罰金に處せられ、卷煙草を指定地迄運搬せずして、途中密賣する者は現品沒收の上、印紙稅の五倍の罰金に處す。

第四節　東省特別區酒捐

東省特別區に於ける酒捐は東省特別區市政管理局に於て徵收し、市政管理局はこの稅徵收の爲、哈爾濱區域內に於ては市政管理局より稽査員を派遣し、鐵路沿線各處にあつては各分局より稽査員を派遣して處理せしむ、その稅率は

A　桶　捐

一　特別區各酒廠製造の純淨酒精、外處より特別區に運入せらるゝ純淨酒精、哈爾濱その他各站を經過する酒精　每桶大洋　一　元
（滿洲里、海拉爾、綏芬河三處に運搬せられ及水路松花江を黑龍江に運搬し、又長春より南滿路及浦鹽に運搬せらるゝものを除く）

一　本地各燒鍋及各酒廠內附設の燒鍋製造の露國白酒の酒精　每桶大洋　一　元

一　海拉爾滿洲里、綏芬河及其附近村落に運往せらるゝ酒精　每桶大洋　元二角五分

一 松花江に沿ひ黑龍江に運送し、或は長春より南滿鐵道及浦鹽に運送する純良酒精一桶以上のもの　每桶大洋　二角

一 俄國白酒を以て製造の酒精にして前記三處より輸出するもの　每桶大洋　二角

一 燃料用及藝術用酒精　每桶大洋　四角

一 特別區內製造の支那燒酒及外處より運入せるもの或は特別區よりハルピンに運入するもの及各站に運入小賣するもの　每桶大洋　五角

B 籤封捐

一 桶捐を納入し瓶內に裝入し特別區內にあつて販賣するもの或は各酒廠を經て他處に運往し白酒として銷售するもの　每桶大洋　一元

一 未納桶捐の酒精にして特別區內或は沿路各處に運往銷售するもの　每桶大洋　二元

一 特別區內製造及特別區外より運入或は經過の俄國白酒白酒を用ひ製造せる各種酒品（黑龍江、長春、浦鹽より輸出せられたるものを除く）　每桶大洋　一元

一 前記の黑龍江、長春、浦鹽より輸出せられたるもの　每桶大洋　二角

一 特別區內及傅家甸各酒廠、徐鵬志酒廠上高酒廠製造のラム、ブランデー酒　每瓶大洋　一角

一 外來の葡萄酒　每瓶大洋　二角

一 本地製造の葡萄酒　每瓶大洋　四角

一　外國香檳酒　每瓶大洋　五角
一　ウヰスキー　同　三角
一　各酒ビール日本之酒　同　六角

第五節　外國煙草會社との納税關係

奉天省に於けると同一につき略す。

吉林省各税局十五年度代徵費税牌照比額表

局別 \ 款目 \ 期別		十五年七月至九月	十五年十月至十二月	十六年一月至三月	十六年四月至六月	合計
一分局	公賣費	八〇〇元	四〇、六〇〇元	二二五、〇〇〇元	二、六〇〇元	二六九、〇〇〇元
	税捐	二、〇〇〇	三一、七〇〇	二一〇、二〇〇	五、〇〇〇	二四八、九〇〇
	牌照税	四、一五〇	—	三、六〇〇	—	七、七五〇
舒蘭局	公賣費	五〇〇	一〇、三〇〇	四九、二〇〇	五、〇〇〇	六五、〇〇〇
	税捐	一、八〇〇	一七、〇〇〇	五六、五〇〇	二、七〇〇	七八、〇〇〇
	牌照税	二八〇	—	一六〇	—	四四〇
五常局	公賣費	一、四〇〇	一一、〇〇〇	四五、〇〇〇	二、六〇〇	六〇、〇〇〇
	税捐	四、四〇〇	一六、〇〇〇	五一、〇〇〇	七、六〇〇	七九、〇〇〇
	牌照税	七五〇	—	六二〇	—	一、三七〇
吉						

局	項目					
雙城局	公賣費	五、〇五〇	一〇、〇〇〇	一二、五〇〇	七、九〇〇	三九、〇九〇
	稅捐	一二、一三〇	二〇、〇〇〇	二三、三〇〇	一五、七〇〇	七一、一三〇
	牌照稅	一、四三〇	—	一、一五〇	—	二、五八〇
榆樹局	公賣費	三、七一〇	九、〇〇〇	一二、〇〇〇	八、〇〇〇	三二、七一〇
	稅捐	一一、一四〇	二一、〇〇〇	二三、三〇〇	一四、七〇〇	七〇、一四〇
	牌照稅	七二〇	—	六二〇	—	一、三四〇
賓縣局	公賣費	三、〇〇〇	九、〇〇〇	一四、五〇〇	四、五〇〇	三一、〇〇〇
	稅捐	七、八〇〇	一九、〇〇〇	三〇、四〇〇	一四、〇〇〇	七一、二〇〇
	牌照稅	八九〇	—	七九〇	—	一、六八〇
樺甸局	公賣費	六〇〇	三、二〇〇	五、〇〇〇	二、四八〇	一一、二八〇
	稅捐	三、四〇〇	四、一〇〇	四、六〇〇	五、六〇〇	一七、七〇〇
	牌照稅	七八〇	—	六二〇	—	一、四〇〇
哈爾濱局	公賣費	一、〇〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	六〇〇	四、〇〇〇
	稅捐	二二、〇〇〇	二五、〇〇〇	二八、〇〇〇	一三、〇〇〇	八八、〇〇〇
	牌照稅	四、八〇〇	—	四、五二〇	—	九、三二〇
扶餘局	公賣費	二、五二〇	六、七五〇	九、〇〇〇	五、一三〇	二三、四〇〇
	稅捐	六、〇三〇	一六、四七〇	二〇、七〇〇	一〇、八〇〇	五四、〇〇〇
	牌照稅	二、二〇〇	—	九二〇	—	三、一二〇
長春局	公賣費	二、七〇〇	五、八〇〇	六、九〇〇	四、六〇〇	二〇、〇〇〇
	稅捐	八、四〇〇	一四、六〇〇	二〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	五八、〇〇〇
	牌照稅	三、七四〇	—	三、四一〇	—	七、一五〇
磐石局	公賣費	一、五〇〇	七、七〇〇	一一、一〇〇	五、五〇〇	二五、八〇〇
	稅捐	五、〇〇〇	一二、〇〇〇	一三、〇〇〇	七、三〇〇	三七、三〇〇
	牌照稅	五七〇	—	五〇〇	—	一、〇七〇

林

局	項目	—	—	—	—	—
延吉局	公賣費	二、八〇〇	四、七〇〇	六、二〇〇	三、〇〇〇	一六、七〇〇
	稅捐	八、六〇〇	一二、五〇〇	一四、八〇〇	九、〇〇〇	四四、九〇〇
	牌照稅	一、六三〇	—	一、二二〇	—	二、八五〇
寧安局	公賣費	三、〇〇〇	四、〇〇〇	五、一〇〇	二、九〇〇	一五、〇〇〇
	稅捐	五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一二、五〇〇	六、五〇〇	三四、〇〇〇
	牌照稅	一、八四〇	—	一、五七〇	—	三、四一〇
農安局	公賣費	一、二〇〇	三、七六〇	六、五〇〇	三、五〇〇	一四、九六〇
	稅捐	三、七〇〇	九、五〇〇	一三、〇〇〇	七、六〇〇	三三、八〇〇
	牌照稅	一、〇七〇	—	一、〇二〇	—	二、〇九〇
雙陽局	公賣費	一、七〇〇	四、〇〇〇	七、〇〇〇	四、〇〇〇	一七、二〇〇
	稅捐	五、〇〇〇	七、五〇〇	一〇、三〇〇	五、一〇〇	二七、九〇〇
	牌照稅	五三〇	—	六二〇	—	一、一五〇
同賓局	公賣費	一、〇〇〇	三、三六〇	六、八〇〇	一、七四〇	一二、九〇〇
	稅捐	二、六五〇	七、七〇〇	一〇、七五〇	七、五〇〇	二八、六〇〇
	牌照稅	二、二三〇	—	一、七三〇	—	三、九六〇
濱江局	公賣費	三、二〇〇	四、五〇〇	三、四〇〇	三、九〇〇	一五、〇〇〇
	稅捐	六、四〇〇	五、四〇〇	八、六〇〇	五、六〇〇	二六、〇〇〇
	牌照稅	五、七四〇	—	五、〇四〇	—	一〇、七八〇
德惠局	公賣費	二、一〇〇	二、六〇〇	三、〇〇〇	一、三〇〇	九、〇〇〇
	稅捐	五、八〇〇	八、七〇〇	九、六〇〇	五、九〇〇	三〇、〇〇〇
	牌照稅	五九〇	—	六二〇	—	一、二二〇
阿城局	公賣費	一、四〇〇	三、〇〇〇	四、三〇〇	一、八〇〇	一〇、九〇〇
	稅捐	三、八〇〇	七、〇〇〇	九、一〇〇	五、一〇〇	二五、〇〇〇
	牌照稅	一、六一〇	—	一、四七〇	—	三、〇八〇

局	項目					
東寧局	公賣費	八〇〇	二、七〇〇	三、八〇〇	一、五九〇	八、八九〇
	税捐	一、八〇〇	五、六〇〇	七、五〇〇	四、二〇〇	一九、一〇〇
	牌照税	一、一五〇	―	一、四七〇	―	二、六二〇
密山局	公賣費	七〇〇	二、三三〇	二、四二〇	二、二四六	七、六九六
	税捐	一、七〇〇	四、六〇〇	八、七〇〇	三、八八〇	一八、八八〇
	牌照税	二九〇	―	一九〇	―	四八〇
拉林局	公賣費	八〇〇	二、二〇〇	四、一〇〇	一、六〇〇	八、七〇〇
	税捐	二、〇〇〇	四、〇〇〇	七、六〇〇	四、二〇〇	一七、八〇〇
	牌照税	二〇〇	―	四二〇	―	六二〇
烏拉局	公賣費	一、一四〇	一、八〇〇	三、六〇〇	一、六六〇	八、二〇〇
	税捐	三、五〇〇	四、六〇〇	四、八〇〇	二、五〇〇	一五、四〇〇
	牌照税	四五〇	―	四六〇	―	九一〇
伊通局	公賣費	八〇〇	一、六〇〇	二、三〇〇	一、五〇〇	六、二〇〇
	税捐	一、六五〇	四、〇〇〇	六、〇〇〇	三、三五〇	一五、〇〇〇
	牌照税	九五〇	―	八六〇	―	一、八一〇
長嶺局	公賣費	四〇〇	一、四〇〇	四〇〇	八〇〇	五、〇〇〇
	税捐	一、〇六〇	四、一四〇	六、三〇〇	三、五〇〇	一五、〇〇〇
	牌照税	三五〇	―	三二〇	―	六七〇
蛟河局	公賣費	五〇〇	一、三〇〇	二、四〇〇	八〇〇	五、〇〇〇
	税捐	一、一〇〇	三、〇〇〇	七、六〇〇	一、五〇〇	一三、二〇〇
	牌照税	三〇〇	―	三〇〇	―	六〇〇
下九臺局	公賣費	六〇〇	一、三〇〇	一、四〇〇	七〇〇	四、〇〇〇
	税捐	一、六〇〇	二、六〇〇	三、〇〇〇	一、八〇〇	九、〇〇〇
	牌照税	九七〇	―	五六〇	―	一、五三〇

省						
敦化局	公賣費	三〇〇	八〇〇	一、一八〇	七二〇	三、〇〇〇
	稅捐	一、〇〇〇	二、九〇〇	三、三〇〇	一、八〇〇	九、〇〇〇
	牌照稅	三三〇	—	二六〇	—	五九〇
穆稜局	公賣費	二二〇	一、一〇〇	一、三四〇	一、〇〇〇	三、六六〇
	稅捐	一、〇〇〇	二、四〇〇	二、九〇〇	一、五五〇	七、八五〇
	牌照稅	六一〇	—	四一〇	—	一、〇二〇
汪清局	公賣費	五〇〇	九〇〇	一、四二〇	七八〇	三、六〇〇
	稅捐	一、八〇〇	二、〇〇〇	二、六〇〇	一、一〇〇	七、五〇〇
	牌照稅	四五〇	—	三三〇	—	七八〇
方正局	公賣費	五〇〇	九〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	二、九〇〇
	稅捐	一、〇〇〇	二、四〇〇	二、八〇〇	一、七〇〇	七、九〇〇
	牌照稅	三四〇	—	二九〇	—	六三〇
和龍局	公賣費	四〇〇	六〇〇	三五〇	二五〇	一、六〇〇
	稅捐	一、〇〇〇	二、一〇〇	二、八〇〇	一、五〇〇	七、四〇〇
	牌照稅	五九〇	—	五六〇	—	一、一五〇
寶清局	公賣費	二二〇	五八〇	五八〇	五四四	一、九二四
	稅捐	四〇〇	一、三四〇	一、九五〇	一、〇三〇	四、七二〇
	牌照稅	一一〇	—	九〇	—	二〇〇
依蘭局	公賣費	一四〇	七〇〇	九四〇	五二〇	二、三〇〇
	稅捐	二四〇	一、三八〇	一、六〇〇	九八〇	四、二〇〇
	牌照稅	六〇〇	—	四九〇	—	一、〇九〇
石城局	公賣費	二八〇	七五〇	一、〇〇〇	五七〇	二、六〇〇
	稅捐	六七〇	一、八三〇	二、三〇〇	一、二〇〇	六、〇〇〇
	牌照稅	二四〇	—	一〇〇	—	二四〇

局	項目					
富錦局	公賣費	一〇〇	三四〇	四〇〇	二〇〇	一、〇四〇
	稅捐	八〇〇	一、三〇〇	一、四〇〇	九〇〇	四、四〇〇
	牌照稅	六三〇	｜	九〇〇	｜	一、一三〇
琿春局	公賣費	六五	五五〇	五八〇	二〇五	一、四〇〇
	稅捐	六〇	八〇〇	一、二四〇	九〇〇	三、〇〇〇
	牌照稅	七七〇	｜	七〇〇	｜	一、四七〇
額穆局	公賣費	一〇〇	二五〇	四〇〇	二五〇	一、〇〇〇
	稅捐	五〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四〇〇	二、九〇〇
	牌照稅	一三〇	｜	一〇〇	｜	二三〇
濛江局	公賣費	一一〇	一九〇	四四〇	三〇〇	一、〇四〇
	稅捐	二六〇	九一〇	九八〇	六五〇	二、四〇〇
	牌照稅	六〇	｜	五〇	｜	一一〇
呢嗎口局	公賣費	五〇	一〇〇	三四〇	一九〇	六八〇
	稅捐	一一〇	二五〇	五四〇	三〇〇	一、二〇〇
	牌照稅	二七〇	｜	四七〇	｜	七四〇
樺川局	公賣費	三〇	一九〇	三三〇	一六〇	一〇
	稅捐	六〇	三一〇	四七〇	三〇〇	一、一四〇
	牌照稅	八五〇	｜	七一〇	｜	一、五六〇
勃利局	公賣費	八〇	一一〇	一四〇	七〇	四〇〇
	稅捐	一七〇	二六〇	四二〇	二二〇	一、〇七〇
	牌照稅	三〇	｜	三〇	｜	六〇
同江局	公賣費	一二〇	九〇	一〇〇	九〇	四〇〇
	稅捐	一〇〇	一九〇	一六〇	一五〇	六〇〇
	牌照稅	一三〇	｜	九〇	｜	二二〇

局						
缸窰局	公賣費	五	一〇〇	八五	一〇	二〇〇
	稅捐	五	一〇〇	一四〇	五七	三〇〇
	牌照稅	一〇〇	|	九〇	|	一九〇
饒河局	公賣費	一〇	二五	二五	一〇	七〇
	稅捐	二〇	四四	五八	四八	一七〇
	牌照稅	一六〇	|	七〇	|	二三〇
綏遠局	公賣費	三	四七	四〇	二〇	一一〇
	稅捐	三	三〇	四〇	一七	九〇
	牌照稅	一〇	|	一〇	|	二〇
總計	公賣費	四八、一五三	一六七、九二三	四六六、八一〇	八七、九三五	七七〇、八二〇
	稅捐	一四八、六五六	三一八、八五四	六四七、八四八	二〇三、四三二	一、三一八、七九〇
	牌照稅	四六、六二〇	|	四〇、一三〇	|	八六、七五〇

徵收紙煙捐章程（十年八月一日）

第一條　運銷內地紙菸除應納海關稅崇文門稅項外應遵照本章程之規定照納捐項

第二條　紙菸分舶來品與在華製造品二種均應徵內地統捐捐率均從價計算凡值百元者徵收二元五其等第照海關規定辦理

第三條　在華製造品除前條規定值百抽二五外另於出廠時不論等次每箱五萬枝加徵出廠捐二元其不成箱者即一枝計

前項按枝捐以五千枝爲標準每五千枝納捐二角凡不滿五千枝者亦以五千枝計算納捐二角、五千枝以上即按一萬枝計算納捐四角、一萬枝以上即按萬五千枝計算納捐六角餘通此類推

第四條　對菸々商完納前項內地捐款時應由經徵機關塡發捐單注明種類價値捐數及指銷地點交由菸商分別執持黏貼以憑

査驗

第五條　在華製造品徵收前項出廠捐應就廠按箱抽收不論行銷地點是否租界商埠一律徵收不得援洋貨之例藉口行銷租界商埠希圖免納並於抽收後發給印花分別黏貼以資査驗前項印花分爲十聯每聯二角按照第三條辦理

第六條　舶來品與在華製造品業經遵照第二第三條所規定之捐率分爲納捐領有捐單或貼有印花所有經過局卡一律査驗放行其他內地零星雜捐厘金等項不再重徵

第七條　本章程俟呈准後施行無論華洋商人一律遵守

第八條　本章程如有未盡事宜得隨時酌量修正

在奉天省製造煙草の吉林省運行に關する章程

一　奉天交涉員與日商大安烟公司商訂製造烟捲納稅辦法

一　大安烟公司在奉天省所製造之烟捲行銷東三省各地方(包括商埠與內地)應繳納值百抽五之稅金(卽從價論稅之意)

二　業經繳納前項稅金之煙捲銷售於東三省境內無論過論及落地等稅均不再徵(卽一稅概不重徵之意)

三　大安烟公司將自己製造之煙捲輸送於東三省以外之各省地逕赴海關照章納稅

四　中國政府對於在中華民國製造煙捲稅有比較此稅減輕或有利待遇時大安烟公司亦准均霑之但將來中國政府訂定煙捲劃一稅則中外商民均行遵守時大安烟公司亦應一律辦理

五　納稅應用奉天通行貨幣

六　本辦法規定後經過一個月後實行

奉天財政廳長　王永江
外交部特派奉天交涉員　佟兆元
日商大安烟公司總理　大丸鐵太郎

中華民國十一年四月二十五日

同附則

一　本辦法第一條所載之從另以附表之價格為標準
二　大安煙公司遇有新製品之煙捲出售時具標準價格可與品質等級價格類似品之價格為比例
三　附表所定價格將來賣價遇有漲落價之比例增減納稅
四　業經完稅之煙捲在東三省境內無論在何人手中中國徵稅官署不得留難
五　納稅場所應由該會社總販賣所向省城稅捐局彙總繳納運往他處須持原稅票赴就近局卡起領分運護照以便沿途査驗放行倘所運烟捲經過局卡査存已經納稅之分運護照時卽為漏稅當由査出局卡立時補稅
六　協定辦法暫以十年為期期滿時如無異議繼續有效

附表　煙捲納稅標準價格表

煙牌名稱	每箱數量	標準價格(小洋)	應完稅款(小洋)
寳牌	三萬枝	一〇〇・〇〇	五・〇〇

牌名	枝數	價	稅
圖粹牌	三萬枝	八四・〇〇	四・二〇
僧帽牌	一萬五千枝	八八・〇〇	四・四〇
火事牌	三萬枝	五七・〇〇	二・八五
梅蘭芳牌	三萬枝	五七・〇〇	二・八五
三元牌	三萬枝	三三・〇〇	一・六五

二　哈爾濱英商老巴奪煙公司納稅章程

一　此稅按照等次而納其等次則按價而定其例如下

一等　包括每五萬枝賣價在大洋三百九十七元八角九分以下之各牌

二等　每五萬枝賣價在大洋二百六十三元八角七分以上而不逾三百九十七元八角九分

三等　每五萬枝賣價在大洋一百三十一元九角三分以上而不逾二百六十三元八角七分

四等　包括每五萬枝賣價在大洋一百百三十一元九角三分以上各牌

以上各等納稅如下

一等　每萬枝大洋十二元三角七分五厘

二等　每五萬枝大洋七元一角二分五厘

三等　每五萬枝大洋四元一角二分　厘

四等　每五萬枝大洋二元二角五分

二　敝公司各牌等次之變更係由於賣價之漲落屆時必從速函達以便貴局更改貨單運貨至通商口岸及通商城鎮除完納海關

稅並出廠捐外不徵內地統捐(即值百元扣二五之捐)以上之稅祇於運往內地各處者(非係租界商埠界內)而納敝公司紙煙之運往及銷售於商埠界內及租界者除完納海關稅及出廠捐外無論何項捐稅任何稅捐各局不得徵收稅項、 各等二五印花已悉貴局將所印刷之各等二五印花頒到須貼於箱之上每二五印花一張計烟五千枝每箱按照所裝若干貼用印花在貴局領結敝公司以此項印花之前敝公司按此辦法運貨即用由貴局蓋有附收印花若干之四聯烟稅證書

三 敝公司亦悉閣下將通知吉林省由徵收各局卡以此項辦法並同 一通知黑龍江局以期該省及徵收局卡得知敝公司之紙烟有貴局證書者運往非商埠之內地各處並在各該處銷售不能再納捐稅稅銀之繳納俟貴局有此項印花頒給時敝公司再請頒應須之數目貴局即將所 交敝公司之此項印花登入帳簿敝公司於每次運貨時必當詳報貴局運往何處牌名等次並用印花若干於 每月底敝公司當按發出之貨列單報告並附上期內用去印花應納之稅銀

四 在貴局頒發各等印花之前敝公司每次發貨當向貴局請領蓋有附收印花之 四聯烟稅證書貴局登入帳內其稅銀至月底付之並悉閣下允可倘敝公司以此項手續所發之貨既有貴局證書證明 不得重徵稅項而復被任何徵收局卡扣留徵稅時敝公司得由月底應付貴局稅銀數內扣除並附上該稅局所發之收據

濱江統捐局臺鑒　　濱江老巴奪煙公司　　九月十一日

牌名	等第	每箱枝數	每盒支數	每箱現洋價目

吉林全省菸酒公賣總局暫定罰則條例 (民國四年十一月十九日)

第一條　本局罰則各分局各監察所均適用之

第二條　本局罰則分二類如左

甲　隱漏罰則

乙　抗納罰則

第三條　隱漏罰則如左

一　隱漏菸酒公賣費額不及五十元除補納外處以五十元罰金

二　隱漏菸酒公賣費額在五十元以上不及百元者除補納外加一倍半議罰

三　隱漏菸酒公賣費額在百元以上不及百五十元者除補納外加兩倍議罰

四　隱漏菸酒公賣費額在百五十元以上不及二百元者除補納外加兩倍半議罰

五　隱漏菸酒公賣費額在二百元以上不及二百五十元者除補納外加三倍議罰

六　隱漏菸酒公賣費額在二百五十元以上不及三百元者除補納外加三倍半議罰

七　隱漏菸酒公賣費額在三百元以上不及三百五十元者除補納外加四倍議罰

八　隱漏菸酒公賣費額在四百元以上者照此軟揮至五百元爲止

第四條　抗納罰則

一　抗應納菸酒公賣費額不及一元者除補納外處以五十元以上之罰金

二　抗應納菸酒公賣費額在一元以上不及五十元者除補納外處以百元以上之罰金

三　抗應納菸酒公賣費額在五十元以上不及百元者處以百五十元以上之罰金

四　抗應納菸酒公賣費額在百元以不及百五十元者處以二百元以上之罰金

五　抗應納菸酒公賣費額在百五十元以上不及二百元者處以二百五十元以上之罰金

六　抗應納菸酒公賣費額在二百元以上不及二百五十元者處以三百元以上之罰金

七　抗納在二百五十元以上者照此類推至五百元爲止

第五條　罰金確定後須即公告自公告之日起算限十日內完納逾期不完納者適用吉林國稅徵收暫行則例第三章各條之規定處分之扣押受罰者之財產

第六條　抗費者如有強暴行爲除依第四條各款最多額處得外仍送就近縣知事或審判應檢察廳按律治罪

第七條　各分局各監察所收到罰金後隨即遵照部頒聯單塡給一聯存局備查一聯繳呈省局一聯給受罰者罰金聯單式列後

第八條　各分局各監察所科罰一律按本條例辦理不得任意高下

第九條　各分局各監察所科罰應隨時呈報本局隱匿者以舞弊論

第十條　各分局各監察所所收罰款遵照部章以五成充當以五成解文分金庫按日解部

第十一條　本條例自奉監督財政長官批准公布之日實行

吉林省菸酒公賣局暫行變通辦事簡章

第一條　本簡章依據財政部飭照奉省辦法並參酌本省情形釐定之

第二條　本局分設三科曰文牘科曰稽徵科曰司會科其暫行辦事細則另定之

第三條　文牘科設科長一員科員二員一等司事二人二等司事三人

第四條　稽徵科設科長一員科員二員一等司事二人二等司事二人

第五條　司會科設科長一員科員二員一等司事二人二等司事二人

第六條　稽查長一員稽查員六員係按原劃定七區規定之

第七條　本局對於各職員及各徵收局徵收得力由局長考核成績援照經徵官條例詳請給獎

第八條　本局對於各職員及各徵收局局長各縣知事有怠忽命令經徵不力解款貽誤維持不力放棄協助進行責任者得分別情節輕量詳請懲戒撤換

第九條　本局取銷分局所分支棧改歸各徵收局代徵惟第一分局應劃交省城徵收局代辦菸酒公賣事務茲暫責成稽徵科兼領行用公文得暫用第一分局鈐記以清界限

第十條　各屬徵收局及稽徵科稽徵款項均按照規定期限解交本彙解

第十一條　本簡章如有應行變更之處得隨時修正詳准辦理

第十二條　本簡章自評奉批准之日施行

吉林省菸酒公賣暫行變通簡章

第一條　本簡章依據奉省菸酒公賣暫得變通簡章參酌吉省地方情形酌量普通規定

第二條　吉省菸酒公賣事務凡原訂修正菸酒公賣暫行章程施行細則徵收公賣費規則罰款條例等與本簡章無抵觸者一一律適用

第三條　凡原設之分局分支棧仿照奉省辦法暫行取銷由省局委任各縣稅捐徵收局代辦本管境內菸酒公賣事務並擔分局分支棧一切責任其辦事施行細則由各該稅捐徵收局自行擬定詳請局查核備案

第四條　吉林縣第一分局辦理省城菸酒公賣事務應特別變通規復原訂辦法暫不併歸省城稅捐徵收局即由省局稽徵科兼辦所有兼辦經費及一切制度均照各稅捐徵收局規定辦理

第五條　吉省菸酒公賣仿照奉省暫照左列之規定公賣費

一　本省所產白酒就產地按稅捐成例每班以出酒四百斤計算、每百斤徵收公賣費大洋一元六角其他各種雜酒就產地或銷地按價格暫訂加收十分之二其價格以各該稅捐徵收局按月報告省當局之菸酒市價單爲根據

二　本省產出之菸類就產地檢定價格暫定徵收十分之二

三　外省輸入之菸酒就銷地檢定價格暫定徵收十分之二

第六條　本名所產之菸酒除白酒外無論何項菸酒均須黏貼一切手續悉依省當局原訂修正章程辦理

第七條　本省之白酒暫准各燒商按兩月繳納公賣費以求簡便惟繳費日期以第二月底爲限不得遲延其每日蒸酒班數以兩個月核計預先報明該管稅捐徵收局轉報省當局查核不得無故任意增減菸類及其他酒類應繳之公賣費仍須隨時照繳各從原擬訂期限之規定

第八條　省當局對於各代辦菸酒公賣事務稅捐徵收局有應行查察之事項得派稽查長稽查員若干人令逕將地稽查稽其查規

則另定之

第九條　各稅捐徵收局代辦菸酒公賣事務擬以部訂分棧應得二十分之一作爲辦公經費其辦公費以收多寡核定之

第十條　本簡章如有未盡事宜得隨時修訂詳准辦理

第十一條　本簡章自奉准之日公布施行

吉林省公賣局稽查員暫行規則

第一條　本規則依據吉林吉菸酒公賣暫行普通簡章及稅捐徵收局代辦菸酒公賣事務暫行細則內關於應行稽查事項規定之

第二條　稽查長稽查員承局長之指揮臨時派定循行指查各局執行菸酒公賣稽查事務

第三條　稽查長稽查員應依左列各項執行其職務

一　關於調取各徵收局辦理菸酒公賣文告簿椽事項

二　關於檢查黏貼各項印照聯單憑單事項

三　關於收款解款數目事項

四　關於緝私變價罰金數目事項

五　關於表報菸酒產銷數目事項

六　關於菸酒價格事項

七　關於銀錢市價事項

第四條　前條規行應行稽查事項如查有不符者得密報省局核辦如有扶同隱飾情事或經查出及有人擧發者以無弊營私論

第五條　稽查長稽查員應於稽查完竣後將稽查情形報告省局查核

第六條　稽查長稽查員沿途如查有販運私菸私酒情事除照原訂罰局條例會同該管稅稅徵收局罰辦外其私菸私酒充公變價後得由省局查核情形酌予充賞如查有燒商蒸酒班數不特者以私酒照章罰辦

第七條　稽查長稽查員有辦理得力者由省局考核成績援照經徵官條例詳談給奬辦事不力者由省局酌量情形輕重分別懲處

第八條　稽查長稽查員照章應領旅費薪水應按領飭手續請領稽查完竣時遵照旅費規則辦理

第九條　本規則有應行增收之處得由省局修正詳准辦理

第十條　本規則自詳奉批准之日施行

吉林省酒賣局暫行變通章程細則

第一條　總綱　本局辦事細則依據暫行辦事簡章釐定之

第二條　名稱　本局定名曰吉林全省菸酒公賣局

第三條　權限　本局々長權限依據部署核准各項章則執行之

第四條　職務　本局自局長各下分設三科各設科長一員其職掌於左

甲　局長承全國菸酒事務署之命令並本省監督財政長官之監督掌理本局一切事務

乙　文牘科長承局長之命令督飭司事辦理本科各事項

關於機要文電事項
關於布告公函書籍之編纂事項
關於公文之收發分科事項
關於參考書籍圖表之保屬事項
關於司事之監督考核事項
其他不屬於稽徵司會等科各事項

丙　稽徵科長承局長之命令督飭員司辦理本科各事項
關於兼領第一分局徵收省城菸酒公賣費事項
關於考核各徵收局菸酒公賣成績事項
關於菸酒調査報告事項
關於徵收款項之稽核事項

丁　司會科長承局長之命令督飭司事辦理本科各事項
關於會計事項
關於庶務事項
關於登記庫藏事項
關於編製預算計算事項

關於印照編號監印領發保管各事項
關於編製統計表册事項
戊　稽查長稽查員承局長之命令辦理調査事項
己　本局遇有造報表册額設員司不敷繕寫時得臨時酌用雇員
第五條　辦法　本局監督各徵收局員其一切施行章則另定之
第六條　時間　辦公時間午前九時至十二時午後一時至六時上下公廳均立考勤簿劃到以憑考核如遇緊急事件必須早日辦結者不在此限
第七條　附則　本細則如有應行增改之處得隨時修正詳明辦理

吉林省征收局代辦菸酒公賣事務暫行細則（民國五年三月十日）

第一條　本細則依據吉林省菸酒公賣暫行變通簡章規定之
第二條　各稅捐征收局々長代辦菸酒公賣事務行用公文得暫用稅捐征收局鈐記
第三條　各稅捐征收局々長代辦菸酒公賣事務由省局考核成績如辦事得力收數確有成効依照部照第二十條辦理如有辦事不力者省局得分別輕重一面咨會財政廳一面詳請按署按照征收整稅考成條例辦理
第四條　各稅捐征收局代辦菸酒公賣事務卽以分棧應得二十分之一作爲辦公經費其辦公費以收數多寡核定之此項辦公費准由各征收局解款時坐扣一面備具鈐領詳送局備案省

第五條　各稅捐徵收局代辦菸酒公賣事務應用照單簿表按左列各項分別詳請省局核發具領

一　甲乙丙三種印領
二　四聯馬單
三　徵收憑單
四　罰金聯單

以上四種領按月造具四柱清册連同應繳一聯一聯詳報省局查核

五　菸酒市價表
六　銀錢市價表
七　製造場菸酒產銷登錄表
八　菸酒商店調查表
九　現金繳入書
一〇　巡緝私菸酒執照
一一　款項收入簿
一二　代徵菸酒公賣費日記簿
一三　公賣費收解簿
一四　收入計算書表

前條應用照單簿表除第一項由省局請領無庸備價外二項至四項應由各徵收局備價至省局請領五項至十三項由省局發給式様歸各該税捐徵收局自製塡用其第十四項由各該税捐徵收局照審計院頒發定式按月編送省局

第六條　各税捐徵收局代辦菸酒公賣事務解款辦法除白酒一項暫定按甲月至乙月底清收解外其餘菸類酒類毎月所收公賣費驗單費私菸酒變價及罰金按照財政廳規定本省各税捐局解款成案按月全數繳入就近金庫或官銀錢號撥解省局核收彙總解部如有逾限者援照徵收釐税予成條例第十八條辦理

第七條　本細則如有未盡事宜得隨時修訂詳請核准

第八條　本細則自奉准之日施行

吉林省試辦卷煙草吸食者特別税暫行簡章（民國十五年七月一日）

第一條　吉林省ハ各省ニ於ケル卷煙草特別税法ヲ援照シ中外卷煙草（紙葉卷刻煙草一切）ヲ購買吸食スル者ニ一律ニ吸食特別税ヲ徵收ス其ノ率ハ市價百分ノ二十トス

第二條　卷煙草吸食特別税ハ轉嫁税法ヲ用ヒ發賣者ヨリ立替納入シ賣價ニ加ヘテ吸食者ヨリ回收スルモノトス

第三條　卷煙草吸食者特別税ハ印紙貼用ヲ以テ之ヲ徵收ス

第四條　特別税印紙額面ノ價ハ現大洋計算トス其ノ色彩種類紋章左記ノ如シ

種類	色彩	紋章	種類	色彩	紋章
一圓	淡青	芍藥	二十錢	水紅	林屋

四十錢	瓦灰竹亭	一錢	葡萄紫林鹿
三錢	淡黃試馬	五錢	深醬色山石
四錢	鷲黃蘭石	八厘	朱紅雛蘭
一錢四厘	咖啡醒獅	一錢八厘	墨藍蘆雁
十錢	茶綠松月	三十錢	藍灰躍虎
五十錢	深紫花島	二錢	葵綠臺柳
四錢	正藍猱木	二厘	藕荷松鶴
六厘	鼻煙丹鳳	一錢二厘	淡綠橋樹
一錢六厘	降色釆蓮		

以上計十九種

第五條　特別税印紙貼用ノ多寡ハ本廳ノ定メタル價格表ニ依リ卷煙草最小容器（筒盒ノ如シ）ノ賣價ヲ以テ標準トシ一錢ノ價ニ對シ二厘、一錢未滿ハ一錢ニ計算シ若シ一錢六厘ノ煙草ハ四厘ヲ貼用ス餘ハ均シク右ニ倣フ若シ一枚ノ印紙ニテ其ノ貼用額ニ合ハサルモノ即チ七圓ノ價格ニ對スル一圓四十錢ノ印紙ヲ貼用スルトキハ一圓一枚四十錢一枚ヲ貼用スルモノトス餘ハ之ニ倣フ本廳ノ定メタル定價ト市價ト相違シ又ハ表中ニナキモノアルトキハ各税局ニ於テ隨時報告シ更正又ハ添列ス

第六條　印紙ハ財政廳ニテ製造シ各税局ニ配布發賣セシメ徵收シタル税金ハ毎月四柱清冊ト共ニ進達スヘシ

第七條　各税局毎月一回卷煙草ノ種類價格ヲ調査報告スヘシ

第八條　各城埠及重鎭ノ商店ニテ印紙ノ印受發賣ヲ爲スモノハ九割掛ヲ以テ賣下クルモトノス其ノ一回ニ賣下クル額ハ五百圓ヲ限度トシ賣盡スト否トヲ問ハス現金ヲ返還セス

第九條　印紙ヲ引受ケ發賣スル商店ハ必ス稅局ニ於テ確實ナル商店ニシテ卷煙草代理店ニアラサルコトヲ調査シタル後許可スルモノトス

第十條　卷煙草ヲ直接消費者ニ發賣スルモノハ必ス印紙ヲ購入シ最小容器ノ封口ニ貼用シ商號ノ小印ヲ以テ消印シタル後發賣スルモノトス

第十一條　本省ニ於テ製造スル卷煙草ハ第十條ニ依リ處理スル外製造スルニ於テ包裝前最小容器ニ印紙ヲ貼用シ價格ニ加フルコトハ隨意トス但シ零賣計算ニ依リ貼用スルヲ要ス

第十二條　外省及外國ヨリ輸入ノ卷煙草ノ小賣ハ第十條ニ依リ處理スル外之ヲ各商店ニ卸賣スル場合ハ豫メ印紙ヲ貼用シ價格ニ加フルハ隨意トス但シ必ス市價小賣價格ニ依ル額ニ足ル丈ケノ貼用スヘシ

第十三條　販賣店ニ於テ未納稅ノ卷煙草ヲ仕入レタルトキハ第十條ニ依リ印紙ヲ貼用シ小印ヲ捺シ若シ既納ノ卷煙草ヲ仕入レタルトキハ必ス最小容器ヲ檢ヘ定額ヲ貼用シアルコトヲ確メタル後發賣スヘシ

第十四條　本省各都市ニ於ケル煙草會社ニテ未納稅ノ大口煙草ヲ購入シ他地方ニ運搬シ賣捌カムトスル者ハ必ス先ツ其ノ種類函數及運搬先ヲ屆出ツヘシ此ノ場合最寄稅捐局、同出張所ハ運搬證書ヲ交附シ一面運搬先ノ局ニ通知ス、通知ヲ受ケタル局ハ現品ト照合シ相違ナキトヰハ其ノ運搬證ノ一端ヲ切取リ返送シ該品ノ入店ヲ許スモノトス右發送地ノ局出張所ハ月末ニ運搬證ノ檢査ヲ受ケ運搬先各局ハ運搬證ノ一角ヲ切取シ財政廳ニ進達シ夫々報告スルモノトス

第十五條　卷煙草會社ヨリ未納稅ノ端數卷煙草ヲ購買運搬スル者ハ貼用スヘキ印紙ヲ貼用シ消印シタル後ニアラサレ

ハ搬出スルコトヲ得ス(但シ消印ナキモノハ會社代リテ消印スルモノトス)若シ違フ者ハ罰則ニ依リ處罰ス

第十六條　他省ヨリ搬入シ本省ニ於テ發賣スル卷煙草ハ仕入商人ニ於テ入境經過第一局及出張所ニ種類箱數及運搬先ヲ屆出テ檢査ノ上相違ナキトキハ運搬證ヲ交附シ運搬先局ニ通知スル等ノ手續ハ第十四條ニ依リ處理ス其ノ本省ヲ經由スルモノ又ハ本省ニ於テ製造シタル卷煙草ヲ他省ニ運搬スル者ハ其ノ事實ヲ調査シ運搬證ノミヲ交附ス但シ他省運搬證ヲ發給シタル後若シ本省内ニ於テ販賣スルコトヲ發見シタルトキハ現品ヲ沒收シ運搬證ノ發給ヲ永遠ニ停止ス

第十七條　運搬シ來リ入店シタル卷煙草ハ何時開クヲ論セス必ス各最小容器ニ一々印紙ヲ貼用スヘシ違フ者ハ罰則ニ照シ處分ス

第十八條　運搬證ハ其ノ運搬先ノ里程ニ依リ期限ヲ附シ運搬先ノ局ニ通知シ參考ニ資スヘシ

第十九條　卸賣及小賣商店ヨリ購入吸食スル卷煙草ハ其ノ多寡ヲ論セス印紙ノ貼用シアルヤ否ヤヲ調ヘ購買スヘシ

第二十條　旅客ノ携帶スル卷煙草ハ外省ノ印紙アルモノハ五十本迄免稅シ印紙ナキモノ及五十本以上ノモノハ本省ノ印紙ヲ貼用スルヲ要ス

第二十一條　一度貼用シタル印紙ハ再ヒ貼用スルコトヲ許サス

第二十二條　印紙ヲ僞造改造又ハ之ヲ行使シタルモノハ法廷ニ送致シ有價證券僞造ノ罪ニ依リ處斷ス

第二十三條　稅局員及警察官吏ニシテ脫稅ヲ發見シタルトキハ罰金ノ五割ヲ賞與ス人民ノ告發者ニモ亦一律ニ賞與ス

第二十四條　一切ノ罰則ハ別ニ之ヲ規定シ公佈ス

第二十五條　本規則ハ公布ノ日ヨリ施行シ若シ未タ盡サヽル事項アレハ隨時之ヲ修正スルコトヲ得

吉林省試辦卷煙草吸食者特別稅施行細則

第一章　總　則

第一條　本細則ハ吉林省試辦卷煙草特別稅暫行簡章ニ基キ之ヲ定ム

第二條　特別稅徵收ノ總機關ハ財政廳トシ係ヲ設ケ專ラ本件事務ヲ司リ係長一名科員雇員若干名ヲ置キ特別稅ニ關スル一切ノ事務ヲ擔任ス

第三條　本省各縣ノ徵收ハ各稅捐局兼辦ス各稅捐局ハ事務ノ繁簡ニ依リ事務員ヲ增シ又ハ現在ノ事務員ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得但シ財政廳ニ申請シ認可ヲ受クルコトヲ要ス其ノ繁盛ナル地方ニシテ稅捐局ノ力及ハサルトキハ財政廳ヨリ情況ヲ酌量シ分局又ハ分所ヲ設ケ徵收ス

第二章　印紙ノ製作

第四條　特稅收入印紙ノ印刷ハ財政廳ニ於テ確實ナル印刷屋ト契約シ其印刷ノ監視及銅版ノ封印保存並ニ責任負擔ノ各辦法ハ詳細契約書內ニ列記ス

第五條　印紙ノ背面ニハ糊ヲ附セス隨時糊ヲ以テ貼附スルモノトス

第六條　印紙ハ財政廳票照係ニ保管シ各局ハ係員ヲ派遣シ受領スルモノトス保管係ハ請求書領收證ヲ照會シ發給スルモノトス

第三章　印紙ノ受領及發行

第七條　印紙ヲ受領スルニハ派遣員ノ氏名ヲ明記シ書面ヲ以テ受領シ局外者ニ託シテ受領シ又ハ郵便ニテ送ルコトヲ得

第八條　各局ノ印紙發行ハ各煙草商人ヲシテ小賣地税捐局ニ至リ現金ヲ以テ購入セシメ掛賣内拂ニテ賣ルコトヲ得ス商店ニシテ印紙ヲ賣捌カムトスル者ハ簡章第八第九條ヲ遵照シ處理スヘシ

第九條　印紙ハ卷煙草ノ包紙（筒盒ノ如シ）ノ封口上ニ貼用シ商店ノ印ヲ割印シ墨汁等ヲ以テ汚塗スルコトヲ得ス

第十條　外省ヨリ輸入ノ卷煙草ニシテ既ニ他省ノ特別税印紙ヲ貼用シアルモノモ仍ホ本省規程ヲ査照シ貼用スヘシ

第十一條　本省内ニ於テハ既ニ印紙ヲ貼用シタル卷煙草ハ何レニ運搬スルモ重ネテ徴税セス

第四章　收金及送金

第十二條　税金ハ現大洋計算ニテ徴收ス現大洋ナキ地方ハ財政廳ノ定メタル換算率ニ照シ他種ノ貨幣ヲ大洋ニ換算シテ徴收ス

第十三條　各局ニ於テ徴收シタル税金ハ毎月四柱清冊ヲ作製添付シ書類ヲ以テ財政廳ニ送付スヘシ

第十四條　各局ニテ收入シタル税金ハ其ノ都度當額地ノ銀行又ハ確實ナル店舗ニ預金シ月末ニ全額引出シ送付スルモノトス

第十五條　各局ヨリノ送金報告ハ之ヲ期限内ニ送付スヘシ期限ヲ越ヘ又ハ特別ノ事情ニ依リ認可ヲ受ケスシテ遷延シタルトキハ規程ニ依リ罰俸ニ處ス

第五章　稽　査

第十六條　各局ハ係員ヲ派シ必ス每月一回全管內ノ各煙草商ニ就キ脫貼、貼用不足、無消印、再貼用等ノ不正行爲ノ有無ヲ調査セシムヘシ

第十七條　各煙草商ハ每月購入印紙ノ使用高及未使用高ヲ屆出ツヘシ

第十八條　煙草商卷煙草ヲ運搬シ又ハ到着シタルトキハ卽日局ニ屆出ツヘシ其ノ煙草會社ヨリ卸賣スルモノハ會社ヨリ豫メ其數量ヲ屆出テ當日限リノ途中檢査免除證ヲ受クヘシ右商店ニ到着シタルトキハ直チニ箱ヲ開テ印紙ヲ貼付シ檢査免除證ヲ返納スヘシ其ノ證ハ財政廳ニテ作製發給ス

第十九條　本廳ハ各局ニ於ケル處理ノ狀況及弊害防止ノ目的ヲ以テ隨時係員ヲ派シ調査セシム、此ノ係員調査ノ際ハ各局、警察、保衞團ハ共助ノ責任アリ

第二十條　本廳係員ニ於テ脫稅又ハ稅局員ノ弊害不正行爲ヲ發見シタルトキハ報告スヘシ

第六章　成績ノ考査

第二十一條　特別稅徵收ハ現在試辦中ニ付比較額ヲ定カス三箇月後徵收額ヲ參酌シ夫々比較額及考査辦法ヲ規定ス

第七章　經　費

第二十二條　特別稅徵收ニ必要ナル經費及印刷費ヲ本廳各局ヨリ先ツ立替ヘ支出シ三箇月後廳ニ於テ情況ヲ察酌シ夫々規定ス

第八章　罰　則

第二十三條　特別税罰則ハ別ニ之ヲ定ム

第九章　附則

第二十四條　本細則ニ若シ支障又ハ未タ盡ササル事項アレハ隨時申請シテ之ヲ修定ス

第二十五條　本細則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

吉林省試辦卷煙草吸食者特別税罰則

第一條　煙草商ニシテ印紙未貼附ノ卷煙草ヲ直接吸食者ニ販賣シタルモノハ規定ノ印紙ヲ貼附セシムル外左ノ罰金ニ處ス

一　初犯者ハ五圓以上五十圓以下
二　再犯者ハ十圓以上百圓以下
三　屢犯者ハ二十圓以上二百圓以下

第二條　煙草商ニシテ印紙貼附不足ノ卷煙草ヲ吸食者ニ販賣シタルトキハ規定額ヲ補貼セシムル外左ノ罰金ニ處ス

一　初犯者ハ一圓以上三十圓以下
二　再犯者ハ五圓以上五十圓以下
三　屢犯者ハ十圓以上百圓以下

第三條　煙草商ニシテ印紙未貼附又ハ貼附不足ノ卷煙草ヲ小賣商人ニ發賣シタルモノハ第一條第二條所定ノ罰率ニ依

リ處罰ス

第四條　未貼附又ハ貼附不足ノ卷煙草ヲ購入シタル者ハ規定シ印紙ヲ貼附セシムル外一圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條　外省ヨリ入境スル旅客ニシテ印紙未貼附又ハ貼附不足又ハ外省ノ印紙ヲ貼用シタル卷煙草五十本以上携帶シ之ヲ隱匿シ印紙ヲ貼用セサル者ハ規定ノ印紙ヲ貼附セシムル外一圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條　貼附シアル印紙ヲ剝キ取リ再ヒ貼用シタルトキハ其ノ多寡及商人ト吸飮者トヲ論セス規定ノ印紙ヲ貼附セシムル外一圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　煙草商ニシテ印紙ニ店ノ消印ヲ爲ササル者ハ一圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　煙草商ニシテ到著シタル卷煙草カ運搬證ト符合セス且特別理由ナキトキハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　本省內又ハ本省外ニ運搬スル卷煙草ヲ其ノ指定地ニ運搬セス途中密賣シタル者ハ現品ヲ沒收スル外印紙稅ノ五倍ノ罰金ニ處ス

第十條　煙草商本省ノ卷煙草ヲ運搬スルニ當リ特別ノ理由ナクシテ指定期限內ニ指定地ニ到達セサルトキハ運搬シタル卷煙草ニ貼用スヘキ稅金ノ倍額ノ罰金ニ處ス

第十一條　本罰則ニ支障又ハ不備ノ事項アレハ隨時之ヲ修正スルコトヲ得

第十二條　本罰則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

吉林省菸酒事務局特許製造酒類執照規則

一　每年課額按燒酒簡數計算一簡者年納銀四百兩、二個者六百兩以上每加一個卽遞加銀二百兩
二　每年課銀八四期繳納每三個月爲一期以一月四月七月十月爲納課之期
三　新營業者在開業第一期內應納課銀得按月計算
四　歇業者如未滿一期應納每一期內之全課
五　執照遺失或汚損時補換執照者納手續錢銀一兩
六　營業者廢業時卽將執照繳還
七　營業時無執照著收私燒論處以全年課額三倍之罰金
八　執照不得轉賣讓與或貸用
九　每期額銀由各該管税局就近徵收
十　每期課銀除以現款交納者不計外其以官帖折合按一月四月七月十月通知平均銀價核收

長春頭道溝各燒商業納酒税辦法

一　頭道溝站內各燒鍋各燒鍋准每班納公賣酒税兩宗共吉大洋五元八角、税四元四角、費一元四角、內簡課牲畜兩宗讓免不徵牲畜税將來如得城內各燒鍋包納牲畜税取消另訂納税辦法時應仿照城內一律辦理
二　嗣後頭道溝燒商可隨便在城內設立分銷賣酒
三　嗣役頭道溝燒商之酒可通行吉林省內銷付口免爲留難
四　納税日期由奉應准之之日起後每班納吉大洋五元八角、其以前所燒之酒由陽曆本年一月一日起至完全解決奉准應令

之日止按所有各燒鍋班數核算、共計若干班一年每班納吉小洋四元四角如數繳局發給執照

五　納稅款每月月底由頭道溝商會內附設之酒商研究所代收來局繳納各燒鍋添止班數亦由該所隨時報局議於收款內每元撥給該所二厘津貼以資辦公

東省特別區市政管理局徵收酒捐各種章程

徵收酒捐大綱

第一條　從前東省鐵路地畝處ニ於テ徵收シ來リシ特別區內ノ酒捐及阿什河糖廠之糖捐ハ中華民國十二年（卽一九二三年）七月一日ヨリ東省特別區市政管理局ニ於テ徵收ス

第二條　酒捐徵收ハ哈爾濱市政管理局ニ於テ總轄シ、各市政分局ハ管理局ノ命ヲウケ該管區域內ニ於テハ職務ヲ執行ス

第三條　哈爾濱區域內ノ酒捐及阿什河糖廠之糖捐ハ市政管理局ヨリ稽查員ヲ派遣シテ一切ヲ監查シ道路沿線各處ニアリテハ各分局稽查員一切ヲ監查ス

第四條　各稽查員ニ對シテハ市政管理局ヨリ特別執照ヲ發給シ酒類販賣ノ商號ニツキ查驗セシム。ソノ所存各種酒類ハ檢查ヲ拒ムヲ得ス、モシ職務執行ニ當リ普通警察及鐵路警察ノ協助ヲ必要トスル場合ハ警察ヲ携同辦理スルヲ許ス並管理局員各稽查人ニ對シ鉗子一把ヲ發給シ鉛鐵封印ノ各種油類ノ查驗ニ便ス

第五條　酒捐及糖捐ハ中華民國十一年十二月二十八日第六二一號布告ニ於テ規定スル所ノ捐率未タ變更セサル以前ニハ該項捐率ニ照シ徵收ス

第六條　酒捐ノ徵收及籤封捐條ノ販賣ハ哈爾濱ニ於テハ市政管理局ニ於テ辦理シ外站地方ニテハ各分局ニ於テ辦理ス富拉爾基附近ノ徐聯志酒廠ハ昂々溪分局ニ於テ監査シソノ籤封捐條ハ該分局ヨリ購入スヘキモノトス、阿什河糖廠附設ノ酒廠ノ所要籤封捐條ハ哈埠市政管理局ニ於テ購買スヘキモノトス

第七條　各市政分局ハ均シク市政管理局ヨリ捐票執照及籤封捐條ノ發給ヲウケ毎月末ハ捐款及籤封捐ヲ報冊ト連同管理局ニ送付報告シ繳査ヲウクヘシ

第八條　酒捐及糖捐收入額ノ各公議會分配額ハ收捐經費ヲ除キ殘額ハ民國十年十二月八日第一五五號布告ニ基キ辦理スヘシ即哈爾濱公議會二・九割、滿洲里一・五割、海拉爾八厘、博克圖三・五厘、昂々溪三・五厘、橫道河五厘、綏芬河六厘、ソノ未設公議會各站ノ得ヘキ三割ハ市政管理ニ於テ保留シ當該站ノ公益事業ニ支出ス

酒捐規則

第一條　特別區各酒廠製造ノ純淨酒精及外處ヨリ特別區ニ運入セラレ或哈爾濱ソノ他各站ヲ經過スルノ純淨酒精ハ、滿洲里、海拉爾、綏芬河三處ニ運搬セラレ及水路松花江ヲ黑龍江ニ運搬シ、長春ヨリ南滿路及海參崴ニ運搬セラルルモノカ別條ニヨリ辦理セラルルヲ除キ、毎桶大洋一元ヲ徵收ス

凡ソ本地各燒鍋及本地各酒廠內附設ノ燒鍋製造ノ露國白酒ノ酒精モ亦毎桶大洋一元ヲ徵收ス、ソノ前條各處ヨリ輸出スルモノハコノ限ニアラス

第二條　凡海拉爾、滿洲里、綏芬河及其附近村落、例ヘハ札蘭諾爾老海拉爾、三岔口、小綏芬等ノ處ニ運往セラルル酒精ハ毎桶大洋一元二角五分ヲ徵收セラル、此項酒精ハ他種器具ニ轉裝シテ出賣セラルルモ、再ヒ籤封捐ヲ徵收セ

ラルルコトナシ

第三條　此項純良酒精ニシテ各種器具ニ裝入シソノ數一桶以上ノモノハ、松花江ニ沿ヒ黑龍江ニ運送シ、或ハ長春ヨリ南滿鐵道及浦鹽ニ運送スルモノニ限リ毎桶大洋二角ヲ徵收ス

第四條　俄國白酒ヲ以テ製造ノ酒精ニシテ前條三處ヨリ輸出スルモノハ毎桶大洋二角ヲ徵ス

第五條　各桶廠販賣ノ燃料用及藝術用ノ酒精ヘ毎桶大洋四角ヲ徵收ス或ハ各種容量ノ瓶ニ入レ販賣スルモノモ亦桶ニ按シ計算シ籤封捐ヲ以テ之ニ代フ

前項ノ酒精ハ酒廠カ未タ運出セサル以前ニ稽查員ヨリ二十分之一ノ石油或ハ汽油ヲ混和シテ之ヲ使用ス而シテコレハ再ヒ飲料ニ供スルヲ得ス、稽查員ヨリ報告書ヲ繕具シテ存查ス

第六條　特別區內製造ノ支那燒酒及外處ヨリ運入セルモノ或ハ特別區ヨリ哈爾濱ニ運往スルモノ及各站ニ運入小賣スルトキハ籤封捐ヲ貼用セス毎酒ニ按シ計算シ大洋五角ヲ徵收ス中國老酒紹酒モ亦籤封ヲ貼用スルコトナク啤酒捐則ニ照シ毎桶大洋六角ヲ徵收ス

籤　封　捐

第七條　凡ソ桶捐ニ納付シタル籤封捐酒精ニシテ別ニ各種容量ノ瓶內ニ裝入シテ特別區內ニアツテ販賣スルモノ或ハ本處各酒處ヲ經ヲ他處ニ運往シ白酒トシテ銷售スルモノハ毎酒籤封捐大洋一元ヲ徵收ス

第八條　凡ソ未納桶捐ノ酒精ニシテ零銷器具ニ裝入シ特別區內或沿路各處ニ運往銷售スルモノハ桶捐及籤封捐各大洋一元計大洋二元ヲ徵收ス

第九條　特別區內製造及特別區外ヨリ運入或ハ經過ノ俄國白酒及白酒ヲ用ヒ製造セル各種酒品ハ黑龍江長春浦鹽ヨリ輸出セラレタルモノヲ除キ毎桶籤封捐大洋一元ヲ徵收ス

第十條　俄國白酒及白酒ヲ用ヒ製造セル酒品ニシテ上記各處卽黑龍江長春浦鹽ヨリ輸出サレタルモノハ毎桶籤封捐大洋二角ヲ徵收ス

第十一條　外國製ノ羅木酒(ラム)白蘭地酒(ブランデー)ハ毎瓶籤封捐大洋角ヲ徵收ス

第十二條　特別區內及傅家甸各酒廠富拉爾基附近徐鵬志酒廠上高酒廠製造ノラム、ブランデー實酒ニシテ其瓶上各該號ノ商標アルモノハ毎瓶籤封捐大洋一角ヲ徵收ス

第十三條　外來ノ葡萄酒ハ毎瓶籤封捐大洋一角ヲ徵收ス

第十四條　本地製造ノ葡萄酒ニシテソノ器具上ニ本地葡萄ヲ以テ本地某酒廠ニ於テ製造等ノ字樣アルモノハ毎桶籤封捐大洋四角ヲ徵收ス

第十五條　外國香檳酒ハ毎瓶籤封捐大洋五角ヲ徵收ス

第十六條　ウイスキーハ毎瓶籤封捐大洋三角ヲ徵收ス

第十七條　各酒ビール、日本元酒ハ毎桶籤封捐大洋六角ヲ徵收ス

阿什河糖捐

第十八條　塊糖ハ毎プード大洋二角ヲ徵收ス

第十九條　沙糖ハ毎プード大洋一角五分ヲ徵收ス

第二十條　阿什河糖廠ニ於テ糖滓ヲ以テ製造シタル酒精ハ毎桶大洋七角五分ヲ徴收ス

酒捐徴收施行細則

第一條　凡ソ酒廠ニ於テ製造スル酒精ハ全部該廠酒窖内ニ存儲シモシ酒窖内ヨリ運出販賣スル時或ハ該廠ニ於テソレヨリ白酒ヲ製造スルトキハ均ク桶捐ヲ納入スヘシ、モシ桶捐ヲ收入サレハ酒窖ヨリ出スヲ得ス。燒鍋ニテ製造スル中國燒酒モ亦本條辦法ニ照シ辦理ス

第二條　凡ソ酒廠酒莊ニ於テ製造スル所ノ白酒及白酒類似ノ各種酒品、燒酒ニシテ各項小器具内（ソノ容量一立ニ及ハサルモノ）ニ裝入スルモノハ均ク簽封捐ヲ購入貼付シ始メテ運出販賣ヲ許ス

第三條　凡ソ麥酒工場製造ノ酒類ハスヘテ該工場酒窖内ニ存入スヘシ、モシ釀酒桶ヨリ別ニ小桶或ハ瓶ニ裝入スルトキニハ各別ニ簽封捐ヲ購入貼付シ始メテ出廠ヲ許ス

第四條　凡ソ酒廠、燒鍋、麥酒工場、酒莊等所有ノ一切酒品ノ出入ハ帳簿ヲ制定シテ、スヘテ製造ノ酒品ハ收入簿中ニ詳細ニ記入シ運出ノ酒品ハ運出ノ日期地點某處數目、酒品ノ種目等均シク出貨簿中ニ載明スヘシ。ソノ酒精製造ノ酒廠及酒莊ハ上項ノ帳簿以外ニ別ニ運酒單ヲ作成スヘシ

第五條　凡ソ酒廠、燒鍋、麥酒工場及各酒莊等ハ營業開始ノ始或ハ年首ニ於テ既ニ制定ノ帳簿一切ヲ市政管理局或ハ最寄リノ市政分局ニ呈送シ明檢印ヲウクヘシ而シテ前條ノ辦法ニヨリ記載シ年末ニハ一切ノ帳簿ヲ市政管理局ニ送呈考核ヲウクヘシ、稽査員、帳簿ヲ査核スル時モ亦隨時呈驗ヲ經ヘシ

第六條　各酒廠酒莊一切ノ帳簿酒品ハ稽査員ノ檢査員ノ檢査捺印ヲ經或訂記ノ個處ハ均シク保存シ損壞スルヲ得ス

第七條　阿石河糖廠ノ糖捐ハ該廠買糖ノ帳簿ニヨリ計算シ、應ニ納付スヘキ捐數ハ毎月末ニ至リ市政管理局ニ納付スヘシ、ソノ帳簿ハ稽査員該廠ニ至リ核對ス

第八條　凡ソ鐵道ニヨリ運送シ來リ及特別區外ヨリ運送シ來リシ酒精、燒酒、白酒及白酒ヲ以テ製造スル各種ノ酒品及ラム酒、ブランデー、釜酒、香檳酒、葡萄酒、麥酒、日本元酒ハ毎回運來ノ時ニ到著品ノ種類數目ヲ市政管理局徵收處或該管市政分局ニ報告シ稽査員ノ派遣檢査ヲ乞ヒ納付スヘキ桶捐籤封捐ヲ計算スヘシ
酒精或燒酒ノ如キハ市政管理局或市政分局ニ於テ桶捐ヲ納付捐票ノ發給ヲウケ、白酒及白酒ヨリ製造セル各種酒品及ソノ他各種酒品ハ貼用スヘキ數目ニ照シ籤封捐ヲ購買スヘシ、桶捐ヲ交納シ捐票或ハ籤封條ノ呈驗ヲ俟ツテ後、本埠ノモノハ市政管理局ヨリ沿線ノモノハ市政分局ヨリ執照ヲ發給シ方メテ特別區內ヘノ運入ヲ准ス。コレ等酒品指明地點ニ運送シタルトキニ應ニ籤封ヲ貼妥シタルモノタルヘシ、籤封ナキモノハ販賣スルヲ得ス。稽査員査驗時モ亦隨時呈驗スヘシ

第九條　凡ソ特別區界外ノ各酒廠ニシテ酒精或ハ燒鍋ヲ特別區內ニ運入シ或ハ特別區內ヲ經過セシメントスルトキハ毎回運入或ハ經過セシメントスル桶精燒鍋ノ數目種類ヲ市政管理局徵收處或ハ該管市政分局ニ詳細報告シ稽査員ノ派遣檢査ヲ乞ヒ納付スヘキ桶捐數目ヲ計算スヘシ、而シテコレ等數目ヲ市政管理局或ハ最寄リ市政分局ニ納付捐票ノ發給ヲウケタル後ハ稽査員ヨリ運送スル酒ニ加蓋鉛彈封シ然ル後執照ヲ交付シ始メテ運輸ヲ許ス

第十條　特別區內ニ酒精燒酒ヲ入レタル一立以上ノ器具ヲ運輸セントスルモノハ、何處ニ運輸スルモノタルヲ問ハス執照ヲ所持スルモノニ限リ始メテ運入ヲ許ス

第十一條　凡ソ小桶ニ裝入シタル酒精或ハ瓶詰ノ白酒、ラム、ブランデー、蜜酒、葡萄酒、ウイスキー、日本元酒、ビール及各種瓶詰酒品ヲ運輸スルトキハ籤封條ノナキモノハ運輸スルヲ得ス

第十二條　酒精及燒酒、特別區內ニ運輸スルモノニシテ、ソノ容量一立以上ノ時、モシ運輸執照所持セサレハ稽査員或警察ニヨリ拘留ス、ソノ他各種酒品モ小瓶等ニ裝入シ未タ籤封ヲ購入貼附セサルモノモ亦此ニ照シ辦理ス拘留ノ酒品ハ市政管理局或最寄市政分局ニ收存ス、拘留ノ酒品ニシテ既ニ處罰決定シタルニ拘ハラス所有者罰金ノ納入ヲナササル時ハソノ酒品ヲ競賣シテ罰款ニ充當ス

第十三條　綏芬河滿洲里、海拉爾ニ於テ販賣スル酒精ニシテ既ニ桶捐大洋一元二角五分ヲ納入シ再ヒ小桶或ハ瓶ニ裝入シタルモノハ籤封ヲ貼用スルコトナク該號ノ商標ヲ貼付スレハ始メテ出售ヲ許ス

第十四條　各酒廠酒莊ニハ酒精俄國白酒及各種酒類並中國燒酒ノ批發ヲ許ス、只酒精、白酒、燒酒ノ批發ハ少クモ一桶以上ナルヲ要シ、買主ニ對シテハ運酒證明書ヲ發給シ、年月日、賣渡先、酒精或燒酒若干桶、並桶捐捐票及旅行執照ノ番號ヲ塡寫スヘシ、又ソノ出入帳簿上ニハ每次、某日、某處某商ニ酒精或ハ燒酒ニ若干賣却、酒捐ハ納付セルヤ否ヤ等ヲ逐一登記スヘシ

第十五條　各種酒類ヲ瓶內或ハ小器具內ニ裝入シ批發スルトキハ、本廠ノ登錄商標、商號及開設ノ地點ヲ貼附シ並火漆戳記ヲ以テ蓋ス、ソノ籤封捐條ハ火漆戳記ノ上部ニ漆貼シ再ヒ他項圖記ヲ加蓋スルヲ許サス以テ稽査員ノ查驗ニ便ス

第十六條　小飯館、車站酒館、啤酒館ニハ均シク酒品ノ小賣ヲ許ス

第十七條　雜貨酒舖ノ酒品ハソノ買ヒ去ルヲ許スモソノ店內ニアツテ開飲スルヲ許サス。アラユル店舖內ニ堆存及販賣ノ酒ハ酒廠酒莊カ原發時ニオケル器具內ニアルヲ要シ須ク該廠莊ノ商標ノアルモノタルヘシ、他ノ器具內ニ移スコトハ嚴禁ス、各舖內ニ存貯スル各種酒品ハ均シク籤封捐條ヲ以テ封シモシ籤封捐條カ裂ケ戮記ノ損傷セルモノハ尙未タ籤封捐ヲ完納セザルノ酒ト見做シ更ニ籤封捐條ヲ購入貼付セルヲ要ス

第十八條　小飯館ハソノ內部ニ於テ飲酒シ又販賣帶出スルヲ許ス。店內ニ存貯開瓶ノ白酒ハ每一酒廠ノ出產品每ニ一瓶ヲ超過スベカラス、小賣商ニ準備スル酒ハ四分之一桶ヲ超過スヘカラスソノ他所存ノ白酒及各種ノ酒類ハ當ニ籤封條ヲ以テ封固シ出賣ノ時剝キトルヘカラス

第十九條　普通警察及鐵路警察ハ各稽査員ヲ補助シテ各商號カ酒類賣買ニ當リ籤封捐ヲ免レ或偷漏セントスルヲ監察スヘシ

第二十條　普通警察及鐵路警察ハ東省特別區內ニ於テ隨地區內ヲ經過スル容器ニ裝運セル一桶以上ノ酒精、白酒及中國燒酒ニツイテソノ捐票及市政管理局或市政分局發行ノ執照ヲ有スルヤ否ヤ、又小器皿內ノ酒ニ對シテハ籤封條及執照ノ有無ヲ監査シモシ違フモノアラスソノ酒類ヲ拘留スヘシ

第二十一條　凡ソ東省鐵路各站ニ汽車ヲ以テ運入サレタル一桶以上ノ容器ニ裝入サレタル桶類ニシテ若シ捐票ナリ又執照ノ發行サレ居ラサルモノ並小器中ニ裝入サレタル酒ニシテ未タ籤封條ナリ又執照ノナキモノハ警察ニオイテ之ヲ抑留ス。ソノ陸路又ハ松花江ヨリ外部ヨリ運來セル酒ニシテ以上ノ規定ヲ犯スモノアルトキハ亦章ニ照シ抑留スモシ警察ニオイテ酒類ヲ抑留シタルトキハ直チニ稽査員ニ通知シ、拘留ノ酒類ハ之ヲ市政管理局或ハ最寄ノ市政分

局ニ移リ保存スヘシ

第二十二條　各驛々長ハ裝運ノ酒類ニツキ、一桶以上ノ酒精、白酒、燒酒ハ捐票執照ノ有無ヲ檢査シ、小器具ニ裝入セラレタ酒ハ籤封條及執照ノ有無ヲ査照シモシ符合セルトキハ始メテ運送ヲ許スヘシ、モシ以上ノ規定ニ違ヘルモノアルトキハ運送セシムルヲ得ス、即チ直チニ最寄稽査員或市政管理局又ハ市政分局ニ通知シ之ヲ處罰スヘシ

第二十三條　露支人民及中國ニ於テ未ダ承認セサル國家ノ人民ニシテ以上ノ各條ニ違反セルモノハ章ニ照シ應ニ納ムヘキノ酒捐ヲ徵收スル外情狀ニヨリ之ヲ處罰ス、即チ初犯ノ者ニハ五元乃至二十五元再犯者ニハ二十五元以上一百元三犯者ニハ一百元以上五百元ノ夫々罰金ニ處ス、モシ四犯ヲ重ヌルモノハ重キニ從ヒ之ヲ罰シ並ソノ商店ヲ閉鎖スソノ他ノ外國人民ニシテモシ章程ニ違反スル等ノ事アレハ該國領事ニ照會シ夫々章ニ照シ處罰スルコトヲ請求ス

酒捐徵收辦事細則

第一條　市政管理局ニ徵收處ヲ附設シ專ラ本埠酒捐及阿什河糖廠糖捐ノ徵收ヲ司ル

第二條　徵收處ニハ左ノ如ク人員ヲ設ク

事務員長	一名
事務員	三名
總稽査	一名
支那稽査	三名
露稽査	二名

第三條　徵收處人員ノ職掌左ノ如シ

甲　事務員長ハ局長ノ命ヲウケ所屬各員ヲ指揮シ該處徵收事務ヲ辦理ス

乙　事務員ハ該處ノ文牘ヲ分掌シ捐款ノ徵收籤封ノ出售ヲ司ル

丙　總稽査ハ本埠各造酒二廠ヲ監査シ並華俄稽査ノ職務執行ヲ指揮監視ス

丁　華俄稽査ハ各々車站ノ本埠傅家甸四郊ノ酒捐及阿什河糖廠ノ糖捐ヲ監視ス

第四條　徵收處ハ翻譯員一名ヲ設ケ專ラ通譯事務ヲ司ラシメ、雇員二名、タイピスト一名ヲ置キ專ラ繕寫事務ヲ司ラシムルヲ得

第五條　各站酒捐ノ徵收、籤封ノ出售ハ市政分局ヨリ管理局ノ命ヲ受ケ之ヲ辦理ス

第六條　各分局酒捐ノ徵收ハ毎局ニ徵收費大濟四十元ヲ給シ各分局自ラソノ支配ヲ行フヲ得、ソノ事務比較的繁忙ナル所ニハ左ノ如ク稽査ヲ設置スルヲ得

滿洲里	稽　査	一　名
海拉爾	同	同
博克圖	同	同
昂々溪	同	同（徐鵬志酒廠ヲ監査ス）
安　達	同	同
一面坡	同	同

横　道　河　同　同

綏　遠　河　同　同

第七條　徵收處事務員長、事務員、總稽査、華俄稽査、翻譯員ハ管理局ヨリ人員ヲ遴選シ之ヲ委任ス、各分局稽査員ハ各分局長ヨリ遴選シ管理局ニ呈請シ之ヲ委任シ均シク行政長官公署ニ呈請備案ス

第八條　總分局ニシテソノ管轄區域廣大ニシテ巡査ノ必要アルモノハ巡丁ヲ設ケ專ラ所轄區域ヲ巡行シ偷漏ノ稽査ヲ司ラシム

前項ノ巡丁職務執行ニハ須ク本局ノ制服ヲ着用シ並ニ總稽査稽査ヨリソノ行動ヲ監視ス

第九條　徵收處酒捐ヲ徵收シタルトキハ逐日清算票ニ記シ賬簿捐款連同シテ捐務股ニ送リ、捐務股ニテハ査收記帳ノ上捐款ヲ會計股ニ送リ、會計股ニテハ査收ノ上銀行ニ送存シ總帳簿ニ登記ス

第十條　徵收處ニテハ毎月末ニ徵收金額ヲ清算シ、同記帳ニ記載シ檢査票ト共ニ局長ニ呈シ査核ヲ經タル後捐務股ヨリ會計處ニ送ル

第十一條　各分局徵收ノ酒捐ハ毎月末ニ至リ清算表ヲ作リ捐款及繳査ト共ニ管理局ニ呈報シ捐務股ニテハ核算記帳ノ上捐款票ヲ會計捐ニ交付シ銀行ニ送存シ總帳簿ニ記帳ス

第十二條　酒捐需要ノ捐票執照籤封條ニ關シテハ均シク管理局ニ於テ製造ス徵收局及各分局ハ随時之ヲ受領スヘシ

捐票中ノ繳査一聯ハ毎月呈繳ノ外共執照存根ハ使用後須ク呈繳考核スヘシ

第十三條　稽査員巡丁、酒捐ノ偷漏ヲ査獲シタルトキハ報告書ヲ繕具シ本埠ノモノハ市政管理局ニ送呈シテ罰辦シ各

站ニアルモノハ各分局長ニ送リ罰辦ス

前項各分局長罰辦ノ事件ハ須管理局ニ呈報シ備案スヘシ

第十四條　徵收處ノ酒捐ニ關スル一切ノ文書ハ均シク市政管理局ヨリ行ヒ該處ハ外部ニ對シ文書ヲ發行スルヲ得ス

第十五條　會計股ハ酒捐收入ニ關シテハ收入支出ノ兩簿ヲ備ヘ毎月末ニソノ收入中徵收經費ヲ支出シタル外、ソノ他ハ百分ニ按シ七割ヲ已設ノ各公議會ニ分チ各站應ニ分クヘキ三割ハ銀行ニ預金シテ公益ヲ辦理スル用トナス

第十六條　徵收費用ハ預算表ノ規定ニヨリ之ヲ支出ス

第十七條　本規則未タ盡ササルノ事アラハ隨時修改呈准ノ上施行ス

酒捐規則（民國十三年十二月二十五日）

第一條　特別區內各酒廠酒莊所造之酒品及由外處運入特區及經過特區之酒品如酒精燒酒紹興酒老酒白酒及炮製之酒品如菓木酒玫瑰露甘露香蘋菓露五加皮羅木酒白蘭地蜜酒、維斯克酒莫國燒酒葡萄酒葡萄汁香檳酒啤酒、日本原酒等一切酒品均照本規則各條一律繳納酒捐

第二條　特區各酒廠以各種糧食或以馬苓薯及糖稀製造ノ純淨酒精凡運往滿洲里綏芬河海拉爾及其他附近村落如札蘭諾爾三岔口、老海拉爾、小綏芬或由滿洲里海拉爾運往俄國境內及蒙古地方毎桶酒精徵收大洋二角五分即或裝入瓶內出售亦毋庸黏貼籤封

第三條　各種純淨酒精運往特區內各處者毎桶徵收大洋一元

第四條　凡在本地各白酒廠及本地各酒廠內附設製造俄國白酒所用之酒精毎酒亦徵收大洋一元

第五條　本地各酒廠製造各種純淨酒精用各種器具裝運量數在一桶以上者由航路運往松花江黑龍江或由長春運往南滿路及運往海參崴各處出口者每酒徵收大洋二角

第六條　本地各酒廠製造俄國白酒之各種酒精由前條之三處出口者每桶徵收大洋二角

第七條　本地各酒廠所製之酒精各季用大車運往松花江黑龍江銷售者每桶徵收大洋三角

第八條　各酒廠所賣用作燃料及藝術上所用之酒精每桶徵收大洋四角即或裝在各種容量之瓶內出售者亦仍按桶計算以籤封捐代之前項酒精須於酒廠未運出以前由稽本員將此項酒精攙合二十分之一煤油或汽油使之不能充作飲料並攙入紫色

第九條　凡各種純淨酒精由外處經松花江長春綏芬河滿洲里運入特區逕行運往滿洲里綏芬河海拉爾者照第二條每桶徵收大洋一元二角五分其運往特區內別站者照第三條每桶徵收大洋一元

第十條　各種純淨酒精由外處經過特區內各處者雖指明運往松花江黑龍江或由長春運往南滿洲路及運往海參崴各處出口者但係進口不能照出口論仍每桶徵收大洋一元

第十一條　由外處運入特區內用作燃料及藝術上所用之酒精已照章攙合煤油顏料與本地各廠酒所攙一律不能再作飲料者每桶徵收大洋四角如未攙合煤油顏料仍照第二第三條辦理

第十二條　糧食製造之燒酒及以酒精所對之燒酒均勿庸黏貼簽封每桶計算徵收大洋四角

第十三條　本地酒廠製造之燒酒及以酒精所對之燒酒由航路沿松花江運往黑龍江由長春運往南滿路每桶徵收大洋一角

（附解）　酒精所對之燒酒其成分不得過六十四度中國燒酒專以紅酒製造燒酒其成分不得過七十二度　前項之燒酒其成分逾越此項規定之數者一律均照酒精徵收桶捐

第十四條　紹興酒毋庸貼用籤封按照酒嗶捐則每桶徵收大洋六角

第十五條　中國老酒每桶徵收大洋二角

第十六條　凡已納一元桶捐之酒精裝入各種容量器具內在特區內出售或經本地各酒廠運往他處當作白酒銷售者　每桶補徵籤封捐大洋一元

第十七條　凡未納酒捐之酒精視置各種容量器具內在特區內或運往各處桶徵售者徵收徵收及籤封捐計　每桶大洋各一元共計二元

第十八條　俄國白酒及用白酒製造各種酒品每桶徵收籤封捐大洋一元

第十九條　本地白酒及用白酒製造之各種酒品由下列由航路運往松花江黑龍江或由長春運往南滿路及由海參崴出口者每桶徵收桶捐大洋六角

第二十條　中國燒酒炮製之酒如菓木酒玫桶露甘露香蘋菓露五加皮每桶徵收籤封捐大洋二角

第二十一條　羅木酒白蘭地每瓶徵收籤封捐二角

第二十二條　蜜酒每瓶徵收籤封捐大洋二角

第二十三條　維斯克酒及英國燒酒每瓶徵收籤封捐二角

第二十四條　葡萄酒每瓶徵收籤封捐大洋八分

第二十五條　用特區內所產之山葡萄汁製造之桶其器員上標明本地某桶廠用葡萄汁製造等字樣每瓶徵收　籤封捐大洋四分

第二十六條　香檳酒每瓶徵收籤封捐大洋二角

第二十七條　啤酒日本原酒每桶徵收籤封捐大洋六角

第二十八條　本地各酒廠及富拉爾基徐鵬志酒廠所出之酒油運往他處銷售者免繳桶捐外來之酒油運入特區內或經過特區每桶徵收桶捐大洋二角

第二十九條　阿什河糖廠捐按年徵收大洋五千元

菸酒票照暫行規則（民國十三年七月二十五日）

第一條　凡塡用菸酒票照須依本規則辦理之

第二條　菸酒票照爲徵收行運兩種臚列於次

甲　關於徵收者分列七項

一　納稅執照爲徵收菸酒稅之證據

二　納費執照爲徵收菸酒公賣費之證據

三　內地捐執照爲徵收紙煙內地捐之證據

四　出廠捐執照爲就廠徵收每日製成之紙菸、菸絲各出產捐之證據

五　納稅執照爲每年一四七十等月徵收春夏秋冬各季筒課之證據

六　菸酒牌照爲每年一七兩月徵收菸酒各商上下兩期營業牌照稅之證據

七　罰金聯單爲隨時科罰隱匿偷漏之收據

乙　關於行票者分左列四項

一　行票爲在本省境內運銷已納稅費之憑證

二　驗單爲運銷菸酒於省境以外已納公賣費之憑證

三　憑單即印花之意粘貼紙烟菸紙各箱而爲已納內地捐之憑證

四　免捐運單爲由甲地約開商埠運銷紙菸菸絲於乙地約開商埠之免捐憑證

第三條　徵收票照係商民輸納各款之證據領受者須妥加保存專備查驗行運票照或係已納稅費憑證或係免捐憑證專爲商家便利行運而設亦即商家行運時必不可少之票據

第四條　徵收票照中之稅費執照除運入省城銷售之黃菸依照特別規定須到省城始由第一分局補收公賣費塡發納費執照外餘均相輔而行同時竝發不得參差遺漏

第五條　內地捐執照係由總關商埠運銷紙煙菸絲於內地或自開商埠省應由起運地點之稅局徵收內地捐塡發備查其內地稅局必遇有未稅或貨票不符之紙煙菸絲方得補徵塡發

第六條　出廠捐執照係逐日就廠塡發每張所列各種紙煙菸絲數目須於每日製成出廠數目兩相符合

第七條　簡課執照除新設之酒商菸廠准有開業月分隨時塡發外其餘均須按照定期繳納課款發給執照

第八條　菸酒牌照除新設營業准于開業月分塡發外其餘均須按照安期發放完竣

第九條　罰金聯單分菸酒牌照等稅罰金聯單與公賣費罰金聯單兩項某項罰款塡用某項聯單不得錯誤關於紙煙捐罰款在未定聯單以前准以菸酒牌照等稅罰金聯單塡用之

第十條　行票係依據稅費兩項執照塡發驗單係依據納費執照塡發惟行銷省境以內之菸酒只須塡發行票若所指銷地點在省境

以外尙應將驗單行票同時併發以備省內外分別查驗收銷

第十一條　憑單係依據內地捐執照塡發額同時派員檢查紙煙菸絲確與憑單相符然後監視粘貼箱面以便運行

第十二條　兎捐運單係自甲地約開商埠運銷紙煙菸絲於乙地約開商埠時由甲地稅局發給惟至乙地約開商埠再轉銷內地或自開商埠時該地稅局須依第五及第十一兩條辦理之

第十三條　塡發行票驗單須同時於稅費各執照內註明某年月日運銷某處若干以遞次註滿原額爲止俾使分運若係一次運罄亦須於各執照內註明以上杜輪用

第十四條　塡發憑單亦依前條之規定將某年月日運銷某處之箱數量數註於內地捐執照內

第十五條　依第三條之規定行運票照專爲商家行運憑證若係農戶運銷黃菸不必另起行銷票照即以所持之稅費證據爲憑惟商家不得援以爲例

第十六條　農戶銷售黃菸時須將所持稅費執照交由承買商號或商人收執以便領持行運票照有所依據

第十七條　商人運銷菸菸酒遇有貨票不符時如在中途查明確係原貨除徵罰外應照偷漏斤量補發各種執照並依第十三條之規定同時發行銷票照以便運同原有票照一併持運

第十八條　前條貨票不符之菸酒如經查明確非原貨除徵罰外即將原持票照收銷另依徵收行運各手續塡發各項票照

第十九條　農戶運菸如有前二條之情事亦須查明是否原貨分別辦理但不必發給行原

第二十條　農戶運菸所持之原徵補徵各執照至銷售時均須依第十六條之規定一併交由承買商人收執以便持領行運票照

第二十一條　菸酒運至指銷地點如果貨票不符除懲罰並發給徵收執照外不另發給行銷票照

第二十二條　徵收票照中有附證一聯者原發局卡須連同執照一聯一併塡發商民收執不得裁斷

第二十三條　商民收執運同執照之附證亦不得自行裁斷商號附證專備省域稽查員查面掣繳農戶附證專備沿途第一局卡查驗掣繳以便與各執照之繳查兩相對證

第二十四條　行運票照中有通知一聯者原發局卡須將此聯裁下寄交落運局卡執持堵驗

第二十五條　落運局卡接到通知一聯須俟貨到查驗相符即將行票收銷一併呈繳以便與原發局卡所送之繳查兩相對證

第二十六條　本規則有未盡事宜除必須修正外均與各項票照之塡用須知互相參照

第二十七條　本規則自塡用新式票照之日施行

監徵黃菸稅費暫行簡章（民國十三年十二月九日）

第一條　本局爲整頓黃菸稅費防遏弊竇起見於徵收旺月在生產黃菸縣分派員監重以重權政

第二條　凡各稅局關於黃菸徵收事宜依本簡章之規定須受監徵員之監察

第三條　監徵員監徵區域於派委時指定之

第四條　監徵員以實行監察爲職責但對於黃菸徵收事項如有認爲應行改革時得與各局長妥切磋商縷晰條陳以備採擇

第五條　監徵員查出稅局員巡弊混有事實可證者即須一面送縣看押一面報請本局核令辦理

第六條　監徵員查出商民有隱匿偷漏貨票不符及繞越各情事除一面交由稅局罰辦一面報請核示外仍須查究該管員巡如係勾通舞弊幷依前條辦理

第七條　監徵員對於前條貨票不符一節除分別辦理外幷須將原發票照及經過查驗各局卡分晰查明一併具報不得徇隱

第八條　監徵員對於指定監徵區域必須巡行考査週而復始不得逗留一處但於巡行線內應不時折回或馳往某處猝然監察以免乘隙舞弊

第九條　凡監徵員査報案件於科罰後均援照財政廳調査員提獎成案辦理之

第十條　如員巡舞弊商民逾漏未據監徵員査報別經發覺者以該員不能盡職論

第十一條　別經發覺之案如起案之際正監徵員査至其處匿不檢舉者卽以扶同徇隱論

第十二條　監徵員關於考査事項除專報外應將每日經過事件記成日記每屆十日呈送査核

第十三條　監徵員之旅費自出發之日起至回省之日止照本局之稽査員旅費定額支給之不得受人供應

第十四條　本簡章未盡事宜應由監徵員參照徵收成案或章程辦理之

第八章　印　花　稅

甲　印　花　稅　法

第　一　類

貨　物　送　リ　狀

貨物ノ寄託契約證書

各種物件ノ賃貸借證書　（期間ノ長短ヲ論ズルナク均シク貼用スヘシ）

貨　物　抵　當　證　書

田　畝　小　作　證

質　　　　札

人員ノ招聘或ハ雇傭契約證書

以上七種ニハ各々印花一分ヲ貼用スヘシ

商戶ヨリ出ス各種貨物憑單　（例ヘハ某貨若干引取證ノ如シ）

各種舖底（店ノ株）ノ賃貸借及使用貸借ノ證憑

貨　物　賣　買　豫　約　書

土地家屋賃貸借證書

各種請負證書（例ヘハ貨物ノ運送請負書ノ如シ）

銀錢受領證（銀錢兌換記入帳、年末及節句ニ於ケル貸借ノ書付等均シク之ニ屬ス）

以上六種ハ價格銀一元以上十元未滿ノモノ印花一分ヲ貼リ十元以上ノモノハ印花二分ヲ貼用スヘシ

銀錢及貨物ノ授受證憑

各種帳簿

以上二種ニ對シテハ毎個又ハ毎冊印花一角ヲ貼用スヘシ

第二類

船荷證券

各種請負請書（例ヘハ工事請負證書）

保險證券（例ヘハ海上、火災、生命保險證券ノ如シ）

各種各證書（例ヘハ工事見積書ノ如キモノニシテ、銀數ヲ載セサルモノニ對シテハ印花二角ヲ貼リ銀數アルモノハ累進法ニヨリ貼用スヘシ）

預リ金證

株券（官商何レノ會社ノ發行タルヲ問ハス營業ノ性質ヲ含有スルモノハ等シク印花ヲ貼用スヘシ、例ヘハ電氣、鐵道、汽船、水道業等ノ如シ）

爲替手形

約束手形（莊票、小切手等均シク之ニ屬ス）
遺產相續及家督相續證明書竝ニ破產證書
借款證書
商戶或ハ公司ノ議訂スル合資營業ノ契約書
以上十一種ハ劵面銀額

一元以上十元未滿	印花一分
十元以上百元未滿	同二分
百元以上五百元未滿	同四分
五百元以上一千元未滿	同一角
一千元以上五千元未滿	同二角
五千元以上一萬元未滿	同五角
一萬元以上五萬元未滿	同一元
五萬元以上	同一元五角

乙　人事ニ關スル證憑貼用ノ印花條例

滿洲旅行免狀　印花二元

（修學者ニ對スル旅行免狀ニハ印花一元ヲ貼用スヘシ）

國內遊歷免狀	印花一元
免稅證	同　一元五角
高等官吏試驗合格證書	同　二元
普通文官試驗合格證書	同　一元
專門學校以上各學校卒業證書	同　五角
中等學校卒業證書	同　三角
專門學校以上各學校入學願書及轉學證書、修業證書	同　一角
中學校入學願書及轉學願書、修業證書	同　四角
婚書	同　四角

丙　財政部關係ノ授受文書貼用ノ印花條例

電氣、鐵道、汽船事業免許狀	印花二元
新聞、發電免許狀	同　一元五角
醫師試驗合格證書	同　一元
高等小學校卒業證書	同　二角
國民學校卒業證書	同　四分
民留工人旅行免狀	同　五角

留學證書	印花	二角
小學教員檢定證書	同	二角
受驗教員成績證明書	同	三分
官署ヘノ提出文書及申請書	同	一角
國籍取得許可免狀	同	二元
國籍取得志願書及保證書	同	二角
海外募工請負人特許免狀	同	四元
通譯人證書	同	五角
裁判所關係保證書及推薦保證書	同	一角

其他保證書及引受書類ニシテ未ダ銀數ヲ載セザルモノニ對シテハ印花二角ヲ貼リ錢數アルモノハ累進率ニヨリ印花ヲ貼用スベシ

丁　吉林全省印花稅處關係ノ授受文書貼用ノ印花條例

自動車票	印花	二分
乘船券	同	同
貨物檢査請求書	同	同
圖書報稅單（捺印報告書ニシテ轉運行票下附請求ノ際提出スルモノナリ）	同	同

轉運貨物檢査請求書　同　同
決算報告書　同　同
鹽販賣券　同　同
劇場入場券　同　一分
納稅證　同　二分
轉運行票（轉運貨物納稅濟證明書）
第二類　累進稅率ニ照シ印花ヲ貼用スベシ
銃砲使用許可狀
甲　新式銃　奉銃及類似ノモノニ對スル免許狀ハ一枚毎ニ印花二角ヲ貼用スベシ
乙　大砲、擔キ砲、火繩銃及類似ノモノニ對スル免許狀ハ一枚毎ニ印花一角ヲ貼用スベシ
商店營業許可免狀及硝磺憑照（硝石硫黃賣買證）　印花一元
機械工場繼續許可免狀　同　一元
先物取引契約書
一千元ノ約定書ニ對シテ印花二分ヲ貼リ三千元ヲ加フル毎ニ印花一分ヲ貼リ五萬元ニ至リテ印花二元ヲ貼用シ以上ハ之ニ止ム
地稍納稅證

熟地二晌（一晌ハ支那ノ十畝ニシテ我二千三百三十坪餘ニ當ル）以下ハ印花一分ヲ貼リ二晌ヲ加フル每ニ印花一分ヲ增貼シ貼用額一元五角ニ至リテ止ム

荒地四晌以下ハ印花一分ヲ貼リ四晌ヲ加フル每ニ印花一分ヲ增貼額一元五角ニ至リテ止ム

山林草原草ノ地ニ對シテハ荒地々租納稅證ノ貼用條例ニ按シテ印花ヲ貼用スヘシ

街基（都市宅地）納稅證ニ對シテハ五十方丈（一方丈ハ百平方尺）以下印花一分ヲ貼リ五十方丈以上ハ十萬丈ヲ加フル每ニ印花一分ヲ增貼シ一千五百四十方丈ニ至リテ印花一元五角ヲ貼リ以上ハ之ニ止ム

成　罰　則

一　第一類契約簿據ニ印花ヲ貼用セサルカ、或ハ貼用スルモ署名捺印ヲナササルモノハ二十元以下十元以上ノ罰金ヲ徵シ定額ヲ貼用セサルモノハ十元以下五元ノ罰金ニ處ス

二　第二類契約簿據ニ印花ヲ貼用セサルカ、或ハ貼用スルモ署名捺印ヲナササルモノハ二百元以下二十元以上ノ罰金ヲ徵シ定額ヲ貼用セサルモノハ一百元以下十元以上ノ罰金ニ處ス

三　旅行免狀、免稅證、證書、願書ニシテ若シ稅ヲ納メシメテ、印花ノ貼用ヲ請ハサルトキハ、二百元　以下二十元以上ノ罰金ニ處ス。官署學校發行或ハ收受ノ證書ニシテモシ稅ヲ徵收シ印花ヲ貼用スルコトヲナササル場合ハ、該長官或ハ校長ハ職務違反ヲ以テ論シ、私立學校ノ場合ニ該校長ヲ二百元以下二十元以上ノ罰金ニ處ス

四　婚書ニ印花ヲ貼ラサルモノハ二百元以下二十元以上ノ罰金ニ處ス。定額ヲ貼セサルモノハ一百元以下十元以上ノ罰金ニ處ス

五　提出文書、請願書ニシテ若シ印花ヲ貼ラサルカ或ハ定額ヲ貼用セサルモノハ官署ハ之ヲ一切受理セスモシ係員失念セル時ハ職務違背ヲ以テ論ス

六　既ニ貼用セシ印花ノ剝取使用ヲ准サス違反者ハ一百元以下二十元以上ノ罰金ニ處ス

七　各種契約簿據ニシテ價格一元ニ滿タサルモノハ印花ノ貼用ヲ免ス、價格一元ヲ越ユルモノハ如何ナル財物ニ係ルモノタルニ論ナク均シク證書ト認メ一律ニ印花ヲ貼用スヘシ違反者ハ章ニ照シテ處罰ス

八　僞造印章ヲ以テ捺印スルカ或ハ外省ノ印花ヲ使用セルモノハ章ニ照シテ沒收スル外二十位ノ罰金ニ處ス

九　印花ヲ僞造或ハ改造スルモノニ僞造紙幣ノ刑律ニ照シテ處罰ス

備　考

一　税法所載ノ應ニ印花ヲ貼用スベキ契據、簿據及人事憑證ノ名稱ハ等シク概括ヲ極ムト雖モ、ソノ性質ノ類似セルモノハ章ニ照シテ貼用スベシ

一　印花税額ハ均シク現大洋ヲ以テ標準トナス

一　凡ソ繼續ノ性質アル契約ニシテ確定セル繼續期間ナキモノハ須ク契約書面所載數目ニヨリ印花ヲ貼用スベシ

一　國家ガ用フル所ノ契約簿據ハ公法上ノ行爲用タルヲ除キ、私法上ノ行爲用ノ證明ハ一律ニ印花ヲ貼用スベシ

一　税科及驗契費ヲ納ムベキ土地家屋賣渡契約書ハ印花ノ貼用ヲ免ズモシ他種ノ契約書ニシテ正常ノ契約ニ從ツテ契税ヲ投ゼザルモノハ仍ホ貼用スベキモノトス

一　國家對人民ノ關係ニ於テ用フル所ノ徵收税票及大照（土地所有權證明書）戶管執照（家屋所有權證明證）等ニハ印花ヲ貼用セズ人民對徵收機關ノ關係ニ於ケル納税證或ハ報告書ハ均シク應ニ章ニ照シテ貼用スベシ

一　公益慈善事業ノ辦理竝營業ノ性質ナキモノニ用フル簿據ニハ印花ノ貼用ヲ免ズ

一　如何ナル取引ナルヲ問ハズ凡ソ販賣額一元以上ニアルモノハ均シク書付ヲ認メ印花ヲ貼用スベシ、書付ヲ認メ得ザルモノハソノ包裝セル上ニ貼用スベシ違反者ハ罰則ニ按シテ酌量處罰ス

一　貨物代金請求書ニハ法ニヨリ印花一分ヲ貼リ代金ヲ受領シタル上

第九章　山海稅

咸豐五年將軍景綸山海土稅三十六種の徵稅を上奏裁可を經、その稅額は市錢二萬八千吊と定められた。然るにこの頃より市錢漸く少く納稅に不便なりしより、市錢三吊五百三十文を銀一兩とし以後銀で徵稅することゝなり、從つてその額も銀七千九百三十二兩零一分と定められた。光緒二十一年稅額年々低減するによりその額も五千兩に減じ二十五年再び八千兩となす。以上は省城に於ける大體の情形なるも省城外、例へは三姓の如きは光緒四年より市錢四千九百九十九吊七百七十文を一年の收額と定め、琿春は光緒十三年より銀一百五十兩錢三百二十吊を、伯都訥は十五年より市錢一千四百吊を、阿勒楚喀は市錢六千九百吊を、拉林は市錢一千五百八十吊を、雙城堡は市錢二千二百四十吊を、五常堡は市錢一千〇八十吊を、賓州廳は一千二百六十兩を五常廳は銀六百六十六兩を各一箇年の徵稅額と定めた。その後光緒二十五年、三十四年、宣統二年に各稅則の改訂行はる。民國十六年七月制定の稅率は左掲の如くである。

第一節　山貨

鹿茸	從價百分之二十
鹿骨	同百分之十五
鹿骨	同　百分之十
鹿胎	同　百分之十

鹿筋　毎十斤大洋五角八分
鹿角　毎十斤大洋五角八分
牛筋　毎十斤大洋五角八分
花蘑　毎十斤大洋二角一分八厘
楡蘑　毎十斤大洋四角三分五厘
凍蘑（元蘑）　毎百斤大洋五角八分
口蘑　毎斤大洋八分七厘
木耳　毎十斤大洋二角九分
瓜子　毎百斤大洋二角九分
葵花子　毎百斤大洋二角九分
玉蘭片　毎斤大洋二分九厘
花椒　毎斤大洋一分五厘
胡椒　毎斤大洋一分五厘
大料　毎斤大洋二分九厘
紅棗　毎斤大洋七厘
栗子　毎斤大洋二角九分

乾薑	每斤大洋一分
鮮薑	每斤大洋一分
洋粉	每斤大洋四分四厘
青筍	每斤大洋二分九厘
落花生	每百斤大洋二角九分
山鷄	每百斤大洋四角三分五厘
野猪肉	每百斤大洋四角三分五厘
狍鹿肉	每百斤大洋四角三分五厘
龍鬚菜	每斤大洋五厘
蛤吃螞	每十斤大洋一角四分五厘
核桃	每百斤大洋二角九分
各種果實	從價百分之五

第二節　皮張

貂皮	從價百分之二十	賣主より納税
各種皮張	從價百分之十	同

第三節 海菜

雜魚	每十斤大洋五分八厘（哈爾濱木石稅局所轄每百斤大洋八角、海魚每百斤大洋五角八分）
魚骨	每十斤大洋八角七分
蟹肉	每十斤大洋一角四分五厘
海參	每十斤大洋五角八分
海茄	每十斤大洋一角四分五厘
海菜	每百斤大洋二角九分
烏魚蛋	每斤大洋二分九厘
魚翅	每斤大洋二角九分
魚肚	每斤大洋八分七厘
江瑤柱	每斤大洋五分八厘
南火腿	每支大洋八分七厘
乾鮑魚	每斤大洋一角零二厘
蟹黃	每斤大洋八分七厘
大海米	每斤大洋二分九厘

品目	税額
小海米	毎斤大洋九厘
金針菜	毎斤大洋一分二厘
東洋菜	毎斤大洋五厘
海蜇	毎斤大洋九厘
乾墨魚	毎斤大洋二分九厘
乾蛤蠣	毎斤大洋二分九厘
冰蟹	毎十斤大洋五分八厘
鮮蟹	毎十斤大洋五分八厘
銀魚	毎斤大洋五分八厘

以上各税ハ等シク買主ヨリ納入スヘキモノトス、モシ運銷ニ係ルモノハ當該運銷人ヨリ納税スヘシ

第四節 土産税

品目	税額	納付者
蘇油	毎百斤大洋二角九分	製造者ヨリ納付ス
豆油	毎百斤大洋二角九分	同
蓖油	毎百斤大洋四角三分五厘	同
糖蘿卜	毎百斤大洋四分四厘	賣主ヨリ納付ス

牛羊猪油	毎百斤大洋四角三分五厘	製造者ヨリ之ヲ納付ス
藍靛	毎百斤大洋一角四分五厘	買主ヨリ納付ス
茶條葉	毎百斤大洋一角	同
線蔴	毎百斤大洋三角六分三厘	同
絲蔴	毎百斤大洋二角一分八厘	同
芝蔴	毎百石大洋四角三分五厘	同
土面城	毎百斤大洋一角四分五厘	同
棉花税	従價 $\frac{3}{100}$	同
缸税	同 $\frac{7}{100}$	窰戸ヨリ納付
参税	同 $\frac{10}{100}$	賣主ヨリ納付
藥税	同 $\frac{5}{100}$	同
	本省土産ノモノ。外來ノ藥品等ヘ本税ヲ課スルモノトス	
洋草	毎布特大洋一分	
鷄卵税	輸出鷄卵價格一元ニ付大洋五分、運出者ヨリ納付 小賣者及省內販賣者ハ免税	
猪鬃馬尾	従價 $\frac{10}{100}$	賣主ヨリ納付

品目	税率	
獣骨	従價 $\frac{10}{100}$	同
羊毛	同 $\frac{5}{100}$	
山繭	同 $\frac{5}{100}$	
蜂蜜	同 $\frac{5}{100}$	
狍筋	同 $\frac{5}{100}$	
煤税	既ニ部照ヲ受領セル者ニシテ鐵道ヨリ百五十里内ニアル交通便利ノ地ニアル者ハ毎噸大洋一角五分。百里外ノ交通不便ノ地ニアッテハ毎噸大洋一角、未タ部照ヲ受領セサルモノハ、吉省舊章程ニ照シ従價$\frac{15}{100}$、採掘者ヨリ納税ス	
煤斤統税	従價 $\frac{5}{100}$	

以上ノ本省土産物品ハ只正税ノミヲ徴シ附加税ハ附セス、又本省内ヲ運銷スルモ徴税セス、右記各品ト同類ノモノ
右記各品ニ準シテ徴税ス

第十章　當稅

一　意義

當稅は當課と當帖稅よりなる。當課は光緒八年より創辦せられ雜稅として處理せらる。始め奉天省の例に準じ每家銀二兩五錢を徵收せしも光緒十四年、河工費用緊急に迫りしを以て、當商を以て二十箇年間の稅課を納付するを許し每當商につき銀五十兩を徵收した。同二十年再び海防軍費を求めんが爲、規定稅課以外に每家捐銀二百兩を徵收した。同二十三年には稅率を年五十兩に改め四季分納とし、一季の分納額を十二兩五錢とした。

民國三年六月、財政部電を奉じ、整頓牙帖稅施行細則を制定し當商の領帖辦法を規定し、次の如く稅率規定せらる。

區域	則	稅額
繁盛區域	上則	三百元
	中則	二百五十元
	下則	二百元
偏僻區域	上則	二百五十元
	中則	二百元
	下則	一百五十元
當課紅利		純利ノ百分之二

民國六年十月財政廳は再び當帖章程を改め以て今日に至る。

二　税　率

當帖税

甲　繁盛區域

一　等	大洋二百元
二　等	大洋八十元

乙　偏僻區域

一　等	大洋一百五十元
二　等	大洋五十元

當帖の有效期間は質典當帖共に十箇年とす。

一等當帖の下附は典當にのみ許し。二等帖の下附は質當にのみ許す。帖税は新帖下附の場合一時に納付すべきものとす。

繁盛區域とは省城、長春、雙城、楡樹、阿城、扶餘、賓縣、濱江、農安、伊通の各縣を云ひ。

偏僻區域とは其他各縣を云ふ。

當　課

典　當　大洋八十元

質　當　大洋二十元

四月、十月の二季分納

長春質當帖　繁盛區域二等に該當するも、之を五十元に減額し、五箇年分納を許し毎年八元、その他當課は一般と同じ。

濱江錢糧當業牌照税

等	級	税額
一等	一級	現大洋一千五百元
	二級	同一千元
	三級	同八百元
二等	一級	現大洋六百四十元
	二級	同五百六十元
	三級	同四百八十元
三等	一級	同三百五十元
	二級	同三百元
	三級	同二百四十元
四等	一級	同一百六十元

二　級　現大洋　一百二十元
三　級　同　八　十　元

三　開業手續

凡て當業を營まんとする者は典當たると質當たるとに論なく、所轄稅捐局に申請し當帖の下附を受けて始めて營業を許さるべきものとす。その當帖の下附を受けん爲には次の資格を具備するを要す。

(1) 年齡二十歲以上の者
(2) 確に本人にして他人の名義を假冒するに非るもの
(3) 身許確實品行端正にして平素信用を有する者
(4) 破產の宣告及其他各種の刑罰を受けざる者

稅捐局は右資格を有する者の營業許可申請書を受理したる時に右の三項につき審査し合格せるものにつき營業を許可す。

(1) 前記四項の資格を具備する者
(2) 同業者並殷實なる商家三人の保證を有する者
(3) 營業主、經營人の姓名、年齡、本籍、營業商號、地點、資本額、開業時期等につき查明して確實なりと認むるもの

四　罰則及取締規則

當商に對する取締及罰則は吉林省當帖章程第七條、第十一條、第十二條、第十三條、第十四條の各項に規定せらる。同章程によれば當帖は轉賣、名義假冒、讓與、貸用を禁ぜられ、違反者は二十元以上一百元以下の罰金に處せらる。もし當帖を遺失したる場合は直ちに補給或は更換の手續をとるべくその手數料は二元とす。當帖を有せず、又は當帖が既に失效せるに拘はらず、未だ新帖の下附を受けずして私かに營業を營むものは帖稅の三倍の罰金に處せらる。當商の利息は從前の習慣により當初は典當一箇月三分以下、質當一箇月五分以下とせしも、十二年十二月より當分の間典當月息を三分以下、質當月息を四分以下に定めらる。

質入の期間は左の通り定あらる。

(1)　典當の最短期間を十六箇月とし、猶豫期間二箇月を加へ十八箇月とす。

(2)　質當の最短期間を八箇月と猶豫期間一箇月を加へ九箇月とす。

吉林省當帖章程

第一條　凡ソ當業ヲ營ムモノハ典當タルト質當タルトニ論ナク、本章程ノ規定ニ照シ所轄稅捐局ヲ通シテ財政廳ニ申請シ當帖ノ下附ヲ受ケ、初メテ其ノ營業ヲ許スモノトス

第二條　當帖ノ下附ヲ申請シ得ルモノハ次ノ資格ヲ具フルヲ要ス

(1) 年齡二十歲以上ノ者
(2) 確ニ本人ニシテ他人ノ名義等ヲ假冒スルニアラサルモノ
(3) 身許確實、品行端正ニシテ平素信用ヲ有スル者
(4) 破產ノ宣告及其ノ他各種ノ刑罰ヲ受ケサルモノ

第三條　各稅捐局カ當帖下附請求者ヲ審査登錄スルニ當リ必共ノ條件次ノ如シ
(1) 第二條ニ定ムル四項ノ資格ヲ備フルモノ
(2) 同業者竝ニ殷實ナル商家三人ノ保證ヲ有スルモノ
(3) 營業主、經營人ノ姓名年齡本籍及營業商號、地點、資本額、開業時期簡明表ニヨリ査閲シテ確實ナリト認ムルモノ

右第二項ノ保證書ハ三部ヲ備ヘ二部ハ稅捐局ニ送リ審査登錄ノ用ニ供シ、一部ヲ以テ商會ニ請ヒテ登錄ス、各稅捐局ニ於テハ捺印ノ上保證書ト稅票ト合シテ財政廳ニ送リ登錄ス、財政廳ハ登錄スルト共ニ新帖ヲ發行シ、再ヒ稅局ノ捺印ヲ經テ出願人ニ下附シ營業ヲ許スモノトス

第四條　當商ノ新帖ヲ受ケンニハ第二條各項ノ資格及第三條ノ各條件ヲ備フルト共ニ左ノ等則ニ應シ帖捐ヲ納付スヘシ

甲　繁盛區域

一　等　大洋二百元
二　等　大洋八十元

乙　偏僻區域

一　等　　大洋　一百五十元

二　等　　大洋　五十元

典當ハ一等帖ノ下附ヲ許シ質當ハ二等帖ノ下附ヲ許ス、帖捐ハ新帖下附ノ時一次ニ之ヲ納付スヘシ

省城、長春、雙城、楡樹、阿城、扶餘、賓縣、濱江、農安、伊通ヲ繁盛區域トシ、其ノ他各縣ヲ偏僻區域トス

第五條　當商ノ每年納ムヘキ當課左ノ如シ

一　典　當　　大洋　八十元

二　質　當　　大洋　二十元

前項ノ當課ハ二期ニ分チテ完納スヘシ、第一期ハ四月トシ、第二期ハ十月トス、新帖下附期カ當課納付期ノ三箇月以前ナルトキハ該期當課ノ全額ノ納付ヲ要シ、三箇月以後ナルトキハ月ニ按シ納付スヘシ、若シ滯納スル者アルトキハ一月每ニ原額ノ十分ノ一ヲ加增シ、若シ二箇月ヲ超ユルモ尙完納セサルモノハ、保證人ヲ差押ヘ當帖ヲ沒收ス

第六條　本章程發布以前ニ設ケタル當舖ハ舊當帖ト新當帖ト取換フヘシ其ノ方法左ノ如シ

(1)　前淸ノ舊帖ハ一律ニ照シ新帖ト書換フヘシ、而シテ新帖ノ帖捐ハ以前ノ舊帖ノ規費ヲ以テ流用スルヲ得ス

(2)　民國元年ヨリ民國三年六月迄、即チ整頓牙帖稅施行細則頒布以前ノ舊帖ハ一律ニ新帖ト取換フヘシ、新帖ノ帖捐ハ舊帖ノ規費吉平銀七十兩ヲ以テ流用スルヲ得

(3)　民國三年六月以後ニ開設ノ當舖及前二項ノ舊帖ヲ有スル者ニシテ既ニ整頓牙帖稅施行細則各條ノ規定ニヨリ帖

捐シ納付シタルモノハ新帖ト書換フルニ際シテハ帖捐ノ納付ヲ免除ス、但シ須ク手數料一元ヲ納付スヘシ

第七條　當帖ハ轉賣、名義假冒、讓與、貸用スルヲ許サス、若シ違フモノハ二十元以上一百元以下ノ罰金ニ處ス

第八條　當帖ノ有效期間ハ典當、質當共ニ均シク十年ヲ以テ限リトス、期滿ツレハ須ク新帖ノ下附ヲ申請スヘシ、新帖ノ下附ニハ第四條ノ規定ニヨリ帖捐ノ半額ヲ納付スヘシ

第九條　當帖有效期間中ニ營業主死亡シタルトキハ其ノ兄弟子孫之ヲ繼承ス

前項ノ繼承者ハ第二條ニ規定スルノ資格ヲ備フルヲ要シ、稅捐局長ノ核准ヲ經テ舊帖ヲ廢業シ新帖ノ下附ヲ許ス、此ノ場合手數料一元ヲ納付スヘシ

新帖ノ有效期間ハ舊帖ノ有效殘存期間ニ限ル

第十條　當商廢業ノ時ハ、須ク當帖ヲ稅捐局ニ返還スヘシ

第十一條　當帖カ遺失或ハ汚損シタルトキハ、其ノ事由ヲ敍明シ、所轄稅局ニ補給又ハ更換ヲ請フヘシ、但シ手數料一元ヲ要ス

第十二條　當帖ヲ有セス又ハ當帖カ既ニ失效セルニ拘ハラス、未タ新帖ノ下附ヲ受ケスシテ私カニ營業ヲ營ムモノハ第四條ノ納額ノ三倍ノ罰金ニ處ス

第十三條　當商ノ利息ハ從前ノ習慣ニ基キ、典當ハ一箇月三分以下、質當ハ一ケ月五分以下トス

八年一月省令ヲ奉シ商會ヨリノ當商利率增加ノ呈請ニヨリ廳ノ核准ヲ經テ典當ノ月息ヲ二分以下トス

十二年十二月典當月息ヲ三分以下、質當月息ヲ四分以下トス

第十四條　質入期間ハ左ノ通リ之ヲ定ム

(1) 典當ノ最短期間ヲ十二箇月トシ猶豫期間二箇月ヲ加ヘ十四箇月トス

(2) 質當ノ最短期間ヲ六箇月トシ、猶豫期間一箇月ヲ加ヘ計七箇月トス

十二年十二月典當ノ質入期間ヲ最短十六箇月トシ、質當ノ最短期間ヲ八箇月トス

第十五條　當帖ノ下附ヲ請フモノハ帖費大洋一元二角ヲ納付スヘシ、共ノ中五割ヲ以テ辦法費ニ充テ、五割ハ財政廳ニ送附シ印刷費ニ充ツ

第十六條　本章程ハ財政部、吉林省長公署ニ呈報シ核准ヲ經テ施行ス、若シ修正ヲ施ス處アラハ随時財政廳ヨリ呈奉シ之ヲ改ム

縣　　某當營業事項簡明表

項目	
財東姓名年齡	
經理人姓名年齡	
典質當字號	
營業地址	
資本金額	
月息分數	
贖當期限	月外加　　月共　　月
年納課額	
開業日期	

長春質當特別規則

第一條　本規則依吉林省當帖章程並參酌長春特別情形而訂

第二條　長春質當帖依吉林當帖章程第四條繁盛區域二等大洋八十元核減五成以上四十元爲額分按五年攤納大洋八元

第三條　長春質當年課仍依當帖章程第五條規定辦理

第四條　長春質當帖有效期間依當帖章程第八條之規定縮短以五年爲限期滿之後另領當帖其捐仍按全額分年繳納

第五條　在本規則公布以前之舊有質當限三個月以內一律領帖依限照領者准免第一期之當課大洋十元以昭勸勉新開者仍依定額繳課不在此列

第六條　長春質當除依本規則各條外其餘辦法悉照吉林省當帖章程辦理

第七條　本規則惟長春一處適用之其他縣屬未經請准者仍遵吉林省當帖章程辦理不得援以爲例

第八條　本規則自奉令核准之日實行嗣後如有未盡完善之處隨時呈請修改

第十二章　牲畜稅、屠宰稅

牲畜稅は乾隆十二年十一月地方官により徵收を開始せるものである。その後二十八年將軍恒祿の時、特派旗人と同知と協同徵收するに改め、三十年七月、吉林牲畜雜稅の定額は一千七百八十兩を以て徵收定額を決定せらる。宣統元年十一月新に徵稅局設置せられ、全省田房、牲畜稅はすべて該稅局を經て徵收せらるゝことゝなる。當時の各稅率は左揭の如くである。

牲　畜　稅

長春府農安縣を除く各府廳縣	牛馬驢騾　每價銀一兩に付き銀三分
吉伊敦盤新楡綏芬等七府廳州	買猪銀五分、宰猪同三分
賓州、五常、雙城、長壽四廳縣	每價銀一兩に付き收稅銀三分
長　壽、　農　安	牛馬驢騾每價錢一吊收稅三十文

宣統二年正月改訂稅率は

牛　馬　驢　騾	每價百吊につき稅錢三吊
豚	百斤以上のもの每口錢三百文、百斤以內のもの每口同一百五十文
羊	每一頭同一百文
屠　宰　豚　羊　稅	同二百文

局費票錢	每頭二吊

過路税（税票なきもの）

牛馬騾	每頭三吊
驢	同　一吊五百文
豚、羊	同　一百文
凍豚	同　一百文

現行税率を揭左すれば、

牲畜税

牛馬騾驢	從價 $\frac{5}{100}$
猪羊	同 $\frac{25}{100}$
燒商包納牲畜税	年大洋八十元

屠宰税

猪一頭	大洋三角
羊一頭	同　二角
牛一頭	同　一元　屠商より納税

長春罐頭牛猪税

罐　頭　牛　　　　每頭納稅大洋六角

同　　　猪　　　　同　　　二角　賣主より納稅

屠宰稅簡章（民國四年一月）

第一條　屠宰以猪羊牛三限應徵稅額如左但各省向徵之數有超過左額者仍依其舊

一　猪　　　每頭大洋三角

二　牛　　　同　　　一元

三　羊　　　同　　　二角

前項稅額由宰戶完納不分牝牡大小及冠婚喪祭年節、宰殺者一律照徵如有限收地方公益捐不得超過應徵稅額之數

第二條　屠宰之猪羊牛不向會否完納統捐或通過等捐一律照徵屠宰稅

第三條　凡屠宰猪羊牛均須先期赴徵收所完納屠宰稅領取執照方准宰殺

第四條　凡宰猪牛羊逐日清晨由徵收所査驗査之後方准出售査驗之法由各省自定之

第五條　違犯本章程第三條之規定者經査出或告發每猪羊牛一頭照稅額以二十倍處罰徵收經手人如有扶同舞弊及浮收侵蝕者照所得之數以百倍處罰徵稅官如有前項情弊照徵收厘稅者成條例第十六條處罰

第六條　生發漏納屠宰稅者査實後准於所收罰金內提十三五作獎賞費

第七條　屠宰稅執照用三聯制一聯付屠宰戶收執一聯留徵收官署存案一聯繳財政廳査核

第八條　屠宰稅執照由財政廳照部頒式樣刊刷用印發往各徵收官署應用

第九條　徵收所由各縣知事委託相當人員代辦不限定額其一切辦公經費由屠宰稅項下提百分之五開不另支薪

第十條　屠宰稅施行手續由各財政廳自訂之

吉林省屠宰稅簡章施行細則

第一條　本細則依部頒簡章就本省情形訂定之

第二條　部章屠宰稅實行之後即將本省舊有牲畜稅稅章內原列宰猪羊稅一律停徵以免重複

第三條　吉省牲畜稅按百分之五代收附加稅充地方自治費現仍照徵

第四條　屠宰稅應由各稅捐徵收局選派專員徵收依本省規定報解各稅條例另案列表報解

第五條　省會及各縣城鄉或特別繁盛鄉鎮應由徵收局逐日清晨赴各屠戶認眞查驗一次如設有警察所衞生屠獸場即赴該場檢查考證

第六條　凡距局較遠及非繁盛之區屠宰牲畜稽查不易應責成業戶按月認定稅額給照繳納吉省地方遼濶烟戶甚稀或鄉鎮距離稅局過遠或非繁盛之區屠宰無多按日納稅稽查均多不便擬即變通辦理由局責成該鄉鎮屠戶就本月宰數若干認定稅額按月赴局繳稅領取執照此項執照由局査明每月應用之數據實詳領以憑參照部頒程式刊發

第七條　塡發執照加蓋徵收局鈐記及經收員姓名圖章

第八條　屠宰稅及罰金大洋於本省幣制未改以前如無現洋可收准按財政廳通知各月洋價折錢徵解

第九條　如有屠戶隱漏項經徵收員役舞弊侵蝕情事照章第五第六兩條辦理

第十條　屠宰稅執照及罰金收據依簡章第七另八條由財政廳刷印頒發

第十一條　屠宰稅開辦之初手續甚繁需費亦鉅辦公經費暫支一成以一年爲限限滿仍照簡章第九條辦理、按屠宰稅開辦之初本廳刊發章程布告各局稽査偷漏隱匿需費較鉅應援照福建所擬經部核准辦法留支一成此項以一半解廳一半由局開支

第十二條　各徵收局經收屠宰稅員巡如有額外苛索浮收准該屠戶赴該管稅局指名稟究

第十三條　本細則如有損益變通之處隨時詳請修正

第十四條　本細則擬先通飭各稅捐徵收局自民國四年七月一日起一律實行

長春罐頭牛猪稅

毎年秋季、露商にして長春二道溝に赴き牛、豚を購入し冬季之を罐詰として諸國に輸出する者多きに鑑み、始め長春商埠警察廳は檢驗費として、牛一頭につき小洋五角、豚一頭につき小洋一角を徵收せしが、民國四年屠宰稅として牛一頭につき大洋八角を徵收し、五年十二月再び牛一頭につき屠宰稅大洋六角、豚一頭につき大洋二角に改め以て今日に至る。

第十二章　硝　滷　捐

吉林省に於ては從來冬季に於て鹽商は營口鹽を吉林に販運し來り、山海稅局は之に對し每百斤につき銀八分五厘の徵稅をなした。然れどもこの收入僅かに千餘兩に過ぎなかつた、光緒二十八年將軍長順は鹽捐を籌餉局の管理とし、每年冬季專員を派して鹽一斤につき吉錢五文(制錢兩個半)每石(六百斤)につき市錢三吊の徵錢をなした。然るに鹽に對してはこれ以外に釐稅を徵せしを以て過重を免れず、遂に山海稅局に於て帶徵の鹽稅は之を停止するに至り、將來この項鹽捐は九厘捐の中に編入さるゝことゝなつた。

三十四年、官運局成立してより以來、此項の鹽釐は國庫直接の收入となりしも、各統稅局には尚硝滷の名目のみ存じてゐる。

現行硝滷捐率は每斤吉錢五文にして買主より納付す。

第十三章　攤床牌照稅

宣統三年、露店を開設する者、日々多く、彼等のすべては納稅せざるを以て普通門戸を構へる商店の彼等に壓迫せらるゝこと日に甚だしく、爲に章程を擬定して資本金五百吊以上の露店よりは徴稅をなすに至る。民國四年八月、商民納稅せざる者多きを以て章程十條を定め、納稅を嚴命し、納稅せざる者に對しては罰則規定を定めた。

民國九年四月、伊通稅局より呈請により、貨幣制度の變更より免稅額も變更せざるべからずとし、露店資本百二十元以上より徴稅とし、以下はすべて免稅とし、又雙城稅局の呈請により露店に於ても帳簿を設くべきことを定めた。

更に十年三月、長春稅局よりの呈請により、資本金五十元以上のものを六等に分ち徴稅し、五十元以下を免稅とした。

攤床を開業せんとする者は開業以前に左記各項につき所轄稅局に屆け出づるを要す。

一　營業種類
一　營業人姓名、年齢、本籍
一　營業地點
一　資本金額
一　營業等級
一　月納稅額

一　開業期日

所轄稅局は右願出に對し前記各項につき審查の上許可し、牌照を許可す。これに對し攤商は照費大洋二角を納入すべきものとす。かくして營業を許可せられたるものは左記により納稅するを要す。

等級	資本金	稅額
一等	資本金大洋五百元以上のもの	每月大洋十元
二等	資本金大洋四百元以上のもの	同　八元
三等	資本金大洋三百元以上のもの	同　六元
四等	資本金大洋二百元以上のもの	同　四元
五等	資本金大洋一百元以上のもの	同　二元
六等	資本金大洋一百元以下のもの	同　一元
	五十元以下のもの	免　稅

吉林省攤床營業牌照稅規則（民國十年一月二十九日）

一　本規則係依據原有攤床稅辦法改訂

二　攤床營業專指無門面字號者

三　攤床在未開業以前先按後列各項報明領照

營　業　種　類

營業人姓名、年歲、籍貫
營業地點
資本金額
營業等號
月納稅額
開業日期

四　請領牌照由局查驗所報相符再行塡發並飭隨繳照費大洋二角彙案解廳抵支刷印工料之需

五　繳稅等第依資本之多寡酌定給照等第所定稅額等第如左

資本大洋在五百元以上者爲一等每月納捐大洋十元
資本大洋國四百元以上者爲二等每月納捐大洋八元
資本大洋在三百元以上者爲三等每月納捐大洋六元
資本大洋在二百元以上者爲四等每月納捐大洋四元
資本大洋在一百元以上者爲五等每月納捐大洋二元
資本大洋在五十元以上者爲六等每月納捐大洋一元
資本大洋不及五十元者免預領照納捐

六　應納稅款限於每月初旬內如數繳納

七　攤床資本狀決如有增減變更應隨時報明改定等第換領牌照另定稅額繳納

八　攤床每年賣錢及營業狀況由局隨時稽查以免蒙混

九　牌照保證一欄應取見門面高號擔保該保於保證欄內加蓋圖書

十　倘有拖欠稅款及携去牌照潛逃等事均責所該保照數倍繳

十一　按月徵收稅款時仍掣發三聯通用納稅證書收執備驗

十二　牌照如有損失准其取保換領惟須繳牌照費大洋二角

十三　攤床如轉兌他人應照第三條隨時報明換照倘有隱匿查出酌罰

十四　攤床歇業時應按歇業月分納全月稅款並隨時繳銷牌照

十五　本規則自公布之日實行如有未盡完善之處應隨時修正呈報備查

第十四章　木　稅

吉林省の木稅額は當初甚だ輕つたが、同治四年將軍皂保の時、年徵收額を三千七百兩と決めた。原額に比較すれば十倍の增加であつた。これ等稅額は一五經費を除き他は悉く旗署俸給に充當せられた。光緒三十二年將軍達桂はこの制度を廢し、實際徵收額だけ國庫送付に改め、稅率は長春省城は從價の百分之十とし、外城は從量稅によつた。三十四年再び照額徵解の制度に復し全年の收稅錢を四十四萬七千餘吊と定めた。

民國三年四月、國稅籌備處は各外城に令して、長春省城と同じくその稅率を賣價の百分之十と定む。民國五年、財政廳は量價換算法を採用し、新に木植稅率表を作成し、今日も尙之により徵收せらる。

吉林省修正木稅章程（民國三年十一月十一日）

第一條　吉省木稅按估價値百抽十

第二條　前條估價方法由省城木稅徵收局比月於初五日前調査省城上月各種木價日列表報由本廳派員覆査確實後酌定估價於比月十五日頒發所屬各徵收分局以爲次月按價收稅之準

第三條　徵收木稅由木植起運地經過之第一徵收局或徵收分局徵收兼收値百抽六之小分稅塡給納稅證書
前項證書式如左

納稅證書

甲　聯

為存根事茲據　　報由　　地方起運左列木植銷售　　地方

木別	件數	某月估價	每件單價	共價	共應納木稅及山分稅額	按　月均價合銀元數

隨交五厘雜款　　已由　　局照章如數收訖此存本局

中華民國　　年　　月　　日

（該徵收局署名蓋章）

木字　　號共收稅

納稅證書

乙　聯

為繳查事茲據　　報由　　地方起運左列木植銷售　　地方

木別	件數	某月估價	每件單價	共價	共應納木稅及山分稅額	按　月均價合銀元數

隨交五厘雜款　　已由　　局照章如數收訖此繳吉林財政廳

中華民國　　年　　月　　日

（該徵收局署名蓋章）

木字　　號共收稅

納稅證書

丙　聯

為發備驗截事茲據　　報由　　地方起運左列木植銷售　　地方

木別	件數	某月估價	每件單價	共價	共應納木稅及山分稅額	按　月均價合銀元數

隨交五厘雜款　　已由　　局照章如數收局合行填給納稅證書以備驗由第二征收機關截換此證交商人

中華民國　　年　　月　　日

（該徵收局署名蓋章）

第四條　持有起運地經過之第一徵收局或徵收分局納稅證書者　如須經過第二徵收局或徵收分局時須呈由該徵收局或徵收局憑該納稅證書覆加查驗如果本證相符卽將納稅證書扣存換給驗單執運　立卽放行不得重徵並以所扣納稅證書黏同驗單乙聯按月繳廳核對如不遵章換繳經前途機關或本廳查稅員查出　補扣應將已過之徵收機關各員示徵經過第二以上徵收機關一體認眞覆驗蓋戳放行

前項驗單式如左（次頁參照）

第五條　前條驗單指銷地點在本省境內者呈由銷地徵收機關驗明責令取具　當地殷實商保再將驗單交還該木地限於三十日內繳由該徵收機關轉廳貴銷如係運銷出省或租借地者由緊鄰　他省或租借地之本省徵收機關驗明扣存按月彙繳本廳診銷

第六條　滿前條第一項限期或因障礙不能繳銷驗單時得由該木把邀　同原保呈由該管徵收機關查明予展一日以上三十日以下之限期

第七條　已納木稅兼居分稅之木植運抵指銷地方如須分銷他處　時應憑驗單送由就近徵收機關換給分運單印將驗單扣存黏同分運單乙聯按月繳廳共分運木數至多按原數八成爲限如一張驗　單內之木植陸續請單分運須於驗單內隨時診明於某月某日分運某木若干仍俟運足八成將驗單扣繳核對

前項分運單式如左（四四〇頁參照）

第八條　驗單換給分運單以六十日爲有效期間共分運單期限從給塡分運單之日起算核共指銷地點之遠近另表定之但至久不得逾六十日

第九條　分運木植經過各徵收機關均須認眞覆驗如果本單相符一體　加蓋某年某月日驗戳放行凡單內已經該地徵收機關加

木稅驗單

甲 聯

為存根事茲據　　報由　　地方起運左列木植銷售　　地方

木別	件數	某月份估每件單價	共價	共應納木稅及山分稅額按某月份均價	合銀元數

隨交五厘雜款　已由　局如數收訖持有納稅證書為憑呈經本　局驗明

本證相符除將納稅證書扣存彙繳換給憑單外此存本局

中華民國　年　月　日

（該驗局署名加章）

驗字第　號

木稅驗單

乙 聯

為繳查事茲據　　報由　　地方起運左列木植銷售　　地方

木別	件數	某月份估每件單價	共價	共應納木稅及山分稅額按某月份均價	合銀元數

隨交五厘雜款　已由　局如數收訖持有納稅證書為憑呈經本　局驗明

本證相符除將納稅證書扣存換給驗單外合將所扣納稅證書黏同此聯經繳

吉林財政廳

中華民國　年　月　日

（該驗局署名加章）

驗字第　號

木稅驗單

丙 聯

為發納驗單事茲據　　報由　　地方起運左列木植銷售　　地方

木別	件數	某月份估每件單價	共價	共應納木稅及山分稅額按某月份均價	合銀元數

隨交五厘雜款　已由　局如數收訖持有納稅證書為憑呈經本　局驗明

本證相符除將納稅證書扣存黏繳外合行換給驗單此發商人

中華民國　年　月　日

（該驗局署名加印）

分運單　甲聯

茲有木把　遵章納稅後持有　局　年　月　日所發　字第　號驗單運抵　地方於本章程第八條分運期內取具　縣城鎮　商號圖保請求換給分運單以憑分運　地方當經　局驗明塡給分運單訖限於　日內繳由　局轉廳核銷計

驗單數		分運單數		比照驗單原數分運幾分之幾
木別	件數	木別	件數	
合計				

中華民國　年　月　日

（該徵收局署名加章）此聯存局

運字第　號共木　件

分運單　乙聯

茲有木把　遵章納稅後持有　局　年　月　日所發　字第　號驗單運抵　地方於本章程第八條分運期內取具　縣城鎮　商號圖保請求換給分運單以憑分運　地方當經　局驗明塡給分運單訖限於　日內繳由　局轉廳核銷計

驗單數		分運單數		比照驗單原數分運幾分之幾
木別	件數	木別	件數	
合計				

中華民國　年　月　日

（該徵收局署名加印）此聯繳廳

運字第　號共木　件

分運單　丙聯

茲有木把　遵章納稅後持有　局　年　月　日所發　字第　號驗單運抵　地方於本章程第八條分運期內取具　縣城鎮　商號圖保請求換給分運單以憑分運　地方當經　局驗明塡給分運單訖限於　日內繳　局轉廳核銷計

驗單數		分運單數		比照驗單原數分運幾分之幾
木別	件數	木別	件數	
合計				

中華民國　年　月　日

（該徵收局署名加印）此聯交木把

過驗截之單不得折回重運

第十條　前條分運單之呈驗扣繳辦法援本章程第五第六兩條分別辦理

第十一條　各木把有違反本章第五條第六條第十條之規定不得將驗單或分運單如限繳銷者應向擔保之商舖追繳原單並罰繳全稅

第十二條　各木把在起運地方有因木未售出不能依本章程第三條先納稅款時該管徵收機關得責令取具當地殷實商舖圖保填給左式保稅證書俟木到指銷地方後（指銷地方在本省境內及並非租借地者方得保稅）限於三十日內（由起運之日起算）呈由該地徵收機關驗明木證相符如數收稅（沿途徵收機關一體認真覆驗如果木證相符加蓋驗截立即放行）即將保稅證書丙聯扣存按月繳核對以丁聯註明應納稅額已由局如數收訖加鈐交還納稅人持向原發該保稅證書之徵收機關免還商舖圖保後仍按月繳廳核對

前項保證書式如左（別紙參照）

第十三條　保稅證書內之木植不得請給分運單

第十四條　木把逾第十二條之保稅限期至十日以上未持銷地徵收機關收訖加鈐之丁聯保稅證書向原發該證書之徵收機關免還商舖圖保者原發該保稅證之徵收機關應向擔保商舖追令代繳全稅

第十五條　各木把經過第二以上徵收機關查出隱匿漏稅及以多報少致木與證單不符者將木植扣留照應稅之數補足外加罰四倍填給罰稅證再　原木發還其有繞越抗情節較重者得詳情加重處罰或照海關例全數充公所有罰款以一半充賞一半解省歸公並將原發單證之徵收官吏分別處罰

保稅證書　甲聯

茲據木把　　起運左列木植指銷本省　　地方因無力預先納稅取具　　縣　　城鎮　　商號圖保俟運抵銷地後依限
納稅呈經　　局查對保條妥實合行塡給保稅證書計

木別	件數	某月份估	每件單價	共價	共應納木稅山分稅五厘雜款額	按某月份均價	合銀元數

中華民國　年　月　日

（該征收局署名加章）此聯存局

保字第　　號共應納稅

保稅證書　乙聯

茲據木把　　起運左列木植指銷本省　　地方因無力預先納稅取具　　縣　　城鎮　　商號圖保俟運抵銷地後依限
納稅呈經　　局查對保條妥實當已塡給納稅證書計

木別	件數	某月份估	每件單價	共價	共應納木稅山分稅五厘雜款額	按某月份均價	合銀元數

中華民國　年　年　日

（該徵收局署名加章）此聯繳廳

保字第　　號共應納稅

保稅證書　丙聯

茲據木把　　越運左列木植指銷本省　　地方因無力預先納稅取具　　縣　　城鎮　　商號圖保俟運抵銷地後依限
納稅呈經　　局查對保條妥實合行塡給保稅證書仰沿途徵收機關一體認眞覆驗如果木證相符加蓋驗戳立卽放行限
於三十日內呈當指銷地方徵收機關照收稅卽將此聯扣存按月繳廳核對計

木別	件數	某月份估	每件單價	共價	共應納木稅山分稅五厘雜款額	按某月份均價	合銀元數

中華民國　年　月　日

（該徵收局署名加章）此聯先交木把

保字第　　號共應納稅

保稅證書　丁聯

茲據木把　　起運左列木植指銷本省　　地方因無力預先納稅取具　　縣　　城鎮　　商號圖保俟運抵銷地後依限
納稅呈經　　局查對保條妥實合行塡給保稅證書仰沿途徵收機關一體覆驗如果木證相符加蓋驗戳立卽放行限於三
十日內呈由指銷地方徵收機關照數收稅後卽於此聯內註明應納稅款已由　　局如數收訖加鈐發還納稅人持向原發
該保稅證書之徵收機關兌還商舖圖保後仍按月繳廳核對計

木別	件數	每月份估	每件單價	共價	共應納木稅山分稅五厘雜款額	按某月份均價	合銀元數

中華民國　年　月　日

（該徵收局署名加章）此聯先交木把



第十六條　如經過徵收機關之員差串同納稅人違章隱匿不予補罰經前途徵收機關或本廳查稅員查出除一律補罰給獎外並將已過徵收機關之員差除罰年俸二分之一並撤差外仍送法庭依律治罪

第十七條　省城木稅徵收局違反本章程第二條之規定不如限將省城各種木價分日查報送廳或報價不對經本廳查明者罰年俸二分之一並行撤差

第十八條　本章程從到本廳估價表後實行

第十九條　本章程實行後吉省從前木稅辦法有與本章程抵觸者悉行廢止

第二十條　凡已經完稅之木稅一經木把轉賣他人加以製造者即應按照本省二分銷場稅章程辦理

吉林省改訂木植稅率表

種別	數量	稅率	備考
上等果松過樑	每一尺七八寸	九角二分三厘	
中等果松過樑	每一尺六寸	五角五分三厘	
下等果松過樑	每一尺五寸	三角六分九厘	
上等果松二平頭	每一尺四寸	三角	
中等果松二平頭	每一尺三寸半	二角三分一厘	
下等果松二平頭	每一尺三寸	二角零七厘	
上等果松長條	每一尺三寸	一角三分八厘	

品名	寸法	税額
中等果松長條	每一尺一二寸	九分二厘
下等果松長條	每八寸至一尺	七分八厘
上等果松改木	每二尺七八寸	八角三分一厘
中等果松改木	每二尺六七寸	五角五分三厘
下等果松改木	每二尺五六寸	三角二分三厘
上等果松墩子	每三尺一二寸	八角三分一厘
中等果松墩子	每二尺八九寸	五角五分三厘
下等果松墩子	每二尺五六寸	二角七分七厘
上等杉松過樑	每一尺七八寸	五角零七厘
中等杉松過樑	每一尺六寸	三角二分三厘
下等杉松過樑	每一尺五寸	三角零七厘
上等杉松二乎頭	每一尺四寸	二角零三厘
中等杉松二乎頭	每一尺三寸半	一角八分
下等杉松二乎頭	每一尺三寸	一角二分
上等杉松長條	每一尺三寸	一角一分一厘
中等杉松長條	每一尺一二寸	七分八厘
下等杉松長條	每八寸至一尺	六分四厘
上等杉松改木	每二尺七八寸	五角零七厘
中等杉松改木	每二尺六七寸	三角六分

品目	尺寸	税額
下等杉松攺木	每二尺五六寸	二角一分七厘
上等杉松墩子	每三尺一二寸	四角六分一厘
中等杉松墩子	每二尺八九尺	三角六分九厘
下等杉松墩子	每二尺五六寸	一角八分四厘
上等椽檩	每七八寸	二分七厘
中等椽檩	每五六寸	一分六厘
下等椽檩	每四五寸	一分三厘
上等椽子	每四五寸	一分二厘
中等椽子	每三四寸	八厘
下等椽子	每二三寸	七厘
上等木柞	每七八寸	一分三厘
中等木柞	每五六寸	一分
下等木柞	每四五寸	七厘
上等段木	每二丈	七分三厘
中等段木	每一丈零五寸	四分一厘
下等段木	每七尺五寸	二分三厘
上等柱脚	每二尺一二寸	一角一分一厘
中等柱脚	每一尺五六寸	六分九厘
下等柱脚	每一尺一二寸	四分六厘

品名	尺寸	税額
上等四丈三尺元松長條	每一尺三寸	三角六分九厘
中等四丈三尺元松長條	每一尺一二寸	二角七分九厘
下等四丈三尺元松長條	每八寸至一尺	一角八分四厘
上等三丈二尺元松長條	每一尺三寸	三角二分三厘
中等三丈二尺元松長條	每一尺一二寸	二角三分一厘
下等三丈二尺元松長條	每八寸至一尺	一角六分一厘
上等元松長條	每一尺三寸	一角六分一厘
中等元松長條	每一尺一二寸	一角三分八厘
下等元松長條	每八寸至一尺	一角一分五厘
上等三丈二尺果二乎頭	每一尺四寸	四角六分一厘
中等三丈二尺果二乎頭	每一尺三寸半	三角六分九厘
下等三丈二尺果二乎頭	每一尺三寸	二角七分七厘
上等元松二乎頭	每一尺四寸	四角六分一厘
中等元松二乎頭	每一尺三寸半	三角六分九厘
下等元松二乎頭	每一尺三寸	二角七分七厘
上等杉料子	每五寸	四角六分一厘
中等杉料子	每四寸	一角三分八厘
下等杉料子	每三寸	一角一分五厘
上等果料子	每五寸	四角六分一厘

品名	單位	價格
中等果料子	每四寸	三角四分六厘
下等果料子	每三寸	二角五分三厘
上等抱馬料子	每二十一、二塊	一元一角零七厘
中等抱馬料子	每二十四塊	七角三分八厘
下等抱馬料子	每二十三、四塊	五角五分三厘
上等元松料子	每四塊	七角三分八厘
中等元松料子	每四塊	五角五分三厘
下等元松料子	每四塊	三角六分九厘
上等香柏料子	每二十三、四塊	一元八角四分五厘
中等香柏料子	每二十七、八塊	一元三角八分四厘
下等香柏料子	每三十塊	一元一角五分三厘
上等赤柏料子	每二十三、四塊	一元八角四分六厘
中等赤柏料子	每二十三、四塊	一元四角七分七厘
下等赤柏料子	每二十三、四塊	一元一角零七厘
車輳子	每付	五分五厘
車頭	每付	五分五厘
車輞子	每塊	七分三厘
紅車軸	每五尺	二角五分三厘
太平車軸	每五尺	一角一分一厘

二軸	每五寸	一角六分一厘
小軸子	每五寸	一分八厘
扭勁子	每七尺五寸	七分三厘
柞梃	每一丈八尺	三角二分三厘
上等茨楸	每二丈一尺	一角三分八厘
中等茨楸	每一丈五尺	六分九厘
下等茨楸	每七尺五寸	三分七厘
扒槓	每根	一角一分一厘
燈籠桿	同	六分九厘
川連桿	同	一分三厘
三寸旱桿子	同	五厘
二寸旱桿子	同	四厘
一寸旱桿子	同	三厘
楊木椽子	每一寸至三寸	九厘
五、六寸料子板	每塊	四分六厘
三、四寸料子板	同	三分七厘
二、三寸料子板	同	二分七厘
上等標板	同	一分三厘
中等標板	同	一分

品目	單位	價格
下等標板	同	七厘
上等呑板	同	二分三厘
中等呑板	同	一分八厘
下等呑板	同	一分三厘
九寸古懐材	每口	八角一分三厘
八寸古懐材	同	六角八分一厘
七寸古懐材	同	四角五分四厘
六寸古懐材	同	三角零三厘
五寸古懐材	同	一角六分三厘
四寸古懐材	同	一角三分六厘
小古懐材	同	一角零九厘
平頭三寸古懐材	同	八分一厘
三寸至六寸京匣	同	五角四分五厘
六寸至八寸京匣	同	八角一分六厘
上等元松方子	每根	九分二厘
中等元松方子	同	六分九厘
下等元松方子	同	四分六厘
雜木椽子	同	三厘
雜木格子	同	六分

品名		價格
雜木撥子	同	七分五厘
上等茴榆	同	四分六厘
中等茴榆	同	三分二厘
下等茴榆	同	二分三厘
一丈五尺半槽	每件	一角三分八厘
一丈二尺半槽	同	九分二厘
八尺半槽	同	五分五厘
上等掛椽	每根	七厘
中等掛椽	同	五厘
下等掛椽	同	四厘
上等熱楂子	同	五厘
中等熱楂子	同	四厘
下等熱楂子	同	三厘
上等杉漂子	同	一角三分八厘
中等杉漂子	同	九分二厘
下等杉漂子	同	五分五厘
一丈五三改木板	每塊	一角五分一厘
三寸四五平頭板	同	一角五分一厘
二丈五二光板	同	七分五厘

油箱套	每十塊	一角五分八厘
價套	同	七分五厘
價面	每根	二分二厘

說明

右表所定税率係參合產銷各價較前特別減輕作為收税之標準雖與原訂修正木税章程第一條估價值百抽十辦法無所區別但估價既求核實即税率無形減輕其木植種類為本表所未列者應按表內同類木植税率徵税原訂修正木税章程與本表不相抵觸者仍適之（本表省城濱江兩處不適用）

第十五章　魚網、魚滾、魚秤課及磨課

扶餘縣は著名の產魚地にして、九箇處の漁區あり、每年魚網課銀一百八十兩を徵收した。而してこれ等に對しては伯都訥副都統より捕魚執照を下附たりしが、副都統廢止後は旗務承辦處に於てこれが徵收に當り、民國四年更に縣署所轄に改まる。現に魚網十三處あり、年課銀二十兩のもの六處、十兩のもの四處、六兩のもの二處、四兩のもの一處にして一兩は大洋二元として計算す。

呢嗎口に於ける魚網課は每網五元乃至六元なるも近時收穫少きを以て從つて此項收入も多からず。

賓縣に於ける魚網課は五等に分れ、春秋二季に徵收す。一等は每季、錢五十吊、二等三十吊、三等二十吊、四等十五吊、五等十吊である。

同江、呢嗎口等に於ては夏期追込み網をかけるもの多く、これに對し木石稅費分局及呢嗎口稅局は攔滾票を下附し稅額は一箇年四元乃至十元である。之を魚滾課と云ふ。

魚秤課とは魚用秤に對する稅課を云ふ。省城には魚秤三稈あり、每稈年課銀一兩五錢（每兩は大洋三元に換算）每年十月稅局より徵收、扶餘縣にも一稈あり、年納錢六百五十吊、縣署より徵收す。

其他呢嗎江稅局管內に魚鉤繩捐每鉤繩一條年課大洋三元、又魚灘捐とて大麥哈魚の漁區獨占に對し二十元乃至三十元の稅課あるも近年產魚多からざる故收入又殆んどなし。

網流照

存　根

吉林財政廳　為存根事今據

報在　江河泡　業漁　至　面積

應納　季　等　課大洋　己由

如數收訖　此照

中華民國　年　月　日

（徵收局蓋章）

字　號收稅

網流照

收　證

吉林財政廳　為發給收證事今據網戶

報在　江河泡　業漁　至　面積

應納　季　等　課大洋　己由

如數收訖今發給收證以憑收執此照

中華民國　年　月　日

（徵收局蓋章）

字　號收稅

網流照

繳　查

吉林財政廳　為繳查事今據

報在　江河泡　業漁　至　面積

應納　季　等　課大洋　己由

如數收訖仰將此聯截存按月彙繳查核此照

中華民國　年　月　日

（徵收局蓋章）

修正網完課（漁業税）率表

一等	年納	大洋	四十元
二等	同	同	二十元
三等	同	同	十二元
四等	同	同	八元
五等	同	同	六元
六等	同	同	四元

春秋二季に分納せしむ。

磨課は香料を壓碎するよりして徴收する課税にして、吉林府に五家あり、この徴收額總計十兩である。漁網税は僅かに伯都納一處に於てのみ徴收せらる。漁家九家あり、その徴税總額一百八十兩である。現行税率は十六年七月の公布に係り之を左掲すれば

香磨課	毎盤年	大洋	四元

第十六章　省城沙石及沙石山分税

省城の北に當る、黒牛圏、西硝子、北山頭、回子營、立天嶺、蓮花泡等に於ては從來、土人の私かに沙石を採取しその賣値年約二萬吊に亙るものあり、而してこれ等は等しく、何等税課も納むるなく、只業主に十分之二の山分と十分之二の道具持株費用を納むるに過ぎず、その他の六割は悉く石工の收入であつた。

宣統元年三月に至り、商人侯世錫なるものあり、鑛務章程に基き、上項の沙石採取を鑛務調査總局に願出づ。茲に於總局は蓮花泡が火藥庫あるを以てその採取を禁じたが、その他の黒牛圏、回子營、立天嶺の三の官山、西山硝子北山頭の二處の民山の開採を許可し、竝に塊石一噸を販賣する毎に山分一百文、碎石六十文、沙石二十文を、官山は官に收め、民山は業主に收め、更に石税として塊石毎噸五十文、碎石二十文、沙石十文を徴收すべきを批明した。該商民等はこれにより照費五十兩を納付し直ちに營業を開始し、利吉公司と名付け、二年には該公司は小東門外江邊一帶の地に天然石の開採も始め碎石に照し納税し來りしも、その後山分税課を滞ること多く、六年省は該公司の營業を取消し、新に永吉沙石公司の營業を許可した。該公司は即ち章に照し次の如く納税した。

品目	種別	金額
塊石毎噸	石税	吉錢一百文
	山分	吉錢二百文
碎石毎噸	石税	吉錢四十文
	山分	吉錢一百二十文
沙石毎噸	石税	吉錢二十文
	山分	吉錢四十文

第十七章　哈爾濱工商營業税附俄商營業税

初め哈爾濱道裡は東支附屬地にして支那の國權及ばず、露人の商勢優勢にして中國人のこの間に營業する者容易に之に對抗する能はず、仍つて哈爾濱在住の中國商人は省當局に請願して諸税の低減を請ふた。財政廳は之を財政委員に交附して審査せしめたる結果、民國五年九月、哈爾濱の各種雜捐を一律に撤廢し、新に工商營業税を起し以て外人の商勢に對應せしむるに至つた。同章程によれば資本の多寡及營業の狀況により一等年納一千元より十四等二元四角迄の十四等に分ち六年一月より實施した。其の後八年十二月、九年十一月及十六年七月の三度に修改し、納税を現大洋に改め以て今日に至る。

一　等	一　級	現大洋	六千元
	二　級	同	五千元
	三　級	同	四千元
二　等	一　級	同	三千元
	二　級	同	二千元
	三　級	同	一千八百元
三　等	一　級	同	一千六百元
	二　級	同	一千四百元

等	級	俸額
	三級	現大洋　一千二百元
四等	一級	同　一千元
	二級	同　八百元
	三級	同　七百元
五等	一級	同　六百元
	二級	同　五百元
	三級	同　四百四十元
六等	一級	同　四百元
	二級	同　三百六十元
	三級	同　三百元
七等	一級	同　二百四十元
	二級	同　二百元
	三級	同　一百六十元
八等	一級	同　一百元
	二級	同　八十元
	三級	同　六十元

等	級		税額
九　等	一　級	現大洋	五十元
	二　級	同	四十元
	三　級	同	三十元
十　等	一　級	同	二十元
	二　級	同	十六元
	三　級	同	十元

毎年一月、四月、七月、十月の四季分納

哈埠在住の商人はすべて左記各項を税捐局に申報して憑證の下附を受ければならぬ。

一　營業人の姓名、本籍、住所
一　店舗の字號及地點
一　營業種類及資本額
一　全年營業總收入額

税捐局は之を財政廳に送付すると共に他面商會と協議してその納税等級を定む。商人にして本税を納付したるものは左の各項の税を免ぜらる。

1　銷場税
2　當課

3 當店純益稅

4 山海稅、硝滷稅、木炭稅、皮張稅

もし營業者にして證憑なく、或は書換ふべきものを書換へざるものは正稅の追納を命せらるゝ外、一年稅額の二倍の罰金に處せらる。納稅期に至り納稅を怠るものは、初犯者は其の期稅額の二倍の罰金に處せられ、累犯者は全年稅額の二倍の罰金に處せらる。納稅に應ぜず、或は罰金に服せざるものは稅捐局より警察廳、或縣知事に移牒してその營業を停止し、或はその木舖を閉鎖す。

濱江縣工商工業稅通行章程（民國八年十二月）

第一條　本章程爲發達地方平均工商各業負擔起見由稅捐局呈明財政廳將舊有鋪場各稅改訂營業稅辦法如左

第二條　凡在濱江所屬市場經營工商各業者應一律報由稅捐局會同商會審定等級繳納營業稅

第三條　營業稅等級審定治由稅捐局註冊呈報財政廳核發憑證

第四條　營業稅前訂規則等級係暫行辦法現在試辦期滿應由稅捐局與商會協同重行規定等級如左

一　等	納大銀元	一千二百元
二　等	納大銀元	八百二十元
三　等	納大銀元	五百二十元
四　等	納大銀元	三百四十元

五等	納大銀元	二百二十元
六等	納大銀元	一百四十元
七等	納大銀元	一百元
八等	納大銀元	六十元
九等	納大銀元	四十元
十等	納大銀元	二十四元
十一等	納大銀元	十六元
十二等	納大銀元	十元
十三等	納大銀元	六元
十四等	納大銀元	四元

本條十四等所定稅額係照現時資本額總收入額規定較試辦期間納稅額酌量提增如有新設商號應隨時調查分別營業性質秉公辦理

第九條　營業稅每年分四季季首繳納以一月四月七月十月爲納稅之期每期於一月之內一律交清

第六條　凡商號報領憑證應詳開左列各事項呈由稅捐局轉報財政廳核准發給

一　營業人姓名籍貫及住址

一　店舖字號及地點

一 營業種類及資本額

一 全年營業總收入估計金額

第七條 凡新營業者適用第六條之規定報領憑證其本期應納捐額得按月計算

第八條 本章程施行後除關於中央新稅及本省舊有新稅性質不同者仍照舊徵收外其因改辦營業稅應行蠲免各種分列於左

一 銷場稅

一 當課

一 當店純益稅

一 山海稅、硝滷稅、木炭稅、皮張稅

第九條 各商號如有增益資本或增添他種營業以及減少資本或去何種營業均應報明稅捐局查明酌量升降等級此外不得隨便升降

本條變更等級時應會同商會調查屬實由稅捐局註冊轉呈財政廳核准換給憑證

第十條 憑證有效期間以一年為限限滿換領新憑證凡領憑證者應納大銀元五角換領新憑證亦如之

第十一條 每屆納稅之期由稅捐局按照等級核收稅款隨時填發納稅證書

第十二條 各商號如有承頂讓賣或變更營業種類等項情事適用第六條第九條之規定另換憑證

第十三條 各商號有歇業者應將原領憑證呈擬稅捐局轉呈財政廳核銷並納清本期稅額

第十四條 本章程施行後凡無憑證營業或應換憑證而未換者除令納稅領證外處以應納全年稅額一倍之罰金

第十五條　商號每屆納税之期如有滯納行爲初犯者處以本期税額二倍之罰金累犯者處以全年税額二倍之罰金

第十六條　凡抗税及抗納罰金者税捐局得酌量情節輕重知會警察廳或縣知事停止其營業或封閉其店舖

第十七條　本章程試辦後重行規訂永資遵守如有未盡事宜應由商會會同税捐局修正呈明財政廳核定飭遵

第十八條　本章程應呈報財政部省公署批准立案

哈爾濱道裡俄商營業税

民國九年十月、財政廳は中東鐵路附屬地の內外商民が本省の保護を受くることの大なるにより、當然納税の義務を負ふべきの見地より、濱江税局と協同し、民國十一年、東寧、寧安等の處より始め順次徴收を開始したるも、間もなく本税は消滅することゝなつた。

十一年十二月財政廳は再び委員を派して特別區行政長官、濱江道尹、特別區警察處、市政局と商量せしめ、更に露商會長の協助を得、十二年二月より徴收を開始し、十二年五月には道裡に專局を設け、哈爾濱税捐徴收局と名付けたその税率左の如し。

工商業牌照等級	資本額 元	商業年納額 元	工業年納額 元	商業季納額 元	工業季納額 元
一	五〇、〇〇〇	二、二五〇・〇〇〇	一、三五〇・〇〇〇	五六二・五〇〇	三三七・五〇〇
二	四〇、〇〇〇	一、八〇〇・〇〇〇	一、〇一二・五〇〇	四五〇・〇〇〇	二五三・一二五
三	三〇、〇〇〇	一、四六二・五〇〇	六七五・〇〇〇	二六五・六二五	一六八・七五〇

四	二五,〇〇〇	一,一二五・〇〇〇	五六二・五〇〇	二八一・二五〇	一四〇・六二五
五	二〇,〇〇〇	九〇〇・〇〇〇	四五〇・〇〇〇	二二五・〇〇〇	一一二・五〇〇
六	一五,〇〇〇	六七五・〇〇〇	三三七・五〇〇	一六八・七五〇	八四・三七五
七	一〇,〇〇〇	五六二・五〇〇	二二五・〇〇〇	一四〇・六二五	五六・二五〇
八	八,〇〇〇	四五〇・〇〇〇	一六八・七五〇	一一二・五〇〇	四二・一八八
九	六,〇〇〇	三三七・五〇〇	一一二・五〇〇	八四・三七五	二八・一二五
十	五,〇〇〇	二二五・〇〇〇	六七・五〇〇	五六・二五〇	一六・八七五
十一	四,〇〇〇	一六八・七五〇	四五・〇〇〇	四二・一八八	一一・二五〇
十二	三,〇〇〇	一一二・五〇〇	三三・七五〇	二八・一五〇	八・四三八
十三	一,五〇〇	六七・五〇〇	二二・五〇〇	一六・八七五	五・六二五
十四	一,〇〇〇	四五・〇〇〇	一六・八七五	一一・二五〇	四・二一九
十五	八〇〇	三三・七五〇	一一・二五〇	八・四三八	二・八二三
十六	五〇〇	二二・五〇〇	六・七五〇	五・六二五	一・六八八
十七	三〇〇	一六・八七五	四・五〇〇	四・二一九	一一・一三
十八	一〇〇	一一・二五〇	二・二五〇	二・八一三	〇・五六三

第十八章　哈爾濱木石税

光緒二十二年七月、支那政府は道勝銀行をして東省鐵路の築造を許すや、資本金五百萬兩を以て東省鐵路會社を設立せしめた。而してこれに關し露支兩國間に締結されたる條約中、第七條に鐵道築造に關する材料は悉く免税すべきを規定された。

されど由來木税は吉林省にとつては巨大なる財源の一にして、かゝる條約の存在により露人の任意森林伐採はよく耐え得る所にあらず、玆に於て將軍延茂は屢々露國側に木税の徵收を提議せるも露國側は常に反對し、容易に解決を見ざりしも、光緒二十五年、露國側は省城交渉局に木植公司を設置し、別に伐木章程を制定し、中外商人共に採木せんとする者は先づ木植公司につきて票照を受領し、伐採材木についてはその價格の百分之八を木植票費と稱し木植公司に納入すべきことに同意した。而して木植票費を納入したる材木にして、更に商民に賣却し、又は他處に販賣する者は更に百分之十の木税を徵せらるゝものとす。

然るに光緒三十二年、駐支露國大使は伐木納税章程の未だ中央政府の核定を經ざるを理由として爾後納税せざるを主張せるを以て、吉林將軍達桂は濱江關道杜學瀛、黑龍江省は道員宋小濂を派遣し木植公司と接衝せしめ税費及放票章程十一條を作成し露支兩政府の承認を經た。かくて各統税局を經てこれが徵税に當らしめしも、露人勢を恃みて容易に納税せず、爲に民國五年一月哈爾濱に木石税費總局を設置し、まづ木石、魚草、木炭、石灰の徵税に當らしむる事となつた。而してこれ迄は納税貨幣は露羌洋なりしも、當時暴落に暴落を重ね爲に吉林省の收入激減を來したるを以

て民國八年二月より現大洋收納に改むるに至つた。
次いで、十一年九月よりは、木税百分之十と定め、更に哈爾濱に於て販賣する者は百分之六の銷場税を加收する旨規定せられ、以て今日に至る。

木石税

木税

税目	課税標準	税率	摘要
木税	從價	$\frac{10}{100}$	買、賣兩者ノ負擔
木植票費	同	$\frac{8}{100}$	同
山分	同	$\frac{6}{100}$	賣主ヨリ納税
木炭税	同	$\frac{10}{100}$	同
木料税	同	$\frac{10}{100}$	同
哈爾濱木税	賣價毎元ニ付一角八分。哈市ニ於テ販賣スル者ハ別ニ銷場税六分ヲ徴ス		
哈爾濱木炭税	毎汽車重量一萬斤ニ付大洋七元五角小賣販賣ハ賣價ノ$\frac{1}{10}$		

石税

税目	課税標準	税率	摘要
石税	從價	$\frac{10}{100}$	賣主ヨリ納付
石炭税	同	$\frac{10}{100}$	窰戸ヨリ納税
哈爾濱石税	碎石、料石		毎古板ニ付大洋二元

光面條石　　每古板賣價ノ1/10

哈爾濱石炭税　　三十二斤ヲ以テ一プードトシ、每プード賣價ノ1/10ヲ徴收ス

哈埠木石税費局收税規則

一　木税値百抽十凡在哈埠銷售者另收大成銷場税（包括方木、元木道木火柴板片木杆等數項）

道路公司用木按砍木章程第七條計量徴收票費

華俄各商外賣木植

甲　沿鐵路方本每根估價現大洋四元至六元。元木每根自二元至四元。道木每根八角、火柴每古磅十二元

乙　哈埠方木每根估價吉大洋六元至十元。元木每根自四元至七元、火柴每古磅二十四元

丙　沿江方木每根估價吉大洋三元至五元。元木每根自二元至四元。火柴每古磅十五元

一　木植票費按木税八成繳納（公司用木祗收票費）

民國九年三月財政廳通令各税局凡納木税者一律附徴八成木植票費

一　石　税　　碎石料石每古磅估價現大洋十元均徴收二元

光面條石每古磅按賣價抽十分之一

民國十年九月因石價低落呈准碎石每古磅暫按一元核收現仍照案辦理

一　石　灰　　每布特按賣價抽十分之一（三十二斤爲一布特）

一　木　炭　　每火車重一萬斤收大洋七元五角、零售按賣價收十分之一

一　羊　　草　　每布特收大洋一分

以上木炭石灰羊草三項民國四年八月奉財政部令謂係吉省土產性質飭財政廳轉令各稅局一律照徵經廳通飭遵辦

一　雜　　魚　　每百斤徵吉大洋八角

一　海　　魚　　每百斤收永大洋五角八分（民國十年六月經財政廳核准）

（附註）木石稅費局附加雜款按二分徵收又每發稅票一張附收大洋二角

第十九章　煤　稅

吉林省に於ける石炭採掘は嘉慶二十一年、將軍富俊が荒山子その他二箇處の採掘を許可せしに始まり、同治七年續いて火石嶺子等八箇處を開採す。その稅銀は每炕十七兩六錢〇八厘なりしが、光緒六年煤價の百分之一に改め、二十七年、鑛務章程により煤價の百分之一・五を徵收せらるゝことゝなる。

民國五年四月、財政部は商業條例を發布し、煤稅を煤價の千分之五となせしも估價不確實の爲實行さるゝに至らず農商部會訂辦法五條により交通便利の場所は每噸銀一角五分、不便の處は銀一角を徵收したが、十二月吉林鑛產稅則を制定し、現在これにより徵稅す。

同稅則による稅率を左揭すれば

一　鐵道附近百里或百五十里以內、或船便ある交通便利の地出產の石炭　每噸大洋一角五分

一　鐵道より百里以外船便惡き地に出產の石炭　每噸大洋一角

稅票は四聯式とし一聯は通過の第一分局に止め、第二聯は財政廳に、第三聯は賣却地の稅局に送附し、一聯は納稅人持參し、本稅を納付したるものは省內何處に運銷するも重徵せらるゝことがない。

炭礦の開採は吉林小鑛業暫行條例により規定せらる。同章程によれば面積二百七十畝未滿の礦區はすべて本例により律せらるゝものにして、開採執照の下附を受けんとするものは左の註册費を納付せなければならない。

一　五十畝未滿　二十元

一　五十畝以上一百畝以下　四十元

一　一百畝以上二百畝以下　六十元

一　二百畝以上七十畝以下　八十元

吉林省改訂鑛產條例

第一條　已領採照之煤鑛應照下列各項徵收其鑛產稅

一　凡在鐵道附近百里或百五十里以內或有船路可達交通便利地方出產之煤令納每噸稅銀一角五分

二　凡在鐵路百里以外、或係並無航路可達交通便利地方出產之煤令納每噸稅銀一角

三　新定四聯運煤執照成由領有採商之煤礦商預赴本廳請領凡起運煤觔即將日期噸數據實填列於前一日報知經過第一稅局查驗截留報查一聯按月送廳查核各核商每月應納之稅務於下月十日前繳經過第一稅局　核收如逾期尚未繳清其經過第一稅局應阻止其再行轉運並本廳呈投本廳核辦

四　領有採照之煤礦商人採煤運往各市場販賣應得噸數採實填列就近報知銷售地方之稅局查驗截留稽一聯按月送應備查

五　領有採照之煤鑛商人應將發售噸數採實填列於存查聯內按月送廳查考

六　領有採照煤鑛商人自納此項出產稅後遍行全　所有常關厘金概行豁免

七　凡有持此項運煤憑單之運商經過常關局卡查驗噸數相符即放行

八　此項運煤憑單必須領有採照之鑛照方能持用若私行農給未經領照之礦商使用或藉以販運未曾領核各礦之煤質希圖

朦混取巧者一經查出除將其所運之煤悉數充公外並由各該稅局呈報本廳從重處罰其情節較重者由本廳呈部註銷其鑛業權

九　此次改用定額稅法本以免計算估價之煩卽以絕徵收官吏之弊故不問其爲煤塊煤渣亦不問其價値若何祗要按噸納稅

十　海關稅與復進口半稅由部會同稅務處另議辦法

第二條　領有採照之金類應照下列各項徵收其鑛產租

一　凡已領有採照之金銀銅等海除遵照鑛業條例第八十一條之規定按出產地平均市價繳納國家稅千分之十五外應附徵地方稅千分之十五

二　此項平均市價依礦業條例施行細則第七十二條之規定由本廳呈請農商部核定額數飭由各該稅局遵照徵收

第三條　各該稅局有稽查各礦產額數月之責如有逃稅或企圖逃稅或以多報少情事一經查出應照鑛業條例第百二條之規定處以應納稅額三倍之罰金

第四條　各鑛商應遵照鑛業呈文圖表程式第十九號按期將採鑛噸數販賣噸數列表呈報本廳查考

第五條　各該稅局應將所徵之各種鑛產稅（不論礦之已未領照鑛質之爲金類）或石額按月詳細列表專案呈報本廳以憑彙照編訂鑛稅統計

第六條　凡未經領照之鑛或已領過採照之鑛其鑛質未經物許出售者應仍照吉向章納稅不得援引此項新章

第七條　此項新章以民國六年一月一日爲實行之期對於以前滯納稅款不能發生效力

吉林小鑛業暫行條例（民國六年九月十二日）

第一條　凡在民國六年九月三十日以前經各縣知事核明已經開採之各煤鑛々區不滿二百七十畝其他各鑛區不滿五十畝者均稱爲小鑛適用本條例之規定其向來未經開採各鑛不得援引此條例

第二條　前條小鑛之開採人應於本年九月三十日以前來廳稟請註冊領照前項小鑛執照由農商部頒發本廳給發

第三條　前條小鑛々照之有效期間自註冊之日起算爲三年但得於期滿前稟展限

第四條　小鑛不得與外人合股或借用外國資本

第五條　稟請換給小鑛執照者依左列各款繳納註冊費

甲　煤　鑛

一	不滿五十畝者	二十元
二	五十畝以上一百畝以下	四十元
三	一百畝以上二百畝以下	六十元
四	二百畝以上二百七十畝以下	八十元

乙　其他各鑛

一	不滿二十畝者	二十元
二	二十畝以上三十畝以下	四十元
三	四十畝以上五十畝以下	八十元

第六條　鑛業條例第七十八條、第八十二條、第八十三條之規定於小鑛均適用之

第七條　小礦應仍照吉省向章納稅不得援引本廳新定之領照各礦納稅章程（此項新章已由技術員列入常期調查報告表內另文呈報）

第八條　小礦商由縣知事或關稅局長會同縣知事或由商會轉請知事查明品行端正出具保結爲合格

第九條　本條例自公布日施行

財政廳兼理礦務職守規則

第一條　各省財政廳稟承農商部兼理各該省節礦務

第二條　凡礦業條例及其他關係法令所定礦務監督署之職權職務均由財政廳行之但探礦執照須詳請農商部核准給發

第三條　財政廳因兼理礦務應添設礦務科分置事務員及技術員

第四條　事務員應辦事項

一　關於礦業之提唱獎勵及監督

二　關於礦權之特許及撤銷

三　關於礦稅及公費之徵解

四　關於礦業之訴願訴訟

五　其他關於礦務之行政

第五條　技術員應辦事項

一　關於礦區之查勘

二　關於鑛業之調査
三　關於地質鑛床之調査
四　關於鑛工之警備
五　關於鑛質之化驗
六　其他關於鑛業之技術
第六條　事務員一人至三人由財政廳原有職員兼充承兼理鑛務長官之命執行其職務
第七條　技術員一人至三人由農商部選充承兼理鑛務長官之命執行其職務
第八條　依前二條規定事務員及技術員之定額視各該省鑛務繁簡由兼理鑛務之財政廳長擬詳農商部核定
第九條　各省財政廳因兼理鑛務得酌添經費擬詳農商部核定列入預算
第十條　本規則自呈奉大總統核准之日施行

第二十章　車捐、船捐

車捐は光緒二十七年の創辦に係り、省城に於ては工程局之が徴收に當り、その收入は道路修築費用に充當された。外城に於ては始め各等餉分局により徴收されしも、後統稅局より徴收せらるゝことゝなり、而してその收入は道路修築及軍費に使用された。

革命以後は各地方につき徴收定額定められ、その收入は軍費に充當され尚餘裕あるときは之を警察費に使用された民國八年十二月、財政廳は各地の車捐統一なく、爲に紛岐屢々起るに鑑み、黑龍江省の例に照し劃一車捐章程を制定し以て今日に至る。

船捐中、郵船局に於て徴收する江防經費以外の新城府の課捐は光緒三十四年の創設にかゝる。次いで同年雙城、寧古塔にも設けられ。其の後順次各縣に實施せらる。その捐率を左掲すれば

甲　汽　船

六十噸以上積載するもの	每次	吉大洋	一元八角
四十噸以上積載するもの	同	同	一元二角
二十噸以上積載するもの	同	同	六角

乙　風　船

八萬斤以上積載するもの	每次	吉大洋	一元六角

六萬斤 同	同	同	一元二角
四萬斤 同	同	同	八角
三萬斤 同	同	同	六角
二萬斤 同	同	同	四角
一萬斤 同	同	同	二角
一萬斤 未滿		大洋	一角
丙 漁船			
一 大網、漁流にして二里以上に亙るもの	毎季	吉大洋	八元
一 同 半里に亙るもの	同	同	四元
一 其他	同	同	三元
丁 渡船			
一 城鎭附近にあつて車馬を渡す大船	毎年	吉大洋	十五元
一 村鎭 同 同	同	同	十元
一 城鎭にあつて人を渡す小船	同	同	六元
一 村鎭にあつて人を渡す小船	同	同	四元

車捐則は

本省車捐

甲　營業快馬車　每輛　每月　大洋　一元
乙　東洋車　同　同　同　二角
丙　五套以上ノ大車　同　同　同　二元
丁　一、二、三套大車　同　同　同　一元五角
戊　一套大車　同　同　同　一元
己　轎車　同　同　同　一元
庚　民戶自用快馬車　同　同　同　三元
辛　營業汽車　大號　每輛每月　同　十二元
　　　　小號　每輛每月　大洋　六元

外省車捐

甲　四套以上大車　每輛　每回　大洋　三角
乙　三套以下大車　同　同　同　二角
丙　轎車　同　同　同　一角

省城大車捐

甲　寬輪者一套乃至二套　每輛　每月　大洋　一元

每一套ヲ加ヘル每に二角ヲ加フ

乙　花　轎　車　　同　　同　　大　洋　一　元　二　角

同　四角ヲ加フ

丙　運　貨　大　車　　一套乃至五套每套每月　　大　洋　一　元　四　角

每一套ヲ加フル每ニ二角ヲ加フ

吉林全省劃一車捐章程

第一條　本章程ハ商民便利ノ爲捐率ヲ統一スル見地ヨリ改訂シタルモノニシテ車捐ノ取扱方法ヲ劃一シ稽徵ニ便スルト手續ヲ省略セントスルモノナリ

第二條　該項車捐ハ省會警察廳長、長春警察廳、濱江警察廳各縣警察所ヨリ每月徵收シ、各徵收主管廳縣ヨリ捐款清冊、牌照清冊各ヲ一冊ヲ造具シ收款及截用票根專案ヲ添附シ財政廳ニ納付シ並ニ省長ニ呈報ス。

第三條　本章程實行後ハ從前ノ國家地方各種車捐ハ一律ニ停止ス

第四條　從來車捐ヲ徵收セル地方及未タ車捐ヲ施行セサル各縣ニシテ新定劃一辦法施行後徵收スル捐款ハ第十六條ニヨリ百分之五ノ徵收經費ヲ控除シ、其餘ノ九割五分中、三割五分ヲ國庫ニ歸シ、六割ヲ地方ニ留メ警、學各項經費ニ充ツ

十年十一月ヨリ一割五分ヲ國庫ニ歸シ八割五分ヲ地方ニ留メ警學各項經費ニ充ツルコトニ改定ス

第五條　本省車牌ハ洋鐵ヲ藍色ノ地色ニ塗リテ白書シ、免捐車牌ハ白地ニ藍書シ、廳ヨリ編號シテ交付ス、而シテ外

省ノ車牌ハ厚白紙ヲ用ヒ同樣廳ヨリ印發シ記號ヲ附セス、牌洋ノ用紙ハ財政廳ヨリ支出ス
十年一月以降改メテ所要ノ車牌執照ノ工料費ハ警察及縣署ヨリ、實費ヲ徴スルコトニ改ム

第六條　各種車捐等シク該管警區ニ出頭ノ規定ノ等級ニヨリ報明シ領牌納捐スヘシ。モシ本章程公布實施後徴收期間ヲ經過スルモ納捐セス、若クハ等次ニヨラス套數ヲ減報シタル者ハ補捐スル外、該捐率ノ二倍ノ罰金ニ處ス

第七條　各車戸既ニ牌照ノ下附ヲウケタル後ハ、經過スル警區毎ニ牌照ヲ提出シテ檢査ヲウクレハ、直チニ放行サレ扣留再徴セラルルコトナシ

第八條　各車牌、照捐ハ營業用馬車(洋式)、人力車ニ限リ毎月徴收ス。ソノ他ノ車ハ均シク冬季一次徴收シ、十月ヨリ十二月末日ヲ以テ徴收期間トス。毎年徴收スル各種車輛ノ捐率ハ左ノ如シ

一　本省車

	種別				
甲	營業快馬車(洋式)	毎輛	毎月	大洋	一元
乙	東洋車	同	同	同	二角
丙	大車及爬犁(橇)五套以上ノモノ	同	毎年	同	二元
丁	二、三、四套ノモノ	同	同	同	一元五角
戊	一套車或ハ爬犁ハ	同	同	同	一元

十年一月吉林縣ノ申請ニヨリ爬犁ハ一律ニ驗牌照ヲ免ス

己	橋車ハ	毎輛	毎年	大洋	一元

庚　民戸ノ自用スル洋式馬車ハ　每輛　每年　大洋　三　元

（十二年六月營業用自動車ハ現大洋五元ニ改收）

以上甲乙己庚等ノ馬車　東洋車、轎車ヲ除ク外、ソノ丙、丁、戊ノ稱フル所ノ套數ハ均シク所用ノ牛馬ノ數ヲ指示スルモノトス。鐵輪、花輪、木輪ノ各種雜多ナルモノニ至ツテハ一律ニ包括シ只套數ヲ計上シ種類ヲ分タス。ソノ民戸自用ノ洋式馬車ニシテモシ密カニ營業スルモノハ査出ノ上規定ニヨリ處罰ス

一　外省過路車

甲	大車及爬犁四套以上ノ者ハ	每輪	每次	大洋	三角
乙	三套以下ノ者	同	同	同	二角
丙	轎車	同	同	同	二角ヲ收ム

第九條　本省車輛牌照ノ書換納捐ハ一年ヲ以テ有效期間トシ外省車ハ入境ノ際納捐シ二箇月ヲ以テ有效期間トス期限ヲ經過セハ所在地警區ヨリ徵收ス

第十條　各車戸每年納捐ハ收捐期日內ニ牌照ノ書換交付ヲ受クヘシ違反者ハ追徵スル外、捐率ノ二倍ヲ處罰ス、但シ民間ニシテ隨時外省ヨリ購入シ若クハ自ラ製造シ其購入若クハ造出時期カ當該年度ノ十二月以前ナルモノハ全年ヲ完納シ十二月以後ノモノハ半箇年分ヲ納付スヘシ

第十一條　軍用・官用各種車輛ハ財政廳ヨリ別ニ免捐照ヲ發給シテ之ヲ區別ス

第十二條　車牌ニシテ遺失若クハ破損セル時ハ捐照ヲ攜帶シ原發警區ニ赴キ理由ヲ聲明シソノ補發ヲウケ牌費大洋三

角ヲ納付スヘシソノ捐照ヲ遺失シタル者、若シ本省車ナル時ハ車牌ヲ檢査シ符合セハ別ニ新照ヲ發給スルヲ准シ大洋一角ヲ收費ス、モシ外省車ニシテ牌照ヲ遺失スル者ハ別ニ車捐ヲ徵收ス

第十三條　人力車夫ノ受領セル車牌ハ車ノ後面見易キ箇所ニ附着シソノ他ノ各車ハ車ノ左轅外側ニ附着シ均シク隨時捐照ヲ携帶シ以テ檢査ニ備フ

第十四條　車輛ニシテ其所有者ヲ易ヘタル時ハ牌照ハ均シク有效ニ繼續シ下次納捐ノ際申請ノ上姓名ヲ更換ス

第十五條　車夫脫捐ノ罰款ハ所定ニヨリ五割ヲ沒收シ五割ヲ賞ニ充ツ

第十六條　各經徵警區ノ徵收スル車捐ハ實收總數內ヨリ百分之五ヲ扣除シ收捐員ノ給與ニ充當ス

第十七條　各項車牌ニシテモシ僞造シ査出セハ官文書僞造律ニ準シ法廷ニ交付シ處罰ス

第十八條　本章程ニシテモシ不備ノ點アラハ隨時之ヲ修正ス

第十九條　本章程ハ省長公署ノ核准ヲ受ケ公布ノ日ヨリ施行ス

吉林全省劃一船捐章程

第一條　本章程ハ船捐統一徵收ノ見地ヨリ吉林全省各縣徵收機關及船戶ハ均シク之ヲ遵守スヘキモノトス、而シテソノ從前制定ノ地方船捐規則ハ本章程施行後一律ニ廢止ス

第二條　各項收捐辦法ニ就テハ、ソノ輪船風船ハ行船積貨ノ都度納付スヘキ捐率ヲ定メ、漁船ハ兩期ニ分チテ徵收シ每年六月ヲ以テ第一期トシ九月ヲ以テ第二期トス、其他渡船等ハ年ニヨリ計算シ每年六月ヲ以テ徵收ノ期トス各項船隻ノ納付スヘキ捐ノ數額分別規定次ノ如シ

甲 汽船 凡ソ六十噸以上ヲ積載スルモノハ毎次吉大洋一元八角ヲ徵收シ四十噸以上ハ毎次吉大洋一元二角、二十噸以上ハ毎次吉大洋六角ヲ收ム

乙 風船 凡ソ八萬斤以上ヲ積載スルモノハ毎次吉大洋一元六角ヲ收メ、六萬斤以上ハ毎次吉大洋一元二角、四萬斤以上ハ毎次吉大洋八角、三萬斤以上ハ毎次吉大洋六角、二萬斤以上ハ毎次吉大洋四角、一萬斤以上ハ毎次吉大洋六角、一萬斤未滿ハ均シク大洋一角ヲ收ム

丙 凡ソ夏季使用スル大網冬季穿ツ漁濠ニシテ地面二里ヲ占ムルモノハ毎季吉大洋十五元、一里ヲ占ムル者ハ毎季吉大洋八元、半里ヲ佔地スル者ハ毎季吉大洋四元ヲ收メ隨處ニ大網ヲ行使シ漁濠ヲ穿タザルモノハ夏季吉大洋三元ヲ收ム

丁 渡船、城鎭附近ニアル大船ニシテ車馬ヲ渡スモノハ毎年吉大洋十五元ヲ收メ、村鎭ニアル大船ニシテ車馬ヲ渡スモノハ毎年吉大洋十元ヲ收メ城鎭附近ノ小船ニシテ人ヲ渡スモノハ毎年吉大洋六元、村鎭ノ小船ニシテ人ヲ渡スモノハ毎年吉大洋四元ヲ收ム

第三條 汽船、風船ノ起點及終點カ一箇處ニ非ルモノハ各稅捐徵收局ヲ以テ徵收機關トシ漁船渡船ニシテ均シク固定ノ地點ニアルモノハ各縣財務處ヲ以テ徵收ス凡ソ行駛ノ船隻ハ出發前該處ノ徵收局ニ赴キ規定ノ捐ヲ收メ、漁船渡船モ亦規定ノ期間內ニ納付スヘシ

第四條 各縣局所ノ徵收船捐ハソノ七割ヲ以テ吉林省水警經費ニ提供シ、ソノ餘ノ三割ハ徵收經費ヲ控除シテ外ハ均シク留メテ地方警察或ハ本地舊有ノ水警經費ニ充當スルヲ許ス

第五條　此項船捐ノ執照ハ各該縣局ヨリ納捐人ニ發給シ第一聯ハ縣局ニ保存シ第二聯ハ毎月警務處ニ提出シ稽核ヲ受ク其捐票ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム

第六條　此項船捐ハ徵收機關ヨリ毎月捐款簿據ヲ造具シ送付スヘキ捐款ト連同シテ警務處ニ提出シテ水警經費ニ充當ス而シテ警務處ハ省長公署ニソノ旨呈報シ備案ス其殘餘ノ補助警款ハ各該縣警察所ノ收支計算ニ列入シ經費ニ充當ス

第七條　凡ソ各船隻ハ自ラ該管徵機關ニ報明シ規定ノ捐ヲ納ム、モシ故意ニ隱匿脫漏ヲ圖リ申告セサル者或ハ抗拒シテ納捐セサル者ハ査出シ直チニ違警罰法第三十三條ニ依リ處罰シ懲戒ヲ示ス

第八條　各縣局カ船捐徵收ヲ委任スル者ハ家道殷實、品行端方ナル者ヲ以テ合格者トシ委任後ハ警務處ニ呈報備案スモシ不正ノ行爲アリタルトキハ法ニヨリ懲罰シ、又捐款ニ損失若クハ不足ヲ生シ該員賠償シ能ハサルトキハ主管官ハ連帶責任ヲ負ヒ數ニ照シ賠償セシム

第九條　本章程ニシテモシ不備ノ事宜アルカ或ハ施行後障害發生シタルトキハ隨時呈請修正スルコトヲ得

第十條　本章程ハ省長公署ニ申請認可公布ノ日ヨリ施行ス

省城車捐章程（民國十三年六月十四日）

第一條　本章程徵收各種車捐以省城內爲限商埠另有專章不在此例

第二條　收捐各車名目列後

甲　馬　車

乙 汽 車

丙 新改寬輪花轂轆車

丁 窄輪花轂轆車

戊 大 車

己 轎 車

庚 人 力 車

辛 平 車

第三條 以上各種車輛分營業自用兩項應收捐款分月捐年捐兩種其數目列後

一 馬車無論玻璃皮篷凡營業者每轄每月捐永大洋一元自用者全年捐永大洋二元

一 汽車營業者每轄每月捐永大洋二元自用者免捐

一 寬輪花轂轆車營業者每輛每月捐永大洋一元自車者全年捐永大洋二元

一 窄輪轂轆車營業者每輛比月捐永大洋一元二角自用者每月捐永大洋五角

一 大車營業者每輛每月捐永大洋一元四角自用者每月捐永大洋五角

一 轎車在城內營業者每輛每月捐永大洋五角各車店轎車赴省城外拉腳者每年捐永大洋四元

一 人力車營業者每輛每月捐永大洋二角自用者永年捐永大洋一元

一 推水手車推菜手車推糞手車推煤手車推磚瓦手車推黃土手車以及售賣食物果品各手車非小販籍資餬口卽受雇拉運

各物并無直接營業性質姑暫行一律免捐

第四條　花轂轆車均以二套爲限每添一套寬輪車加收永大洋二角窄輪者加收永大洋四角大車以五套爲限每添一套加收永大洋二角

第五條　納捐期間人力車交納月捐自每月初一至初十日其他各車交納月捐自十一日至二十日交年捐者以每年一月爲限逾此期限違章處罰

第六條　各項車輛商已在警廳報捐有案者須將前領執照及上屆捐票呈由本公所查驗仍准繼續有效如係初次報捐應將車輛存在警區廠店住所或住戶姓名報請本公所註冊一俟領有執照號衣車牌方准營業

第七條　報捐各車遇有遷移易主或停業等事除照向章報明警署外仍隨時報由本公所更正底冊

第八條　凡四鄉常川入城拉腳及城內商號自製運貨各大車均以營業論照章納捐其尋常來城售賣糧米柴草者不在此例

第九條　各項車輛有應免捐或暫行免捐者由本公所公同該管警署查明給予特許免捐車牌以備查驗

第十條　免捐車發給銅質方形車牌自用車發給銅質長方形車牌營業車發給洋鐵橢圓形車牌以示區別

第十一條　各車輛用號衣車牌應按原製數目分別酌量收價

第十二條　車輛納捐後所領捐票均由各該車夫隨身携帶以備稽查

第十三條　營業各車々夫均由各該車廠商店經理人負責如有潛逃偷漏或發生別項事故致逾納捐期限無從催繳者所有應納捐款即責成該管理人賠補

第十四條　官商包月車輛如查無營業行爲於包月期內暫准照自用車收捐

第十五條　應行納捐各車有左列情形之一者除令補繳正捐外依後開各款分別處罰

一　未報捐而私自營業者

二　雖報捐而不按月續交捐款者

三　遷移或易主或停業而不報者

四　冒報自用者而實營業者

五　兩車合上一捐者

以上均照應納正捐數目加三倍處罰

六　所報牌照查與原車種類不符者

七　報失之車復經發現而不報捐者

八　私造牌照者

以上均照應納徵收數目加三倍處罰

第十六條　處罰後不卽遵繳罰款延至一月以上時卽追繳原領牌照勒令停止營業

第十七條　本公所徵收捐款及載用票根仍按月造冊咨送財政廳査核備案

第十八條　本章程自省長公署核准之日施行

第二十一章　地　方　稅

第一節　總　說

地方稅とは本省の各縣に於て縣下の行政經費に充當せんが爲、隨時捐則を發布して財政廳の認可を經て徵收する稅にして、通常各縣は地方財務處なるものを附設してこの項徵稅に當らしめてゐる。

地方財務處は前淸宣統年間農安縣に創設せられ、その成績大いに見るべきものありしに鑑み、その後各處に漸々と設置された。然るに民國三年、財政部令により各種稅捐劃一徵收の旨發表せらるゝや、各稅捐は悉く省財政廳直轄の徵收局により經徵さるゝこととなり、各縣財務處は一先づ裁撤された。然るに五年十月部電を以て國家地方兩稅の劃分決せられ、地方稅徵收の爲各縣の財務處は再び設置された。依つて財政廳にては地方財務處通行規則を制定し申請認可の上之を實施せしも、各縣財務處が從來任意に公款を支出するに於ては、これが稽査の方法なく且費消の弊なきを免れざるを以て、十二年四月これが檢査取締方法を決定し、省署に申請の上、派員整理し、並に地方財務處章程を改正して民國十二年七月一日より之を實施した。

修正吉林省各縣地方財務處章程（民國十三年六月五日）

第一條　地方財務處ハ全縣地方收入支出一切ノ款項事宜ヲ管理シ縣知事之ヲ監督ス

第二條　財務處ハ主任一員ヲ設ク。主任ハ縣知事ヨリ地方自治機關ヲシテ法ニヨリ品望アリ家道殷實ナル紳士三人ヲ選擧セシメ、財政廳ニ呈請シ內一人ヲ選委ス、委定後ハ省長ニ彙報備案シ、並縣ヨリハ殷實ナル商號三名ヨリ保證ヲ徵シ廳ニ送リ保存ス、自治機關未回復以前及自治機關未設置地方ニアリテハ縣知事ハ地方公正紳士ヲ遴送財政廳ニ呈請委任ス

第三條　財務處主任ノ任期ハ三年トシ期滿ツレハ第二條ノ規定ニヨリ選擧シ、當選者ハ繼續連任スルヲ得

第四條　財務處ハ事務ノ繁簡ヲ酌量ノ上、事務員ヲ設ケ收支庶務、文牘徵收等ノ事務ヲ分任セシメントスルトキハ主任ヨリ選任シ縣知事ニ呈請シ委任スルコトヲ得

第五條　財務處ノ經費ハ縣知事ヨリ地方ノ情況ヲ參酌シ豫算書ヲ編造シ財政廳ニ呈送核定ス、但シ全年支出數額ハ收入ノ百分之五ヲ限度トス

第六條　每年度前財務處ハ次年度ノ地方全部ノ歲入歲出各款ノ豫算書ヲ編製シ縣知事ニ提出査定ヲ受ケ、更ニ知事ヨリ財政廳及本管轄道尹ニ分報シ査閲ヲ受ケタル上財政廳ヨリ彙編シ省長公署ニ呈請シ省議會ニ咨送シ議決ノ上施行ス

第七條　財務處ハ每月收入支出計算書ヲ編造シ、縣知事ニ提出シ査定ヲ受ケ、更ニ知事ヨリ所管道尹及財政廳ニ分報査閲ヲ受ケ別ニ一部ヲ錄シテ通路ニ揭示ス

第八條　地方收入ニシテ從來商會或ハ各項機關カ代徵セルモノハ一律ニ財務處ニ歸シ徵收ス、モシ特別ノ事情アラハ該處ヨリ酌量ノ上原徵機關ニ委託シ代徵スルコトヲ得、但財務處ハ完全ニ責任ヲ負フモノトス

第九條　財務處所有ノ各項捐票ハ財政廳ニ統歸シ制定ノ上、各縣ヨリ呈領ニ塡用シ各縣ハ私印スルヲ得ス違フモノハ處罰ス

第十條　各種捐票ハ三聯式ヲ用ヒ財政廳ヨリ分別編號シ廳印ヲ蓋用シ一聯ハ處ニ保存シ一聯ハ納捐人ニ發給シ殘一聯ハ月末收捐月報ニ添附シ縣ニ呈シ廳ニ納メ廳ハ收捐數目ニヨリ對査ス

第十一條　前項捐票ハ毎百枚ニ付工費大洋一元ヲ收メ各縣ヨリ領票ノ際納入ス該工費ハ財務處カ負擔スヘキモノニシテ諸納戸ヨリ徴收スルコトヲ得ス若シ徴收シ事端ヲ惹起スルコトアラハ納税人ノ告訴ヲ許ス

第十二條　財務處ノ收納スル捐款ハ毎日預金證書ヲ塡具シ縣知事ニ提出ノ上記名調印シ官銀號分號若クハ永衡商號ニ預金ス官銀號分號若クハ永衡商號未設ノ縣ニアツテハ其他殷實ナル商號ニツキ預金スヘシ、但シ錯誤ヲ生シタルトキハ財務處主任ソノ賠償ノ責ヲ負フモノトス

第十三條　財務處カ金錢ヲ支出セントスルトキハ支拂證書ヲ塡具シ縣知事ニ提出シ記名調印ヲ受ケタル後、官銀錢分號或ハ商號始メテ該金額ヲ支拂フヲ得。モシ記名調印ナキモノハ官銀錢分號或ハ商號ハ支拂ヲ拒絶スルコトヲ得

第十四條　前條預金證書及支拂證書ハ財政廳ヨリ樣式ヲ規定シ縣ヨリ印行シ(三聯單)第一聯ヲ處ニ止メ、第二聯ヲ商人ニ交付シ以テ證トナシ第三聯ハ處ヨリ縣ニ提出シ査定ニ備フ

第十五條　各縣財務處ノ使用スル簿據ハ均シク縣署ヨリ制定分別編號シ縣印ヲ蓋用ス但シ所用ノ各種簿據ノ名目ハ財政廳ニ呈收ノ上備案ス

第十六條　本章程ノ施行細則ハ縣知事ヨリ財務主任ニ督同シ地方情狀ヲ酌量ノ上別ニ訂定シ財政廳ノ認可ヲ受ケ施行

ス但シ本章程ト抵觸スル所アルヲ得ス

第七條　本章程不備ノ點アラハ財政廳ヨリ隨時修正ノ上省長公署ニ呈請シ省長公署ヨリ省議會ニ咨交シ通過ノ上施行ス

吉林省整頓各縣地方財政懲罰規則（民國十三年十二月十八日）

第一條　各縣地方收支事宜由縣知事督飭財務處主任辦理縣知事主任經徵人員均應遵守之

第二條　財務處主任綜理全縣地方收支事宜每月應行呈送左列各項書冊

甲　關於收入事項

一　收支各類四柱清冊

二　票照四柱清冊附票照繳査

三　收入計算書

乙　關於支出事項

一　支出計算書

二　單據粘存簿

三　收支對照表依國務院頒發格式辦理

第三條　財務處主任每月將第二條所列件限於次月五日以前呈送該管縣署核轉

第四條　各縣知事收到第二條所列各項核明之後按左列期限將收支兩項分案報廳不得遲誤

吉林縣　伊通縣　雙城縣　阿城縣　西安縣　長春縣

濱江縣　雙陽縣　德惠縣　榆樹縣　葦沙河設治局　烏珠河設治局

以上各縣及設治局限次月十五日以前到廳

寧安縣　五常縣　額穆縣　舒蘭縣　樺甸縣　磐石縣

長嶺縣　扶餘縣　敦化縣　賓縣　方正縣　穆稜縣

以上各縣限次月二十日以前到廳

依蘭縣　密山縣　延吉縣　樺川縣　琿春縣　同賓縣

東寧縣　富錦縣　同江縣　濛江縣　綏遠縣　虎林縣

饒河縣　汪清縣　和龍縣　寶清縣　勃利縣

以上各縣限次月二十五日以前到廳

第五條　縣知事具報呈內應將財務處造報到縣日期敘明以專責任而免推諉

第六條　縣知事財務處主任違第三條第四條之規定期者依左列各項處辦之

甲　應報各件愈定限五日以上者記一次十日以上者記大過一次積三過爲一大過積大過至三次者財務處主任由廳撤任縣知事並由廳呈請

乙　每記過一次照例罰俸十元大過一次罰俸二十元

丙　遇有特別障碍情形或非常變故者應先電請展期一經奉准免予置議但亦祇准展一次爲限如再逾延仍依條文辦理

第七條　縣知事之處分由廳考核應繳罰俸款項由廳於應領經費內核扣歸公如係坐支縣分令飭逕繳不得遲延財務處主任之處分經廳核定後由縣知事於該主任應領經費內核扣撥充地方公用但須具報備案

第八條　經收人員丟失票照依各該同月同項捐項最多之票額計張罰款繳廳歸公

第九條　經收人員査有侵蝕公款及其他不正當行爲除撤免外按贓私款額加以十倍至六十倍之處罰員書司巡舞弊除科員司書巡外該管主任並應連帶負責按本規則處罰其情節較重者處罰仍另送法廳依法治罪

第十條　本規則呈准後自十四年一月起施行

左に主なる捐目についての沿革を記せば

一　營業附加稅

吉林には營業稅の名目がなかつたのであるが、商會より徵收しつゝあつた地方稅を改めて營業稅としたのである。その使途は各縣に於て或は警學に充て或は自治に充て一定してゐない。長春の營業稅は光緒三十四年、省城自治局より稟請して轉辦を許されしものである。賓州、磐石、農安等も之に照して開辦されしものに係る。雙城府、依蘭府、濱江廳、阿城穆稜二縣は宣統元年の開辦、宣統三年の開辦は五常樺川にして其他の延吉、密山、伊通、琿春、樺甸等の處は開辦の年月は未詳なるも、一切の章程は他と大した差異もない。長春府の營業稅は別に專局を設けず商會及殷實の店舖四家より代徵せしめ之を警學商會自治等の經費に充てしめ、その三割額のみを省庫に送付せしめつゝある。

地方稅徵收稅表

通用三聯

甲

地方捐票

吉林財政廳為存查事今據
報
照章每　應納捐
共納捐
已由　局如數收訖

中華民國　年　月　日

局章

字　號收捐

此聯存徵收機關

通用三聯

乙

地方捐票

吉林財政廳為繳查事今據
報
照章每　應納捐
共納捐
已由　局如數收訖除分別存發外仰
按月彙繳查核

中華民國　年　月　日

局章

字　號收捐

此聯繳本廳

丙

地方捐票

吉林財政廳為發證書事今據
報
照章每　應納捐
共納捐
已由　局如數收訖除截存根繳查外
今給票據以備查驗

中華民國　年　月　日

局章

此聯交納捐者收執

賓州農安に於てはこの中より審判廳經費を支出し二割のみを省庫に送る。

その捐則は、長春、依蘭、五常の各府、及農安、樺川の各縣は賣價の$\frac{1}{100}$その他地方は未詳

二 糧石公捐

糧石公捐とは斗稅附加稅の謂である。故に之を斗合捐と云ひ糧捐と云ひ又糧用と稱す。光緒三十三年府尹陳氏始めて斗合捐の徵收を請願し農家の賣糧時に每斗一合を徵收して之を斗合捐と名付けた。而して之を行政官署の各不足金に充當した。その後糧業公所をして照章徵收せしめたが、間もなく統稅局に統一し一律に地方自治經費に充當しつゝある。當時の捐則は

雙城府	上等糧產	每石捐錢	六十文
	中等同	同	四十文
	下等同	同	三十文
阿城縣	上等	每石捐錢	三百文
	中等	同	二百文
	下等	同	一百文

寧安府　賣價一吊につき納捐二十文賣手、買手各半額を納付、一石に足らざるものは免稅

方正縣　每一吊　二十文

三　屠捐

宣統元年十月吉林省は東關場、西關場、北關場三の屠獸場を設立したが、その辦法に種々の不便ありたるを以て未だに送場屠宰さるゝに至らず、僅かに屠戸より無病なる者を申請し執照の下附を受け、章に照し捐を納入し自ら屠宰を行ふの狀態にあつた。

光緒三十四年府城北門外に商會より屠獸總場を設置し四箇處に分所を設け徵收の捐款は悉く之を局用に充てた。濱江廳にては養濟習藝兩所の經費足らざるを以て光緒三十四年、屠捐を徵して兩所の經費に充當し農安縣は宣統元年より開辦し、琿春廳も商家をして包辦せしめた。

當時の捐則を左揭すれば

省城屠捐

猪	每一口捐洋	五角
驢騾馬	每頭捐洋	一元
牛	同	二元
羊	同	三角

每一圓制錢三吊として換算

凍猪	一口捐洋	五角

長春毎宰

牛	一頭捐錢	六吊
騾馬	同	三吊
驢	同	二吊四百文
猪	同	一吊五百文
羊	同	九百文

濱江廳　毎家收羌洋二圓計十二家、月收約三十圓

農安、琿春廳　商家包納二千六百五十吊

四　舖捐

吉林省の舖捐は長春府幷ビ公議會と協議の結果、光緒三十二年八月に開辦されしものである。その毎年月徴收定額を定め、吉錢一萬零七百五十六吊三百五十文とし之れを等しく警察費に充てた。依蘭府は同三十三年の創辦に係り商會より、賣買等級に按じて中錢三萬九千九百四十餘吊を徴收し、密山府には龍王廟、水曲龍崗二處に舖捐を徴收し、これ以外に延吉府、濱江廳、東寧廳、琿春廳、樺甸縣に皆この名目あり、主として警察費に充當しつゝある。當時の捐則を左掲すれば

長春府

一等(資本金一萬吊以上)　年捐錢　一百二十吊
二等(資本金五千吊以上)　同　九十吊
三等(資本金二千吊以上)　同　六十吊
四等(資本金一千吊以下)　同　三十吊
資本金百吊に及ばざるもの　免捐

延吉府

七等に分ち納捐光緒三十四年五月より十等に分ち納捐

蜜山府、水曲柳河

一等　歳捐錢　一百四十四吊
二等　同　九十六吊
三等　同　四十八吊
四等　同　二十四吊

龍王廟

一等　同　一百吊
二等　同　六十一吊八百文

濱江廳

一等捐(羌洋六角)より五等(羌洋一角)に至る

宣統元年收入吉平銀四千九百零七兩九錢四分五厘

東　寧　廳

戸　毎　徴　收　　自一吊二百文至三十吊

琿　春　廳

戸　毎　徴　收　　自六百四十文至三十吊

五　戲　捐

光緒三十二年六月吉林省城に始めて戲捐を徴收した當時は、福綏門内に僅かに天慶茶園今の丹桂一家あつたに過ぎなかつたが、宣統元年閏二月には德勝門外に翔雲茶園(後の斯美茶園)が設立され、六月には迎恩門外には同樂小戲園が設けられ、計三座が設けられ月に按じて徴捐して之を巡警經費に充當した。

光緒三十四年、巡警局に於て管理規則及納捐章程を擬立し、捐を分つて妓館捐及妓女捐の兩項となし、税率等級を三等とした。

省城外の長春府、依蘭縣、濱江廳、琿春廳、阿城縣は水陸要衝の地に當り、商務繁盛の地なれば、巡警經費を最も充實せしむるを要し、專らこの項戲捐を以て各該處巡警經費に充當した。

その他延吉府、濱州府には妓捐あつて戲捐なく、一面坡には妓捐の名目あつて月羌帖六七十圓を徴收した。

省城に於ける戲捐は元從價百分の五なりしも、宣統元年四月より一月洋十元と定め、停演時は免捐することに改めた。但し同樂座のみはこれが例外をなし依然百分之五を徵捐した。長春府は税局より戲票を發行し賣價に按し百分の十を徵收した。濱江廳には茶園四あり每月羌洋二百圓を徵收しつゝありしも、改めて賣價の$\frac{10}{100}$を徵收することゝなつた。

省城の妓館捐は頭等每月捐洋二十五圓、二等十五圓、三等五圓、妓女捐頭等按月五圓、二等三圓、三等一圓、靑妓減半、土娼捐は每人月捐一圓(制錢三吊)依蘭府上等月捐十五吊、中等十吊、下等五吊、濱江廳一頭月捐吉洋十圓、二等八圓、三等六圓、四等四圓

第二節　各　說

第一目　餉　捐

吉林省、警學を開始してより以來、その財源に窮し、每餉附加捐を附して之を餉捐と名付け以てその費用に充當せる狀態であつた。

農安縣最も早く、光緒二十六年練軍を開始してより縣下二十二萬七千二百五十四餉より、每餉年捐錢三百文を徵收し、その後一吊三百文を徵收しその後一吊三百文に增額し以て警餉に充當した。五常府、磐石、方正等の縣は三十二年の開辦、長春府、伊通州、楡樹縣は三十三年の開辦、吉林府、依蘭府、綏芬廳、樺甸、敦化等は三十四年に、開辦

さされた。而してこの頃餉捐は省庫に向つて送附することなく、徴稅箇所に止めて警學二費の支出に充てた。

當時の捐則は次の如くである。

府廳州縣	捐目	額
吉林府	每餉捐錢	八百文
	附收鄕巡局開辦	八百文
長春府	章府尹開辦兩等小學餉捐	三百文
	宋府尹開辦巡警裁撤練會所青糧	吉錢一吊文
依蘭府	每餉歲捐錢	一吊
五常府	同	八百文
綏芬廳	同	吉洋五角
榆樹縣	同	榆錢五百文
伊通州	警餉捐	東錢二吊
	學餉捐	同
長嶺縣	每餉歲捐	二百文後ニ一百文ニ改ム
甸縣	每餉歲捐錢	一吊五百文
敦化縣	同	五百文

方　正　縣　每晌蔵捐錢　至八百文至一吊

磐　山　縣　九萬三千五百五十一吊六百三十文別ニ大租地より每晌納捐錢六百文

左に現行各縣に於ける本捐について掲出する。

吉　林　縣　本縣に於ける晌捐は三種に分たる。その一は警察經費に充つるが爲に徴收するものにして、光緒三十四年より徴收を開始せられしものに係る。捐率は每晌永大洋三角、稅額は一箇年永大洋一三、三〇二元九一八。その二は教育費に充當せんが爲のものにして同じく三十四年よりの徴收に係り、每晌永大洋一角、稅額は一箇年永大洋四四、一〇〇元九七三である。他は保衛團經費に充てんが爲のものにして、民國元年よりの徴收に係り、每晌永大洋一角五分、捐額永大洋六六、一五一元四五九である。更に民國十一年よりは保衛團費の補助として每晌二角の晌捐を起しこの收入一箇年永大洋八八、二〇一元九四五である。

長　春　縣　警務、學務、保衛團費に充當せらるゝものにして、當初吉錢一吊三百文を徴收せられしも、民國四年吉小洋四角五分に改收、同七年には五角五分に增率し、九年には更に九角に、同年七月各機關經費缺乏の爲吉錢十七吊九百文に、十年には吉大洋六角三分に改められ以て今日に及ぶ。その一箇年の收入は吉大洋一四〇、三二四元五五七、吉小洋一八、四八〇元七三二吉錢三四七、五一九吊三二〇である。

伊　通　縣　宣統二年三月より徴收せられしものにして、警務、學務、保衛團、農會財務處等の經費に充當せらる。その捐率は警晌捐四角一分、學晌捐九分五厘團晌捐一角八分、農晌捐一分にして年收計永大洋一六七、四四三元五四三である。

農安縣　光緒二十六年よりの徴收に係り、警察、教育、自治、實業、慈善の各費用に充てらる。現行捐率は毎晌永大洋三角、年收入永大洋六九、七〇七元八四四である。

濛江縣　民國元年より徴收を開始せられしものにして、主として學務費に充當せらる。現行捐率は毎晌永大洋一角にしてその年收は永大洋四三三元九八五である。警務、保衞團費に充當せんが爲に徴收せられし晌捐は民國二年の創始に係り、毎晌午大洋一元八角、年收永大洋一四、五七九元七二四である。

磐石縣　警務、教育、保衞團務の費用に充當するが爲に設けられしものにして、警晌捐は糧地毎晌吉大洋三角五分、學晌捐は民地毎晌吉大洋一角五分、學田六分、團晌捐は糧地毎晌吉大洋二角五分の現行捐率である。その年收は警晌捐永大洋三七、三六六元四九九、吉錢二、七七二、八八七吊六六〇。學晌捐永大洋一五、〇九三元九二二、吉錢一、一一七、四六三吊三二七。團晌捐永大洋二六、六九二元四九六、吉錢一、九八〇、七七六吊一九三。

長嶺縣　警務、學務、團務、財務、自治の各經費に充當せらるゝものにして、毎晌大五角、年收永大洋五七、〇〇〇元である。

雙陽縣　民國七年の創設に係り當初の稅率は毎晌小洋四角五分、八年に小洋七角五分、九年に小洋一元二角五分、十年に大洋五分、十一年に八角、以て今日に至る。本捐の用途は警務、學務、團務の經費にして年收官帖七、二二五、七三二吊七三〇である。

樺甸縣　毎晌永大洋六角五分にして、その收入は警務に一角八分九厘、學務に一角〇九厘、保衞團に二角九分五厘、自治に六分、其他二厘の割に夫々充當せらる。本稅一箇年の收入吉林官帖一、八五〇、六三五吊四七六

德惠縣　本縣に於ける晌捐は三種に分たる。その一は即ち宣統二年に開始せられしものにして、主として警察、教育の費用に充當せられ、毎晌永大洋一角五分、その年收額は官帖七一九吊二六〇である。その二は民國二年の創始にかゝり、警察、教育、保衛團の經費に充當せられ、その捐率は毎晌永大洋二角、年收官帖一六、七八六吊六〇五、他は民國九年四月の開始にかゝり、毎晌大洋五角五分年收永大洋九八、三三七元九〇四である。

舒蘭縣　捐率毎年毎晌永大洋五角、その中二角二分は警務に、一角は學務に、一角八分は團務の各經費に夫々充當せられ、一箇年の收入官帖五、四二五、七七〇吊である。

濱江縣　毎晌年永大洋五角、而してその中二角は警察費に充當せられ、殘額の五割は學務經費に、三割は自治費に、二割は保衛團費に充當せらる。その年收永大洋一三、〇四五元四九八

扶餘縣　學晌捐、警晌捐、保衛團捐の三種に分る。學晌捐は宣統元年七月より徵收開始されしものにして、毎晌年三吊、年收永大洋一、〇〇一、九二〇元。警晌捐も亦宣統元年七月の創設に係り、毎晌永大洋一角、年收永大洋三三、八四二元保衛團捐は民國四年の創始にして毎晌大洋二角一分、年收永大洋五四、一四七元である。

雙城縣　本縣に於ける晌捐も亦警晌、學晌、團晌の三に分たる。前二者は同じく宣統二年の創始に係り、警晌の稅率は年大洋二角五分、年收永大洋一〇六、八七五元にして、學晌の稅率は毎晌大洋一角五分、年收永大洋六四、一二五元である。而してその團晌捐は民國六年より徵收せられしものにして稅率毎晌年二角五分、年收年毎晌永大洋一一一、九三七元に上る。

賓縣　警、學、團の各費に充當せらるゝものにして、毎晌年吉大洋五角五分、年收一三四、五九二元

五　常　縣　土地每晌永大洋六角、中地五角三分、下地四角五分、年收官帖六、〇〇二、八七四吊にして、主として警務、學務、團務、自治の各費用に充當さる。

阿　城　縣　光緒三十三年の創始に係り、捐率每晌七角六分、その收入中、警務經費に二角、學務經費に一角、保衛隊費に三角、保衛附團に一角五分、農會經費に一分夫々充當せらる。この年收入永大洋一二一、六〇〇元

楡　樹　縣　民國九年以前は吉錢每晌四吊五百文を徵收せしも、同十年每晌吉大洋三角七分に改め、更に十一年四角二分に改率して以て今日に至る。主として警察、保衛團、財務費の經費に充てられ、その年收永大洋一九四、三〇七元六〇四

同　賓　縣　本縣における晌捐は大租地附加捐、公田地附加捐、學田地附加捐、城閫地附加捐、五地門附加捐の名によつて呼ばる。大租地附加捐は光緒三十二年の創始にかゝり、每晌吉大洋九角、その收入は三角八分は警務費に、一角四分二厘五毛は學務費に、二角三分七厘五毛は保衛團費に、九分五厘は自治費に、四分五厘は財務處費に夫々充當せらる。この收入年永大洋七四、三五七元。公田地附加捐は宣統三年より開始せられ捐率用途は前者と同じく、その收入年永大洋五、二五八元。學田地附加捐は民國二年よりの賦課に係り、捐率は前附加捐と同じく、只その收入は二角三分七厘五毛は學務費に、三角八分は警務費に、二角三分七厘五毛は保衛團費に、四分五厘は財務費に充當せられ、その一箇年の收額は永大洋二四四元である。城閫地附加捐も捐率は前捐と同樣にして民國三年よりの創設に係り一箇年の稅額は永大洋二七一元、その捐率中、警務三角八分、保衛二角三分七厘五毛、財務四分五厘、城閫租二角三分七厘五毛に夫々充當せらる、五地門附加捐も捐率は同前、民國八年の創始にかゝり、三角八分は警務に、二角三分七厘五

毛は保衛團に、四分五厘五毛は財務に、二角三分七厘五毛は門租に失々充當せらる。この一箇年の收入永大洋三一五元。

烏珠河設治局　警晌、學務、團晌、自治晌の四に分たる。警晌は毎晌吉大洋二角五分年收入永大洋七、五〇〇元、學晌は毎晌吉大洋一角五分、年收入永大洋四、五〇〇元、團晌は毎晌地吉大洋二角、年收入六、〇〇〇元、自治晌捐の捐率は團晌捐と同じく、その年收年永大洋六、〇〇〇元。

延吉縣　民國五年より徵收、始め縣下大租地十一萬四千晌に對し毎晌警捐三角、學捐四角、團捐六角、自治捐四分の割に徵收せしも、現行は毎晌永大洋一元三角四分、年收永大洋一五二、七六〇元である。

他に大租特別地捐、特別晌捐あり。前者は宣統元年延吉道署放荒餘地四百十晌六畝〇四厘に對し徵收し始めしものにして、現行捐率毎晌年永大洋五角、年收永大洋二〇五・三〇二元である。後者は民國五年より開徵せられしものにして、毎晌一元三角四分、年收永大洋五五〇元二九四に上る。

琿春縣　光緒三十四年より徵收せられ、始め毎晌一吊六百文を徵せしが、八年には二吊七百文、十一年には四吊に改め、現在は永大洋二角を徵す。その收入一箇年官帖三四三、三七五吊三九一、主として警察經費に充當せらる。他に甲晌、甲乙地租、自治晌捐、團晌捐等あり。甲晌には甲兵に補助せんが爲、光緒三十四年より開始せしものに係り、年收官帖三、三〇〇吊、甲乙地租は民國九年より開徵せられしものにして甲地は毎晌永大洋一元、乙地は毎晌永大洋四角、その年收は官帖二四、五〇一吊八〇五である。自治晌捐は光緒三十四年の創始、升科地毎晌に對し、二百四十五文、年收一〇、三二一四吊、團晌捐は民國六年より徵收、捐率毎晌永大洋四角六分、年收官帖一、五〇〇、八八六吊五

三六である。

寧安縣 本縣に於ける晌捐は宣統二年より徴收を開始せしものにして、現行捐率每晌永大洋四角四分、年收官帖四、九二二、一九〇吊九五五である。その收入中、百分之六五は經徵費に、百分之四を督練處經費にその他はすべて之を警、團、學の經費に充當す。

東寧縣 本縣の晌捐は警畝捐、學畝捐、團畝捐の三種に分たる。警畝捐は宣統三年の設置にかゝり每晌永大洋年五角、その收入永大洋五、五七〇元にして元より一般警務の費用に充當さる。學畝捐は每晌年小洋二角五分、年收永大洋二、八〇〇元、團晌捐は民國九年の創始、每晌年小洋七角、年收角大洋八、〇〇〇永を算す。

敦化縣 捐率每晌永大洋八角五分、その用途は一角六分を警務に、二角八分を團務に、五分を學務に、一角を農務に、一角五分を地方保衞團務に、二角を購銃費に失々充當せらる。年收計官帖一〇八四七五吊九一〇。

和龍縣 捐率每晌永大洋六角、年收永大洋三〇、〇〇〇元、本收入は學務費、警務費に各均分せらる。他に自治地租あり。捐率は每晌永大洋一元にして年收永大洋一四〇〇元、自治經費に充當せらる。

額穆縣 民國元年一月より徴收開始、每晌大洋五角を收め、その中一角五分は警務に、二角は團務に、一角は學務に、五分は自治費に失々充當せらる。年收官帖一、五八三、九六八吊一〇三。

汪淸縣 宣統二年より徴收開始、捐率每晌永大洋一元、その中警、學務に夫々三角、團務に三角四分、自治費に六分充當さる。その年收永大洋二二、九七七元八〇九。

依蘭縣 警務、學務、團務の各費用に充當せんが爲、團捐每一晌につき永大洋四角、警捐同一角、學捐同五分

を徴收す。その年收官帖二、三二六、一七二吊八一二である。

同　江　縣　當初毎晌吉小洋三角を徴收し居りしも、民國九年二角に改め、十年再び吉大洋三角に改め以て今日に及ぶ。本捐はその中二角を警、學務費に一角を保衛遊擊隊費に充當す。この收入年永大洋一、五〇〇元。

虎　林　縣　本捐は保衛團捐と學捐の二に分たる。學捐は民國八年熊知事の時に創始せられしものにて、現行捐率は經常捐吉洋四角、臨時捐吉洋六角、にして主として勸學所、國民學校の經常、臨時各費に充當さる。保衛團捐は民國十一年よりの徴收に係り、捐率吉洋一角、主として保衛團費に充當せらる。一箇年の收入兩捐合して角大洋五、五〇〇元である。

方　正　捐　元と、毎晌吉錢二吊四百五十文を徴收せしも、民國四年、毎晌吉洋五角徴收に收め、主として學務、警務、自治、保衛團費に充つこの收入年角大洋二九一九八元。

綏　遠　縣　民國十年保衛團設立せらるゝと共に、地方の會議を經て徴收せられ主として保衛團費に充當せらる。捐率毎晌一角五分、年收入現大洋四七〇元。

穆　稜　縣　民國十年三月より徴收開始せらる。現行捐率警晌捐十吊、學捐二吊五百文、自治捐二吊五百文、團捐八角五分、年收官帖一六五、一〇二吊五六六、警務、學務、團務、自治の各費用に充當せらる。

富　錦　縣　當初吉小洋六角を收めしが、民國九年吉小洋二元五角に改め、十年吉大洋七角に改め、十一年再び吉大洋一元に改め以て今日に及ぶ。本捐率の七角は保衛に、二角は警務に、一角は學務に夫々充當せらる。この收入年永大洋五二、〇〇〇元。

饒河縣　捐率每晌大洋二角、主として警務費に充當せんが爲、徴收せられしものにしてその年收官帖一四二七二吊一二七五に上る。

寶清縣　民國八年より徴收を開始せられ、警務、學務、團務、自治、農會の各費用に充當せらる。捐率每晌吉洋一元九角、年收永大洋二四、七〇〇元。

密山縣　民國三年一月本捐を創設し、每晌五吊を收納せしが、五年一月、民國五吊五百文に改め、七年一月に八吊を改め、八年一月に十吊に、九年一月に三十吊に十年一月に百十三吊に、十一年一月に吉大洋一元二角に增率して以て今日に及ぶ。その年收入額永大洋三四、四三〇元。その中五割は警務費に、一割五分は學務費に、四割は團務費に、五分を自治費に、一割を農會費に夫々充當せらる。

勃利縣　本捐に於ける晌捐は畝捐、團捐の名によつて呼ばる。晌捐は民國七年勃利縣下の熟地五千晌に對し、每年每晌勃市錢四千吊を賦課せしに始まる。九年十月熟地を六千晌に增加し每晌每月大洋一角を收め、十五年度には熟地八千九百七十三晌とし、每晌每月永大洋一角とし、以て今日に至る。その用途は警務、學務經費に各均分す。その年收入永大洋一〇、七六〇元六〇〇、團捐は民國十一年度一月開始されしものにして、主として地方保衛隊の費用に充當せらる。捐率每月每晌大洋五分、年收永大洋五二八三元八〇〇、

樺川縣　本縣晌捐は十年度より創設せらる。捐率永大洋九角その中、二角五分は警務に、一角五分は學務に、四角は團務に、五分を自治費に、五分を彈丸費に夫々充當せらる。この年收官帖七、九四四、七五二吊九六〇。

第二目　營　業　捐

營業捐は元、商會が徵收する地方稅を改變せるものである。長春に於ける營業稅則は光緒三十四年省城自治局より申請認可を經て開始するものにして、これに引續き各縣は同時に前例により申請認可を得たるものである。左に各縣に於ける本捐について記せば

吉林縣　光緒三十四年より徵收、經徵機關は省城內は總商會、烏拉街は誠信商會、捐率は賣上高一吊につき十文、その收入は警察、教育、自治の各經費に充てらる。年收官帖二、一一〇、〇〇〇吊。

長春縣　徵稅機關は營業稅公所、捐率百吊につき一吊、主として學務、自治經費の充當せらる。他に鄉營業稅あり。稅率、徵收機關は前者と同じく、警務、學務、自治の各經費に充當さる。この年收官帖一、七九〇吊、三一〇

伊通縣　宣統二年八月より徵收　經徵機關、縣商會捐率賣上商一吊に付き十文。警、學、商會、上級自治、下級自治の各經費に充當せらる。この年收永大洋六九二六吊二八四。

農安縣　經徵機關は營業稅公所、捐率賣上高の百分之一、主として警察、教育、自治、商會の各費用に充當さる。年收吉錢二、二一四三、八八八吊一六九。

磐石縣　經徵機關は商會、捐率は各商店賣上商百吊につき一吊、年收入官帖六四三、〇四七吊七四四、主として警務、學務、兩級自治の各經費に均分充當さる。

長嶺縣　經徵機關は商會、捐率は賣上商の百分の一、收入は警務、學務、自治の各經費に充當せらる。その年

收永大洋二、〇〇〇元

雙陽縣　捐率は賣上高百吊につき一吊、商會により徵收せらる。警、學、自治三項經費に充當せらる。年收官帖四八九、七五三吊二五〇元

德惠縣　經徵機關は商會、捐率賣上高の百分之一、年收官帖三〇五四、〇四七吊七〇〇、警察、教育、自治の費用に充當さる。

舒蘭縣　民國元年の創始、經徵機關は商會、捐率賣上高一吊に付き二割、年收入官帖一五三、三二五吊、商會、警務、學務、自治の各費用に充當さる。

濱江縣　捐率本稅の十分の一、その用途は警務一割、學務三割、自治費四割、商會費二割。その年收現大洋一〇、二五三元六〇八元

扶餘縣　經徵機關は商會、年收官帖一、三八六、七六八吊、その收入は警務、學務、上下級自治費に均分せらる。

雙城縣　宣統二年に徵收開始、每貨百吊につき二・一吊を徵收年收、官帖一六、九八四吊。

賓縣　稅局の徵收する銷場稅の外商會に於て本稅を附す捐率貨價每百吊に付一吊を徵收す。用途警務、學務自治、商會の各費用に充當この年收官帖二、六九二、六七一吊三九一

五常縣　徵收機關は商會、捐率一吊に付十文、その中學務、自治、警務、商會の各費用に二割五分宛を割き充當す。年收官帖一、〇九一、五六七吊九三一元

阿城縣　光緒三十三年より捐率貨價の一割、その收入官帖三、二〇〇、〇〇〇吊、警務、學務、商會、自治の各

費用に分用す。

同賓縣　本縣に於ける營業捐は銷場附加捐と稱す、宣統元年よりの徵收に係り、經徵機關は商會、捐率每吊一割その收入は警務、學務、各二割、自治四割、商會二割の割合に各經費に充當さる。この年收官帖一三、〇二四吊。

烏珠河設治局　本局に於ける營業捐は之を營業銷場附加捐と稱す。商會より經徵し、その捐率每吊現大洋十文、警、學、自治、商會四項各經費に充當せらる。年收永大洋一〇、〇〇〇元

葦沙河設治局　民國十一年十二月九日より徵收開始、徵收機關は葦沙河設治局地方稅徵收處、捐率は賣上高の百分之一（現大洋）年收現大洋一二〇〇元、この中警費に七割、學費一割、自治費二割に充當す。

延吉縣　宣統元年本捐徵收を申請、認可を經たる後、商舖の賣上高より每百吊に付一吊を商會を經て徵收することゝなる。年收官帖四、〇〇〇吊、その中四割を自治捐に、各二割を警務、學務商會の各費用に充當す。

琿春縣　光緒三十四年より開徵、經徵機關は商會、捐率賣上價格每吊に付き十文主として警察經費に充當せらるこの年收官帖八四、九一九吊七七五元

寧安縣　宣統二年の開徵に係り、捐率賣上高一吊に對し五文、商會により代徵せらる。年收官帖一、三三一四、九七四吊四〇〇、この收入中百分之五は徵稅費に充てられ、他は自治、警、學、商會の各經費に充當せらる。

東寧縣　宣統三年の開始に係り、商會により經徵せらる。捐率賣上高の百分之一、年收永大洋一、六五〇元、その收入は警、學、自治の各費用に平分せらる。

敦化縣　賣上高百吊につき一吊、商會により經徵せらる。年收官帖一六五、一七六吊七七五、その收入は商會費

二割五分、警務費、學務費、自治費の各々に分配せらる。

額穆縣　民國五年三月より徴收開始　縣街、蛟河兩商會より徴收せらる。捐率賣買價格の百分之一、年收官帖二〇四、八三四吊〇六六、その收入は警務、學務、團務費に各々二割、自治費に一割、商會費に三割、各分配せらる。

依蘭縣　宣統元年正月より徴收開始、捐率毎一吊につき一割、商會により經徴せらる。年收官帖一、〇六八、六九六吊五七〇。その收入は自治、警務、學務の經費に均分さる。

方正縣　元來、商家の買賣貨及輸出貨に付商會を經て毎價格百吊につき一吊を徴收し居りしも、民國八年二吊徴收に改め、以て今日に及ぶ。その年收永大洋七、〇〇〇元、專ら學務、警務、自治團及商會の費用に充つ。

密山縣　民國三年一月より徴收を開始せらる。捐率賣價の百分之一、商務會を經て經徴せらる。年收官帖一一五、〇二〇吊、その收入は商會、警務、學務、自治團體の各費用に充當せらる。

勃利縣　民國十二年一月開徴、捐率小稽毎月毎家十元、薪貨高一元二角、藥舗一元五角、傑舖、店房等しく一元、警務費、學務費に均分せらる。

樺川縣　營業捐あるも、捐率その他一切不詳。

長春警察廳　宣統元年本税の開徴を申請し、翌二年より徴收を許可せらる。經徴機關は長春商務會、營業税公所、全額警務費に充當せられ、特にその中四分之一は長春警察廳經費に充てらる。

第三目　糧米捐

吉　林　縣　宣統二年より徴收を開始せらる。その捐率賣上高の百分之二、省城は總商會より、外城は財務處より員を派して徴收す。主として教育經費に充當せらる。この年收官帖五、四二八、五三〇吊。

長　春　縣　初め警察廳より徴收されたるも、現今は營業稅公所より徴收せらる。捐率は賣上百吊につき吉錢一吊二百文、主として學務、警務の費用に充當せらる。年收吉錢二六八、三四三吊九九二、以上は城糧米捐なるも、他に鄉糧米捐あり、捐率、經收機關共に前者と同じく、その年收吉錢六、一九〇六吊二二〇。

農　安　縣　警察、教育、自治、實業、商會の各費用に充當せんが爲、徴收せらる。經徴機關は營業稅所、捐率百分之一、年收吉錢五七〇、三一六吊九六〇

濛　江　縣　初め賣價の百分の六を收めしが、民國十年六月以後、蘇子、小麥は每斗大洋一分五厘、元豆一分を財務處より徴收せらるゝことゝなる。この年收奉大洋七四元一六〇

磐　石　縣　捐率は賣價吉錢百吊につき一吊二百文、主として警、學兩項の經費に充當せらる。この年收官帖二、三六六、四九六吊七六九

長　嶺　縣　經徴機關は商會、捐率百分之一、主として學務經費に充當せらる。年收永大洋五五〇元。

雙　陽　縣　民國十二年六月より開徴せらる。經徴機關、糧捐公所、捐率賣上高百吊につき八百文、年收官帖三〇〇、〇〇〇吊、その五割は學務費に、二割は團務費各一割五分を自治、農會費に夫々充當さる。

樺　甸　縣　財務處により經徴さる。捐率每吊二割、その收入は警務、學務、自治費に各々均分せらる。この年收官帖一、九八四、三七五吊八七八

舒蘭縣 民國七年より徴收を開始せられ、その徴收は商人により代辦せしむ。捐率每吊八文、年收官帖三〇〇〇〇吊、主として學務費に充當せらる。糧捐、財務處により經徴、捐率每賣上高百元につき五角を收納す。元自治費に充當し居りしも、民國八年以後は學務費に充てらる。この年收現大洋二、二一七元八六。

扶餘縣 本縣に於ける糧捐は、二成糧捐、一成糧捐、出境糧捐、車站糧捐の四種に分たる。二割糧捐は宣統三年四月の開始に係り、買價の百分之二を徴收し、その收入は學務費、警務費、商會費の三に均分せらる。この年收官帖三、七〇六、七三〇吊。一成糧率の捐率は買價の百分之一、同じく宣統三年四月の徴收に係り、その收入は警務、自治費に均分せらる。この年收官帖二、〇〇七、四一四吊。出境糧捐の捐率は糧每石に付き一吊五百文、主として學務費に充當せらる。この年收官帖二六一、二六八吊、車站糧捐は民國七年十一月より徴收、捐率は普通糧捐の半額、警察費に充當せらる。年收官帖三三五、三三一吊。

雙城縣 糧捐と、出境糧捐とあり。前者は宣統二年の開徴に係り、始め賣買兩當事者より各々百分之一を收めしが、後賣主のみより納稅するに改められ、每吊錢二十文を收むこととなる。民國九年に至り一晌につき二吊徴收となり、十年更に五吊に改められ以て今日に及ぶ。その收入は警務費に二割、學務費に八割を充當せらる。年收官帖三六、七五一吊。

出境糧捐も宣統二年の開始にかゝり如め每石錢一百五十文を徴收せしが、民國九年、豆、麥三吊、雜糧一吊で百文徴收に改めらる。この收入は主として學務費に充當せらる。年收官帖一四、四〇八吊。

五常縣 商會により代徴せらる捐率一吊につき八文、その收入は學務費に六割、農會費、商會費に各々二割を

充當せらる。その年收官帖五、八五六三六吊六六二

阿　城　縣　民國六年財務處より徵收せらる。捐率一割、主として學務費用に使用せらる。この年收官帖一六〇、〇〇〇吊。

楡　樹　縣　民國六年の開徵に係り、專ら學款に充當せらる。捐率每百吊につき一吊、その年收入官帖三、四八三、〇〇〇吊。

同　賓　縣　民國四年の開徵捐率每吊二割、糧石公所により徵收せらる。この年收官帖一三、六七八吊、主として學務經費に充當せらる。

烏珠河設治局　捐率每石市價の百分之一、學、警兩費に分用さる。年收官帖四、六〇〇吊

葦沙河設治局　捐率百分之二、民國十一年十二月九日經徵にかゝる。年收現大洋二千元、その中七割は警費に、一割は學費に二割は自治費に各々充當せらる。

寧　安　縣　捐名を雜糧捐と稱す。宣統二年李知府時代に創始さる。始め買賣雙方より市價每吊各五文を徵收せしが、宣統三年賣主の負擔に改め、民國八年賣主三割買主二割に改め、更に買賣主につき每吊十五文を徵收することゝなる。この年收官吊の一、一四二六、九二八吊七八四、この收入中、百分之五は徵稅費に充て、他を警察、保衞團、敎育、縣農會、鄉農會の各經費に充當す。他に民國十一年敎育會に於てその徵收を議決されたるものに稻米捐あり。賣買主双方より每吊に付各十五文を徵收し、主として學務經費に充つ。この收入官帖六、八一三吊三三〇

東　寧　縣　宣統三年に創始されしものにして、賣上高の百分之二を徵收す。その用途は警務費四割學務費六割、

年收永大洋四、二三〇元である。

敦化縣 經徵機關は財務處。捐率每百吊に付二吊、年收官帖三七、六四九吊六〇〇、その中一割は保衛費、七分は學務費、二分は農會費、一分は商會費に各々充當せらる。年收官帖二七、六四九吊六〇〇

額穆縣 民國七年八月の創始に係り、捐率市價百分之二、縣財務處及蛟河收捐事務所を經て徵收せらる。その年收官帖三九一、五六六吊五七二、主として學務費、團務費に使用せらる。

方正縣 元、出境糧石に對して各糧市價百吊につき二吊を徵收し居りしも、民國八年、每百吊につき三吊に改む、その徵收は財務處に於て各分卡を設け糧石の出境毎に課稅す。この年收永大洋八、〇〇〇元、主として學務、警務自治、團務の各費用に充當せらる。

穆稜縣 貨車積糧石、每石官帖二吊を徵收す。主として警務、學務、商會、自治の各費用に充當せられ、年收官帖五四、〇五七吊二五〇

勃利縣 民國十二年一月の開徵 捐率從價百分之二、五、稅局より代徵せらる。

樺川縣 經徵機關は財務處、捐率百分之二十。學務、警務、團務、農會の各費用に充當さる。年收入官帖六、九六八、九一四吊一〇〇

松花江上游水上警察局 糧貨捐と呼ぶ。經徵機關は各縣地方財務處、徵收局、民國十一年七月より徵收開始せらる捐率從價百分之二、年收官吊二〇、〇〇〇吊、松花江上遊水上警察局經費に充てらる。

松花江下游水上警察局 糧石捐と呼ぶ。經徵機關は濱江縣財務處、捐率、小米、小麥各袋大洋七厘、紅糧、元豆每

袋大洋五庫。この年收現大洋六〇〇元、この收入は本局の經費に充てらる。

第四目　車捐

吉林縣　民國九年よりの徴收に係り、その徴收は劃一車捐章程による。その收入は國庫に百分之十五を納付する外は、教育會、農會、警務、學務の各費用に充當せらる。年收永大洋二七、〇〇〇元。

長春縣　始め五套以上の大車は毎輛年吉錢十四吊、四套以下は七吊を徴せしが、民國八年五套以上を十五吊に四套以下を十吊に、更に同九年には財政廳通令全省劃車捐章程公布せられ、五套以上の大車は毎輛吉大洋二元、四套以下一元五角徴收さるゝに至る。而してこの收入は章程により省庫に納入する外は悉く警費に充つるものとす。年收額吉大洋二八、六一二元三〇〇

農安縣　初め毎年一輛につき上小洋三元、下二元を徴收せしが、九年より車一輛につき上大洋二元、下一元五角に改めらる。この收入は主として教育費に充てられ、年收永大洋九、二六九元六七七

磐石縣　經徴機關は財務處　劃一捐車章程により徴收す。而してその收入は省庫に一割五分を納入する外、警務學務兩項の經費に充當さる。この年收永大洋七、八五〇元五〇〇及官帖七九一、三三九吊一五〇。

長嶺縣　車捐及過路車捐あり。前者の捐率は大車一輛に付大洋二元、小車一輛一元五角、年收永大洋四〇〇〇元。後者の捐率は毎車一輛に付大洋一元、年收永大洋一、〇〇〇元、共に警務經費に充當さる。

雙陽縣　民國七年にはその捐率全套十五吊、半套七吊五百文、八年には全套四十吊、半套二十吊、九年には全

套大洋二元半、半套一元五角に改められ以て今日に至る。經徵機關は警察所、年收永大洋一一、七六一元。

樺甸縣　本捐創始當時は本縣の車票を用ひしが、民國十年よりは財政廳の車牌を用ひ、その捐率を全套永大洋二元半半套一元に改む。その年收官帖七五、三五五吊、警務、學務、自治農會の四費用に充當さる。

德惠縣　經徵機關は警察廳、創始當時は市錢を以て徵收せしが民國十年一月より大車一輛大洋二元小車一元五角に改む。年收永大洋一三、四〇二元七〇〇、主として警察、教育、自治の三費用に充てらる。

舒蘭縣　民國十年より徵收開始、經徵機關は財務處、捐率大車每輛二元、次車一元五角、年收官帖二四〇、八三〇吊、この收入は學務費に三分之二、警務費に三分之一各々充當せらる。

濱江縣　本縣に於ける車捐は馬車捐、板斗車捐、汽車捐、人力車捐、本省車捐、外省車捐の六に分たる。馬車捐は民國七年の徵收に係り、每輛につき月一元、財務處により徵收せらる。この年收現大洋三、六七八元。その一割五分を財政廳に、五厘を財務處に、四割を馬路局に、警務、學務に各四割を充當せらる。板斗車捐も七年度の創始にかゝり、捐率每輛月五元。年收現大洋二五、四七四元五角、主として警務費に充當さる。汽車捐は民國十一年の徵收捐率每月每輛五元、人力車捐は每率每輛月二角、年收現大洋八、一〇九元六角、本省車捐は五套以上二元、四套以下一元五角一套一元として年收現大洋九三九元三八〇。外省車捐は捐率四套以上三角、三套以下二角、年收現大洋六、一一六元五〇〇。

扶餘縣　全省劃一車捐章程により警所に於て徵收、その收入年永大洋三、八六八元、警務、學務兩費用に分配充當せらる。他に馬車捐あり、每輛月大洋一元民國六年の開始に係る。年收永大洋五六七元。

五　常　縣　捐率上等永大洋二元、中等一元半、下等一元、警察に於て徴收、年收官帖五〇八、三二五吊三八〇、學務費三割、團務費一割、警務費、農會費各二割、其他二割に各々充當さる。

阿　城　縣　民國九年の創始にかゝり、車捐章程により徴收さる。經徴箇所は警察所、警務、學務兩費用に各折半さる。年收官帖七〇〇、〇〇〇吊。

楡　樹　縣　民國六年より開徴、大車毎輛永大洋二元、小車一元五角、財務處に於て經徴さる。年收永大洋一六、〇〇〇元、警、學、團の經費に充當さる。

同　賓　縣　經徴箇所は財務處、捐率一等二元、二等一元五角、三等一元、年收永大洋七、九七一元、主として保衞團費に充當せらる。

烏珠河設治局　章程により徴收さる。經徴機關、警察事務所、年收永大洋二一〇〇元、主として地方公用に充當せらる。

葦沙河設治局　民國十一年十二月九日より開徴、經徴機關は葦沙河設治局地方税徴收處、捐率賣上高の百分之一、現大洋を以て收納せらる、年收一二〇〇元、その七割は警費に、一割は學費に、二割は自治費に各々充當せらる。

延　吉　縣　民國四年の創始、財務處を經て徴收せらる。捐率七套より四套迄二元三套より二套一元五角一套一元、年收永大洋八〇〇〇元。

琿　春　縣　光緒三十四年の創設に係り、初め毎貨車一輛につき三吊を收めしが、民國八年に月捐十吊に改め、九年に四套馬車捐永大洋二元、三套一元五角、二套一元と改めらる。この年收官帖一三八、三八一吊五三〇

寧安縣　宣統二年創始、警察を經て徵收さる。九年七月、新に制定せられたる車捐章程によることゝなり、三四套馬車は一輛につき吉大洋一元五角、五、六套一輛二元を徵收せらるゝに至る。年收官帖九四九、九六二吊九九〇この中一割五分は省庫の收入とし、百分之五は徵稅費とし、他は悉く學務、警務の兩費用に充當せらる。

東寧縣　宣統三年より徵收を開始し、十年より車捐章程により處理せらるゝに至る。その收入永大洋一五〇元內一割五分は省庫に提供し、他を警學兩費に均分せらる。

敦化縣　警察により徵收、一元、一元五角、二元の三等級に分たる。その收入は財政廳に一割五分を送付するを除き、その三割は警務に五割は學務費に、五分は徵稅費に各々充當せらる。

和龍縣　民國九年より車捐章程により徵收を開始せらる。年收永大洋一〇、〇〇〇元、內八割は警察費に、二割は學務費に各々充當せらる。

額穆縣　民國九年四月より徵收を開始せらる。每車大洋一元五角、年收官帖七九二七吊五〇〇、內五割は警務費に各二割五分を學務、團務費に夫々充當せらる。

汪清縣　民國九年、劃一章程に照し徵收せらる。年收現大洋七七元五一六、內一割五分は省庫の收入とし、他は之を警、學、團に各々二割五分を。照費、經徵費に各々五分を、充當す。

依蘭縣　民國十年より徵收を開始す。徵收機關財務處、捐率は二套より四套迄一元五角、五套より七套迄二元とし、年收官帖四四三二二一吊五一〇、警務費に充當す。

同江縣　經徵機關は警察所、捐率は一元、一元九角に分たる。

穆稜縣　吉省劃一車捐章程により徴收す。年收官帖二七三三二吊、警、學兩費に充除さる。

富錦縣　民國十一年十月より開徴、徴收機關は警察所捐率は二等に分ち一等は永大洋一當五角二等一元その收入は警、學兩費に分用さる。年收永大洋三〇〇〇元。

賓淸縣　民國九年より開徴、經徴機關は警察所、車種により二元、一元五角、一元の別あり、年收永大洋七〇〇元、その收入は警學兩項に充當せらる。

樺川縣　財務處を經て徴收、捐率五套以上二元、四套以下一元五角、年收官帖一、一二七、二〇〇吊、收入は警務費四割、學務費六割に分用さる。

吉林省會警察廳　光緒三十二年六月の徴收、捐率。馬車一輛月吉大洋一元、人力車一角、年收官帖六〇、〇〇〇吊、内五割を修路費及徴税費に充つる以外、他は財政廳の收入に歸す。

長春警察廳　本廳に於ける車捐は脚車捐、快車捐、人力車捐、自用車捐の四種に分たる。これ等は以前、縣財務處に於て徴收せられたるも民國四年より本廳に於て徴收せらるゝこととなる。脚車捐、忙車捐共捐率各毎輛一元、年收前者永大洋三、〇〇〇元、後者は九、一〇〇元人力車捐は毎輛二角、年收永大洋一一〇〇元、自用車捐は毎輛三元年收永大洋一八〇元、等しく警務費に充用す。

濱江警察廳　汽車牌捐と汽車月捐とあり。共に十一年七月よりの徴收にかゝり、前者は毎一枚、五元後者は毎月五元年收は前者現大洋九〇元、後者は四四五元である。用途は共に本廳經費。

延吉警察廳　洋車捐と稱す。以前は延吉縣警察所が徴收し毎月官帖四吊を收めしも、民國十年十月本廳に歸し、同

年十一月より毎輛月捐吉帖十吊を收むるに至る。年收官帖一九二〇吊、別途豫備費として積立てらる

三姓商埠局 捐率は一、二等に分ち、毎輛毎月一等二元、二等一元を收む。年收現大洋八三四元、その收入は三姓商埠、警察及道路修築費に充當せらる。

長春開埠局 捐率馬車馬輛月捐五角、貨車三角、人力車二角、この年收永大洋一〇、九四五元八〇〇。

長春市政公所 車捐提成と稱し、毎月開埠局より車捐の二割を徵收し、本所諸經費に充當す。この年收永大洋二三四五元二八〇

第五目 學田租

吉林縣 光緒三十三年より徵收を開始、吉林、五常、樺樹、扶餘、長春の五縣に員を派して徵收す。糧を徵收して變價するものにして、この年收官帖六〇、〇〇〇吊、敎育費に充當す。

伊通縣 光緒二十六年より開徵、三種の粮につき平均毎斗二元を徵收し、この收入奉小洋六一元、敎育費に充當せらる。

濛江縣 民國九年よりの徵收に係り、土地の膏腴等伸酌の上徵租す。この年收永大洋三〇元。

雙陽縣 以前吉林縣に於て徵收したるも、宣統二年後本縣に於て徵收することゝなる。捐率は市價により徵收年收官帖五二二、四二九吊五〇〇、學款に充當。

扶餘縣 勸學所に於て徵收、捐率不詳、年收官帖六三〇八〇二吊。

雙城縣　學田糧租と學田地租の二に分たる。學田糧租は學田四百七十晌六畝八分につき徵稅せらるゝものにして、年收永大洋四八一三元、學田地租は學田三百七十六晌七畝三分を各等級に分ち徵稅、年收永大洋五一三元。

阿城縣　民國六年創始、年收官帖五十萬吊。

同賓縣　學務公產租糧山分と學務文廟租地の二あり。前者は公有廟產熟地及山林伐採に對し課せらるものにして年收官帖二六八吊後者は公產空地に對し每年小作人に出租するものにして、その年收二二元共に學務費に充當

延吉縣　學田錢租、糧租の二あり。前者は民國二年大放學田地三萬一千晌に對し每晌永大徵一元二角を徵收するものにして、年收永大洋三六、二四〇元後者は縣下の絕產二百八十晌の沒收の上、每晌一石五斗を徵收するものにして、年收永大洋二、四〇〇元、他に免學田地方費あり。本費は從前舊學田地なりしが民國二年佃戶より出免せしめ、財務處に於ては之に對し認印を與へ、その免價に對して每百吊、十五吊の徵稅をなせるものにして、年收官吊一、〇〇〇吊等しく學款に充用さる。

渾春縣　光緒三十四年の創始、每晌大洋七角を收めしが九年より八角三分を徵收す。年收官帖二九八、一二五帖二〇四。

寧安縣　學產房租、學產地租、城後市場學產地皮租の三あり。學產房租は元、廟產なりしが光緒三十二年學產に歸し、小作人を招き民國十一年房租、地皮租を增額し、每戶地皮房租每間三、二吊の別に徵收なしつゝある年收官帖一七六、〇〇七吊、學產地租も亦以前廟產なりしが光緒三十二年學產に歸し小作人を招き自墾せしめしが、これ等土地は等しく山地の窪地や向子にして土脈磽薄なる學田地一千七百六十三晌三畝に過ぎず、この中民國三、四年の水害によ

り、淹沒せるもの五百三十一晌に及ぶ。現在捐率、毎晌十吊乃至二十吊、年收官帖六五一〇七吊二五〇。學產地皮租は民國五年小作人を招き建てしめたる家屋より生ずる收入にして、毎月一戸に付地皮租七八吊を收む。年收官帖一〇一九一吊。

東寧縣　民國元年の創商に係り、經徵機關は財務處、捐率毎晌年小洋二元二角、年收永大洋六四〇元。他に遺地租あり、毎晌の租價を小洋五元、十元等に分ちその收入を學務經費に充當す。年收永大洋四〇〇元。

敦化縣　捐率毎晌永大洋五元、この收入は等しく學務經費に充當せらる。この年收官帖三六、七〇五吊一二〇〇。

和龍縣　民國六年延吉道令により、學田章程を發布し小地區の荒田は之を學田となして招佃することゝなる。捐率毎晌大洋一元、年收永大洋一〇、〇〇〇元

額穆縣　民國三年六月より徵收開始、捐率毎晌大洋三角、年收官帖六二、八一二吊七〇六。

汪淸縣　宣統三年の開徵、捐率、毎晌二斗より二石四斗迄に等級を分つ。年收現大洋五、一五〇元六五。

依蘭縣　宣統二年王道尹の時旗屬官學田を縣學田とし、毎晌大洋五角を收む。年收官帖九四〇九五吊。

樺川縣　經徵機關は財務處。捐率毎晌一石或は九斗、其他不祥。

第六目　屠捐

長春縣　鄉屠獸捐と城肉床捐の二あり鄉屠獸捐に付ては、始め屠商は屠殺する猪一匹に付き吉小洋三角を收めしが、民國十一年七月より吉小洋三元に改め、現在は永大洋三角に改めらる。年收吉小洋一八〇元。城肉床捐は前淸

時代縣署の定めたるものにして、肉を徵收變價して之を官肉と名附けた。後官肉の名目を取消し、該收入は長勝營兵經費に充當し、民國に至り長勝營が取消されしと同時に營署衛隊の餉項に歸した。その後民國三年に至り、本捐は財務處の經理に歸し、床の多寡に係はらず屠戶より每月小洋七十元を收めしが、民國十一年十一月、屠商と屠戶頭との間に爭執あり、兼ねて錢法紊亂により改めて每床月額吉大洋一元に改め自ら財務處に出頭の上納入の事に決定さる。現在捐率每床一箇につき吉大洋一元。兩者とも警務費に充當せらる。年收吉小洋八四〇元

伊　通　縣　宣統三年正月創始、捐率牛每頭一元、羊一角、猪二角、年收永大洋一、〇六六元、この收入は長春總苗團の經費に充當さる。

農　安　縣　民國十一年以前は猪一匹小洋三角、牛一元二角、羊一角八分を收めしが十二年三月より屠殺每に猪一匹大洋六角、牛一元五角羊三角に改められ今に至る。この年收永大洋三四五角主として實業費に充當さる。

濛　江　縣　民國六年の開徵、每匹大洋三角、年收奉大洋二一二元、學款に充當せらる。

磐　石　縣　從前猪羊一匹につき吉小洋五角四分を收めしが、現在は猪、羊吉大洋二角を徵收す。年收官帖二七二七一吊、警務經費に充當。

長　嶺　縣　經徵機關は財務處、捐率屠殺牛一頭大洋一元五角。猪四角、羊三角を徵收す。年收永大洋一〇〇元、警務經費に充當。

雙　陽　縣　宣統二年より開徵牛小洋二元、猪五角なりしも、民國五年より大洋に改徵以て今に及ぶ。年收官帖七五〇四〇吊、警款に充當せらる。

樺甸縣　猪一匹三角、騾馬牛一元、年收九八、三三二吊、警察款に充當。

德惠縣　開始當時は市錢を收めが、民國十年二月大洋に改め、猪一匹二角、牛一元、羊一角と立む。年收永大洋五〇九元。

濱江縣　屠猪捐、屠牛羊捐の二に分たる。屠猪捐は曩に露貨四角を收め警款に充てしが現在は每屠殺猪一匹に付大洋六角を徵收し、三割を警款に、三割を學款に、三割を濟良所に一割を教養所に夫々充當す。この年收現大洋一五六六七元。屠牛羊捐も元、露貨を徵收せしも現在は每屠殺牛一頭に付一元、三角を徵し學項に充つ。年收現大洋一一三八四元。

扶餘縣　宣統三年七月の徵收に係り、每牛一頭大洋一元、羊三角、猪三角、年收永大洋二、一二四元。

雙城縣　屠捐及牛捐に分たる。屠捐は民國三年の開徵始め牛一頭三吊、羊五百文、猪一吊を收めしが、民國七年屠殺牛一頭二十吊、羊一吊、猪二吊を徵收す。年收官帖二三三吊、牛捐は牛の境を過ぐるものに對し每頭二吊を徵收するものにして年收官帖二一四吊。前者は警款に充てられ、後者は學款に充てらる。

賓　縣　屠肉捐と稱す。民國六年の開徵に係り、捐率一吊より六吊に及ぶ。年收官帖一五八〇〇吊。

阿城縣　屠猪羊捐、屠牛捐の二種に分たる。共に民國六年の開徵に係り、前者の年收官帖四〇、〇〇〇吊後者は二五〇、〇〇〇吊、警餉、學款等に充當さる。

同賓縣　民國六年の開徵に係り、猪一匹吉錢二十吊、牛六十吊を徵し、年收官帖五三三吊、警務費に充當さる。

珠河設治局　每猪現大洋五角、羊二角、警察事務所を經て徵收せらる。年收永大洋二八〇〇元、警款に充てらる。

葦沙河設治局　民國十一年の徴收に係り猪一匹四角、羊二角、牛六角の捐率にしてその收入は警務費、學務費、自治費に充當せらる。この年收現大洋四八〇元。

琿春縣　光緒三十四年の開始、捐率は毎年始に競爭入札し、價の多きものを以て捐率とす。この收入官帖四五八一吊、他に牛羊場捐あり、宣統二年の開徴に係り、捐率は前者と同じく收入は官帖一六五二五吊、等しく警察經費に充當せらる。

寧安縣　民國五年徴收を開始す。捐率屠殺猪一頭吉大消五角、羊六角、牛二元、この年收官帖二七五、三二三吊、百分之五の經費を除いて他は警察拘留所苦力の香費に充つ。

東寧縣　民國五年の開徴、猪、羊、一頭小洋二角五分を徴收す。年收永大洋四〇〇元。

敦化縣　猪一疋永大洋二角、牛四角、年收官帖一四五〇四毎、警察經費に充當せらる。他に牲畜特捐あり、買價毎百吊に付三吊を收む。年收官帖四五〇九三吊、自治經費に充當す。

和龍縣　民國七年の創始、豚羊一頭大洋四角、牛一元、年收永大洋一、一〇〇元、警察經費に充當さる。

額穆縣　民國元年五月より徴收、牛一頭三十吊、豚十吊、年收七二六〇吊、警察費に充當。

汪清縣　猪捐、牛捐、羊捐の三に分たる。民國十一年よりの徴收に係り、猪捐毎一頭大洋四角、牛捐毎一頭大洋一元羊捐毎頭、大洋二角、年その收猪捐現大洋一五九元、牛捐三九元、羊捐一六元。悉く警款に充てらる。

依蘭縣　肉捐、屠獸捐、牛羊捐に分たる肉捐は宣統二年四月よりの徴收、捐率豚一頭に付市錢二十吊年收官帖二七、四四二吊、屠獸捐も亦宣統二年よりの徴收豚一頭につき四十五吊、年收官帖六一、一五七吊、牛羊捐は毎月一千

吊を徴收、回教倶進會の代徴に係る。年收官帖一二、〇〇〇吊共に警、學兩款に充當せらる。

同　江　縣　經徴機關財務處、豚毎頭吉大洋二角、牛一元年收官帖七九一〇吊、警務、學務兩款及財務處經費に充當せらる。

方　正　縣　毎牛一頭に付洋一元、豚羊毎頭二角、年收永大洋五〇〇元、衛生費に充當。

綏　遠　縣　設治當初より開徴、捐率毎頭五角、年收現大洋二五元、警察、保衛團、學務費に充當せらる。

穆　稜　縣　豚一頭吉洋三角、牛一元、年收官帖一一、八四二吊、警款に充當せらる。

富　錦　縣　豚毎頭三角、牛、羊各五角年收永大洋二、〇〇〇元、警、學、自治の三款に充當さる。

寶　淸　縣　民國八年創始、牛一頭一元、豚三角、年收現大洋九〇吊。警察費に充當さる。

密　山　縣　民國三年二月より毎屠殺豚一疋に付五百文を收め、五年一月には一吊、六年一月には一吊五百文、七年一月には三吊、八年一月には四吊、九年一月より五吊五百文、十年一月より十吊、十一年一月より十四吊改收以て今に及ぶ。年收永大洋八、一三〇、元この收入は主として警、學兩項の經撥に充當さる。

樺　川　縣　豚、羊一元、牛二元、年收官帖四五四、三七〇吊主として警款に充當さる。

吉林省會警察廳　宣統元年の開徴、現在捐率牛一頭に付永大洋三元と官帖六十吊、豚一元と十吊、羊六角と十吊、この中官吊は屠獸場經費に充て、他は財政廳經費として送附す。

長春警察廳　毎一匹大洋八角、年收永大洋一〇、〇〇〇元、警款に充つ。

濱江警察廳　肉床許可證と肉床月捐とあり。共に民國五年の徴收に係り、前者の捐率は毎一床二元年收現大永三五

〇元、後者は毎月一元五角年收三、二二二元、共に本廳經費に充當せらる。

延吉警察廳　本項捐は以前延吉警察所及局子街商埠分局より徵收せしも、民國十年十月より本廳に於て徵收することゝなる。捐率毎屠牛一頭に付吉錢八十吊、豚三十吊、羊二十吊、年收官帖一六八、〇〇〇吊、その收入は本廳及屠獸場經費とす。

第七目　商捐

吉林縣　發商生息、發商基金とあり。前者は咸豐年間に始まり二利一分年收官帖一二、一〇〇吊主として養濟所經費に充て、後者は民國十年よりの開徵に係り、月利現大洋一分五厘年收永大洋一一、四三〇元教育費に充當さる。

伊通縣　宣統三年十一月よりの徵收、商舖捐と稱す。商舖に等級を附し季節に分ち徵收す。年收永大洋八八元警察、財務處經費に充つ。

農安縣　商會より經徵、その徵收額は商會に對し、永大洋四千元、四鎭に對しては各一鎭毎に一千二百元を賦課す。

德惠縣　商店資本毎百毎に付二吊を徵收、年收官帖四四、八九五吊、收入は警察經費に充つ。

濱江縣　商會代徵、民國九年の創始に係り年收現大洋六、一八〇元。

五常縣　各商戶より警察之を徵收す。年收官帖一五、九五九吊、學、警、團、自治の各經費に充當さる。

同賓縣　光緒三十四年の開徵、毎月六百四十四吊を徵收し、警費に充つ。

琿春縣　光緒三十四年の開始、捐率一等百十吊、二等九十吊、三等[illegible]十二吊、四等三十二吊、五等十二吊、六等六琿、年收官帖六九一七九吊。

寧安縣　商捐と名付くべきものなし。之に準ずべきものとして發商生息あり。本捐は民國二年各商店資金不足の爲一萬五千吊を縣より融通を受け年々利子を徵收し居りしも、民國四年偶々農作不況の爲警、學用款不足を告げたるを以て內一萬吊を回收し警察費に充當せしも、十一年二月再び警察款中より一萬吊を商店に貸出し、以て年々その利子を商店より徵收す。

東寧縣　宣統三年よりの開徵に係り、每戶每月小洋五分より十元を徵收す。年收永大洋二〇三〇元。

和龍縣　民國三年の開徵、商會より代徵、每月戶別に等級を附し五吊より二十吊迄を徵收す。年收永大洋二一〇〇元。

額穆縣　民國元年五月よりの開徵、每貨價格の百分之二を求む。年收五三六、三二〇吊、警察、團務費に充當す。

依蘭縣　光緒三十四年の開徵、商會代徵、捐率每月市錢五千吊、年收官帖四三、二五三吊。

同江縣　經徵機關ば警察所、資本の多により等級を附し百二十吊、九十吊、六十吊、三十吊の四級に分ち徵收す。年收三八、七六〇元。

綏遠縣　設治の頭初より開始、戶別一元乃至六元を徵收す。年收現大洋五三〇元、警察、保衞團、學務の各費用に分用さる。

穆稜縣　商戶を三、四、五、六等の等級に分ち收む。年收二三、四五八吊。

饒河縣　民國三年一月の創始に係り、每商店每月現大洋一元、年收五四、八七五吊、收入は警察費に充てらる。

密山縣　民國二年より民國五年迄は賣買價格の百分之三を徵收せしが、十年度より百分之五を徵收す。年收五七、五一〇吊、商會經費に充當さる。

延吉警察廳　開業資本の多寡により五等に分つ。一等月吉洋二元五角、二等二角、三等一元五角、四等一元、五等五角年收永大洋四、六八〇元、その收入は警察經費及衞生費等に分用せらる。

第八目　木捐

濛江縣　民國六年創始、從價百分之六、年收奉小洋四、八六五元、警務、學務、團務各費用に充當。

五常縣　價格一吊に付二百文を徵收す。年收官帖二〇、四二六吊、警務費、團務費に充當さる。

同賓縣　民國八年創始、經徵機關は木捐公所及各分所、捐率每吊二割、年收官吊七二一吊。

烏珠河設治局　市價の百分之二を現大洋を以て收納す。收入永大洋七〇〇〇元。

葦沙河設治局　捐率百分之二、民國十一年よりの開徵、年收現大洋一、〇〇〇元、警費、學費、自治費に充當さる。

額穆縣　民國九年よりの開徵、捐率價格の百分之一、團務經費に充當、年收官帖一一七、二〇三吊。

汪清縣　民國十年より徵收す。正稅一元に付二分を附加す。年收現大洋十一元。

方正縣　堆存せる木材より徵收、學團兩費に充當、年收大洋六〇〇元。

樺川縣　捐率從價の百分之一、年收官帖一九、八八五吊、學款に充つ。

松花江上游水上警察局　民國九年三月、松花江水警經費不足の爲申請の上省令により實施す。捐率從價百分之二、年收官帖四〇、〇〇〇吊。

松花江下游水上警察局　從前毎寸大洋五厘を徵收せしが、本局設立後は毎寸二厘に改む。年收現大洋八八〇元。

第九目　木　炭　捐

樺　甸　縣　民國十年より創始、捐率從價百分之一、年收八六四、三四〇吊、警務、學務、自治、保衛團の各費に分用さる。

濛　江　縣　民國六年より開始、大窰毎月大洋一元、小窰大洋五角、年收奉大洋二五元、學務費に充當。

扶　餘　縣　宣統二年より徵收、炭商年二季に分つて納入、年收官帖六、〇〇〇吊。

烏珠河設治局　經捐機關は糧木捐局、捐率毎大車現大洋一元五角、年收永大洋三、六〇〇元。

葦沙河設治局　捐率百分之二、年收現大洋三百元、警務、自治、學務の各費用に充當。

琿　春　縣　宣統二年徵收を開始し、毎坐六吊を徵收せしが、民國四年十吊に改め、六年に二十吊に更に最近毎窰年三百吊に改む。年收官帖六一〇〇吊。

同　江　縣　捐率賣價の百分之五、年收官帖二二三三吊。

第十目　自　治　各　捐

吉林縣　宣統二年より徴收、糧を改め變價す。年收官帖二八六、二六〇吊、自治費に充當。

伊通縣　自治基本生息と稱す。宣統三年義捐により募集したる基金を商人に貸付けその利子を收め、縣自治費に充當、年收奉大洋一四元。

濛江縣　山貨捐、黄蔴捐、線蔴捐、元蘑捐、皮張捐、藍靛捐あり。等しく民國九年一月一日より徴收に係り、徴率價格の百分之六、年收奉大洋三八元、二三元、一六〇元、三三六元、三元、二二元悉く自治費に充當さる。

舒蘭縣　自治糧租と稱す。上則地毎晌八斗、中則地六斗、下則地四斗、年收官帖一四三〇〇〇吊。

扶餘縣　菸蔴域特捐と稱す。宣統二年十二月よりの徴收に係り賣價一吊に付十文を徴收、年收官帖五六、〇〇五吊。

延吉縣　契約捐を稱し、毎百吊に付三吊を收め、その收入は悉く自治費に充當す。年收官帖五〇〇〇吊。

第十一目　其他捐

捐目	經徴機關	捐率	用途	縣名	年收數
妓女房捐	財務處	家賃百元ニ付永大洋五角	警務費	長春縣	吉小洋 一八三元四〇
信託捐	商務會	糧石毎車吉錢五十吊、金票鈔票ハ取引高千元ニ吉錢四吊トス	學務費	同	吉銀 一九六、四六九吊八〇
妓捐	財務處	四等妓女月捐一元	警察、財務處費	伊通縣	永大洋 八五元
攤床捐	同	八等ニ分チ一角ヨリ八角迄	同	同	六〇二元

斗合捐	同	上等每石六分、中等四分、下等二分	自治費三割建倉費七割	同	永大洋	一、五六七元四〇〇
廟產房租	同	每間平均八元	自治費四割教育費六割	同	奉小洋	七三二元六〇〇
廟產地租	同	三種ノ糧ニ付平均每斗二元	同	同		一八、五八九元〇五〇
義學房租	同	每間平均八元	教育費	同		二〇元〇〇〇
牲畜特捐	地方收捐處	百分之一	警察、教育費	農安縣	吉錢	三三四、〇五六吊〇八七
馬牙捐	同	牙記一名每月大洋一元	實業費	同	永大洋	二二三元九〇〇
妓捐	警察所	三等妓女一名月大洋二元四等一元	警察費	同	現大洋	二〇三元〇〇〇
基本錢	財務處	官帖一吊月三分ノ利息	教育慈善	同	吉錢	二一五、四九五吊七六四
基本銀	同	銀一兩月一分一厘五毛ノ利息	同	同	現大洋	一、一四六元〇〇〇
租糧	同	每晌ニ付糧一石	同	同	官帖	二五〇、〇〇〇吊
店客捐	同	各人官帖二枚	教育費	同	吉小洋	一、七一五元
醫生捐	同	年上等大洋八元中等六元下等四元	施醫院費	同	永大洋	二一、一五〇元
鋤捐	同	鋤一箇大洋一元五角	保衛隊費	同	同	二一、一五〇元
傭資	同	各工場每班每人別ニ傭資二千四百吊	同	同	官帖	八五五、三〇〇吊
營捐	同	從價百分之六	學務費	濛江縣	奉小洋	一九四元三四五
木頭牲畜頭捐	同	木業者ニ對シ所有牲畜一匹ニ付大洋五角	同	同		一、五三二元五〇〇
民有牲畜頭捐	同	民有每匹大洋二角	同	同		一二元〇〇〇
腰牌捐	同	一個ニ付大洋一元	警務、團務、撫恤費ニ充當	同		二八四元〇〇〇
斧頭捐	同	每個大洋五角	警務、團務、撫恤費	農安縣	奉大洋	九九元〇〇〇

捐稅名	徵收機關	稅率	用途	縣名	幣種	金額
買契捐	財務處	從價百分之六	清鄉	農安縣	永大洋	二九八元二三〇
雜捐附加一成	同	正稅ノ一割	救恤費	同		一二四元八五〇
牲畜市場捐	同	賣價吉錢百吊ニ付一吊五百文	教育費	盤石縣	官帖	八八、七七五吊三六〇
契紙蓋戳費	同	買契價千吊ニ付六吊一萬吊以上四十吊典契ハ以上ノ半額	財務處費	同		一三四、六八七吊八七七
化公費	同	糧地每晌吉錢六百文	縣農會費	同		六四、一八六吊九一四
妓捐	警務所	每一名月一元	警務費	同	永大洋	一〇五元〇〇〇
妓捐	財務處	一名ニ付月大洋二元	警、學、自治經費	長嶺縣		三〇元〇〇〇
山貨捐	同	每吊ニ付六割	警、學、自治均分	樺甸縣	官帖	四八五、九五四吊一四七
蔴菰、蘑菇捐	同	每百斤吉大洋四角	警務費三割五分 學務費三割五分 保衛費二割 自治費一割	同		一八八、〇六七吊〇〇五
銷場附加稅	商會	每一吊ニ付一割	警、學、自治三費ニ分用	同		六四八、五八八吊三三九
五等舖捐	財務處	各商店每月六吊	警察費	同		一九、六六五吊〇〇〇
戲捐	警察所	每吊七割	同	同		八、三三八吊七六五
店捐	同	各人銅元一枚	同	同		四一、三六三吊八九〇
妓捐	同	各人月一元乃至一元六角	同	同		九九、二八一吊七三三
小稽捐	財務處	每吊二割	警、學、自治農會	同		八六、一〇一吊〇〇〇
靛捐	同	同	警、學、自治	同		一、六八〇吊〇〇〇
畜牛捐	同	牛一頭ニ付四百吊		同		一
床捐	警察所	攤床每月大洋二角	警察費	德惠縣		三〇五吊四〇〇

捐名	徴收機關	税率	用途	地方	貨幣	金額
妓捐	同	三等妓每月大洋一元五角	同	同		九二三吊五〇〇
公產租糧	財務處	租糧市價ニヨリ變價ス	教育、自治	同		三四六、四七八吊五〇〇
旅店捐	警察所	每人官帖二吊	同	同		一三五、一五七吊三三〇
雞卵捐	勸學所	從價百分之一	教育費	同		一八八、二〇五吊五五〇
房捐	財務處	一等每月吊間八分二等同六分	警察五割、學務三割消防會二割	濱江縣	現大洋	三八、七一三元九九〇
戯捐	同	賞金ニ對シ二割二分ヲ收ム	自治一割二分學務一割其他ハ警款	同		三二、二四四元〇六〇
妓捐	同	一等月五元二等月四元三等月三元四等月二元五等月一元	警務八割自治二割	同		八八、三三三元五〇〇
燈牌捐	同	一等月十元二等月八元三等月六元	警務費	同		四五六元九〇〇
撚床捐	同	一等月三元二等二元三等一元五角四等一元五等五角	警察費	同		一、一五一元〇〇〇
舗捐	同	一等月二元二等一元五角三等一元四等五角五等三角	同	同		二六五元一五〇
電影捐	同	每月大洋四十元	同	同		四九五元〇〇〇
船站捐	同	一等每站一次三元二等二元三等一元四等五角五等二角	同	同		五、七三九元六〇〇
脚行捐	同	抗力ニ付十分之五	同	同		七、九三九元六三三
渡口捐	同	每船月三元	同	同		四八七元〇〇〇
路政捐	同	每車每月一角	馬路局	同		一七、一六七元〇〇〇
房租	同	每月徵收	自治、學堂費	同		一、三三六元〇〇〇
地皮租	同	一等年九十六元二等年六十元	警察建築費	同		一、六九八元五六四
四厘捐	同	店行ノ取扱貨物百吊ニ付二百文	學款	扶餘縣	官帖	二九、六三八吊〇〇〇
四厘四捐	同	外客來貨賣價百吊ニ付四百四十文	警察自治費	同		四一、一六五吊〇〇〇

菸蔴城特捐	財務處	賣價一吊ニ付十文	自治費	扶餘縣		五六、〇〇五吊〇〇〇
附加捐	同	每捐一吊ニ付百文	學務費	同		六五五、六四一吊〇〇〇
戲捐	同	賣上一吊ニ付八十八文	警務費	同		九、一六九吊〇〇〇
雞子捐	同	出境ノモノニ對シ毎百箇四百文	引痘局費	同		八、五八四吊〇〇〇
書院捐發商生息	同	月息一分	學款	同		六四、〇三五吊〇〇〇
警款發商生息	同	月息三分	警費	同		一九一、一〇〇吊〇〇〇
菜肉市場房租	同	一等月百八十吊二等同百二十吊三等同百吊	警款	同		四九、六八三吊〇〇〇
青雲觀地租	同		自治款	同		二、六〇〇吊〇〇〇
學晌捐滯納費	同	納期經過毎ニ五割	學款	同		九一、四四六吊〇〇〇
漏捐罰款	同	輕重ニヨリ加罰	縣署行政費	同		四〇、二九五吊〇〇〇
妓捐	同	一等月大洋四元、二等三元、三等一元五角、四等一元	警款	同	現大洋	七八五元〇〇〇
尾鈌警團晌捐滯納費	同	滯納費五割	警款、保衞團費	同	永大洋	二三九元〇〇〇
二厘五捐	同	賣上高百吊ニ付二百五十文	警款	雙城縣	官帖	三、三三五吊〇〇〇
七厘捐	同	百吊ニ付七百文	財務處費	同		八〇〇吊〇〇〇
魚捐	同	百斤ニ付八百文	自治費	同		一〇吊〇〇〇
妓捐	同	二等現大洋三元、三等同一元、門捐同六元	警務費	同	現大洋	五三三元〇〇〇
戲捐	同	賣上高十分之一	警款	同	官帖	四七五吊〇〇〇
四行月捐	同	錢行一等月吉小洋三元、二等二元、三等一元、糧行一等同八吊、二等六吊、三等四吊、質屋一等二十吊、二等十六吊、三等十四吊、問屋一等十二吊、二等九吊	同	同	永大洋	九〇元〇〇〇

文廟地皮租	同	上等毎方丈吉大洋一角、中等同八分、下等同六分	學款	賓縣	永大洋 五一〇元〇〇〇
租捐	同	毎百吊二割	同	同	官帖 二、九九八、七三七吊〇〇〇
鍋口捐	同	毎口五百吊ヨリ八百吊	自治	同	九、五〇〇吊〇〇〇
妓捐	同	各名二十四吊	同	同	現大洋 三、八六二元〇〇〇
館店捐	同	十吊ヨリ四十吊	同	同	八、七七〇元〇〇〇
五厘警捐	商會	五厘	警餉	阿城縣	官帖 七〇〇、〇〇〇吊〇〇〇
出城貨捐	財務處	八百文	同	同	六、〇〇〇吊〇〇〇
房捐	同		同	同	二三〇、〇〇〇吊〇〇〇
旅店捐	同	官帖二吊	同	同	三三〇、〇〇〇吊〇〇〇
經紀捐	同		同	同	一六、〇〇〇吊〇〇〇
磚瓦窰捐	同	永大洋二元	同	同	永大洋 一九〇元〇〇〇
鄉區旅店捐	同	銅元一枚	同	同	官帖 三〇、〇〇〇吊〇〇〇
荒草甸子	同	同	同	同	一五、〇〇〇吊〇〇〇
地墓	同	同	同	同	二、〇〇〇吊〇〇〇
廟産地	同	同	同	同	一〇〇、〇〇〇吊〇〇〇
廟産地墓	同	同	同	同	四、一七四吊〇〇〇
地基	同	同	農會經費	同	八、二八八吊〇〇〇
同	同	同	學務經費	同	一〇、〇〇〇吊〇〇〇
學費	勸學所	同	同	同	永大洋 二、四九〇元〇〇〇

補助費	勸學所	銅元一枚	學務經費	阿城縣	官帖 八、〇〇〇吊〇〇〇
妓捐	警務所	每一名月二元	警務費	楡樹縣	永大洋 一〇〇元〇〇〇
同	財務處	每名吉大洋二元	同	同賓縣	五〇元〇〇〇
旅店捐	警察所	官帖二吊	同	同	官帖 一、三四四吊〇〇〇
妓捐	同	每月每名現大洋二元	警察費	烏珠河設治局	永大洋 一、五〇〇元〇〇〇
戲捐	糧木捐局	演戲一日現大洋一元	同	同	八、四〇〇元〇〇〇
旅店捐	警察事務所	每人每日官帖二吊	警務費	同	二、五〇〇元〇〇〇
爬犁捐	葦沙河設治局地方稅徵收處	全套一元半套五角	警務費、學費、自治費	葦沙河設治局	現大洋 二、五〇〇元〇〇〇
火柴捐	同	每ク-ポ四角	同	同	二、四〇〇元〇〇〇
妓捐	同	每妓每月二元	同	同	一八〇元〇〇〇
牲畜捐	同	百分之三	同	同	一〇〇元〇〇〇
攤木捐	同	每床每月一元	同	同	二四〇元〇〇〇
山海捐	同	百分ノ五	同	同	五〇〇元〇〇〇
蔘茸捐	同	百分ノ六	同	同	一〇〇元〇〇〇
秧草捐	同	每甫子一分	同	同	三〇〇元〇〇〇
石頭捐	葦沙河設治局	每ク-ポ三分	同	同	三〇〇元〇〇〇
店捐	同	每客每日一分	同	同	五〇〇元〇〇〇
窰捐	同	一燒瓦窰一座四角、瓦窰二角、炭窰一	同	同	二〇〇元〇〇〇
窰產捐	同	百分之二	同	同	五〇〇元〇〇〇

田房中正費	財務處	每百吊ニ付七吊	警、學、自治、農、道立工廠等經費	延吉縣	官帖	五、〇〇〇吊〇〇〇
窰捐	警察所	每座五百吊	警務費	同		一六六吊〇〇〇
槍照費	同	每一枚ニ付二十吊	同	同		一五四吊〇〇〇
違警罰金	同	同	同	同		一三〇吊〇〇〇
房地租金	財務處	土地每方丈一元家屋每間一元	學務經費	同	永大洋	三九六元〇〇〇
基金生息	同	每月現大洋一分五厘	學務費	同	現大洋	三九元一〇六
大租特別地	同	每晌永大洋五角	同	同		二〇五元三〇三
副戸捐	警察所	每戸永大洋五角	團務經費	同		六、〇〇〇元〇〇〇
門牌捐	財務處	每戸永大洋二角	警務、團務經費	同		四、〇〇〇元〇〇〇
街基租	同	上一元五角中一元(現大洋)下五角	農務經費	同		四〇〇元〇〇〇
馱捐	同	每馱一架現大洋一元	施種牛痘局經費	同		七〇〇元〇〇〇
妓捐	同	二等一人二百五十吊三等同二百吊	警務費	琿春縣	官帖	五八、八七〇吊〇〇〇
戲捐	同	賣上百吊ニ付五吊	同	同		四四、三七二吊〇〇〇
馱捐	同	每頭二吊	同	同		三、九六三吊〇〇〇
炭窰捐	同	每窰年三百吊	警察費	同		六、一〇〇吊〇〇〇
警務補助費	警務所	同	同	同		一、五六二、四六五吊四四八
湯鍋捐	財務處	每年人民ニ競爭入札ヲナサシメ率ノ多キヲ以テ率トス	同	同		一〇、三〇〇吊〇〇〇
魚網捐	同	每網官吊三百吊	同	同		七、二〇〇吊〇〇〇
門牌捐	警察所	每戸永大洋三角	保衛團、警務費	同		二七、六二一吊〇〇〇

江渡捐	財務處	人民ノ競爭入札ニヨリ多額ノモノヲ率トス	警務費	琿春縣	三二、四〇〇吊〇〇〇
煤窰洞口捐	同	每窰洞口一百五十吊ヲ收ム	同	同	六〇〇吊〇〇〇
街基租	同	每間一元ヨリ十五元五角迄	學務費	同	四五、五三四吊〇〇〇
市場費	商會	賣價每吊ニ付十文	同	同	七七、二二八吊七〇〇
丈單費	勸學所	丈放學田每放ニ付丈單費二角	學費	同	二、七七二吊〇〇〇
水灣子地租	同	每年地租トシテ元豆一石穀子一石ヲ收メ市價ニ換算徵收ス	同	同	二、七七〇吊〇〇〇
墾民教育補助費	同		同	同	五〇八、七七三吊〇〇〇
魚流捐	財務處	競爭入札ニヨリ多キモノヲ率トス	同	同	四七、七五〇吊〇〇〇
柴山租	勸學所	每年永大洋三十元	同	同	二、四六〇吊〇〇〇
房租捐	財務處	租價百吊ニ付四吊	同	同	七〇、一三八吊〇〇〇
煤租	同	每年石炭四萬斤	同	同	一五、四二〇吊〇〇〇
小糈捐	同	每家年二百吊ヨリ四百吊	自治費	同	一、七四〇吊〇〇〇
田房附加税	税捐局	賣契百吊ニ付三吊、典契百吊ニ付一吊	同	同	一七七、三六五吊四九五
營業附加税	商會	價格一吊ニ付十文	同	同	一六九、八三九吊五五〇
馬販捐	財務處	每名五十吊	同	同	一、六五〇吊〇〇〇
河渡捐	同	人民ノ競爭入札	同	同	二五、七五〇吊〇〇〇
金砂附加税	税捐局	一人ニ付金砂三厘	同	同	一五〇吊〇〇〇
商會補助費	商會		保衛團費	同	三六、〇〇〇吊〇〇〇
一般市場費	同	每吊ニ付十一文	同	同	五六、六九九吊六二〇

捐名	徵收機關	稅率	用途	縣別	貨幣	金額
門牌捐	警察所	每門牌永大洋三角	警察保衛團費	同		一六五、二四二吊〇〇〇
妓捐	同	每月吉大洋二元五角、每書館每月二元	警察費	同		九二、九六四吊五五〇
店捐	同	每店每客五百文	同	同		一六一、四九一吊四五〇
零攤床捐	同	每月十吊二十吊等	同	同		二九、一七一吊六三〇
城裏地皮租	財務處	每戶每月五、六吊	自治費	同		二〇、四九六吊〇〇〇
學款發商	同	月利一分五厘	學務費	同		二七、五〇八吊五〇三
六厘息	同	月利六厘	同	同		八、六四三吊〇〇〇
風船捐	同	二萬斤ニ四角	水上警察費	同		七、九九三吊二一〇
燒鍋捐	同	每家永大洋二百五十元	警務	東寧縣	永大洋	四二〇元〇〇〇
出口捐	同	賣上高百分之二	同	同		五八〇元〇〇〇
妓捐	同	妓女每一人每月小洋三元	同	同		一、四四〇元〇〇〇
戲捐	同	開演中每月小洋一元五角	同	同		一五〇元〇〇〇
店捐	同	每家每月小洋一元、二元半	警務費	同		三〇元〇〇〇
公益捐	同	每晌年小洋一角三分	學務、財務費	同		一、四五〇元〇〇〇
木拌捐	同	每車小洋一角五分	學務費	同		二〇〇元〇〇〇
七厘商捐	同	賣上百吊ニ付七百文	警務、學務費	敦化縣	官帖	二八、二六二吊三九三
雜行捐	同	五吊、十吊、二十吊、三十吊	警察費	同		一二〇吊〇〇〇
牲畜特捐	同	買賣每百吊三吊	自治費	同		四五、〇九三吊四八〇
土產山貨捐	同	每百吊二吊	同	同		八六、三九一吊〇〇〇

門牌捐	警察所	每戶永大洋六角	警務費、團務費	敦化縣	官帖	二一、六〇〇吊〇〇〇
五厘營業捐	財務處	每百吊五百吊文	團務費	同		一四、七二四吊八三三
積欠學租	同		學務費	同		一、五二九吊〇〇〇
晌捐滯納費	同	—	警務費	同		—
門牌捐	警察所	每戶大洋四角	學、警各費、切半	和龍縣	永大洋	七、六〇〇元〇〇〇
附戶捐	同	同	同	同		一、一〇〇元〇〇〇
妓捐	同	每月每名大洋二元	警務費	同		二四〇元〇〇〇
官地租	財務處	地ノ肥瘠ニヨリ隨時酌定	教育費	同		四、〇〇〇元〇〇〇
中正費	同	買契百分之二典價百分之一	保衛隊費	同		一、四〇〇元〇〇〇
自治附捐	同	買典價格ノ百分之三	同	同		一、四〇〇元〇〇〇
魚稅	同	價格ノ百分之二	警察經費	額穆縣	官帖	八、一七七吊四四七
旅店捐	同	旅客一名一吊	同	同		九、五〇〇吊〇〇〇
門牌捐	同	每戶大洋一元	警察學務團務費	同		七、九二七吊〇〇〇
山海捐	同	從價百分之二	團務費	同		一七三、七〇九吊二五〇
租糧房租	同	每晌一石	學務費	同		二〇四、八三四吊〇六六
圖記費	稅捐局	賣買地畝價目ノ十分之二	警察費	汪清縣	現大洋	四五八元一七〇
自治附加費	同	契稅每一元ニ付三角	自治費	同		七五四元一六七
警田費	財務處	每晌二斗ヨリ二石四斗迄	警察費	同		一七〇元七六九
門牌費	同	每戶五角	團務費、警務費	同		四、五五四元〇〇〇

斗格縣捐	同	二割五分	警務費、學務費、團務費	依蘭縣	官帖 二,九九四,六七二吊一一〇
木柈捐	同	每十車ニ付一車	學款	同	一三,三九九吊二七二
魚捐	同	每百斤ニ付十吊	警款	同	九,九二三吊四一九
旅捐	同	每日每客二吊	警、學經費	同	二〇〇,一一一吊三六六
妓捐	同	一等每月三十吊、二等同二十吊、三等同十吊	警款	同	六六一吊六九四
攤床捐	同	一等、同六吊、二等同四吊、三等同三吊、四等同二吊	同	同	五,五八四吊五三四
飯館捐	同	一等每月二百吊、二等百四十吊、一等百吊、四等六十吊	同	同	三三,〇五四吊四六三
澡塘理髮捐	同	一等每月三十吊、二等二十吊、理髮每人四吊	同	同	一,七五五吊一五二
炭窰捐	同	每窰六十吊	同	同	三,七〇〇吊〇〇〇
菜園捐	同	水園子每晌二十吊、其他同十吊	同	同	一,四六七吊八五七
發商生息利	同	月利二分	同	同	一六,五七〇吊二八六
店簿費	同	每店三十五吊	警款	同	九,〇九一吊二四三
秤課費	商會	年一千五百吊	學款	同	一,二〇七吊九三〇
方丈地皮租	財務處	一等每方丈六吊、二等同三吊	同	同	一八二吊八四三
木柈捐	同	賣價ノ十分之一	警務、學務、財務處費	同江縣	一八二,八〇三吊〇三〇
魚捐	同	賣價ノ百分之八	同	同	六九,三三三吊二四〇
小櫃捐	商會	工價ノ百分之十八	警、學、自治費	同	一〇,八四五吊三八六
風船捐	財務處	脚力ノ百分之二	警、學、財務處費	同	二一,七六一吊〇七〇
過江小票捐	同	每一枚現大洋三角	同	同	六,六四二吊四〇〇

短期護照捐	財務處	露國人入境ノ時現大洋三角	警、學、財務處費	同江縣	官帖	三六、四一五吊五〇〇
獵捐	同	賣價ノ百分之五	同	同		一四、五七五吊四五〇
清丈放荒附加捐	縣公署	放荒每晌二吊、清丈同一吊	同	同		五、八〇六吊二三五
江沿地皮捐	財務處	每方丈現大洋一角一角五分等	警、學、財務處農會費用	同		五二、〇二八吊九五六
學校地皮捐	勸學所	每方丈年收現大洋三角五分、二角五分、一角五分、一角等ニ分ル	學務費	同	現大洋	三四四元五〇〇
木耳捐	財務處	賣價ノ百分之五	警、學、財務處費	同	官帖	一〇、九九七吊六四五
油酒捐	同	賣價ノ百分之二	同	同		—
木板捐	同	同　百分之八	同	同		六、六四一吊〇〇〇
洋草捐	同	每クーピ現大洋二分	同	同		一、〇九八吊〇〇〇
旅捐	警察所	每名銅元二枚	警款	同		二、五八〇吊〇〇〇
豆油捐	縣公署	每百斤現大洋一角二分	勸學所及國民學校經費	虎林縣	現大洋	九七元八二四
豆餅捐	同	每百斤現大洋三角	同	同		五九元七六六
白酒捐	同	每百斤現大洋二角五分	同	同		六〇五元三六〇
航業捐	同	帆船每隻每次現大洋五角	同	同		一三元〇〇〇
渡船捐	同	江渡船二隻每年約大洋五十元露領ニ赴ク渡船一隻年現大洋五百四十元ヲ收ム	同	同		五〇〇元〇〇〇
牲畜牙捐	稅捐局	牛馬每匹吉錢十二吊	學款	方正縣	永大洋	二五〇元〇〇〇
旅捐	同	每客二吊	衛生費	同		二〇〇元〇〇〇
森林票費	財務處	別ニ收捐細則アリ	警費	同		二五〇元〇〇〇
脚行捐	同	全年請負納入額三〇〇元	學費	同		三〇〇元〇〇〇

網滾稅	縣公署	每網亮十元乃至二十元	警、學、團務費	綏遠縣	現大洋	四八元〇〇〇
羊草捐	同	五分	同	同		一〇元〇〇〇
木柈捐	同	每繩二角	同	同		二七元〇〇〇
白酒捐	同	每布度五角	同	同		二,〇〇〇元〇〇〇
西北酒捐	同	同　八角	同	同		三,五四〇元〇〇〇
魚捐	同	從價百分之五	同	同		一〇〇元〇〇〇
旅店捐	警察所	每名二吊	警費	穆稜縣	官帖	五,三〇八吊〇〇〇
妓捐	財務處	每妓女月吉洋一元一元五角二元等	同	同		六,八五四吊七三五
旅客捐	同	每日每人銅元二枚	警、學、自治各款	富錦縣	永大洋	六〇〇元〇〇〇
旅店捐	同	一等二元、二等一元	同	同		四四〇元〇〇〇
妓捐	同	一等三元、二等二元、三等一元	同	同		一,四二〇元〇〇〇
攤床捐	同	賣上百分之一	同	同		九六元〇〇〇
小舖捐	同	同右	同	同		一,四〇〇元〇〇〇
戲捐	同	十分之一	同	同		八八元〇〇〇
沿灘捐	同	百分之一	同	同		三三〇元〇〇〇
飯館捐	同	同右	同	同		三八〇元〇〇〇
公益捐	商會	九厘	警、學各款	同		六,四〇〇元〇〇〇
脚行捐	同	百分之一	警、學、自治	同		四〇〇元〇〇〇
風船捐	財務處	一萬斤ニ付十吊	同	同		七〇元〇〇〇

過渡捐	財務處	每人渡捐三吊	警、學、自治	富錦縣	永大洋 四一〇元〇〇〇
魚攤捐	縣公署	每攤現洋十元	警務費	饒河縣	官帖 三七、〇八七吊〇〇〇
魚捐	同	每百斤現洋五角	同	同	一四、九二〇吊〇〇〇
路工捐	同	荒價ニ附隨シテ三割	同	同	三三四古一七三
獵捐	警察所	每名現大洋一元	同	同	二、三四〇吊〇〇〇
網釣捐	同	每名現大洋一元	同	同	二、一三〇吊〇〇〇
貨捐	縣署	從價百分之二	警、學、團務及商會費	同	一二〇、〇七三吊二八六
雜捐	收捐處	每年公議會ニ於テ定ム	警察費	寶淸縣	現大洋 八〇〇元〇〇〇
戲捐	財務處	每月賣價ノ百分之五	警、學、實業、衛生各費	密山縣	不詳
妓捐	同	同	同	同	—
大牌捐	收捐處	每晌每月市價一吊七百文	警、學費	勃利縣	官帖 一〇七、六七六吊二〇〇
旅捐	財務處	每客月三吊	警款	樺川縣	二九八・七九五吊〇〇〇
妓捐	同	永大洋二元、三元	同	同	一五三、八八〇吊〇〇〇
戲捐	同	官帖十分之一	同	同	三一、六七〇吊〇〇〇
房捐	同	每間一元	學款	同	—
魚捐	同	十分之一	同	同	一〇三、七九二吊〇〇〇
妓捐	吉林省會警察廳	門捐一等每月二十五元、二等十五元、三等五元 妓女一等五元、二等三元、三等一元五角、四等一元（當分ノ內半額）	濟色所經費	吉林省會警察廳	永大洋 八、五〇〇元〇〇〇
廟捐	同	每千吊吉錢二吊	財政廳ヘ納付	同	官帖 五〇〇、〇〇〇吊〇〇〇

戲捐	同	每百吊ニ付五吊	同	同	二〇〇,〇〇〇吊〇〇〇
攤床捐	收捐處	一等一元、二等八角、三等六角、四等四角	警款	長春警察廳	永大洋 八,三〇〇元〇〇〇
妓女捐	同	一等三元、二等二元、三等一元五角、四等一元	同	同	九,七〇〇元〇〇〇
妓門捐	同	一等七元、二等四元、三等三元、四等二元	同	同	二,七〇〇元〇〇〇
罐猪捐	同	一匹一角	同	同	—
罐牛羊捐	同	牛每頭四角、羊八分	同	同	—
房捐	同	百吊ニ付官帖三吊	同	同	官帖 一〇,〇〇〇吊〇〇〇
戲捐	同	賣價小洋百元ニ付十元	同	同	三〇〇,〇〇〇吊〇〇〇
湯鍋檢驗證	該廳	每一枚二元	該廳經費	濱江警察廳	三,九四二元〇〇〇
零售肉證	同	同　五角	同	同	五八元〇〇〇
游戲捐	同	十分之一	同	同	六三七元〇〇〇
照費	同	每一枚一元	同	同	八八六元〇〇〇
鐵商修理槍械月捐	同	每月五元	同	同	一〇五元〇〇〇
運靈護照費	同	每一枚五角	同	同	二七元〇〇〇
醫士證書費	同	同　二元	同	同	九八元〇〇〇
衛生經費	同	公司純利ノ十分之一	同	同	一四七元〇〇〇
房舖捐	同	瓦捐每間一角、草房四分、磚窰每月八角四分 舖捐一等八角四分、二等五角二分、五厘、三等五角一分五厘	同	同	現大洋 一,〇八二元〇〇〇
碼頭捐	同	貨物一件現大洋五分、糧穀一袋二分、木材十立方尺ニ付一分、牛馬各一頭ニ付一角、豚三分	濱江縣江碼頭修理費	同	—

妓女捐	該廳	一等月吉錢百六十吊、二等百二十吊、三等八十吊	修路費	延吉警察廳	官帖	一五、〇〇〇吊〇〇〇
樂戸捐	同	一等月吉洋三元五角、二等三元、三等二元五角、	同	同	永大洋	五八八元〇〇〇
戲園捐	同	每戲價百吊ニ付五吊	豫備費	同		—
醫士照費	同	二元	本廳經費	同		—
輪船捐	三姓商埠局	每隻汽船本埠ニ一往復每ニ大洋一元	警察費道路費	三姓商埠局	現大洋	三六八元〇〇〇
風船捐	同	每隻到埠停泊一回每ニ一等大洋七角、二等五角、三等二角	同	同		三四一元〇〇〇
舗捐	同	一等每家每月營業收入ノ百分之二 二等同百分之一	警察費	同		一一九元〇〇〇
戲捐	同	每月營業收入ノ百分之五	同	同		一六九元〇〇〇
班捐	同	每家每月大洋二元	同	同		一八元〇〇〇
妓捐	同	每人每月大洋一元	同	同		二二元〇〇〇
船捐	財務處	積載量一萬斤每大洋四元 同以下大洋二元	水上警察費	松花江上游水上警察局	永大洋	一五、〇〇〇元〇〇〇
魚網捐	同	劃一船捐章程ニヨル	同	同		二、〇〇〇元〇〇〇
渡船捐	同	同	同	同		一、〇〇〇元〇〇〇
斧號執照捐	水上警察局	每木一排ニツキ票費大洋二元	同	同		二、〇〇〇元〇〇〇
風船捐	財務處	每容量一萬斤年大洋三元	該局經費	松花江下游水上警察局		四三、二〇〇元〇〇〇
火船捐	同	每馬力年大洋七角	同	同	現大洋	五、〇四〇元〇〇〇
施船捐	同	甲年五十元、乙四十元、丙三十元、丁二十元	同	同	永大洋	九五〇元〇〇〇
雜貨捐	濱江財務處	每甫大洋一分	同	同		一、二〇〇元〇〇〇
火柴捐	同	每把大洋一角	同	同	永大洋	四〇〇元〇〇〇

捐名	徴收機關	税率	用途	管理	備考	金額
木拌捐	同	甲每百塊二角、乙同一角五分	該局經費	松花江下游水上警察局	永大洋	五〇〇元〇〇〇
煤炭捐	同	每甫大洋五厘	同	同	現大洋	三〇〇元〇〇〇
柳條捐	同	每個大洋一厘	同	同	永大洋	三〇〇元〇〇〇
漁業捐	同	頭等四十人以上大洋二十元、二等三十人以上十六元、三等二十人以上十二元、四等十人以上八元、五等五人以上三元	同	同		五〇五元〇〇〇
洋草捐	同	每甫大洋五角	同	同		二五〇元〇〇〇
穀草捐	同	同右	同	同		二〇〇元〇〇〇
肥猪捐	同	每頭大洋一角	同	同		一〇〇元〇〇〇
犬牛捐	同	每頭大洋二角	警察費	同		一〇〇元〇〇〇
白麵捐	同	每甫大洋五厘	同	同		一五〇元〇〇〇
石頭捐	同	每古板大洋五分	同	同		五五元〇〇〇
綿羊捐	同	每匹大洋五分	同	同		二〇元〇〇〇
豆油捐	同	每甫大洋五厘	同	同		一〇〇元〇〇〇
豆餅捐	同	每塊大洋二厘	同	同		二〇〇元〇〇〇
菜市場房捐	長春商埠局	一等每月四元五角、二等三元三角、三等二元五角	開埠局自治費	長春商埠局		三、一二三元〇〇〇
市房租	同	一等月每間五元五角、二等四元五角、三等一元八角、四等一元	同	同		二、八四三元〇〇〇
住房捐	同	一等月租二元五角、二等一元五角、三等一元	同	同		四、〇二六元〇〇〇
街基地租	同	特等每畝年三十六元、甲等二十四元、乙等十八元、丙等十二元、丁等同七元二角	同	同		五五、七六三元〇〇〇
特別街基地租	同	每畝年租十八元	同	同		四、〇二三元〇〇〇

押金街基地租	長春商埠局	甲等毎畝年租三十六元、乙等二十四元、丙等十八元、丁等十二元	開埠局自治費	長春商埠局	永大洋 三,六三六元八〇二
板棚地租	同	毎間月租四角	同	同	一,四六八元八〇〇
耕種地租	同	毎畝年租一元五角	同	同	八二八元九三九
窰地租	同	官筒毎畝年租二十三元 民筒同　十八元	同	同	三,〇七二元五五五
車捐提成	市政公所	毎月開埠局ヨリ車捐ノ二割ヲ提供	該所經費	長春市政公所	二,三四五元二八〇
信託抽用金	商會	毎月信託交易所ヨリ收入手數料ノ半額ヲ提出	同	同	奉票 一〇八,五五五元〇〇〇 三六七元五一三

第四編 歲出論

第一章 民國十五年度經費

一 總表(經常費)

科目	預算數	備考
內務費	一、四一八、三六二元	
陸軍費	一〇、五二四、七三一	
財務費	七七七、〇一三	
外務費	八三、四六〇	
司法費	四六八、九二八	
教育費	二〇四、〇〇〇	
農商費	五八、八〇〇	
合計	一三、五三五、二九四	

總表(臨時費)

科目	預算數	備考
內務費	三八、四〇〇元	
陸軍費	一、二五一、七四八	
財務費	三二四、八六七	
小計	一、六一五、八九九	
經常臨時總計	一五、一五一、一九三	

(1) 內務費

內務費とは狹義の意味の行政費にして、中央行政官廳、並に地方行政に要する經費を指稱するものである。卽ち地方政務、警察、衞生、救恤に要する費用にして、詳言すれば公安の侵害に對する事前の豫防、事後の取締、自治團を監督する爲にする事務及その他事務に必要なる費用である。左に民國十五年度の經費を掲ぐれば、

科目	預算數
第一款 各公署經費	五八九、五八四元
第一項 省長公署經費	一二六、〇〇〇
第二項 各道尹公署經費	九六、〇〇〇
第一目 吉長道尹經費	二四、〇〇〇
第二目 濱江道尹經費	二四、〇〇〇元
第三目 依蘭道尹經費	二二、〇〇〇
第四目 延吉道尹經費	二六、〇〇〇
第三項 各縣公署經費	三五五、五八四

目	金額
第一目 吉林縣經項	一〇、六二四
第二目 長春縣經費	一〇、六二四
第三目 濱江縣經費	一〇、六二四
第四目 延吉縣經費	一〇、六二四
第五目 琿春縣經費	一〇、六二四
第六目 依蘭縣經費	一〇、六二四
第七目 五常縣經費	九、六〇〇
第八目 扶餘縣經費	九、六〇〇
第九目 寧安縣經費	九、六〇〇
第十目 賓縣經費	九、六〇〇
第十一目 楡樹縣經費	九、六〇〇
第十二目 阿城縣經費	九、六〇〇
第十三目 伊通縣經費	九、六〇〇
第十四目 雙城縣經費	九、六〇〇
第十五目 農安縣經費	九、六〇〇
第十六目 同江縣經費	七、二〇〇
第十七目 密山縣經費	七、二〇〇
第十八目 濛江縣經費	七、二〇〇
第十九目 長嶺縣經費	七、二〇〇

目	金額
第二十目 樺甸縣經費	七、二〇〇
第廿一目 盤石縣經費	七、二〇〇
第廿二目 舒蘭縣經費	七、二〇〇
第廿三目 德惠縣經費	七、二〇〇
第廿四目 雙陽縣經費	七、二〇〇
第廿五目 同賓縣經費	七、二〇〇
第廿六目 東寧縣經費	七、二〇〇
第廿七目 敦化縣經費	七、二〇〇
第廿八目 穆稜縣經費	七、二〇〇
第廿九目 額穆縣經費	七、二〇〇
第三十目 汪清縣經費	七、二〇〇
第卅一目 和龍縣經費	七、二〇〇
第卅二目 富錦縣經費	七、二〇〇
第卅三目 虎林縣經費	七、二〇〇
第卅四目 樺川縣經費	七、二〇〇
第卅五目 方正縣經費	七、二〇〇
第卅六目 綏遠縣經費	七、二〇〇
第卅七目 饒河縣經費	七、二〇〇
第卅八目 寶清縣經費	七、二〇〇

科目	經費
第卅九目　勃利縣經費	七、二〇〇
第四項　各設治局經費	一二、〇〇〇
第一目　烏珠河設治局經費	六、〇〇〇
第二目　葦沙河設治局經費	六、〇〇〇
第二款　警察經費	四六五、六四二
第一項　吉林警務處經費	二四、〇〇〇
第二項　省會警察廳經費	二六〇、八三六
第三項　延吉警察廳經費	一二二、四〇七
第四項　琿春商埠警察經費	二、四〇〇
第五項　延吉警察游巡隊經費	五六、〇〇〇
第三款　護墾隊經費	九、九六七
第一項　老林護墾隊經費	三、八四二
第二項　密山護墾隊經費	六、一二五
第四款　游巡隊經費	四一、二一六
第一項　各縣游巡隊經費	四一、二一六
第一目　同江縣游巡隊經費	一、六〇〇
第二目　密山縣游巡隊經費	一、六〇〇
第三目　穆稜縣游巡隊經費	一、六〇〇
第四目　額穆縣游巡隊經費	一、六〇〇
第五目　和龍縣游巡隊經費	一、六〇〇
第六目　德惠縣游巡隊經費	一、六〇〇
第七目　汪清縣游巡隊經費	一、六〇〇
第八目　虎林縣游巡隊經費	一、六〇〇
第九目　綏遠縣游巡隊經費	一、六〇〇
第十目　富錦縣游巡隊經費	一、六〇〇
第十一目　濛江縣游巡隊經費	一、六〇〇
第十二目　饒河縣游巡隊經費	一、六〇〇
第十三目　勃利縣游巡隊經費	一、六〇〇
第十四目　寶清縣游巡隊經費	三、六一六
第十五目　琿春縣游巡隊經費	一、二〇〇
第十六目　東寧縣游巡隊經費	一、二〇〇
第十七目　長嶺縣游巡隊經費	一、二〇〇
第十八目　敦化縣游巡隊經費	一、二〇〇
第十九目　方正縣游巡隊經費	一、二〇〇
第二十目　樺川縣游巡隊經費	一、二〇〇
第廿一目　雙陽縣游巡隊經費	一、二〇〇
第廿二目　樺甸縣游巡隊經費	一、二〇〇
第廿三目　同賓縣游巡隊經費	一、二〇〇

科目	預算數
第廿四目 延吉縣游巡隊經費	一、二〇〇
第廿五目 烏珠河設治局游巡隊經費	一、六〇〇
第廿六目 葦沙河設治局游巡隊經費	一、六〇〇
第五款 商埠經費	七四、三一六
第一項 省城商埠經費	二一、二四〇
第二項 延吉商埠經費	五〇、〇〇〇
第三項 琿春商埠經費	三、〇七六
第六款 典禮費	一、四〇〇
第一項 祭祀費	一、四〇〇
第七款 吉林省城警察傳習所經費	二六、五一四
第八款 補助延琿江和擴充警察經費	七四、四〇〇
第九款 吉林淸鄉局經費	五六、〇〇〇
第十款 吉林省城保安警察經費	三六、四八二
第十一款 省城軍警稽査處經費	五、〇二八
第十二款 吉長道道公署祕密調査員	六、〇〇〇
第十三款 吉長鎭守使署房租費	九六〇
第十四款 長春會警招待所經費	二、四〇〇
第十五款 吉林市政公所經費	二八、四五六
經常費合計	一、四一八、三六二

臨時費

科目	預算數
第一款 郵金	三八、四〇〇元
第一項 警察官吏郵金	三二、〇〇〇
第二項 文官郵金	六、四〇〇元
臨時費合計	三八、四〇〇

(2) 陸軍費

陸軍費はその經費巨額に上り、而も最も不生產的なるを以て政治的には元より財政的にも至大の關係を持つもので

ある。國防は内外に於ける武裝的平和の擔保として、國家の自衞權を維持し國權を擴張する爲避くべからざるものなるも、支那に於ける所謂陸軍費なるものは各國のそれと甚だ異れる内容を有し、國家の自衞權を維持すると云ふよりも、地方權力者の權利を確保せんが爲なりと云ふが眞に近い。

吉林省に於ける軍費は吉林省全歲出の八割以上を占め、而も現在出征中の約一個師の軍費はこれ以外である。しかし今や戰事漸くにして止み且督軍張作相は保境安民を信條とする人と聽く。恐らくは將來は吉林省の軍備は奉天省のそれの如く省財政の根本に破綻を來すの事はないであらう。今左に吉林軍(民國十七年五月現在)の兵勢を揭ぐれば、(別紙參照)その經常費は

科目	預算數
第一款　督辦公署及軍事機關經費	一〇、三六一、七九二元
第一項　督辦公署經費	一、八〇〇、〇〇〇
第二項　督辦署軍樂第一連經費	六、五二二
第三項　督辦署軍樂第二連經費	六、五二二
第四項　陸軍憲兵營經費	四〇〇、〇〇〇
第五項　陸軍軍械廠經費	二六八、八九四
第六項　陸軍醫院醫院	一八六、六三七
第七項　陸軍監獄經費	一五、七三六
第八項　東北陸軍吉林第十五師司令部經費	九一、四六二元
第九項　東北陸軍吉林第十六師駐省辦公處經費	一四、四八七
第十項　東北陸軍吉林第十六師司令部經費	九三、九二一
第十一項　東北陸軍吉林衞隊旅步兵第三十六團經費	三一七、三三五
第十二項　東北陸軍吉林步兵第二十旅經費	七二一、三二二
第十三項　東北陸軍吉林步兵第二十一旅經費	五二二、三〇四
第十四項　東北陸軍吉林步兵第二十二旅經費	四五七、五一一
第十五項　東北陸軍吉林步兵第二十三旅經費	七二〇、六八〇

隊號	官階	姓名	地點 / 防區
步兵第十五師（兵數二萬一千名）	師長	張作相	師部地點：京綏線；全師防區：京綏線
	參謀長	安玉珍	
騎兵第十六師（兵數四千六百）	師長	李振聲	師部地點：農安；全師防區：扶餘、農安、長嶺
	參謀長	任廣福	
步兵第八旅（兵數五千五百）	旅長	李桂林	旅部地點：長春；全旅防區：吉林、長春、伊通、雙陽、舒蘭、磐石、樺甸、濛江
	參謀長	楊崇武	

旅號	旅長	參謀長	旅部地點	全旅防區
第十旅（步兵第十五師）	張作舟	上校 孟傳鎔		張家口
第二十六旅（步兵第十五師）	李景林	上校 文象春		懷來縣
步兵補充旅（步兵第十五師）	張維楨	上校 曲寶珩		京綏線
第十四旅（騎兵第十六師）	楊遇春	中校 霍剛	扶餘縣城	扶餘
第十旅（騎兵第十六師）	常堯臣	中校 龍霈	農安伏龍泉	長嶺、農安
步兵第八旅	李桂林	楊崇武	長春	吉林、長春、伊通、雙陽、舒蘭、磐石、樺甸、濛江
步……旅	崇……	參……	依……	勃利……

團號	團長	團部地點	營次	官階	姓名	營部地點
第二十七團	邢上清		第一營	營長	張廣喜	
			第二營	同	宋希曾	
			第三營	同	李輔臣	
			機關槍連	連長	杜榮升	
			迫擊砲連	同	王廷學	
第三十一團	劉寶麟		第一營	營長	郭英魁	
			第二營	同	楊恩普	
			第三營	同	楊秉藻	
			機關槍連	連長	山家麟	
			迫擊砲連	同	費玉升	
第九十三團	夏洪謨		第一營	營長	朱德純	
			第二營	同	陶國瑞	
			第三營	同		
			機關槍連	連長	于慶海	
			迫擊砲連	同	魏福陞	
第十二團	宋文俊		第一營	營長	錢福安	
			第二營	同	文魁春	
			第三營	同	王李之代理	
			機關槍連	連長	徐明新	
			迫擊砲連	同	蔣大愷	
第十六團	趙秋航		第一營	營長	劉連陞	
			第二營	同	王國棟	
			第三營	同	徐成明	
			機關槍連	連長	沈肇権	
			迫擊砲連	同	王德本	
第三十六團	劉汗武	一面坡	第一營	營長	馬文漢	烏珠河
			第二營	同	于德一	一面坡
			第三營	同	趙廣禮	同
			機關槍連	連長	趙增培	同
			迫擊砲連	同	曹家齊	同
第一團	羅憲章		第一營	營長	張福臣	
			第二營	同	張□旗	
			第三營	同	孫仲山	
			機關槍連	連長	孔繁有	
			迫擊砲連	同	何九卿	
第二團	李思煜		第一營	營長	莊元廷	
			第二營	同	姚維忠	
			第三營	同	酈連城	
			機關槍連	連長	安恒有	
			迫擊砲連	同	趙宋先	
第三團	齊純章	窰門站	第一營	營長	李春熙	窰門站
			第二營	同	佟文斗	三岔河
			第三營	同	谷榮山	
			機關槍連	連長	孟昭成	窰門站
			迫擊砲連	同	劉振和	同
工兵第六營				營長	馬龍圖	
輜重第八營				營長	陳德方	
無線電信隊				隊長	馬樹棠	
第十三團	張廷弼	扶餘縣	第一營	營長	陳樹寬	大不蘇
			第二營	同	楊德深	扶餘縣
			第三營	同	路安平	扶餘五家站
第十八團	劉國銓	五常縣	第一營	營長	宋長緒	五常山河屯
			第二營	同	楊升	五常太平山
			第三營	同	劉榮久	扶餘春山嶺
迫擊砲連				連長	安振鏞	扶餘
第二十八團	管永勝	長嶺縣	第一營	營長	劉永宸	長嶺北正鎮
			第二營	同	王富春	農安伏龍泉
			第三營	同	高青山	長嶺縣
第三十三團	楊廣慶	農安縣	第一營	營長	馬德	農安縣
			第二營	同	焦鳳山	農安山屯
			第三營	同	顧玉陞	農安高家店
迫擊砲連				連長	高鵬翮	農安伏龍泉
第十三團	任永和	樺甸縣	第一營	營長	桑文海	樺甸縣
			第二營	同	白渼池	樺甸橫道子
			第三營	同	史湧泉	樺甸加級溝
第十四團	楊登舉	伊通縣	第一營	營長	張繼宗	伊通縣
			第二營	同	趙長泰	磐石縣
			第三營	同	周鳳翔	長春二道溝
第五十六團	馬錫麟	長春縣	第一營	營長	郭連璧	長春
			第二營	同	馬玉剛	舒蘭
			騎兵營	同	王殿奎	烏拉街
機關槍連				連長	王岐	長春
山砲兵連				連長	塔明榮	長春
第二十四團	張佐臣	富錦縣	第一營	營長	傅冠軍	寶清縣
			第二營	同	劉俊山	佳木斯
			第三營	同	王肇鑾	富錦縣

部隊	職	姓名	駐地
（前頁ヨリ續キ）旅	旅長	…臣	…泉
	參謀長	…霈	
			農安
第三營	同	顧玉陞	農安高家店
迫擊砲連	連長	高鵬翮	農安伏龍泉

步兵第八旅（兵數五千五百）

旅長 李桂林　參謀長 楊崇武　駐地 長春
分駐地 吉林　長春　伊通　雙陽　舒蘭　磐石　樺甸　濛江

部隊	職	姓名	駐地
第三十團	團長	任永和	樺甸縣
第一營	營長	桑文海	樺甸縣
第二營	同	白渼池	樺甸橫道子
第三營	同	史湧泉	樺甸加級溝
第四十團	團長	楊登舉	伊通縣
第一營	營長	張繼宗	伊通縣
第二營	同	趙長泰	磐石縣
第三營	同	周鳳翔	長春二道溝
第五十六團	團長	馬錫麟	長春縣
第一營	營長	郭連璧	長春
第二營	同	馬玉剛	舒蘭
騎兵營	同	王殿奎	烏拉街
機關槍連	連長	王岐	長春
山砲兵連	連長	塔明榮	長春

步兵第九旅（兵數五千五百）

旅長 李杜　參謀長 翟景儒（代理）　駐地 依蘭縣城
分駐地 勃利　樺川　富錦　寶清　虎林　饒河　同江　綏遠

部隊	職	姓名	駐地
第二十四團	團長	張佐臣	富錦縣
第一營	營長	傅冠軍	寶清縣
第二營	同	劉俊山	佳木斯
第三營	同	王肇慶	富錦縣
第四十二團	團長	路永才	同江縣
第一營	營長	胡岳宗	同江
第二營	同	孫紹臣	綏遠
第三營	同	劉鳳翥	饒河
第六十九團	團長	陳宗岱	依蘭縣
第一營	營長	孟昭林	依蘭縣前刁翎
第二營	同	趙連山	勃利
騎兵營	同	張作詩	依蘭
機關槍連	連長	鄭長齡	依蘭
山砲兵連	連長	趙德勝	依蘭

步兵第十三旅（兵數五千九百）

旅長 吉興　參謀長 吳元敏　駐地 延吉縣城
分駐地 延吉　琿春　汪清　和龍　敦化　額穆

部隊	職	姓名	駐地
第七團	團長	王樹棠	敦化縣
第一營	營長	裴英賢	延吉六道溝
第二營	同	李青山	額穆縣
第三營	同	孟永春	蛟河
游擊連	連長	魏鎮山	馬號
第九團	團長	梁泮	延吉縣
第一營	營長	吳連明	延吉頭道溝
第二營	同	郭瀛	延吉河南
第三營	同	王德麟	延吉銅佛寺
第二十九團	團長	朱榕	琿春縣
第一營	營長	李景春	琿春北山
第二營	同	王玉振	琿春中土門子
第三營	同	邱鎮修	琿春北山
機關槍連	連長	范萬林	延吉縣
砲兵連	連長	楊振華	延吉縣
迫擊砲連	連長	繆延光	延吉縣

步兵第十八旅（兵數五千五百）

旅長 丁超　參謀長 孫廣甲　駐地 哈爾濱
分駐地 濱江　賓縣　雙城　阿城　五常　榆樹　兆擔　任哈　長哈　長綫　護路

部隊	職	姓名	駐地
第十九團	團長	劉作賓	哈埠米利斯營
第一營	營長	馮國印	帽兒山
第二營	同	張桓楷	阿城縣
第三營	同	萬福祥	米利斯營
第二十五團	團長	王金勝	穆稜站
第一營	營長	王樹章	米利斯營
第二營	同	劉玉科	穆稜站
第三營	同	李長榮	穆稜八面通
第七十九團	團長	欒海峰	橫道河子
第一營	營長	劉緒武	帽兒山
第二營	同	劉自明	海林站
騎兵營	同	孫慶林	哈埠馬家溝
機關槍連	連長	苗可碩	馬家溝
砲兵連	連長	趙允明	香坊站

步兵第二十一旅（兵數五千三百）

旅長 趙芷香　參謀長 王紹文　駐地 寧安縣城
分駐地 寧安　東寧　穆陵　密山

部隊	職	姓名	駐地
第四團	團長	曹樹楷	東寧縣
第一營	營長	劉海山	寧安縣
第二營	同	冀浩霖	東寧縣
第三營	同	張海亭	同
機關槍連	連長	徐振江	馬橋河
第二十六團	團長	蘇德臣	綏芬河
第一營	營長	衛樹屏	綏芬河
第二營	同	陳樹禮	馬橋河
第三營	同	關慶祿	綏芬河
騎兵第七團	團長	潘振聲	密山縣
第一營	營長	劉世凱	密山
第二營	同	劉岐山	寧安東京城
第三營	同	唐榮祿	密山當壁鎮
機關槍連	連長	趙亞洲	東寧縣
山砲兵連	連長	王佐	綏芬河東山
迫擊砲連	連長	昝榮周	綏芬河

步兵第三十四團（兵數一千八百）

部隊	職	姓名	駐地
團	團長	崔鳴山	吉林省城
第一營	營長	馮占海	吉林省城
第二營	同	立成	同
騎兵營	同	王裕恩	同
機關槍連	連長	秦海文	同
山砲連	同	王殿三	同

吉林山林保衛游擊隊（兵數一千五百）

部隊	職	姓名	駐地
隊	統帶	李青山	同賓縣
第一總隊	隊長	張福山	同賓縣
第二總隊	同	毛富亮	珠河鎮
第三總隊	同	封紹先	方正縣

憲兵第二營（兵數三百二十）

部隊	職	姓名	駐地
憲兵第二營	營長	曾兆璧	省城

備考

一　步兵第十五師ハ步兵第二十六旅、第三十六團、及騎兵第十一團、第二營砲兵第十團第二營步兵補充旅第三團ヲ殘シ其他全部關內出動中

二　步兵第十三旅第七團ノ游擊連ハ該團ヨリ抽編

項目	金額
第十六項 東北陸軍吉林步兵第二十四旅經費	六〇三、〇一一
第十七項 東北陸軍吉林步兵第二十五旅經費	五三七、〇六七
第十八項 東北陸軍吉林步兵第二十六旅經費	六八五、〇六〇
第十九項 東北陸軍吉林步兵第二十七旅經費	五九三、〇二六
第二十項 東北陸軍吉林騎兵第十旅經費	六二七、九八四
第廿一項 東北陸軍吉林騎兵第十三旅經費	七〇一、四三五
第廿二項 東北陸軍吉林騎兵第十五旅經費	五一八、三九二
第廿三項 吉長鎮守使署經費	二四、〇〇〇
第廿四項 濱江鎮守使署經費	二四、〇〇〇
第廿五項 延吉鎮守使署經費	二八、五〇六
第廿六項 綏寧鎮守使署經費	二八、五〇六
第廿七項 依蘭鎮守使署經費	一八、〇〇〇
第廿八項 東北陸軍吉林服裝費	二、六七一、八九四
第二款 測量局經費	五三、九八七
第一項 陸軍測量局經費	五三、九八七
第三款 旗署各衙門及旗務總分各處經費	一〇七、九一二
第一項 省城正黃旗經費	二、八五四
第二項 省城廂黃旗經費	二、八〇二
第三項 省城正白旗經費	二、九五〇

項目	金額
第四項 省城廂白旗經費	三、〇〇七
第五項 省城正紅旗經費	二、七九九
第六項 省城廂紅旗經費	二、八六四
第七項 省城正藍旗經費	三、一〇一
第八項 省城廂藍旗經費	三、一〇一
第九項 省城蒙古旗經費	三、五六四
第十項 省城烏槍營經費	四、四九五
第十一項 烏拉協領經費	七、七〇四
第十二項 雙城協領經費	三、七九三
第十三項 五常協領經費	八五二
第十四項 寧古塔協領經費	一二、〇〇〇
第十五項 伯都納協領經費	九六〇
第十六項 三姓協領經費	一二、五八三
第十七項 阿勒楚哈協領經費	四、八七二
第十八項 琿春協領經費	五、〇〇六
第十九項 拉林協領經費	四、三一〇
第二十項 烏拉翼領經費	七七三
第廿一項 伊通佐領經費	二、三四八
第廿二項 額穆佐領經費	一、二〇〇

科目	預算數
第廿三項　伊通邊門領催經費	一八八
第廿四項　赫爾蘇邊門領催經費	一八八
第廿五項　佈爾圖庫邊門領催經費	一八八
第廿六項　巴度鄂佛羅邊門領催經費	一八八
第廿七項　省城旗蒙科經費	一四、〇〇〇
第廿八項　烏拉旗務處經費	一二、〇〇〇
第廿九項　五常旗務處經費	一、二〇〇
第三十項　拉林旗務處經費	九六二
第卅一項　寧安縣附設旗蒙科經費	八四〇
第卅二項　扶餘縣附設旗蒙科經費	八四〇
第卅三項　依蘭縣附設旗蒙科經費	九〇〇
第卅四項　阿城縣附設旗蒙科經費	九〇〇
第卅五項　琿春縣附設旗蒙科經費	八四〇
第卅六項　伊通縣附設旗蒙科經費	八四〇
第卅七項　雙城縣附設旗蒙科經費	九〇〇
第卅八項　聯蒙招待費	四、八〇〇
第四款　延吉道憲兵營津貼	一、〇四〇
第一項　延吉道憲兵營津貼	一、〇四〇
合計	一〇、五二四、七三一

臨時費

科目	預算數	科目	預算數
第一款　督辦公署及陸軍各旅並軍事各機關經費	九八七、九六四元	第三款　陸軍官兵卹金費	二六三、七八四元
第二款　琿春縣檢察所經費	八六四	合計	一、二五一、七四八

(3) 財務費

財務費とは徴稅に要する費用を云ふ。財政廳自體の經費、各稅捐局の費用及徵稅官の旅費その他を指す。財務費の多少はその國の收入が租稅を主たる財源となすか、又官業を主たる財源となすかにより異なるものであるが、官業を以て主要なる財源となす國の財務費は前者より多きを普通とする。されど最も著しき影響はその國の文化の發達如何、交通の便否如何にして、例へば文化の遲れたる地方には脫稅豫防の爲、殊更に徵收費用を增す如き、或は課稅品の生產が遠隔なる地に行はれる場合等は總じて多くの財務費を要することゝなる。吉林省は文化未だ全く普ねからず、財務費の相當多額に及べるは又故なしとせないのである。

科目	十五年度預算數
第一款 財政廳經費	五〇、〇〇〇元
第一項 財政廳經費	五〇、〇〇〇
第二款 徵收局經費	六四七〇一三
第二項 各徵收局經費	五五七、五一三
第一目 省城徵收局經費	一五、六四四
第二目 長春徵收局經費	一九、八六七
第三目 雙城徵收局經費	一二、一〇八
第四目 榆樹徵收局經費	一六、五〇二
第五目 阿城徵收局經費	一六、三七一
第六目 扶餘徵收局經費	一五、五五二
第七目 賓縣徵收局經費	一六、五〇五元
第八目 濱江徵收局經費	二六、七七〇
第九目 農安徵收局經費	一二、四八九
第十目 伊通徵收局經費	一九、[illegible]〇
第十一目 五常徵收局經費	一八、七五〇
第十二目 磐石徵收局經費	一四、六七一
第十三目 依蘭徵收局經費	八、九四六
第十四目 寧安徵收局經費	一四、五七八
第十五目 舒蘭徵收局經費	一五、一〇一
第十六目 雙陽徵收局經費	一三、一五七

科目	經費
第十七目　延吉徵收局經費	一二、四一〇
第十八目　省城木稅局經費	一〇、〇〇〇
第十九目　敦化徵收局經費	七、二八四
第二十目　下九臺徵收局經費	一二、五四七
第廿一目　樺甸徵收局經費	八、三四三
第廿二目　烏拉徵收局經費	九、一三四
第廿三目　呢嗎口徵收局經費	六、六六四
第廿四目　東寧徵收局經費	一〇、〇〇二
第廿五目　缸窰徵收局經費	六、五四五
第廿六目　蛟河徵收局經費	八、〇四六
第廿七目　同賓徵收局經費	一八、四六五
第廿八目　濛江徵收局經費	七、三二五
第廿九目　琿春徵收局經費	一〇、三〇〇
第三十目　長嶺徵收局經費	六、〇七〇
第卅一目　方正徵收局經費	一〇、五四二
第卅二目　同江徵收局經費	七、二二一
第卅三目　樺川徵收局經費	七、三三三
第卅四目　富錦徵收局經費	七、六八四
第卅五目　綏遠徵收局經費	七、〇九〇
第卅六目　和龍徵收局經費	六、七三三
第卅七目　汪清徵收局經費	六、〇七四
第卅八目　饒河徵收局經費	八、〇〇〇
第卅九目　穆稜徵收局經費	一二、三五二
第四十目　密山徵收局經費	九、四三九
第四十一目　額穆徵收局經費	六、四〇七
第四十二目　德惠徵收局經費	二二、一三三
第四十三目　哈濱木石稅費總分各局經費	三八、七六五
第四十四目　拉林徵收局經費	五、四九二
第四十五目　勃利徵收局經費	三、五八〇
第二項　各縣徵收田賦經費	八九、五〇〇
第一目　吉林縣徵收田賦經費	九、六〇〇
第二目　濱江徵收田賦經費	八九四
第三目　延吉徵收田賦經費	二、八四七
第四目　琿春徵收田賦經費	一、二八三
第五目　依蘭徵收田賦經費	一、〇〇〇
第六目　五常徵收田賦經費	三、九八二
第七目　扶餘徵收田賦經費	七、五三八
第八目　寗安徵收田賦經費	二、三五五

科目	十五年度預算數
第九目 賓縣徵收田賦經費	五、一二四
第十目 榆樹徵收田賦經費	九、五九四
第十一目 阿城徵收田賦經費	四、七〇三
第十二目 雙城徵收田賦經費	九、六二四
第十三目 密山徵收田賦經費	五〇二
第十四目 伊通徵收田賦經費	六、〇九四
第十五目 濛江徵收田賦經費	一、一五六
第十六目 樺甸徵收田賦經費	一、二〇〇
第十七目 磐石徵收田賦經費	二、八六七
第十八目 舒蘭徵收田賦經費	三、二九八
第十九目 雙陽徵收田賦經費	三、八五一
第二十目 同賓徵收田賦經費	二、二九一
第廿一目 東寧徵收田賦經費	七五一
第廿二目 敦化徵收田賦經費	一、二〇〇
第廿三目 穆稜徵收田賦經費	三一三
第廿四目 額穆徵收田賦經費	一、〇五八
第廿五目 汪清徵收田賦經費	七八一
第廿六目 和龍徵收田賦經費	一、二〇〇
第廿七目 虎林徵收田賦經費	三五
第廿八目 寶清徵收田賦經費	三三五
第廿九目 富錦徵收田賦經費	一、二〇〇
第三十目 樺川徵收田賦經費	一、六五四
第卅一目 方正徵收田賦經費	一、一三五
第卅二目 饒河徵收田賦經費	三五
第三款 補助費	六〇、〇〇〇
第一項 補助蒙旗行政經費	六〇、〇〇〇
第四款 擴充稅務費	二〇、〇〇〇
第一項 擴充稅務費	二〇、〇〇〇
財政部所管經常合計	七七七、〇一三

科目	十五年度預算數
第一款 應付銀行利息	三二四、八六七元
第一項 中交兩行借款利息	三二四、八六七
財政部所管臨時合計	三二四、八六七元

(4) 外務費

外務費は外交の爲に負擔する費用である。外交部は各省開市場に員を派し對外國關係の諸事件の處理に當らしめつつあるも費用の負擔は中央政府に非ずして各省に於て之をなさなければならない。

科目	十五年度預算數	科目	十五年度預算數
第一款　各交渉署經費	七〇、九〇〇元	第三款　哈爾濱交渉署接辦俄領事職務費	九、六〇〇元
第一項　吉林交渉署經費	三一、二〇〇	第一項　虎林縣外交費	九、六〇〇
第二項　長春交渉署經費	四、三〇〇	第四款　琿春邊情調査員薪公費	一、二〇〇
第三項　哈爾濱交渉署經費	三二、二〇〇	第一項　虎林縣外交收	一、二〇〇
第四項　延吉交渉署經費	三、二〇〇	第五款　延吉道署外交邊防電報經費	九六〇
第二款　各縣外交費	八〇〇	第二項　長春交渉署經費	九六〇
第一項　虎林縣外交費	八〇〇	外交部所管經常合計	八三、四六〇

(5) 司法費

吉林省には高等審判廳一（吉林）、高等檢察廳一（吉林）、地方審判廳四（吉林、長春、延吉、濱江）地方檢察廳四（吉林、長春、延吉、濱江）、高等審判分廳一（依蘭）、地方審判分庭一（延吉）、地方審判分廳一（延吉）、地方檢察分廳一（延

吉)、地方檢察分庭一(延吉)、監獄四(吉林、長春、濱江、延吉)、監所三五(各縣併置)があり、司法費は之等經費に支辨せらるゝものである。

科目	十五年度預算數
第一款 審檢廳經費	三〇一、六〇〇元
第一項 高等審判廳經費	三八、五七四
第二項 高等檢察廳經費	二一、八九六
第三項 吉林地方審判廳經費	二九、七二五
第四項 吉林地方檢察廳經費	二二、八六三
第五項 長春地方審判廳經費	二二、一三七
第六項 長春地方檢察廳經費	二七、九〇一
第七項 依蘭高等審判分廳經費	三二、五八八
第八項 延吉地方審判廳經費	二〇、九七九
第九項 延吉地方檢察廳經費	二三、〇八六
第十項 延吉地方審判第一分廳經費	四、二〇〇
第十一項 延吉檢察第一分廳經費	四、二〇〇
第十二項 延吉審判分廳經費	五、五一七
第十三項 延吉檢察分廳經費	五、九三四
第十四項 濱江地方審判廳經費	二〇、〇〇〇
第十五項 濱江地方檢察廳經費	二二、〇〇〇元
第二款 監獄暨監所經費	一五七、九九二
第一項 監獄經費	九四、〇四八
第一目 吉林第一監獄經費	五二、九八六
第二目 長春第二監獄經費	五、一八四
第三目 濱江第三監獄經費	二九、〇〇七
第四目 延吉新監獄經費	六、八七一
第二項 監所經費	六三、九四四
第一目 濱縣監所經費	四、五九八
第二目 楡樹縣監所經費	二、四四四
第三目 農安縣監所經費	二、四四四
第四目 阿城縣監所經費	二、四四四
第五目 雙城縣監所經費	二、四四四
第六目 伊通縣監所經費	二、四四四
第七目 扶餘縣監所經費	二、四四四

科目	經費
第八目　磐石縣監所經高	二、二〇〇
第九目　依蘭縣監所經費	二、二〇〇
第十目　五常縣監所經費	二、二〇〇
第十一目　寧安縣監所經費	二、二〇〇
第十二目　同賓縣監所經費	二、二〇〇
第十三目　長嶺縣監所經費	二、二〇〇
第十四目　方正縣監所經費	二、二〇〇
第十五目　雙陽縣監所經費	一、二二六
第十六目　舒蘭縣監所經費	一、二二六
第十七目　樺甸縣監所經費	一、二二六
第十八目　和龍縣監所經費	一、二二六
第十九目　汪清縣監所經費	一、二二六
第二十目　敦化縣監所經費	一、二二六
第廿一目　德惠縣監所經費	一、二二六
第廿二目　密山縣監所經費	九四三
第廿三目　東寧縣監所經費	九四三
第廿四目　穆稜縣監所經費	九四三
第廿五目　富錦縣監所經費	九四三
第廿六目　樺川縣監所經	九四三
第廿七目　濛江縣監所經費	九四三
第廿八目　額穆縣監所經費	九四三
第廿九目　同江縣監所經費	九四三
第三十目　綏遠縣監所經費	五二六
第卅一目　老林縣監所經費	五二六
第卅二目　饒河縣監所經費	五二六
第卅三目　寶清縣監所經費	五二六
第卅四目　勃利縣監所經費	五二六
第卅五目　和龍駐外六道溝監所經費	五二六
第三款　承審員經費	二、八三二
第一項　和龍駐外六道溝承審員經費	二、八三二
第四款　華洋訴訟經費	四、八〇〇
第一項　濱江縣兼辦華洋訴訟經費	四、八〇〇
第五款　華洋調查員經費	一、八〇四
第一項　濱江道尹公署華洋調查薪公署	一、八〇四
司法部所管經常合計	四六八、九二八

(6) 教育費

教育費は各縣或は自治體の經營に係るを以て、省財政廳は僅かに十八萬元の補助をなすに過ぎない。

科目	民國十五年度預算數	科目	民國十五年度預算數
第一款 廳署經費	二四、〇〇〇元	第一項 教育補助經費	一八〇、〇〇〇元
第一項 教育廳經費	二四、〇〇〇	教育部所管經常合計	二〇四、〇〇〇
第二款 補助經費	一八〇、〇〇〇		

(7) 農商費

實業廳所管の各經費である。

科目	民國十五年度預算數	科目	民國十五年度預算數
第一款 廳署經費	二八、〇〇〇元	第二項 森林局經費	一四、〇〇〇元
第一項 實業廳經費	二八、〇〇〇	第三項 採金局經費	四、八〇〇
第二款 實業費	三〇、八〇〇	農商部所管經常合計	五八、八〇〇
第一項 省立工藝廠經費	一二、〇〇〇		

第二章　民國十七年度經費

民國十七年度經費もその收入額と同じく何等發表せられたるものなく、殊に最近の時局は容易にこの內容を窺知するを許されず、勢過去の數字により推定するの外なきの狀態である。今左に過去三箇年の經費豫算を揭出すれば

科目	民國十三年度經費豫算數（元）	民國十四年度經費豫算數（元）	民國十五年度經費豫算數（元）
內務費	一、五九四、三六二	一、四八七、五三七	一、四五六、七六二
陸軍費	八、二一八、〇六八	八、七九二、八五四	一一、七七六、四七九
財務費	一、〇七四、一一八	一、〇三〇、八〇七	一、二〇一、八八〇
外務費	九一、二〇六	八二、二六〇	八三、四六〇
司法費	四八四、二一八	四六七、一二四	四六八、九二八
教育費	二二八、〇〇〇	二〇四、〇〇〇	二〇四、〇〇〇
農商費	六九、〇〇〇	五八、八〇〇	五八、八〇〇
合計	一一、七五八、九七三	一二、一二三、三八二	一五、一五〇、三〇九

以上によつて見れば、陸軍費を除く經費は殆んど每年大した增減もない。而してその陸軍費も出征中の一箇師が歸還すれば、その一割減は確實と見らる。然しその反面愈々保境安民の實を擧ぐるものとせば、次の如く增加步合を見積り得やう。

内務費　五分
財務費　七分
外務費　一分
司法費　五分
教育　五分
農商　一割

この計算によれば十七年度經費は次の如く推算される。

科目	民國十七年度預算數	備考
内務費	一、五二九、六〇〇元	
陸軍費	一〇、五九八、八三〇	
財務費	一、二六一、五四一	
外務費	八五、一四四	
司法費	五一六、九九二	
教育費	二二四、九一〇	
農商費	七一、一四八	
合計	一四、二八八、一六五	



第五編　公債論

第一章　內債

內債に關し知り得るものは民國十二年二月の地方有獎公債と、東三省金融整理公債の吉林省割宛額に過ぎない。他に民國以後永衡官錢銀號より永大洋四千萬元を數度に分ち借款せるの事實あるも、その詳細に關しては不明である。

東三省金融整理公債は、その實は奉天軍の軍費を調達せんが爲に、本省に割當て來れるものにして、その詳細は本課既編の「奉天省の財政」記載の如くである。只その吉林省割當ての內容について記せば、

一　吉林農會

縣名	負擔額（現大洋）	縣名	負擔額（現大洋）
吉林	五二〇、〇〇〇元	磐石	一六〇、〇〇〇元
楡樹	六〇〇、〇〇〇	舒蘭	一八〇、〇〇〇
雙城	五一五、〇〇〇	同賓	一〇〇、〇〇〇
扶餘	四三五、〇〇〇	五常	一八五、〇〇〇
伊通	三七〇、〇〇〇	方正	六〇、〇〇〇
雙陽	二〇〇、〇〇〇	敦化	六〇、〇〇〇
賓縣	三〇〇、〇〇〇	延吉	一四〇、〇〇〇

阿城	二三〇、〇〇〇	琿春	六〇、〇〇〇
和龍	六〇、〇〇〇	密山	三〇、〇〇〇
汪清	三五、〇〇〇	蒙江	一〇、〇〇〇
濱江	五五、〇〇〇	虎林	二〇、〇〇〇
東寧	三五、〇〇〇	同江	六〇、〇〇〇
依蘭	七〇、〇〇〇	樺川	一〇〇、〇〇〇
樺甸	六〇、〇〇〇	富錦	七〇、〇〇〇
額穆	五五、〇〇〇	饒河	一五、〇〇〇
寧安	五五、〇〇〇	綏遠	三、〇〇〇
穆稜	一〇、〇〇〇	寶清	一二、〇〇〇
勃利	五三、〇〇〇	長春	—
農安	二九〇、〇〇〇	德惠	—
長嶺	一四〇、〇〇〇	計	五、九八三、〇〇〇
烏珠河設治局	一五、〇〇〇	葦沙河設治局	二、〇〇〇
計	一七、〇〇〇		

通計		六、〇〇〇、〇〇〇元
二　吉林官吏	現大洋	二、五〇〇、〇〇〇
三　永衡官銀號	同	二、〇〇〇、〇〇〇
四　吉林商界	同	二、〇〇〇、〇〇〇
總計		一二、五〇〇、〇〇〇

而してその各縣官吏に割宛て負擔せしめんが爲次の公債辦法を發布した。

吉林財政廳擬訂搭放官吏公債辦法二十三條（十五年八月五日）

一　官吏俸在一百元以上者搭放公債一成

二　搭放月份以六個月爲限分爲六次

三　實行日期以十五年七月一日起至十二月三十一日止

四　凡本省所屬各機關及京都所屬而在本省並立機關俱在應扣公債範圍之內

五　各機關應扣薪俸貨幣種類應依據其向所發領者而扣收之如發領永洋即扣永洋發領現洋即扣現洋餘類推

六　省長公署職員薪俸由省長照扣按月發交財政廳

七　督辦公署及軍界職員薪俸由督辦公署照扣按月發交財政廳

八　在財政廳領款地機關由財政廳坐扣自行發放薪俸機關由各本機關按日扣解財政廳

九　留支抵解經費機關由本機按月扣解財政廳

十　在財政廳領款機關於預算外另用人員自行發放薪俸其薪俸在百元以上者由該機關一律照扣按月解財政廳

十一　督辦公署省長公署毎月發廳公債扣款附造職員名册一併交廳以便照填債原册式另定之

十二　無論爲在財政廳領款機關或自行發放薪俸機關及留支抵解經費機關及在財政廳領款而於預算外另用人員自行發放薪俸機關均須於月初造具應扣公債人員薪俸清册二分隨同領款公文附送財政廳其薪俸不及百元人員但在預算內支款亦

應附列册後以便與預算核對册式另定之

十三　前條所列應扣公債人員薪俸該册如不造齊隨文附送財政廳不發經費

十四　凡應扣公債人員其員額及薪俸額下月分較上月分增多或減少時各機關應於册內註明

十五　凡應扣公債人員有因故去職者其領受計日薪俸雖不足百元亦應以實領薪俸數照扣公債新添人員同

十六　督辦公署省長公署於兩署職員搭放公債每月按名主扣永洋按民購易奉大洋即以奉大洋發行財政廳按廳按照條例塡呈債票以永易奉每名下如有不及奉大洋兩元以下餘零由兩署發還本人

十七　財政廳於在財政應領款各權關職員搭放公債應照各機關來册按名坐扣永洋按名購易奉大洋即以奉大洋按照條例塡發債票以永易奉每名下如有不及奉大洋兩元以下餘零由廳發交各機關轉還本人

十八　自行發放薪俸機關留支抵解經費機關在財政廳領款而於預算外另用人員自行發放薪俸機關於各本機關職員搭放公債其扣永洋購奉洋解奉洋及發還餘零各辦法應照第十六條所規定辦理

一九　財政廳以永洋購易奉大洋無論省城省外各機關均應照發放各機謂經費當日市位購易之

二十　發還餘零統以購之奉大洋隨同債票發還之不折回永洋

二十一　財政廳塡發債票對於省城各機關應於發領本月經費後以電話通知日期派員領取對於省外各機關應於發領下月經費時附帶給領

二十二　財政廳收入債款應按月解奉

二十三　此項辦法實行後如有窒礙之行得隨時呈明修正之

地方有奬公債に關しては、今その要領を左記すれば、

一　金　額　現大洋五百萬元

一　利　率　年五厘

一　募集方法　自民國十二年一月一日至十二月三十日迄　二百五十萬元
　　　　　　　自民國十三年一月一日至十二月三十日迄　二百五十萬元

一　償還方法　募集締切六年目より抽籤により元金償還を開始し、二年に分ち返還

その章程割當次の如し。

吉林省地方有奬公債章程（民國十二年二月二十六日）

第一條　吉林省ハ金融ヲ整理センカ爲地方有奬公債ヲ募集ス凡本省官商士庶皆之ニ應募スルヲ得

第二條　本公債額ハ現大洋五百元トシ公債票面額毎枚現大洋五十元一枚八十條ヨリナリ、毎條ノ金額ハ現大洋五元計十萬枚即一百萬條トス

第三條　本公債ノ利子ハ年五厘トスソノ利息ハ元金返還ノ時之ヲ付給ス但奬ニ當リタルモノハ利息ヲ付セサルモノトス

第四條　本公債ノ募集期限ハ之ヲ二年ニ分ツ第一年ニ二百五十萬元ヲ募集シ第二年ニ二百五十萬元ヲ募集ス。民國十二年一月一日ヨリ民國十二年十二月三十日迄ヲ第一年トシ民國十三年一月一日ヨリ民國十三年十二月三十日迄ヲ第

二年トス期限ニ到達セハ再ヒ延期セス

第五條　本公債ノ全額募集後、第三年目ヨリ定期開獎ス、開獎ハ毎六個月一回トシ三個年間計六回トス、ソノ期日及地點ハ臨時之ヲ公布ス

第六條　本公債元金償還ノ期日ハ發行停止後ヨリ起算シ、三個年開獎六回ヲ經過シタルヲ以テ限トシ第六年目ヨリ元金償還ヲ開始シ三年ニ分チ還濟スソノ順序ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム但獎ニ當リタル者ニハ別ニ元金ヲ償還セス

第七條　本公債募集之手數料ハ百分之三ヲ以テ限トス

第八條　本公債ハ無記名式ヲ用ヒ買賣質入ナスヲ得。公務上保證金ヲ交納スル必要アル場合ニハ擔保品トナスヲ得

第九條　本公債金額保管處ハ永衡官銀錢號ニ指定シ專ラ金融整理ノ款ニ充當シ軍政各費ニハ充當セス。ソノ元利償還ハ永衡官銀號或財政廳ヨリ機關ヲ指定シ之ヲ行フ

第十條　本公債ノ擔保品ハ本省賦稅ヲ以テ擔保品トス

第十一條　開獎ノ日ニハ之ヲ公開シ督軍省長公署ヨリハ二名ヲ派シ省議會ヨリ二名ヲ公推シ所在地ノ農工商會ヨリ二名ヲ推薦シ會同監視ノ上開獎ス

第十二條　本公債ノ毎回中獎者ハ五百枚トスソノ當獎金額左ノ如シ

第一等　一枚二萬五千元毎條二千五百元

第二等　一枚一萬元毎條一千元

第三等　一枚七千五百元毎條七百五十元

第四等　一枚五千元每條九百元
第五等　一枚二千五百元每條二百五十元
第六等　二枚每張二千五百元每條二百五十元
第七等　四枚每張七百五十元每條七十五元
第八等　六枚每張五百元每條五十元
第九等　十二枚每張二百五十元每條二十五元
第十等　二十四枚每張二百元每條二十元
第十一等　五十枚每張百七十五元每條十七元五角
第十二等　一百枚每張一百五十元每條十五角
第一等番號ト末字三字相同キモノ九十九枚每張一百二十五元每條十二元五角
第二等番號ト末字相同シキモノ九十九枚每張一百元每條十元
第三等番號ト末字三字相同シキモノ九十九枚每張七十五元每張七元五角
第十三條　凡ソ本公債ノ一、二、三、四、五等ニ當リタル者ハ直接官銀號ヨリ奬ヲ受取ルヘシ、六等以下ノ各奬ハ所在地ノ官銀號縣公署稅捐局ニ於テ受領スヘシ、但開奬ノ日ヨリ次回開奬ノ日迄ノ六個月内ニ受領スヘキモノトス期限ヲ經過スレハ無效トス
第十四條　六回ノ抽籤ニ於テ未タ奬ニ當ラサル債票ニシテ、旣ニ償還ノ期ニ至リ一切賦稅ヲ完納セルニ係ハラス、各

徵收機關ニ於テ故意ニ償還セサルトキハ當事者ヨリ告訴スルヲ許シ、本章程第十五條ニヨリ之ヲ懲辦ス

第十五條　モシ債票ヲ僞造シ及本公債ノ信用ヲ損害スルモノハ法ニヨリ之ヲ罰ス

第十六條　本章程ハ省議會ニ於テ議決、省長公署ヨリ公布シ、公布ノ日ヨリ實行スソノ施行細則ハ別ニ之ヲ定ム

吉林省地方有獎公債施行細則

第一章　總　則

第一條　本公債ハ本省財政廳ヲ以テ發行機關トシ各設治局ヲ發行分機關トス

第二條　本公債ハ財政廳內設立ノ公債處ニ於テ發行、元利償還等一切ノ事ヲ司ル。ソノ公債處ノ組織法ハ別ニ之ヲ定ム

第三條　本省各行政機關ハ此項ノ公債ニ對シ均シク應募ノ義務アルモノトス

第四條　本公債ハ本省及他省之銀行公司官銀號商會等ニ代理發行ヲ委託スルヲ得

第二章　募　集

第五條　本公債ハ一面省公署ニ呈請酌量シ各發行分機關ニ分配シ勸募ヲ擔任セシメ他面代理發行各機關ニ委託シテ自由勸募セシム

第六條　經募各機關ハ此項債款ヲ募集スル場合ニハソノ募集期限ハ本公債章程第四條ニヨリ辦理シ第一年ハ全年終了ノ日ヲ以テ限トシ、第二年モ亦同ヲ

第七條　經募各機關ハ本公債發行ノ第一年終了ノ時ニ第一年應募ノ債款ヲ陸續財政廳公債處ニ送付スヘシ、積壓轉用スルヲ許サス、第二年目モ亦同シ

第三章　交款

第八條　凡ソ本公債ニ應募シタルモノニハ直チニ各經募機關ニ於テ債票ヲ發行ス

第九條　本公債ハ既ニ定メテ現洋本位トナス、ソノ應募者ハ他種ノ錢幣ヲ以テ交納セントスルトキハ當日ノ市價ニ換算スヘシ、市價及換算數目ハ列册隨報ス

第四章　報告

第十條　經募各機關ハ此項公債ノ募集ヲ開始シテ後ハ、毎月月末ニ該月募集數目ヲ財政廳ニ報告備査スヘシ

第十一條　經募各機關ハ第一年終了後募集總數、毎回呈解數、扣支數等ヲ以テ收支報告ヲ作成シ應募人名簿ト共ニ財政廳ニ送付スヘシ第二年目モ亦シ

第五章　手數料

第十二條　本公債募集手數料ハ百分之三ト定ムソノ中一分ハ財政廳公債發行費トシ、二分ハ各機關ノ募集手數料トス

第十三條　凡ソ徵募各機關ニシテ省城ヨリ距ルコト遠ク且交通不便ノモノハ前條規定ノ手續費ニテ支出ヲ償フニ足ラサルトキハ事情ヲ陳情シ本廳ノ核准ヲ經テ手當ノ支給ヲ受クルヲ得

第十四條　凡徵募各機關ノ得ヘキ手數料並手當ハ第一年目ハ第一年ノ募集終結シタル後ニ於テ、第二年目ハ第二年ノ募集終結シタル時ニ於テソノ最後ノ送金額中ヨリ換除スヘシ、先以テ截留スルヲ許サス

第六章　褒　賞

第十五條　各縣知事、說治員、徵收局長及其他徵募機關ニシテ本公債發行ノ兩度期限內ニ於テ割宛額金數ノ募集ヲ完了シタルモノハ財政廳ヨリ省公署ニ呈請シ特別記功一次ニ處シ割宛募集額ノ二割以上ノモノハ記大功一次ニ處ス

第七章　債　票

第十六條　本公債票ハ概シテ無記名式トシ買賣質入及公務上ノ保證金トナスコトヲ得

第十七條　本公債票ハ特ニ注意ヲ加ヘ保存スヘシ、モシ汚損糢糊番號不明ノモノハ奬ニ當レルト否トヲ問ハス一律無效トス

第八章　中　奬

第十八條　凡當籤ノ債券番號ハ財政廳ノ印刷スル當籤番號書ヲ以テ標準トス

第十九條　五等以上ニ當籤セル債券ハ永衡官銀號ニ持參シテ當籤金ヲ受領スル場合百分之五ノ手數料ヲ扣除シ徵募人員ノ報酬トナス

第二十條　五等以下ニ當籤セル債券ハ原募集機關ニ持參セハ直チニ金額ヲ發給スヘク非原募集機關ニ持參金額ヲ受領セントスルトキハ理由ヲ聲明シ保證人ヲ具スレハ之ヲ發給ス

第二十一條　當籤債券ニ對シテハ現洋ヲ支給ス、但現洋ノ通用セサル他方ニアツテハ徵募機關ニ於テ市價ニヨリ該地通用ノ貨幣換算支給ス

第九章　元　利　支　拂

第二十二條　本公債元利償還ハ省議會議決第九條ニ照シ永衡官銀號ヨリ支給スル外、永衡分號ヲ設置セサル縣ニ於テハ財政廳ヨリ各縣各設治局各徵收局ヲ指定シテ之ヲ執行ス

第二十三條　凡ソ六回ノ抽籤ニ於テ當籤セサルノ債券ハ、ソノ第一年月ニ公債金額ヲ納付シタルモノニ對シテハ第一年發行停止ノ日ヨリ償還日ノ前日ニ至ル迄年五厘ノ割ニ利子ヲ計算シ元金償還ノ場合之ヲ支給ス、ソノ第二年目ニ公債金額ヲ納付シタルモノハ第二年發行停止ノ月ヨリ起算シ償還日ノ前日迄利子ヲ附スルモノトス

第二十四條　本細則モシ盡サヽル事アラハ隨時增訂、省長ニ呈請核准備案ス

第二十五條　本細則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

地方有奬公債割宛額（十二年六月六日）

縣名	分配公債額	縣名	分配公債額
吉林縣	十五萬元	雙城縣	十二萬元
榆樹縣	十二萬元	扶餘縣	十二萬元
賓縣	八萬元	伊通縣	十萬元
五常縣	五萬元	寧安縣	五萬元
雙陽縣	五萬元	舒蘭縣	五萬元
阿城縣	五萬元	盤石縣	四萬元
富錦縣	三萬元	延吉縣	五萬元

敦化縣	二萬元
何縣	四萬元
濛江縣	一萬元
方正縣	三萬元
額穆縣	一萬元
東寧縣	二萬元
密山縣	六千元
饒河縣	三千元
同江縣	三千元
勃利縣	二千元
長縣	十五萬元
德惠縣	十萬元
合計	一百九十三萬五千元

局名	分配公債額
省城稅局	五萬元
江稅局	三萬元

同賓縣	五萬元
樺川縣	三萬元
和龍縣	二萬元
依蘭縣	四萬元
濱江縣	十五萬元
汪清縣	一萬五千元
穆稜縣	一萬五千元
虎林縣	三千元
綏遠縣	三千元
寶清縣	五千元
農安縣	十萬元
長嶺縣	二萬元

局名	分配公債額
長春稅局	五萬元
哈爾濱稅局	二萬元

稅局	金額
下九臺稅局	二萬元
扶餘稅局	三萬元
榆樹稅局	二萬五千元
農安稅局	二萬元
阿城稅局	一萬五千元
同賓稅局	一萬元
磐石稅局	一萬元
寧安稅局	六千元
延吉稅局	八千元
拉林稅局	四千元
依蘭稅局	一萬元
方正稅局	五千元
烏拉稅局	二千元
敦化稅局	三千元
密山稅局	二千元
穆稜稅局	三千元
省城木稅局	五萬元
雙城稅局	三萬元
德惠稅局	二萬元
賓縣稅局	一萬五千元
伊通稅局	一萬五千元
五常稅局	一萬元
雙陽稅局	一萬元
舒蘭局稅	七千元
樺甸稅局	七千元
樺川稅局	七千元
東寧稅局	五千元
富錦稅局	五千元
蛟河稅局	二千元
長嶺稅局	三千元
琿春稅局	二千元
缸窯稅局	一千元

利龍稅局 二千元
濛江稅局 一千元
濱江木石局 一千元

汪清稅局 二千元
額穆稅局 一千元
合計 四十八萬五千元

結言

吉林省は土地不沃にもあらず、物產乏しきにもあらず、されど革命以來未だ省內安んぜず、戰事年々勃發し、歲入超過は曉天の星を望むが如くに寥々たるものがある。故にもし、省治を以て第一義とし、一面交通の發達を期し、殖產工業を興し、他面財務行政の徹底を期するならば、省の財政の前途快して悲觀するに足らない。この省の富の奉天省に比し幾多遜色ある最大原因の一は交通の利便未だ普ねからざるにあり。吉會鐵路亦敷設すべし、海吉線又即刻に開通せらるべし。云爲すべきは對日外交の問題にあらず、實に省治の將來一に懸つて玆に存するからである。一度交通の利便全省に普ねからんか、物資の流通は頻繁となり、產業勃興し殖產工業亦發達して、省民の富は省の富たるに至らん。現狀を以てするも民國十七年度の推定收支に於て五百萬元の歲入超過となる。

收入之部		支出之部	
田賦收入	四、三四一、九五五元	內務費	一、五二九、六〇〇元
貨物稅收入	一一、〇一九、一五三	陸軍費	一〇、五九八、八三〇
正雜各稅	四、六九七、五八五	財務費	一、二六一、五四一
正雜各捐	八一〇	外務費	八五、一四四
雜收入	八八五、六九九	司法費	五一六、九九二
		教育費	二三四、九一〇
		農商費	七一、一四八
合計	二〇、九四五、二〇二	合計	一四、二八八、一六五

昭和三年九月十五日印刷
昭和三年九月二十日發行

編輯人 南滿洲鐵道株式會社庶務部調査課 佐田弘治郎

發行人 大連市桂町一四ノ二 磯部信一

印刷人 大連市東公園町二十一番地 吾妻力松

印刷所 大連市東公園町二十一番地 株式會社滿洲日報社印刷所

發行所 南滿洲鐵道株式會社



